

社会資本に関するインターネット調査 報告書

平成 29 年 11 月

(一財)国土技術研究センター
国土政策研究所

目 次

調査概要、調査分析の視点、調査票	1
報告書本編(全体分析／属性分析)	21
1. 社会・生活の動向に関する意識・態度	25
2. 社会・生活の動向に対する重要度	39
2-2.社会・生活に関する考え方(価値観)	47
3. 社会・生活空間、国土に関する評価(Q4、Q5、Q6)	48
4. 社会資本具体分野別の充足度評価、推進意向	61
5. 社会資本の状況に関する全体評価	98
6. 社会資本の維持管理・更新に関する認知・理解・評価	103
7. 社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価	113
8. アメリカやヨーロッパ諸国での道路等のインフラ投資を増大させる動きに関する認知	136
9. 災害が発生し易い日本の過酷な自然条件認知、それに伴う施設整備費用に関する認知	140
10. 日本とあなたの住む地域の将来(予測とあるべき姿)(衰退－成長)	146
11. 日本の将来予測、あるべき姿／地域の将来予測、あるべき姿(社会課題に関する受動－能動)	158
12. 国家予算 費目別 今後の増減評価	167
13. 属性分析まとめ	170
属性(フェイスシート)	179
質問間クロス分析編	181
1. 社会・生活に関する不安、社会・生活に関する重要度を類型化したクロス分析	182
2. 「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」充足度評価と日本の社会・国土の全体評価クロス分析	202
3. 公共事業予算と社会・国土形成充足度評価、日本・居住地域の将来予測とのクロス分析	208
クラスター(類型抽出)分析編	213
1. クラスター(類型抽出)分析の目的と狙い	214
2. 社会・生活価値観をベースとしたクラスター分析	215
3. 社会・生活の動向に対する意識・態度(不安)と社会資本充足度評価をベースとしたクラスター分析	230
4. 日本、居住地域の「将来予測(なりそうな姿)」「あるべき姿」と「社会資本(保全・整備)のあり方」に関する相関分析と類型抽出分析	243

調査概要、調査分析の視点、調査票

社会資本に関するインターネット調査 調査概要

1. 調査対象者

全国18歳～79歳男女

2. サンプル数

3000人 ※割付は次頁

3. 調査期間

2017年4月28日（金）～5月10日（水）

4. 調査方法

登録モニターによるインターネット調査（楽天リサーチ）

5. 調査項目

1. 社会・生活の動向に関する意識・態度

社会・生活の動向に関する不安度（自分・居住地域）

社会・生活の動向に関する不安度（日本全体・社会）

社会・生活の動向に対する重要度

2. 社会・生活に関する考え方（価値観）

生活価値観

3. 社会・生活空間、国土に関する評価／重要度

[安全・安心できる社会・国土の形成]の評価

[安全・安心できる社会・国土の形成]の重要度

[人・もの・情報が効率的に通い合う活力ある]社会・国土の形成評価

[人・もの・情報が効率的に通い合う活力ある]社会・国土の形成の重要度

[心豊かに暮らせる快適で美しい]社会・国土の形成評価

[心豊かに暮らせる快適で美しい]社会・国土の形成の重要度

4. 社会資本具体分野別の充足度評価、推進意向

社会資本具体分野別の充足度（居住地域）

社会資本具体分野別の充足度（日本全体）

社会資本具体分野別の推進意向（居住地域）

社会資本具体分野別の推進意向（日本全体）

5. 社会資本の状況に関する全体評価

社会資本の状況に関する全体評価

6. 社会資本の維持管理・更新に関する認知・理解・評価

社会資本の維持管理・更新の課題に関する認知

社会資本の維持管理・更新の優先性に対する評価

社会資本の維持管理・更新にともなう選別の必要性に対する評価

社会資本の維持管理・更新に関する住民協力の必要度

7. 社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価

社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価

8. 日本とあなたの住む地域の将来（予測とあるべき姿）

地域の将来予測

地域の将来あるべき姿

9. 国家予算 費目別 今後の増減評価

今後の公共事業費の増減評価

10. 属性（フェイスシート）

[性]／[年齢]／[職業]／[世帯構成]／[居住地域タイプ]／[居住年数]／[住宅タイプ]／[日頃の主な移動手段]／[自動車の運転頻度]／[主な収入源]／[世帯年収]／[主な情報入手先]／[災害体験]

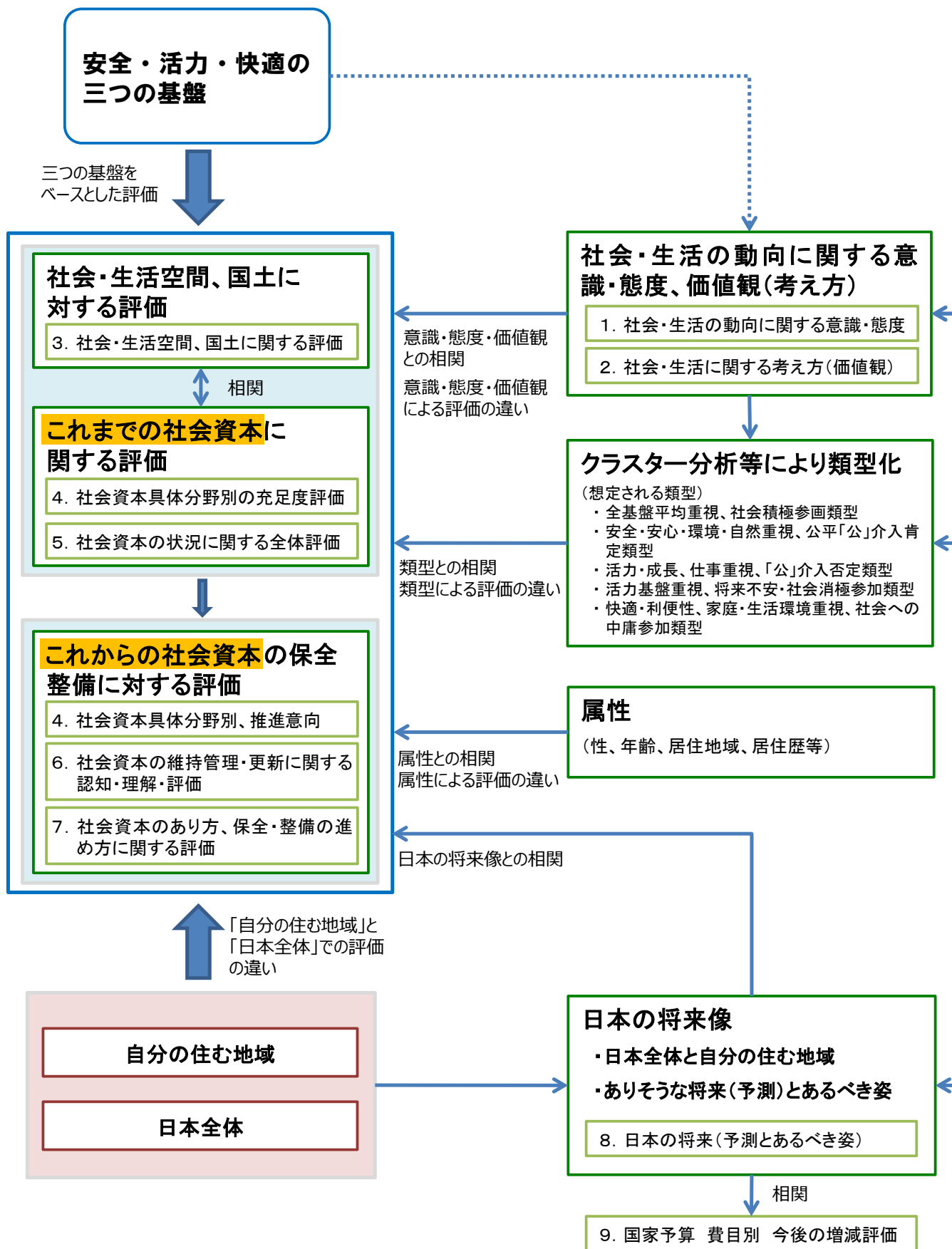
割付

データ出所：国勢調査 人口統計2015

	人口総数	人口比率	人口比による サンプル 仮設定数	男女×10歳階級年齢 別 サンプル設定数（均等割付）										地域ブロック サンプル 設定数
				男性 20代	男性 30代	男性 40代	男性 50代	男性 60代	女性 20代	女性 30代	女性 40代	女性 50代	女性 60代	
全 国	127, 094, 745	100.0	3000	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	3000
北海道ブロック			127	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	120
北海道	5, 381, 733	4.2	127											
東北ブロック			212	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	210
青森県	1, 308, 265	1.0	31											
岩手県	1, 279, 594	1.0	30											
宮城県	2, 333, 899	1.8	55											
秋田県	1, 023, 119	0.8	24											
山形県	1, 123, 891	0.9	27											
福島県	1, 914, 039	1.5	45											
関東ブロック			1084	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	1070
茨城県	2, 916, 976	2.3	69											
栃木県	1, 974, 255	1.6	47											
群馬県	1, 973, 115	1.6	47											
埼玉県	7, 266, 534	5.7	172											
千葉県	6, 222, 666	4.9	147											
東京都	13, 515, 271	10.6	319											
神奈川県	9, 126, 214	7.2	215											
山梨県	834, 930	0.7	20											
長野県	2, 098, 804	1.7	50											
北陸ブロック			107	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	120
新潟県	2, 304, 264	1.8	54											
富山県	1, 066, 328	0.8	25											
石川県	1, 154, 008	0.9	27											
中部ブロック			355	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	360
岐阜県	2, 031, 903	1.6	48											
静岡県	3, 700, 305	2.9	87											
愛知県	7, 483, 128	5.9	177											
三重県	1, 815, 865	1.4	43											
近畿ブロック			508	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	510
滋賀県	1, 412, 916	1.1	33											
京都府	2, 610, 353	2.1	62											
大阪府	8, 839, 469	7.0	209											
兵庫県	5, 534, 800	4.4	131											
奈良県	1, 364, 316	1.1	32											
和歌山県	963, 579	0.8	23											
福井県	786, 740	0.6	19											
中国ブロック			176	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	180
鳥取県	573, 441	0.5	14											
島根県	694, 352	0.5	16											
岡山県	1, 921, 525	1.5	45											
広島県	2, 843, 990	2.2	67											
山口県	1, 404, 729	1.1	33											
四国ブロック			91	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100
徳島県	755, 733	0.6	18											
香川県	976, 263	0.8	23											
愛媛県	1, 385, 262	1.1	33											
高知県	728, 276	0.6	17											
九州ブロック			307	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	300
福岡県	5, 101, 556	4.0	120											
佐賀県	832, 832	0.7	20											
長崎県	1, 377, 187	1.1	33											
熊本県	1, 786, 170	1.4	42											
大分県	1, 166, 338	0.9	28											
宮崎県	1, 104, 069	0.9	26											
鹿児島県	1, 648, 177	1.3	39											
沖縄ブロック			34	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30
沖縄県	1, 433, 566	1.1	34											

※沖縄ブロックを除く割付数が少ない四国ブロック各10サンプル増加

調査・分析の視点



社会資本整備に関するインターネット調査 調査票

調査ご協力のお願い

私たちの生活にとって、河川の堤防、道路や橋梁、鉄道、水道などのインフラ(社会資本)は、極めて重要な役割を果たしています。

本調査は、このインフラ(社会資本)の保全整備について、みなさまの意見、評価を伺うために行われるものです。調査結果は、これからのインフラ(社会資本)の保全整備のあり方を考える研究に用いるとともに、今後の政策提言の基礎データとして活用します。個人情報が開示されることはありませんので、ご協力をいただけますようお願いいたします。

国土政策研究所

1. 社会・生活の動向に関する意識・態度

■社会・生活に対する不安についてお伺いします。

Q1.

Q1-1.各々の項目について「自分自身や家族の周りで起きたり、生活する地域に影響を与えるかもしれないこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。(それぞれひとつだけ)Q1-2.各々の項目について「日本全体で起きたり、社会に影響を与えるかもしれないといったこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。(それぞれひとつだけ)

	自分自身(家族)の周りの こととして起こる不安					日本全体、社会 のこととして起こる不安				
	1. 非常に不安を感じる	2. 不安を感じる	3. どちらともいえない	4. 不安は感じない	5. 全く不安は感じない	1. 非常に不安を感じる	2. 不安を感じる	3. どちらともいえない	4. 不安は感じない	5. 全く不安は感じない
●安全・安心										
ア) 気候変動等に伴い、災害が頻発・激甚化する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
イ) 南海トラフ、首都圏直下型などの大地震が起こる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ウ) 水害・台風の被害に遭う	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
エ) 世界の食料事情が厳しくなり、食料供給に不安が生じる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
オ) 世界のエネルギー事情が厳しくなり、エネルギー供給に不安が生じる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
カ) 温暖化、酸性雨などの地球温暖化問題が進行する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
キ) 食品の安全性が損なわれる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ク) テロ、戦争が発生する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ケ) 治安が悪化し、犯罪が増加する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
コ) 原発事故、放射性物質による汚染が広がる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
サ) 交通事故、飛行機事故に遭う	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
●活力・交流										
シ) 世界の経済状況が悪化する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ス) 日本の経済成長、景気が悪化する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
セ) 日本社会での経済等の格差が拡大する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ソ) 人口減少・少子化・高齢化が進行する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
タ) 居住地域が衰退する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
チ) 地域間格差が拡大(東京一極集中、地方の疲弊)する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ツ) 地域間や都市間の移動・交流を支える公共交通がなくなる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
テ) 効率性、採算性のよい施設しか維持されなくなる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
●心豊かな暮らし										
ト) 自然・景観が損なわれる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ナ) 子育て、教育などの環境が悪くなる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ニ) 空き家が増えるなどで生活環境が悪化する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ヌ) 買物や通勤・通学などの地域内の日常的な移動・交流を支える公共交通がなくなる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ネ) 伝統ある地域文化が衰退する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ノ) 暮らしを豊かにする地域活動が低下する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ハ) 地域社会(コミュニティ)が衰退する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

Q2. 安全で活力ある快適な暮らしをする上で、あなたは次の各項目について重要だと思いますか。(それぞれひとつだけ)

	1. 非常に重要	2. 重要	3. 重要度は低い	4. わからない
●安全・安心				
ア) 気候変動等に伴う災害の頻発・激甚化から護られること	1	2	3	4
イ) 南海トラフ、首都圏直下型などの大地震から護られること	1	2	3	4
ウ) 水害・台風から護られること	1	2	3	4
エ) 食料供給不安に備えること	1	2	3	4
オ) エネルギーが安定的に供給されること	1	2	3	4
カ) 地球温暖化が進まないようにすること	1	2	3	4
キ) 食品の安全性を確保すること	1	2	3	4
ク) テロ、戦争が起きないようにすること	1	2	3	4
ケ) 治安を維持し、犯罪を防ぐこと	1	2	3	4
コ) 原発事故等を起こさないようにすること	1	2	3	4
サ) 交通事故、飛行機事故を防ぐこと	1	2	3	4
●活力・交流				
シ) 強い国際競争力が保持されること	1	2	3	4
ス) 活力ある日本の経済が保持されること	1	2	3	4
セ) 活力ある地域の社会が保持されること	1	2	3	4
ソ) 技術革新の進展、技術革新の展開がなされること	1	2	3	4
タ) 観光振興がなされ、他地域や外国から多くの人が訪れること	1	2	3	4
チ) 他地域、海外との活発な交流がなされること	1	2	3	4
ツ) 地域間や都市間を円滑に人や物が移動できること	1	2	3	4
テ) 情報交換が活発になされること	1	2	3	4
ト) もっと便利で効率的に情報交換(入手)ができるための情報基盤施設が整備されること	1	2	3	4
ナ) 雇用が維持され、収入が確保されること	1	2	3	4
ニ) インフラ(社会資本)の保全により、経済や社会の効率・活力を高めること	1	2	3	4
●心豊かな暮らし				
ヌ) 家族が心豊かに快適に暮らせること	1	2	3	4
ネ) 自分や家族が健康であること	1	2	3	4
ノ) 自分や家族の仕事が充実していること	1	2	3	4
ハ) 年金が十分に支給されること	1	2	3	4
ヒ) 生活に必要な収入が確保されること	1	2	3	4
フ) 医療・福祉体制が充実していること	1	2	3	4
ヘ) 子育てや教育の環境が充実していること	1	2	3	4
ホ) 相互に助け合う地域社会が維持されること	1	2	3	4
マ) 快適で美しい街並みや居住環境が保持、形成されること	1	2	3	4
ミ) 資源・エネルギーの再利用等がなされる循環型社会が構築されること	1	2	3	4
ム) 人と自然が共生する生活を送れること	1	2	3	4
メ) 地域の人々が快適で便利な社会生活を送れること	1	2	3	4

2. 社会・生活に関する考え方(価値観)

■社会・生活に関する考え方・価値観についてお伺いします。

Q3. あなたご自身は、社会・生活において、どのような考えや価値観をお持ちですか。(それぞれひとつだけ)

	1. 非常に そう思う	2. そう 思う	3. どちら ともい えない	4. そう 思わな い	5. 全く そう 思わな い
(1) 環境意識・自然意識					
ア) 地球環境に優しい生活をしたい	1	2	3	4	5
イ) 自然や景観を守ることは大切だ	1	2	3	4	5
(2) 仕事と暮らし					
ウ) より良い生活のためなら、今の生活を変えるようなことにもチャレンジしたい	1	2	3	4	5
エ) 自分の感性、経験や技術を生かして、自分にしかできない仕事をしたい	1	2	3	4	5
オ) 厳しい仕事でも高収入であれば良い	1	2	3	4	5
カ) 仕事に打ち込み、会社で出世することは良いことだ	1	2	3	4	5
キ) 仕事よりも友人、家族等を大切にする暮らしにしたい	1	2	3	4	5
(3) 居住地意向					
ク) ほどよい利便性を持った都市の郊外で、快適な居住空間で暮らしたい	1	2	3	4	5
ケ) 利便性の高い都市部、都市中心部で暮らしたい	1	2	3	4	5
コ) 地方部や田舎で、自然・景観に恵まれた暮らしをしたい	1	2	3	4	5
(4) 社会参加・参画意向					
サ) 地域の活動には積極的に参加したい	1	2	3	4	5
シ) 政治、社会の動向に関心が高い方だ	1	2	3	4	5
ス) ボランティア活動など、社会に貢献する活動に取り組みたい	1	2	3	4	5
セ) 隣人との付き合いは大事にしていこう	1	2	3	4	5
(5) 負担／公私の役割					
ソ) 安心・安定した生活、社会のため税金などの公的負担をするのは当然だ	1	2	3	4	5
タ) 自分の生活は個々を守るべきで、できるだけ国など「公」は介入すべきでない	1	2	3	4	5
チ) 年金・医療制度をきちんと運営し、必要であればもっと負担をしてもよい	1	2	3	4	5
(6) 効率・公平・格差					
ツ) 今の世の中は効率が重視され過ぎて、公平性が損なわれている	1	2	3	4	5
テ) 質の高い暮らしを確保するためにも、もっと効率を上げる必要がある	1	2	3	4	5
ト) 現在の日本は格差が拡大し過ぎている	1	2	3	4	5
ナ) 現在の日本は公平が重視され過ぎていて、活力を失っている	1	2	3	4	5
(7) 家族・子育て					
ニ) 夫は家事や育児を今よりずっと積極的に行うべきだ	1	2	3	4	5
ヌ) 女性がもっと社会進出、社会参加できる仕組みを作るべきだ	1	2	3	4	5
(8) 収入予測					
ネ) 今後、自分や家族の生活は良くなる	1	2	3	4	5
ノ) 今後、自分や家族の収入は増えていく	1	2	3	4	5
(9) 安全・安心					
ハ) 科学的、物理的に安全と言われても、安心できないこともたくさんある	1	2	3	4	5
ヒ) 安全・安心は全ての基盤なので、他のことより重視すべきだ	1	2	3	4	5
フ) 地域の防災訓練等があればできるだけ参加すべきだ	1	2	3	4	5
(10) 技術革新、便利な生活					
ヘ) ITなど新たな技術で生活や社会が便利になるのは良いことだ	1	2	3	4	5
ホ) 新たな技術や製品に追いついていけないことがあるのが心配だ	1	2	3	4	5

3. 社会・生活空間、国土に関する評価

■地域・日本の社会や国土に対する捉え方についてお伺いします。

Q4. 自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成されていると思いますか。(〇は一つずつ)

【あなたの生活する地域・空間では】

- | | | |
|----------------|--------------|-----------------|
| 1. 非常にそうになっている | 3. どちらともいえない | 4. あまりそうになっていない |
| 2. まあそうになっている | | 5. そうになっていない |

【日本全体では】

- | | | |
|----------------|--------------|-----------------|
| 1. 非常にそうになっている | 3. どちらともいえない | 4. あまりそうになっていない |
| 2. まあそうになっている | | 5. そうになっていない |

SQ1. 将来的に、自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。(〇は一つ)

- | | | |
|----------|--------------|-------------|
| 1. 非常に重要 | 3. どちらともいえない | 4. 重要度は低い |
| 2. 重要 | | 5. 全く重要ではない |

Q5. 人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成されていると思いますか。(〇は一つずつ)

【あなたの生活する地域・空間では】

- | | | |
|----------------|--------------|-----------------|
| 1. 非常にそうになっている | 3. どちらともいえない | 4. あまりそうになっていない |
| 2. まあそうになっている | | 5. そうになっていない |

【日本全体では】

- | | | |
|----------------|--------------|-----------------|
| 1. 非常にそうになっている | 3. どちらともいえない | 4. あまりそうになっていない |
| 2. まあそうになっている | | 5. そうになっていない |

SQ1. 将来的に、人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。(〇は一つ)

- | | | |
|----------|--------------|-------------|
| 1. 非常に重要 | 3. どちらともいえない | 4. 重要度は低い |
| 2. 重要 | | 5. 全く重要ではない |

Q6. 心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成されていると思いますか。(〇は一つずつ)

【あなたの生活する地域・空間では】

- | | | |
|----------------|--------------|-----------------|
| 1. 非常にそうになっている | 3. どちらともいえない | 4. あまりそうになっていない |
| 2. まあそうになっている | | 5. そうになっていない |

【日本全体では】

- | | | |
|----------------|--------------|-----------------|
| 1. 非常にそうになっている | 3. どちらともいえない | 4. あまりそうになっていない |
| 2. まあそうになっている | | 5. そうになっていない |

SQ1. 将来的に、心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。(〇は一つ)

- | | | |
|----------|--------------|-------------|
| 1. 非常に重要 | 3. どちらともいえない | 4. 重要度は低い |
| 2. 重要 | | 5. 全く重要ではない |

4. 社会資本具体分野別の充足度評価、推進意向

■地域・日本のインフラ(社会資本)についてお伺いします。

Q7. Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

Q7-2.「日本全体」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

	あなたの住む地域					日本全体				
	1. 非常に 充足して いる	2. 充足 している	3. どちら ともい えない	4. あまり 充足し ていな い	5. ほとん ど充足 してい ない	1. 非常 に充足 してい る	2. 充足 してい る	3. どちら ともい えない	4. あまり 充足し ていな い	5. ほとん ど充足 してい ない
①安全・安心										
ア) 水害などを防ぐ河川の施設	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
イ) 海岸浸食や高潮を防ぐ海岸施設	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ウ) 震災時の緊急輸送となる「命の道」としての高速道路や幹線道路	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
エ) 浸水や地震、火災等の災害への配慮がなされた安全性の高い街	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
オ) 災害時の避難路・避難場所などの施設	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
カ) 安全が確保された通学路、安全が確保された歩道	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
②活力・交流										
キ) 都道府県を越えるような広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ク) 道路交通の円滑化、効率化を実施するETCなどの設備	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ケ) 都道府県を越えるような広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
コ) 都市機能を高める環状道路や放射状の道路	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
サ) グローバリゼーションに対応した国際ハブ空港	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
シ) 日本内外の遠隔地との交流を実現する空港	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ス) 海運を担う港湾	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
セ) 地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ソ) 効率的に情報入手・情報交換ができる高速で大容量の通信ネットワーク	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
タ) 中心市街地を活性化する都市整備	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
③心豊かな暮らし										
チ) 日常の移動を支える地域の道路	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ツ) 日常の移動を支える地域の交通機関(鉄道、バス)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
テ) 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ト) 医療、福祉、子育て、教育文化施設	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ナ) 安全でおいしい水を供給する上水道	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ニ) 下水道などの汚水処理施設	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ヌ) 恵まれた自然景観	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ネ) 質の高い居住・生活空間	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ノ) 景観を良くするための無電柱化	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ハ) カフェなど生活を快適にする道路利用	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

Q7-3.「あなたの住む地域」について、インフラ(社会資本)のそれぞれについてどの程度充足・整備していくべきと思いますか。(それぞれひとつだけ)

Q7-4.「日本全体」について、インフラ(社会資本)のそれぞれについてどの程度充足・整備していくべきと思いますか。(それぞれひとつだけ)

	あなたの住む地域			日本全体		
	1. 特に 早急に 充足し ていく べき	2. 他との バランスを 見ながら計 画的に充足 すべき	3. 現状で 十分	1. 特に 早急に 充足し ていく べき	2. 他との バランスを 見ながら計 画的に充足 すべき	3. 現状で十 分
ア) 水害などを防ぐ河川の施設	1	2	3	1	2	3
イ) 海岸浸食や高潮を防ぐ海岸施設	1	2	3	1	2	3
ウ) 震災時の緊急輸送となる「命の道」としての高速道路や幹線道路	1	2	3	1	2	3
エ) 浸水や地震、火災等の災害への配慮がなされた安全性の高い街	1	2	3	1	2	3
オ) 災害時の避難路・避難場所などの施設	1	2	3	1	2	3
カ) 安全が確保された通学路、安全が確保された歩道	1	2	3	1	2	3
キ) 都道府県を越えるような広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	1	2	3	1	2	3
ク) 道路交通の円滑化、効率化を実施する ETC などの設備	1	2	3	1	2	3
ケ) 都道府県を越えるような広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	1	2	3	1	2	3
コ) 都市機能を高める環状道路や放射状の道路	1	2	3	1	2	3
サ) グローバリゼーションに対応した国際ハブ空港	1	2	3	1	2	3
シ) 日本内外の遠隔地との交流を実現する空港	1	2	3	1	2	3
ス) 海運を担う港湾	1	2	3	1	2	3
セ) 地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)	1	2	3	1	2	3
ソ) 効率的に情報入手・情報交換ができる高速で大容量の通信ネットワーク	1	2	3	1	2	3
タ) 中心市街地を活性化する都市整備	1	2	3	1	2	3
チ) 日常の移動を支える地域の道路	1	2	3	1	2	3
ツ) 日常の移動を支える地域の交通機関(鉄道、バス)	1	2	3	1	2	3
テ) 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設	1	2	3	1	2	3
ト) 医療、福祉、子育て、教育文化施設	1	2	3	1	2	3
ナ) 安全でおいしい水を供給する上水道	1	2	3	1	2	3
ニ) 下水道などの汚水処理施設	1	2	3	1	2	3
ヌ) 恵まれた自然景観	1	2	3	1	2	3
ネ) 質の高い居住・生活空間	1	2	3	1	2	3
ノ) 景観を良くするための無電柱化	1	2	3	1	2	3
ハ) カフェなど生活を快適にする道路利用	1	2	3	1	2	3

5. 社会資本の状況に関する全体評価

■地域・日本のインフラ(社会資本)全体についてお伺いします。

Q8. これまで、個別のインフラ(社会資本)についてあなたのご意見を伺ってきましたが、あなたはこういったインフラ(社会資本)が、全体としてどの程度充足していると考えますか。(それぞれひとつだけ)

【日本全体では】

- | | | |
|--------------|--------------|----------------|
| 1. 非常に充足している | 3. どちらともいえない | 4. あまり充足していない |
| 2. かなり充足している | | 5. ほとんど充足していない |

【あなたの住む地域では】

- | | | |
|--------------|--------------|----------------|
| 1. 非常に充足している | 3. どちらともいえない | 4. あまり充足していない |
| 2. かなり充足している | | 5. ほとんど充足していない |

6. 社会資本の維持管理・更新に関する認知・理解・評価

■インフラ(社会資本)の維持管理・更新についてお伺いします。

Q9. 今後、戦後の急成長期以降に急速に蓄積してきた膨大なインフラ(社会資本)が耐用年数を迎え、**増加する維持管理・更新費用への対応**が大きな課題となることをあなたはご存じですか。

- | | | | |
|---------------|------------|------------|-------------|
| 1. 非常によく知っている | 2. 一応知っている | 3. あまり知らない | 4. ほとんど知らない |
|---------------|------------|------------|-------------|

Q10. 増加する維持管理コストへの対応として、**新たなインフラ(社会資本)を整備するより、維持管理・更新に重点を移すべき**だとの意見がありますが、あなたはどのように思われますか。

- | | | |
|------------|--------------|-----------|
| 1. 非常にそう思う | 3. どちらともいえない | 4. そう思わない |
| 2. そう思う | 5. 全くそう思わない | |

Q11. インフラ(社会資本)の老朽化が急速に進行するため、**全てのインフラ(社会資本)を維持するのは不可能で、残すものと残さないものを分け、早めの対応をすることが必要**だとの意見がありますが、あなたはどのように思われますか。

- | | | |
|------------|--------------|-----------|
| 1. 非常にそう思う | 3. どちらともいえない | 4. そう思わない |
| 2. そう思う | 5. 全くそう思わない | |

Q12. インフラ(社会資本)の老朽化に的確に対応していくためには、**住民などが積極的にインフラ(社会資本)の点検や清掃に加わるなど住民の協力も必要**だとの意見がありますが、あなたはどのように思われますか。

- | | | |
|------------|--------------|-----------|
| 1. 非常にそう思う | 3. どちらともいえない | 4. そう思わない |
| 2. そう思う | 5. 全くそう思わない | |

7. 社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価

■インフラ(社会資本)整備のあり方、保全・整備の進め方についてお伺いします。

Q13. 気候変動による災害の頻発化、巨大地震発生の可能性の増大などに対応するため、**安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進める**べきだとの意見がありますが、あなたはどのように思われますか。

- | | | |
|------------|--------------|-------------|
| 1. 非常にそう思う | 3. どちらともいえない | 4. そう思わない |
| 2. そう思う | | 5. 全くそう思わない |

Q14. 東日本大震災などで、国土の脆弱(ぜいじゃく)性が明らかになった日本にとって、強くしなやかな国民生活の実現のため、**国土を強靱(きょうじん)化する**ことは重要だとの意見がありますが、あなたはどのように思われますか。

- | | | |
|------------|--------------|-------------|
| 1. 非常にそう思う | 3. どちらともいえない | 4. そう思わない |
| 2. そう思う | | 5. 全くそう思わない |

Q15. 日本の経済活力を維持、成長を促進するため、移動時間の短縮、輸送費の低下、企業立地や設備投資の誘発など、**生産拡大効果のある社会資本整備を重点的に進める**べきだとの意見がありますが、あなたはどのように思われますか。

- | | | |
|------------|--------------|-------------|
| 1. 非常にそう思う | 3. どちらともいえない | 4. そう思わない |
| 2. そう思う | | 5. 全くそう思わない |

Q16. 災害からの復旧・復興にあたり、**専門的知識・技能を持った国の職員を迅速に派遣する体制**(ex.「TEC フォース」)を強化することが必要だとの意見がありますが、あなたはどのように思われますか。

- | | | |
|------------|--------------|-------------|
| 1. 非常にそう思う | 3. どちらともいえない | 4. そう思わない |
| 2. そう思う | | 5. 全くそう思わない |

Q17. 人口密度が高いほど効率化により都市施設の維持管理費が少なくなるので、**住む人や都市施設を集め、人口密度の高いコンパクトシティを形成し、それらを道路などのネットワークで結びつけ**て、地方の成長を促し、人口減少を克服することを進めるべきだとの意見がありますが、あなたはどのように思われますか。

- | | | |
|------------|--------------|-------------|
| 1. 非常にそう思う | 3. どちらともいえない | 4. そう思わない |
| 2. そう思う | | 5. 全くそう思わない |

Q18. これからのインフラ(社会資本)の保全整備にあたっては、PPP(官民連携)、PFI(民間の資金、経営能力等を活用する手法など)を取り入れ、**民間事業者のノウハウ等を活用することで、効率化、コスト縮減、人件費の削減等を実現する**ことが必要だとの意見がありますが、あなたはどのように思われますか。

- | | | |
|------------|--------------|-------------|
| 1. 非常にそう思う | 3. どちらともいえない | 4. そう思わない |
| 2. そう思う | | 5. 全くそう思わない |

Q19. 人々の価値観や行動が大きく変化し、多様化していることを踏まえ、社会資本整備においても、その整備方策・手順について**住民、地域の意見等を十分に取り入れ、価値観の共有と協働作業が行えるような仕組み**を作っていくべきだとの意見がありますが、あなたはどのように思われますか。

- | | | |
|------------|--------------|-------------|
| 1. 非常にそう思う | 3. どちらともいえない | 4. そう思わない |
| 2. そう思う | | 5. 全くそう思わない |

Q20. 社会全体の安全性を高める施設等を整備するにあたって、**必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止むを得ない**との意見がありますが、あなたはどのように思われますか。

- | | | |
|------------|--------------|-------------|
| 1. 非常にそう思う | 3. どちらともいえない | 4. そう思わない |
| 2. そう思う | | 5. 全くそう思わない |

Q21. 高速道路、幹線道路が救急搬送や災害時に救援物資の運搬等に用いる「命の道」の役割も果たす、といった例も踏まえ、**社会資本整備にあたっては、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべき**だとの意見がありますが、あなたはどのように思われますか。

- | | | |
|------------|--------------|-------------|
| 1. 非常にそう思う | 3. どちらともいえない | 4. そう思わない |
| 2. そう思う | | 5. 全くそう思わない |

Q22. インフラメンテナンスの分野で、日本の優れた技術は世界で十分に競争する力がある。こういった優れた**日本のインフラ技術を世界に輸出し、国際貢献するとともに日本の活力強化にもつなげるべき**だとの意見がありますが、あなたはどのように思われますか。

- | | | |
|------------|--------------|-------------|
| 1. 非常にそう思う | 3. どちらともいえない | 4. そう思わない |
| 2. そう思う | | 5. 全くそう思わない |

Q23. インフラ(社会資本)の保全整備にあたっては、**中長期の全体像を描いた上で財源をきちんと確保し、計画的効率的に進める**ことが必要であるとの意見がありますが、あなたはどのように思われますか。

- | | | |
|------------|--------------|-------------|
| 1. 非常にそう思う | 3. どちらともいえない | 4. そう思わない |
| 2. そう思う | | 5. 全くそう思わない |

Q24. アメリカのトランプ大統領が1兆ドル(約 110 兆円)をインフラ整備に使うことを表明するなど、**アメリカやヨーロッパ諸国では、安全性を高め、経済活力を維持・増進するため、道路等のインフラ投資を増大させる動き**がありますが、ご存じですか。

- | | | | |
|------------|----------|------------|-----------|
| 1. よく知っている | 2. 知っている | 3. あまり知らない | 4. 全く知らない |
|------------|----------|------------|-----------|

Q24-1. **日本も**インフラの機能を維持し、安全性を高め、また経済活力を維持・増進させるために**インフラへの投資額を増やすべき**だという意見がありますが、あなたはどのように思いますか。

- | | | |
|------------|--------------|-------------|
| 1. 非常にそう思う | 3. どちらともいえない | 4. そう思わない |
| 2. そう思う | | 5. 全くそう思わない |

Q25. **日本は、外国と比べ山地が多く、海岸線が長く、台風、大雨、洪水、地震、火山噴火などの災害が発生し易いなどの特徴を持っています。**あなたは、このことをご存じですか。

- | | | | |
|------------|----------|------------|-----------|
| 1. よく知っている | 2. 知っている | 3. あまり知らない | 4. 全く知らない |
|------------|----------|------------|-----------|

Q25-1. そのために、急峻な地形での工事が必要だったり、地震等に備えるため、頑丈な施設を整備しなければならないなど、**欧米諸国に比べて施設整備に費用がかさみます**。あなたは、このことについてどのように思いますか。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. 理解できるし、納得もできる | 3. よくわからない |
| 2. 理解はできるが納得できない | 4. 理解も納得もできない |

8. 日本とあなたの住む地域の将来(予測とあるべき姿)

■地域・日本の将来予測とあるべき姿についてお伺いします。

Q26. 日本の将来(2030 年前後を想定)について、次のような意見(見方)があります。

1. **衰退する日本** 少子化・高齢化が進み、激化する国際競争の下、世界の中で現在の位置は保ち得ず、経済成長もマイナス気味となり、徐々に衰退していく
2. **定常社会の日本** 少子化・高齢化が進むが、女性の社会進出、技術革新、国民の努力もあって、経済成長がプラスマイナス0%といった「定常社会」となり、世界の中での位置も保ち、それなりに質の高い生活を維持する
3. **活力を保持した日本** 少子化・高齢化にも係わらず、女性の社会進出、技術革新、経済構造の改革、経営革新などにより、一定の成長を実現、世界の中での位置も保った、活力を保持した日本となる
4. **生産性が向上、成長する日本** 少子化・高齢化にも係わらず、女性の社会進出が進むことで、生産年齢人口が確保され、技術革新や経済構造の改革による生産性の更なる向上が図られ、経済に経営革新の、更なる進展などにより、高い成長を実現、世界の中での位置も高まる、活力ある日本となる

Q26-1.将来の日本が最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

- | | | | |
|-----------|------------|--------------|------------------|
| 1. 衰退する日本 | 2. 定常社会の日本 | 3. 活力を保持した日本 | 4. 生産性が向上、成長する日本 |
|-----------|------------|--------------|------------------|

Q26-2.将来の日本がなるべきと思われる姿はどれですか。

- | | | | |
|-----------|------------|--------------|------------------|
| 1. 衰退する日本 | 2. 定常社会の日本 | 3. 活力を保持した日本 | 4. 生産性が向上、成長する日本 |
|-----------|------------|--------------|------------------|

Q27. あなたの住む地域(2030 年前後を想定)について、次のような意見(見方)があります。

1. **衰退していく地域** 少子化・高齢化が進み、地域経済の衰退、中心市街地でも空き店舗が生じたり、空き家も増え、公共交通機関もなくなるなど、徐々に衰退していく
2. **質の高い生活がそれなりに維持される地域** 少子化・高齢化が進むが、地域の産業・経済を維持・活性化する動きや、各種の施設を特定の地域とまとめるコンパクト化を進めることなどにより、それなりに質の高い生活が維持される
3. **便利で快適な地域** 少子化・高齢化は進むが、地域の産業・経済は、新たな産業が生まれることにより活性化し、交通ネットワークが確保された便利で快適な地域となる
4. **成長性の高い便利で快適な地域** 地域社会に新たな成長産業などが生まれ、新たな居住者が流入、新たな産業なども生まれ、交通ネットワークなどはより良くなり、生産性が向上、活力のある成長性の高い、より便利で快適な地域となる

Q27-1.あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1. 衰退していく地域 | 3. 便利で快適な地域 |
| 2. 質の高い生活がそれなりに維持される地域 | 4. 成長性の高い便利で快適な地域 |

Q27-2.あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿はどれですか。

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1. 衰退していく地域 | 3. 便利で快適な地域 |
| 2. 質の高い生活がそれなりに維持される地域 | 4. 成長性の高い便利で快適な地域 |

Q28. 日本の将来(2030 年前後を想定)について、次のような意見(見方)があります。

1.	社会的な関心・関係が希薄な日本
	必要な情報はネットかSNSから入手、自分にとって意味、興味のあることには反応するが、そうでないものに対しては社会的な関心も興味も示さない個人のことしか考えない社会が形成される日本
2.	社会的な課題解決を行政に依存する日本
	各個人の価値観や規範に基づく個人主義的な社会になり、社会的な問題には一定の理解を行うものの、具体的な行動などは起こさず、行政に委ねる社会が形成される日本
3.	社会的な課題を住民が分担して取り組む日本
	社会の様々な課題に対し、行政に依存するのではなく、住民や NPO が社会産業(ソーシャルビジネス)を立ち上げ、行政と住民が分担して解決に取り組むような社会が形成される日本
4.	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本
	地域の風土や文化が見直され、伝統的な血縁社会、地域社会が新たな形で復活し、生活・社会行動の基盤となるような日本

Q28-1. 将来の日本が最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

1. 社会的な関心・関係が希薄な日本	3. 社会課題に住民が分担して取り組む日本
2. 社会的な課題解決を行政に依存する日本	4. 血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本

Q28-2. 将来の日本がなるべきと思われる姿はどれですか。

1. 社会的な関心・関係が希薄な日本	3. 社会課題に住民が分担して取り組む日本
2. 社会的な課題解決を行政に依存する日本	4. 血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本

Q29. あなたの住む地域(2030 年前後を想定)について、次のような意見(見方)があります。

1.	社会的な関心・関係が希薄な地域
	必要な情報はネットかSNSから入手、自分にとって意味、興味のあることには反応するが、そうでないものに対しては社会的な関心も興味も示さない個人のことしか考えない地域社会が形成される
2.	社会的な課題解決を行政に依存する地域
	各個人の価値観や規範に基づく個人主義的な社会になり、社会的な問題には一定の理解を行うものの、具体的な行動などは起こさず、行政に委ねる地域社会が形成される
3.	社会課題に住民が分担して取り組む地域
	社会の様々な課題に対し、行政に依存するのではなく、住民や NPO が社会産業(ソーシャルビジネス)を立ち上げ、行政と住民が分担して解決に取り組む地域社会となる
4.	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域
	地域の風土や文化が見直され、伝統的な血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域社会となる

Q29-1. あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

1. 社会的な関心・関係が希薄な地域	3. 社会課題に住民が分担して取り組む地域
2. 社会的な課題解決を行政に依存する地域	4. 血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域

Q29-2. あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿はどれですか。

1. 社会的な関心・関係が希薄な地域	3. 社会課題に住民が分担して取り組む地域
2. 社会的な課題解決を行政に依存する地域	4. 血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域

9. 国家予算 費目別 今後の増減評価

■国家の予算についてお伺いします。

日本の国家予算は総額(平成 29 年度)97 兆 4547 億円です。

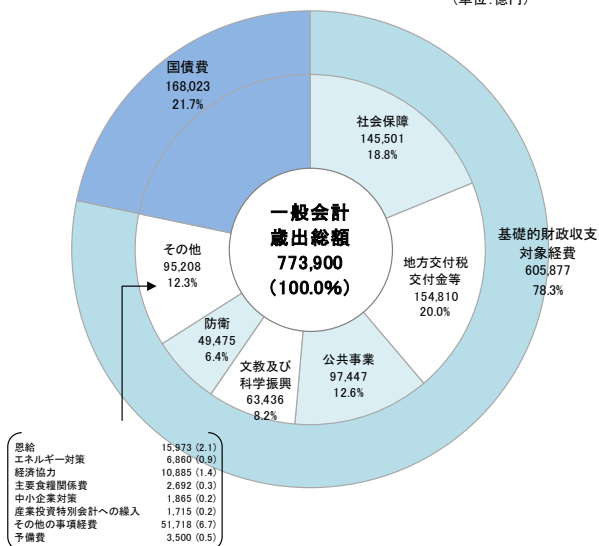
20 年前の平成 9 年度と比較する(()内は割合)と、以下のようになっています。

	平成 9 年度		平成 29 年度
	額	構成比	額 構成比
総額	77 兆 3900 億円	→	97 兆 4547 億円 ↗
社会保障	14 兆 5501 億円 (18.8%)	→	32 兆 4735 億円 ↗ (33.3%↗)
地方交付税交付金等	15 兆 4810 億円 (20.0%)	→	15 兆 5571 億円 ↗ (16.0%↘)
公共事業	9 兆 7447 億円 (12.6%)	→	5 兆 9763 億円 ↘ (6.1%↘)
文教及び科学振興	6 兆 3436 億円 (8.2%)	→	5 兆 3567 億円 ↘ (5.5%↘)
防衛	4 兆 9475 億円 (6.5%)	→	5 兆 1251 億円 ↗ (5.3%↘)

年金・医療など社会保障費の額、構成比が突出して増大し(額で 2.3 倍、構成比で 1.8 倍)、公共事業は額、割合とも減少して(額で 63%減、構成比で 10.6%減)います。

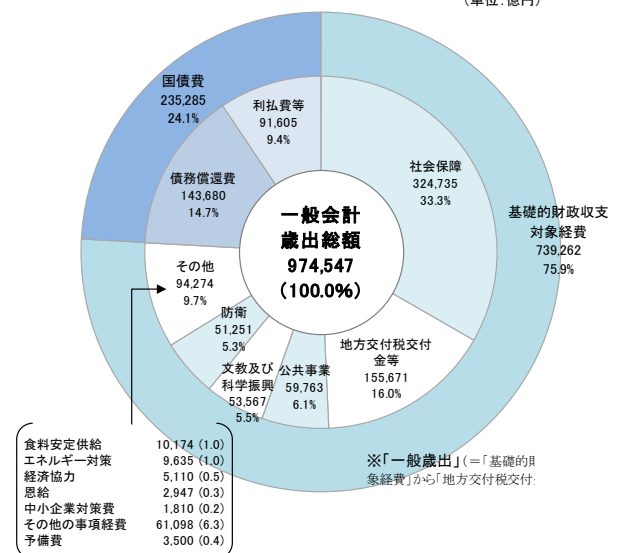
平成 9 年度一般会計歳出

(単位:億円)



平成 29 年度一般会計歳出

(単位:億円)



(注1) 計数については、それぞれ四捨五入によるもので、端数において合計とは一致しないものがある。
(注2) 一般歳出における社会保障関係費の割合は55.6%。

Q30. あなたは、今後の公共事業の予算をどうすべきだと思いますか。上記の結果も見た上でお答えください。

- | | | |
|--------------|-------------------|--------------|
| 1. 増やしていくべき | 3. 平成 29 年度程度とすべき | 4. 減らさざるを得ない |
| 2. 増やさざるを得ない | | 5. 減らしていくべき |

属性(フェイスシート)

ご意見をおうかがいするのはこれで終わりですが、ご回答を統計的に分析するために、あなたご自身やご家族のことについて少しおたずねします。

Q31. [性]

1. 男性
2. 女性

Q32. [年齢] ※満でご回答ください。

1. 18～19 歳	4. 30～34 歳	7. 45～49 歳	10. 60～64 歳
2. 20～24 歳	5. 35～39 歳	8. 50～54 歳	11. 65～69 歳
3. 25～29 歳	6. 40～44 歳	9. 55～59 歳	12. 70 歳以上

Q33. [職業]

1. 会社員・会社役員	4. 自由業	7. パート・アルバイト
2. 公務員・団体職員	5. 専業主婦(夫)	8. その他()
3. 自営業	6. 学生	9. 無職

Q34. [世帯構成]

- 1人世帯
- 1世代世帯(夫婦のみ)
- 2世代世帯(親と子)
- 3世代世帯(親と子と孫)
- その他()
- わからない

Q35. [お住まいの地域の種別](○は一つだけ)

1. 三大都市圏(首都圏・関西圏・中部圏)の主な都市(東京 23 区及び横浜・名古屋・大阪などの政令指定都市)
2. 三大都市圏(首都圏・関西圏・中部圏)の人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地(川口・岐阜・堺など)
3. 三大都市圏(首都圏・関西圏・中部圏)の上記以外の地域
4. 地方中枢都市(札幌・仙台・広島・福岡・北九州)
5. 地方中核都市(人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地)
6. 地方圏のその他の市
7. 地方圏の町村
8. その他()
9. わからない

Q36. [居住年数]

1. 1年未満	3. 2年～5年未満	5. 10年～15年未満	7. 20年～30年未満
2. 1年～2年未満	4. 5年～10年未満	6. 15年～20年未満	8. 30年以上

Q37. [住宅の状況]

1. 持ち家(一戸建て)
2. 持ち家(マンションなど)
3. 公営(都道府県市町村営)住宅
4. 公団(公社)住宅
5. 給与住宅(社宅・公務員住宅)
6. 民間の賃貸住宅(アパート・マンションなど)
7. 借間
8. その他()

Q38. [日頃の主な移動手段](○は一つだけ)

1. 電車
2. バス
3. 自家用車
4. バイク
5. 自転車
6. 徒歩
7. その他()

Q39. [自動車の運転頻度]

1. ほぼ毎日運転する
2. 休日のみ運転する(週に1～2回程度)
3. あまり運転しない(年に数回程度)
4. 全く運転しない(免許をもっていないなど)

Q40. [主な収入源](○は一つだけ)

1. 給料	2. 自営での収入	3. 年金	4. その他
-------	-----------	-------	--------

Q41. [世帯年収]

1. ～99 万円	5. 400 万～499 万円	9. 800 万～899 万	13. 1,400 万～1,599 万円
2. 100 万～199 万円	6. 500 万～599 万円	10. 900 万～999 万円	14. 1,600 万～1,799 万円
3. 200 万～299 万円	7. 600 万～699 万円	11. 1,000 万～1,199 万円	15. 1,800 万～1,999 万円
4. 300 万～399 万円	8. 700 万～799 万円	12. 1,200 万～1,399 万円	16. 2,000 万円以上

Q42. [主な情報入手先] (利用するものに○ 最も良く利用するものに◎)

1. 新聞
2. テレビ
3. インターネットニュース
4. インターネット Web サイト
5. ラジオ
6. 雑誌
7. その他

Q43. [災害体験]あなたご自身あるいは、ご家族、ご親戚、または身近なご友人で、震災、洪水、台風被害、土砂崩れなどの災害の直接的被害に遭われた方はいらっしゃいますか。

自分自身	→	1.被害に遭ったことがある(年位前)	2.被害に遭ったことはない
家族	→	1.被害に遭った人がいる(年位前)	2. 被害に遭った人はいない
親戚	→	1.被害に遭った人がいる(年位前)	2. 被害に遭った人はいない
身近な友人	→	1.被害に遭った人がいる(年位前)	2. 被害に遭った人はいない

報告書本編(全体分析／属性分析)

報告書本編 調査結果概要

1. 社会・生活の動向に関する不安度[自分自身の住む地域(居住地域)／日本全体・社会](P25)

日本全体での不安の方が、居住地域よりも強い。不安度が高いのは大地震が起こる、災害が頻発・激甚化するなどの災害、テロ、治安悪化など安全・安心に関するもの。人口減少、高齢化、経済悪化などがそれに続く。世界で頻発する災害やテロなどに関する報道等によって、自分自身の身の回りや日本での不安を感じているものと類推される。また、東日本大震災や熊本の直下型地震等がその不安感を助長しているものと考えられる。

2. 社会・生活の動向に対する重要度(P39)

現在の生活レベルを維持し、健康で安定した暮らしが送れることが重要であるとの認識が高く、身近な問題に対する重要性が高いとされている。その次に「原発、テロ、戦争、大地震から守られること」が重要であるとされている。これから考察すると、現在の生活レベルを維持し、健康で安定した暮らしが送れる前提として、社会的な安全・安心を希求しているように考えられる。

社会・生活に関する考え方(価値観)(P47)

「自然や景観を守ることは大切だ」74.0%、「地球環境に優しい生活をしたい」67.2%、「ほどよい利便性を持った都市の郊外で、快適な居住空間で暮らしたい」61.2%、「仕事よりも友人、家族等を大切に暮らす」59.8%、「科学的、物理的に安全と言われても、安心できないこともたくさんある」56.8%、環境、自然、快適、家族などが重視されている。

3. 社会・生活空間、国土に関する評価(P48)

国民の、安全・安心な社会、活力ある社会、心豊かな社会に対する希求は強く、社会資本整備の重要度が低いと答えている回答者は非常に少ない。

ただし、社会、国土形成に関する現状評価については、「どちらともいえない」と回答している人が半数に近く、その割合は、居住する地域よりも、日本全体での傾向が強くなっている。

→評価するに足る情報がないのか、評価することが難しいのかは不明であるが、国民に社会資本整備の状況等に関する確な情報提供等を行い、社会資本整備のあり方についての健全な論点整理と議論が行えるようにする必要性が高いことを示唆している。

4. 社会資本具体分野別の充足度×推進意向(P61)

社会資本具体分野別の充足度×推進意向(居住地域)(P63)

充足度が低いと評価され、推進意向が高いのは、避難路、避難場所、安全性の高い街など。

充足度は平均を上回るが推進意向も強いのが、河川の施設、地域の道路、医療、子育て施設、地域間の交通機関、命の道。地域の安全と地域の生活を支える施設への要望が強い。

社会資本具体分野別の充足度×推進意向(日本全体)(P64)

「充足度評価が低く、推進意向が高い」のは、命の道、河川の施設、医療、子育て施設、海岸施設、避難路など安全・安心に関わる施設が中心。「充足度ある程度、推進意向ある程度」は、地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)、高速道路・幹線道路、地域の交通機関など、広域の生活と地域を支える施設。

日本全体では広域の生活を支える(地域間の交流を支える)施設の推進意向が居住地域より高いとの特徴がある。

5. 社会資本の状況に関する全体評価

■社会資本の状況に関する全体評価(P98)

「充足している」と「充足していない」の比率は、居住地域 28.6%＞24.6%、日本全体 25.9%＞20.9%。居住地域の充足度評価が日本全体より高い。

■社会資本の状況に関する全体評価＜地域ブロック別、都市規模別＞(P101)

社会資本の充足度評価に関する地域間格差は大きい。

特に、四国、北海道は居住地域、日本全体とも充足していない(加重平均マイナス)と評価。逆に、三大都市圏、関東、九州・沖縄、中部は日本全体の充足度評価は平均以下だが、居住地域は平均以上の充足と評価。地方中枢都市、近畿、日本、居住地域とも充足していると評価

参考：社会資本の状況に関する全体評価と「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」3分野の社会・国土の形成評価の相関分析

社会資本の状況に関する全体評価(Q8)と社会・生活空間、国土に関する評価(Q4、Q5、Q6)重回帰分析(P102)

全国及び各地域ブロックの社会資本の状況に関する全体評価(充足度評価)に対して、「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」の3分野の社会・国土形成評価の影響がどの程度強いかを数量的に把握するため、多変量解析の手法を用いて分析した。

全国では、3分野の社会・国土形成評価のうち「活力・交流」が最も全体評価に寄与。「活力・交流」に次いで「安全・安心」が「活力・交流」とあまり大きな差はなく2番目であり、「心豊かな暮らし」は「活力・交流」「安全・安心」と比べると寄与率は低くなっている。

地域ブロック別で見ると、北海道ブロックは「活力・交流」が「安全・安心」「心豊かな暮らし」に比べ特に高く、最も寄与している。四国ブロック、九州・沖縄ブロックも同じく「活力・交流」が最も寄与している。北海道、四国、九州・沖縄ブロックは「活力・交流」系の個別資本充足度評価が低く、整備推進意向が強い。

→ 各ブロックの社会・国土形成評価に関する直感的解釈や各ブロックの3分野の個別社会資本整備評価との整合性もあり、重回帰分析の結果は各ブロックの相対的評価を示していると考えられる。

6. 社会資本の維持管理・更新に関する認知・理解・評価(P103)

国交省等による情報提供、メディアによる多くの報道、論調にも関わらず、インフラ維持管理・更新費用課題認知率5割程度にとどまる。特に、若年層と女性の認知が低い傾向がある。

7. 社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価(P113)

安全・安心を高める社会資本整備に重点を置き、中長期の全体像を描いた上で財源を確保、社会資本整備を計画的効率的に進めていくことが求められている。

その際、住民、地域の意見等を十分に取り入れ、協働作業を行えるような仕組み、民間事業者のノウハウ等を活用すること、効率の観点だけでなく公平の観点も重視すべきことが求められている。

8. アメリカやヨーロッパ諸国での道路等のインフラ投資を増大させる動きに関する認知(P136)

欧米で、道路等のインフラ投資を増大させる動きがあることを認知しているのは3割強と低い。

9. 災害が発生し易い日本の過酷な自然条件認知、それに伴う施設整備費用に関する認知(P140)

日本の自然条件が過酷であることに、国民の4分の3弱が認知。そのため、施設整備に費用がかさむことに理解を示す層は7割を超えるが、「理解も納得もできない」も3割近く存在。

10. 日本とあなたの住む地域の将来(予測とあるべき姿)(衰退－成長)(P146)

日本の将来予測、あるべき姿(衰退－成長)(P146)

なりそうなのは衰退、定常社会の日本、なるべきなのは活力保持、成長する日本、そのギャップは大きい。

「なりそうな日本」と「なるべき日本」(カッコ内)は、「衰退する日本」なりそう 47.3%(>なるべき 13.9%)、逆に「活力を保持した日本」なりそう 11.7%(<なるべき 36.8%)、「成長する日本」なりそう 5.3%(<なるべき 22.4%)、

居住地域の将来予測、あるべき姿(衰退－成長)(P146)

日本の将来と同様に居住地域における予測とあるべき姿のギャップも大きい。

「なりそうな居住地域」と「なるべき居住地域」(カッコ内)は、「衰退していく地域」なりそう 44.4%(>なるべき 16.3%)、「質の高い生活がそれなりに維持」なりそう 31.6%(<なるべき 36.9%)、「便利で快適な地域」なりそう 20.1%(<なるべき 32.5%)。

日本と居住地域の将来<性別、年代別、性年代別>(P155)

女性の方が男性より楽観的、18-29 歳、60~70 代すなわち若い世代、老年世代は平均より楽観的、現役(男性 30・40・50 代、女性 30 代)は居住地域、日本全体とも平均より悲観的。

日本と居住地域の将来<地域ブロック別>(P156)

ブロック別に見るとかなり大きな格差。九州・沖縄、中部、関東は日本全体、居住地域とも平均より楽観的で、自地域の将来に最も楽観的なのは関東。近畿は日本については平均以下だが、自地域については平均よりかなり楽観的。東北、北陸、中国は日本全体については平均より上だが、居住地域については平均よりかなり悲観的。北海道、四国は日本全体、居住地域について平均よりかなり悲観的。

日本と居住地域の将来<都市規模別>(P157)

大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区は日本、居住地域とも将来に楽観的。地方中枢都市、大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市は居住地域の将来に楽観的。地方圏の町村、その他都市、地方中核都市は居住地域の将来に悲観的。

11. 日本とあなたの住む地域の将来(予測とあるべき姿)(社会課題に関する受動－能動)(P158)

日本の将来予測、あるべき姿(社会課題に関する受動－能動)(P158)

「なりそうな姿」と「なるべき姿」の乖離は大きい。

「なりそうな姿」は、「社会的な関心・関係が希薄な日本」47.2%と5割近くを占め、「社会的な課題解決を行政に依存する日本」31.7%と3割を超える。

「なるべき姿」は、「社会課題に住民が分担して取り組む日本」53.8%と5割を超え、「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本」13.8%。

あなたの住む地域の将来予測、あるべき姿(社会課題に関する受動－能動)(P158)

日本全体と同様に「なりそうな姿」と「なるべき姿」の乖離は大きい。

「なりそうな姿」は、「社会的な関心・関係が希薄な地域」39.7%と約4割。これは【日本全体】の 47.2%より少ない。「社会的な課題解決を行政に依存する地域」35.4%で、【日本全体】の 31.7%より多く、【居住地域】では行政依存となるとする人の割合が高い。【日本全体】のなりそうな姿と比較すると、行政依存も多いが、地域住民が取り組む、地域社会が復活するとする人の割合が高い。

「なるべき姿」は、「社会的な関心・関係が希薄な地域」13.3%、「社会的な課題解決を行政に依存する地域」20.9%、「社会課題に住民が分担して取り組む地域」54.0%、「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域」11.8%で、【日本全体】のなるべき姿とほぼ同様の構造となっている。

→問題を共有し、解決することができるコミュニティの形成が強く望まれているとも考えられる。このようなコミュニティ形成のためには、日本や地域が有する課題と複数の解決策を提示することが重要であり、それをベースに住民参加型の行政を展開していく必要性が高いことを物語っているものと考えられる。

12. 国家予算 費目別 今後の増減評価(P167)

■公共事業予算の今後の増減評価

「増やしていくべき」7.4%+「増やさざるを得ない」33.9%の計は 41.3%、「平成 29 年度程度とすべき」は 34.3%、「減らしていくべき」+「減らさざるを得ない」の計は 24.4%となっている。

13. 属性分析まとめ(P170)

地域ブロック間で社会資本整備評価に大きな差、男女、年齢等で顕著な差。

1. 社会・生活の動向に関する意識・態度

■社会・生活の動向に関する不安度(自分・居住地域／日本全体・社会)

安全・安心に関して、【自分自身(家族)の周りのこととして】不安を感じる計は、「大地震が起こる」73.3%、「テロ、戦争が発生(する)」69.1%、「災害が頻発・激甚化(する)」66.1%の順。【日本全体、社会のこととして】不安を感じる計は、「大地震が起こる」77.0%、「災害が頻発・激甚化(する)」70.7%、「テロ、戦争が発生(する)」70.5%の順。

活力・交流に関して、【自分自身(家族)の周りのこととして】不安を感じる計は、「人口減少・少子化・高齢化が進行」64.9%、「日本の経済成長、景気が悪化」56.9%、「日本社会での経済等の格差が拡大」55.4%の順。【日本全体、社会のこととして】不安を感じる計は、「人口減少・少子化・高齢化が進行」66.3%、「日本の経済成長、景気が悪化」61.0%、「日本社会での経済等の格差が拡大」58.6%の順。

心豊かな暮らしに関して、【自分自身(家族)の周りのこととして】不安を感じる計は、「自然・景観が損なわれる」「(空き家が増えるなどで)生活環境が悪化」各 48.1%、「子育て、教育などの環境が悪くなる」46.3%の順。【日本全体、社会のこととして】不安を感じる計は、「(空き家が増えるなどで)生活環境が悪化」53.5%、「自然・景観が損なわれる」53.1%、「子育て、教育などの環境が悪くなる」51.2%の順。

Q1-1. 各々の項目について「自分自身や家族の周りで起きたり、生活する地域に影響を与えるかもしれないこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。(それぞれひとつだけ)

Q1-2. 各々の項目について「日本全体で起きたり、社会に影響を与えるかもしれないこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。(それぞれひとつだけ)

		自分自身(家族)の周りのこととして起こる不安						日本全体、社会のこととして起こる不安					
		(n=3000)											
		非常に不安を感じる	不安を感じる	どちらともいえない	不安は感じない	全く不安は感じない	不安を感じる計 (%)	非常に不安を感じる	不安を感じる	どちらともいえない	不安は感じない	全く不安は感じない	不安を感じる計 (%)
●安全・安心	ア) 災害が頻発・激甚化(する)	15.7	50.4	22.9	8.0	3.0	66.1	21.0	49.8	22.5	4.1	2.7	70.7
	イ) 大地震が起こる	29.9	43.4	19.2	5.0	2.5	73.3	33.6	43.4	17.7	3.2	2.1	77.0
	ウ) 水害・台風の被害に遭う	13.4	46.5	27.3	9.5	3.3	59.9	18.6	51.2	23.5	4.2	2.6	69.7
	エ) 食料供給に不安が生じる	9.2	36.4	36.5	13.9	4.1	45.6	14.4	41.7	32.8	8.1	3.0	56.1
	オ) エネルギー供給に不安が生じる	9.0	39.2	35.1	13.0	3.7	48.2	14.3	43.1	32.1	7.6	2.9	57.4
	カ) 地球温暖化問題が進行(する)	12.4	44.2	29.8	9.9	3.7	56.7	15.8	45.2	29.4	6.4	3.2	61.0
	キ) 食品の安全性が損なわれる	13.8	42.4	31.5	9.3	2.9	56.3	16.0	42.8	31.1	7.3	2.8	58.8
	ク) テロ、戦争が発生(する)	25.8	43.3	23.0	5.3	2.7	69.1	27.7	42.8	22.7	4.5	2.3	70.5
	ケ) 治安が悪化し、犯罪が増加	16.9	41.9	29.8	8.3	3.1	58.8	19.6	44.1	28.0	5.9	2.5	63.6
	コ) 原発事故、放射性物質による汚染	20.6	36.2	29.0	10.3	3.9	56.8	23.6	39.5	27.2	6.7	3.1	63.0
●活力・交流	サ) 交通事故、飛行機事故	10.7	37.0	38.1	10.9	3.3	47.7	12.3	36.5	39.0	9.2	3.0	48.8
	シ) 世界の経済状況が悪化	10.6	42.3	37.2	7.5	2.4	53.0	14.2	43.9	33.7	6.0	2.3	58.0
	ス) 日本の経済成長、景気が悪化	13.6	43.3	33.6	7.2	2.3	56.9	16.1	44.9	30.9	6.0	2.2	61.0
	セ) 日本社会での経済等の格差が拡大	14.8	40.6	34.3	7.6	2.8	55.4	16.2	42.4	32.7	6.3	2.4	58.6
	ソ) 人口減少・少子化・高齢化が進行	20.1	44.8	27.3	5.4	2.4	64.9	21.2	45.1	27.0	4.4	2.3	66.3
	タ) 居住地域が衰退	8.7	30.1	40.8	16.1	4.3	38.8	9.7	35.8	40.3	10.9	3.2	45.6
	チ) 地域間格差が拡大	10.4	34.0	40.5	11.8	3.4	44.4	12.8	38.4	37.3	8.5	3.1	51.2
	ツ) 移動・交流を支える公共交通がなくなる	9.3	30.2	39.9	16.0	4.6	39.5	11.5	36.1	39.1	9.7	3.6	47.6
	テ) 効率性、採算性のよい施設しか維持されなくなる	8.9	34.8	41.5	11.2	3.6	43.7	11.1	37.6	39.7	8.3	3.3	48.7
●心豊かな暮らし	ト) 自然・景観が損なわれる	11.5	36.5	37.0	11.5	3.4	48.1	13.6	39.6	35.9	7.9	3.1	53.1
	ナ) 子育て、教育などの環境が悪くなる	11.7	34.5	38.8	10.7	4.2	46.3	13.6	37.6	37.0	8.1	3.7	51.2
	ニ) (空き家が増えるなどで)生活環境が悪化	9.8	38.3	36.8	11.4	3.8	48.1	10.9	42.6	35.3	7.7	3.5	53.5
	ヌ) 地域内の日常的な移動・交流を支える公共交通がなくなる	10.4	32.2	37.1	15.6	4.7	42.6	11.6	37.7	37.1	9.8	3.7	49.3
	ネ) 地域文化が衰退	8.6	30.5	41.5	14.7	4.8	39.1	11.5	35.4	39.4	10.0	3.7	46.9
	ノ) 地域活動が低下	6.0	28.1	47.0	14.5	4.4	34.1	8.9	34.0	42.7	10.4	4.0	42.9
	ハ) 地域社会が衰退	6.1	28.7	45.6	14.5	5.1	34.8	9.0	33.9	42.0	10.5	4.6	42.9

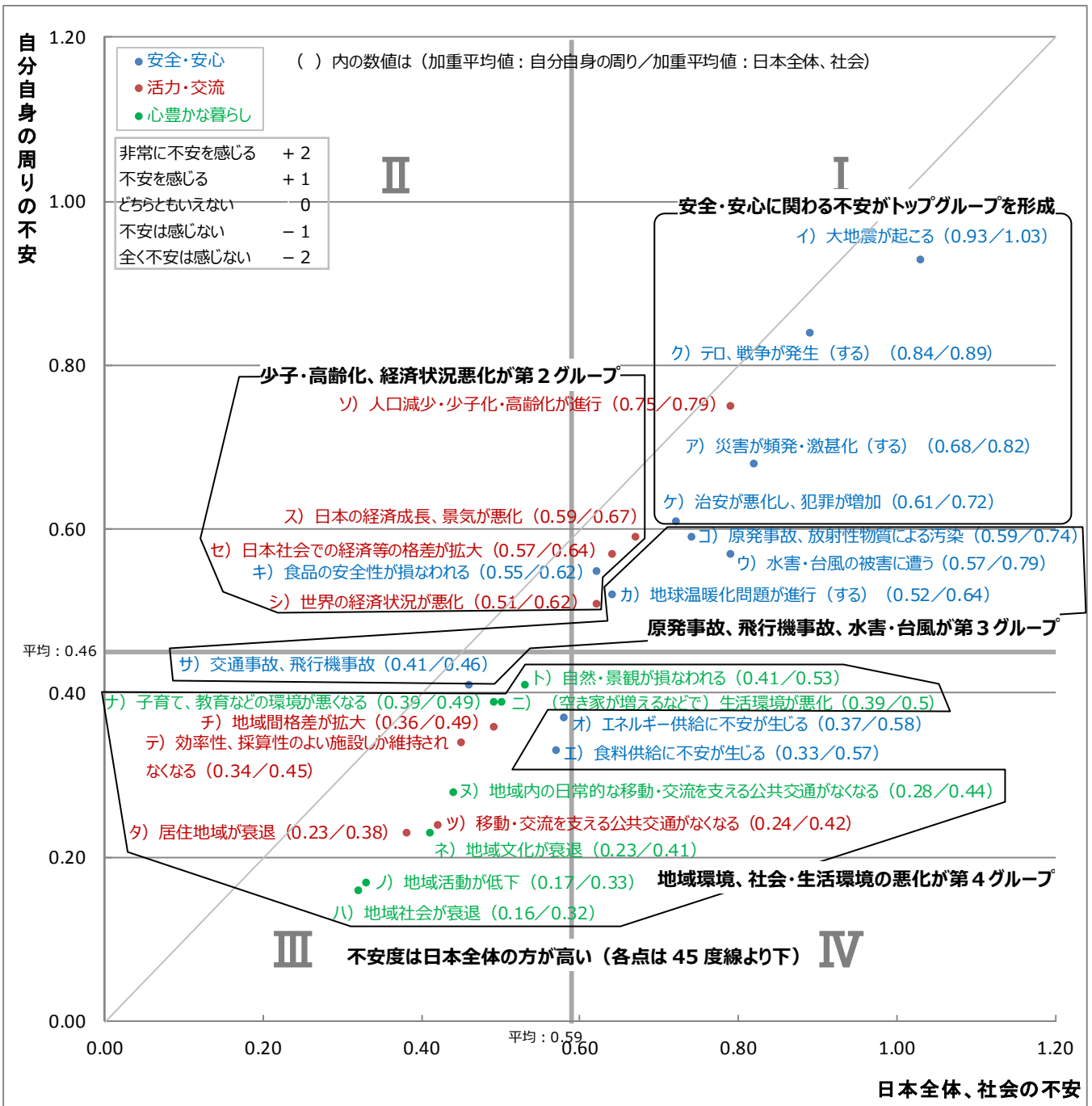
70%～ 60%～69.9% 50%～59.9% 40%～49.9%

■社会・生活の動向に関する不安度[自分自身の周りの不安／日本全体・社会](Q1-1、Q1-2)加重平均グラフ

日本全体での不安の方が、居住地域よりも強い。不安度が高いのは大地震が起こる、災害が頻発・激甚化するなどの災害、テロ、治安悪化など安全・安心に関するもの。人口減少、高齢化、経済悪化などがそれに続く。

→ 世界で頻発する災害やテロなどに関する報道等によって、自分自身の身の回りや日本での不安を感じているものと類推される。また、東日本大震災や熊本の直下型地震等がその不安感を助長しているものと考えられる。

- ・ 基本的に「日本全体、社会」での不安度が「自分の住む地域(居住地域)」を上回る。
 - 東日本大震災を契機として災害に対する国民意識が基本的に変化していること、それを強めるような日本・世界の災害、テロ等の報道により、居住地域より日本、世界で危険なことがあると感じているためと考えられる。
- ・ 各項目で見ると、まず災害、テロ、治安悪化など「安全・安心」に関わるものが最も高く(第1グループ)、次いで人口減少、高齢化、少子化、経済の悪化、格差拡大に対する不安度が強い。
- ・ 次いで高いのが原発、水害、食品安全性、地球温暖化などが、経済の悪化等と並ぶ第3グループの不安要因となっている。
- ・ 第4グループに属するのは、子育て、教育などの環境が悪くなる、地域文化が衰退など地域・生活に関わるもの。



・ 社会・生活に関する不安度を、「自分の身の周り」「日本全体、社会」で加重平均(非常に不安2、不安1、どちらともいえない0、不安は感じない-1、全く不安は感じない-2で、回答者割合をかけ足し上げたもの)を取り、プロットした。

1-1. 社会・生活の動向に関する不安度(自分・居住地域)属性分析

■社会・生活の動向に関する不安度(自分・居住地域)属性分析1 ●安全・安心(性・年代別)

安全・安心に関して、【自分自身(家族)の周りのこととして】不安を感じる計は、性別で見ると、女性に総じて男性より高くなっている。

年代別で見ると、10～20代で「サ）交通事故、飛行機事故」が他の層を上回っている。60～70代で「カ）地球温暖化進行」が特に上回っており、「イ）大地震」「コ）原発事故」も他の層を上回っている。

性年代別で見ると、女性40代は全般に他の層を上回っている。女性30代～70代で「ア）災害が頻発・激甚化」「イ）大地震」、女性30代～40代で「ウ）水害・台風」、女性50代～70代で「カ）地球温暖化進行」が特に上回っている。女性30代で「ケ）治安悪化、犯罪増加」、女性60～70代で「コ）原発事故」、女性18歳～30代で「サ）交通事故、飛行機事故」が特に上回っている。

一方、男性18歳～40代は全般に低く、「カ）地球温暖化進行」が他の層を下回っている。

世帯構成別で見ると、1世代世帯(夫婦のみ)で「イ）大地震」「カ）地球温暖化進行」「コ）原発事故」、3世代世帯(親と子と孫)で「オ）エネルギー供給不安」「カ）地球温暖化進行」が他の層を上回っている。

Q1-1. 各々の項目について「自分自身や家族の周りで起きたり、生活する地域に影響を与えるかもしれないこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。(それぞれひとつだけ)

不安を感じる計		n	●安全・安心										(%)
			ア)災害 が頻発・ 激甚化 (する)	イ)大地 震が起こ る	ウ)水害・ 台風の被 害に遭う	エ)食料 供給に不 安が生じ る	オ)エネ ルギー供 給に不安 が生じる	カ)地球 温暖化問 題が進行 (する)	キ)食品 の安全性 が損なわ れる	ク)テロ、 戦争が発 生(する)	ケ)治安 が悪化 し、犯罪 が増加	コ)原発 事故、放 射性物質 による汚 染	サ)交通 事故、飛 行機事故
全体		3000	66.1	73.3	59.9	45.6	48.2	56.7	56.3	69.1	58.8	56.8	47.7
性別	男性	1500	61.3	68.5	55.1	42.3	43.0	49.3	48.9	63.3	52.7	49.9	43.5
	女性	1500	70.8	78.1	64.7	48.9	53.4	64.0	63.7	74.9	64.9	63.7	51.9
年代	10～20代	600	60.7	69.8	57.3	45.2	46.3	50.0	54.5	67.5	58.3	52.2	53.7
	30代	600	65.5	71.3	62.2	45.7	46.8	51.8	55.2	68.5	59.2	55.7	51.3
	40代	600	66.0	71.5	60.7	46.5	49.8	54.0	56.3	69.7	58.3	56.2	45.3
	50代	600	67.8	75.3	60.5	45.3	49.7	60.5	56.5	69.7	59.3	57.5	42.0
	60～70代	600	70.3	78.5	58.8	45.2	48.3	67.0	58.8	70.0	58.8	62.5	46.2
性年代	男性18-29歳	300	58.7	66.7	51.7	42.7	44.0	42.7	47.0	61.7	54.0	46.3	48.3
	男性30代	300	59.3	65.0	54.3	42.3	40.7	41.0	47.0	63.3	49.0	47.7	43.0
	男性40代	300	56.7	63.7	52.0	40.7	42.0	44.3	48.3	60.0	50.3	47.0	41.3
	男性50代	300	64.3	72.7	58.0	44.3	44.7	54.3	49.7	64.7	56.7	51.7	42.0
	男性60-79歳	300	67.7	74.7	59.3	41.3	43.7	64.3	52.3	66.7	53.7	57.0	43.0
	女性18-29歳	300	62.7	73.0	63.0	47.7	48.7	57.3	62.0	73.3	62.7	58.0	59.0
	女性30代	300	71.7	77.7	70.0	49.0	53.0	62.7	63.3	73.7	69.3	63.7	59.7
	女性40代	300	75.3	79.3	69.3	52.3	57.7	63.7	64.3	79.3	66.3	65.3	49.3
	女性50代	300	71.3	78.0	63.0	46.3	54.7	66.7	63.3	74.7	62.0	63.7	42.0
	女性60-79歳	300	73.0	82.3	58.3	49.0	53.0	69.7	65.3	73.3	64.0	68.0	49.3
世帯構成	1人世帯	631	62.0	69.9	57.1	47.2	49.0	52.0	53.4	65.8	58.2	51.5	46.8
	1世代世帯(夫婦のみ)	672	70.5	79.5	61.9	45.2	49.0	61.9	58.9	71.3	61.2	61.8	48.5
	2世代世帯(親と子)	1438	66.2	72.3	60.6	45.1	47.4	55.9	57.0	69.5	57.8	57.2	48.1
	3世代世帯(親と子と孫)	202	68.3	75.2	60.9	47.0	54.0	64.4	55.0	72.3	61.4	57.9	50.0

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会・生活の動向に関する不安度(自分・居住地)属性分析2 ●活力・交流(性・年代別)

活力・交流に関して、【自分自身(家族)の周りのこととして】不安を感じる計は、

性別で見ると、女性は「シ)世界経済悪化」「ス)日本経済悪化」「セ)日本での経済格差拡大」で、男性より高くなっている。

年代別で見ると、60～70代で「ソ)人口減少・少子化・高齢化」、10～20代で「ツ)公共交通がなくなる」が他の層を上回っている。

性年代別で見ると、女性40代・女性60～70代で「シ)世界経済悪化」「ス)日本経済悪化」「セ)日本での経済格差拡大」、女性50代～70代で「ソ)人口減少・少子化・高齢化」、女性18歳～20代で「ツ)公共交通がなくなる」、女性40代～70代で「テ)効率性、採算性のよい施設のみ維持」、男性60～70代で「ソ)人口減少・少子化・高齢化」が他の層を上回っている。

一方、男性18歳～40代で「セ)日本での経済格差拡大」「ソ)人口減少・少子化・高齢化」、男性30代で「テ)効率性、採算性のよい施設のみ維持」、男性40代～70代で「ス)日本経済悪化」がそれぞれ他の層を下回っている。

世帯構成別で見ると、3世代世帯(親と子と孫)で「ス)日本経済悪化」「セ)日本での経済格差拡大」「タ)居住地域衰退」「チ)地域間格差拡大」「テ)効率性、採算性のよい施設のみ維持」が他の層を上回っている。

Q1-1. 各々の項目について「自分自身や家族の周りで起きたり、生活する地域に影響を与えるかもしれないこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。(それぞれひとつだけ)

不安を感じる計			n	●活力・交流							(%)
				シ)世界の経済状況が悪化	ス)日本の経済成長、景気が悪化	セ)日本社会での経済等の格差が拡大	ソ)人口減少・少子化・高齢化が進行	タ)居住地域が衰退	チ)地域間格差が拡大	ツ)移動・交流を支える公共交通がなくなる	テ)効率性、採算性のよい施設しか維持されなくなる
全体			3000	53.0	56.9	55.4	64.9	38.8	44.4	39.5	43.7
性別	男性	1500	48.9	52.5	50.3	62.7	37.9	43.0	36.9	42.3	
	女性	1500	57.0	61.3	60.5	67.1	39.7	45.7	42.1	45.0	
年代	10～20代	600	53.0	58.7	51.7	60.2	40.2	45.0	44.7	41.8	
	30代	600	54.5	59.7	54.2	61.3	39.0	41.8	39.7	39.5	
	40代	600	52.2	57.5	56.8	61.7	39.2	42.7	40.8	45.0	
	50代	600	50.5	54.5	54.8	69.3	36.8	46.0	35.8	44.2	
	60～70代	600	54.7	54.0	59.3	72.0	38.8	46.3	36.5	47.8	
性年代	男性18-29歳	300	49.3	53.7	45.7	58.7	40.7	43.3	40.3	43.0	
	男性30代	300	52.3	58.3	50.0	59.0	38.0	41.0	35.7	37.3	
	男性40代	300	44.0	50.0	49.3	56.3	36.0	39.3	37.3	41.3	
	男性50代	300	49.0	51.0	52.3	67.0	38.0	46.0	35.3	45.0	
	男性60-79歳	300	50.0	49.3	54.0	70.7	36.7	45.3	36.0	45.0	
	女性18-29歳	300	56.7	63.7	57.7	61.7	39.7	46.7	49.0	40.7	
	女性30代	300	56.7	61.0	58.3	63.7	40.0	42.7	43.7	41.7	
	女性40代	300	60.3	65.0	64.3	65.0	42.3	46.0	44.3	48.7	
	女性50代	300	52.0	58.0	57.3	71.7	35.7	46.0	36.3	43.3	
	女性60-79歳	300	59.3	58.7	64.7	73.3	41.0	47.3	37.0	50.7	
世帯構成	1人世帯	631	53.4	56.6	53.9	63.1	39.0	44.2	42.0	46.1	
	1世代世帯(夫婦のみ)	672	55.4	57.4	56.1	68.9	38.5	46.1	40.2	44.8	
	2世代世帯(親と子)	1438	52.6	56.6	54.9	64.0	37.8	43.2	38.2	41.5	
	3世代世帯(親と子と孫)	202	52.5	63.4	64.0	69.3	49.5	51.0	40.6	50.5	

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会・生活の動向に関する不安度(自分・居住地)属性分析3 ●心豊かな暮らし・性・年代別

心豊かな暮らしに関して、【自分自身(家族)の周りのこととして】不安を感じる計は、性別で見ると、女性は「ト」自然・景観が損なわれる」「ナ」子育て、教育環境悪化」「ニ」生活環境悪化」「ヌ」地域内公共交通がなくなる」で、男性より高くなっている。

年代別で見ると、10～30代で「ナ」子育て、教育環境悪化」、60～70代で「ニ」生活環境悪化」が他の層を上回っている。

性年代別で見ると、女性18歳～30代で「ナ」子育て、教育環境悪化」が特に高い。女性40代・女性60～70代、男性60～70代で「ニ」生活環境悪化」、女性18歳～20代、40代で「ヌ」地域内公共交通がなくなる」がそれぞれ他の層を上回っている。

一方、女性50代で「ナ」子育て、教育環境悪化」「ノ」地域活動低下」が他の層を下回っており、男性30代～40代で「ニ」生活環境悪化」「ヌ」地域内公共交通がなくなる」、男性40代～70代で「ナ」子育て、教育環境悪化」、男性30代で「ノ」地域活動低下」も他の層を下回っている。

世帯構成別で見ると、3世代世帯(親と子と孫)で「ナ」子育て、教育環境悪化」が他の層を上回っている。

Q1-1. 各々の項目について「自分自身や家族の周りで起きたり、生活する地域に影響を与えるかもしれないこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。(それぞれひとつだけ)

不安を感じる計		n	●心豊かな暮らし							ひとつもない
			ト)自然・景観が損なわれる	ナ)子育て、教育などの環境が悪くなる	ニ) (空き家が増えるなどで)生活環境が悪化	ヌ)地域内の日常的な移動・交流を支える公共交通がなくなる	ネ)地域文化が衰退	ノ)地域活動が低下	ハ)地域社会が衰退	
全体		3000	48.1	46.3	48.1	42.6	39.1	34.1	34.8	9.2
性別	男性	1500	43.9	41.1	44.6	39.1	37.4	33.4	34.7	11.7
	女性	1500	52.2	51.4	51.6	46.2	40.5	34.7	34.9	6.7
年代	10～20代	600	48.3	56.0	45.0	46.0	40.3	37.8	36.8	10.7
	30代	600	47.7	51.0	40.8	39.2	40.2	32.2	33.0	9.2
	40代	600	49.0	42.3	48.2	43.5	38.0	33.3	31.8	12.2
	50代	600	47.5	38.7	51.3	41.3	38.3	32.0	33.0	8.3
	60～70代	600	47.8	43.3	55.2	43.2	38.7	35.0	39.2	5.5
性年代	男性18～29歳	300	45.0	47.3	41.0	41.3	40.3	38.0	36.0	11.7
	男性30代	300	40.7	42.7	36.7	34.3	36.7	28.7	31.7	12.7
	男性40代	300	45.0	36.3	40.7	36.3	34.3	31.3	30.0	17.3
	男性50代	300	45.0	39.0	51.3	41.0	39.7	35.0	36.0	11.0
	男性60～79歳	300	44.0	40.3	53.3	42.3	36.0	34.0	39.7	5.7
	女性18～29歳	300	51.7	64.7	49.0	50.7	40.3	37.7	37.7	9.7
	女性30代	300	54.7	59.2	45.0	44.0	43.7	35.7	34.3	5.7
	女性40代	300	53.0	48.3	55.7	50.7	41.7	35.3	33.7	7.0
	女性50代	300	50.0	38.3	51.3	41.7	37.0	29.0	30.0	5.7
	女性60～79歳	300	51.7	46.3	57.0	44.0	41.3	36.0	38.7	5.3
世帯構成	1人世帯	631	50.7	45.8	44.7	46.0	42.5	35.7	36.1	11.7
	1世代世帯(夫婦のみ)	672	50.3	44.8	52.8	43.6	39.6	34.5	36.3	5.1
	2世代世帯(親と子)	1438	46.2	47.1	47.3	40.9	38.3	33.2	33.8	9.3
	3世代世帯(親と子と孫)	202	51.5	53.0	51.5	45.5	36.1	37.1	36.1	8.4

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会・生活の動向に関する不安度(自分・居住地)属性分析4 ●安全・安心(地域別)

安全・安心に関して【自分自身(家族)の周りのこととして】不安を感じる計は、地域ブロック別で見ると、いずれの地域も「イ)大地震」は「ア)災害が頻発・激甚化」と並んで上位にあげられるが、四国ブロックでは特に高く、中部ブロックでも高い。九州・沖縄ブロック、北陸ブロックでは「ウ)水害・台風」も高い。北海道ブロックでは「エ)食料供給不安」「カ)地球温暖化進行」、北陸ブロックでは「コ)原発事故」も高い。一方、四国ブロックでは「エ)食料供給不安」「オ)エネルギー供給不安」「カ)地球温暖化進行」「キ)食品の安全性」「ク)テロ、戦争」「ケ)治安悪化、犯罪増加」が他の地域を下回っている。

都市規模別で見ると、地方圏の町村で「ウ)水害・台風」が他の地域類型を上回っている。

Q1-1. 各々の項目について「自分自身や家族の周りで起きたり、生活する地域に影響を与えるかもしれないこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。(それぞれひとつだけ)

(%)

不安を感じる計		n	●安全・安心										
			ア)災害 が頻発・ 激甚化 (する)	イ)大地 震が起こ る	ウ)水害・ 台風の被 害に遭う	エ)食料 供給に不 安が生じ る	オ)エネ ルギー供 給に不安 が生じる	カ)地球 温暖化問 題が進行 (する)	キ)食品 の安全性 が損なわ れる	ク)テロ、 戦争が発 生(する)	ケ)治安 が悪化し 、犯罪が 増加	コ)原発 事故、放 射性物質 による汚 染	サ)交通 事故、飛 行機事故
全体		3000	66.1	73.3	59.9	45.6	48.2	56.7	56.3	69.1	58.8	56.8	47.7
地域ブ ロック 別	北海道ブロック	120	69.2	65.8	64.2	51.7	52.5	62.5	56.7	71.7	60.0	55.0	45.8
	東北ブロック	210	66.2	62.4	59.5	46.2	49.5	56.7	52.4	64.8	58.1	61.4	48.1
	関東ブロック	1070	64.7	76.3	54.4	45.0	47.1	56.4	55.5	69.6	58.3	56.2	45.1
	北陸ブロック	120	63.3	60.0	66.7	40.8	45.0	59.2	55.0	72.5	60.8	65.0	47.5
	中部ブロック	360	68.6	81.9	63.6	46.1	48.3	55.6	61.4	68.1	60.6	58.6	53.6
	近畿ブロック	510	64.7	74.1	57.1	45.1	48.2	54.3	56.7	70.2	59.2	53.3	47.6
	中国ブロック	180	65.0	65.0	63.9	45.6	48.9	57.8	56.7	68.9	57.8	58.3	52.8
	四国ブロック	100	71.0	89.0	61.0	35.0	42.0	58.0	47.0	63.0	51.0	52.0	49.0
	九州・沖縄ブロック	330	68.8	67.3	71.8	49.7	51.8	58.5	57.9	69.1	60.0	57.6	47.0
都市規 模別	三大都市圏の政令指定都市 及び東京23区	783	65.3	78.4	55.0	47.4	47.4	56.2	57.6	71.5	61.3	57.5	47.6
	三大都市圏の県庁所在地及 び人口30万人以上の都市	195	65.1	73.8	57.9	44.6	48.7	56.9	61.0	69.2	64.1	57.4	50.8
	三大都市圏の上記以外の地 域	453	66.0	78.8	57.0	40.4	43.9	52.8	52.3	69.3	57.4	51.9	44.4
	地方中枢都市(札幌、仙台、広 福、北九)	272	70.2	69.1	64.3	50.7	49.6	58.1	57.4	70.6	59.6	59.2	51.1
	地方中核都市(人口30万人 以上の都市及び県庁所在地)	269	70.3	73.2	62.8	46.5	52.4	59.1	56.1	70.3	59.5	57.6	53.2
	地方圏のその他の市	731	67.3	70.9	64.4	46.0	50.5	59.6	56.5	67.7	57.6	59.0	48.4
	地方圏の町村	205	67.8	70.2	71.2	47.8	50.7	61.0	59.5	71.7	56.6	59.5	45.9

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会・生活の動向に関する不安度(自分・居住地)属性分析5 ●活力・交流(地域別)

活力・交流に関して【自分自身(家族)の周りのこととして】不安を感じる計は、
 地域ブロック別で見ると、北海道ブロックでは「セ)日本での経済格差拡大」、北陸ブロックでは「ス)日本経済悪化」、九州・沖縄ブロックでは「ソ)人口減少・少子化・高齢化」が他の層をも上回って高い。
 一方、近畿ブロックでは「チ)地域間格差拡大」への反応は低い。
 都市規模別で見ると、地方中枢都市でソ)、地方中核都市で「ス)日本経済悪化」が高くなっている。
 一方、三大都市圏の規模の小さい地域でも「ツ)公共交通がなくなる」への反応は低い。

Q1-1. 各々の項目について「自分自身や家族の周りで起きたり、生活する地域に影響を与えるかもしれないこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。(それぞれひとつだけ)

不安を感じる計		n	●活力・交流							(%)
			シ)世界 の経済状 況が悪化	ス)日本 の経済成 長、景気 が悪化	セ)日本 社会での 経済等の 格差が拡 大	ソ)人口 減少・少 子化・高 齢化が進 行	タ)居住 地域が衰 退	チ)地域 間格差が 拡大	ツ)移動・ 交流を支 える公共 交通がな くなる	テ)効率 性、採算 性のよい 施設しか 維持され なくなる
全体		3000	53.0	56.9	55.4	64.9	38.8	44.4	39.5	43.7
地域 ブ ロ ッ ク 別	北海道ブロック	120	54.2	56.7	62.5	69.2	44.2	45.8	47.5	45.0
	東北ブロック	210	53.8	58.1	57.1	63.8	45.7	54.3	44.3	51.0
	関東ブロック	1070	53.1	56.4	54.1	63.0	34.1	42.5	34.1	41.8
	北陸ブロック	120	50.8	62.5	59.2	65.0	45.8	46.7	44.2	43.3
	中部ブロック	360	55.6	55.6	53.1	61.9	39.4	40.8	41.4	44.4
	近畿ブロック	510	52.9	57.1	53.5	67.1	37.5	37.8	38.6	41.2
	中国ブロック	180	53.9	56.1	58.3	64.4	47.2	53.9	46.7	48.9
	四国ブロック	100	48.0	50.0	55.0	65.0	45.0	52.0	43.0	46.0
九州・沖縄ブロック		330	50.6	59.1	58.2	70.3	40.0	49.1	43.6	44.2
都市 規 模 別	三大都市圏の政令指定都市 及び東京23区	783	53.4	56.8	54.0	64.1	35.1	40.5	36.0	41.6
	三大都市圏の県庁所在地及 び人口30万人以上の都市	195	56.9	54.9	55.9	64.6	33.8	45.1	41.0	43.6
	三大都市圏の上記以外の地 域	453	55.0	57.6	54.3	66.2	33.1	41.3	33.6	40.8
	地方中枢都市(札幌、仙台、広 福、北九)	272	54.4	59.6	59.9	70.6	39.7	48.2	45.2	43.8
	地方中核都市(人口30万人 以上の都市及び県庁所在地)	269	57.6	62.8	58.4	67.3	43.1	49.8	44.2	49.1
	地方圏のその他の市	731	52.1	56.9	57.2	65.7	45.3	48.3	43.4	46.0
	地方圏の町村	205	46.3	55.6	56.1	66.3	44.4	46.8	44.9	51.2

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会・生活の動向に関する不安度(自分・居住地域)6 ●心豊かな暮らし(地域別)

心豊かな暮らしに関して【自分自身(家族)の周りのこととして】不安を感じる計は、地域ブロック別で見ると、北海道、北陸、中国、四国ブロックで「又)地域内公共交通がなくなる」が高め。一方、北陸ブロックでは、「ネ)地域文化衰退」がとりわけ低くなっている。

都市規模別で見ると、三大都市圏の規模の小さい地域では「又)地域内公共交通がなくなる」がとりわけ低くなっている。

Q1-1. 各々の項目について「自分自身や家族の周りで起きたり、生活する地域に影響を与えるかもしれないこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。(それぞれひとつだけ)

不安を感じる計		n	●心豊かな暮らし						ひとつもない
			ト)自然・景観が損なわれる	ナ)子育て、教育などの環境が悪くなる	ニ)（空き家が増えるなどで）生活環境が悪化	又)地域内の日常的な移動・交流を支える公共交通がなくなる	ネ)地域文化が衰退	ノ)地域活動が低下	ハ)地域社会が衰退
全体		3000	48.1	46.3	48.1	42.6	39.1	34.1	34.8
地域ブロック別	北海道ブロック	120	44.2	50.8	52.5	51.7	38.3	37.5	38.3
	東北ブロック	210	50.5	49.0	48.1	46.7	40.5	36.7	34.8
	関東ブロック	1070	48.1	43.6	47.3	38.4	38.7	31.8	32.1
	北陸ブロック	120	42.5	43.3	46.7	50.0	31.7	31.7	35.8
	中部ブロック	360	48.1	45.6	44.4	45.6	41.9	34.4	35.3
	近畿ブロック	510	47.1	49.8	48.8	39.4	37.3	32.2	33.7
	中国ブロック	180	51.7	48.9	51.1	48.9	42.2	41.7	40.0
	四国ブロック	100	49.0	46.0	50.0	51.0	35.0	34.0	36.0
	九州・沖縄ブロック	330	49.1	46.7	50.3	43.6	41.8	37.9	39.4
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	783	49.0	47.3	48.8	39.6	41.4	35.4	34.4
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	195	50.3	47.7	47.2	42.1	42.1	37.9	34.9
	三大都市圏の上記以外の地域	453	45.3	44.8	45.9	35.8	37.3	29.6	32.0
	地方中枢都市(札幌、仙台、広島、福岡、北九州)	272	51.1	47.8	52.9	46.7	43.4	38.6	40.4
	地方中核都市(人口30万人以上の都市及び県庁所在地)	269	50.6	49.1	46.8	45.7	38.3	32.0	36.4
	地方圏のその他の市	731	48.6	46.4	49.0	48.0	38.0	34.9	35.6
	地方圏の町村	205	48.8	46.8	50.7	47.8	36.6	34.6	36.1

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

1-2. 社会・生活の動向に関する不安度(日本全体・社会)属性分析

■社会・生活の動向に関する不安度(日本全体・社会)属性分析1 ●安全・安心(性・年代別)

安全・安心に関して、【日本全体、社会のこととして】不安を感じる計は、

性別で見ると、女性は総じて男性より高くなっている。

年代別で見ると、10～20代で「ア」災害が頻発・激甚化」「イ」大地震」が他の層を下回っているが、「サ」交通事故、飛行機事故」は他の層を上回っている。

性年代別で見ると、女性のなかでも30代～70代が総じて高く、とくに、女性50～60代で「カ」地球温暖化進行」、女性50代では「ア」災害が頻発・激甚化」、女性60代では「コ」原発事故」に高く反応している。「サ」交通事故、飛行機事故」が高いのは、女性18～20代、30代といった若い女性。

一方、男性は18歳～50代が総じて低く、とくに「カ」地球温暖化進行」は、他の年代と比べて低くなっている。このほか、男性18歳～20代は「ア」災害が頻発・激甚化」「ク」テロ、戦争」「ケ」治安悪化、犯罪増加」「コ」原発事故」、男性40代は「オ」エネルギー供給不安」「コ」原発事故」が他の年代と比べて低い。

世帯構成別で見ると、目立った差異は見られない。

Q1-2. 各々の項目について「日本全体で起きたり、社会に影響を与えるかもしれないといったこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。(それぞれひとつだけ)

			●安全・安心											(%)
不安を感じる計			ア)災害 が頻発・ 激甚化 (する)	イ)大地 震が起こ る	ウ)水害・ 台風の被 害に遭う	エ)食料 供給に不 安が生じ る	オ)エネ ルギー供 給に不安 が生じる	カ)地球 温暖化問 題が進行 (する)	キ)食品 の安全性 が損なわ れる	ク)テロ、 戦争が発 生(する)	ケ)治安 が悪化し 、犯罪が 増加	コ)原発 事故、放 射性物質 による汚 染	サ)交通 事故、飛 行機事故	
全体			3000	70.7	77.0	69.7	56.1	57.4	61.0	58.8	70.5	63.6	63.0	48.8
性別	男性	1500	64.1	72.3	63.4	51.0	51.3	53.1	52.1	63.7	57.5	55.3	43.6	
	女性	1500	77.4	81.7	76.1	61.2	63.5	68.9	65.4	77.3	69.7	70.7	54.0	
年代	10～20代	600	64.3	72.0	65.2	56.2	56.7	55.8	56.3	65.8	60.8	59.2	53.8	
	30代	600	70.0	76.7	69.8	56.7	57.8	56.8	59.5	71.0	63.3	62.8	50.7	
	40代	600	70.2	74.8	70.0	55.0	56.8	59.7	57.5	69.7	63.0	61.2	47.0	
	50代	600	73.7	79.7	72.5	55.8	57.5	63.5	59.2	70.7	63.8	63.0	46.0	
	60～70代	600	75.5	81.8	71.2	56.8	58.2	69.0	61.3	75.2	67.2	69.0	46.5	
性年代	男性18-29歳	300	58.0	67.7	60.0	49.7	50.3	46.7	49.0	56.3	52.7	50.0	48.7	
	男性30代	300	61.3	69.7	60.7	50.7	52.0	47.0	52.3	66.7	57.7	56.3	43.3	
	男性40代	300	60.7	69.7	61.0	49.0	47.3	51.9	50.0	59.7	54.7	52.0	41.0	
	男性50代	300	66.0	75.7	65.7	51.7	52.0	54.7	52.3	65.0	59.0	55.7	40.3	
	男性60-79歳	300	74.3	79.0	69.7	54.0	54.7	66.0	57.0	70.7	63.7	62.7	44.7	
	女性18-29歳	300	70.7	76.3	70.3	62.7	63.0	65.0	63.7	75.3	69.0	68.3	59.0	
	女性30代	300	78.7	83.7	79.0	62.7	63.7	66.7	66.7	75.3	69.0	69.3	58.0	
	女性40代	300	79.7	80.0	79.0	61.0	66.3	68.3	65.0	79.7	71.3	70.3	53.0	
	女性50代	300	83.3	83.7	79.3	60.0	63.0	72.3	66.0	76.3	68.7	70.3	51.7	
	女性60-79歳	300	76.7	84.7	72.7	59.7	61.7	72.0	65.7	79.7	70.7	75.3	48.3	
世帯構成	1人世帯	631	67.8	73.1	65.0	54.0	55.3	55.6	55.5	65.6	60.1	56.4	46.1	
	1世代世帯(夫婦のみ)	672	74.4	81.7	72.9	56.8	58.5	66.7	61.9	73.8	67.1	66.8	48.5	
	2世代世帯(親と子)	1438	70.7	76.8	70.5	56.8	58.3	60.8	59.2	71.6	63.7	64.5	50.3	
	3世代世帯(親と子と孫)	202	71.8	79.7	72.8	57.9	57.9	63.9	59.9	72.3	66.8	65.8	51.5	

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会・生活の動向に関する不安度(日本全体・社会)属性分析2 ●活力・交流(性・年代別)

活力・交流に関して【日本全体、社会のこととして】不安を感じる計は

性別で見ると、女性の「シ）世界経済悪化」「ス）日本経済悪化」「ソ）人口減少・少子化・高齢化」が男性に比べて高くなっている。

年代別で見ると、60～70代で「ソ）人口減少・少子化・高齢化」が他の層を上回っている。

性年代別で見ると、女性50代～70代で「ソ）人口減少・少子化・高齢化」がとりわけ高くなっている。「シ）世界経済悪化」は女性全般のなかでも女性40代でより高く、「ス）日本経済悪化」は女性全般のなかでも女性30代で、「セ）日本での経済格差拡大」は女性18～30代で、「チ）地域間格差拡大」は女性30代でより高くなっている。

一方、男性のなかでもより低い反応を示している(不安度が他年代より低い)のは40代。男性30代では「ツ）公共交通がなくなる」「テ）効率性、採算性のよい施設のみ維持」がより低い反応。

世帯構成別で見ると、3世代世帯(親と子と孫)で総じて高くなっている。

Q1-2. 各々の項目について「日本全体で起きたり、社会に影響を与えるかもしれないといったこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。(それぞれひとつだけ)

不安を感じる計		n	●活力・交流							
			シ)世界 の経済状 況が悪化	ス)日本 の経済成 長、景気 が悪化	セ)日本 社会での 経済等の 格差が拡 大	ソ)人口 減少・少 子化・高 齢化が進 行	タ)居住 地域が衰 退	チ)地域 間格差が 拡大	ツ)移動・ 交流を支 える公共 交通がな くなる	テ)効率 性、採算 性のよい 施設しか 維持され なくなる
全体		3000	58.0	61.0	58.6	66.3	45.6	51.2	47.6	48.7
性別	男性	1500	52.2	55.7	53.7	61.2	42.8	48.1	43.5	45.6
	女性	1500	63.9	66.3	63.5	71.5	48.3	54.3	51.7	51.8
年代	10～20代	600	56.5	60.5	58.0	62.5	49.5	53.5	49.8	48.8
	30代	600	58.7	64.8	60.7	62.8	46.8	52.3	47.3	46.8
	40代	600	58.2	59.7	57.7	64.8	43.2	49.7	47.7	47.7
	50代	600	57.5	60.3	57.3	69.5	45.0	50.7	46.8	49.2
	60～70代	600	59.3	59.5	59.3	72.0	43.3	49.7	46.3	51.0
性年代	男性18-29歳	300	51.3	54.3	51.0	58.3	48.0	51.3	47.0	47.3
	男性30代	300	52.7	59.7	55.3	57.0	42.7	46.3	41.3	41.0
	男性40代	300	49.7	53.0	51.3	60.3	40.0	46.0	43.7	45.7
	男性50代	300	52.0	54.3	53.3	62.7	41.0	47.7	43.0	45.3
	男性60-79歳	300	55.3	57.0	57.3	67.7	42.3	49.0	42.3	48.7
	女性18-29歳	300	61.7	66.7	65.0	66.7	51.0	55.7	52.7	50.3
	女性30代	300	64.7	70.0	66.0	68.7	51.0	58.3	53.3	52.7
	女性40代	300	66.7	66.3	64.0	69.3	46.3	53.3	51.7	49.7
	女性50代	300	63.0	66.3	61.3	76.3	49.0	53.7	50.7	53.0
	女性60-79歳	300	63.3	62.0	61.3	76.3	44.3	50.3	50.3	53.3
世帯構成	1人世帯	631	55.8	60.4	57.1	62.3	44.1	49.0	46.8	46.9
	1世代世帯(夫婦のみ)	672	60.7	63.2	61.6	69.6	47.0	52.2	48.5	50.4
	2世代世帯(親と子)	1438	57.9	60.2	57.6	66.3	45.5	51.4	47.4	47.7
	3世代世帯(親と子と孫)	202	62.9	67.3	64.4	73.3	51.0	56.4	52.0	57.4

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会・生活の動向に関する不安度(日本全体・社会)属性分析3 ●心豊かな暮らし・性・年代別

心豊かな暮らしに関して【日本全体、社会のこととして】不安を感じる計は、性別で見ると、**女性は総じて男性より高くなっている。**

年代別で見ると、**10～20代で「ナ」子育て、教育環境悪化」、60～70代で「ニ」生活環境悪化」**が他の層を上回っている。

性年代別で見ると、**女性 18歳～30代で総じて高い傾向が見られ、とくに「ナ」子育て、教育環境悪化」が高く、「ネ」地域文化衰退」「ノ」地域活動低下」も他の年代と比べて高い。**女性50代～70代と男性60～70代では、「ニ」生活環境悪化」にやや高い反応。

一方、**男性は30代で「ニ」生活環境悪化」「ヌ」地域内公共交通がなくなる」、40代で「ナ」子育て、教育環境悪化」が男性のなかでもとりわけ低くなっている。**

世帯構成別で見ると、1世代世帯(夫婦のみ)で「ニ」生活環境悪化」、3世代世帯(親と子と孫)で「ナ」子育て、教育環境悪化」「ハ」地域社会衰退」が他の層を上回っている。

Q1-2. 各々の項目について「日本全体で起きたり、社会に影響を与えるかもしれないといったこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。(それぞれひとつだけ)

不安を感じる計			n	●心豊かな暮らし							(%)
				ト)自然・ 景観が損 なわれる	ナ)子育て、 教育 などの環 境が悪く なる	ニ) (空き 家が増え るなど で)生活 環境が悪 化	ヌ)地域 内の日常 的な移 動・交流 を支える 公共交通 がなくな る	ネ)地域 文化が衰 退	ノ)地域 活動が低 下	ハ)地域 社会が衰 退	
全体			3000	53.1	51.2	53.5	49.3	46.9	42.9	42.9	11.3
性別	男性	1500	47.9	45.0	48.9	42.9	42.7	39.3	40.1	14.6	
	女性	1500	58.3	57.4	58.1	55.7	51.1	46.4	45.7	7.9	
年代	10～20代	600	54.5	57.8	49.7	51.3	49.2	46.0	46.0	13.7	
	30代	600	53.3	54.2	49.7	47.8	49.7	43.5	41.5	11.5	
	40代	600	51.0	47.7	51.7	49.7	45.7	40.8	40.3	13.3	
	50代	600	52.8	46.7	56.8	48.8	45.5	42.7	43.0	10.5	
	60～70代	600	54.0	49.7	59.7	49.0	44.5	41.3	43.7	7.3	
性年代	男性18-29歳	300	48.7	51.0	45.7	45.0	45.7	41.3	44.7	16.0	
	男性30代	300	44.0	44.7	43.3	39.3	45.0	37.7	36.3	15.0	
	男性40代	300	48.7	41.0	45.0	42.0	39.7	36.7	37.3	19.0	
	男性50代	300	47.3	44.3	51.3	43.0	41.3	41.7	40.3	13.7	
	男性60-79歳	300	51.0	44.0	59.3	45.3	41.7	39.3	42.0	9.3	
	女性18-29歳	300	60.3	64.7	53.7	57.7	52.7	50.7	47.3	11.3	
	女性30代	300	62.7	63.7	56.0	56.3	54.3	49.3	46.7	8.0	
	女性40代	300	53.3	54.3	58.3	57.3	51.7	45.0	43.3	7.7	
	女性50代	300	58.3	49.0	62.3	54.7	49.7	43.7	45.7	7.3	
	女性60-79歳	300	57.0	55.3	60.6	52.7	47.3	43.3	45.3	5.3	
世帯構成	1人世帯	631	52.9	47.9	48.7	49.6	47.2	42.0	41.7	15.1	
	1世代世帯(夫婦のみ)	672	55.7	50.6	58.9	50.1	44.9	42.1	42.3	7.3	
	2世代世帯(親と子)	1438	52.0	52.9	53.1	48.6	47.8	43.6	43.5	11.1	
	3世代世帯(親と子と孫)	202	56.4	57.9	58.4	53.0	49.0	47.5	48.0	8.4	

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会・生活の動向に関する不安度(日本全体・社会)属性分析4 ●安全・安心(地域別)

安全・安心に関して、【日本全体、社会のこととして】不安を感じる計は、地域ブロック別で見ると、北海道ブロックで「ウ)水害・台風」「オ)エネルギー供給不安」「カ)地球温暖化進行」、四国ブロックで「イ)大地震」が他の層を上回っている。

都市規模別で見ると、地方中枢都市では総じて平均並みだが、「コ)原発事故」のみ他の層を上回っている。地方圏の町村で「ウ)水害・台風」「エ)食料供給不安」「オ)エネルギー供給不安」「キ)食品の安全性」が他の地域類型を上回っている。

Q1-2. 各々の項目について「日本全体で起きたり、社会に影響を与えるかもしれないといったこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。(それぞれひとつだけ)

(%)

不安を感じる計		n	●安全・安心										
			ア)災害 が頻発・ 激甚化 (する)	イ)大地 震が起こ る	ウ)水害・ 台風の被 害に遭う	エ)食料 供給に不 安が生じ る	オ)エネ ルギー供 給に不安 が生じる	カ)地球 温暖化問 題が進行 (する)	キ)食品 の安全性 が損なわ れる	ク)テロ、 戦争が発 生(する)	ケ)治安 が悪化 し、犯罪 が増加	コ)原発 事故、放 射性物質 による汚 染	サ)交通 事故、飛 行機事故
全体		3000	70.7	77.0	69.7	56.1	57.4	61.0	58.8	70.5	63.6	63.0	48.8
地域ブ ロック 別	北海道ブロック	120	73.3	74.2	78.3	57.5	62.5	66.7	58.3	70.8	61.7	65.0	48.3
	東北ブロック	210	68.6	71.0	71.4	55.7	56.7	61.4	51.4	71.4	63.3	64.3	49.5
	関東ブロック	1070	70.2	78.0	67.5	56.5	57.2	61.8	58.7	71.3	63.4	61.8	45.5
	北陸ブロック	120	65.8	69.2	66.7	53.3	55.8	55.0	57.5	70.0	67.5	64.2	45.8
	中部ブロック	360	71.7	80.6	71.9	58.3	58.1	61.9	63.1	72.8	64.2	64.7	52.8
	近畿ブロック	510	71.2	77.8	68.2	54.5	56.9	58.2	59.6	69.4	63.1	60.4	50.6
	中国ブロック	180	72.2	72.2	67.2	55.6	57.8	63.9	61.1	68.9	63.3	66.7	51.1
	四国ブロック	100	72.0	86.0	74.0	51.0	57.0	63.0	51.0	68.0	62.0	58.0	51.0
	九州・沖縄ブロック	330	71.8	76.1	73.9	57.3	57.3	59.1	59.4	67.9	64.8	67.0	51.2
都市規 模別	三大都市圏の政令指定都市 及び東京23区	783	72.7	81.2	69.7	58.4	58.2	63.3	61.2	73.7	66.5	64.1	50.1
	三大都市圏の県庁所在地及 び人口30万人以上の都市	195	67.7	76.4	71.3	54.4	61.5	61.0	59.5	68.7	65.1	64.1	51.3
	三大都市圏の上記以外の地域	453	70.4	81.2	68.2	55.4	57.2	58.7	59.2	72.0	63.1	60.3	44.8
	地方中枢都市(札幌、仙台、広 福、北九)	272	70.6	76.1	72.4	54.0	55.1	61.4	57.0	68.8	61.8	68.8	50.7
	地方中核都市(人口30万人 以上の都市及び県庁所在地)	269	71.7	75.5	71.4	56.9	61.7	65.8	58.0	72.9	65.8	61.3	52.8
	地方圏のその他の市	731	71.8	74.7	70.9	56.5	56.8	60.7	58.4	70.3	63.3	63.9	48.6
	地方圏の町村	205	75.6	79.0	77.1	62.0	62.0	64.4	64.4	71.2	66.3	66.3	51.7

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会・生活の動向に関する不安度(日本全体・社会)属性分析5 ●活力・交流(地域別)

活力・交流に関して、【日本全体、社会のこととして】不安を感じる計は、地域ブロック別で見ると、北海道ブロックで「タ)居住地域衰退」、東北ブロックで「チ)地域間格差拡大」「テ)効率性、採算性のよい施設のみ維持」、中国ブロックで「ス)日本経済悪化」「セ)日本での経済格差拡大」「タ)居住地域衰退」「チ)地域間格差拡大」「テ)効率性、採算性のよい施設のみ維持」、四国ブロックで「ツ)公共交通がなくなる」「テ)効率性、採算性のよい施設のみ維持」が他の層を上回っている。

都市規模別で見ると、地方中核都市で「シ)世界経済悪化」「ス)日本経済悪化」「セ)日本での経済格差拡大」「テ)効率性、採算性のよい施設のみ維持」、地方圏の町村で「ツ)公共交通がなくなる」「テ)効率性、採算性のよい施設のみ維持」が他の地域類型を上回っている。

Q1-2. 各々の項目について「日本全体で起きたり、社会に影響を与えるかもしれないといったこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。(それぞれひとつだけ)

不安を感じる計		n	●活力・交流								(%)
			シ)世界 の経済状 況が悪化	ス)日本 の経済成 長、景気 が悪化	セ)日本 社会での 経済等の 格差が拡 大	ソ)人口 減少・少 子化・高 齢化が進 行	タ)居住 地域が衰 退	チ)地域 間格差が 拡大	ツ)移動・ 交流を支 える公共 交通がな くなる	テ)効率 性、採算 性のよい 施設しか 維持され なくなる	
全体		3000	58.0	61.0	58.6	66.3	45.6	51.2	47.6	48.7	
地域 ブ ロ ッ ク 別	北海道ブロック	120	57.5	65.8	60.8	65.0	53.3	55.8	50.0	46.7	
	東北ブロック	210	59.5	62.9	61.4	67.1	50.5	59.5	50.0	55.2	
	関東ブロック	1070	56.7	60.2	58.3	66.5	43.1	49.3	44.0	46.7	
	北陸ブロック	120	54.2	61.7	55.0	62.5	43.3	50.0	49.2	44.2	
	中部ブロック	360	61.1	62.2	56.1	64.2	46.7	50.8	49.4	50.3	
	近畿ブロック	510	58.8	58.8	56.3	68.4	44.3	47.3	46.7	47.1	
	中国ブロック	180	60.6	66.1	65.0	67.8	52.8	57.8	52.2	55.0	
	四国ブロック	100	51.0	61.0	59.0	68.0	40.0	50.0	54.0	55.0	
	九州・沖縄ブロック	330	59.1	59.4	60.9	64.8	47.0	53.6	51.2	48.8	
都市 規 模 別	三大都市圏の政令指定都市 及び東京23区	783	58.4	60.3	57.7	68.5	44.6	49.2	45.7	48.7	
	三大都市圏の県庁所在地及 び人口30万人以上の都市	195	54.9	61.5	60.5	64.1	45.6	51.3	49.7	44.6	
	三大都市圏の上記以外の地 域	453	58.5	62.3	56.7	66.7	42.6	47.7	43.7	43.9	
	地方中核都市(札幌、仙台、広 福、北九)	272	57.7	61.4	60.7	65.1	44.9	52.6	47.1	45.6	
	地方中核都市(人口30万人 以上の都市及び県庁所在地)	269	63.6	66.2	64.3	69.5	49.1	55.8	52.4	56.9	
	地方圏のその他の市	731	59.1	61.7	60.2	67.6	47.7	53.9	51.0	50.5	
	地方圏の町村	205	58.5	63.4	60.5	69.8	54.1	58.5	53.2	58.5	

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会・生活の動向に関する不安度(日本全体・社会)属性分析6 ●心豊かな暮らし(地域別)

心豊かな暮らしに関して、【日本全体、社会のこととして】不安を感じる計は、地域ブロック別で見ると、東北ブロックで「ノ」地域活動低下、中国ブロックで「ヌ」地域内公共交通がなくなる」「ハ」地域社会退」が他の層を上回っている。

都市規模別で見ると、地方中核都市で「ノ」地域活動低下、地方圏の町村で「ニ」生活環境悪化」「ヌ」地域内公共交通がなくなる」「ネ」地域文化衰退」「ノ」地域活動低下」「ハ」地域社会退」が他の層を上回っている。

Q1-2. 各々の項目について「日本全体で起きたり、社会に影響を与えるかもしれないといったこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。(それぞれひとつだけ)

不安を感じる計		n	●心豊かな暮らし							ひとつもない
			ト)自然・景観が損なわれる	ナ)子育て、教育などの環境が悪くなる	ニ) (空き家が増えるなどで)生活環境が悪化	ヌ)地域内の日常的な移動・交流を支える公共交通がなくなる	ネ)地域文化が衰退	ノ)地域活動が低下	ハ)地域社会が衰退	
全体		3000	53.1	51.2	53.5	49.3	46.9	42.9	42.9	11.3
地域ブロック別	北海道ブロック	120	48.3	54.2	52.5	51.7	42.5	45.0	40.8	11.7
	東北ブロック	210	51.4	53.3	53.3	51.0	51.4	49.0	45.7	11.4
	関東ブロック	1070	53.0	49.3	53.9	46.3	45.7	40.1	39.3	11.6
	北陸ブロック	120	46.7	45.0	49.2	47.5	39.2	35.8	40.8	13.3
	中部ブロック	360	56.1	51.9	52.2	53.3	50.6	44.7	44.7	9.4
	近畿ブロック	510	51.6	52.9	53.3	48.4	45.5	41.6	43.3	12.0
	中国ブロック	180	56.7	53.9	56.7	57.8	51.1	47.8	51.1	12.8
	四国ブロック	100	57.0	51.0	54.0	50.0	45.0	42.0	42.0	6.0
	九州・沖縄ブロック	330	54.8	52.4	53.9	50.3	48.8	47.3	47.3	10.9
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	783	53.9	52.5	54.5	48.5	49.6	42.8	42.8	9.6
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	195	55.9	49.7	53.3	50.3	51.8	46.2	45.1	11.8
	三大都市圏の上記以外の地域	453	50.1	48.3	53.2	44.2	43.0	38.0	38.2	11.0
	地方中枢都市(札幌、仙台、広島、福岡、北九州)	272	51.5	47.8	54.4	48.9	46.3	43.4	44.9	9.9
	地方中核都市(人口30万人以上の都市及び県庁所在地)	269	55.0	56.1	55.0	53.5	49.1	48.0	45.4	10.4
	地方圏のその他の市	731	56.0	53.4	53.1	52.3	45.8	43.8	44.2	10.1
	地方圏の町村	205	54.6	56.1	59.5	56.1	52.7	48.3	49.3	9.8

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

2. 社会・生活の動向に対する重要度

■社会・生活の動向に対する重要度(Q2)

安全・安心に関して、重要計は、「治安を維持し、犯罪を防ぐ」84.0%、「テロ、戦争が起きないようにする」82.7%、「原発事故等を起こさないようにする」82.5%、「大地震から護られる(こと)」81.9%、「食品の安全性を確保する」81.4%、「水害・台風から護られる(こと)」80.9%、「エネルギーが安定的に供給される(こと)」80.8%、「災害の頻発・激甚化から護られる(こと)」78.2%の順。

活力・交流に関して、重要計は、「雇用が維持され、収入が確保される」82.2%、「活力ある日本の経済が保持される」78.7%、「インフラ(社会資本)の保全により、経済や社会の効率・活力を高める」76.2%、「技術革新の進展、展開がなされる」73.7%、「活力ある地域の社会が保持される」73.5%、「強い国際競争力が保持される」68.8%の順。

心豊かな暮らしに関して、重要計は、「生活に必要な収入が確保される」88.0%、「自分や家族が健康である」87.0%、「医療・福祉体制が充実している」86.0%、「家族が心豊かに快適に暮らせる」84.9%、「自分や家族の仕事が充実している」84.3%、「年金が十分に支給される」84.2%、「子育てや教育の環境が充実している」79.8%の順。

Q2. 安全で活力ある快適な暮らしをする上で、あなたは次の各項目について重要だと思いますか。(それぞれひとつだけ)

(n=3000)		(%)				重要計
		非常に重要	重要	重要度は低い	わからない	
●安全・安心	ア) 災害の頻発・激甚化から護られる(こと)	21.5	56.6	10.9	11.0	78.2
	イ) 大地震から護られる(こと)	35.0	47.0	8.7	9.3	81.9
	ウ) 水害・台風から護られる(こと)	23.7	57.3	10.1	9.0	80.9
	エ) 食料供給不安に備える(こと)	23.5	53.5	14.1	8.9	77.0
	オ) エネルギーが安定的に供給される(こと)	25.1	55.7	10.7	8.4	80.8
	カ) 地球温暖化が進まないようにする	21.0	50.5	18.4	10.2	71.4
	キ) 食品の安全性を確保する	27.4	54.0	10.4	8.2	81.4
	ク) テロ、戦争が起きないようにする	39.2	43.5	8.6	8.7	82.7
	ケ) 治安を維持し、犯罪を防ぐ	34.0	50.1	7.5	8.5	84.0
	コ) 原発事故等を起こさないようにする	41.8	40.7	8.7	8.9	82.5
●活力・交流	サ) 交通事故、飛行機事故を防ぐ	22.5	54.0	14.2	9.3	76.4
	シ) 強い国際競争力が保持される	18.5	50.3	17.6	13.6	68.8
	ス) 活力ある日本の経済が保持される	23.3	55.4	10.8	10.5	78.7
	セ) 活力ある地域の社会が保持される	17.7	55.8	15.9	10.6	73.5
	ソ) 技術革新の進展、展開がなされる	20.7	53.0	15.1	11.3	73.7
	タ) 観光振興がなされ、多くの人が訪れる(こと)	11.7	44.0	32.4	11.9	55.7
	チ) 他地域、海外との活発な交流がなされる	11.9	46.6	29.7	11.8	58.5
	ツ) 地域間や都市間を円滑に人や物が移動できる	14.0	53.7	20.9	11.4	67.7
	テ) 情報交換が活発になされる	14.5	53.1	20.7	11.7	67.7
	ト) 情報基盤施設が整備される	13.3	47.8	26.3	12.6	61.1
●心豊かな暮らし	ナ) 雇用が維持され、収入が確保される	31.6	50.5	9.2	8.7	82.2
	ニ) インフラ(社会資本)の保全により、経済や社会の効率・活力を高める	20.1	56.1	13.4	10.5	76.2
	ヌ) 家族が心豊かに快適に暮らせる	41.4	43.4	6.9	8.2	84.9
	ネ) 自分や家族が健康である	49.8	37.2	5.3	7.7	87.0
	ノ) 自分や家族の仕事が充実している	38.7	45.6	7.3	8.4	84.3
	ハ) 年金が十分に支給される	42.9	41.3	7.3	8.5	84.2
	ヒ) 生活に必要な収入が確保される	48.5	39.5	4.4	7.6	88.0
	フ) 医療・福祉体制が充実している	39.3	46.6	5.8	8.3	86.0
	ヘ) 子育てや教育の環境が充実している	31.4	48.3	10.7	9.6	79.8
	ホ) 相互に助け合う地域社会が維持される	20.2	53.3	15.8	10.7	73.5
	マ) 快適で美しい街並みや居住環境が保持、形成される	17.6	54.4	18.2	9.8	72.0
	ミ) 循環型社会が構築される	21.8	54.0	13.8	10.4	75.8
	ム) 人と自然が共生する生活を送れる	21.9	51.9	15.7	10.5	73.8
	メ) 地域の人々が快適で便利な社会生活を送れる	19.6	56.7	13.9	9.9	76.2

80%～ 70%～79.9% 60%～69.9% 50%～59.9%

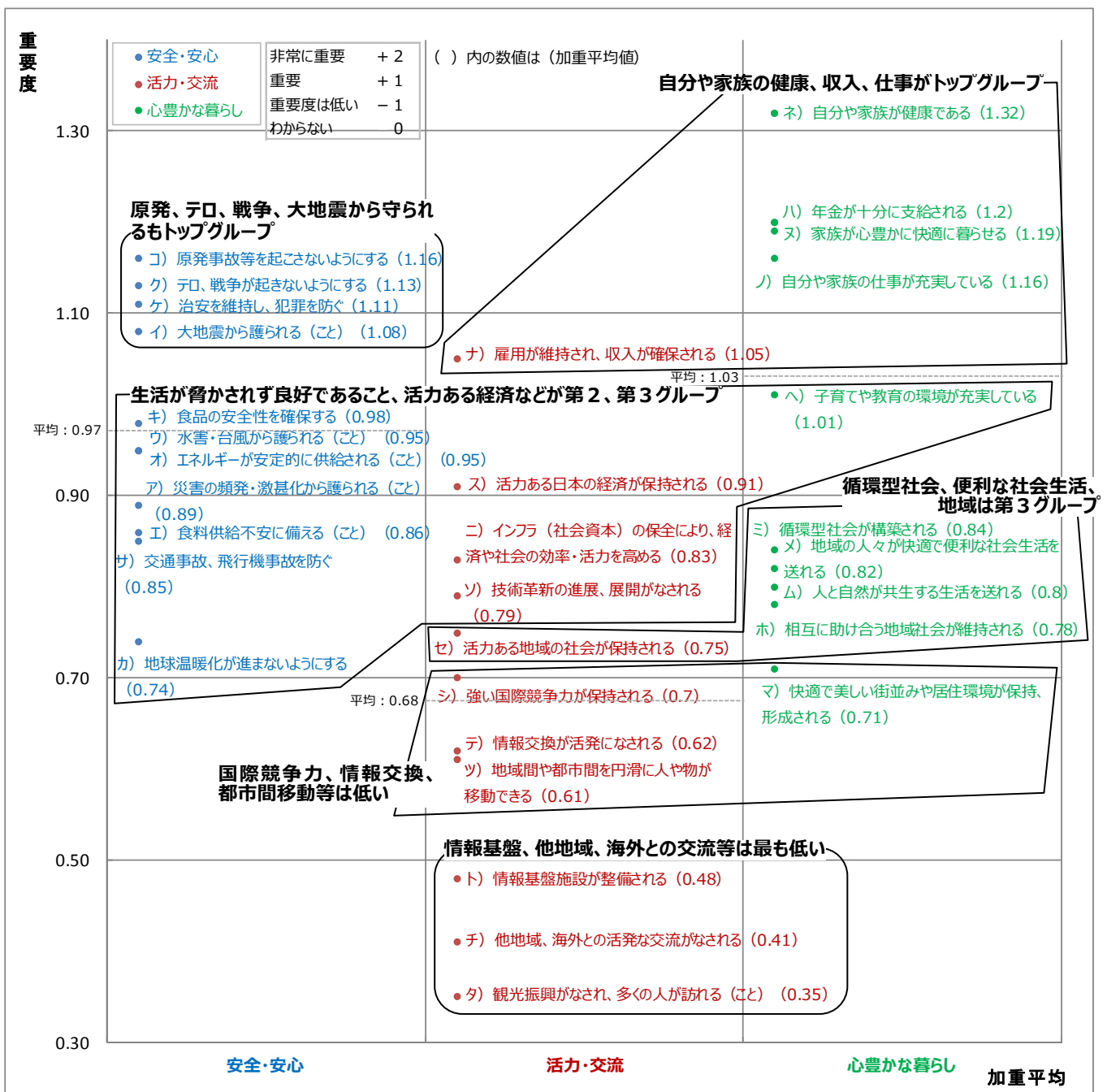
非常に重要 ◎40%～ ○30%～39.9%

■社会・生活の動向に対する重要度(Q2)加重平均グラフ

現在の生活レベルを維持し、健康で安定した暮らしが送れることが重要であるとの認識が高く、身近な問題に対する重要性が高いとされている。その次に「原発、テロ、戦争、大地震から守られること」が重要であるとされている。

→これから考察すると、現在の生活レベルを維持し、健康で安定した暮らしが送れる前提として、社会的な安全・安心を希求しているように考えられる。

- ・具体的には、「心豊かな暮らし」に分類される「自分や家族が健康である」がかなり差をつけてのトップ。
- ・また、「安全・安心」に分類される「原発事故等を起こさないようにする」など事故、災害から安全もトップグループ。
- ・それに次ぐ第2グループは、生活を脅かされないこと、経済を維持・向上させることなどが重要だとされる。
- ・第3グループとして、食料供給、地球環境、自然と共生する社会などが重要とされる。同じレベルで、経済・社会の効率、活力を高めるインフラ、便利で助け合う地域社会が重要とされる。
- ・国際競争力、地域間移動等に対する要望は低め。
- ・情報、交流は最も低め。
- ・個人生活や社会生活の安定が基本で、それをベースに国際競争力、交流、情報基盤の充実が求められていると考えられるが、広域に影響する交流の重要性やそれが個人生活や社会生活との関連について、十分な理解を得られていない傾向もある。これについては、年代別の重要度の違いなどについても追加に分析を行い、年代別等に関する詳細な分析を行って、考察を行う必要性が高い。



・各項目別に非常に重要2、重要1、重要度は低い-1、わからない0を与え、回答者割合をかけ加重平均したものをプロット。

2-1. 社会・生活の動向に対する重要度属性分析

■社会・生活の動向に対する重要度属性分析1 ●安全・安心<性・年代別>

安全・安心に関する「非常に重要」の回答は、

性別で見ると、**女性**は総じて**男性より高くなっている**。特に「カ）地球温暖化阻止」「キ）食品安全性確保」「ク）テロ、戦争阻止」は高い。

年代別で見ると、10～20代で「サ）交通事故、飛行機事故防止」、30代で「ア）災害から護られる」が他の層を上回っている。60～70代では「コ）原発事故防止」が大きく上回っている。

一方、60～70代では「ウ）水害・台風から護られる」「エ）食料供給不安に備える」「オ）エネルギー安定供給」「キ）食品安全性確保」「サ）交通事故、飛行機事故防止」は他の層を下回っている。

性年代別で見ると、**女性30代が全般に他を上回る傾向にあり、「ア）災害から護られる」「ウ）水害・台風から護られる」「エ）食料供給不安に備える」「キ）食品安全性確保」は特に上回っている。女性18歳～40代にかけて高いのが「サ）交通事故、飛行機事故防止」、女性60～70代では「コ）原発事故防止」が目立って高い。**

一方、男性18歳～40代では「コ）原発事故防止」、男性60～70代では全般に低く、「ウ）水害・台風から護られる」「エ）食料供給不安に備える」「キ）食品安全性確保」「サ）交通事故、飛行機事故防止」は他の層をかなり下回っている。男性40代も総じて低い傾向。

世帯構成別で見ると、3世代世帯（親と子と孫）で「イ）大地震から護られる」「ウ）水害・台風から護られる」が他の層を上回っている。

Q2. 安全で活力ある快適な暮らしをする上で、あなたは次の各項目について重要だと思いますか。（それぞれひとつだけ）

			●安全・安心											(%)
非常に重要			n	ア）災害の頻発・激甚化から護られる（こと）	イ）大地震から護られる（こと）	ウ）水害・台風から護られる（こと）	エ）食料供給不安に備える（こと）	オ）エネルギーが安定的に供給される（こと）	カ）地球温暖化が進まないようにする	キ）食品の安全性を確保する	ク）テロ、戦争が起きないようにする	ケ）治安を維持し、犯罪を防ぐ	コ）原発事故等を起こさないようにする	サ）交通事故、飛行機事故を防ぐ
全体			3000	21.5	35.0	23.7	23.5	25.1	21.0	27.4	39.2	34.0	41.8	22.5
性別	男性	1500	18.5	31.9	19.1	19.0	21.7	15.3	21.2	33.9	29.6	37.3	18.2	
	女性	1500	24.6	38.0	28.3	27.9	28.6	26.6	33.5	44.5	38.3	46.3	26.7	
年代	10～20代	600	22.0	37.2	26.0	26.3	27.0	21.0	28.2	40.3	34.0	35.0	27.8	
	30代	600	28.0	36.0	28.0	28.2	29.2	21.7	30.5	40.8	36.8	38.8	26.0	
	40代	600	19.8	34.0	23.7	26.3	26.0	19.3	29.8	37.8	35.7	41.8	22.3	
	50代	600	19.7	32.7	22.5	20.3	23.7	21.3	26.0	40.2	34.2	41.0	20.5	
	60～70代	600	18.2	35.0	18.2	16.2	19.8	21.5	22.3	37.0	29.2	52.3	15.7	
性年代	男性18～29歳	300	19.0	31.3	22.7	21.3	25.3	16.7	23.7	34.7	29.7	30.3	24.3	
	男性30代	300	25.0	31.0	22.3	21.7	24.7	15.3	22.3	36.3	30.3	34.0	19.7	
	男性40代	300	18.0	29.7	17.7	22.7	21.3	13.3	24.3	30.3	29.7	36.0	14.7	
	男性50代	300	17.7	33.0	19.3	16.7	21.3	17.3	20.3	37.0	33.0	38.0	20.0	
	男性60～79歳	300	12.7	34.7	13.3	12.7	15.7	14.0	15.3	31.3	25.3	48.0	12.3	
	女性18～29歳	300	25.0	43.0	29.3	31.3	28.7	25.3	32.7	46.0	38.3	39.7	31.3	
	女性30代	300	31.0	41.0	33.7	34.7	33.7	28.0	38.7	45.3	43.3	43.7	32.3	
	女性40代	300	21.7	38.3	29.7	30.0	30.7	25.3	35.3	45.3	41.7	47.7	30.0	
	女性50代	300	21.7	32.3	25.7	24.0	26.0	25.3	31.7	43.3	35.3	44.0	21.0	
	女性60～79歳	300	23.7	35.3	23.0	19.7	24.0	29.0	29.3	42.7	33.0	56.7	19.0	
世帯構成	1人世帯	631	22.2	33.1	24.1	25.7	27.1	20.1	28.4	37.9	33.6	37.9	23.8	
	1世代世帯（夫婦のみ）	672	19.5	36.2	21.0	21.4	22.5	20.8	25.9	40.3	32.9	45.4	18.9	
	2世代世帯（親と子）	1438	22.5	35.1	24.1	23.4	25.5	21.1	27.9	39.9	35.0	41.8	23.2	
	3世代世帯（親と子と孫）	202	20.8	40.1	29.2	24.8	25.7	22.8	26.2	36.1	31.2	43.6	24.8	

n100 以上について ■ 全体より10ポイント以上高い ■ 全体より5ポイント以上高い ■ 全体より5ポイント以上低い ■ 全体より10ポイント以上低い

■社会・生活の動向に対する重要度属性分析2 ●活力・交流〈性・年代別〉

活力・交流に関する「非常に重要」の回答は、

性別で見ると、**男性、女性で大きな差は見られない。**

年代別で見ると、10～20代で「タ）観光振興」「チ）他地域、海外との活発な交流」「ツ）地域間や都市間円滑移動」「テ）情報交換活発化」「ト）情報基盤施設整備」「ニ）インフラにより、経済社会の効率・活力を高める」が他の層を上回っている。

一方、60～70代では全般に他の層を下回る傾向にある。

性年代別で見ると、**男性 18 歳～20 代では全般に他の層を上回っている。女性 18 歳～20 代で「ツ）地域間や都市間円滑移動」、女性 18 歳～30 代で「ナ）雇用維持、収入確保」「ニ）インフラにより、経済社会の効率・活力を高める」が他の層を上回っている。**

一方、**男性 60～70 代では全般に低く、男性 50 代では「タ）観光振興」「チ）他地域、海外との活発な交流」「ツ）地域間や都市間円滑移動」が他の層を下回っている。**

世帯構成別で見ると、1人世帯で「テ）情報交換活発化」が他の層を上回っている。

Q2. 安全で活力ある快適な暮らしをする上で、あなたは次の各項目について重要だと思いますか。（それぞれひとつだけ）

非常に重要		n	●活力・交流										(%)
			シ）強い国際競争力が保持される	ス）活力ある日本の経済が保持される	セ）活力ある地域の社会が保持される	ソ）技術革新の進展、展開がなされる	タ）観光振興がなされ、多くの人が訪れる（こと）	チ）他地域、海外との活発な交流がなされる	ツ）地域間や都市間を円滑に人や物が移動できる	テ）情報交換が活発になされる	ト）情報基盤施設が整備される	ナ）雇用が維持され、収入が確保される	ニ）インフラ（社会資本）の保全により、経済や社会の効率・活力を高める
全体		3000	18.5	23.3	17.7	20.7	11.7	11.9	14.0	14.5	13.3	31.6	20.1
性別	男性	1500	19.9	22.6	16.5	21.7	11.1	11.1	12.3	13.5	13.2	27.9	18.1
	女性	1500	17.1	24.0	18.8	19.6	12.3	12.7	15.7	15.5	13.5	35.4	22.1
年代	10～20代	600	21.2	27.5	22.2	23.3	18.8	18.7	20.5	20.5	19.3	34.8	26.8
	30代	600	21.2	26.5	21.7	22.8	14.5	13.2	16.8	18.2	16.0	35.2	21.8
	40代	600	17.5	23.2	18.3	21.3	12.2	13.0	14.5	13.8	13.5	34.5	21.2
	50代	600	18.0	21.8	14.5	17.5	7.0	7.0	10.3	11.7	10.2	30.5	16.8
	60～70代	600	14.5	17.5	11.7	18.3	6.2	7.7	7.8	8.5	7.7	23.2	13.8
			24.3	28.7	21.7	26.3	21.0	21.0	21.3	22.7	22.0	30.7	27.7
性年代	男性18-29歳	300	24.3	28.7	21.7	26.3	21.0	21.0	21.3	22.7	22.0	30.7	27.7
	男性30代	300	24.0	27.0	22.0	23.3	13.7	11.0	13.7	16.0	14.0	30.7	17.7
	男性40代	300	18.3	20.0	15.7	20.7	10.7	11.7	12.0	12.7	13.0	28.0	16.3
	男性50代	300	18.7	22.0	14.0	18.7	5.7	6.0	8.3	10.0	10.3	28.0	18.0
	男性60-79歳	300	14.0	15.3	9.3	19.7	4.7	6.0	6.3	6.3	6.7	22.0	11.0
	女性18-29歳	300	18.0	26.3	22.7	20.3	16.7	16.3	19.7	18.3	16.7	39.0	26.0
	女性30代	300	18.3	26.0	21.3	22.3	15.3	15.3	20.0	20.3	18.0	39.7	26.0
	女性40代	300	16.7	26.3	21.0	22.0	13.7	14.3	17.0	15.0	14.0	41.0	28.0
	女性50代	300	17.3	21.7	15.0	16.3	8.3	8.0	12.3	13.3	10.0	33.0	15.7
	女性60-79歳	300	15.0	19.7	14.0	17.0	7.7	9.3	9.3	10.7	8.7	24.3	16.7
世帯構成	1人世帯	631	21.2	26.3	20.1	23.0	14.7	14.6	18.9	19.5	16.8	34.5	23.3
	1世代世帯（夫婦のみ）	672	18.2	21.7	16.5	20.1	9.2	10.0	11.8	11.3	10.6	28.0	17.7
	2世代世帯（親と子）	1438	17.5	23.6	17.4	20.0	11.8	11.8	12.8	14.2	13.2	33.0	20.1
	3世代世帯（親と子と孫）	202	18.3	18.8	16.8	20.8	11.4	12.4	14.9	12.4	12.4	27.7	18.8

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会・生活の動向に対する重要度属性分析3 ●心豊かな暮らし<性・年代別>

心豊かな暮らしに関する「非常に重要」の回答は、

性別で見ると、**女性は総じて男性より高くなっている。**

年代別で見ると、**10～20代で「へ）子育て・教育環境充実」が他の層を上回っている。**

一方、60～70代で「ヌ）家族が心豊かに快適に」「ネ）自分や家族が健康に」「ノ）自分や家族の仕事が充実」「ヒ）生活に必要な収入確保」「へ）子育て・教育環境充実」「ホ）相互に助け合う地域社会維持」「マ）快適で美しい居住環境」が他の層を下回っている。

性年代別で見ると、**女性 18歳～50代は総じて他の層を上回っている。一方、男性 60～70代は総じて他の層を下回っている。18歳～50代も女性の同年代に比べると全般に下回っている。男性の年代が高くなるにつれ低くなるのが「へ）子育て・教育環境充実」「ホ）相互に助け合う地域社会維持」「マ）快適で美しい居住環境」「ミ）循環型社会」「ム）人と自然が共生する生活」。**

世帯構成別で見ると、3世代世帯（親と子と孫）で「ハ）年金が十分に支給される」「ヒ）生活に必要な収入確保」「フ）医療・福祉体制が充実している」「ヘ）子育てや教育の環境が充実している」「ホ）相互に助け合う地域社会が維持される」「マ）快適で美しい居住環境が保持、形成される」「ミ）循環型社会が構築される」「ム）人と自然が共生する生活を送れる」「メ）地域の人々が快適で便利な社会生活を送れる」が他の層を上回っている。

Q2. 安全で活力ある快適な暮らしをする上で、あなたは次の各項目について重要だと思いますか。（それぞれひとつだけ）

		n	●心豊かな暮らし												ひとつもない
非常に重要			ヌ) 家族が心豊かに快適に暮らせる	ネ) 自分や家族が健康である	ノ) 自分や家族の仕事が充実している	ハ) 年金が十分に支給される	ヒ) 生活に必要な収入が確保される	フ) 医療・福祉体制が充実している	ヘ) 子育てや教育の環境が充実している	ホ) 相互に助け合う地域社会が維持される	マ) 快適で美しい街並みや居住環境が保持、形成される	ミ) 循環型社会が構築される	ム) 人と自然が共生する生活を送れる	メ) 地域の人々が快適で便利な社会生活を送れる	
全体		3000	41.4	49.8	38.7	42.9	48.5	39.3	31.4	20.2	17.6	21.8	21.9	19.6	26.4
性別	男性	1500	33.3	41.3	31.7	35.3	41.4	31.5	26.0	16.6	14.9	17.4	17.5	15.7	30.2
	女性	1500	49.6	58.3	45.7	50.5	55.6	47.1	36.9	23.8	20.3	26.1	26.3	23.5	22.5
年代	10～20代	600	42.5	49.5	42.3	39.5	48.3	39.3	39.7	24.0	21.2	26.7	25.0	24.5	28.2
	30代	600	45.8	50.5	43.2	43.0	49.8	42.0	37.0	23.0	20.5	22.7	23.3	20.5	26.3
	40代	600	44.2	52.2	41.0	42.8	52.2	39.7	30.8	21.7	18.8	21.5	21.2	19.5	29.2
	50代	600	41.2	50.5	39.0	45.5	49.5	37.7	25.0	17.8	15.2	18.2	19.7	18.3	25.5
	60～70代	600	33.5	46.2	28.0	43.8	42.7	38.0	24.7	14.5	12.5	19.8	20.3	15.0	22.7
性年代	男性18-29歳	300	34.7	42.7	35.3	30.7	41.3	31.7	32.7	22.3	19.3	24.0	21.3	22.3	31.0
	男性30代	300	33.3	39.3	35.7	32.3	40.7	34.3	29.3	18.7	17.0	18.3	18.0	14.7	32.0
	男性40代	300	36.7	43.0	33.0	34.3	44.3	30.0	25.0	17.3	14.7	16.3	17.3	14.3	34.0
	男性50代	300	33.3	42.3	32.7	39.3	43.3	30.3	23.3	14.7	14.0	14.7	16.0	15.3	31.3
	男性60-79歳	300	28.3	39.0	21.7	40.0	37.3	31.3	19.7	10.0	9.3	13.7	14.7	11.7	22.7
	女性18-29歳	300	50.7	56.3	49.3	48.3	55.3	47.0	46.7	25.7	23.0	29.3	28.7	26.7	25.3
	女性30代	300	58.3	61.7	50.7	53.7	59.0	49.7	44.7	27.3	24.0	27.0	28.7	26.3	20.7
	女性40代	300	51.7	61.3	49.0	51.3	60.0	49.3	36.7	26.0	23.0	26.7	25.0	24.7	24.3
	女性50代	300	49.0	58.7	45.3	51.7	55.7	45.0	26.7	21.0	16.3	21.7	23.3	21.3	19.7
	女性60-79歳	300	38.7	53.3	34.3	47.7	48.0	44.7	29.7	19.0	15.3	26.0	26.0	18.3	22.7
世帯構成	1人世帯	631	37.2	46.0	39.1	41.5	48.3	37.6	28.5	21.6	19.8	23.6	24.4	23.5	27.9
	1世代世帯(夫婦のみ)	672	41.7	50.4	37.2	45.8	48.4	38.7	27.4	18.6	15.8	20.8	20.2	18.6	24.4
	2世代世帯(親と子)	1438	43.7	51.5	39.2	41.9	48.5	39.8	34.3	20.1	17.8	21.3	21.7	18.4	26.2
	3世代世帯(親と子と孫)	202	41.1	51.0	42.6	49.0	55.0	45.0	37.9	23.3	16.3	23.3	22.3	20.8	23.3

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会・生活の動向に対する重要度属性分析4 ●安全・安心〈地域別〉

安全・安心に関する「非常に重要」の回答は、

地域ブロック別で見ると、四国ブロックでは「イ）大地震から護られる」が突出して高く、中部ブロックもそれに近いほど高い。北海道ブロックでは「ウ）水害・台風から護られる」「エ）食料供給不安に備える」「オ）エネルギー安定供給」が他の層を上回っている。

一方、北陸ブロックでは「イ）大地震から護られる」は低く、東北ブロック、北海道ブロックでも低めの傾向。

都市規模別で見ると、地方中枢都市で「ウ）水害・台風から護られる」「コ）原発事故防止」が他の層を上回っている。

Q2. 安全で活力ある快適な暮らしをする上で、あなたは次の各項目について重要だと思いますか。（それぞれひとつだけ）

（％）

非常に重要		n	●安全・安心										
			ア) 災害の頻発・激甚化から護られる(こと)	イ) 大地震から護られる(こと)	ウ) 水害・台風から護られる(こと)	エ) 食料供給不安に備える(こと)	オ) エネルギーが安定的に供給される(こと)	カ) 地球温暖化が進まないようにする	キ) 食品の安全性を確保する	ク) テロ、戦争が起きないようにする	ケ) 治安を維持し、犯罪を防ぐ	コ) 原発事故等を起こさないようにする	サ) 交通事故、飛行機事故を防ぐ
全体		3000	21.5	35.0	23.7	23.5	25.1	21.0	27.4	39.2	34.0	41.8	22.5
地域ブロック別	北海道ブロック	120	21.7	30.0	30.0	29.2	33.3	22.5	28.3	38.3	35.0	44.2	21.7
	東北ブロック	210	24.3	26.2	25.7	24.8	23.3	21.4	26.7	37.6	32.4	46.7	26.7
	関東ブロック	1070	21.0	35.4	21.6	21.5	24.3	21.0	27.5	40.6	36.3	41.6	21.5
	北陸ブロック	120	20.8	25.0	27.5	19.2	21.7	17.5	21.7	33.3	25.8	43.3	19.2
	中部ブロック	360	19.7	43.9	23.1	23.1	25.6	18.1	26.9	39.2	32.2	43.6	22.5
	近畿ブロック	510	20.0	34.3	23.5	26.9	27.5	22.2	29.8	40.2	33.5	38.8	24.1
	中国ブロック	180	26.1	33.9	22.8	26.1	27.2	23.3	30.0	41.7	38.3	41.7	22.2
	四国ブロック	100	22.0	47.0	21.0	18.0	22.0	18.0	19.0	25.0	27.0	30.0	21.0
	九州・沖縄ブロック	330	23.3	32.7	27.6	23.9	23.0	22.1	27.0	40.0	32.4	44.2	22.4
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	783	21.7	39.3	22.9	25.3	27.7	22.3	29.6	43.3	37.5	43.8	25.2
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	195	18.5	38.5	23.6	19.0	23.1	20.5	26.2	41.0	31.8	36.9	19.0
	三大都市圏の上記以外の地域	453	24.3	38.4	23.8	23.4	24.7	23.0	28.7	42.2	35.3	41.3	22.1
	地方中枢都市(札幌、仙台、広島、福岡、北九)	272	25.7	35.3	30.5	25.0	26.5	22.4	26.5	41.5	35.3	47.1	21.7
	地方中核都市(人口30万人以上の都市及び県庁所在地)	269	22.7	37.2	24.9	24.2	27.1	17.5	27.1	37.2	34.9	43.5	22.7
	地方圏のその他の市	731	20.7	29.8	21.8	22.8	23.9	21.1	26.3	35.4	31.1	41.5	21.6
	地方圏の町村	205	18.5	31.2	26.8	23.4	23.4	17.6	26.3	39.0	34.1	43.9	25.4

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会・生活の動向に対する重要度属性分析5 ●活力・交流〈地域別〉

活力・交流に関する「非常に重要」の回答は、

地域ブロック別で見ると、北海道ブロックで「ス）活力ある日本経済保持」「ナ）雇用維持、収入確保」が他の地域を上回っている。北陸ブロックでは総じて低い傾向。

都市規模別で見ると、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区で「ス）活力ある日本経済保持」が他の地域類型を上回っている。

Q2. 安全で活力ある快適な暮らしをする上で、あなたは次の各項目について重要だと思いますか。（それぞれひとつだけ）

(%)

非常に重要		n	●活力・交流										
			シ)強い国際競争力が保持される	ス)活力ある日本の経済が保持される	セ)活力ある地域の社会が保持される	ソ)技術革新の進展、展開がなされる	タ)観光振興がなされ、多くの人が訪れる(こと)	チ)他地域、海外との活発な交流がなされる	ツ)地域間や都市間を円滑に人や物が移動できる	テ)情報交換が活発になされる	ト)情報基盤施設が整備される	ナ)雇用が維持され、収入が確保される	ニ)インフラ(社会資本)の保全により、経済や社会の効率・活力を高める
全体		3000	18.5	23.3	17.7	20.7	11.7	11.9	14.0	14.5	13.3	31.6	20.1
地域ブロック別	北海道ブロック	120	22.5	28.3	20.0	19.2	9.2	13.3	17.5	16.7	15.0	39.2	21.7
	東北ブロック	210	21.4	25.2	21.9	23.3	15.2	14.3	16.2	17.1	16.2	34.8	23.8
	関東ブロック	1070	18.8	23.2	16.9	20.4	11.3	11.3	13.3	14.6	13.5	30.6	18.8
	北陸ブロック	120	9.2	17.5	14.2	15.8	6.7	5.0	7.5	7.5	5.0	25.8	14.2
	中部ブロック	360	16.7	23.6	16.9	18.9	11.1	12.5	13.3	11.9	11.9	27.8	18.9
	近畿ブロック	510	18.6	25.3	16.5	22.9	11.2	11.6	14.7	17.3	13.9	33.3	22.0
	中国ブロック	180	20.0	21.7	21.7	21.7	14.4	12.8	13.9	13.3	14.4	33.3	25.0
	四国ブロック	100	15.0	20.0	15.0	17.0	9.0	9.0	10.0	11.0	10.0	30.0	18.0
	九州・沖縄ブロック	330	19.4	21.2	19.1	21.2	14.5	14.5	17.0	14.8	14.5	33.6	20.0
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	783	21.6	28.1	20.7	22.7	13.8	13.5	15.8	17.6	15.5	34.0	22.0
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	195	14.4	21.0	16.4	20.5	7.7	11.3	12.8	11.8	11.3	30.3	21.0
	三大都市圏の上記以外の地域	453	19.4	24.5	15.9	22.3	10.2	9.9	11.7	12.4	10.8	30.2	19.6
	地方中枢都市(札幌、仙台、広島、福岡、北九)	272	21.3	25.4	22.1	21.0	13.6	14.3	17.3	15.8	15.1	33.8	23.5
	地方中核都市(人口30万人以上の都市及び県庁所在地)	269	17.8	23.4	17.8	19.3	10.4	9.7	12.6	12.6	11.2	33.1	19.3
	地方圏のその他の市	731	16.4	18.3	15.0	19.2	11.6	11.5	12.9	14.5	13.4	30.6	19.3
	地方圏の町村	205	17.1	25.4	18.5	21.5	11.7	13.2	16.1	14.1	15.6	31.7	18.0

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会・生活の動向に対する重要度属性分析6 ●心豊かな暮らし(地域別)

心豊かな暮らしに関する「非常に重要」の回答は、

地域ブロック別で見ると、北海道ブロックで「ネ) 自分や家族が健康に」「ノ) 自分や家族の仕事が充実」「ハ) 年金が十分に支給」「ヒ) 生活に必要な収入確保」「フ) 医療・福祉体制充実」「ヘ) 子育て・教育環境充実」、東北ブロックで「ヌ) 家族が心豊かに快適に」「ノ) 自分や家族の仕事が充実」「ハ) 年金が十分に支給」「ミ) 循環型社会構築」、そしてとりわけ「ム) 人と自然が共生する生活」が他の層を上回っている。北陸ブロックでは「マ) 快適で美しい居住環境」「ム) 人と自然が共生する生活」が特に低く、「ミ) 循環型社会」「メ) 地域の人々が快適で便利な社会生活を送れる」も低い。

都市規模別で見ると、地方中枢都市で「ヘ) 子育て・教育環境充実」が他の層を上回っている。

Q2. 安全で活力ある快適な暮らしをする上で、あなたは次の各項目について重要だと思いますか。(それぞれひとつだけ)

非常に重要		n	●心豊かな暮らし											(%)	
			又) 家族が心豊かに快適に暮らせる	ネ) 自分や家族が健康である	ノ) 自分や家族の仕事が充実している	ハ) 年金が十分に支給される	ヒ) 生活に必要な収入が確保される	フ) 医療・福祉体制が充実している	ヘ) 子育てや教育の環境が充実している	ホ) 相互に助け合う地域社会が維持される	マ) 快適で美しい街並みや居住環境が保持、形成される	ミ) 循環型社会が構築される	ム) 人と自然が共生する生活を送れる	メ) 地域の人々が快適で便利な社会生活を送れる	ひとつもない
全体		3000	41.4	49.8	38.7	42.9	48.5	39.3	31.4	20.2	17.6	21.8	21.9	19.6	26.4
地域ブロック別	北海道ブロック	120	42.5	56.7	45.8	48.3	53.3	49.2	39.2	23.3	15.8	22.5	20.8	20.0	17.5
	東北ブロック	210	47.1	53.3	45.2	50.5	51.9	41.4	35.2	23.8	21.9	28.1	31.4	22.9	22.9
	関東ブロック	1070	40.9	49.8	37.3	42.7	47.2	38.2	29.5	18.5	17.6	22.2	21.5	19.2	28.3
	北陸ブロック	120	35.8	45.8	32.5	41.7	50.8	40.8	27.5	15.8	5.0	12.5	11.7	14.2	27.5
	中部ブロック	360	41.7	51.1	38.3	43.1	48.1	37.2	31.1	20.0	17.2	21.4	21.1	17.5	23.9
	近畿ブロック	510	40.4	46.1	37.8	40.0	47.3	37.8	32.0	20.0	16.9	19.4	21.2	18.6	27.5
	中国ブロック	180	41.7	49.4	36.7	41.1	46.7	38.9	31.1	23.9	20.6	25.6	24.4	22.8	27.2
	四国ブロック	100	34.0	46.0	38.0	44.0	47.0	37.0	28.0	17.0	14.0	17.0	16.0	18.0	26.0
	九州・沖縄ブロック	330	44.5	51.8	41.8	42.4	51.8	43.0	34.5	23.3	21.2	22.7	23.6	23.0	25.8
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	783	44.2	53.1	42.8	44.8	49.7	41.6	32.8	22.9	21.2	25.5	24.3	22.0	23.6
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	195	41.5	44.6	31.3	41.0	43.1	35.9	29.7	18.5	17.4	20.0	20.5	17.4	26.7
	三大都市圏の上記以外の地域	453	41.5	52.5	40.0	43.0	50.6	40.4	32.2	21.2	16.3	19.9	21.2	18.3	26.0
	地方中枢都市(札幌、仙台、広島、福岡、北九)	272	44.9	54.0	43.0	44.5	50.0	41.9	36.8	23.2	18.8	23.5	25.0	21.0	22.1
	地方中核都市(人口30万人以上の都市及び県庁所在地)	269	40.9	48.3	37.2	43.1	50.2	38.3	29.7	18.2	16.4	23.0	20.4	17.8	26.4
	地方圏のその他の市	731	38.7	47.1	35.7	42.5	48.7	38.0	30.1	17.8	14.9	18.6	20.1	18.2	26.7
	地方圏の町村	205	45.9	53.2	42.4	45.4	50.7	42.0	33.2	21.5	20.0	24.4	24.9	23.4	23.9

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

2-2.社会・生活に関する考え方(価値観)

■生活価値観

社会・生活に関する考え方(価値観)に関して、そう思う計は、「自然や景観を守ることは大切だ」74.0%、「地球環境に優しい生活をしたい」67.2%、「ほどよい利便性を持った都市の郊外で、快適な居住空間で暮らしたい」61.2%、「仕事よりも友人、家族等を大切にする暮らしに」59.8%、「科学的、物理的に安全と言われても、安心できないこともたくさんある」56.8%、「安全・安心は全ての基盤なので、他のことより重視すべきだ」54.9%、「ITなど新たな技術で生活や社会が便利になるのは良いことだ」53.2%、「安心・安定した生活、社会のため税金などの公的負担をするのは当然だ」52.8%、「自分にしかできない仕事をしたい」50.7%の順。

Q3. あなたご自身は、社会・生活において、どのような考えや価値観をお持ちですか。(それぞれひとつだけ)

(n=3000)		(%)							
		非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う計	そう思わない計	
(1) 環境意識・自然意識	ア) 地球環境に優しい生活をしたい	12.9	54.3	27.0	4.0	1.8	67.2	5.8	
	イ) 自然や景観を守ることは大切だ	17.6	56.4	22.1	2.3	1.6	74.0	3.9	
(2) 仕事と暮らし	ウ) 今の生活を変えるようなことにもチャレンジしたい	9.8	39.2	41.2	7.7	2.2	49.0	9.8	
	エ) 自分にしかできない仕事をしたい	12.7	38.0	39.4	7.6	2.4	50.7	9.9	
	オ) 厳しい仕事でも高収入であれば良い	7.1	22.7	43.3	20.4	6.5	29.8	26.9	
	カ) 仕事に打ち込み、会社で出世することは良い	6.4	28.8	47.0	12.6	5.3	35.2	17.8	
	キ) 仕事よりも友人、家族等を大切にする暮らしに	14.8	44.9	36.0	2.7	1.5	59.8	4.2	
(3) 居住地意向	ク) ほどよい利便性を持った都市の郊外で、快適な居住空間で暮らしたい	13.0	48.2	32.1	4.7	2.0	61.2	6.7	
	ケ) 利便性の高い都市部、都市中心部で暮らしたい	8.3	26.8	41.8	17.7	5.5	35.0	23.2	
	コ) 地方部や田舎で、自然・景観に恵まれた暮らしをしたい	7.6	30.0	42.0	14.6	5.8	37.6	20.4	
(4) 社会参加・参画意向	サ) 地域の活動には積極的に参加したい	4.3	21.8	47.3	18.3	8.3	26.1	26.6	
	シ) 政治、社会の動向に関心が高い方だ	7.5	30.6	41.2	15.0	5.6	38.1	20.7	
	ス) 社会に貢献する活動に取り組みたい	5.0	22.0	46.0	18.8	8.2	27.0	27.0	
	セ) 隣人との付き合いは大事にしていなくていい	7.3	39.1	42.2	7.2	4.1	46.4	11.3	
(5) 負担／公私の役割	ソ) 安心・安定した生活、社会のため税金などの公的負担をするのは当然だ	9.0	43.8	39.1	5.3	2.8	52.8	8.1	
	タ) 自分の生活は個々を守るべきで、できるだけ国など「公」は介入すべきでない	5.2	19.1	54.0	17.3	4.4	24.2	21.7	
	チ) 年金・医療制度をきちんと運営し、必要であればもっと負担をしてもよい	7.0	28.1	46.4	13.1	5.4	35.1	18.5	
(6) 効率・公平・格差	ツ) 効率が重視され過ぎて、公平性が損なわれている	10.2	31.3	48.3	7.8	2.4	41.5	10.2	
	テ) 質の高い暮らしを確保するためにも、もっと効率を上げる必要がある	6.9	28.8	53.7	8.3	2.3	35.7	10.6	
	ト) 現在の日本は格差が拡大し過ぎている	13.5	35.2	40.3	8.2	2.8	48.7	11.0	
	ナ) 現在の日本は公平が重視され過ぎていて、活力を失っている	7.4	25.8	51.0	12.4	3.3	33.2	15.7	
(7) 家族・子育て	ニ) 夫は家事や育児を今よりずっと積極的に行うべきだ	9.9	34.2	47.2	6.1	2.6	44.1	8.7	
	ヌ) 女性がかつと社会進出、社会参加できる仕組みを作るべきだ	10.5	37.9	42.4	6.3	3.0	48.3	9.3	
(8) 収入予測	ネ) 今後、自分や家族の生活は良くなる	5.0	19.7	50.2	18.1	7.0	24.6	25.1	
	ノ) 今後、自分や家族の収入は増えていく	4.6	18.5	39.8	26.3	10.8	23.1	37.2	
(9) 安全・安心	ハ) 科学的、物理的に安全と言われても、安心できないこともたくさんある	13.9	42.9	36.1	4.9	2.1	56.8	7.1	
	ヒ) 安全・安心は全ての基盤なので、他のことより重視すべきだ	12.7	42.2	39.9	3.7	1.5	54.9	5.2	
	フ) 地域の防災訓練等があればできるだけ参加すべきだ	6.5	39.0	44.2	6.8	3.5	45.5	10.3	
(10) 技術革新、便利な生活	ヘ) ITなど新たな技術で生活や社会が便利になるのは良いことだ	10.2	43.0	40.7	4.4	1.7	53.2	6.1	
	ホ) 新たな技術や製品に追いついていけないことがあるのが心配だ	6.7	34.2	44.0	11.2	3.9	40.9	15.1	

60%～ 40%～59.9% 30%～39.9% 25%～29.9%

3. 社会・生活空間、国土に関する評価(Q4、Q5、Q6)

■社会・国土形成の3つの方向性の現状評価／重要度

国民の、安全・安心な社会、活力ある社会、心豊かな社会に対する希求は強く、社会資本整備の重要度が低いと答えている回答者は非常に少ない。

ただし、社会、国土形成に関する現状評価については、「どちらともいえない」と回答している人が半数に近く、その割合は、居住する地域よりも、日本全体での傾向が強くなっている。

→ 評価するに足る情報がないのか、評価することが難しいのか不明であるが、国民との社会資本整備に関するキャッチボールが可能となるように、情報の提供等を十分に行っていく必要があることを示唆している。

社会・国土の3つの方向性に関しては、「どちらともいえない」とする人が43～54%とかなり多い(特に日本全体ではその比率が高い)。他地域の社会や国土形成の状況がよくわからないなどが理由となっていると思われる。

【自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成】に関して、あなたの生活する地域・空間(【居住地域】)で「そうになっている」計は34.7%、【日本全体】はそうになっていない29.7%が、そうになっている22.1%を上回る。「将来的に重要」計は84.0%(内、非常に重要35.9%)と、他の分野より10ポイントほど高く(非常に重要では14～15ポイント)、トップ。安全・安心が重要視されている。

→「安全・安心な国土」に関し、【日本全体】で「そうになっていない」とする人の比率が、「活力のある国土」「心豊かな国土」に比して高く、重要度評価が二つに比して高いのが特徴。

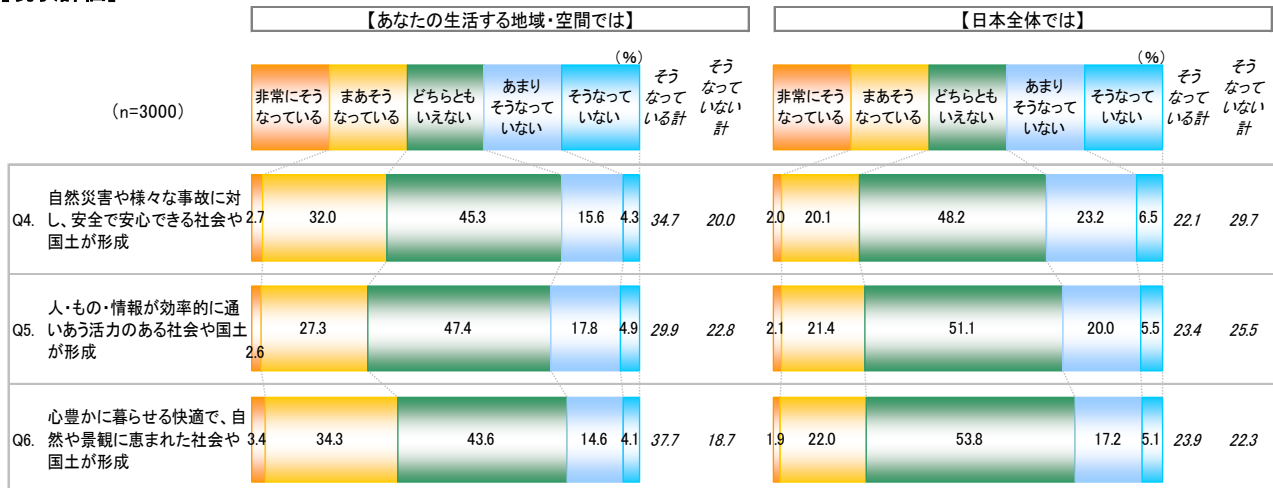
【人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成】に関して、【居住地域】で「そうになっている」計は29.9%、【日本全体】で「そうになっている」計は23.4%。「将来的に重要」計は73.6%。

→「そうになっている」が、他の二つに比して最も低い、重要度は「心豊かな国土」より若干高い。

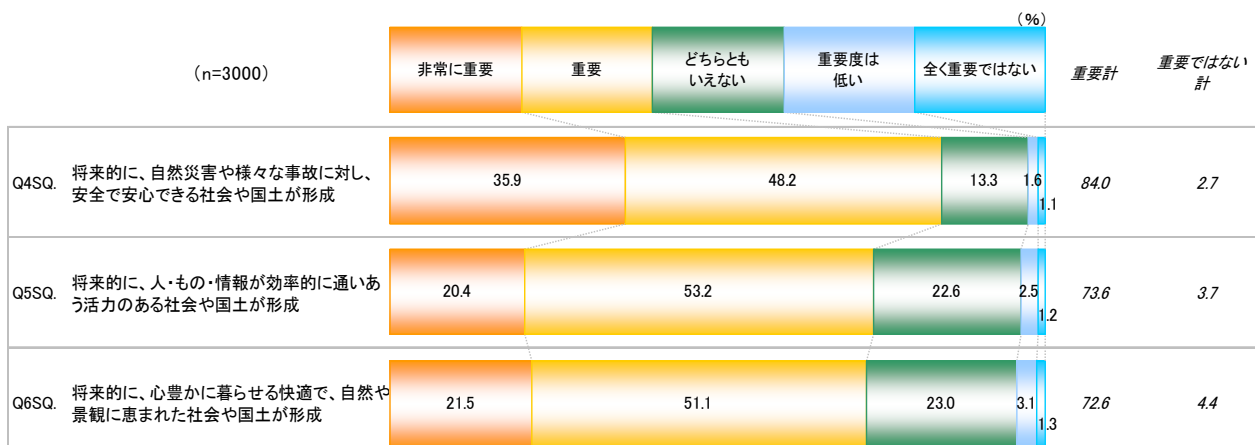
【心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成】に関して、【居住地域】で「そうになっている」計は37.7%、【日本全体】で「そうになっている」計は23.9%。「将来的に重要」計は72.6%。

→【居住地域】で「そうになっている」が最も高く、そのせいか「重要度評価」は低い傾向。「心豊かな国土」形成の評価が【居住地域】において【日本全体】より高いのは、これまでの結果と同様の傾向。

【現状評価】



【重要度】



■現状評価(性・年代別)「自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成」(Q4)

「自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成」に関して、

【居住地域】でそうになっている計は

性別で見ると、男性 36.7%、女性 32.8%で男性の方がかなり高い。

年代別で見ると、10～20 代、60～70 代各 36.8%、40 代 36.0%、50 代 32.7%、30 代 31.3%と、10～20 代、60～70 代が高い。

性年代別で見ると、男性 18-29 歳 43.7%と高く、男性 60-79 歳 38.3%が続き、男性 40 代、女性 40 代各 36.0%、女性 60-79 歳 35.3%、男性 30 代、女性 50 代各 33.0%、男性 50 代 32.3%、女性 18-29 歳 30%、女性 30 代 29.7%。男女 18-29 歳で差がみられる。

【日本全体】でそうになっている計は

性別で見ると、男性 24.2%、女性 20.0%で、男性の方が高い。

年代別で見ると、10～20 代 30.5%、30 代 24.2%、40 代 22.0%、50 代 18.3%、60～70 代 15.5%。60～70 代で居住地域がそうになっているとする人が 20 ポイント以上高い。

性年代別で見ると、男性 18-29 歳 34.3%が高く、女性 18-29 歳 26.7%が次ぐ。その後男性 30 代 26.3%、男性 40 代 22.7%、女性 40 代 21.3%、女性 30 代 22.0%、男性 50 代 20.3%、男性 60-79 歳 17.3%、女性 50 代 16.3%、女性 60-79 歳 13.7%。

日本全体の安全で安心できる社会や国土形成評価は、若い世代ほど高い。

Q4. 自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成されていると思いますか。(それぞれひとつだけ)

		【あなたの生活する地域・空間では】							【日本全体では】						
		非常に そう なっている	まあ そう なっている	どちら とも いえない	あまり そう なっていない	(%) そう なっ てい ない	そ う な っ て い ない 計	そ う な っ て い ない 計	非常に そう なっている	まあ そう なっている	どちら とも いえない	あまり そう なっていない	(%) そう なっ てい ない	そ う な っ て い ない 計	そ う な っ て い ない 計
性別	全体(n=3000)	2.7	32.0	45.3	15.6	4.3	34.7	20.0	2.0	20.1	48.2	23.2	6.5	22.1	29.7
	男性(n=1500)	3.5	33.2	44.2	14.7	4.5	36.7	19.1	2.6	21.6	46.6	22.5	6.7	24.2	29.2
	女性(n=1500)	2.0	30.8	46.4	16.6	4.2	32.8	20.8	1.5	18.5	49.8	23.8	6.4	20.0	30.2
年代別	10～20代(n=600)	5.5	31.3	44.2	15.3	3.7	36.8	19.0	4.7	25.8	45.3	19.0	5.2	30.5	24.2
	30代(n=600)	3.2	28.2	49.0	16.0	3.7	31.3	19.7	1.7	22.5	49.0	21.2	5.7	24.2	26.8
	40代(n=600)	2.5	33.5	43.8	14.2	6.0	36.0	20.2	1.8	20.2	49.7	22.2	6.2	22.0	28.3
	50代(n=600)	1.7	31.0	44.8	17.0	5.5	32.7	22.5	1.5	16.8	48.8	25.2	7.7	18.3	32.8
	60～70代(n=600)	0.8	36.0	44.7	15.7	2.8	36.8	18.5	0.5	15.0	48.2	28.3	8.0	15.5	36.3

		【あなたの生活する地域・空間では】							【日本全体では】								
		n	非常に そうな っている (+2)	まあ そうな っている (+1)	どち らとも いえない (0)	あまり そうな っていない (-1)	そうな っていない (-2)	[そうな っていない 計]	[そうな っていない 計]	n	非常に そうな っている (+2)	まあ そうな っている (+1)	どち らとも いえない (0)	あまり そうな っていない (-1)	そうな っていない (-2)	[そうな っていない 計]	[そうな っていない 計]
全体		3000	2.7	32.0	45.3	15.6	4.3	34.7	20.0	3000	2.0	20.1	48.2	23.2	6.5	22.1	29.7
性 年 代	男性18-29歳	300	8.3	35.3	41.7	11.3	3.3	43.7	14.7	300	6.3	28.0	46.3	14.7	4.7	34.3	19.3
	男性30代	300	3.3	29.7	49.3	13.0	4.7	33.0	17.7	300	2.0	24.3	48.3	20.0	5.3	26.3	25.3
	男性40代	300	3.3	32.7	43.7	14.3	6.0	36.0	20.3	300	2.7	20.0	48.3	22.7	6.3	22.7	29.0
	男性50代	300	1.3	31.0	43.3	18.3	6.0	32.3	24.3	300	1.3	19.0	44.7	26.0	9.0	20.3	35.0
	男性60-79歳	300	1.0	37.3	43.0	16.3	2.3	38.3	18.7	300	0.7	16.7	45.3	29.3	8.0	17.3	37.3
	女性18-29歳	300	2.7	27.3	46.7	19.3	4.0	30.0	23.3	300	3.0	23.7	44.3	23.3	5.7	26.7	29.0
	女性30代	300	3.0	26.7	48.7	19.0	2.7	29.7	21.7	300	1.3	20.7	49.7	22.3	6.0	22.0	28.3
	女性40代	300	1.7	34.3	44.0	14.0	6.0	36.0	20.0	300	1.0	20.3	51.0	21.7	6.0	21.3	27.7
	女性50代	300	2.0	31.0	46.3	15.7	5.0	33.0	20.7	300	1.7	14.7	53.0	24.3	6.3	16.3	30.7
	女性60-79歳	300	0.7	34.7	46.3	15.0	3.3	35.3	18.3	300	0.3	13.3	51.0	27.3	8.0	13.7	35.3

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■現状評価(地域別)「自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成」(Q4)

「自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成」に関して、

【居住地域】でそうになっている計は

地域ブロック別で見ると、北海道ブロック 39.2%、近畿ブロック 38.4%、中部ブロック 38.1%が高く、関東ブロック 35.1%がそれに続き、東北ブロック 31.9%、四国ブロック 31.0%、中国ブロック 30.0%は 30～31%台、北陸ブロック 27.5%が低い。

都市規模別で見ると、地方中枢都市 40.8%、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市 39.5%、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 38.8%は高く、三大都市圏の上記以外の地域 36.9%、地方圏の町村 34.1%がそれに続き、地方圏のその他の市 31.1%、九州・沖縄ブロック 30.6%、地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地 27.9%が低くなっている。

【日本全体】でそうになっている計は

地域ブロック別で見ると、北海道ブロック 27.5%、中部ブロック 26.4%、東北ブロック 25.2%が高く、近畿ブロック 22.7%、関東ブロック 21.2%、九州・沖縄ブロック 20.3%、四国ブロック 20.0%と続き、中国ブロック 18.3%、北陸ブロック 15.8%が低い。

都市規模別で見ると、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市 26.7%、地方中枢都市 26.1%、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 25.0%と高く、三大都市圏の上記以外の地域 21.6%、地方圏の町村 20.0%、地方圏のその他の市 19.7%、地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地 19.3%と低くなっている。

Q4. 自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成されていると思いますか。(それぞれひとつだけ)

	【あなたの生活する地域・空間では】								【日本全体では】							
	非常にそう なっている	まあそう なっている	どちらとも いえない	あまり そうって いない	そうって いない	そう なってい ない計	そう なってい ない計	(%)	非常にそう なっている	まあそう なっている	どちらとも いえない	あまり そうって いない	そうって いない	そう なってい ない計	そう なってい ない計	(%)
全体(n=3000)	2.7	32.0	45.3	15.6	4.3	34.7	20.0		2.0	20.1	48.2	23.2	6.5	22.1	29.7	
地域 ブ ロ ッ ク 別																
北海道ブロック (n=120)	3.3	35.8	40.8	14.2	5.8	39.2	20.0		2.5	25.0	40.0	24.2	8.3	27.5	32.5	
東北ブロック (n=210)	3.3	28.6	45.7	17.6	4.8	31.9	22.4		2.4	22.9	44.3	20.5	10.0	25.2	30.5	
関東ブロック (n=1070)	2.3	32.8	44.2	15.7	5.0	35.1	20.7		1.5	19.7	48.3	23.3	7.2	21.2	30.5	
北陸ブロック (n=120)	0.8	26.7	52.5	18.3	1.7	27.5	20.0		1.7	14.2	55.0	22.5	6.7	15.8	29.2	
中部ブロック (n=360)	4.2	33.9	44.2	14.2	3.6	38.1	17.8		4.2	22.2	46.4	21.1	6.1	26.4	27.2	
近畿ブロック (n=510)	2.4	36.1	45.5	13.1	2.9	38.4	16.1		2.0	20.8	49.8	22.9	4.5	22.7	27.5	
中国ブロック (n=180)	5.0	25.0	47.8	17.2	5.0	30.0	22.2		2.8	15.6	51.7	25.6	4.4	18.3	30.0	
四国ブロック (n=100)	2.0	29.0	42.0	19.0	8.0	31.0	27.0		1.0	19.0	48.0	20.0	12.0	20.0	32.0	
九州・沖縄ブロック (n=330)	2.1	28.5	48.2	17.3	3.9	30.6	21.2		1.2	19.1	48.5	26.7	4.5	20.3	31.2	
都市 規 模 別																
三大都市圏の政令指定 都市及び東京23区 (n=783)	3.4	35.4	42.8	14.7	3.7	38.8	18.4		2.4	22.6	47.3	21.8	5.9	25.0	27.7	
三大都市圏の県庁所在 地及び人口30万人以上 の都市(n=195)	3.6	35.9	45.6	12.3	2.6	39.5	14.9		2.1	24.6	49.7	20.5	3.1	26.7	23.6	
三大都市圏の上記以外 の地域(n=453)	2.4	34.4	41.9	16.8	4.4	36.9	21.2		1.5	20.1	44.6	25.2	8.6	21.6	33.8	
地方中枢都市 (n=272)	3.3	37.5	42.3	12.1	4.8	40.8	16.9		3.3	22.8	43.0	24.3	6.6	26.1	30.9	
地方中核都市人口30万 人以上の都市及び県庁 所在地(n=269)	2.6	25.3	50.6	19.0	2.6	27.9	21.6		1.9	17.5	48.7	24.5	7.4	19.3	32.0	
地方圏のその他の市 (n=731)	1.9	29.1	48.3	16.1	4.5	31.1	20.7		1.5	18.2	51.8	22.8	5.6	19.7	28.5	
地方圏の町村 (n=205)	3.4	30.7	38.0	20.0	7.8	34.1	27.8		2.4	17.6	42.4	28.3	9.3	20.0	37.6	

■現状評価(性・年代別)「人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成」(Q5)

「人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成」に関して、

【居住地域】でそうになっている計は

性別で見ると、女性 30.5%、男性 29.2%とほぼ同じだが、**男性の方が若干低い**。

年代別で見ると、10～20代 36.0%、30代 28.5%、50代 28.5%、40代 28.2%、60～70代 28.2%と**基本的に若年層ほどそうになっているとする人の割合が高い**。

性年代別で見ると、男性 18-29歳 39.3%、女性 18-29歳 32.7%、女性 50代 31.3%、女性 40代 30.7%、女性 60-79歳 29.7%、男性 30代 28.7%、女性 30代 28.3%、男性 60-79歳 26.7%、男性 40代、男性 50代各 25.7%。**男性 18-29歳、女性 18-29歳が高く、基本的に年代が上の人ほど低い**。

【日本全体】でそうになっている計は

性別で見ると、男性 24.3%、女性 22.5%と、**居住地域とは逆に男性の方がそうになっているとする人の割合が高い**。

年代別で見ると、10～20代 32.0%、30代 26.5%、40代 20.7%、50代 20.3%、60～70代 17.7%。**若い世代ほどそうになっているとする人の割合が高い**。

性年代別で見ると、男性 18-29歳 35.0%、女性 18-29歳 29.0%、男性 30代 27.0%、女性 30代 26.0%、男性 50代 22.3%、男性 40代 21.7%、女性 40代、女性 60-79歳各 19.7%、女性 50代 18.3%、男性 60-79歳 15.7%。**男性 18-29歳、女性 18-29歳が高く、基本的に年代が上の人ほど低い**。

Q5. 人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成されていると思いますか。(それぞれひとつだけ)

		【あなたの生活する地域・空間では】							【日本全体では】						
		非常にそう なっている	まあそう なっている	どちらとも いえない	あまり そうなっ ていない	(%) そうなっ ていない	そ うな って いる計	そ う な っ て い ない 計	非常にそう なっている	まあそう なっている	どちらとも いえない	あまり そうなっ ていない	(%) そうなっ ていない	そ うな っ て いる計	そ う な っ て い ない 計
性 別	全体(n=3000)	2.6	27.3	47.4	17.8	4.9	29.9	22.8	2.1	21.4	51.1	20.0	5.5	23.4	25.5
	男性 (n=1500)	3.5	25.7	47.0	18.7	5.1	29.2	23.8	2.5	21.9	49.7	19.8	6.2	24.3	26.0
	女性 (n=1500)	1.7	28.9	47.7	17.0	4.7	30.5	21.7	1.7	20.9	52.5	20.2	4.7	22.5	24.9
年 代 別	10～20代 (n=600)	5.3	30.7	44.3	15.0	4.7	36.0	19.7	4.0	28.0	48.7	15.8	3.5	32.0	19.3
	30代 (n=600)	3.7	24.8	48.7	18.0	4.8	28.5	22.8	3.2	23.3	52.0	16.5	5.0	26.5	21.5
	40代 (n=600)	1.8	26.3	48.2	17.3	6.3	28.2	23.7	1.2	19.5	53.8	19.8	5.7	20.7	25.5
	50代 (n=600)	1.3	27.2	46.3	19.2	6.0	28.5	25.2	1.3	19.0	52.7	20.0	7.0	20.3	27.0
	60～70代 (n=600)	0.8	27.3	49.3	19.7	2.8	28.2	22.5	0.7	17.0	48.3	27.8	6.2	17.7	34.0

		【あなたの生活する地域・空間では】							【日本全体では】						
		n	非常に そうな っている (+2)	まあ そうな っている (+1)	どちら とも いえない (0)	あまり そうな っていない (-1)	そうな っていない (-2)	[そうな っている 計]	n	非常に そうな っている (+2)	まあ そうな っている (+1)	どちら とも いえない (0)	あまり そうな っていない (-1)	そうな っていない (-2)	[そうな っている 計]
全体		3000	2.6	27.3	47.4	17.8	4.9	29.9	3000	2.1	21.4	51.1	20.0	5.5	23.4
性 年 代	男性18-29歳	300	8.7	30.7	41.7	16.3	2.7	39.3	300	5.3	29.7	47.3	14.7	3.0	35.0
	男性30代	300	3.7	25.0	49.3	16.7	5.3	28.7	300	3.3	23.7	52.0	16.0	5.0	27.0
	男性40代	300	2.7	23.0	49.0	18.0	7.3	25.7	300	1.7	20.0	51.7	20.3	6.3	21.7
	男性50代	300	1.3	24.3	45.7	21.3	7.3	25.7	300	1.3	21.0	47.0	21.3	9.3	22.3
	男性60-79歳	300	1.3	25.3	49.3	21.0	3.0	26.7	300	0.7	15.0	50.3	26.7	7.3	15.7
	女性18-29歳	300	2.0	30.7	47.0	13.7	6.7	32.7	300	2.7	26.3	50.0	17.0	4.0	29.0
	女性30代	300	3.7	24.7	48.0	19.3	4.3	28.3	300	3.0	23.0	52.0	17.0	5.0	26.0
	女性40代	300	1.0	29.7	47.3	16.7	5.3	30.7	300	0.7	19.0	56.0	19.3	5.0	19.7
	女性50代	300	1.3	30.0	47.0	17.0	4.7	31.3	300	1.3	17.0	58.3	18.7	4.7	18.3
	女性60-79歳	300	0.3	29.3	49.3	18.3	2.7	29.7	300	0.7	19.0	46.3	29.0	5.0	19.7

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■現状評価(地域別)「人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成」(Q5)

「人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成」に関して、

【居住地域】でそうになっている計は

地域ブロック別で見ると、**関東ブロック 32.2%、近畿ブロック 32.0%**が高く、北海道ブロック 30.0%、九州・沖縄ブロック 29.7%、四国ブロック 29.0%、北陸ブロック 28.3%がそれに続き、中部ブロック 27.2%となっている。**東北ブロック 25.2%、中国ブロック 22.2%**は低目。

都市規模別で見ると、**三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市 42.6%**とかなり高く、地方中枢都市 37.9%、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 35.9%がそれに続き、三大都市圏の上記以外の地域 31.3%、**かなり離れて地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地 23.4%、地方圏のその他の市 22.4%、地方圏の町村 22.4%**となっている。地域類型別での評価格差は大きい。

【日本全体】でそうになっている計は

地域ブロック別で見ると、北海道ブロック28.3%、九州・沖縄ブロック27.6%、中部ブロック、近畿ブロック各23.9%、東北ブロック 23.8%、関東ブロック 22.1%、北陸ブロック 21.7%、四国ブロック 21.0%、中国ブロック 20.6%の順。**北海道、九州・沖縄が高く、四国、中国が低い**。地域ブロック別による評価格差は日本全体ほどではないが大きい。

都市規模別で見ると、地方中枢都市 30.5%、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市 29.2%、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 24.4%、地方圏のその他の市 22.4%、三大都市圏の上記以外の地域 22.1%、地方圏の町村 21.0%、地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地 19.3%。**地域規模の大きさと評価の間に直接の相関はない**。

Q5. 人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成されていると思いますか。(それぞれひとつだけ)

	【あなたの生活する地域・空間では】								【日本全体では】							
	非常にそう なっている		まあそう なっている		どちらとも いえない		あまり そうなんて いない		非常にそう なっている		まあそう なっている		どちらとも いえない		あまり そうなんて いない	
	(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)		(%)	
全体(n=3000)	2.6	27.3	47.4	17.8	4.9	29.9	22.8	2.1	21.4	51.1	20.0	5.5	23.4	25.5		
地域 ブ ロ ッ ク 別	北海道ブロック (n=120)	2.5	27.5	45.8	15.8	8.3	30.0	24.2	4.2	24.2	49.2	15.0	7.5	28.3	22.5	
	東北ブロック (n=210)	3.3	21.9	45.7	20.0	9.0	25.2	29.0	2.9	21.0	49.5	19.5	7.1	23.8	26.7	
	関東ブロック (n=1070)	2.1	30.1	45.6	17.9	4.3	32.2	22.1	1.4	20.7	50.9	21.5	5.5	22.1	27.0	
	北陸ブロック (n=120)	1.7	26.7	50.0	18.3	3.3	28.3	21.7	0.8	20.8	57.5	15.0	5.8	21.7	20.8	
	中部ブロック (n=360)	3.3	23.9	49.2	19.7	3.9	27.2	23.6	3.1	20.8	50.3	20.6	5.3	23.9	25.8	
	近畿ブロック (n=510)	2.4	29.6	49.8	13.7	4.5	32.0	18.2	1.6	22.4	52.5	18.4	5.1	23.9	23.5	
	中国ブロック (n=180)	4.4	17.8	49.4	23.9	4.4	22.2	28.3	4.4	16.1	53.9	20.6	5.0	20.6	25.6	
	四国ブロック (n=100)	0.0	29.0	43.0	16.0	12.0	29.0	28.0	1.0	20.0	54.0	17.0	8.0	21.0	25.0	
	九州・沖縄ブロック (n=330)	3.3	26.4	48.2	18.5	3.6	29.7	22.1	2.1	25.5	47.3	21.5	3.6	27.6	25.2	
	三大都市圏の政令指定 都市及び東京23区 (n=783)	3.2	32.7	46.4	14.4	3.3	35.9	17.8	2.3	22.1	51.2	19.3	5.1	24.4	24.4	
都 市 規 模 別	三大都市圏の県庁所 在 地及び人口30万人以 上の都市(n=195)	4.1	38.5	44.1	11.8	1.5	42.6	13.3	1.5	27.7	48.7	17.4	4.6	29.2	22.1	
	三大都市圏の上記以 外の地域(n=453)	2.0	29.4	41.9	21.0	5.7	31.3	26.7	1.1	21.0	46.8	25.2	6.0	22.1	31.1	
	地方中枢都市 (n=272)	5.1	32.7	43.0	14.0	5.1	37.9	19.1	3.3	27.2	46.3	16.9	6.3	30.5	23.2	
	地方中核都市人口30万 人以上の都市及び県庁 所在地(n=269)	1.1	22.3	51.7	21.6	3.3	23.4	24.9	1.5	17.8	55.0	21.9	3.7	19.3	25.7	
	地方圏のその他の市 (n=731)	1.5	20.9	50.6	20.8	6.2	22.4	26.9	2.1	20.4	53.2	18.6	5.7	22.4	24.4	
	地方圏の町村 (n=205)	3.4	19.0	47.3	22.4	7.8	22.4	30.2	2.9	18.0	50.2	23.4	5.4	21.0	28.8	

■現状評価(性・年代別)「心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成」(Q6)

「心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成」に関して、

【居住地域】でそうになっている計は

性別で見ると、女性 40.5%、男性 34.9%と女性の方がかなり高い。

年代別で見ると、10～20代 41.8%、30代 39.7%、60～70代 37.8%、40代 36.5%、50代 32.7%。10～20代、30代が高く、50代の低さが目立つ。

性年代別で見ると、女性 30代 43.0%、男性 18-29歳 42.7%、女性 60-79歳 41.3%、女性 18-29歳 41.0%、女性 40代 40.3%、女性 50代 37.0%、男性 30代 36.3%、男性 60-79歳 34.3%、男性 40代 32.7%、男性 50代 28.3%。女性 30代、男性 18-29歳が高く、男性 50代が極端に低い。

【日本全体】でそうになっている計は

性別で見ると、女性 24.0%、男性 23.8%と、ほぼ差はない。

年代別で見ると、10～20代 31.8%、30代 27.0%、40代 21.2%、50代 21.2%、60～70代 18.3%と若い世代ほどそうなっているとする人が多い。

性年代別で見ると、男性 18-29歳 35.7%、女性 30代 28.3%、女性 18-29歳 28.0%、男性 30代 25.7%、女性 40代 23.0%、男性 50代 21.7%、女性 50代 20.7%、女性 60-79歳 20.0%、男性 40代 19.3%、男性 60-79歳 16.7%と、男性の中での年代格差が大きい。

Q6. 心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成されていると思いますか。(それぞれひとつだけ)

		【あなたの生活する地域・空間では】							【日本全体では】						
		非常にそう なっている	まあそう なっている	どちらとも いえない	あまり そうなって いない	(%) そうなって いない	そう なっている 計	そう なっていない 計	非常にそう なっている	まあそう なっている	どちらとも いえない	あまり そうなって いない	(%) そうなって いない	そう なっている 計	そう なっていない 計
性別	全体(n=3000)	3.4	34.3	43.6	14.6	4.1	37.7	18.7	1.9	22.0	53.8	17.2	5.1	23.9	22.3
	男性(n=1500)	3.6	31.3	44.3	16.3	4.5	34.9	20.8	2.3	21.5	52.5	18.0	5.7	23.8	23.7
	女性(n=1500)	3.2	37.3	42.8	13.0	3.7	40.5	16.7	1.6	22.4	55.1	16.3	4.5	24.0	20.9
年代別	10～20代(n=600)	5.7	36.2	42.2	12.2	3.8	41.8	16.0	3.7	28.2	51.2	13.2	3.8	31.8	17.0
	30代(n=600)	5.0	34.7	43.3	12.7	4.3	39.7	17.0	2.7	24.3	54.7	13.3	5.0	27.0	18.3
	40代(n=600)	3.2	33.3	43.5	15.0	5.0	36.5	20.0	1.5	19.7	55.2	18.8	4.8	21.2	23.7
	50代(n=600)	2.2	30.5	46.0	16.5	4.8	32.7	21.3	1.2	20.0	53.7	18.8	6.3	21.2	25.2
	60～70代(n=600)	1.0	36.8	42.8	16.8	2.5	37.8	19.3	0.7	17.7	54.3	21.7	5.7	18.3	27.3

		【あなたの生活する地域・空間では】							【日本全体では】						
		n	非常に そうな っている (+2)	まあ そうな っている (+1)	どちら とも いえない (0)	あまり そうな っていない (-1)	そうな っていない (-2)	[そうな っている 計]	n	非常に そうな っている (+2)	まあ そうな っている (+1)	どちら とも いえない (0)	あまり そうな っていない (-1)	そうな っていない (-2)	[そうな っている 計]
全体		3000	3.4	34.3	43.6	14.6	4.1	37.7	3000	1.9	22.0	53.8	17.2	5.1	23.9
性年代	男性18-29歳	300	7.7	35.0	41.0	13.3	3.0	42.7	300	6.0	29.7	47.0	14.0	3.3	35.7
	男性30代	300	4.0	32.3	47.7	11.7	4.3	36.3	300	2.0	23.7	58.7	10.3	5.3	25.7
	男性40代	300	3.3	29.3	45.0	16.3	6.0	32.7	300	1.7	17.7	55.3	19.7	5.7	19.3
	男性50代	300	1.3	27.0	44.3	21.0	6.3	28.3	300	0.7	21.0	48.0	21.7	8.7	21.7
	男性60-79歳	300	1.7	32.7	43.7	19.0	3.0	34.3	300	1.0	15.7	53.3	24.3	5.7	16.7
	女性18-29歳	300	3.7	37.3	43.3	11.0	4.7	41.0	300	1.3	26.7	55.3	12.3	4.3	28.0
	女性30代	300	6.0	37.0	39.0	13.7	4.3	43.0	300	3.3	25.0	50.7	16.3	4.7	28.3
	女性40代	300	3.0	37.3	42.0	13.7	4.0	40.3	300	1.3	21.7	55.0	18.0	4.0	23.0
	女性50代	300	3.0	34.0	47.7	12.0	3.3	37.0	300	1.7	19.0	59.3	16.0	4.0	20.7
	女性60-79歳	300	0.3	41.0	42.0	14.7	2.0	41.3	300	0.3	19.7	55.3	19.0	5.7	20.0

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■現状評価(地域別)「心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成」(Q6)

「心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成」に関して、

【居住地域】でそうになっている計は

地域ブロック別で見ると、中国ブロック42.2%、九州・沖縄ブロック41.8%、北海道ブロック40.8%、四国ブロック40.0%、東北ブロック39.5%、北陸ブロック、中部ブロック各38.3%、近畿ブロック37.1%、関東ブロック34.8%。近畿、関東ブロックが低い、それほど大きな差ではない。

都市規模別で見ると、地方中枢都市43.4%、地方圏のその他の市42.4%、三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市39.5%、三大都市圏の上記以外の地域38.6%、地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地37.2%、地方圏の町村37.1%、三大都市圏の政令指定都市及び東京23区33.3%。地方中枢都市、地方圏のその他の市が高く、三大都市圏の政令指定都市及び東京23区の低さが目立つ。

【日本全体】でそうになっている計は

地域ブロック別で見ると、九州・沖縄ブロック26.7%、近畿ブロック24.5%、中国ブロック24.4%、北海道ブロック24.2%、関東ブロック23.7%、北陸ブロック23.3%、中部ブロック22.8%、東北ブロック22.4%、四国ブロック20.0%。九州・沖縄、近畿が高く、四国が低い。

都市規模別で見ると、三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市27.2%、三大都市圏の政令指定都市及び東京23区25.8%、地方中枢都市25.4%、地方圏のその他の市24.1%、三大都市圏の上記以外の地域23.4%、地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地21.2%、地方圏の町村19.5%。地方圏の町村の低さが目立つ。

Q6. 心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成されていると思いますか。(それぞれひとつだけ)

	【あなたの生活する地域・空間では】							【日本全体では】						
	非常にそう なっている	まあそう なっている	どちらとも いえない	あまり そう なっていない	そう なっ て いない	そ う な っ て い る 計	そ う な っ て い ない 計	非常にそう なっている	まあそう なっている	どちらとも いえない	あまり そう なっていない	そう なっ て いない	そ う な っ て い る 計	そ う な っ て い ない 計
全体(n=3000)	3.4	34.3	43.6	14.6	4.1	37.7	18.7	1.9	22.0	53.8	17.2	5.1	23.9	22.3
地域 ブ ロ ッ ク 別	北海道ブロック (n=120)	6.7	34.2	44.2	10.8	4.2	40.8	3.3	20.8	47.5	23.3	5.0	24.2	28.3
	東北ブロック (n=210)	2.9	36.7	41.4	11.9	7.1	39.5	1.9	20.5	51.4	18.1	8.1	22.4	26.2
	関東ブロック (n=1070)	2.1	32.6	42.2	17.8	5.2	34.8	1.4	22.3	52.7	17.4	6.2	23.7	23.6
	北陸ブロック (n=120)	2.5	35.8	47.5	14.2	0.0	38.3	2.5	20.8	60.0	15.8	0.8	23.3	16.7
	中部ブロック (n=360)	3.6	34.7	45.0	14.7	1.9	38.3	1.9	20.8	54.2	18.9	4.2	22.8	23.1
	近畿ブロック (n=510)	4.1	32.9	45.9	13.5	3.5	37.1	1.8	22.7	55.7	16.7	3.1	24.5	19.8
	中国ブロック (n=180)	6.1	36.1	42.8	11.7	3.3	42.2	4.4	20.0	55.0	15.6	5.0	24.4	20.6
	四国ブロック (n=100)	3.0	37.0	41.0	11.0	8.0	40.0	1.0	19.0	59.0	12.0	9.0	20.0	21.0
	九州・沖縄ブロック (n=330)	4.2	37.6	43.6	12.1	2.4	41.8	2.1	24.5	53.3	15.5	4.5	26.7	20.0
都 市 規 模 別	三大都市圏の政令指定 都市及び東京23区 (n=783)	3.1	30.3	42.8	18.6	5.2	33.3	1.8	24.0	52.4	16.9	5.0	25.8	21.8
	三大都市圏の県庁所 在 地及び人口30万人以 上の都市(n=195)	3.6	35.9	47.7	11.3	1.5	39.5	2.1	25.1	51.3	18.5	3.1	27.2	21.5
	三大都市圏の上記以 外の地域(n=453)	2.4	36.2	39.5	18.1	3.8	38.6	1.5	21.9	53.0	17.7	6.0	23.4	23.6
	地方中枢都市 (n=272)	4.8	38.6	40.4	11.8	4.4	43.4	2.2	23.2	51.5	17.6	5.5	25.4	23.2
	地方中核都市人口30 万 人 以 上 の 都 市 及 び 県 庁 所 在 地 (n=269)	1.9	35.3	46.5	13.8	2.6	37.2	0.7	20.4	58.4	15.6	4.8	21.2	20.4
	地方圏のその他の市 (n=731)	4.1	38.3	42.4	11.6	3.6	42.4	2.2	21.9	54.7	16.6	4.7	24.1	21.2
	地方圏の町村 (n=205)	4.9	32.2	45.4	13.7	3.9	37.1	3.4	16.1	51.7	23.4	5.4	19.5	28.8

■重要度〈性・年代別〉「自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成」(Q4SQ1)

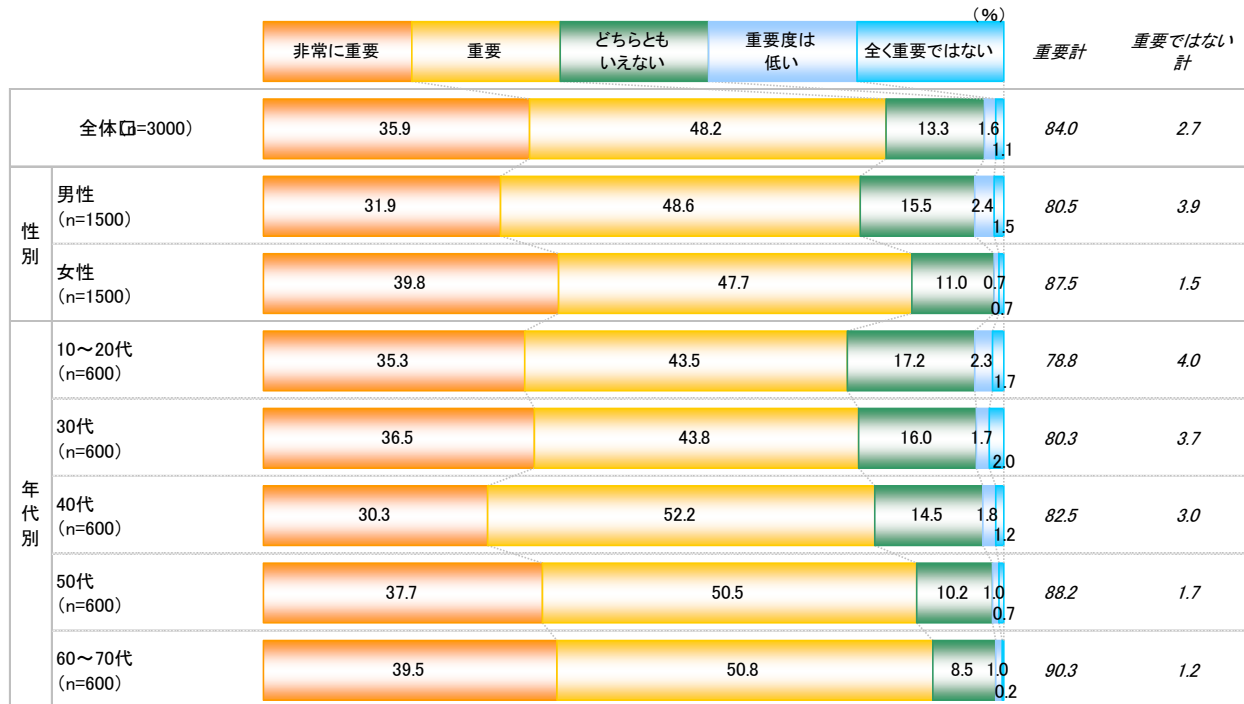
「自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成」に関して、
将来的に重要計は

性別で見ると、女性 87.5%、男性 80.5%と、**両方とも 80%を超えるが、女性の方が7ポイント高い。**

年代別で見ると、60～70代 90.3%、50代 88.2%、40代 82.5%、30代 80.3%、10～20代 78.8%と、**年代が高いほど高くなっている。**

性年代別で見ると、女性 50代 92.0%、女性 60～79歳 90.7%、男性 60～79歳 90.0%、女性 40代 89.3%、女性 30代 84.7%、男性 50代 84.3%、女性 18～29歳 81.0%、男性 18～29歳 76.7%、男性 30代 76.0%、男性 40代 75.7%。**相対的には男性 18～29歳、男性 30代、男性 40代の低さが目立つ。**

Q4SQ1. 将来的に、自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。(○は一つ)



		n	非常に重要 (+2)	重要 (+1)	どちらとも いえない (0)	重要度は低い (-1)	全く 重要ではない (-2)	[重要計]	[重要ではない 計]
全体		3000	35.9	48.2	13.3	1.6	1.1	84.0	2.7
性年代	男性18-29歳	300	30.3	46.3	18.7	2.7	2.0	76.7	4.7
	男性30代	300	32.0	44.0	19.0	2.3	2.7	76.0	5.0
	男性40代	300	24.7	51.0	19.0	3.3	2.0	75.7	5.3
	男性50代	300	36.7	47.7	13.0	2.0	0.7	84.3	2.7
	男性60-79歳	300	36.0	54.0	8.0	1.7	0.3	90.0	2.0
	女性18-29歳	300	40.3	40.7	15.7	2.0	1.3	81.0	3.3
	女性30代	300	41.0	43.7	13.0	1.0	1.3	84.7	2.3
	女性40代	300	36.0	53.3	10.0	0.3	0.3	89.3	0.7
	女性50代	300	38.7	53.3	7.3	-	0.7	92.0	0.7
	女性60-79歳	300	43.0	47.7	9.0	0.3	-	90.7	0.3

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■重要度く地域別「自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成」(Q4SQ1)

「自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成」に関して、
将来的に重要計は

地域ブロック別で見ると、北陸ブロック85.8%、東北ブロック、近畿ブロック各85.7%、四国ブロック85.0%、九州・沖縄ブロック84.5%、中部ブロック83.9%、関東ブロック83.0%、北海道ブロック82.5%、中国ブロック82.2%。**すべてのブロックで重要度が82~86%と高く、ブロック別の評価差は大きくない。**

都市規模別で見ると、三大都市圏の上記以外の地域86.5%、地方圏の町村86.3%、三大都市圏の政令指定都市及び東京23区85.6%、地方圏のその他の市84.8%、地方中核都市84.6%、地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地84.0%、三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市83.6%。**都市規模別での全類型83~86%が重要とし、評価差も大きくない。**

Q4SQ1. 将来的に、自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。(〇は一つ)

		(%)					重要計	重要ではない計
		非常に重要	重要	どちらとも いえない	重要度は 低い	全く重要ではない		
全体(n=3000)		35.9	48.2	13.3	1.6	1.1	84.0	2.7
地域 ブ ロ ッ ク 別	北海道ブロック (n=120)	38.3	44.2	15.0	1.7	0.8	82.5	2.5
	東北ブロック (n=210)	36.7	49.0	11.4	1.4	1.4	85.7	2.9
	関東ブロック (n=1070)	33.8	49.2	14.1	1.4	1.5	83.0	2.9
	北陸ブロック (n=120)	34.2	51.7	12.5	1.7	0.0	85.8	1.7
	中部ブロック (n=360)	36.4	47.5	13.1	1.7	1.4	83.9	3.1
	近畿ブロック (n=510)	36.3	49.4	12.0	1.6	0.8	85.7	2.4
	中国ブロック (n=180)	35.0	47.2	15.0	2.2	0.6	82.2	2.8
	四国ブロック (n=100)	45.0	40.0	11.0	1.0	3.0	85.0	4.0
	九州・沖縄ブロック (n=330)	38.2	46.4	13.3	1.8	0.3	84.5	2.1
都 市 規 模 別	三大都市圏の政令指定 都市及び東京23区 (n=783)	35.9	49.7	12.3	1.0	1.1	85.6	2.2
	三大都市圏の県庁所在 地及び人口30万人以上 の都市(n=195)	34.9	48.7	13.8	2.6	0.0	83.6	2.6
	三大都市圏の上記以外 の地域(n=453)	39.1	47.5	11.0	1.5	0.9	86.5	2.4
	地方中核都市 (n=272)	39.7	44.9	12.5	2.2	0.7	84.6	2.9
	地方中核都市人口30万 人以上の都市及び県庁 所在地(n=269)	35.3	48.7	14.1	1.5	0.4	84.0	1.9
	地方圏のその他の市 (n=731)	35.2	49.7	12.7	1.8	0.7	84.8	2.5
	地方圏の町村 (n=205)	36.1	50.2	11.2	1.0	1.5	86.3	2.4

■重要度く性・年代別「人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成」(Q5SQ1)

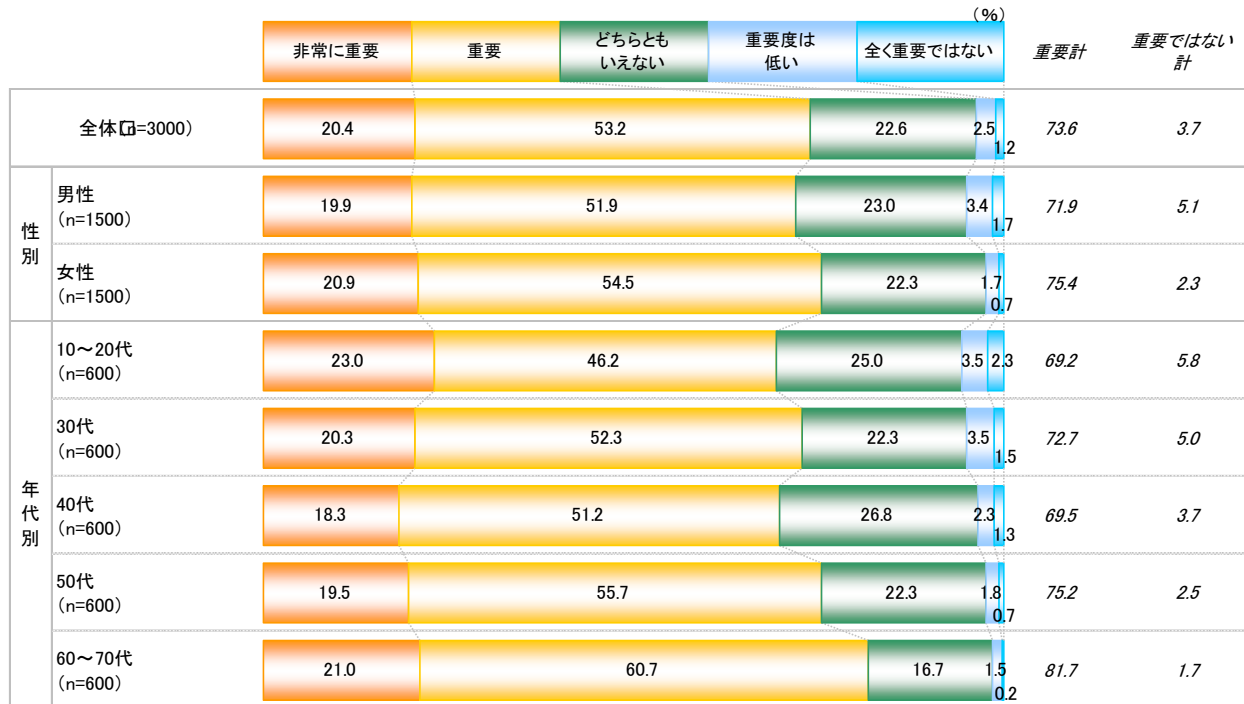
「人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成」に関して、
将来的に重要計は

性別で見ると、女性 75.4%、男性 71.9%と、**女性が男性を上回る。**

年代別で見ると、60～70代 81.7%、50代 75.2%、30代 72.7%、40代 69.5%、10～20代 69.2%と、**基本的に年代が上の方が高い。**

性年代別で見ると、女性 60～79歳 82.7%、男性 60～79歳 80.7%、女性 50代 78.0%、女性 40代 76.0%、男性 30代、女性 30代各 72.7%、男性 50代 72.3%、男性 18～29歳 70.7%、女性 18～29歳 67.7%、男性 40代 63.0%。**女性 18～29歳、男性 40代の低さが目立つ。**

Q5SQ1. 将来的に、人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。(○は一つ)



		n	非常に重要 (+2)	重要 (+1)	どちらとも いえない (0)	重要度は低い (-1)	全く 重要ではない (-2)	[重要計]	[重要ではない計]
全体		3000	20.4	53.2	22.6	2.5	1.2	73.6	3.7
性年代	男性18-29歳	300	24.0	46.7	22.7	3.7	3.0	70.7	6.7
	男性30代	300	17.7	55.0	20.3	4.7	2.3	72.7	7.0
	男性40代	300	16.7	46.3	31.0	3.7	2.3	63.0	6.0
	男性50代	300	20.3	52.0	23.7	3.3	0.7	72.3	4.0
	男性60-79歳	300	21.0	59.7	17.3	1.7	0.3	80.7	2.0
	女性18-29歳	300	22.0	45.7	27.3	3.3	1.7	67.7	5.0
	女性30代	300	23.0	49.7	24.3	2.3	0.7	72.7	3.0
	女性40代	300	20.0	56.0	22.7	1.0	0.3	76.0	1.3
	女性50代	300	18.7	59.3	21.0	0.3	0.7	78.0	1.0
	女性60-79歳	300	21.0	61.7	16.0	1.3	-	82.7	1.3

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■重要度く地域別「人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成」(Q5SQ1)

「人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成」に関して、
将来的に重要計は

地域ブロック別で見ると、四国ブロック 77.0%、九州・沖縄ブロック 76.4%、中国ブロック 75.6%、近畿ブロック 75.3%、中部ブロック 75.0%、東北ブロック 73.8%、関東ブロック 71.8%、北海道ブロック 71.7%、北陸ブロック 67.5%。**四国、九州・沖縄、中国、近畿、中部が 75%以上、北陸 67.5%の低さが目立つ。**

都市規模別で見ると、地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地 77.7%、地方中枢都市 76.8%、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 76.6%、三大都市圏の上記以外の地域 74.8%、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市 73.8%、地方圏のその他の市 72.8%、地方圏の町村 71.7%。**大都市圏の方が、地方圏より高い傾向がみられる。**

Q5SQ1. 将来的に、人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。(○は一つ)

		(%)					重要計	重要ではない計
		非常に重要	重要	どちらとも いえない	重要度は 低い	全く重要ではない		
全体(n=3000)		20.4	53.2	22.6	2.5	1.2	73.6	3.7
地域 ブ ロ ッ ク 別	北海道ブロック (n=120)	23.3	48.3	24.2	3.3	0.8	71.7	4.2
	東北ブロック (n=210)	21.9	51.9	21.4	2.4	2.4	73.8	4.8
	関東ブロック (n=1070)	19.9	51.9	23.9	2.8	1.5	71.8	4.3
	北陸ブロック (n=120)	17.5	50.0	30.8	1.7	0.0	67.5	1.7
	中部ブロック (n=360)	19.7	55.3	19.7	3.9	1.4	75.0	5.3
	近畿ブロック (n=510)	21.2	54.1	21.8	2.4	0.6	75.3	2.9
	中国ブロック (n=180)	20.0	55.6	22.8	1.1	0.6	75.6	1.7
	四国ブロック (n=100)	22.0	55.0	19.0	1.0	3.0	77.0	4.0
	九州・沖縄ブロック (n=330)	20.6	55.8	21.2	1.8	0.6	76.4	2.4
都 市 規 模 別	三大都市圏の政令指定 都市及び東京23区 (n=783)	21.7	54.9	20.1	2.0	1.3	76.6	3.3
	三大都市圏の県庁所在 地及び人口30万人以上 の都市(n=195)	27.7	46.2	22.1	4.1	0.0	73.8	4.1
	三大都市圏の上記以外 の地域(n=453)	20.8	54.1	20.8	3.5	0.9	74.8	4.4
	地方中枢都市 (n=272)	22.8	54.0	18.8	4.0	0.4	76.8	4.4
	地方中核都市人口30万 人以上の都市及び県庁 所在地(n=269)	21.2	56.5	20.4	1.5	0.4	77.7	1.9
	地方圏のその他の市 (n=731)	17.4	55.4	24.4	2.2	0.7	72.8	2.9
	地方圏の町村 (n=205)	20.5	51.2	24.9	1.5	2.0	71.7	3.4

■重要度〈性・年代別〉「心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成」(Q6SQ1)

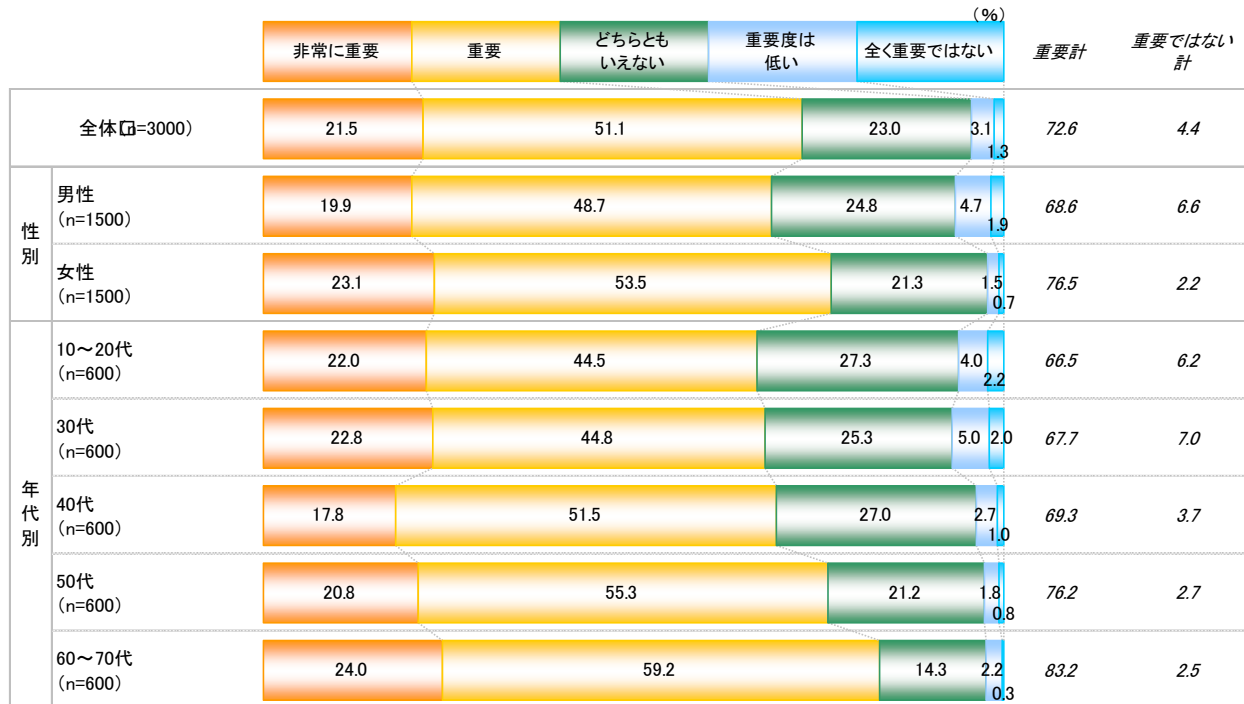
「心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成」に関して、
将来的に重要計は

性別で見ると、女性 76.5%、男性 68.6%で、**女性の方がかなり高い。**

年代別で見ると、60～70代 83.2%、50代 76.2%、40代 69.3%、30代 67.7%、10～20代 66.5%と、**年代が高いほど重要とする人が多く、その差もかなりある。**

性年代別で見ると、女性 60～79歳 84.7%、男性 60～79歳 81.7%、女性 50代 80.7%、女性 40代 75.0%、女性 30代 72.3%、男性 50代 71.7%、女性 18～29歳 70.0%、男性 40代 63.7%、男性 18～29歳 63.0%、男性 30代 63.0%。**男性 40代、男性 18～29歳、男性 30代の低さが目立つ。**

Q6SQ1. 将来的に、心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。(○は一つ)



		n	非常に重要 (+2)	重要 (+1)	どちらとも いえない (0)	重要度は低い (-1)	全く 重要ではない (-2)	[重要計]	[重要ではない 計]
全体		3000	21.5	51.1	23.0	3.1	1.3	72.6	4.4
性年代	男性18-29歳	300	22.3	40.7	28.0	6.7	2.3	63.0	9.0
	男性30代	300	19.0	44.0	26.3	7.0	3.7	63.0	10.7
	男性40代	300	16.3	47.3	30.3	4.0	2.0	63.7	6.0
	男性50代	300	21.7	50.0	24.3	3.0	1.0	71.7	4.0
	男性60-79歳	300	20.3	61.3	15.0	3.0	0.3	81.7	3.3
	女性18-29歳	300	21.7	48.3	26.7	1.3	2.0	70.0	3.3
	女性30代	300	26.7	45.7	24.3	3.0	0.3	72.3	3.3
	女性40代	300	19.3	55.7	23.7	1.3	-	75.0	1.3
	女性50代	300	20.0	60.7	18.0	0.7	0.7	80.7	1.3
	女性60-79歳	300	27.7	57.0	13.7	1.3	0.3	84.7	1.7

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■重要度(地域別)「心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成」(Q6SQ1)

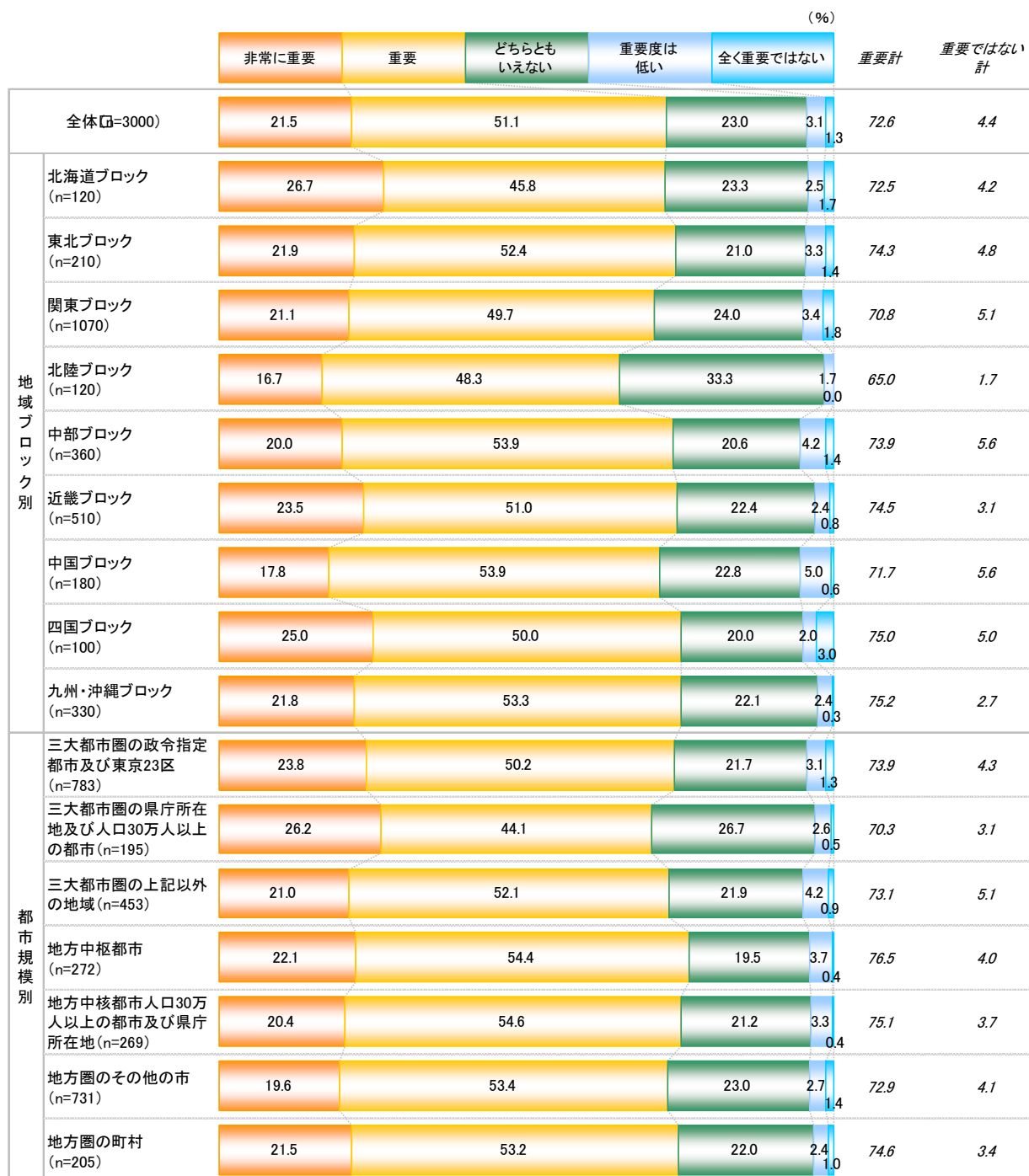
「心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成」に関して、

将来的に重要計は

地域ブロック別で見ると、九州・沖縄ブロック 75.2%、四国ブロック 75.0%、近畿ブロック 74.5%、東北ブロック 74.3%、中部ブロック 73.9%、北海道ブロック 72.5%、中国ブロック 71.7%、関東ブロック 70.8%、北陸ブロック 65.0%。**中国、関東が比較的低く、北陸の低さが目立つ。**

都市規模別で見ると、地方中枢都市 76.5%、地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地 75.1%、地方圏の町村 74.6%、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 73.9%、三大都市圏の上記以外の地域 73.1%、地方圏のその他の市 72.9%、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市 70.3%。**三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市の低さが目立つ。**

Q6SQ1. 将来的に、心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。(○は一つ)



4. 社会資本具体分野別の充足度評価、推進意向

■社会資本具体分野別の充足度(居住地域／日本全体)

安全・安心に関して、【あなたの住む地域(居住地域)】で充足している計は、「河川の施設」33.4%、「命の道」としての高速道路や幹線道路」26.8%、「避難路・避難場所などの施設」24.3%の順。【日本全体】で充足している計は、「命の道」としての高速道路や幹線道路」21.6%、「河川の施設」19.1%、「避難路・避難場所などの施設」17.7%の順。

活力・交流に関して、【あなたの住む地域(居住地域)】で充足している計は、「ETCなどの設備」34.1%、「広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道」「地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)」各 28.5%、「広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路」27.7%の順。【日本全体】で充足している計は、「ETCなどの設備」28.7%、「広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道」28.3%、「高速で大容量の通信ネットワーク」25.2%の順。

心豊かな暮らしに関して、【あなたの住む地域(居住地域)】で充足している計は、「安全でおいしい水を供給する上水道」46.2%、「下水道などの汚水処理施設」41.3%、「恵まれた自然景観」38.5%の順。【日本全体】で充足している計は、「安全でおいしい水を供給する上水道」37.3%、「下水道などの汚水処理施設」32.5%、「恵まれた自然景観」26.6%の順。

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

Q7-2.「日本全体」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

		あなたの住む地域						日本全体					
		(n=3000)						(%)					
		非常に充足している	充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足していない計	非常に充足している	充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足していない計
① 安全・安心	ア) ◎ 河川の施設	2.4	31.0	50.1	13.9	2.6	33.4	16.4	1.7	17.4	55.7	21.9	3.4
	イ) 海岸施設	2.2	19.9	60.0	14.2	3.7	22.1	17.9	1.7	15.6	56.2	21.9	4.5
	ウ) 「命の道」としての高速道路や幹線道路	2.6	24.2	51.1	17.8	4.3	26.8	22.1	1.9	19.7	55.6	19.0	3.8
	エ) 安全性の高い街	1.7	17.0	54.9	22.3	4.1	18.6	26.5	1.7	13.3	56.0	24.6	4.4
	オ) 避難路・避難場所などの施設	2.1	22.2	52.4	19.7	3.5	24.3	23.2	2.0	15.8	56.3	21.9	4.0
	カ) 安全が確保された通学路、歩道	1.8	17.5	52.1	23.5	5.1	19.3	28.7	1.6	12.4	55.9	25.5	4.6
② 活力・交流	キ) 広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	2.5	25.2	51.0	16.6	4.6	27.7	21.3	2.7	22.0	54.6	17.1	3.6
	ク) ETCなどの設備	3.7	30.4	50.6	11.5	3.8	34.1	15.3	3.4	25.3	55.0	13.2	3.1
	ケ) 広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	3.3	25.3	49.2	15.7	6.6	28.5	22.3	3.4	22.9	55.4	14.7	3.6
	コ) 環状道路や放射状の道路	2.1	20.2	50.6	19.6	7.5	22.3	27.1	2.3	18.6	57.4	17.7	4.0
	サ) ● 国際ハブ空港	2.0	14.9	48.2	20.2	14.7	16.8	34.9	2.7	17.4	52.3	21.6	6.0
	シ) ● 遠隔地との交流を実現する空港	2.3	16.1	50.8	18.4	12.5	18.3	30.8	2.8	19.1	55.2	18.1	4.7
	ス) ● 海運を担う港湾	2.3	18.8	54.1	16.2	8.6	21.1	24.8	2.4	19.4	58.4	15.9	3.9
	セ) 地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)	3.8	24.7	48.3	17.9	5.2	28.5	23.1	3.2	20.9	55.7	17.0	3.3
	ソ) 高速で大容量の通信ネットワーク	3.1	22.3	55.6	14.2	4.8	25.4	19.0	3.9	21.3	57.3	13.9	3.6
	タ) ● 中心市街地を活性化化する都市整備	2.6	21.3	52.5	17.9	5.7	23.9	23.6	2.6	21.6	57.5	14.9	3.3
③ 心豊かな暮らし	チ) ◎ 地域の道路	3.1	30.5	49.2	13.7	3.5	33.6	17.3	2.4	21.8	57.1	15.4	3.2
	ツ) 地域の交通機関(鉄道、バス)	4.2	24.6	47.0	18.2	6.0	28.8	24.2	2.4	20.7	55.5	17.6	3.8
	テ) ◎ 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設	3.6	28.3	47.3	17.2	3.6	32.0	20.8	2.5	21.0	56.8	16.5	3.3
	ト) 医療、福祉、子育て、教育文化施設	2.8	23.3	52.0	18.0	3.8	26.1	21.9	2.3	16.1	55.6	21.6	4.4
	ナ) ◎ 安全でおいしい水を供給する上水道	8.2	37.9	43.2	8.4	2.2	46.2	10.6	6.6	30.8	49.3	10.8	2.6
	ニ) ◎ 下水道などの汚水処理施設	5.4	35.9	46.4	9.6	2.7	41.3	12.3	5.3	27.2	53.4	11.5	2.7
	ヌ) ◎ 恵まれた自然景観	5.9	32.6	47.4	11.5	2.6	38.5	14.1	3.0	23.5	58.3	12.2	3.0
	ネ) 質の高い居住・生活空間	2.6	23.2	57.1	13.8	3.4	25.7	17.2	2.5	17.3	60.5	16.4	3.3
	ノ) ● 景観を良くするための無電柱化	1.6	7.8	40.9	26.1	23.6	9.4	49.7	1.4	8.6	48.2	27.0	14.8
	ハ) カフェなど生活を快適にする道路利用	2.0	14.3	54.5	20.7	8.4	16.4	29.1	2.2	13.3	60.9	18.5	5.1

40%～ 30%～39.9% 20%～29.9% 10%～19.9%

●日本全体が地域を上回る

◎地域と日本全体8ポイント以上差

■社会資本具体分野別の推進意向(居住地域／日本全体)

【あなたの住む地域(居住地域)】で充足すべき計は、「安全が確保された通学路、歩道」84.6%、「安全性の高い街」「避難路・避難場所などの施設」各 84.4%、「医療、福祉、子育て、教育文化施設」82.6%、「「命の道」としての高速道路や幹線道路」81.4%、「河川の施設」80.2%の順。

【日本全体】で充足すべき計は、「安全性の高い街」「避難路・避難場所などの施設」各 87.5%、「河川の施設」「安全が確保された通学路、歩道」各 86.6%、「海岸施設」86.4%の順。

Q7-3.「あなたの住む地域」について、インフラ(社会資本)のそれぞれについてどの程度充足・整備していくべきだと思いますか。(それぞれひとつだけ)

Q7-4.「日本全体」について、インフラ(社会資本)のそれぞれについてどの程度充足・整備していくべきだと思いますか。(それぞれひとつだけ)

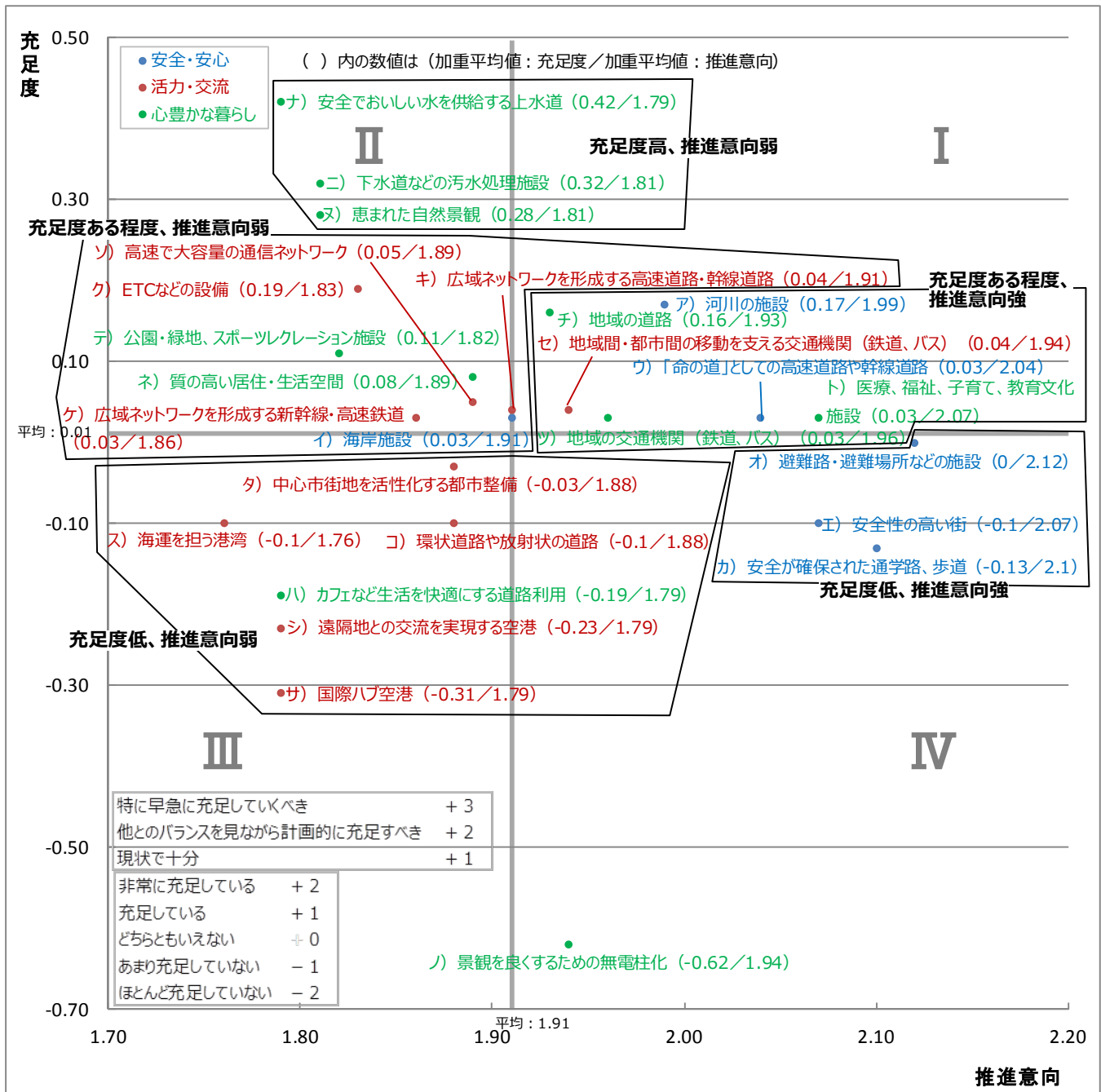
(n=3000)	あなたの住む地域				日本全体			
	(%)				(%)			
	特に早急に充足していくべき	他とのバランスを見ながら計画的に充足すべき	現状で十分	充足すべき計	特に早急に充足していくべき	他とのバランスを見ながら計画的に充足すべき	現状で十分	充足すべき計
ア) 河川の施設	18.7	61.5	19.8	80.2	26.5	60.0	13.4	86.6
イ) 海岸施設	16.4	58.5	25.0	75.0	26.4	60.0	13.6	86.4
ウ) 「命の道」としての高速道路や幹線道路	22.1	59.3	18.6	81.4	27.4	58.9	13.7	86.3
エ) 安全性の高い街	22.5	62.0	15.6	84.4	28.1	59.4	12.5	87.5
オ) 避難路・避難場所などの施設	27.2	57.1	15.6	84.4	29.7	57.8	12.5	87.5
カ) 安全が確保された通学路、歩道	25.1	59.5	15.4	84.6	25.9	60.8	13.4	86.6
キ) 広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	13.8	63.2	23.0	77.0	16.0	65.1	18.8	81.2
ク) ETCなどの設備	10.6	61.7	27.7	72.3	12.8	64.6	22.6	77.4
ケ) 広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	12.2	61.9	25.8	74.2	13.2	65.9	20.9	79.1
コ) 環状道路や放射状の道路	11.4	65.4	23.2	76.8	13.7	67.2	19.0	81.0
サ) 国際ハブ空港	10.9	57.5	31.6	68.4	13.7	62.2	24.1	75.9
シ) 遠隔地との交流を実現する空港	10.1	58.7	31.2	68.8	12.1	62.5	25.5	74.5
ス) 海運を担う港湾	8.7	58.7	32.6	67.4	11.6	64.5	23.9	76.1
セ) 地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)	15.6	62.9	21.5	78.5	14.3	68.1	17.6	82.4
ソ) 高速で大容量の通信ネットワーク	13.0	63.5	23.5	76.5	14.2	65.8	20.0	80.0
タ) 中心市街地を活性化する都市整備	11.0	65.7	23.4	76.6	11.2	67.7	21.1	78.9
チ) 地域の道路	14.6	63.3	22.1	77.9	14.1	68.0	17.9	82.1
ツ) 地域の交通機関(鉄道、バス)	16.9	62.5	20.6	79.4	16.1	67.1	16.8	83.2
テ) 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設	10.4	60.8	28.8	71.2	11.1	66.0	22.9	77.1
ト) 医療、福祉、子育て、教育文化施設	24.4	58.2	17.4	82.6	25.4	60.3	14.3	85.7
ナ) 安全でおいしい水を供給する上水道	12.9	52.9	34.2	65.8	15.0	58.4	26.6	73.4
ニ) 下水道などの汚水処理施設	12.0	56.5	31.5	68.5	13.9	61.9	24.2	75.8
ヌ) 恵まれた自然景観	10.7	59.8	29.5	70.5	13.3	65.2	21.5	78.5
ネ) 質の高い居住・生活空間	11.6	65.6	22.7	77.3	13.0	67.4	19.6	80.4
ノ) 景観を良くするための無電柱化	14.5	64.9	20.6	79.4	14.8	66.8	18.4	81.6
ハ) カフェなど生活を快適にする道路利用	9.2	60.9	29.8	70.2	8.7	65.9	25.4	74.6

■ 84%～ ■ 80%～83.9% ■ 75%～79.9% ■ 70%～74.9%

■社会資本具体分野別の充足度×推進意向(居住地域)(Q7-1、Q7-3)加重平均グラフ

充足度が低いと評価され、推進意向が高いのは、避難路、避難場所、安全性の高い街など。充足度は平均を上回るが推進意向も強いのが、河川の施設、地域の道路、医療、子育て施設、地域間の交通機関、命の道。地域の安全と地域の生活を支える施設への要望が強い。

- ・充足度と推進意向の平均で4象限に分けた。
- ・第Ⅳ象限(充足度が平均を下回り、推進意向が平均を上回る)には、[充足度マイナス、推進意向強]の「オ」避難路・避難場所などの施設「エ」安全性の高い街「カ」安全が確保された通学路、歩道「ノ」無電柱化が属する。
- ・第Ⅰ象限(充足度、推進意向とも平均を上回る)には、[充足度ある程度、推進意向強]の「ア」河川の施設「チ」地域の道路「セ」地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)「ウ」命の道としての高速道路や幹線道路「ト」医療、福祉、子育て、教育文化施設「ツ」地域の交通機関(鉄道、バス)が属する。
- ・第Ⅱ象限(充足度が平均を上回り、推進意向が平均を下回る)には、[充足度高、推進意向弱]の「ナ」上水道「ニ」下水道「ヌ」自然景観。そして、[充足度ある程度、推進意向弱]の「ク」ETCなどの設備「ケ」広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道が属する。
- ・第Ⅲ象限(充足度、推進意向とも平均を下回る)には、[充足度低、推進意向弱]の「タ」中心市街地を活性化する都市整備「ス」海運を担う港湾「コ」環状道路や放射状の道路「ハ」カフェなど生活を快適にする道路利用「シ」遠隔地との交流を実現する空港「サ」国際ハブ空港が属する。

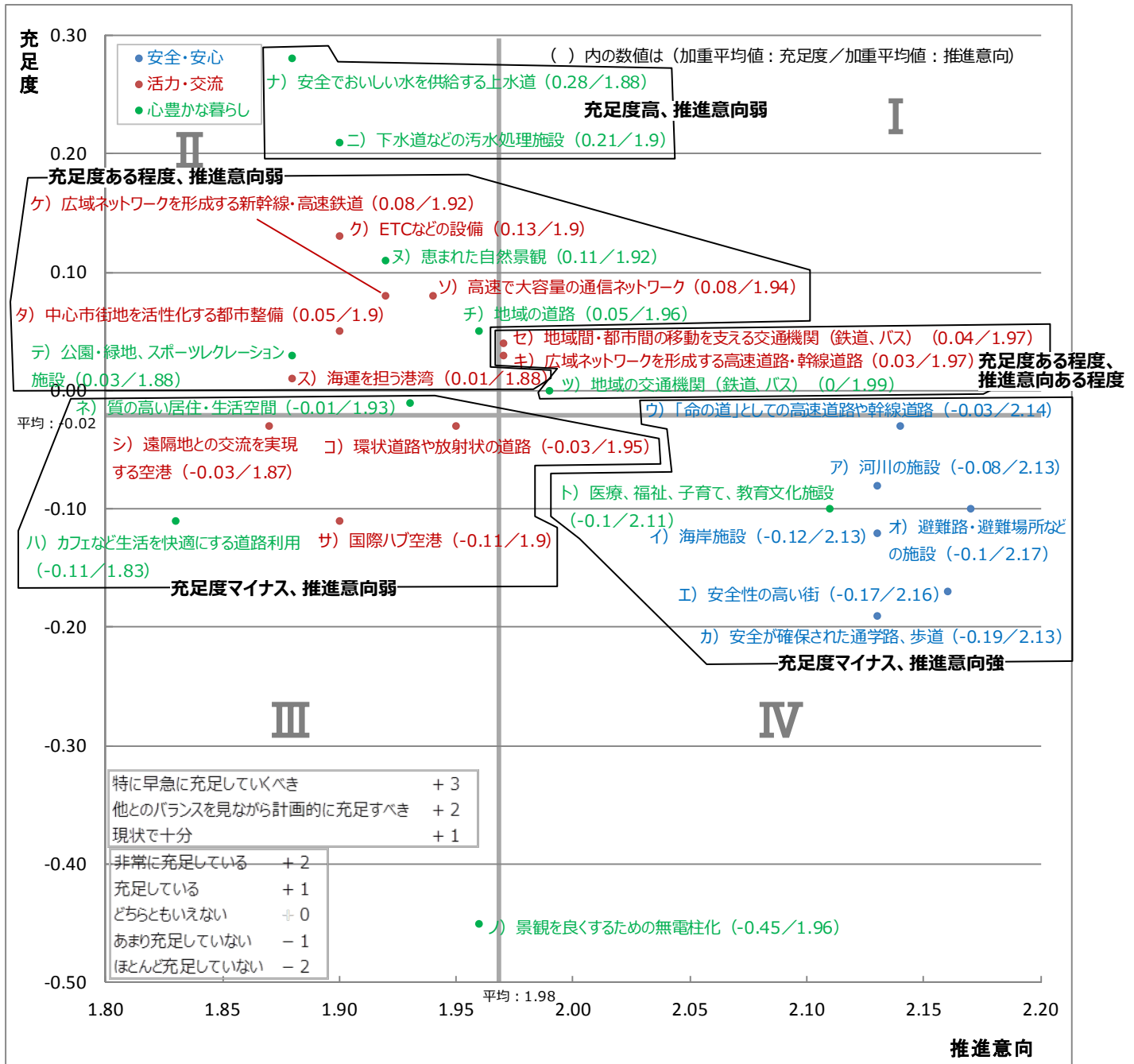


・非常に充足している2、充足している1、どちらともいえない0、充足していない-1、全く充足していない-2で、回答割合をかけた加重平均をとった。

■社会資本具体分野別の充足度×推進意向(日本全体)(Q7-2、Q7-4)加重平均グラフ

「充足度評価が低く、推進意向が強い」のは、命の道、河川の施設、医療、子育て施設、海岸施設、避難路など安全・安心に関わる施設が中心。「充足度ある程度、推進意向ある程度」は、地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)、高速道路・幹線道路、地域の交通機関など、広域の生活と地域を支える施設。日本全体では広域の生活を支える(地域間の交流を支える)施設の推進意向が居住地域より高いとの特徴がある。

- ・ 充足度と推進意向の平均で4象限に分けた。
- ・ 第Ⅳ象限(充足度が平均を下回り、推進意向が平均を上回る)には、[充足度マイナス、推進意向強]の「ウ)命の道としての高速道路や幹線道路」「ア)河川の施設」「イ)海岸施設」「オ)避難路・避難場所などの施設」「ト)医療、福祉、子育て、教育文化施設」「エ)安全性の高い街」「カ)安全が確保された通学路、歩道」などが属する。
- ・ 第Ⅰ象限(充足度は平均を上回るが、推進意向も平均を上回る)には、[充足度ある程度、推進意向ある程度]の「セ)地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)」「キ)高速道路・幹線道路」「ツ)地域の交通機関(鉄道、バス)」が属する。
- ・ 第Ⅱ象限(充足度が平均を上回り、推進意向が平均を下回る)には、[充足度高、推進意向弱]の「ナ)上水道」「ニ)下水道」、そして、[充足度ある程度、推進意向弱]の「ケ)新幹線・高速鉄道」「ク)ETC」「ヌ)自然景観」「ソ)高速大容量通信ネットワーク」「チ)地域の道路」「タ)中心市街地を活性化」「テ)公園・緑地、レク施設」「ス)港湾」が属する。
- ・ 第Ⅲ象限(充足度は平均を下回るが、推進意向も平均を下回る)には、[充足度マイナス、推進意向弱]の「コ)環状道路や放射状の道路」「シ)遠隔地との交流を実現する空港」「サ)国際ハブ空港」「ハ)カフェなど生活を快適にする道路利用」などが属する。



・ 非常に充足している2、充足している1、どちらともいえない0、充足していない-1、全く充足していない-2で、回答割合をかけた加重平均をとった。

4-1.社会資本具体分野別の充足度評価、推進意向(居住地域)属性分析

■社会資本具体分野別の充足度評価(居住地域)属性分析1 ●安全・安心<性・年代別>

安全・安心に関して【住む地域】で充足している計は、

性別で見ると、男性、女性で大きな差は見られない。

年代別で見ると、60～70代で「ア）河川の施設」が他の層を上回っている。

性年代別で見ると、男性18歳～20代で「ウ）「命の道」としての高速道路や幹線道路」「エ）安全性の高い街」「オ）避難路・避難場所などの施設」「カ）安全が確保された通学路、歩道」が上回っている。男性60～70代では「ア）河川の施設」が他の層を上回っている。一方で、女性18歳～20代、女性30代では他の層を下回っている。

世帯構成別で見ると、目立った差異は見られない。

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

			●安全・安心						(%)
			n	ア)河川 の施設	イ)海岸 施設	ウ)「命の 道」として の高速道 路や幹線 道路	エ)安全 性の高い 街	オ)避難 路・避難 場所など の施設	カ)安全 が確保さ れた通学 路、歩道
充足している計									
全体			3000	33.4	22.1	26.8	18.6	24.3	19.3
性別	男性	1500	36.5	23.9	28.6	19.3	23.7	18.8	
	女性	1500	30.4	20.3	25.0	17.9	24.9	19.7	
年代	10～20代	600	28.7	23.3	28.3	22.7	28.3	23.5	
	30代	600	28.7	20.3	24.2	17.0	24.0	17.8	
	40代	600	32.0	20.7	23.0	16.2	24.0	17.3	
	50代	600	37.7	22.7	30.7	18.8	21.8	18.0	
	60～70代	600	40.2	23.5	27.8	18.5	23.5	19.7	
性年代	男性18-29歳	300	34.7	26.7	34.3	26.0	32.0	27.7	
	男性30代	300	31.3	23.0	26.7	20.3	26.0	20.0	
	男性40代	300	34.7	21.7	22.0	14.7	20.0	15.3	
	男性50代	300	38.3	25.3	31.7	17.7	19.0	15.0	
	男性60-79歳	300	43.3	23.0	28.3	18.0	21.7	16.0	
	女性18-29歳	300	22.7	20.0	22.3	19.3	24.7	19.3	
	女性30代	300	26.0	17.7	21.7	13.7	22.0	15.7	
	女性40代	300	29.3	19.7	24.0	17.7	28.0	19.3	
	女性50代	300	37.0	20.0	29.7	20.0	24.7	21.0	
	女性60-79歳	300	37.0	24.0	27.3	19.0	25.3	23.3	
世帯構成	1人世帯	631	29.3	20.8	25.4	17.6	24.1	20.1	
	1世代世帯(夫婦のみ)	672	35.3	22.2	27.4	18.8	24.1	19.2	
	2世代世帯(親と子)	1438	34.8	22.4	27.3	19.1	24.9	19.2	
	3世代世帯(親と子と孫)	202	33.7	25.7	29.2	19.8	23.8	20.3	

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会資本具体分野別の充足度評価(居住地域)属性分析2 ●活力・交流〈性・年代別〉

活力・交流に関して【住む地域】で充足している計は、性別で見ると、男性、女性で大きな差は見られない。

年代別で見ると、10～20代で「サ）国際ハブ空港」「シ）遠隔地との交流を実現する空港」が他の層を上回っている。

性年代別で見ると、男性 18～20代で「ケ）新幹線・高速鉄道」「コ）環状道路や放射状の道路」「サ）国際ハブ空港」「シ）遠隔地との交流を実現する空港」「セ）地域間・都市間の移動交通機関」「ソ）高速通信ネットワーク」「タ）中心市街地を活性化」、女性 60～70代でも「セ）地域間・都市間の移動交通機関」は高め。

世帯構成別で見ると、目立った差異は見られない。

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

(%)

充足している計		n	●活力・交流									
			キ)広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	ク)ETCなどの設備	ケ)広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	コ)環状道路や放射状の道路	サ)国際ハブ空港	シ)遠隔地との交流を実現する空港	ス)海運を担う港湾	セ)地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)	ソ)高速で大容量の通信ネットワーク	タ)中心市街地を活性化する都市整備
全体		3000	27.7	34.1	28.5	22.3	16.8	18.3	21.1	28.5	25.4	23.9
性別	男性	1500	28.7	34.8	29.3	23.8	17.5	18.7	22.9	28.4	26.8	24.2
	女性	1500	26.8	33.4	27.8	20.9	16.2	17.9	19.3	28.7	24.1	23.6
年代	10～20代	600	28.3	36.5	31.2	23.3	22.3	23.7	19.5	31.5	27.2	26.7
	30代	600	28.0	35.0	27.5	23.5	18.3	19.2	20.5	25.8	26.2	23.3
	40代	600	25.3	32.5	25.7	20.7	14.8	16.3	18.7	25.5	23.2	22.3
	50代	600	28.3	32.0	28.7	19.7	13.2	14.8	21.3	27.3	25.0	22.0
	60～70代	600	28.7	34.5	29.7	24.5	15.5	17.7	25.5	32.5	25.7	25.2
性年代	男性18-29歳	300	30.0	38.3	33.7	28.0	25.7	28.7	24.0	35.0	33.0	29.7
	男性30代	300	31.7	36.3	29.3	26.7	21.0	20.7	24.0	25.0	28.7	26.7
	男性40代	300	23.7	32.0	24.7	20.3	15.0	15.7	19.3	24.3	22.3	22.3
	男性50代	300	28.3	31.0	29.3	18.0	12.7	12.3	21.7	26.3	26.7	20.7
	男性60-79歳	300	29.7	36.3	29.3	26.0	13.0	16.3	25.7	31.3	23.3	21.7
	女性18-29歳	300	26.7	34.7	28.7	18.7	19.0	18.7	15.0	28.0	21.3	23.7
	女性30代	300	24.3	33.7	25.7	20.3	15.7	17.7	17.0	26.7	23.7	20.0
	女性40代	300	27.0	33.0	26.7	21.0	14.7	17.0	18.0	26.7	24.0	22.3
	女性50代	300	28.3	33.0	28.0	21.3	13.7	17.3	21.0	28.3	23.3	23.3
	女性60-79歳	300	27.7	32.7	30.0	23.0	18.0	19.0	25.3	33.7	28.0	28.7
世帯構成	1人世帯	631	27.1	32.5	29.0	21.1	18.2	19.8	22.3	30.3	25.5	24.4
	1世代世帯(夫婦のみ)	672	27.4	31.8	26.2	24.6	17.7	18.8	22.9	29.0	25.1	25.0
	2世代世帯(親と子)	1438	29.1	36.5	30.0	22.2	16.6	18.4	20.2	28.5	26.0	24.1
	3世代世帯(親と子と孫)	202	26.2	36.1	29.2	23.8	14.4	15.8	21.8	25.2	25.2	21.8

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

社会資本具体分野別の充足度評価(居住地域)属性分析3 ●心豊かな暮らし<性・年代別>

心豊かな暮らしに関して【住む地域】で充足している計は、

性別で見ると、**総じて大きな差異は見られない**が、「ヌ) 恵まれた自然景観」は女性より男性が上回っている。

年代別で見ると、60～70代では「ナ) 上水道」「ニ) 下水道」が他の層を上回っている。10～20代で「ハ) カフェなど生活を快適にする道路利用」が他の層を上回っている。

一方、10～20代で「ナ) 上水道」「ニ) 下水道」が他の層を下回っている。

性年代別で見ると、女性 60～70代で「チ) 地域の道路」「ツ) 地域の交通機関」「テ) 公園・緑地、スポーツ施設」が他の層を上回っている。女性 50代～70代では「ナ) 上水道」「ニ) 下水道」が特に高く、年代が下がるほど低くなる傾向が見られる。女性 40代～70代では「ヌ) 恵まれた自然景観」も高い。

世帯構成別で見ると、3世代世帯(親と子と孫)で「チ) 地域の道路」「ツ) 地域の交通機関」「テ) 公園・緑地、スポーツ施設」「ト) 医療、福祉、教育文化施設」が他の層を下回っている。

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

充足している計			n	●心豊かな暮らし										(%)
				チ) 地域の道路	ツ) 地域の交通機関(鉄道、バス)	テ) 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設	ト) 医療、福祉、子育て、教育文化施設	ナ) 安全でおいしい水を供給する上水道	ニ) 下水道などの汚水処理施設	ヌ) 恵まれた自然景観	ネ) 質の高い居住・生活空間	ノ) 景観を良くするための無電柱化	ハ) カフェなど生活を快適にする道路利用	
全体			3000	33.6	28.8	32.0	26.1	46.2	41.3	38.5	25.7	9.4	16.4	28.5
性別	男性	1500	31.9	27.8	29.5	25.1	44.3	40.4	34.8	25.5	10.1	16.9	29.7	
	女性	1500	35.2	29.8	34.5	27.1	48.0	42.3	42.2	25.9	8.7	15.8	27.3	
年代	10～20代	600	33.2	30.5	34.3	30.5	39.7	35.0	35.8	29.8	14.2	25.2	27.7	
	30代	600	32.2	26.2	30.3	26.2	42.5	37.8	35.5	25.0	11.0	17.8	31.5	
	40代	600	31.5	26.2	29.5	24.5	44.0	40.8	40.5	24.2	8.7	12.8	31.0	
	50代	600	32.8	28.0	29.5	23.5	48.8	42.0	38.0	25.2	6.7	13.5	28.0	
	60～70代	600	38.2	33.2	36.2	26.0	55.8	51.0	42.7	24.5	6.3	12.5	24.3	
性年代	男性18-29歳	300	35.3	34.3	33.7	30.0	39.3	39.3	35.0	32.0	16.7	29.3	25.3	
	男性30代	300	31.7	26.7	27.3	26.3	40.7	37.0	31.7	26.3	12.7	20.0	33.0	
	男性40代	300	30.3	23.3	27.0	22.7	42.3	38.7	35.0	23.0	8.7	12.3	34.3	
	男性50代	300	30.0	24.3	26.3	22.7	44.7	37.7	31.7	22.3	7.0	11.3	29.7	
	男性60-79歳	300	32.3	30.3	33.0	24.0	54.7	49.3	40.7	24.0	5.3	11.7	26.0	
	女性18-29歳	300	31.0	26.7	35.0	31.0	40.0	30.7	36.7	27.7	11.7	21.0	30.0	
	女性30代	300	32.7	25.7	33.3	26.0	44.3	38.7	39.3	23.7	9.3	15.7	30.0	
	女性40代	300	32.7	29.0	32.0	26.3	45.7	43.0	46.0	25.3	8.7	13.3	27.7	
	女性50代	300	35.7	31.7	32.7	24.3	53.0	46.3	44.3	28.0	6.3	15.7	26.3	
	女性60-79歳	300	44.0	36.0	39.3	28.0	57.0	52.3	44.7	25.0	7.3	13.3	22.7	
世帯構成	1人世帯	631	31.9	30.1	29.6	26.3	42.8	37.7	33.8	24.4	11.9	18.5	31.9	
	1世代世帯(夫婦のみ)	672	34.2	29.6	34.8	25.7	49.3	45.2	39.6	26.5	8.6	16.1	26.6	
	2世代世帯(親と子)	1438	35.3	29.0	33.0	27.9	46.7	41.9	39.6	26.4	8.6	16.1	27.5	
	3世代世帯(親と子と孫)	202	27.7	23.8	26.7	18.3	49.0	41.1	46.5	26.2	10.4	13.9	24.8	

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

社会資本具体分野別の充足度評価(居住地域)属性分析4 ●安全・安心(地域別)

安全・安心に関して【住む地域】で充足している計は、

地域ブロック別で見ると、四国ブロックで総じて低くなっている。北海道ブロックで「ア)河川の施設」「イ)海岸施設」「ウ)「命の道」としての高速道路や幹線道路」が他の地域を下回っている。

都市規模別で見ると、地方中枢都市で「イ)海岸施設」「ウ)「命の道」としての高速道路や幹線道路」「エ)安全性の高い街」「オ)避難路・避難場所などの施設」が他の地域類型を上回っている。

一方、地方圏の町村で「ア)河川の施設」「イ)海岸施設」「ウ)「命の道」としての高速道路や幹線道路」「エ)安全性の高い街」が他の層を下回っている。

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

		(%)						
充足している計		n	●安全・安心					
			ア)河川の施設	イ)海岸施設	ウ)「命の道」としての高速道路や幹線道路	エ)安全性の高い街	オ)避難路・避難場所などの施設	カ)安全が確保された通学路、歩道
全体		3000	33.4	22.1	26.8	18.6	24.3	19.3
地域ブロック別	北海道ブロック	120	28.3	18.3	21.7	20.0	27.5	21.7
	東北ブロック	210	32.4	22.4	28.6	20.5	25.7	19.5
	関東ブロック	1070	34.2	21.1	27.3	18.7	25.2	19.7
	北陸ブロック	120	35.8	20.8	26.7	14.2	20.8	19.2
	中部ブロック	360	32.2	19.7	27.8	17.5	21.9	15.6
	近畿ブロック	510	35.3	22.2	27.3	20.2	26.3	20.4
	中国ブロック	180	33.3	26.7	27.2	16.1	20.6	18.3
	四国ブロック	100	28.0	21.0	15.0	13.0	17.0	13.0
	九州・沖縄ブロック	330	32.7	27.3	27.6	20.3	24.5	21.5
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	783	38.1	26.1	31.8	22.2	28.9	22.0
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	195	33.3	24.1	28.2	21.5	24.6	20.0
	三大都市圏の上記以外の地域	453	33.1	17.9	26.3	18.8	23.2	18.3
	地方中枢都市(札幌、仙台、広島、福岡、北九)	272	36.4	27.9	34.6	25.4	30.9	23.2
	地方中核都市(人口30万人以上の都市及び県庁所在地)	269	34.2	22.3	26.4	17.8	20.8	16.0
	地方圏のその他の市	731	32.1	21.6	23.7	15.5	21.3	18.9
	地方圏の町村	205	26.8	15.1	18.0	12.7	24.9	16.6

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会資本具体分野別の充足度評価(居住地域)属性分析5 ●活力・交流(地域別)

活力・交流に関して【住む地域】で充足している計は、

地域ブロック別で見ると、四国ブロックでは、総じて他を下回っている。北海道ブロックで「ケ」新幹線・高速鉄道」「キ」高速道路・幹線道路」が特に低い。三大都市圏以外の地域ブロックでは、「コ」環状道路や放射状の道路」「セ」地域間・都市間の移動交通機関」「タ」中心市街地を活性化」が低い。北陸ブロックでは、このほか「サ」国際ハブ空港」「シ」遠隔地との交流を実現する空港」「ソ」高速通信ネットワーク」が低い。四国ブロックで総じて低くなっている。

都市規模別で見ると、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区で総じて高く、特に「ケ」新幹線・高速鉄道」「コ」環状道路や放射状の道路」「セ」地域間・都市間の移動交通機関」「ソ」高速通信ネットワーク」「タ」中心市街地を活性化」は大きく上回っている。地方中核都市でも総じて高めの傾向。

一方、地方圏のその他の市・町村では総じて低く、とりわけ地方圏の町村で低い。地方中核都市でも「サ」国際ハブ空港」「シ」遠隔地との交流を実現する空港」「コ」環状道路や放射状の道路」「セ」地域間・都市間の移動交通機関」「ソ」高速通信ネットワーク」「タ」中心市街地を活性化」が他の層を下回っている。

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

		●活力・交流										(%)
充足している計		n	キ)広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	ク)ETCなどの設備	ケ)広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	コ)環状道路や放射状の道路	サ)国際ハブ空港	シ)遠隔地との交流を実現する空港	ス)海運を担う港湾	セ)地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)	ソ)高速で大容量の通信ネットワーク	タ)中心市街地を活性化する都市整備
全体		3000	27.7	34.1	28.5	22.3	16.8	18.3	21.1	28.5	25.4	23.9
地域ブロック別	北海道ブロック	120	14.2	25.8	10.0	10.7	15.0	15.8	19.2	20.0	20.8	20.8
	東北ブロック	210	28.1	29.0	29.0	15.7	12.9	14.8	22.4	21.0	23.8	18.6
	関東ブロック	1070	28.5	33.8	30.2	26.6	18.1	19.3	19.3	32.1	28.0	27.4
	北陸ブロック	120	22.5	32.5	26.7	15.8	9.2	10.0	20.8	19.2	16.7	12.5
	中部ブロック	360	31.4	37.8	31.1	24.7	18.9	18.6	22.2	25.0	24.4	21.4
	近畿ブロック	510	31.2	38.6	30.8	23.9	19.6	19.6	22.0	33.7	26.9	26.9
	中国ブロック	180	26.7	31.1	29.4	15.0	9.4	16.1	21.7	22.8	21.7	18.3
	四国ブロック	100	12.0	25.0	12.0	9.0	8.0	8.0	18.0	18.0	17.0	14.0
	九州・沖縄ブロック	330	27.9	35.2	28.5	20.0	18.8	23.6	24.8	30.6	26.4	25.5
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	783	34.4	41.9	39.0	35.1	25.4	25.8	26.7	41.6	36.0	38.2
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	195	28.7	33.3	28.7	24.1	18.5	22.1	20.0	31.3	26.7	24.1
	三大都市圏の上記以外の地域	453	27.8	34.9	26.7	23.0	18.3	19.6	19.6	30.7	24.7	22.1
	地方中核都市(札幌、仙台、広島、福岡、北九)	272	33.1	36.0	33.5	25.0	22.8	26.1	26.8	37.1	33.5	33.7
	地方中核都市(人口30万人以上の都市及び県庁所在地)	269	27.9	36.4	28.6	15.6	7.8	8.6	19.7	22.3	21.2	17.1
	地方圏のその他の市	731	22.0	30.6	23.0	14.5	11.5	13.0	19.0	19.2	18.5	15.5
	地方圏の町村	205	20.0	21.5	16.1	10.2	7.3	10.7	11.7	11.2	13.7	8.8

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

三大都市圏以外の地域ブロックは平均より低い

■社会資本具体分野別の充足度評価(居住地域)属性分析6 ●心豊かな暮らし(地域別)

心豊かな暮らしに関して【住む地域】で充足している計は、地域ブロック別で見ると、北陸ブロックで「ツ）地域の交通機関」、四国ブロックで「ツ）地域の交通機関」「テ）公園・緑地、スポーツ施設」「ニ）下水道」が他の層を下回っている。

都市規模別で見ると、三大都市圏の政令指定都市及び東京23区で「チ）地域の道路」「ツ）地域の交通機関」「テ）公園・緑地、スポーツ施設」「ト）医療、福祉、教育文化施設」「ナ）上水道」「ニ）下水道」、地方中核都市で「チ）地域の道路」「ツ）地域の交通機関」「テ）公園・緑地、スポーツ施設」「ト）医療、福祉、教育文化施設」「ナ）上水道」「ニ）下水道」「ヌ）恵まれた自然景観」「ネ）質の高い居住・生活空間」、地方中核都市・地方圏のその他の市・町村で「ヌ）恵まれた自然景観」が他の層を上回っている。

地方中核都市・地方圏のその他の市・町村で「チ）地域の道路」「ツ）地域の交通機関」、地方圏のその他の市・町村で「ト）医療、福祉、教育文化施設」、地方圏の町村で「ニ）下水道」が他の層を下回っている。

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

(%)

		n	●心豊かな暮らし										ひとつもない
			チ) 地域の道路	ツ) 地域の交通機関(鉄道、バス)	テ) 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設	ト) 医療、福祉、子育て、教育文化施設	ナ) 安全でおいしい水を供給する上水道	ニ) 下水道などの污水处理施設	ヌ) 恵まれた自然景観	ネ) 質の高い居住・生活空間	ノ) 景観を良くするための無電柱化	ハ) カフェなど生活を快適にする道路利用	
全体		3000	33.6	28.8	32.0	26.1	46.2	41.3	38.5	25.7	9.4	16.4	28.5
地域ブロック別	北海道ブロック	120	29.2	22.5	35.0	29.2	51.7	42.5	52.5	27.5	10.0	15.0	28.3
	東北ブロック	210	26.2	19.0	27.6	20.0	45.7	34.8	44.8	22.4	7.6	14.8	31.4
	関東ブロック	1070	36.3	34.7	34.6	28.0	44.8	44.2	33.0	25.3	10.1	17.6	27.9
	北陸ブロック	120	28.3	13.3	27.5	19.2	48.3	45.8	48.3	27.5	4.2	12.5	26.7
	中部ブロック	360	31.7	24.4	31.9	25.3	46.4	35.6	38.3	24.4	11.1	17.2	30.8
	近畿ブロック	510	37.1	34.9	32.5	25.5	46.9	44.3	32.2	25.5	8.2	17.5	30.8
	中国ブロック	180	31.1	21.1	25.0	24.4	45.0	36.7	43.9	26.7	11.1	12.8	27.8
	四国ブロック	100	25.0	15.0	19.0	23.0	44.0	29.0	41.0	27.0	8.0	14.0	31.0
	九州・沖縄ブロック	330	33.6	27.6	33.6	29.1	48.2	42.1	50.0	28.8	9.1	15.5	22.7
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	783	45.1	44.7	38.6	33.0	49.4	49.2	25.4	28.2	13.3	22.9	27.1
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	195	35.9	31.8	31.3	27.2	43.6	43.6	40.0	25.1	7.2	17.4	28.7
	三大都市圏の上記以外の地域	453	34.7	33.3	33.8	26.0	45.0	43.5	39.5	26.9	7.7	16.1	28.5
	地方中核都市(札幌、仙台、広島、福岡、北九州)	272	42.6	36.8	38.2	36.0	54.8	46.3	42.6	33.5	12.1	19.9	21.3
	地方中核都市(人口30万人以上の都市及び県庁所在地)	269	24.2	19.7	31.6	23.0	49.8	39.4	46.8	25.7	6.7	13.4	27.5
	地方圏のその他の市	731	27.1	15.9	27.1	20.8	44.0	37.2	46.5	23.4	8.1	13.0	26.7
	地方圏の町村	205	20.5	11.7	24.4	17.6	44.4	27.3	49.8	19.5	7.3	7.8	30.7

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

規模が小さくなるほど「充足している」が高い。地域ブロック間の差が大きい。

平均よりは高い。

社会資本具体分野別の充足度評価(居住地域)属性分析7 ●安全・安心<性・年代別>

安全・安心に関して【住む地域】で充足していない計は、

性別および年代別で見ると、男性、女性で大きな差は見られない。

性年代別で見ると、女性 18 歳～20 代で「ア)河川の施設」「ウ)「命の道」としての高速道路や幹線道路」が他の層を上回っている。

世帯構成別で見ると、3世代世代(親と子と孫)で「オ)避難路・避難場所などの施設」が他の層を上回っている。

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

			(%)						
			●安全・安心						
			ア)河川の施設	イ)海岸施設	ウ)「命の道」としての高速道路や幹線道路	エ)安全性の高い街	オ)避難路・避難場所などの施設	カ)安全が確保された通学路、歩道	
充足していない計			n						
全体			3000	16.4	17.9	22.1	26.5	23.2	28.7
性別	男性	1500	15.5	18.0	21.7	25.5	23.1	28.9	
	女性	1500	17.3	17.7	22.5	27.5	23.4	28.4	
年代	10～20代	600	19.5	20.3	23.3	26.5	21.0	27.2	
	30代	600	18.3	17.8	22.3	26.0	22.5	27.8	
	40代	600	15.7	18.5	23.7	26.3	22.8	31.2	
	50代	600	16.7	18.7	23.2	29.0	26.5	30.0	
	60～70代	600	12.0	14.0	18.0	24.5	23.3	27.2	
性年代	男性18-29歳	300	16.7	20.7	19.3	22.3	18.3	25.7	
	男性30代	300	17.3	17.3	21.0	25.3	22.0	25.7	
	男性40代	300	13.7	17.0	24.3	25.3	23.7	31.7	
	男性50代	300	17.7	20.0	24.7	30.3	27.3	31.0	
	男性60-79歳	300	12.3	15.0	19.3	24.0	24.0	30.7	
	女性18-29歳	300	22.3	20.0	27.3	30.7	23.7	28.7	
	女性30代	300	19.3	18.3	23.7	26.7	23.0	30.0	
	女性40代	300	17.7	20.0	23.0	27.3	22.0	30.7	
	女性50代	300	15.7	17.3	21.7	27.7	25.7	29.0	
	女性60-79歳	300	11.7	13.0	16.7	25.0	22.7	23.7	
Q34. 世帯構成	1人世帯	631	16.8	18.7	22.3	26.1	23.9	27.1	
	1世代世帯(夫婦のみ)	672	15.5	17.6	21.4	26.9	22.9	30.1	
	2世代世帯(親と子)	1438	16.2	17.5	21.9	26.5	22.2	28.6	
	3世代世帯(親と子と孫)	202	19.3	19.3	26.7	27.7	29.7	32.2	

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会資本具体分野別の充足度評価(居住地域)属性分析8 ●活力・交流〈性・年代別〉

活力・交流に関して、【住む地域】で充足していない計は、

性別で見ると、**男性、女性で大きな差は見られない。**

年代別で見ると、50代で「サ）国際ハブ空港」「シ）遠隔地との交流を実現する空港」が他の層を上回っている。

性年代別で見ると、男性50代～60代で「コ）環状道路や放射状の道路」「サ）国際ハブ空港」「シ）遠隔地との交流を実現する空港」、「タ）中心市街地を活性化」、男性60～70代で「サ）国際ハブ空港」が他の層を上回っている。

女性18～20代で「ソ）高速通信ネットワーク」、女性40代で「ス）海運を担う港湾」が他の層を上回っている。

世帯構成別で見ると、3世代世帯（親と子と孫）で総じて高い。

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）

(%)

充足していない計			n	●活力・交流									
				キ) 広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	ク) ETCなどの設備	ケ) 広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	コ) 環状道路や放射状の道路	サ) 国際ハブ空港	シ) 遠隔地との交流を実現する空港	ス) 海運を担う港湾	セ) 地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)	ソ) 高速で大容量の通信ネットワーク	タ) 中心市街地を活性化する都市整備
全体			3000	21.3	15.3	22.3	27.1	34.9	30.8	24.8	23.1	19.0	23.6
性別	男性	1500	21.1	15.6	22.8	27.5	35.2	30.1	24.0	23.0	19.1	24.3	
	女性	1500	21.5	15.1	21.8	26.7	34.7	31.6	25.5	23.3	18.9	23.0	
年代	10～20代	600	18.2	14.2	19.7	23.8	27.2	24.0	24.0	19.3	21.2	21.0	
	30代	600	20.8	13.7	23.0	25.5	33.7	30.0	25.3	21.7	18.2	23.3	
	40代	600	24.8	18.0	23.3	27.5	35.8	32.3	25.8	26.3	19.5	26.3	
	50代	600	24.0	17.5	23.2	31.0	41.2	35.3	27.7	25.5	19.8	26.2	
	60～70代	600	18.5	13.3	22.3	27.7	36.8	32.5	21.0	22.8	16.3	21.3	
性年代	男性18-29歳	300	16.0	14.3	19.3	20.0	21.3	19.0	20.7	16.3	17.3	17.7	
	男性30代	300	18.7	13.7	22.3	25.3	32.7	29.3	25.0	22.0	16.7	22.7	
	男性40代	300	26.0	17.7	22.0	26.7	34.7	30.7	21.3	26.0	19.0	25.3	
	男性50代	300	25.7	18.7	24.3	34.7	44.0	36.7	29.3	25.0	23.3	30.0	
	男性60-79歳	300	19.0	13.7	26.0	31.0	43.3	24.7	23.7	25.7	19.3	25.7	
	女性18-29歳	300	20.3	14.0	20.0	27.7	33.0	29.0	27.3	22.3	25.0	24.3	
	女性30代	300	23.0	13.7	23.7	25.7	34.7	30.7	25.7	21.3	19.7	24.0	
	女性40代	300	23.7	18.3	24.7	28.3	37.0	34.0	30.3	26.7	20.0	27.3	
	女性50代	300	22.3	16.3	22.0	27.3	38.3	34.0	26.0	26.0	16.3	22.3	
	女性60-79歳	300	18.0	13.0	18.7	24.3	30.3	30.3	18.3	20.0	13.3	17.0	
世帯構成	1人世帯	631	20.8	15.1	22.7	26.6	31.7	30.0	25.0	22.0	18.5	23.8	
	1世代世帯(夫婦のみ)	672	22.0	15.2	22.8	27.7	37.5	31.7	24.0	22.5	17.3	21.3	
	2世代世帯(親と子)	1438	20.7	14.7	21.6	26.2	34.8	30.2	24.8	23.4	19.0	23.9	
	3世代世帯(親と子と孫)	202	24.3	20.8	25.7	34.2	39.1	36.1	27.2	28.2	26.2	30.2	

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

社会資本具体分野別の充足度評価(居住地域)属性分析9 ●心豊かな暮らし<性・年代別>

心豊かな暮らしに関して【住む地域】で充足していない計は、性別で見ると、**男性、女性で差は見られない。**

年代別で見ると、**60～70代で「ノ」無電柱化」に対する反応がかなり高い。40代では「ツ」地域の交通機関」も他の年代を上回っている。**

性年代別で見ると、「ノ」無電柱化」は、男性 60～70 代、女性 60～70 代のいずれにも高くなっている。「ツ」地域の交通機関」は、男性 40 代、女性 40 代いずれも他の年代を上回っている。このほか、男性 50 代では「ト」医療、福祉、教育文化施設」「ヌ）恵まれた自然景観」が他の年代を上回っている。

世帯構成別で見ると、3世代世帯(親と子と孫)で「チ」地域の道路」「ツ」地域の交通機関」「テ）公園・緑地、スポーツレクリエーション施設」「ト）医療、福祉、教育文化施設」「ハ）カフェなど生活を快適にする道路利用」への反応が他の世帯に比べて高い。

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

充足していない計		n	●心豊かな暮らし										(%)
			チ) 地域の道路	ツ) 地域の交通機関(鉄道、バス)	テ) 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設	ト) 医療、福祉、子育て、教育文化施設	ナ) 安全でおいしい水を供給する上水道	ニ) 下水道などの汚水処理施設	ヌ) 恵まれた自然景観	ネ) 質の高い居住・生活空間	ノ) 景観を良くするための無電柱化	ハ) カフェなど生活を快適にする道路利用	
全体		3000	17.3	24.2	20.8	21.9	10.6	12.3	14.1	17.2	49.7	29.1	30.9
性別	男性	1500	17.3	24.1	20.8	21.0	11.8	13.7	16.3	17.8	47.7	28.6	31.1
	女性	1500	17.2	24.4	20.7	22.7	9.5	10.9	11.8	16.5	51.7	29.6	30.7
年代	10～20代	600	16.2	18.7	23.0	19.8	12.5	12.7	16.5	16.5	39.2	23.8	34.7
	30代	600	16.3	24.0	18.2	19.8	9.8	11.2	13.0	17.3	44.3	28.2	34.3
	40代	600	18.7	29.5	21.0	22.2	9.7	11.3	11.7	15.0	46.8	31.5	33.5
	50代	600	18.7	26.7	22.7	25.8	12.3	14.2	14.7	18.5	54.3	31.0	29.0
	60～70代	600	16.5	22.3	19.0	21.7	8.8	12.2	14.5	18.5	63.8	31.0	23.0
性年代	男性18-29歳	300	13.3	15.3	21.0	18.7	13.3	12.7	18.0	17.0	34.7	21.7	35.0
	男性30代	300	16.0	22.7	17.3	16.3	10.0	12.0	14.0	18.3	39.7	23.3	35.3
	男性40代	300	18.7	29.7	20.0	19.0	11.0	13.0	14.7	15.3	43.7	31.3	35.7
	男性50代	300	19.0	26.0	25.7	27.3	14.0	16.7	20.3	19.0	54.3	33.7	28.0
	男性60-79歳	300	19.7	26.7	20.0	23.7	10.7	14.0	14.7	19.3	66.3	33.0	21.7
	女性18-29歳	300	19.0	22.0	25.0	21.0	11.7	12.7	15.0	16.0	43.7	26.0	34.3
	女性30代	300	16.7	25.3	19.0	23.3	9.7	10.3	12.0	16.3	49.0	33.0	33.3
	女性40代	300	18.7	29.3	22.0	25.3	8.3	9.7	8.7	14.7	50.0	31.7	31.3
	女性50代	300	18.3	27.3	19.7	24.3	10.7	11.7	9.0	18.0	54.3	28.3	30.0
	女性60-79歳	300	13.3	18.0	18.0	19.7	7.0	10.3	14.3	17.7	61.3	29.0	24.3
世帯構成	1人世帯	631	16.6	22.5	18.7	19.0	12.4	12.0	17.1	18.4	43.9	26.0	34.2
	1世代世帯(夫婦のみ)	672	18.9	22.9	19.6	23.4	9.7	11.5	13.7	17.9	53.4	26.8	27.8
	2世代世帯(親と子)	1438	15.9	24.8	21.0	21.6	10.6	12.2	13.0	16.0	50.3	30.0	31.2
	3世代世帯(親と子と孫)	202	24.3	32.2	30.7	28.7	8.9	18.3	12.4	18.8	54.0	38.6	26.2

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会資本具体分野別の充足度評価(居住地域)属性分析 10 ●安全・安心(地域別)

安全・安心に関して【住む地域】で充足していない計は、
 地域ブロック別で見ると、四国ブロックで特に「ウ」「命の道」としての高速道路や幹線道路「エ）安全性の高い街」「オ）避難路・避難場所などの施設」「カ）安全が確保された通学路、歩道」が目立って高い。北海道ブロックでも四国に準じて、「ウ」「命の道」としての高速道路や幹線道路「エ）安全性の高い街」「ア）河川の施設」が高い。
 都市規模別で見ると、地方圏の町村が総じて高く、特に「ウ」「命の道」としての高速道路や幹線道路」が目立って高い。地方圏のその他の市でも「ウ」「命の道」としての高速道路や幹線道路「オ）避難路・避難場所などの施設」が高い。
 「安全・安心」に関わる個別社会資本充足度評価を見ると、四国、北海道、地方圏の町村などで充足していないとの評価が目立つ。ブロック間、地域規模間格差は大きい。

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

			●安全・安心						(%)
充足していない計		n	ア)河川の施設	イ)海岸施設	ウ)「命の道」としての高速道路や幹線道路	エ)安全性の高い街	オ)避難路・避難場所などの施設	カ)安全が確保された通学路、歩道	
全体		3000	16.4	17.9	22.1	26.5	23.2	28.7	
地域ブロック別	北海道ブロック	120	23.3	20.0	30.8	31.7	28.3	27.5	
	東北ブロック	210	18.6	18.6	21.9	24.8	26.7	31.4	
	関東ブロック	1070	15.0	17.6	20.5	26.2	22.0	28.1	
	北陸ブロック	120	10.8	15.8	19.2	24.2	22.5	31.7	
	中部ブロック	360	17.2	20.0	18.9	28.3	24.4	28.1	
	近畿ブロック	510	16.3	17.1	19.8	22.7	19.6	25.3	
	中国ブロック	180	17.2	19.4	23.3	26.7	24.4	32.2	
	四国ブロック	100	23.0	21.0	41.0	43.0	34.0	40.0	
九州・沖縄ブロック	330	16.1	15.5	26.1	26.1	23.9	28.5		
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	783	13.9	16.9	16.6	23.5	19.5	25.0	
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	195	15.9	17.9	17.4	21.5	17.4	24.6	
	三大都市圏の上記以外の地域	453	16.1	15.9	21.6	28.9	23.6	30.0	
	地方中枢都市(札幌、仙台、広島、福岡、北九)	272	15.4	15.4	17.6	21.7	20.6	24.6	
	地方中核都市(人口30万人以上の都市及び県庁所在地)	269	14.9	18.6	22.3	26.4	23.8	31.2	
	地方圏のその他の市	731	18.3	17.8	27.5	29.3	28.3	32.3	
	地方圏の町村	205	23.4	28.3	37.1	35.1	28.8	37.1	

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会資本具体分野別の充足度評価(居住地域)属性分析 11 ●活力・交流(地域別)

活力・交流に関して【住む地域】で充足していない計は、地域ブロック別で見ると、**四国ブロックで総じて充足していないとの反応が高くなっている。北海道ブロックでは多くのものが他の地域より反応が高く、とくに「キ」高速道路・幹線道路「ク」ETC などの設備「ケ」新幹線・高速鉄道「コ」環状道路や放射状の道路「セ」地域間・都市間の移動交通機関**が目立っている。北陸ブロックでは、「セ」地域間・都市間の移動交通機関、中国ブロックでは「コ」環状道路や放射状の道路も四国、北海道に準じて反応が高い。

都市規模別で見ると、**地方圏の町村で総じて充足していないとの反応が著しい**。地方中核都市では「サ」国際ハブ空港「シ」遠隔地との交流を実現する空港への反応が高い。規模が小さくなるほど充足していないとの回答が高まるのは「キ」高速道路・幹線道路「ケ」新幹線・高速鉄道「コ」環状道路や放射状の道路「セ」地域間・都市間の移動交通機関。

「活力・交流」に関わる個別社会資本でもブロック間、地域規模間格差は大きい。

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

		n	●活力・交流										(%)
			キ)広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	ク)ETCなどの設備	ケ)広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	コ)環状道路や放射状の道路	サ)国際ハブ空港	シ)遠隔地との交流を実現する空港	ス)海運を担う港湾	セ)地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)	ソ)高速で大容量の通信ネットワーク	タ)中心市街地を活性化させる都市整備	
充足していない計													
全体		3000	21.3	15.3	22.3	27.1	34.9	30.8	24.8	23.1	19.0	23.6	
地域ブロック別	北海道ブロック	120	39.2	27.5	46.7	38.3	42.5	35.0	29.2	37.5	26.7	30.0	
	東北ブロック	210	26.2	17.1	22.9	33.8	44.3	38.1	25.7	32.4	26.7	30.0	
	関東ブロック	1070	18.5	13.2	18.6	20.7	31.0	27.7	24.8	17.9	16.0	19.5	
	北陸ブロック	120	21.7	13.3	15.8	30.8	43.3	38.3	20.0	35.0	22.5	30.0	
	中部ブロック	360	17.8	13.1	17.8	26.4	31.9	29.2	23.9	25.3	18.9	27.2	
	近畿ブロック	510	16.7	13.7	20.2	24.9	30.0	29.8	23.7	17.6	17.5	20.0	
	中国ブロック	180	25.6	20.0	23.3	37.2	42.8	34.4	24.4	28.8	17.8	26.7	
	四国ブロック	100	35.0	23.0	51.0	46.0	50.0	48.0	34.0	39.0	29.0	36.0	
九州・沖縄ブロック	330	24.8	17.6	26.4	31.5	37.9	28.5	24.2	23.0	20.0	24.5		
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	783	14.8	9.7	12.1	15.5	24.9	21.2	19.3	11.4	11.7	11.1	
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	195	14.9	9.7	16.4	21.0	27.7	27.7	25.1	12.3	13.8	19.5	
	三大都市圏の上記以外の地域	453	20.3	16.6	21.4	25.4	32.9	30.0	26.5	20.5	20.8	25.2	
	地方中核都市(札幌、仙台、広島、福岡、北九)	272	19.5	15.4	19.1	26.1	30.9	25.0	19.1	18.8	15.1	15.1	
	地方中核都市(人口30万人以上の都市及び県庁所在地)	269	21.9	13.8	25.3	34.9	47.6	43.1	25.3	30.9	20.1	30.9	
	地方圏のその他の市	731	20.6	18.3	30.6	35.8	43.1	38.2	27.9	33.2	24.8	34.2	
	地方圏の町村	205	37.0	28.8	41.0	44.9	49.8	42.0	39.5	44.9	32.7	37.6	

地域ブロック間の差が大きい。

n100 以上について

全体より10ポイント以上高い

全体より5ポイント以上高い

全体より5ポイント以上低い

全体より10ポイント以上低い

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

規模が小さくなるほど「充足していない」が高い。

社会資本具体分野別の充足度評価(居住地域)属性分析 12 ●心豊かな暮らし(地域別)

心豊かな暮らしに関して【住む地域】で充足していない計は、地域ブロック別で見ると、四国ブロックで「チ）地域の道路」「ツ）地域の交通機関」「テ）公園・緑地、スポーツ施設」「ト）医療、福祉、教育文化施設」「ニ）下水道」に対して充足していないとの反応が高い。

都市規模別で見ると、地方圏の町村では「チ）地域の道路」「ツ）地域の交通機関」「テ）公園・緑地、スポーツ施設」「ト）医療、福祉、教育文化施設」「ニ）下水道」「ハ）カフェなど生活を快適にする道路利用」と多岐にわたって充足していないとの反応が高い。「ツ）地域の交通機関」は規模が小さくなるほど充足していないとの反応が高くなっている。

「心豊かな暮らし」に関わる個別社会資本で「ツ）地域の交通機関（鉄道、バス）」に関し、四国、北陸、中国や地方圏で充足していないとする割合が高く、格差がある。

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）

		n	●心豊かな暮らし										(%)
			チ) 地域の道路	ツ) 地域の交通機関(鉄道、バス)	テ) 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設	ト) 医療、福祉、子育て、教育文化施設	ナ) 安全でおいしい水を供給する上水道	ニ) 下水道などの汚水処理施設	ヌ) 恵まれた自然景観	ネ) 質の高い居住・生活空間	ノ) 景観を良くするための無電柱化	ハ) カフェなど生活を快適にする道路利用	
充足していない計													ひとつもない
全体		3000	17.3	24.2	20.8	21.9	10.6	12.3	14.1	17.2	49.7	29.1	30.9
地域ブロック別	北海道ブロック	120	26.7	29.2	25.8	25.0	15.0	15.0	10.8	20.8	54.2	30.0	26.7
	東北ブロック	210	23.3	35.2	27.1	26.2	11.0	15.2	10.0	19.0	51.4	34.8	28.6
	関東ブロック	1070	14.9	19.1	18.6	22.1	11.2	10.2	16.7	18.8	49.6	27.9	31.5
	北陸ブロック	120	17.5	35.8	23.3	21.7	5.0	7.5	7.5	14.2	48.3	31.7	29.2
	中部ブロック	360	17.5	28.3	21.7	21.7	10.8	15.0	14.4	16.9	47.5	28.6	32.5
	近畿ブロック	510	14.9	16.7	17.8	18.2	9.8	10.6	18.0	16.3	51.0	25.5	32.2
	中国ブロック	180	21.1	32.2	23.9	20.6	12.2	15.6	8.3	14.4	45.6	31.1	28.9
	四国ブロック	100	24.0	42.0	35.0	31.0	12.0	26.0	13.0	20.0	54.0	38.0	27.0
九州・沖縄ブロック		330	17.0	25.5	18.5	20.9	8.8	11.8	8.5	12.7	49.1	30.3	31.2
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	783	11.1	11.7	16.9	17.4	9.8	8.2	23.0	18.4	45.7	21.5	33.8
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	195	13.8	14.9	16.4	15.9	8.7	10.3	12.3	14.9	45.6	24.1	35.9
	三大都市圏の上記以外の地域	453	16.8	21.2	19.2	24.5	10.8	9.3	15.2	16.6	55.4	31.3	29.8
	地方中枢都市(札幌、仙台、広島、福岡、北九州)	272	12.1	17.3	16.9	15.8	11.0	11.4	10.3	12.9	44.9	21.0	32.0
	地方中核都市(人口30万人以上の都市及び県庁所在地)	269	19.7	32.7	20.4	20.8	10.0	14.1	8.9	13.4	52.0	33.5	27.1
	地方圏のその他の市	731	22.4	36.3	25.4	25.6	10.9	15.9	9.0	19.0	54.2	35.7	25.9
	地方圏の町村	205	30.2	42.0	31.7	35.6	13.2	22.4	9.3	21.5	54.6	42.4	26.3

n100 以上について

全体より 10 ポイント以上高い

全体より 5 ポイント以上高い

全体より 5 ポイント以上低い

全体より 10 ポイント以上低い

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

規模が小さくなるほど「充足していない」が高い。
地域ブロック間の差が大きい。

4-2. 社会資本具体分野別の充足度評価、推進意向(日本全体)属性分析

■社会資本具体分野別の充足度評価(日本全体)属性分析1 ●安全・安心<性・年代別>

安全・安心に関して【日本全体】で充足している計は、

性別で見ると、男性、女性で大きな差は見られない。

年代別で見ると、10～20代で総じて他の層を上回っている。

性年代別で見ると、男性18歳～20代でいずれも他を大きく上回っている。

一方、男性60～70代で「エ）安全性の高い街」「オ）避難路・避難場所などの施設」「カ）安全が確保された通学路、歩道」が他の層を下回っている。

世帯構成別で見ると、顕著な差異は見られない。

Q7-2. 「日本全体」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

			●安全・安心						(%)
充足している計			n	ア) 河川の施設	イ) 海岸施設	ウ) 「命の道」としての高速道路や幹線道路	エ) 安全性の高い街	オ) 避難路・避難場所などの施設	カ) 安全が確保された通学路、歩道
全体			3000	19.1	17.3	21.6	14.9	17.7	14.0
性別	男性	1500	21.4	19.5	23.1	16.2	18.8	15.1	
	女性	1500	16.7	15.2	20.1	13.7	16.7	12.9	
年代	10～20代	600	23.2	23.8	26.7	22.0	25.5	22.3	
	30代	600	20.2	19.2	22.3	16.7	20.7	15.0	
	40代	600	17.7	14.8	19.0	12.8	14.5	12.0	
	50代	600	17.0	13.7	20.5	11.5	13.3	10.2	
	60～70代	600	17.3	15.2	19.5	11.7	14.7	10.5	
性年代	男性18-29歳	300	29.7	29.3	30.7	27.3	29.3	26.7	
	男性30代	300	23.7	22.3	23.0	18.7	24.0	18.3	
	男性40代	300	21.0	16.3	20.3	14.0	15.0	12.7	
	男性50代	300	17.0	15.3	22.7	12.0	13.3	10.7	
	男性60-79歳	300	15.7	14.0	18.7	9.0	12.3	7.0	
	女性18-29歳	300	16.7	18.3	22.7	16.7	21.7	18.0	
	女性30代	300	16.7	16.0	21.7	14.7	17.3	11.7	
	女性40代	300	14.3	13.3	17.7	11.7	14.0	11.3	
	女性50代	300	17.0	12.0	18.3	11.0	13.3	9.7	
	女性60-79歳	300	19.0	16.3	20.3	14.3	17.0	14.0	
世帯構成	1人世帯	631	20.0	19.0	21.9	17.0	18.5	16.2	
	1世代世帯(夫婦のみ)	672	17.9	16.5	19.8	13.5	15.0	12.2	
	2世代世帯(親と子)	1438	19.3	17.0	22.0	14.8	18.5	14.0	
	3世代世帯(親と子と孫)	202	20.3	18.3	25.7	15.3	20.3	15.3	

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会資本具体分野別の充足度評価(日本全体)属性分析2 ●活力・交流<性・年代別>

活力・交流に関して、【日本全体】で充足している計は、

性別で見ると、**男性、女性で大きな差は見られない。**

年代別で見ると、**10～20代で総じて他を上回っている。**

性年代別で見ると、男性 18 歳～20 代で総じて他を大きく上回っており、特に「キ）高速道路・幹線道路」「ク）ETC などの設備」「ケ）新幹線・高速鉄道」「コ）環状道路や放射状の道路」が顕著に高い。女性 18 歳～20 代では「タ）中心市街地を活性化」が他の層をやや上回っている。

一方、男性 40 代～70 代では「タ）中心市街地を活性化」が低い傾向。

世帯構成別で見ると、顕著な差異は見られない。

Q7-2.「日本全体」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

(%)

充足している計		n	●活力・交流									
			キ)広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	ク)ETCなどの設備	ケ)広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	コ)環状道路や放射状の道路	サ)国際ハブ空港	シ)遠隔地との交流を実現する空港	ス)海運を担う港湾	セ)地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)	ソ)高速で大容量の通信ネットワーク	タ)中心市街地を活性化する都市整備
全体		3000	24.7	28.7	26.3	20.9	20.1	22.0	21.8	24.0	25.2	24.3
性別	男性	1500	25.8	29.1	27.3	21.0	19.7	22.3	23.5	24.1	24.9	22.6
	女性	1500	23.5	28.3	25.3	20.7	20.5	21.6	20.1	23.9	25.5	25.9
年代	10～20代	600	31.5	36.0	30.0	27.3	26.7	26.8	24.7	28.7	30.7	31.7
	30代	600	26.2	29.5	25.5	21.5	21.8	23.8	22.2	25.3	25.2	26.0
	40代	600	22.3	26.7	24.8	18.8	18.7	21.3	20.8	20.5	22.8	22.0
	50代	600	21.3	24.3	25.3	17.8	17.3	18.7	20.3	21.2	22.0	21.8
	60～70代	600	22.0	27.0	25.7	18.8	16.0	19.2	21.0	24.5	25.3	19.8
性年代	男性18-29歳	300	36.0	39.0	33.7	31.0	29.0	30.7	28.7	31.7	32.7	33.7
	男性30代	300	27.0	30.0	26.3	22.0	22.7	23.0	23.0	24.3	25.7	25.3
	男性40代	300	23.7	27.3	26.3	19.0	17.3	21.3	22.0	20.3	22.7	19.0
	男性50代	300	21.3	24.0	27.0	15.7	15.7	19.0	22.0	22.3	21.0	19.3
	男性60-79歳	300	21.0	25.0	23.0	17.3	13.7	17.7	22.0	22.0	22.7	15.7
	女性18-29歳	300	27.0	33.0	26.3	23.7	24.3	23.0	20.7	25.7	28.7	29.7
	女性30代	300	25.3	29.0	24.7	21.0	21.0	24.7	21.3	26.3	24.7	26.7
	女性40代	300	21.0	26.0	23.3	18.7	20.0	21.3	19.7	20.7	23.0	25.0
	女性50代	300	21.3	24.7	23.7	20.0	19.0	18.3	18.7	20.0	23.0	24.3
	女性60-79歳	300	23.0	29.0	28.3	20.3	18.3	20.7	20.0	27.0	28.0	24.0
世帯構成	1人世帯	631	25.5	26.5	24.9	21.2	20.1	23.0	22.2	22.8	23.9	25.2
	1世代世帯(夫婦のみ)	672	21.4	26.8	25.1	19.8	17.6	19.9	21.3	23.1	26.0	24.1
	2世代世帯(親と子)	1438	25.9	30.5	27.7	21.4	21.4	22.9	21.8	25.1	25.7	24.5
	3世代世帯(親と子と孫)	202	26.7	33.2	28.2	21.8	20.8	21.8	23.3	24.8	25.2	21.3

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

社会資本具体分野別の充足度評価(日本全体)属性分析3 ●心豊かな暮らし<性・年代別>

心豊かな暮らしに関して、【日本全体】で充足している計は、性別で見ると、**男性、女性で大きな差は見られない。**

年代別で見ると、10～20代で他を上回る項目は多く、とりわけ「ハ）カフェなど生活を快適にする道路利用」は高い。60～70代で「ナ）上水道」が他の層を上回っている。

性年代別で見ると、**男性 18 歳～20 代で総じて高く、特に「ツ）地域の交通機関」「テ）公園・緑地、スポーツ施設」「ネ）質の高い居住・生活空間」「ハ）カフェなど生活を快適にする道路利用」が他を大きく上回っている。**「ナ）上水道」は、男性 60～70 代、女性 60～70 代で高く、女性は年代が高くなるほど上がる傾向。女性 18 歳～20 代では「ネ）質の高い居住・生活空間」「ハ）カフェなど生活を快適にする道路利用」が他の層を上回っている。

一方、男性 50 代では「テ）公園・緑地、スポーツ施設」「ト）医療、福祉、教育文化施設」「ニ）下水道」が他の層を下回っている。

世帯構成別で見ると、目立った差異は見られない。

Q7-2.「日本全体」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

充足している計		n	●心豊かな暮らし										(%)
			チ)地域の道路	ツ)地域の交通機関(鉄道、バス)	テ)公園・緑地、スポーツレクリエーション施設	ト)医療、福祉、子育て、教育文化施設	ナ)安全でおいしい水を供給する上水道	ニ)下水道などの汚水処理施設	ヌ)恵まれた自然景観	ネ)質の高い居住・生活空間	ノ)景観を良くするための無電柱化	ハ)カフェなど生活を快適にする道路利用	
全体		3000	24.2	23.1	23.4	18.4	37.3	32.5	26.6	19.8	10.0	15.5	41.2
性別	男性	1500	23.8	23.3	22.5	17.9	36.7	31.7	25.7	20.3	10.9	16.4	41.7
	女性	1500	24.6	22.9	24.4	18.9	38.0	33.3	27.5	19.3	9.2	14.6	40.8
年代	10～20代	600	29.2	30.5	28.2	23.7	35.7	34.5	28.3	28.5	15.8	26.7	36.8
	30代	600	24.7	24.3	22.7	18.8	37.2	34.5	26.3	21.5	11.5	15.5	42.8
	40代	600	21.8	20.3	22.8	17.7	34.5	30.7	25.2	16.7	8.7	14.3	45.8
	50代	600	21.3	18.8	20.8	15.8	35.8	29.5	24.0	16.2	7.2	11.8	43.7
	60～70代	600	24.0	21.5	22.7	16.2	43.5	33.2	29.0	16.2	7.0	9.2	37.0
性年代	男性18-29歳	300	31.7	33.3	31.0	27.7	39.7	41.3	31.0	31.3	19.3	30.7	32.7
	男性30代	300	24.0	24.0	22.7	19.0	38.0	34.0	26.0	23.3	13.7	17.0	44.3
	男性40代	300	21.0	19.7	21.0	16.3	31.3	28.3	20.7	16.0	9.0	15.0	48.3
	男性50代	300	20.7	18.3	16.3	12.7	30.0	23.7	21.7	14.7	7.3	12.0	45.3
	男性60-79歳	300	21.7	21.3	21.3	14.0	44.3	31.0	29.0	16.0	5.0	7.3	37.7
	女性18-29歳	300	26.7	27.7	25.3	19.7	31.7	27.7	25.7	25.7	12.3	22.7	41.0
	女性30代	300	25.3	24.7	22.7	18.7	36.3	35.0	26.7	19.7	9.3	14.0	41.3
	女性40代	300	22.7	21.0	24.7	19.0	37.7	33.0	29.7	17.3	8.3	13.7	43.3
	女性50代	300	22.0	19.3	25.3	19.0	41.7	35.3	26.3	17.7	7.0	11.7	42.0
	女性60-79歳	300	26.3	21.7	24.0	18.3	42.7	35.3	29.0	16.3	9.0	11.0	36.3
世帯構成	1人世帯	631	23.9	24.2	23.1	17.6	35.3	31.9	27.3	20.4	11.7	17.3	42.9
	1世代世帯(夫婦のみ)	672	24.6	21.6	24.6	17.4	40.2	32.3	28.3	17.7	8.5	12.6	39.7
	2世代世帯(親と子)	1438	24.9	24.0	23.3	19.5	37.3	33.0	25.5	20.5	10.0	16.1	40.6
	3世代世帯(親と子と孫)	202	20.8	19.8	23.8	17.3	37.1	34.7	30.7	21.3	11.4	16.8	39.6

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会資本具体分野別の充足度評価(日本全体)属性分析4 ●安全・安心〈地域別〉

安全・安心に関して、【日本全体】で充足している計は、
地域ブロック別で見ると、**四国ブロックで「ウ」「命の道」としての高速道路や幹線道路」が他の地域を下回っている。**
都市規模別で見ると、目立った差異は見られない。

Q7-2.「日本全体」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

(%)

		n	●安全・安心					
			ア)河川の施設	イ)海岸施設	ウ)「命の道」としての高速道路や幹線道路	エ)安全性の高い街	オ)避難路・避難場所などの施設	カ)安全が確保された通学路、歩道
充足している計								
全体		3000	19.1	17.3	21.6	14.9	17.7	14.0
地域ブロック別	北海道ブロック	120	20.8	15.8	24.2	13.3	16.7	11.7
	東北ブロック	210	19.0	17.6	24.8	15.7	16.7	13.3
	関東ブロック	1070	19.3	17.2	21.0	14.6	17.3	13.8
	北陸ブロック	120	20.0	15.8	18.3	10.8	15.0	11.7
	中部ブロック	360	18.6	15.8	21.1	15.0	18.3	12.8
	近畿ブロック	510	18.4	17.6	22.0	15.3	19.4	14.5
	中国ブロック	180	17.8	18.3	23.3	15.0	16.7	15.6
	四国ブロック	100	16.0	14.0	15.0	16.0	22.0	15.0
	九州・沖縄ブロック	330	20.6	20.3	22.7	16.7	17.3	16.1
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	783	21.5	20.4	23.5	17.0	21.3	16.5
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	195	22.6	16.9	25.6	15.9	18.5	13.8
	三大都市圏の上記以外の地域	453	16.6	15.2	19.4	13.9	16.1	11.7
	地方中枢都市(札幌、仙台、広島、福岡、北九)	272	22.1	21.0	24.6	16.5	18.8	16.9
	地方中核都市(人口30万人以上の都市及び県庁所在地)	269	19.0	16.7	20.4	13.8	17.8	12.6
	地方圏のその他の市	731	18.3	16.4	21.1	14.8	16.1	13.5
	地方圏の町村	205	16.6	12.7	21.0	12.2	16.6	12.7

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会資本具体分野別の充足度評価(日本全体)属性分析5 ●活力・交流(地域別)

活力・交流に関して、【日本全体】で充足している計は、

地域ブロック別で見ると、突出して高いものは見られない。

平均より下回っているのとして、北海道ブロックでは「キ）高速道路・幹線道路」「ク）ETC などの設備」「ケ）新幹線・高速鉄道」「セ）地域間・都市間の移動交通機関」、北陸ブロックでは「ク）ETC などの設備」「ケ）新幹線・高速鉄道」「コ）環状道路や放射状の道路」「サ）国際ハブ空港」「シ）遠隔地との交流を実現する空港」、四国ブロックでは「キ）高速道路・幹線道路」「コ）環状道路や放射状の道路」「ス）海運を担う港湾」「セ）地域間・都市間の移動交通機関」「ソ）高速通信ネットワーク」「タ）中心市街地を活性化」がある。

都市規模別で見ると、地方中枢都市で「タ）中心市街地を活性化」が他の地域類型を上回っている。

一方、地方圏の町村で「コ）環状道路や放射状の道路」「タ）中心市街地を活性化」が他の地域類型を下回っている。

Q7-2.「日本全体」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

		n	●活力・交流										(%)
充足している計			キ)広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	ク)ETCなどの設備	ケ)広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	コ)環状道路や放射状の道路	サ)国際ハブ空港	シ)遠隔地との交流を実現する空港	ス)海運を担う港湾	セ)地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)	ソ)高速で大容量の通信ネットワーク	タ)中心市街地を活性化する都市整備	
全体		3000	24.7	28.7	26.3	20.9	20.1	22.0	21.8	24.0	25.2	24.3	
地域ブロック別	北海道ブロック	120	16.7	20.8	19.2	19.2	21.7	22.5	20.8	16.7	22.5	25.8	
	東北ブロック	210	26.7	27.1	26.2	21.9	19.0	21.9	25.7	25.7	24.8	25.2	
	関東ブロック	1070	25.5	29.7	27.6	23.8	19.9	22.4	21.5	24.7	25.7	25.0	
	北陸ブロック	120	20.8	23.3	19.2	11.7	15.0	10.8	20.0	18.3	24.2	20.8	
	中部ブロック	360	24.7	30.3	27.2	18.1	20.8	20.3	20.8	20.3	23.3	21.4	
	近畿ブロック	510	25.3	30.2	26.9	20.6	20.0	23.1	22.0	26.5	26.3	25.3	
	中国ブロック	180	26.7	28.9	26.1	16.7	18.3	22.2	20.0	22.8	25.6	23.3	
	四国ブロック	100	19.0	26.0	22.0	14.0	18.0	18.0	14.0	19.0	20.0	17.0	
	九州・沖縄ブロック	330	24.5	27.9	26.7	22.4	23.6	25.5	25.5	28.2	27.0	26.4	
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	783	29.6	33.1	30.3	23.6	22.6	26.2	24.3	28.6	29.0	28.7	
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	195	25.6	30.8	31.3	21.5	16.4	18.5	21.0	23.6	26.2	22.6	
	三大都市圏の上記以外の地域	453	22.7	27.6	25.2	20.8	20.1	20.5	20.3	24.9	25.8	24.1	
	地方中枢都市(札幌、仙台、広島、福岡、北九)	272	26.1	27.2	28.7	22.8	21.7	25.0	22.1	27.2	27.2	32.4	
	地方中核都市(人口30万人以上の都市及び県庁所在地)	269	22.7	27.5	26.0	19.7	15.6	17.5	20.4	21.2	21.2	20.1	
	地方圏のその他の市	731	23.8	29.1	24.2	21.1	21.6	22.6	22.4	22.0	24.8	22.7	
	地方圏の町村	205	21.0	24.9	22.4	15.1	19.0	18.5	22.4	19.5	21.5	18.5	

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

社会資本具体分野別の充足度評価(日本全体)属性分析6 ●心豊かな暮らし(地域別)

心豊かな暮らしに関して、【日本全体】で充足している計は、
 地域ブロック別で見ると、**四国ブロックで「ツ」地域の交通機関「テ」公園・緑地、スポーツ施設「ニ」下水道**が他の地域を下回っている。
 一方、九州ブロックでは「ネ）質の高い居住・生活空間」が他の地域を上回っている。
 都市規模別で見ると、**三大都市圏の政令指定都市及び 23 区で「チ」地域の道路「ツ」地域の交通機関「ナ」上水道「ニ」下水道**が他の地域類型を上回っている。地方中枢都市では「ネ）質の高い居住・生活空間」が他の地域類型を上回っている。
 一方、地方圏の町村では「ニ）下水道」が他の地域類型を下回っている。

Q7-2.「日本全体」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

充足している計		n	●心豊かな暮らし										(%)
			チ) 地域の道路	ツ) 地域の交通機関(鉄道、バス)	テ) 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設	ト) 医療、福祉、子育て、教育文化施設	ナ) 安全でおいしい水を供給する上水道	ニ) 下水道などの汚水処理施設	ヌ) 恵まれた自然景観	ネ) 質の高い居住・生活空間	ノ) 景観を良くするための無電柱化	ハ) カフェなど生活を快適にする道路利用	ひとつもない
全体		3000	24.2	23.1	23.4	18.4	37.3	32.5	26.6	19.8	10.0	15.5	41.2
地域ブロック別	北海道ブロック	120	20.0	20.0	20.8	20.0	35.0	35.0	28.3	22.5	11.7	16.7	42.5
	東北ブロック	210	20.0	22.4	26.2	18.1	41.0	33.3	31.4	18.1	10.5	18.1	42.4
	関東ブロック	1070	25.1	23.6	23.5	18.4	38.4	34.2	26.4	18.9	9.3	15.4	40.6
	北陸ブロック	120	25.8	20.8	25.0	14.2	35.0	31.7	30.8	19.2	10.0	12.5	41.7
	中部ブロック	360	21.4	18.9	21.9	17.2	36.9	28.1	23.3	16.9	9.7	15.3	41.1
	近畿ブロック	510	27.3	27.3	23.7	17.1	37.1	36.3	25.1	19.6	8.4	15.7	41.6
	中国ブロック	180	22.2	21.7	24.4	18.9	32.8	28.3	27.8	22.2	12.8	15.0	46.1
	四国ブロック	100	20.0	15.0	16.0	17.0	34.0	21.0	21.0	21.0	12.0	15.0	46.0
	九州・沖縄ブロック	330	25.5	25.2	24.8	23.3	37.6	30.3	28.5	24.8	12.1	15.2	37.6
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	783	29.0	29.0	25.8	19.9	41.5	37.5	23.9	19.3	10.2	16.5	37.2
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	195	26.7	25.1	22.1	15.9	37.4	32.8	27.2	19.0	9.2	16.4	40.0
	三大都市圏の上記以外の地域	453	22.1	23.4	23.2	18.1	38.2	35.5	29.6	20.5	9.7	16.1	42.8
	地方中枢都市(札幌、仙台、広島、福岡、北九)	272	26.5	26.1	27.2	23.2	37.9	34.6	30.5	26.8	12.1	16.5	37.9
	地方中核都市(人口30万人以上の都市及び県庁所在地)	269	19.3	16.0	20.4	14.5	36.4	27.9	27.1	17.5	8.9	14.1	43.1
	地方圏のその他の市	731	24.1	20.2	23.8	18.9	36.3	30.4	27.2	20.1	10.7	16.1	40.5
	地方圏の町村	205	19.5	20.0	22.0	19.0	33.7	25.9	28.8	19.0	10.2	12.7	44.4

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会資本具体分野別の充足度(日本全体) ●安全・安心<性・年代別> **参 考**

Q7-2.「日本全体」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

(%)

充足していない計		n	●安全・安心					
			ア)河川の施設	イ)海岸施設	ウ)「命の道」としての高速道路や幹線道路	エ)安全性の高い街	オ)避難路・避難場所などの施設	カ)安全が確保された通学路、歩道
全体		3000	25.3	26.4	22.8	29.0	25.9	30.1
性別	男性	1500	24.6	26.7	23.8	29.7	25.6	30.6
	女性	1500	25.9	26.2	21.9	28.4	26.3	29.5
年代	10～20代	600	23.5	22.3	21.5	25.5	22.2	23.2
	30代	600	21.5	20.0	19.0	24.2	20.8	26.3
	40代	600	24.3	27.5	22.2	27.2	25.0	30.2
	50代	600	24.5	28.0	23.7	30.3	28.3	30.8
	60～70代	600	32.5	34.3	27.8	38.0	33.3	39.9
性年代	男性18-29歳	300	20.0	20.3	18.7	22.0	19.7	21.7
	男性30代	300	22.7	21.0	21.0	24.7	20.7	26.0
	男性40代	300	23.0	27.0	22.0	28.7	25.7	30.3
	男性50代	300	24.3	28.0	23.3	31.3	28.0	31.3
	男性60-79歳	300	33.0	37.0	34.0	41.7	34.0	43.7
	女性18-29歳	300	27.0	24.3	24.3	29.0	24.7	24.7
	女性30代	300	20.3	19.0	17.0	23.7	21.0	26.7
	女性40代	300	25.7	28.0	22.3	25.7	24.3	30.0
	女性50代	300	24.7	28.0	24.0	29.3	28.7	30.3
	女性60-79歳	300	32.0	31.7	21.7	34.3	32.7	36.0
世帯構成	1人世帯	631	23.6	24.4	22.7	29.8	27.3	29.3
	1世代世帯(夫婦のみ)	672	28.1	30.2	26.0	32.9	29.8	35.3
	2世代世帯(親と子)	1438	24.4	25.5	21.8	27.2	23.0	28.2
	3世代世帯(親と子と孫)	202	28.7	28.2	22.3	29.7	30.7	31.2

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会資本具体分野別の充足度(日本全体) ●活力・交流(性・年代別) 参 考

Q7-2.「日本全体」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

(%)

充足していない計		n	●活力・交流									
			キ)広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	ク)ETCなどの設備	ケ)広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	コ)環状道路や放射状の道路	サ)国際ハブ空港	シ)遠隔地との交流を実現する空港	ス)海運を担う港湾	セ)地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)	ソ)高速で大容量の通信ネットワーク	タ)中心市街地を活性化する都市整備
全体		3000	20.7	16.3	18.3	21.7	27.6	22.9	19.8	20.3	17.5	18.2
性別	男性	1500	21.4	17.7	19.1	23.8	30.4	24.1	21.9	21.9	19.8	20.5
	女性	1500	20.0	14.9	17.6	19.7	24.9	21.7	17.7	18.7	15.3	15.9
年代	10～20代	600	18.3	14.8	16.7	19.2	22.5	20.2	19.2	18.2	16.5	17.2
	30代	600	17.3	12.7	14.3	16.0	21.7	18.0	16.2	16.0	15.7	15.7
	40代	600	20.5	17.2	18.8	20.5	27.7	21.7	18.3	20.8	17.5	18.0
	50代	600	21.0	16.8	19.5	24.3	29.5	24.5	21.7	24.0	20.3	19.8
	60～70代	600	26.3	19.8	22.3	28.7	36.8	30.0	23.5	22.5	17.7	20.3
性年代	男性18-29歳	300	16.0	15.3	15.7	18.3	21.3	20.7	19.0	19.0	17.3	16.0
	男性30代	300	19.0	14.3	15.3	18.7	25.7	20.3	18.3	18.0	19.3	19.0
	男性40代	300	21.3	18.0	18.0	20.7	30.7	21.0	19.7	21.7	18.7	19.0
	男性50代	300	22.0	18.3	19.7	28.0	33.0	25.7	25.3	25.0	23.0	23.3
	男性60-79歳	300	28.7	22.3	26.7	33.3	40.7	32.7	27.0	26.0	20.7	25.3
	女性18-29歳	300	20.7	14.3	17.7	20.0	23.7	19.7	19.3	17.3	15.7	18.3
	女性30代	300	15.7	11.0	13.3	13.3	17.7	15.7	14.0	14.0	12.0	12.3
	女性40代	300	19.7	16.3	19.7	20.3	24.7	22.3	17.0	20.0	16.3	17.0
	女性50代	300	20.0	15.3	19.3	20.7	25.3	23.3	18.0	23.0	17.7	16.3
	女性60-79歳	300	24.0	17.3	18.0	24.0	33.0	27.3	20.0	19.0	14.7	15.3
世帯構成	1人世帯	631	21.6	17.7	20.1	20.9	28.1	25.0	22.0	21.4	19.5	20.6
	1世代世帯(夫婦のみ)	672	25.3	17.9	21.1	25.3	31.7	25.4	21.3	22.9	17.7	19.3
	2世代世帯(親と子)	1438	18.0	14.5	16.3	19.8	25.5	21.1	18.5	18.4	16.8	16.8
	3世代世帯(親と子と孫)	202	22.8	18.8	18.8	26.2	29.7	21.8	17.8	23.3	17.3	18.3

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会資本具体分野別の充足度(日本全体) ●心豊かな暮らし<性・年代別> 参考

Q7-2.「日本全体」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

充足していない計		n	●心豊かな暮らし										(%)
			チ)地域の 道路	ツ)地域の 交通機 関(鉄 道、バ ス)	テ)公園・ 緑地、ス ポーツレ クリエー ション施 設	ト)医療、 福祉、子 育て、教 育文化施 設	ナ)安全 でおいし い水を供 給する上 水道	ニ)下水 道などの 汚水処理 施設	ヌ)恵ま れた自然 景観	ネ)質の 高い居 住・生活 空間	ノ)景観を 良くする ための無 電柱化	ハ)カフェ など生活 を快適に する道路 利用	
全体		3000	18.7	21.4	19.8	26.0	13.3	14.2	15.2	19.7	41.8	23.6	39.2
性別	男性	1500	20.9	22.4	21.5	25.8	14.2	16.2	16.1	20.7	42.5	25.7	38.4
	女性	1500	16.4	20.3	18.1	26.2	12.5	12.1	14.2	18.6	41.1	21.6	40.1
年代	10～20代	600	18.3	19.2	20.8	24.8	15.0	13.7	13.7	16.7	32.8	19.3	41.7
	30代	600	15.5	17.2	19.0	23.8	12.5	12.0	14.2	18.7	36.5	19.2	44.7
	40代	600	17.7	21.3	17.7	23.7	11.3	12.0	14.2	16.5	37.7	20.7	43.3
	50代	600	21.5	23.7	21.0	27.5	14.0	15.7	16.5	21.0	42.3	25.5	38.8
	60～70代	600	20.3	25.5	20.5	30.2	13.8	17.5	17.3	25.5	59.5	33.5	27.7
性年代	男性18-29歳	300	19.7	19.7	20.0	22.3	14.3	11.7	12.7	16.7	32.0	19.7	41.3
	男性30代	300	17.7	18.7	20.0	20.7	11.7	13.3	14.3	20.0	38.0	19.7	44.3
	男性40代	300	19.7	20.7	17.7	21.7	12.0	14.0	16.3	18.7	36.7	22.7	43.7
	男性50代	300	24.3	23.3	25.0	30.0	17.3	20.3	19.0	22.0	42.7	30.3	36.3
	男性60-79歳	300	23.3	29.7	24.7	34.3	15.7	21.7	18.3	26.3	63.0	36.0	26.3
	女性18-29歳	300	17.0	18.7	21.7	27.3	15.7	15.7	14.7	16.7	33.7	19.0	42.0
	女性30代	300	13.3	15.7	18.0	27.0	13.3	10.7	14.0	17.3	35.0	18.7	45.0
	女性40代	300	15.7	22.0	17.7	25.7	10.7	10.0	12.0	14.3	38.7	18.7	43.0
	女性50代	300	18.7	24.0	17.0	25.0	10.7	11.0	14.0	20.0	42.0	20.7	41.3
	女性60-79歳	300	17.3	21.3	16.3	26.0	12.0	13.3	16.3	24.7	56.0	31.0	29.0
世帯構成	1人世帯	631	21.2	21.4	20.0	26.0	14.1	14.9	14.7	21.2	40.4	22.8	39.9
	1世代世帯(夫婦のみ)	672	20.4	23.2	20.2	27.8	15.0	16.4	15.3	21.7	48.4	26.8	34.1
	2世代世帯(親と子)	1438	16.6	20.4	19.5	25.3	12.3	12.9	15.4	18.2	39.6	22.0	40.9
	3世代世帯(親と子と孫)	202	19.8	22.8	20.8	27.2	12.9	14.4	14.9	18.8	41.6	28.2	37.6

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会資本具体分野別の充足度(日本全体) ●安全・安心<地域別> 参 考

Q7-2.「日本全体」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

(%)

充足していない計		n	●安全・安心					
			ア) 河川の施設	イ) 海岸施設	ウ) 「命の道」としての高速道路や幹線道路	エ) 安全性の高い街	オ) 避難路・避難場所などの施設	カ) 安全が確保された通学路、歩道
全体		3000	25.3	26.4	22.8	29.0	25.9	30.1
地域ブロック別	北海道ブロック	120	28.3	30.0	25.8	30.0	27.5	31.7
	東北ブロック	210	22.9	24.3	20.0	29.0	25.2	29.5
	関東ブロック	1070	26.2	27.9	22.9	29.3	26.6	31.9
	北陸ブロック	120	19.2	20.0	20.0	25.0	21.7	25.8
	中部ブロック	360	26.7	26.7	22.5	28.6	25.8	31.1
	近畿ブロック	510	26.3	26.9	22.9	29.4	25.3	29.4
	中国ブロック	180	20.0	23.9	25.6	30.0	24.4	30.0
	四国ブロック	100	30.0	31.0	33.0	32.0	31.0	30.0
九州・沖縄ブロック	330	23.3	23.3	20.0	27.6	25.5	25.5	
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	783	26.4	27.5	23.2	29.9	26.2	30.9
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	195	27.2	26.7	20.0	28.2	23.6	21.0
	三大都市圏の上記以外の地域	453	27.6	28.0	23.0	31.1	28.9	33.3
	地方中枢都市（札幌、仙台、広島、福岡、北九）	272	22.8	22.8	20.2	28.3	23.9	26.8
	地方中核都市（人口30万人以上の都市及び県庁所在地）	269	26.4	26.0	24.2	28.6	26.8	30.5
	地方圏のその他の市	731	22.3	25.6	23.1	27.4	25.4	30.9
	地方圏の町村	205	28.3	30.2	25.4	32.2	26.3	33.7

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会資本具体分野別の充足度(日本全体) ●活力・交流(地域別) 参 考

Q7-2.「日本全体」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

(%)

		n	●活力・交流									
			キ)広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	ク)ETCなどの設備	ケ)広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	コ)環状道路や放射状の道路	サ)国際ハブ空港	シ)遠隔地との交流を実現する空港	ス)海運を担う港湾	セ)地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)	ソ)高速で大容量の通信ネットワーク	タ)中心市街地を活性化する都市整備
充足していない計												
全体		3000	20.7	16.3	18.3	21.7	27.6	22.9	19.8	20.3	17.5	18.2
地域ブロック別	北海道ブロック	120	30.0	20.8	25.8	27.5	26.7	20.8	22.5	29.2	21.7	21.7
	東北ブロック	210	20.5	21.4	19.5	22.9	24.3	24.8	21.4	22.9	19.0	20.5
	関東ブロック	1070	20.4	15.9	17.6	20.6	30.0	23.6	20.5	19.7	17.7	18.8
	北陸ブロック	120	14.2	8.3	13.3	18.3	24.2	17.5	13.3	23.3	12.5	14.2
	中部ブロック	360	23.6	16.9	20.3	26.7	29.4	26.1	21.9	21.9	20.0	19.7
	近畿ブロック	510	18.6	15.9	16.1	19.8	25.7	22.7	20.0	17.6	16.9	17.5
	中国ブロック	180	21.1	17.2	20.6	25.0	28.9	22.2	17.8	22.8	16.7	18.3
	四国ブロック	100	27.0	23.0	28.0	26.0	29.0	26.0	18.0	24.0	20.0	20.0
	九州・沖縄ブロック	330	18.8	12.7	16.4	18.5	23.6	18.2	16.7	16.1	14.5	13.9
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	783	20.2	16.1	17.1	21.1	29.9	22.5	21.2	19.4	17.1	18.0
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	195	19.0	13.3	13.3	20.0	26.7	20.0	18.5	16.9	16.4	17.9
	三大都市圏の上記以外の地域	453	19.2	15.0	18.5	22.1	28.3	26.0	20.5	19.2	17.9	18.3
	地方中枢都市(札幌、仙台、広島、福岡、北九)	272	20.6	15.1	17.6	22.8	24.3	20.2	19.9	19.5	15.8	13.6
	地方中核都市(人口30万人以上の都市及び県庁所在地)	269	23.0	17.5	21.6	25.3	27.9	21.2	17.8	21.2	17.8	17.8
	地方圏のその他の市	731	20.5	16.1	18.6	19.8	26.3	23.4	18.6	21.6	17.9	19.6
	地方圏の町村	205	25.4	22.0	22.4	27.2	30.7	25.4	21.5	26.3	22.0	21.0

道路整備関連は「充足していない」が高い。

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会資本具体分野別の充足度(日本全体) ●心豊かな暮らし<地域別> 参考

Q7-2.「日本全体」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

(%)

充足していない計		n	●心豊かな暮らし									ひとつもない	
			チ) 地域の道路	ツ) 地域の交通機関(鉄道、バス)	テ) 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設	ト) 医療、福祉、子育て、教育文化施設	ナ) 安全でおいしい水を供給する上水道	ニ) 下水道などの汚水処理施設	ヌ) 恵まれた自然景観	ネ) 質の高い居住・生活空間	ノ) 景観を良くするための無電柱化		ハ) カフェなど生活を快適にする道路利用
全体		3000	18.7	21.4	19.8	26.0	13.3	14.2	15.2	19.7	41.8	23.6	39.2
地域ブロック別	北海道ブロック	120	21.7	25.8	25.0	31.7	19.2	15.0	15.0	18.3	40.0	22.5	38.3
	東北ブロック	210	23.3	25.2	21.9	27.1	14.8	18.6	13.8	19.0	37.1	25.2	41.9
	関東ブロック	1070	19.1	21.8	19.7	27.1	13.1	13.8	15.6	20.8	46.5	25.0	36.6
	北陸ブロック	120	16.7	20.8	11.7	22.5	8.3	7.5	8.3	14.2	35.8	22.5	45.8
	中部ブロック	360	20.0	23.6	21.7	28.6	14.4	15.6	18.6	21.4	42.2	25.0	38.1
	近畿ブロック	510	16.9	20.0	19.8	23.7	13.1	11.4	16.7	20.0	41.0	22.2	41.0
	中国ブロック	180	21.1	22.8	19.4	23.3	13.3	17.2	14.4	20.6	37.8	23.9	42.8
	四国ブロック	100	20.0	21.0	21.0	31.0	14.0	16.0	15.0	22.0	40.0	23.0	36.0
	九州・沖縄ブロック	330	13.6	15.2	17.6	21.5	11.8	15.2	11.5	15.2	35.5	19.7	41.5
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	783	17.0	20.1	19.7	25.8	11.5	12.4	17.0	21.2	45.0	22.9	37.8
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	195	15.4	20.0	17.9	24.1	14.4	14.4	14.9	16.9	42.1	21.0	41.5
	三大都市圏の上記以外の地域	453	20.8	21.4	19.2	28.5	13.7	14.1	15.9	20.1	45.3	25.4	35.8
	地方中枢都市(札幌、仙台、広島、福岡、北九)	272	16.2	18.4	18.4	21.3	13.2	15.8	11.0	15.4	35.3	19.9	41.5
	地方中核都市(人口30万人以上の都市及び県庁所在地)	269	19.3	22.3	19.3	27.9	14.1	15.2	13.4	21.9	40.1	24.9	39.8
	地方圏のその他の市	731	20.0	23.0	19.8	26.5	12.7	14.0	14.1	19.0	41.3	23.9	39.1
	地方圏の町村	205	22.9	27.3	25.9	28.3	19.0	18.0	18.5	22.0	42.9	30.2	36.1

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会資本具体分野別の充足度評価(ブロック別)北海道

エ) 安全性の高い街、オ) 避難路・避難場所などの施設など「安全・安心」、テ) 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設、ト) 医療、福祉、子育て、教育文化施設、ナ) 安全でおいしい水を供給する上水道、ヌ) 恵まれた自然景観など「心豊かな暮らし」は全国よりプラス、ウ) 「命の道」としての高速道路や幹線道路、キ) 広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路、ク) ETC などの設備、ケ) 広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道、コ) 環状道路や放射状の道路、ツ) 地域の交通機関(鉄道、バス)など道路、公共交通が全国よりマイナス5ポイント以上となっている。

Q7-1. 「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

		あなたの住む地域(全国) (n=3000)								あなたの住む地域(北海道) (n=120)							
		(%)								(%)							
		非常に充足している	充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計	充足していない計	非常に充足している	充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計	充足していない計		
①安全・安心	ア) ■ 河川の施設	2.4	31.0	50.1		13.9	2.6	33.4	16.4	4.2	24.2	48.3		18.3	5.0	28.3	23.3
	イ) ● 海岸施設	2.2	19.9	60.0		14.2	3.7	22.1	17.9	3.3	15.0	61.7		13.3	6.7	18.3	20.0
	ウ) ■ 「命の道」としての高速道路や幹線道路	2.6	24.2	51.1		17.8	4.3	26.8	22.1	3.3	18.3	47.5		22.5	8.3	21.7	30.8
	エ) ◎ 安全性の高い街	1.7	17.0	54.9		22.3	4.1	18.6	26.5	2.5	17.5	48.3		24.2	7.5	20.0	31.7
	オ) ◎ 避難路・避難場所などの施設	2.1	22.2	52.4		19.7	3.5	24.3	23.2	2.5	25.0	44.2		22.5	5.8	27.5	28.3
②活力・交流	カ) ◎ 安全が確保された通学路、歩道	1.8	17.5	52.1		23.5	5.1	19.3	28.7	4.2	17.5	50.8		21.7	5.8	21.7	27.5
	キ) ■ 広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	2.5	25.2	51.0		16.6	4.6	27.7	21.3	2.5	11.7	46.7		24.2	15.0	14.2	39.2
	ク) ■ ETOなどの設備	3.7	30.4	50.6		11.5	3.8	34.1	15.3	5.8	20.0	46.7		17.5	10.0	25.8	27.5
	ケ) ■ 広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	3.3	25.3	49.2		15.7	6.6	28.5	22.3	1.7	8.3	43.3		27.5	19.2	10.0	46.7
	コ) ■ 環状道路や放射状の道路	2.1	20.2	50.6		19.6	7.5	22.3	27.1	3.3	13.3	45.0		25.8	12.5	16.7	38.3
	サ) ● 国際ハブ空港	2.0	14.9	48.2		20.2	14.7	16.8	34.9	4.2	10.8	42.5		25.8	16.7	15.0	42.5
	シ) ● 遠隔地との交流を実現する空港	2.3	16.1	50.8		18.4	12.5	18.3	30.8	5.0	10.8	49.2		20.8	14.2	15.8	35.0
	ス) ● 海運を担う港湾	2.3	18.8	54.1		16.2	8.6	21.1	24.8	1.7	17.5	51.7		20.0	9.2	19.2	29.2
	セ) ■ 地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)	3.8	24.7	48.3		17.9	5.2	28.5	23.1	1.7	18.3	42.5		30.0	7.5	20.0	37.5
	ソ) ● 高速で大容量の通信ネットワーク	3.1	22.3	55.6		14.2	4.8	25.4	19.0	4.2	16.7	52.5		19.2	7.5	20.8	26.7
③心豊かな暮らし	タ) ● 中心市街地を活性化する都市整備	2.6	21.3	52.5		17.9	5.7	23.9	23.6	4.2	16.7	49.2		18.3	11.7	20.8	30.0
	チ) ● 地域の道路	3.1	30.5	49.2		13.7	3.5	33.6	17.3	5.8	23.3	44.2		20.0	6.7	29.2	26.7
	ツ) ■ 地域の交通機関(鉄道、バス)	4.2	24.6	47.0		18.2	6.0	28.8	24.2	5.8	16.7	48.3		20.0	9.2	22.5	29.2
	テ) ◎ 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設	3.6	28.3	47.3		17.2	3.6	32.0	20.8	4.2	30.8	39.2		20.0	5.8	35.0	25.8
	ト) ◎ 医療、福祉、子育て、教育文化施設	2.8	23.3	52.0		18.0	3.8	26.1	21.9	5.0	24.2	45.8		18.3	6.7	29.2	25.0
	ナ) ◎ 安全でおいしい水を供給する上水道	8.2	37.9	43.2		8.4	2.2	46.2	10.6	13.3	38.3	33.3		10.0	5.0	51.7	15.0
	ニ) ◎ 下水道などの汚水処理施設	5.4	35.9	46.4		9.6	2.7	41.3	12.3	7.5	35.0	42.5		10.0	5.0	42.5	15.0
	ヌ) ◎ 恵まれた自然景観	5.9	32.6	47.4		11.5	2.6	38.5	14.1	7.5	45.0	36.7		8.3	2.5	52.5	10.8
	ネ) ◎ 質の高い居住・生活空間	2.6	23.2	57.1		13.8	3.4	25.7	17.2	5.8	21.7	51.7		15.8	5.0	27.5	20.8
	ノ) ◎ 景観を良くするための無電柱化	1.6	7.8	40.9		26.1	23.6	9.4	49.7	3.3	6.7	35.8		28.3	25.8	10.0	54.2
	ハ) ● カフェなど生活を快適にする道路利用	2.0	14.3	54.5		20.7	8.4	16.4	29.1	2.5	12.5	55.0		15.8	14.2	15.0	30.0

充足している計:

■ 40%~ ■ 30%~39.9% ■ 20%~29.9% ■ 10%~19.9%

各地ー全国 ● マイナス ■ マイナス5ポイント以上

◎ プラス

■社会資本具体分野別の充足度評価(ブロック別)東北

イ) 海岸施設、ウ)「命の道」としての高速道路や幹線道路、エ) 安全性の高い街、オ) 避難路・避難場所などの施設、カ) 安全が確保された通学路、歩道、キ) 広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路、ケ) 広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道、ヌ) 恵まれた自然景観など「安全・安心」、道路、自然などが全国を上回る。
 逆にコ) 環状道路や放射状の道路、セ) 地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)、タ) 中心市街地を活性化する都市整備、チ) 地域の道路、ツ) 地域の交通機関(鉄道、バス)、ト) 医療、福祉、子育て、教育文化施設などが全国をマイナス5ポイント以上下回る。

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

		あなたの住む地域(全国)(n=3000)								あなたの住む地域(東北)(n=210)							
		(%)								(%)							
		非常に充足している	充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計	充足していない計	非常に充足している	充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計	充足していない計		
①安全・安心	ア) ● 河川の施設	2.4	31.0	50.1		13.9	2.6	33.4	16.4	2.9	29.5	49.0		15.7	2.9	32.4	18.6
	イ) ◎ 海岸施設	2.2	19.9	60.0		14.2	3.7	22.1	17.9	2.4	20.0	59.0		15.7	2.9	22.4	18.6
	ウ) ◎ 「命の道」としての高速道路や幹線道路	2.6	24.2	51.1		17.8	4.3	26.8	22.1	3.8	24.8	49.5		17.1	4.8	28.6	21.9
	エ) ◎ 安全性の高い街	1.7	17.0	54.9		22.3	4.1	18.6	26.5	2.9	17.6	54.8		21.9	2.9	20.5	24.8
	オ) ◎ 避難路・避難場所などの施設	2.1	22.2	52.4		19.7	3.5	24.3	23.2	4.8	21.0	47.6		21.9	4.8	25.7	26.7
②活力・交流	カ) ◎ 安全が確保された通学路、歩道	1.8	17.5	52.1		23.5	5.1	19.3	28.7	3.3	16.2	49.0		27.1	4.3	19.5	31.4
	キ) ◎ 広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	2.5	25.2	51.0		16.6	4.6	27.7	21.3	2.9	25.2	45.7		20.5	5.7	28.1	26.2
	ク) ■ ETOなどの設備	3.7	30.4	50.6		11.5	3.8	34.1	15.3	3.8	25.2	53.8		12.4	4.8	29.0	17.1
	ケ) ◎ 広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	3.3	25.3	49.2		15.7	6.6	28.5	22.3	5.2	23.8	48.1		16.7	6.2	29.0	22.9
	コ) ■ 環状道路や放射状の道路	2.1	20.2	50.6		19.6	7.5	22.3	27.1	1.4	14.3	51.0		21.9	11.4	15.7	33.3
	サ) ● 国際ハブ空港	2.0	14.9	48.2		20.2	14.7	16.8	34.9	1.9	11.0	42.9		22.9	21.4	12.9	44.3
	シ) ● 遠隔地との交流を実現する空港	2.3	16.1	50.8		18.4	12.5	18.3	30.8	1.9	12.9	47.1		23.3	14.8	14.8	38.1
	ス) ◎ 海運を担う港湾	2.3	18.8	54.1		16.2	8.6	21.1	24.8	3.3	19.0	51.9		17.6	8.1	22.4	25.7
	セ) ■ 地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)	3.8	24.7	48.3		17.9	5.2	28.5	23.1	3.3	17.6	46.7		25.2	7.1	21.0	32.4
	ソ) ● 高速で大容量の通信ネットワーク	3.1	22.3	55.6		14.2	4.8	25.4	19.0	2.4	21.4	49.5		18.1	8.6	23.8	26.7
③心豊かな暮らし	タ) ■ 中心市街地を活性化する都市整備	2.6	21.3	52.5		17.9	5.7	23.9	23.6	1.9	16.7	51.4		21.0	9.0	18.6	30.0
	チ) ■ 地域の道路	3.1	30.5	49.2		13.7	3.5	33.6	17.3	3.8	22.4	50.5		18.6	4.8	26.2	23.3
	ツ) ■ 地域の交通機関(鉄道、バス)	4.2	24.6	47.0		18.2	6.0	28.8	24.2	4.3	14.8	45.7		25.7	9.5	19.0	35.2
	テ) ● 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設	3.6	28.3	47.3		17.2	3.6	32.0	20.8	5.2	22.4	45.2		21.9	5.2	27.6	27.1
	ト) ■ 医療、福祉、子育て、教育文化施設	2.8	23.3	52.0		18.0	3.8	26.1	21.9	3.3	16.7	53.8		21.0	5.2	20.0	26.2
	ナ) ● 安全でおいしい水を供給する上水道	8.2	37.9	43.2		8.4	2.2	46.2	10.6	7.6	38.1	43.3		8.1	2.9	45.7	11.0
	ニ) ■ 下水道などの汚水処理施設	5.4	35.9	46.4		9.6	2.7	41.3	12.3	4.8	30.0	50.0		11.4	3.8	34.8	15.2
	ヌ) ◎ 恵まれた自然景観	5.9	32.6	47.4		11.5	2.6	38.5	14.1	7.1	37.6	45.2		6.7	3.3	44.8	10.0
	ネ) ● 質の高い居住・生活空間	2.6	23.2	57.1		13.8	3.4	25.7	17.2	2.4	20.0	58.6		15.7	3.3	22.4	19.0
	ノ) ● 景観を良くするための無電柱化	1.6	7.8	40.9		26.1		23.6	9.4	1.6	2	41.0		26.2		25.2	7.6
ハ) ● カフェなど生活を快適にする道路利用	2.0	14.3	54.5		20.7	8.4	16.4	29.1	1.9	12.9	50.5		24.3	10.5	14.8	34.8	

充足している計:

■ 40%~ ■ 30%~39.9% ■ 20%~29.9% ■ 10%~19.9%

各地一全国 ● マイナス ■ マイナス5ポイント以上

◎ プラス

■社会資本具体分野別の充足度評価(ブロック別)関東

ナ)安全でおいしい水を供給する上水道、ヌ)恵まれた自然景観、ネ)質の高い居住・生活空間などが全国を下回る以外、ほとんど全ての個別社会資本で全国を上回る。

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

		あなたの住む地域(全国)(n=3000)						あなたの住む地域(関東)(n=1070)					
		(%)						(%)					
		非常に充足している	充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計	非常に充足している	充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計
①安全・安心	ア) ◎ 河川の施設	2.4	31.0	50.1	13.9	2.6	33.4	16.4	2.6	31.6	50.7	12.3	2.7
	イ) ● 海岸施設	2.2	19.9	60.0	14.2	3.7	22.1	17.9	1.9	19.3	61.3	12.4	5.1
	ウ) ◎ 「命の道」としての高速道路や幹線道路	2.6	24.2	51.1	17.8	4.3	26.8	22.1	2.6	24.7	52.2	16.2	4.3
	エ) ◎ 安全性の高い街	1.7	17.0	54.9	22.3	4.1	18.6	26.5	1.6	17.1	55.1	20.9	5.2
	オ) ◎ 避難路・避難場所などの施設	2.1	22.2	52.4	19.7	3.5	24.3	23.2	1.9	23.4	52.8	18.0	3.9
	カ) ◎ 安全が確保された通学路、歩道	1.8	17.5	52.1	23.5	5.1	19.3	28.7	0.9	18.8	52.1	22.1	6.0
②活力・交流	キ) ◎ 広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	2.5	25.2	51.0	16.6	4.6	27.7	21.3	1.7	26.8	53.0	14.7	3.8
	ク) ● ETCなどの設備	3.7	30.4	50.6	11.5	3.8	34.1	15.3	3.1	30.7	53.0	9.8	3.4
	ケ) ◎ 広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	3.3	25.3	49.2	15.7	6.6	28.5	22.3	2.9	27.3	51.2	13.8	4.8
	コ) ◎ 環状道路や放射状の道路	2.1	20.2	50.6	19.6	7.5	22.3	27.1	2.0	24.7	52.7	15.0	5.6
	サ) ◎ 国際ハブ空港	2.0	14.9	48.2	20.2	14.7	16.8	34.9	2.0	16.2	50.8	18.4	12.6
	シ) ◎ 遠隔地との交流を実現する空港	2.3	16.1	50.8	18.4	12.5	18.3	30.8	2.1	17.2	53.1	15.7	12.0
	ス) ● 海運を担う港湾	2.3	18.8	54.1	16.2	8.6	21.1	24.8	1.7	17.7	55.9	13.8	10.9
	セ) ◎ 地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)	3.8	24.7	48.3	17.9	5.2	28.5	23.1	4.4	27.7	50.0	13.5	4.5
	ソ) ◎ 高速で大容量の通信ネットワーク	3.1	22.3	55.6	14.2	4.8	25.4	19.0	3.5	24.6	56.0	11.7	4.3
	タ) ◎ 中心市街地を活性化する都市整備	2.6	21.3	52.5	17.9	5.7	23.9	23.6	2.5	24.9	53.1	14.6	5.0
③心豊かな暮らし	チ) ◎ 地域の道路	3.1	30.5	49.2	13.7	3.5	33.6	17.3	3.7	32.5	48.9	11.4	3.5
	ツ) ◎ 地域の交通機関(鉄道、バス)	4.2	24.6	47.0	18.2	6.0	28.8	24.2	4.9	29.8	46.3	14.0	5.0
	テ) ◎ 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設	3.6	28.3	47.3	17.2	3.6	32.0	20.8	3.9	30.7	46.8	15.3	3.3
	ト) ◎ 医療、福祉、子育て、教育文化施設	2.8	23.3	52.0	18.0	3.8	26.1	21.9	2.5	25.5	49.8	18.5	3.6
	ナ) ● 安全でおいしい水を供給する上水道	8.2	37.9	43.2	8.4	2.2	46.2	10.6	7.2	37.6	44.0	9.0	2.2
	ニ) ◎ 下水道などの污水处理施設	5.4	35.9	46.4	9.6	2.7	41.3	12.3	5.9	38.3	45.6	7.9	2.3
	ヌ) ■ 恵まれた自然景観	5.9	32.6	47.4	11.5	2.6	38.5	14.1	4.1	28.9	50.3	13.5	3.3
	ネ) ● 質の高い居住・生活空間	2.6	23.2	57.1	13.8	3.4	25.7	17.2	2.1	23.2	55.9	14.5	4.3
	ノ) ◎ 景観を良くするための無電柱化	1.6	7.8	40.9	26.1	23.6	9.4	49.7	1.7	8.4	40.3	26.0	23.6
	ハ) ◎ カフェなど生活を快適にする道路利用	2.0	14.3	54.5	20.7	8.4	16.4	29.1	2.1	15.4	54.5	19.7	8.2

充足している計:

40%~ 30%~39.9% 20%~29.9% 10%~19.9%

各地ー全国 ●マイナス ■マイナス5ポイント以上

◎プラス

■社会資本具体分野別の充足度評価(ブロック別)北陸

ア)河川の施設、ナ)安全でおいしい水を供給する上水道、ニ)下水道などの汚水処理施設、ヌ)恵まれた自然景観、ネ)質の高い居住・生活空間などで全国を上回る。

それ以外は全国を下回り、特にキ)広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路、コ)環状道路や放射状の道路、サ)国際ハブ空港、シ)遠隔地との交流を実現する空港、セ)地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)、ソ)高速で大容量の通信ネットワーク、タ)中心市街地を活性化する都市整備など「活力・交流」に関する個別社会資本で全国をマイナス5ポイント以上下回る。

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

		あなたの住む地域(全国)(n=3000)						あなたの住む地域(北陸)(n=120)					
		(%)						(%)					
		非常に充足している	充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計	非常に充足している	充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計
①安全・安心	ア) ◎ 河川の施設	2.4	31.0	50.1	13.9	2.6	33.4	16.4	2.5	33.3	53.3	10.8	35.8
	イ) ● 海岸施設	2.2	19.9	60.0	14.2	3.7	22.1	17.9	1.7	19.2	63.3	14.2	20.8
	ウ) ● 「命の道」としての高速道路や幹線道路	2.6	24.2	51.1	17.8	4.3	26.8	22.1	1.7	25.0	54.2	19.2	26.7
	エ) ● 安全性の高い街	1.7	17.0	54.9	22.3	4.1	18.6	26.5	1.7	12.5	61.7	23.3	14.2
	オ) ● 避難路・避難場所などの施設	2.1	22.2	52.4	19.7	3.5	24.3	23.2	3.3	17.5	56.7	20.8	20.8
②活力・交流	カ) ● 安全が確保された通学路、歩道	1.8	17.5	52.1	23.5	5.1	19.3	28.7	1.7	17.5	49.2	28.3	19.2
	キ) ■ 広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	2.5	25.2	51.0	16.6	4.6	27.7	21.3	0.8	21.7	55.8	20.0	22.5
	ク) ● ETCなどの設備	3.7	30.4	50.6	11.5	3.8	34.1	15.3	2.5	30.0	54.2	11.7	32.5
	ケ) ● 広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	3.3	25.3	49.2	15.7	6.6	28.5	22.3	0.0	26.7	57.5	15.0	26.7
	コ) ■ 環状道路や放射状の道路	2.1	20.2	50.6	19.6	7.5	22.3	27.1	1.7	14.2	53.3	24.2	15.8
	サ) ■ 国際ハブ空港	2.0	14.9	48.2	20.2	14.7	16.8	34.9	0.8	8.3	47.5	27.5	15.8
	シ) ■ 遠隔地との交流を実現する空港	2.3	16.1	50.8	18.4	12.5	18.3	30.8	1.7	8.3	51.7	25.8	12.5
	ス) ● 海運を担う港湾	2.3	18.8	54.1	16.2	8.6	21.1	24.8	3.3	17.5	59.2	15.0	20.8
	セ) ■ 地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)	3.8	24.7	48.3	17.9	5.2	28.5	23.1	0.8	18.3	45.8	29.2	5.8
	ソ) ■ 高速で大容量の通信ネットワーク	3.1	22.3	55.6	14.2	4.8	25.4	19.0	3.3	13.3	60.8	19.2	3.3
③心豊かな暮らし	タ) ■ 中心市街地を活性化する都市整備	2.6	21.3	52.5	17.9	5.7	23.9	23.6	2.5	10.0	57.5	24.2	5.8
	チ) ■ 地域の道路	3.1	30.5	49.2	13.7	3.5	33.6	17.3	1.7	26.7	54.2	14.2	3.3
	ツ) ■ 地域の交通機関(鉄道、バス)	4.2	24.6	47.0	18.2	6.0	28.8	24.2	1.7	11.7	50.8	30.0	5.8
	テ) ● 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設	3.6	28.3	47.3	17.2	3.6	32.0	20.8	3.3	24.2	49.2	20.8	2.5
	ト) ■ 医療、福祉、子育て、教育文化施設	2.8	23.3	52.0	18.0	3.8	26.1	21.9	0.8	18.3	59.2	20.0	1.7
	ナ) ◎ 安全でおいしい水を供給する上水道	8.2	37.9	43.2	8.4	2.2	46.2	10.6	15.0	33.3	46.7	3.3	48.3
	ニ) ◎ 下水道などの汚水処理施設	5.4	35.9	46.4	9.6	2.7	41.3	12.3	10.0	35.8	46.7	7.5	45.8
	ヌ) ◎ 恵まれた自然景観	5.9	32.6	47.4	11.5	2.6	38.5	14.1	10.0	38.3	44.2	6.7	48.3
	ネ) ◎ 質の高い居住・生活空間	2.6	23.2	57.1	13.8	3.4	25.7	17.2	0.8	26.7	58.3	12.5	1.7
	ノ) ■ 景観を良くするための無電柱化	1.6	7.8	40.9	26.1	23.6	9.4	49.7	1.7	12.5	47.5	28.3	20.0
	ハ) ● カフェなど生活を快適にする道路利用	2.0	14.3	54.5	20.7	8.4	16.4	29.1	0.0	12.5	55.8	21.7	10.0

充足している計:

■ 40%~ ■ 30%~39.9% ■ 20%~29.9% ■ 10%~19.9%

各地一全国 ● マイナス ■ マイナス5ポイント以上

◎ プラス

■社会資本具体分野別の充足度評価(ブロック別)中部

ア)河川の施設、イ)海岸施設、エ)安全性の高い街、オ)避難路・避難場所などの施設、カ)安全が確保された通学路、歩道など「安全・安心」に関わる社会資本、セ)地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)、ソ)高速で大容量の通信ネットワーク、タ)中心市街地を活性化する都市整備、チ)地域の道路、ツ)地域の交通機関(鉄道、バス)など地域、地域交通で全国を下回る。

逆に、ウ)「命の道」としての高速道路や幹線道路、キ)広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路、ク)ETCなどの設備、ケ)広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道、コ)環状道路や放射状の道路など高速道路、新幹線などでは全国を上回る。

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

		あなたの住む地域(全国)(n=3000)							あなたの住む地域(中部)(n=360)						
		(%)							(%)						
		非常に充足している	充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計	充足していない計	非常に充足している	充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計	充足していない計
①安全・安心	ア) ● 河川の施設	2.4	31.0	50.1	13.9	2.6	33.4	16.4	2.2	30.0	50.6	15.3	1.9	32.2	17.2
	イ) ● 海岸施設	2.2	19.9	60.0	14.2	3.7	22.1	17.9	3.6	16.1	60.3	18.1	1.9	19.7	20.0
	ウ) ◎ 「命の道」としての高速道路や幹線道路	2.6	24.2	51.1	17.8	4.3	26.8	22.1	3.1	24.7	53.3	15.6	3.3	27.8	18.9
	エ) ● 安全性の高い街	1.7	17.0	54.9	22.3	4.1	18.6	26.5	2.2	15.3	54.2	25.3	3.1	17.5	28.3
	オ) ● 避難路・避難場所などの施設	2.1	22.2	52.4	19.7	3.5	24.3	23.2	1.9	20.0	53.6	22.8	1.7	21.9	24.4
②活力・交流	カ) ● 安全が確保された通学路、歩道	1.8	17.5	52.1	23.5	5.1	19.3	28.7	2.2	13.3	56.4	24.2	3.9	15.6	28.1
	キ) ◎ 広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	2.5	25.2	51.0	16.6	4.6	27.7	21.3	4.4	26.9	50.8	15.6	2.2	31.4	17.8
	ク) ◎ ETCなどの設備	3.7	30.4	50.6	11.5	3.8	34.1	15.3	4.7	33.1	49.2	11.4	1.7	37.8	13.1
	ケ) ◎ 広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	3.3	25.3	49.2	15.7	6.6	28.5	22.3	3.3	27.8	51.1	13.9	3.9	31.1	17.8
	コ) ◎ 環状道路や放射状の道路	2.1	20.2	50.6	19.6	7.5	22.3	27.1	2.5	22.2	48.9	21.9	4.4	24.7	26.4
	サ) ◎ 国際ハブ空港	2.0	14.9	48.2	20.2	14.7	16.8	34.9	1.9	16.9	49.2	20.8	11.1	18.9	31.9
	シ) ◎ 遠隔地との交流を実現する空港	2.3	16.1	50.8	18.4	12.5	18.3	30.8	2.5	16.1	52.2	18.9	10.3	18.6	29.2
	ス) ◎ 海運を担う港湾	2.3	18.8	54.1	16.2	8.6	21.1	24.8	3.1	19.2	53.9	16.1	7.8	22.2	23.9
	セ) ● 地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)	3.8	24.7	48.3	17.9	5.2	28.5	23.1	4.2	20.8	49.7	21.7	3.6	25.0	25.3
	ソ) ● 高速で大容量の通信ネットワーク	3.1	22.3	55.6	14.2	4.8	25.4	19.0	3.3	21.1	56.7	15.0	3.9	24.4	18.9
③心豊かな暮らし	タ) ● 中心市街地を活性化する都市整備	2.6	21.3	52.5	17.9	5.7	23.9	23.6	3.1	18.3	51.4	22.2	5.0	21.4	27.2
	チ) ● 地域の道路	3.1	30.5	49.2	13.7	3.5	33.6	17.3	2.2	29.4	50.8	15.0	2.5	31.7	17.5
	ツ) ● 地域の交通機関(鉄道、バス)	4.2	24.6	47.0	18.2	6.0	28.8	24.2	3.3	21.1	47.2	23.3	5.0	24.4	28.3
	テ) ● 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設	3.6	28.3	47.3	17.2	3.6	32.0	20.8	3.6	28.3	46.4	18.9	2.8	31.9	21.7
	ト) ● 医療、福祉、子育て、教育文化施設	2.8	23.3	52.0	18.0	3.8	26.1	21.9	3.1	22.2	53.1	19.4	2.2	25.3	21.7
	ナ) ◎ 安全でおいしい水を供給する上水道	8.2	37.9	43.2	8.4	2.2	46.2	10.6	7.5	38.9	42.8	9.2	1.7	46.4	10.8
	ニ) ■ 下水道などの汚水処理施設	5.4	35.9	46.4	9.6	2.7	41.3	12.3	4.7	30.8	49.4	11.7	3.3	35.6	15.0
	ヌ) ● 恵まれた自然景観	5.9	32.6	47.4	11.5	2.6	38.5	14.1	6.1	32.2	47.2	12.8	1.7	38.3	14.4
	ネ) ● 質の高い居住・生活空間	2.6	23.2	57.1	13.8	3.4	25.7	17.2	2.8	21.7	58.6	14.7	2.2	24.4	16.9
	ハ) ◎ 景観を良くするための無電柱化	1.6	7.8	40.9	26.1	23.6	9.4	49.7	1.9	9.2	41.4	25.3	22.2	11.1	47.5
	ハ) ◎ カフェなど生活を快適にする道路利用	2.0	14.3	54.5	20.7	8.4	16.4	29.1	2.2	15.0	54.2	20.6	8.1	17.2	28.6

充足している計:

■ 40%～ ■ 30%～39.9% ■ 20%～29.9% ■ 10%～19.9%

各地ー全国 ● マイナス ■ マイナス5ポイント以上

◎ プラス

■社会資本具体分野別の充足度評価(ブロック別)近畿

関東同様、ほとんど全ての個別社会資本で全国を上回る。

全国を下回るのは、ト)医療、福祉、子育て、教育文化施設、ヌ)恵まれた自然景観、ネ)質の高い居住・生活空間、ノ)景観を良くするための無電柱化などのみ。

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

		あなたの住む地域(全国)(n=3000)						あなたの住む地域(近畿)(n=510)					
		(%)						(%)					
		非常に充足している	充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計	非常に充足している	充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計
①安全・安心	ア) ◎ 河川の施設	2.4	31.0	50.1	13.9	2.6	33.4	16.4	2.0	33.3	48.4	12.7	35.3
	イ) ◎ 海岸施設	2.2	19.9	60.0	14.2	3.7	22.1	17.9	1.6	20.6	60.8	12.7	22.2
	ウ) ◎ 「命の道」としての高速道路や幹線道路	2.6	24.2	51.1	17.8	4.3	26.8	22.1	2.2	25.1	52.9	15.9	27.3
	エ) ◎ 安全性の高い街	1.7	17.0	54.9	22.3	4.1	18.6	26.5	0.8	19.4	57.1	18.8	20.2
	オ) ◎ 避難路・避難場所などの施設	2.1	22.2	52.4	19.7	3.5	24.3	23.2	1.8	24.5	54.1	17.1	26.3
	カ) ◎ 安全が確保された通学路、歩道	1.8	17.5	52.1	23.5	5.1	19.3	28.7	1.6	18.8	54.3	20.8	20.4
②活力・交流	キ) ◎ 広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	2.5	25.2	51.0	16.6	4.6	27.7	21.3	3.1	28.0	52.2	12.7	31.2
	ク) ◎ ETCなどの設備	3.7	30.4	50.6	11.5	3.8	34.1	15.3	3.7	34.9	47.6	9.8	38.6
	ケ) ◎ 広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	3.3	25.3	49.2	15.7	6.6	28.5	22.3	4.3	26.5	49.0	13.9	30.8
	コ) ◎ 環状道路や放射状の道路	2.1	20.2	50.6	19.6	7.5	22.3	27.1	2.7	21.2	51.2	17.8	23.9
	サ) ◎ 国際ハブ空港	2.0	14.9	48.2	20.2	14.7	16.8	34.9	2.0	17.6	50.4	16.5	19.6
	シ) ◎ 遠隔地との交流を実現する空港	2.3	16.1	50.8	18.4	12.5	18.3	30.8	2.4	17.3	50.6	16.9	19.6
	ス) ◎ 海運を担う港湾	2.3	18.8	54.1	16.2	8.6	21.1	24.8	1.6	20.4	54.3	15.3	22.0
	セ) ◎ 地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)	3.8	24.7	48.3	17.9	5.2	28.5	23.1	5.7	28.0	48.6	13.5	33.7
	ソ) ◎ 高速で大容量の通信ネットワーク	3.1	22.3	55.6	14.2	4.8	25.4	19.0	3.3	23.5	55.7	12.5	26.9
	タ) ◎ 中心市街地を活性化する都市整備	2.6	21.3	52.5	17.9	5.7	23.9	23.6	3.1	23.7	53.1	14.9	26.9
③心豊かな暮らし	チ) ◎ 地域の道路	3.1	30.5	49.2	13.7	3.5	33.6	17.3	2.5	34.5	48.0	11.8	37.1
	ツ) ◎ 地域の交通機関(鉄道、バス)	4.2	24.6	47.0	18.2	6.0	28.8	24.2	5.5	29.4	48.4	12.4	34.9
	テ) ◎ 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設	3.6	28.3	47.3	17.2	3.6	32.0	20.8	3.5	29.0	49.6	14.7	32.5
	ト) ● 医療、福祉、子育て、教育文化施設	2.8	23.3	52.0	18.0	3.8	26.1	21.9	2.4	23.1	56.3	14.9	25.5
	ナ) ◎ 安全でおいしい水を供給する上水道	8.2	37.9	43.2	8.4	2.2	46.2	10.6	8.6	38.2	43.3	8.2	46.9
	ニ) ◎ 下水道などの汚水処理施設	5.4	35.9	46.4	9.6	2.7	41.3	12.3	4.5	39.8	45.1	8.8	44.3
	ヌ) ■ 恵まれた自然景観	5.9	32.6	47.4	11.5	2.6	38.5	14.1	4.9	27.3	49.8	15.5	32.2
	ネ) ● 質の高い居住・生活空間	2.6	23.2	57.1	13.8	3.4	25.7	17.2	1.8	23.7	58.2	13.3	25.5
	ノ) ● 景観を良くするための無電柱化	1.6	7.8	40.9	26.1	23.6	9.4	49.7	0.8	7.5	40.8	28.0	8.2
	ハ) ◎ カフェなど生活を快適にする道路利用	2.0	14.3	54.5	20.7	8.4	16.4	29.1	2.2	15.3	57.1	19.2	17.5

充足している計:

■ 40%~ ■ 30%~39.9% ■ 20%~29.9% ■ 10%~19.9%

各地ー全国 ● マイナス ■ マイナス5ポイント以上

◎ プラス

■社会資本具体分野別の充足度評価(ブロック別)中国

イ) 海岸施設、ウ)「命の道」としての高速道路や幹線道路、ケ) 広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道、ス) 海運を担う港湾、ヌ) 恵まれた自然景観、ネ) 質の高い居住・生活空間、ノ) 景観を良くするための無電柱化などで全国を上回る。

ただ、コ) 環状道路や放射状の道路、サ) 国際ハブ空港、セ) 地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)、タ) 中心市街地を活性化する都市整備、ツ) 地域の交通機関(鉄道、バス)、テ) 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設など環状道路、都市間交通、都市整備、地域の交通機関、公園・緑地などで全国をマイナス5ポイント以上下回る。

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

		あなたの住む地域(全国) (n=3000)							あなたの住む地域(中国) (n=180)						
		(%)							(%)						
		非常に充足している	充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計	充足していない計	非常に充足している	充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計	充足していない計
① 安全・安心	ア) ● 河川の施設	2.4	31.0	50.1	13.9	2.6	33.4	16.4	1.1	32.2	49.4	16.1	1.1	33.3	17.2
	イ) ◎ 海岸施設	2.2	19.9	60.0	14.2	3.7	22.1	17.9	2.8	23.9	53.9	18.3	1.1	26.7	19.4
	ウ) ◎ 「命の道」としての高速道路や幹線道路	2.6	24.2	51.1	17.8	4.3	26.8	22.1	1.1	26.1	49.4	16.7	6.7	27.2	23.3
	エ) ● 安全性の高い街	1.7	17.0	54.9	22.3	4.1	18.6	26.5	0.6	15.6	57.2	21.7	5.0	16.1	26.7
	オ) ● 避難路・避難場所などの施設	2.1	22.2	52.4	19.7	3.5	24.3	23.2	1.7	18.9	55.0	20.0	4.4	20.6	24.4
② 活力・交流	カ) ● 安全が確保された通学路、歩道	1.8	17.5	52.1	23.5	5.1	19.3	28.7	1.1	17.2	49.4	25.6	6.7	18.3	32.2
	キ) ● 広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	2.5	25.2	51.0	16.6	4.6	27.7	21.3	1.7	25.0	47.8	20.0	5.6	26.7	25.6
	ク) ● ETCなどの設備	3.7	30.4	50.6	11.5	3.8	34.1	15.3	3.3	27.8	48.9	13.9	6.1	31.1	20.0
	ケ) ◎ 広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	3.3	25.3	49.2	15.7	6.6	28.5	22.3	3.3	26.1	47.2	15.6	7.8	29.4	23.3
	コ) ■ 環状道路や放射状の道路	2.1	20.2	50.6	19.6	7.5	22.3	27.1	0.6	14.4	47.8	27.8	9.4	15.0	37.2
	サ) ■ 国際ハブ空港	2.0	14.9	48.2	20.2	14.7	16.8	34.9	1.8	3.3	47.8	21.1	21.7	9.4	42.8
	シ) ● 遠隔地との交流を実現する空港	2.3	16.1	50.8	18.4	12.5	18.3	30.8	0.6	15.6	49.4	19.4	15.0	16.1	34.4
	ス) ◎ 海運を担う港湾	2.3	18.8	54.1	16.2	8.6	21.1	24.8	1.7	20.0	53.9	17.2	7.2	21.7	24.4
	セ) ■ 地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)	3.8	24.7	48.3	17.9	5.2	28.5	23.1	0.6	22.2	48.9	22.2	6.1	22.8	28.3
	ソ) ● 高速で大容量の通信ネットワーク	3.1	22.3	55.6	14.2	4.8	25.4	19.0	1.7	20.0	60.6	13.3	4.4	21.7	17.8
③ 心豊かな暮らし	タ) ■ 中心市街地を活性化する都市整備	2.6	21.3	52.5	17.9	5.7	23.9	23.6	1.1	17.2	55.0	20.0	6.7	18.3	26.7
	チ) ● 地域の道路	3.1	30.5	49.2	13.7	3.5	33.6	17.3	1.7	29.4	47.8	16.1	5.0	31.1	21.1
	ツ) ■ 地域の交通機関(鉄道、バス)	4.2	24.6	47.0	18.2	6.0	28.8	24.2	1.7	19.4	46.7	25.6	6.7	21.1	32.2
	テ) ■ 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設	3.6	28.3	47.3	17.2	3.6	32.0	20.8	1.7	23.3	51.1	17.8	6.1	25.0	23.9
	ト) ● 医療、福祉、子育て、教育文化施設	2.8	23.3	52.0	18.0	3.8	26.1	21.9	2.2	22.2	55.0	13.9	6.7	24.4	20.6
	ナ) ● 安全でおいしい水を供給する上水道	8.2	37.9	43.2	8.4	2.2	46.2	10.6	4.4	40.6	42.8	10.6	1.7	45.0	12.2
	ニ) ● 下水道などの汚水処理施設	5.4	35.9	46.4	9.6	2.7	41.3	12.3	2.8	33.9	47.8	12.8	2.8	36.7	15.6
	ヌ) ◎ 恵まれた自然景観	5.9	32.6	47.4	11.5	2.6	38.5	14.1	5.0	38.9	47.8	6.1	2.2	43.9	8.3
	ネ) ◎ 質の高い居住・生活空間	2.6	23.2	57.1	13.8	3.4	25.7	17.2	1.7	25.0	58.9	10.0	4.4	26.7	14.4
	ノ) ◎ 景観を良くするための無電柱化	1.6	7.8	40.9	26.1	23.6	9.4	49.7	1.7	9.4	43.3	20.0	25.6	11.1	45.6
	ハ) ● カフェなど生活を快適にする道路利用	2.0	14.3	54.5	20.7	8.4	16.4	29.1	0.6	12.2	56.1	21.1	10.0	12.8	31.1

充足している計:

■ 40%~ ■ 30%~39.9% ■ 20%~29.9% ■ 10%~19.9%

各地一全国 ● マイナス ■ マイナス5ポイント以上

◎ プラス

■社会資本具体分野別の充足度評価(ブロック別)四国

ヌ) 恵まれた自然景観、ネ) 質の高い居住・生活空間などを除き、ほとんど全ての全国平均を下回る。マイナス5ポイント以上のものも多い。

ア) 河川の施設、イ) 海岸施設、ウ) 「命の道」としての高速道路や幹線道路、エ) 安全性の高い街、オ) 避難路・避難場所などの施設、カ) 安全が確保された通学路、歩道など「安全・安心」に関わる社会資本、キ) 広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路、ク) ETC などの設備、ケ) 広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道、コ) 環状道路や放射状の道路、サ) 国際ハブ空港、シ) 遠隔地との交流を実現する空港、セ) 地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)、ソ) 高速で大容量の通信ネットワーク、タ) 中心市街地を活性化する都市整備など「活力・交流」に関わる社会資本、チ) 地域の道路、ツ) 地域の交通機関(鉄道、バス)、テ) 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設、ニ) 下水道などの汚水処理施設など「心豊かな暮らし」に関わる社会資本でマイナス5ポイント以上となっているのは四国の特徴。

Q7-1. 「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

		あなたの住む地域(全国) (n=3000)							あなたの住む地域(四国) (n=100)						
		(%)							(%)						
		非常に充足している	充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計	充足していない計	非常に充足している	充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計	充足していない計
① 安全・安心	ア) ■ 河川の施設	2.4	31.0	50.1	13.9	2.6	33.4	16.4	1.0	27.0	49.0	18.0	5.0	28.0	23.0
	イ) ● 海岸施設	2.2	19.9	60.0	14.2	3.7	22.1	17.9	0.0	21.0	58.0	17.0	4.0	21.0	21.0
	ウ) ■ 「命の道」としての高速道路や幹線道路	2.6	24.2	51.1	17.8	4.3	26.8	22.1	1.0	14.0	44.0	32.0	9.0	15.0	41.0
	エ) ■ 安全性の高い街	1.7	17.0	54.9	22.3	4.1	18.6	26.5	1.0	12.0	44.0	37.0	6.0	13.0	43.0
	オ) ■ 避難路・避難場所などの施設	2.1	22.2	52.4	19.7	3.5	24.3	23.2	0.0	17.0	49.0	26.0	8.0	17.0	34.0
	カ) ■ 安全が確保された通学路、歩道	1.8	17.5	52.1	23.5	5.1	19.3	28.7	0.0	13.0	47.0	34.0	6.0	13.0	40.0
② 活力・交流	キ) ■ 広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	2.5	25.2	51.0	16.6	4.6	27.7	21.3	1.0	11.0	53.0	26.0	9.0	12.0	35.0
	ク) ■ ETCなどの設備	3.7	30.4	50.6	11.5	3.8	34.1	15.3	2.0	23.0	52.0	18.0	5.0	25.0	23.0
	ケ) ■ 広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	3.3	25.3	49.2	15.7	6.6	28.5	22.3	0.0	12.0	37.0	30.0	21.0	12.0	51.0
	コ) ■ 環状道路や放射状の道路	2.1	20.2	50.6	19.6	7.5	22.3	27.1	0.0	9.0	45.0	25.0	21.0	9.0	46.0
	サ) ■ 国際ハブ空港	2.0	14.9	48.2	20.2	14.7	16.8	34.9	2.0	6.0	42.0	20.0	30.0	8.0	50.0
	シ) ■ 遠隔地との交流を実現する空港	2.3	16.1	50.8	18.4	12.5	18.3	30.8	0.0	8.0	44.0	26.0	22.0	8.0	48.0
	ス) ● 海運を担う港湾	2.3	18.8	54.1	16.2	8.6	21.1	24.8	2.0	16.0	48.0	26.0	8.0	18.0	34.0
	セ) ■ 地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)	3.8	24.7	48.3	17.9	5.2	28.5	23.1	1.0	17.0	43.0	24.0	15.0	18.0	39.0
	ソ) ■ 高速で大容量の通信ネットワーク	3.1	22.3	55.6	14.2	4.8	25.4	19.0	0.0	17.0	54.0	22.0	7.0	17.0	29.0
	タ) ■ 中心市街地を活性化する都市整備	2.6	21.3	52.5	17.9	5.7	23.9	23.6	0.0	14.0	50.0	26.0	10.0	14.0	36.0
③ 心豊かな暮らし	チ) ■ 地域の道路	3.1	30.5	49.2	13.7	3.5	33.6	17.3	1.0	24.0	51.0	18.0	6.0	25.0	24.0
	ツ) ■ 地域の交通機関(鉄道、バス)	4.2	24.6	47.0	18.2	6.0	28.8	24.2	1.0	14.0	43.0	31.0	11.0	15.0	42.0
	テ) ■ 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設	3.6	28.3	47.3	17.2	3.6	32.0	20.8	0.0	19.0	46.0	30.0	5.0	19.0	35.0
	ト) ● 医療、福祉、子育て、教育文化施設	2.8	23.3	52.0	18.0	3.8	26.1	21.9	1.0	22.0	46.0	22.0	9.0	23.0	31.0
	ナ) ● 安全でおいしい水を供給する上水道	8.2	37.9	43.2	8.4	2.2	46.2	10.6	6.0	38.0	44.0	7.0	5.0	44.0	12.0
	ニ) ■ 下水道などの汚水処理施設	5.4	35.9	46.4	9.6	2.7	41.3	12.3	1.0	28.0	45.0	19.0	7.0	29.0	26.0
	ヌ) ◎ 恵まれた自然景観	5.9	32.6	47.4	11.5	2.6	38.5	14.1	9.0	32.0	46.0	9.0	4.0	41.0	13.0
	ネ) ◎ 質の高い居住・生活空間	2.6	23.2	57.1	13.8	3.4	25.7	17.2	2.0	25.0	53.0	14.0	6.0	27.0	20.0
	ノ) ● 景観を良くするための無電柱化	1.6	7.8	40.9	26.1	23.6	9.4	49.7	0.0	8.0	38.0	26.0	28.0	8.0	54.0
	ハ) ● カフェなど生活を快適にする道路利用	2.0	14.3	54.5	20.7	8.4	16.4	29.1	1.0	13.0	48.0	25.0	13.0	14.0	38.0

充足している計:

■ 40%~ ■ 30%~39.9% ■ 20%~29.9% ■ 10%~19.9%

各地一全国 ● マイナス ■ マイナス5ポイント以上

◎ プラス

■社会資本具体分野別の充足度評価(ブロック別)九州・沖縄

ア)河川の施設、コ)環状道路や放射状の道路、ツ)地域の交通機関(鉄道、バス)、ノ)景観を良くするための無電柱化、ハ)カフェなど生活を快適にする道路利用を除き、全国を下回る社会資本資本はない。マイナス5ポイント以上がないことも九州・沖縄の特徴。
 「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」に関わる社会資本で全国を上回るものが多いのが九州・沖縄の特徴。

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

		あなたの住む地域(全国) (n=3000)						あなたの住む地域(九州・沖縄) (n=330)					
		(%)						(%)					
		非常に充足している	充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計	非常に充足している	充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計
① 安全・安心	ア) ● 河川の施設	2.4	31.0	50.1	13.9	2.6	33.4	16.4	2.7	30.0	51.2	14.8	32.7
	イ) ◎ 海岸施設	2.2	19.9	60.0	14.2	3.7	22.1	17.9	2.4	24.8	57.3	13.9	27.3
	ウ) ◎ 「命の道」としての高速道路や幹線道路	2.6	24.2	51.1	17.8	4.3	26.8	22.1	3.0	24.5	46.4	23.0	27.6
	エ) ◎ 安全性の高い街	1.7	17.0	54.9	22.3	4.1	18.6	26.5	2.4	17.9	53.6	24.2	20.3
	オ) ◎ 避難路・避難場所などの施設	2.1	22.2	52.4	19.7	3.5	24.3	23.2	2.4	22.1	51.5	21.2	24.5
	カ) ◎ 安全が確保された通学路、歩道	1.8	17.5	52.1	23.5	5.1	19.3	28.7	3.3	18.2	50.0	23.9	21.5
② 活力・交流	キ) ◎ 広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	2.5	25.2	51.0	16.6	4.6	27.7	21.3	3.3	24.5	47.3	19.1	27.9
	ク) ◎ ETCなどの設備	3.7	30.4	50.6	11.5	3.8	34.1	15.3	4.5	30.6	47.3	13.9	35.2
	ケ) 広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	3.3	25.3	49.2	15.7	6.6	28.5	22.3	4.2	24.2	45.2	17.6	28.5
	コ) ● 環状道路や放射状の道路	2.1	20.2	50.6	19.6	7.5	22.3	27.1	3.0	17.0	48.5	23.3	20.0
	サ) ◎ 国際ハブ空港	2.0	14.9	48.2	20.2	14.7	16.8	34.9	2.1	16.7	43.3	24.2	18.8
	シ) ◎ 遠隔地との交流を実現する空港	2.3	16.1	50.8	18.4	12.5	18.3	30.8	3.6	20.0	47.9	19.1	23.6
③ 心豊かな暮らし	ス) ◎ 海運を担う港湾	2.3	18.8	54.1	16.2	8.6	21.1	24.8	3.9	20.9	50.9	20.0	24.8
	セ) ◎ 地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)	3.8	24.7	48.3	17.9	5.2	28.5	23.1	3.3	27.3	46.4	17.9	30.6
	ソ) ◎ 高速で大容量の通信ネットワーク	3.1	22.3	55.6	14.2	4.8	25.4	19.0	3.3	23.0	53.6	16.4	26.4
	タ) ◎ 中心市街地を活性化する都市整備	2.6	21.3	52.5	17.9	5.7	23.9	23.6	3.3	22.1	50.0	20.9	25.5
	チ) 地域の道路	3.1	30.5	49.2	13.7	3.5	33.6	17.3	3.3	30.3	49.4	14.8	33.6
	ツ) ● 地域の交通機関(鉄道、バス)	4.2	24.6	47.0	18.2	6.0	28.8	24.2	3.3	24.2	47.0	17.9	27.6
③ 心豊かな暮らし	テ) ◎ 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設	3.6	28.3	47.3	17.2	3.6	32.0	20.8	3.9	29.7	47.9	15.8	33.6
	ト) ◎ 医療、福祉、子育て、教育文化施設	2.8	23.3	52.0	18.0	3.8	26.1	21.9	4.5	24.5	50.0	18.2	29.1
	ナ) ◎ 安全でおいしい水を供給する上水道	8.2	37.9	43.2	8.4	2.2	46.2	10.6	10.6	37.6	43.0	6.7	48.2
	ニ) ◎ 下水道などの污水处理施設	5.4	35.9	46.4	9.6	2.7	41.3	12.3	6.7	35.5	46.1	9.1	42.1
	ヌ) ◎ 恵まれた自然景観	5.9	32.6	47.4	11.5	2.6	38.5	14.1	9.4	40.6	41.5	7.3	50.0
	ネ) ◎ 質の高い居住・生活空間	2.6	23.2	57.1	13.8	3.4	25.7	17.2	5.2	23.6	58.5	11.8	28.8
③ 心豊かな暮らし	ノ) ● 景観を良くするための無電柱化	1.6	7.8	40.9	26.1	23.6	9.4	49.7	2.1	7.0	41.8	26.1	23.0
	ハ) ● カフェなど生活を快適にする道路利用	2.0	14.3	54.5	20.7	8.4	16.4	29.1	3.0	12.4	54.2	23.9	6.4

充足している計:

■ 40%～ ■ 30%～39.9% ■ 20%～29.9% ■ 10%～19.9%

各地ー全国 ● マイナス ■ マイナス5ポイント以上

◎ プラス

5. 社会資本の状況に関する全体評価

■社会資本の状況に関する全体評価(Q8)

「充足している」と「充足していない」の比率は、居住地域 28.0%＞24.6%、日本全体 25.9%＞20.9%。居住地域の充足度評価が日本全体より高い。

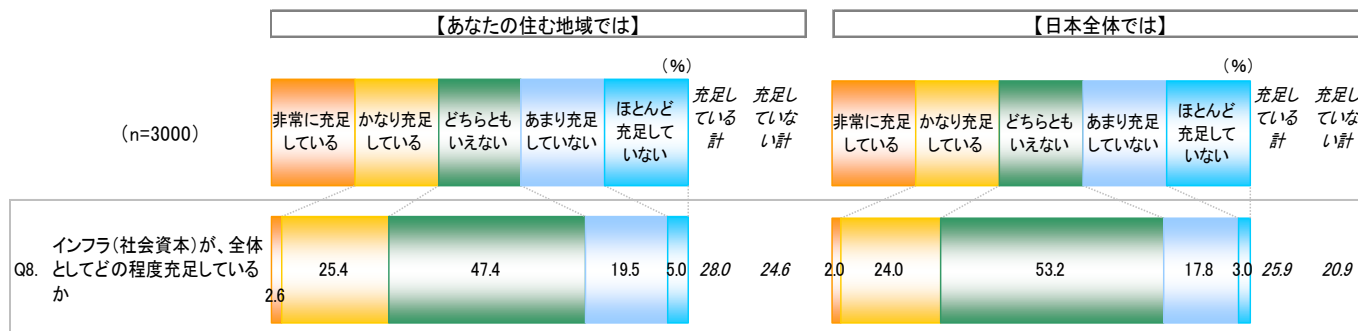
なお、社会資本の充足度評価に関する地域間格差は大きい。特に、四国、北海道は居住地域、日本全体とも充足していないと評価。逆に、地方中枢都市、近畿は、日本、居住地域とも充足していると評価。

インフラ(社会資本)が全体としてどの程度充足しているかに関して、あなたの住む地域(【居住地域】)で「充足している」計 28.0%、「どちらともいえない」47.4%、「充足していない」計 24.6%。【日本全体】で「充足している」計 25.9%、「どちらともいえない」53.2%、「充足していない」計 20.9%。【居住地域】が、日本全体を上回る。

「どちらともいえない」が多い(特に日本全体で 53.2%、居住地域は 47.4%)。

「居住地域」の充足度の方が「日本全体」より高くなっているのは、他の質問項目と同様の傾向。

→ この原因として、日本全体(他地域)の社会資本充足度状況を知らない、他地域の悪い報道を見ることが多いことなどに加え、自地域が充足しているとする人が多い地域ほど、人口が多く、それが全体の結果に影響したと考えられる。(詳しくは次ページの地域別評価参照) これに加え、もっと重要なポイントとして、国民の社会資本(整備)に関する認知・理解が不十分で、それが原因で「どちらともいえない」がこれほど多くなっている可能性がある。



■社会資本の状況に関する全体評価〈性・年代別〉

インフラ(社会資本)が全体としてどの程度充足しているかに関して、

【あなたの住む地域(居住地域)】で「充足している」計は

性別で見ると、男性 28.7%、女性 27.4%とほぼ同数。

年代別で見ると、60～70 代 34.8%の比率が高く、50 代では「充足している」計が 27.8%だが、充足していない計は 28.0%と充足していない方が多い。「充足している計」は 10～20 代 27.3%、40 代 26.8%、30 代 23.3%と続き、30 台では「充足していない」計が 24.7%で、「充足している」計を上回る。

性年代別で見ると、女性 60～79 歳 37.3%、男性 18～29 歳 33.3%、男性 60～79 歳 32.3%、女性 50 代 30.7%、男性 40 代 28.3%、女性 40 代 25.3%、男性 50 代 25.0%、男性 30 代 24.3%、女性 30 代 22.3%、女性 18～29 歳 21.3%。女性内で年代による差が目立つ。男性 50 代は「充足していない」計 31.3%の方が、「充足している」計を上回る。

【日本全体】で「充足している」計が、「充足していない」計を、60～70 代を除いて上回っている。

「充足している」計を性別で見ると、男性 27.7%、女性 24.1%と男性の方が少し多い。

年代別で見ると、10～20 代 27.8%、30 代 26.2%、40 代 26.0%、50 代 25.3%とあまり差はないが、若年層ほど充足しているとする人が多く、それぞれ「充足していない」計を上回っている。60～70 代は「充足している」計 24.3%に対し、「充足していない」28.3%と「充足していない」計が上回る。

性年代別で見ると、男性 18～29 歳 33.7%、男性 40 代 30.0%、男性 30 代 27.3%、女性 60～79 歳 26.7%、男性 50 代 25.7%、女性 30 代、女性 50 代各 25.0%、男性 60～79 歳、女性 18～29 歳、女性 40 代各 22.0%。男性 18～29 の高さが目立つ。

Q8. これまで、個別のインフラ(社会資本)についてあなたのご意見を伺ってきましたが、あなたはこういったインフラ(社会資本)が、全体としてどの程度充足していると考えますか。(それぞれひとつだけ)

		【あなたの住む地域では】							【日本全体では】						
		非常に充足している	かなり充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	(%) 充足している計	充足していない計	非常に充足している	かなり充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	(%) 充足している計	充足していない計
全体(n=3000)		2.6	25.4	47.4	19.5	5.0	28.0	24.6	2.0	24.0	53.2	17.8	3.0	25.9	20.9
性別	男性(n=1500)	3.3	25.4	47.7	17.9	5.7	28.7	23.7	2.7	25.1	51.2	17.1	3.9	27.7	21.1
	女性(n=1500)	1.9	25.5	47.1	21.1	4.3	27.4	25.5	1.3	22.9	55.2	18.5	2.1	24.1	20.7
年代別	10～20代(n=600)	3.7	23.7	52.2	16.3	4.2	27.3	20.5	3.5	24.3	53.3	15.3	3.5	27.8	18.8
	30代(n=600)	3.8	19.5	52.0	20.5	4.2	23.3	24.7	3.5	22.7	56.7	14.7	2.5	26.2	17.2
	40代(n=600)	2.2	24.7	47.8	18.2	7.2	26.8	25.3	1.3	24.7	56.5	14.3	3.2	26.0	17.5
	50代(n=600)	1.5	26.3	44.2	22.5	5.5	27.8	28.0	0.8	24.5	52.2	18.7	3.8	25.3	22.5
	60～70代(n=600)	1.8	33.0	40.8	20.2	4.2	34.8	24.3	0.7	23.7	47.3	26.2	2.2	24.3	28.3

		（％）								（％）							
		【あなたの住む地域では】								【日本全体では】							
		n	非常に 充足して いる (+2)	かなり 充足して いる (+1)	どちら とも いえない (0)	あまり 充足して いない (-1)	ほとんど 充足して いない (-2)	[充足して いる 計]	[充足して いない 計]	n	非常に 充足して いる (+2)	かなり 充足して いる (+1)	どちら とも いえない (0)	あまり 充足して いない (-1)	ほとんど 充足して いない (-2)	[充足して いる 計]	[充足して いない 計]
全体		3000	2.6	25.4	47.4	19.5	5.0	28.0	24.6	3000	2.0	24.0	53.2	17.8	3.0	25.9	20.9
性 年 代	男性18～29歳	300	5.7	27.7	50.3	12.0	4.3	33.3	16.3	300	6.0	27.7	48.7	13.3	4.3	33.7	17.7
	男性30代	300	5.0	19.3	53.7	17.7	4.3	24.3	22.0	300	4.0	23.3	58.0	12.0	2.7	27.3	14.7
	男性40代	300	3.0	25.3	49.0	14.3	8.3	28.3	22.7	300	2.0	28.0	53.7	12.7	3.7	30.0	16.3
	男性50代	300	1.3	23.7	43.7	24.7	6.7	25.0	31.3	300	0.7	25.0	50.0	18.3	6.0	25.7	24.3
	男性60～79歳	300	1.3	31.0	41.7	21.0	5.0	32.3	26.0	300	0.7	21.3	45.7	29.3	3.0	22.0	32.3
	女性18～29歳	300	1.7	19.7	54.0	20.7	4.0	21.3	24.7	300	1.0	21.0	58.0	17.3	2.7	22.0	20.0
	女性30代	300	2.7	19.7	50.3	23.3	4.0	22.3	27.3	300	3.0	22.0	55.3	17.3	2.3	25.0	19.7
	女性40代	300	1.3	24.0	46.7	22.0	6.0	25.3	28.0	300	0.7	21.3	59.3	16.0	2.7	22.0	18.7
	女性50代	300	1.7	29.0	44.7	20.3	4.3	30.7	24.7	300	1.0	24.0	54.3	19.0	1.7	25.0	20.7
女性60～79歳	300	2.3	35.0	40.0	19.3	3.3	37.3	22.7	300	0.7	26.0	49.0	23.0	1.3	26.7	24.3	

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会資本の状況に関する全体評価〈地域別〉

インフラ(社会資本)が全体としてどの程度充足しているかに関して、

【あなたの住む地域(居住地域)】で「充足している」計と「充足していない」計を

地域ブロック別で見ると、近畿ブロック 31.8%>19.8%、関東ブロック 31.4%>20.8%、中部ブロック 28.1%>25.3%、九州・沖縄ブロック 27.3%>26.2%と「充足している」が「充足していない」を上回る。逆に「充足している」を「充足していない」が上回るのは、北海道ブロック 24.2%<32.5%、中国ブロック 22.2%<30.6%、四国ブロック 20.0%<39.0%、東北ブロック 19.5%<32.9%、北陸ブロック 18.3%<26.7%。

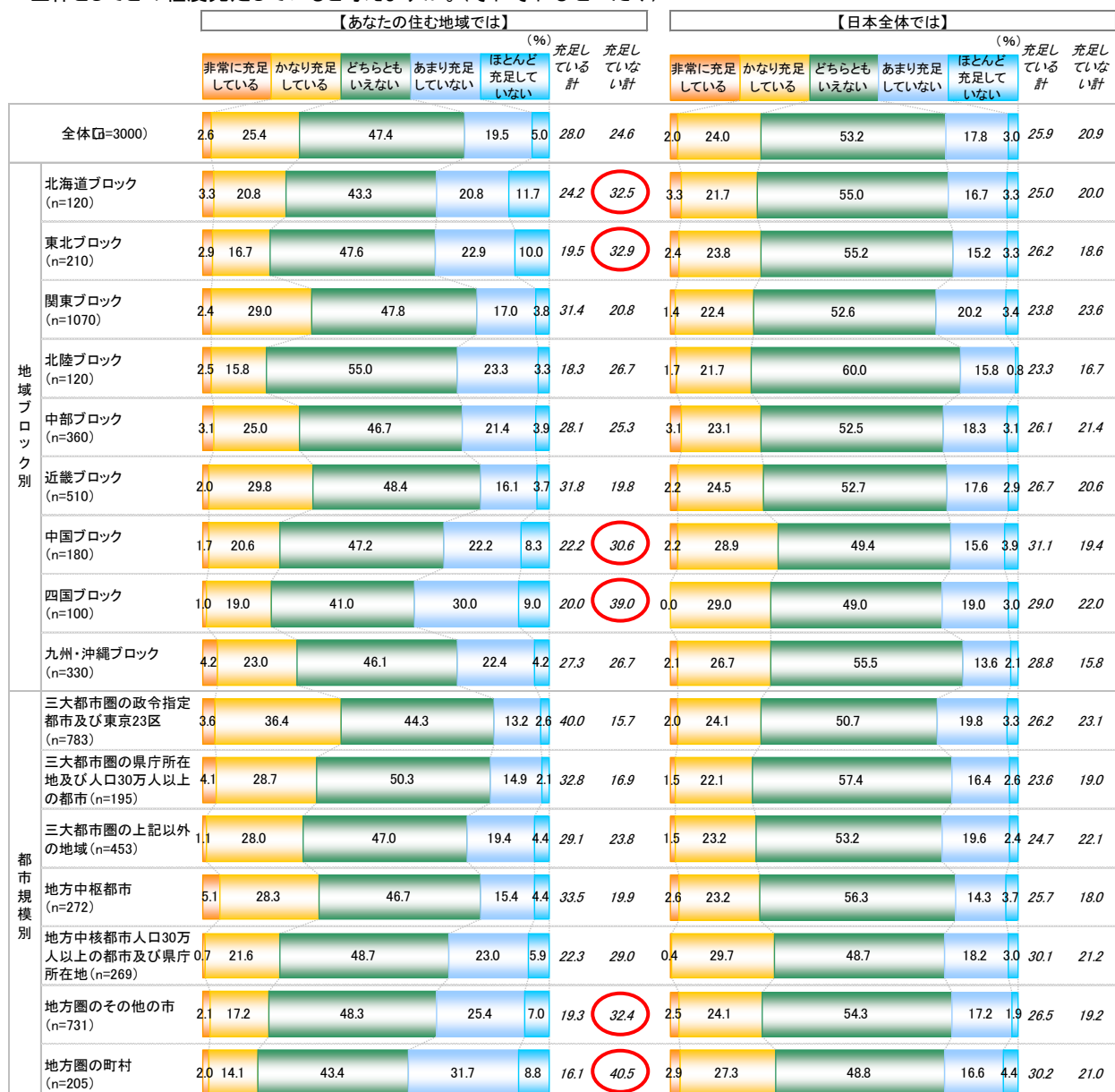
同じように都市規模別で見ると、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 40.0%>15.7%、地方中枢都市 33.5%>19.9%、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市 32.8%>16.9%、三大都市圏の上記以外の地域 29.1%>23.8%、地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地 22.3%<29.0%、地方圏のその他の市 19.3%<32.4%、地方圏の町村 16.1%<40.5%となっており、その格差は大きい。

【日本全体】で「充足している」計は

地域ブロック別で見ると、中国ブロック 31.1%、四国ブロック 29.0%、九州・沖縄ブロック 28.8%、近畿ブロック 26.7%、東北ブロック 26.2%、中部ブロック 26.1%、北海道ブロック 25.0%、関東ブロック 23.8%、北陸ブロック 23.3%。中国、四国が高く、北陸、関東が低い。基本的に全てのブロックで「充足している」が「充足していない」を上回るが、関東は「充足している」23.8%に対し、「充足していない」23.6%とほとんど差がない。

都市規模別で見ると、地方圏の町村 30.2%、地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地 30.1%、地方圏のその他の市 26.5%、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 26.2%、地方中枢都市 25.7%、三大都市圏の上記以外の地域 24.7%、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市 23.6%。都市規模別である程度の差。

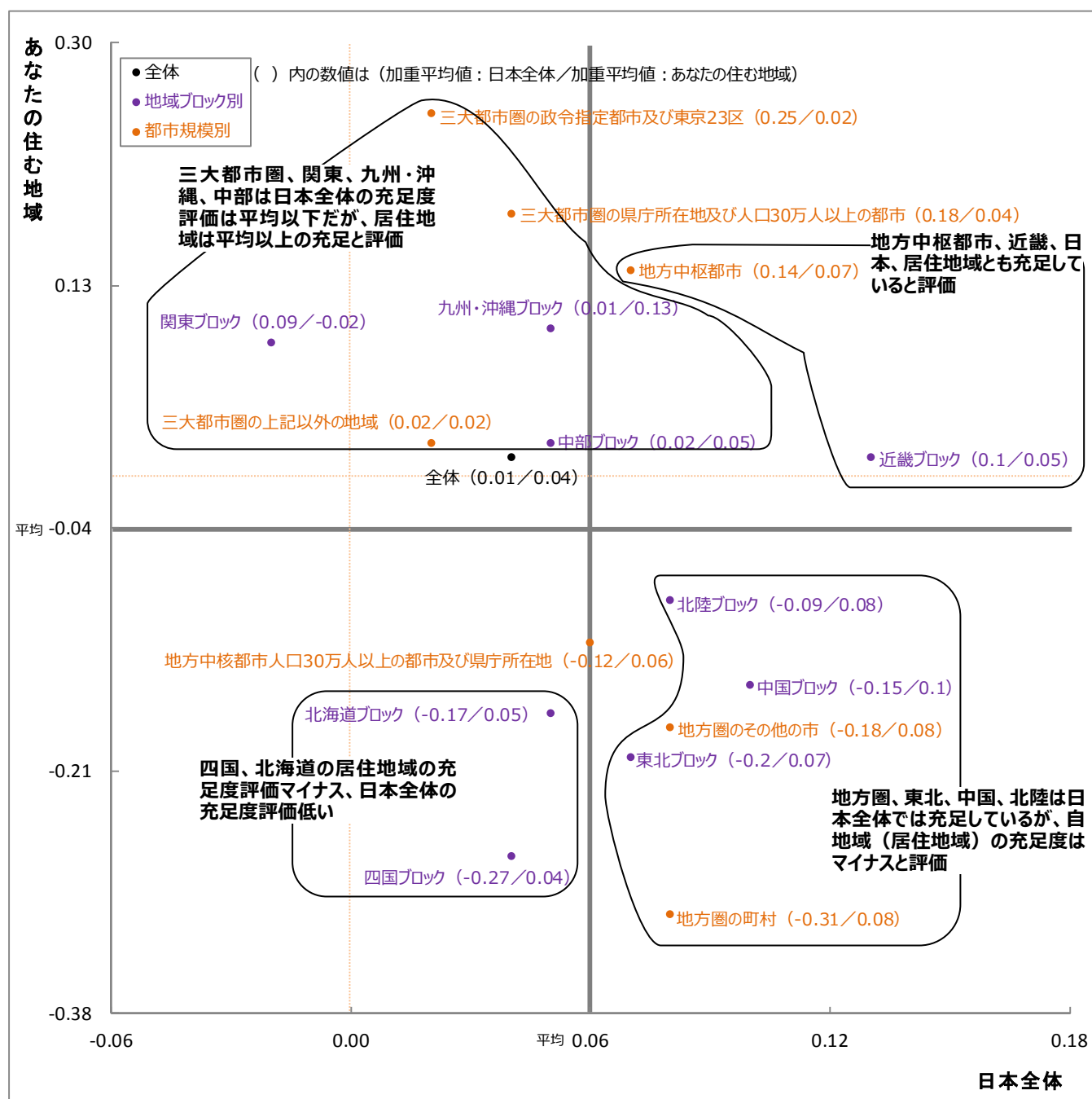
Q8. これまで、個別のインフラ(社会資本)についてあなたのご意見を伺ってきましたが、あなたはこういったインフラ(社会資本)が、全体としてどの程度充足していると考えますか。(それぞれひとつだけ)



■社会資本の状況に関する全体評価＜地域ブロック別、都市規模別＞(Q8)加重平均グラフ

社会資本の充足度評価に関する地域間格差は大きい。特に、四国、北海道は居住地域、日本全体とも充足していない(加重平均マイナス)と評価。地方圏の市町村、東北、中国、北陸は日本全体では充足しているが、自地域(居住地域)の充足度はマイナスと評価。逆に、三大都市圏、関東、九州・沖縄、中部は日本全体の充足度評価は平均以下だが、居住地域は平均以上の充足と評価。地方中枢都市、近畿、日本、居住地域とも充足していると評価。

→今後、各地域ブロックが具体的にどのような社会資本が不足していると考えているかを抽出、分析、地域の具体ニーズを明らかにすることが課題となる。



凡例)非常に充足している+2 かなり充足している+1 どちらともいえない0 あまり充足していない-1 ほとんど充足していない-2

参考：社会資本の状況に関する全体評価と「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」3分野の社会・国土の形成評価の相関分析

社会資本の状況に関する全体評価(Q8)と社会・生活空間、国土に関する評価(Q4、Q5、Q6)の重回帰分析

重回帰分析について

全国及び各地域ブロックの社会資本の状況に関する全体評価(充足度評価)に対して、「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」の3分野の社会・国土形成評価の影響がどの程度強いかを数量的に把握するため、多変量解析の手法を用いて分析した。

具体的には、社会資本の状況に関する全体評価(=充足度評価、5段階で聴取)を目的変数、「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」の3分野の社会・国土形成評価(=充足度評価、5段階で聴取)を説明変数とする重回帰分析を行った。

全国の分析の他、地域ブロック間の差を分析するため、地域ブロックごとに同様の重回帰分析も実施した。

重回帰分析結果

分析の結果は、重相関係数が0.491とそれほど高くはないものの、各説明変数の係数の有意確率p値は0.00～0.002を示し、有意判定の基準となる $p < 0.005$ となっているので、一定の説明、解釈は可能であると考えられる。

全国では、3分野の社会・国土形成評価のうち「活力・交流」が最も全体評価に寄与している。つまり、自分の生活地域が「安全・安心」や「心豊かな暮らし」のある社会・国土が形成されていると感じられるよりも、「活力・交流」のある社会・国土が形成されていると感じられるほうが、地域社会の社会資本が充足しているという評価が高くなっている(寄与率が高くなっている)。「活力・交流」に次いで「安全・安心」が「活力・交流」とあまり大きな差はなく2番目であり、「心豊かな暮らし」は「活力・交流」「安全・安心」と比べると寄与率は低くなっている。

一方、地域ブロック別で見ると、重相関係数は0.340～0.583であるが、p値が必ずしも有意でなかったり、単相関と偏相関の符号が逆に出ている地域ブロック(北海道と北陸)もあり、安定した重回帰式が出せたとは言いがたいが、相対的な比較は可能であると思われるので、その結果を示す。

北海道ブロックは「活力・交流」が「安全・安心」「心豊かな暮らし」に比べ特に高く、最も寄与している。四国ブロック、九州・沖縄ブロックも同じく「活力・交流」が最も寄与している。北海道、四国、九州・沖縄ブロックは「活力・交流」系の個別資本充足度評価が低く、整備推進意向が強い。上記の結果はこれに関連している。

東北ブロックと近畿ブロックは「安全・安心」が最も寄与し、中部ブロックと中国ブロックは「活力・交流」との差は小さいが、「心豊かな暮らし」が最も寄与している。関東は全体と同じ傾向で、「活力・交流」と「安全・安心」がほぼ同程度となっている。**→各ブロックの社会・国土形成評価に関する直感的解釈や各ブロックの3分野の個別社会資本整備評価との整合性もあり、重回帰分析の結果は各ブロックの相対的評価を示していると考えられる。**

社会・生活空間、国土に関する評価(Q4、Q5、Q6)と社会資本の状況に関する全体評価(Q8)の重回帰分析

目的変数：社会資本の状況に関する全体評価(生活地域)(Q8)

説明変数：社会・国土の形成の評価(生活地域)(Q4、Q5、Q6)

HL.....

全国	社会資本の状況に関する全体評価(生活地域)	=	0.229	×	安全・安心	+	0.272	×	活力・交流	+	0.065	×	心豊かな暮らし	-	0.045
北海道	社会資本の状況に関する全体評価(生活地域)	=	0.145	×	安全・安心	+	0.445	×	活力・交流	+	-0.071	×	心豊かな暮らし	-	0.171
東北	社会資本の状況に関する全体評価(生活地域)	=	0.364	×	安全・安心	+	0.065	×	活力・交流	+	0.109	×	心豊かな暮らし	-	0.246
関東	社会資本の状況に関する全体評価(生活地域)	=	0.256	×	安全・安心	+	0.262	×	活力・交流	+	0.045	×	心豊かな暮らし	+	0.036
北陸	社会資本の状況に関する全体評価(生活地域)	=	-0.072	×	安全・安心	+	0.274	×	活力・交流	+	0.178	×	心豊かな暮らし	-	0.148
中部	社会資本の状況に関する全体評価(生活地域)	=	0.133	×	安全・安心	+	0.201	×	活力・交流	+	0.208	×	心豊かな暮らし	-	0.063
近畿	社会資本の状況に関する全体評価(生活地域)	=	0.380	×	安全・安心	+	0.207	×	活力・交流	+	0.004	×	心豊かな暮らし	-	0.005
中国	社会資本の状況に関する全体評価(生活地域)	=	0.142	×	安全・安心	+	0.250	×	活力・交流	+	0.298	×	心豊かな暮らし	-	0.235
四国	社会資本の状況に関する全体評価(生活地域)	=	0.195	×	安全・安心	+	0.365	×	活力・交流	+	0.036	×	心豊かな暮らし	-	0.232
九州・沖縄	社会資本の状況に関する全体評価(生活地域)	=	0.141	×	安全・安心	+	0.388	×	活力・交流	+	0.051	×	心豊かな暮らし	-	0.048

は0.3以上(安全・安心、活力・交流)または0.2以上(心豊かな暮らし)
は0.25以上(安全・安心、活力・交流)または0.1以上(心豊かな暮らし)

6. 社会資本の維持管理・更新に関する認知・理解・評価

■社会資本の維持管理・更新の理解・評価(課題認知)

インフラ(社会資本)が耐用年数を迎え、増加する維持管理・更新費用への対応が大きな課題となることに関して、「知っている」計は 50.3%、「知らない」計は 49.7%。

→メディアを見てもインフラの「維持管理・更新」報道、論調は多く、認知が5割程度に留まったのは意外な結果。維持管理・更新の必要性に関する広報・情報提供活動を強化する必要性を示している。その際、どの層の認知度が低いのかを分析して展開する必要がある。

Q9. 今後、戦後の急成長期以降に急速に蓄積してきた膨大なインフラ(社会資本)が耐用年数を迎え、増加する維持管理・更新費用への対応が大きな課題となることをあなたはご存じですか。



■社会資本の維持管理・更新の理解・評価(優先性／選別の必要性／住民協力の必要性)

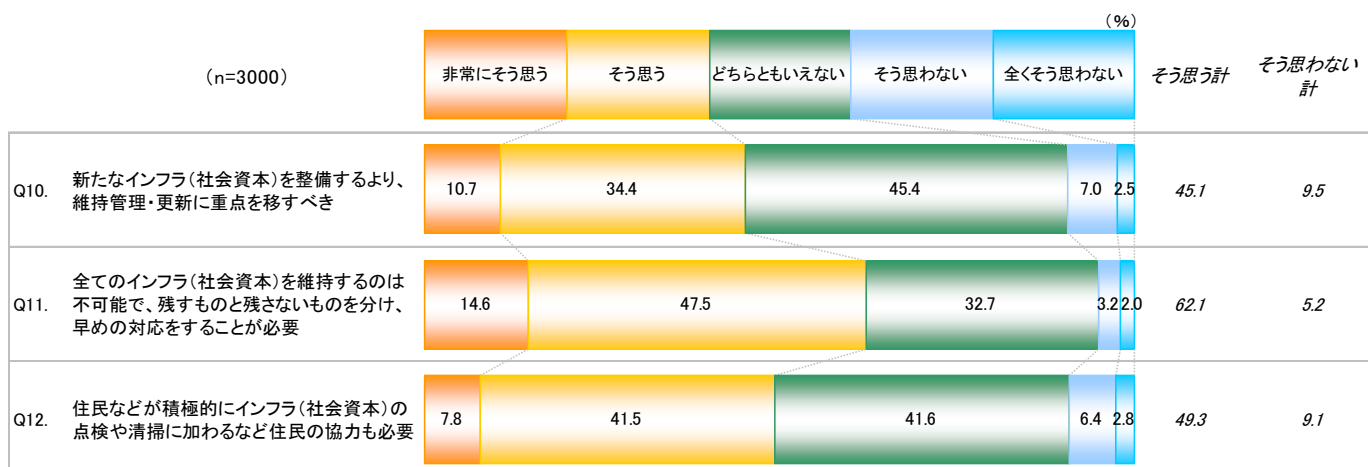
新たなインフラ(社会資本)を整備するより、維持管理・更新に重点を移すべきに関して、「そう思う」計 45.1%、「そう思わない」計 9.5%。

全てのインフラ(社会資本)を維持するのは不可能で、残すものと残さないものを分け、早めの対応をすることが必要に関して、「そう思う」計 62.1%、「そう思わない」計 5.2%。

住民などが積極的にインフラ(社会資本)の点検や清掃に加わるなど住民の協力も必要に関して、「そう思う」計 49.3%、「そう思わない」計 9.1%。

→全てを維持するのは不可能で、残すものと残さないものを分け、早めの対応をするに関し、6割強が「そう思う」とトップになったのはある意味意外。住民の協力も必要で「そう思う」が5割近くになったこと、維持管理・更新に重点を移すべきに対して「そう思う」が 45%強であることを踏まえ、維持管理の必要性・協力の必要性を伝える活動を展開していくべき。

- Q10. 増加する維持管理コストへの対応として、新たなインフラ(社会資本)を整備するより、維持管理・更新に重点を移すべきだとの意見がありますが、あなたはどのように思われますか。
- Q11. インフラ(社会資本)の老朽化が急速に進行するため、全てのインフラ(社会資本)を維持するのは不可能で、残すものと残さないものを分け、早めの対応をすることが必要だとの意見がありますが、あなたはどのように思われますか。
- Q12. インフラ(社会資本)の老朽化に的確に対応していくためには、住民などが積極的にインフラ(社会資本)の点検や清掃に加わるなど住民の協力も必要だとの意見がありますが、あなたはどのように思われますか。



■社会資本の維持管理・更新の課題認知<性・年代別>

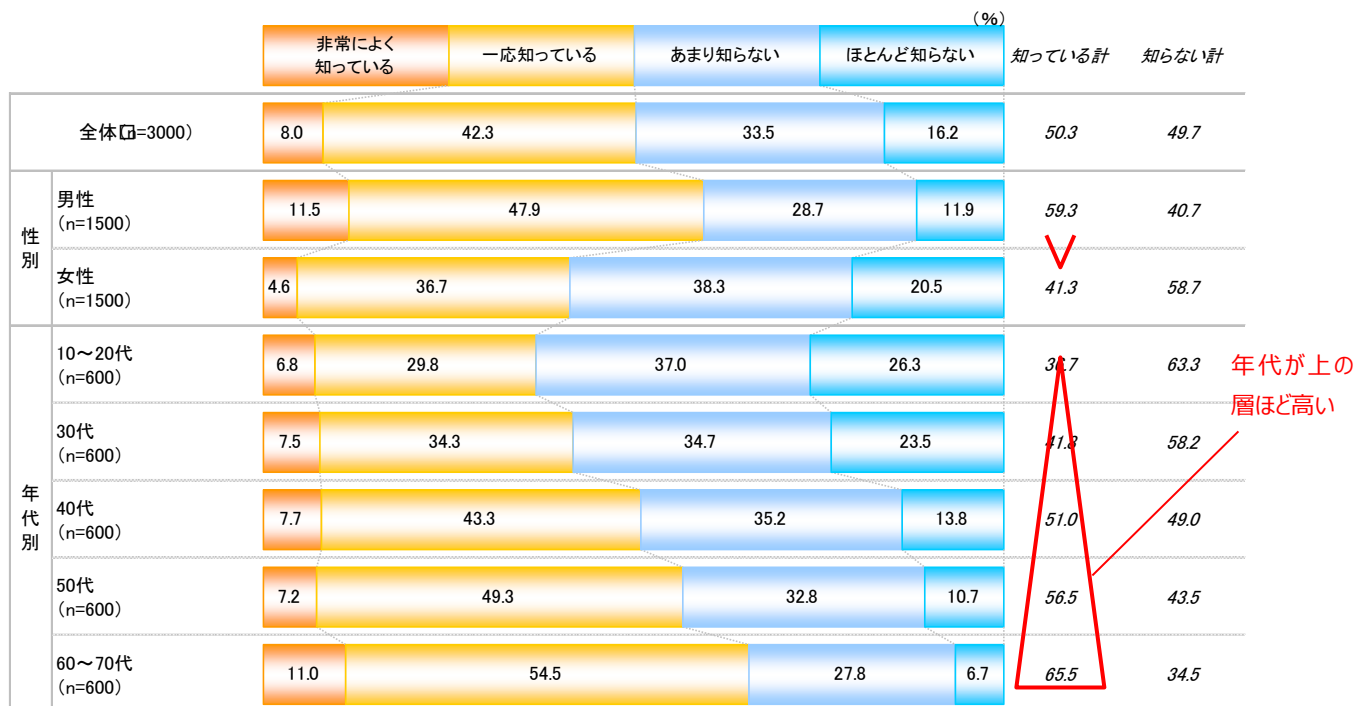
インフラ(社会資本)が耐用年数を迎え、増加する維持管理・更新費用への対応が大きな課題となることに関して、「知っている」計は

性別で見ると、男性 59.3%、女性 41.3%と、男性の方が 18 ポイントも高い。

年代別で見ると、60～70 代 65.5%、50 代 56.5%、40 代 51.0%、30 代 41.8%、10～20 代 36.7%と、年代が上の層ほど高く、60～70 代と 10～20 代では 20 ポイント近い差がある。

性年代別で見ると、男性 60～79 歳 76.3%、男性 50 代 63.7%、男性 40 代 61.0%、女性 60～79 歳 54.7%、女性 50 代 49.3%、女性 30 代 48.7%、女性 18～29 歳 47.0%、女性 40 代 41.0%、女性 30 代 35.0%、女性 18～29 歳 26.3%。女性 40 代以下の認知度の低さが目立つ。

Q9. 今後、戦後の急成長期以降に急速に蓄積してきた膨大なインフラ(社会資本)が耐用年数を迎え、増加する維持管理・更新費用への対応が大きな課題となることをあなたはご存じですか。



		n	非常に よく知っている	一応 知っている	あまり知らない	ほとんど 知らない	[知っている 計]	[知らない計]	(%)
全体		3000	8.0	42.3	33.5	16.2	50.3	49.7	
性 年 代	男性18-29歳	300	11.7	35.3	33.0	20.0	47.0	53.0	認知高い
	男性30代	300	9.3	39.3	31.0	20.3	48.7	51.3	
	男性40代	300	11.7	49.3	28.7	10.3	61.0	39.0	
	男性50代	300	11.0	52.7	29.7	6.7	63.7	36.3	
	男性60-79歳	300	13.7	62.7	21.3	2.3	76.3	23.7	認知低い
	女性18-29歳	300	2.0	24.3	41.0	32.7	26.3	73.7	
	女性30代	300	5.7	29.3	38.3	26.7	35.0	65.0	
	女性40代	300	3.7	37.3	41.7	17.3	41.0	59.0	
	女性50代	300	3.3	46.0	36.0	14.7	49.3	50.7	
	女性60-79歳	300	8.3	46.3	34.3	11.0	54.7	45.3	

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■社会資本の維持管理・更新の課題認知〈地域別〉

インフラ(社会資本)が耐用年数を迎え、増加する維持管理・更新費用への対応が大きな課題となることに関して、「知っている」計は

地域ブロック別で見ると、四国ブロック 54.0%、九州・沖縄ブロック 52.4%、関東ブロック 52.1%、中部ブロック 50.3%、北海道ブロック 50.0%、東北ブロック 49.5%、中国ブロック 49.4%、近畿ブロック 46.7%、北陸ブロック 43.3%。**四国、九州・沖縄、関東が高く、北陸が低い。その差は 10 ポイントもある。**

都市規模別で見ると、**三大都市圏の上記以外の地域 53.9%**、地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地 53.5%、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市 53.3%、地方中枢都市 53.3%、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 52.0%、**地方圏のその他の市 49.1%、地方圏の町村 43.9%。都市規模別でも最も認知の高いところと低いところでは 10 ポイントの差がある。**

Q9. 今後、戦後の急成長期以降に急速に蓄積してきた膨大なインフラ(社会資本)が耐用年数を迎え、増加する維持管理・更新費用への対応が大きな課題となることをあなたはご存じですか。

		(%)					
		非常によく知っている	一応知っている	あまり知らない	ほとんど知らない	知っている計	知らない計
全体(n=3000)		8.0	42.3	33.5	16.2	50.3	49.7
地域 ブ ロ ッ ク 別	北海道ブロック (n=120)	8.3	41.7	33.3	16.7	50.0	50.0
	東北ブロック (n=210)	11.4	38.1	31.9	18.6	49.5	50.5
	関東ブロック (n=1070)	7.3	44.9	30.8	17.0	52.1	47.9
	北陸ブロック (n=120)	7.5	35.8	41.7	15.0	43.3	56.7
	中部ブロック (n=360)	9.2	41.1	31.1	18.6	50.3	49.7
	近畿ブロック (n=510)	5.7	41.0	38.2	15.1	46.7	53.3
	中国ブロック (n=180)	10.0	39.4	37.2	13.3	49.4	50.6
	四国ブロック (n=100)	9.0	45.0	30.0	16.0	54.0	46.0
	九州・沖縄ブロック (n=330)	9.4	43.0	34.5	13.0	52.4	47.6
	三大都市圏の政令指定 都市及び東京23区 (n=783)	7.4	44.6	31.4	16.6	52.0	48.0
都 市 規 模 別	三大都市圏の県庁所在 地及び人口30万人以上 の都市(n=195)	9.2	44.1	34.4	12.3	53.3	46.7
	三大都市圏の上記以外 の地域(n=453)	10.4	43.5	30.9	15.2	53.9	46.1
	地方中枢都市 (n=272)	12.5	40.8	32.4	14.3	53.3	46.7
	地方中核都市人口30万 人以上の都市及び県庁 所在地(n=269)	8.2	45.4	34.6	11.9	53.5	46.5
	地方圏のその他の市 (n=731)	6.4	42.7	35.0	15.9	49.1	50.9
	地方圏の町村 (n=205)	7.3	36.6	35.6	20.5	43.9	56.1
						低い	

■社会資本の維持管理・更新の優先性〈性・年代別〉

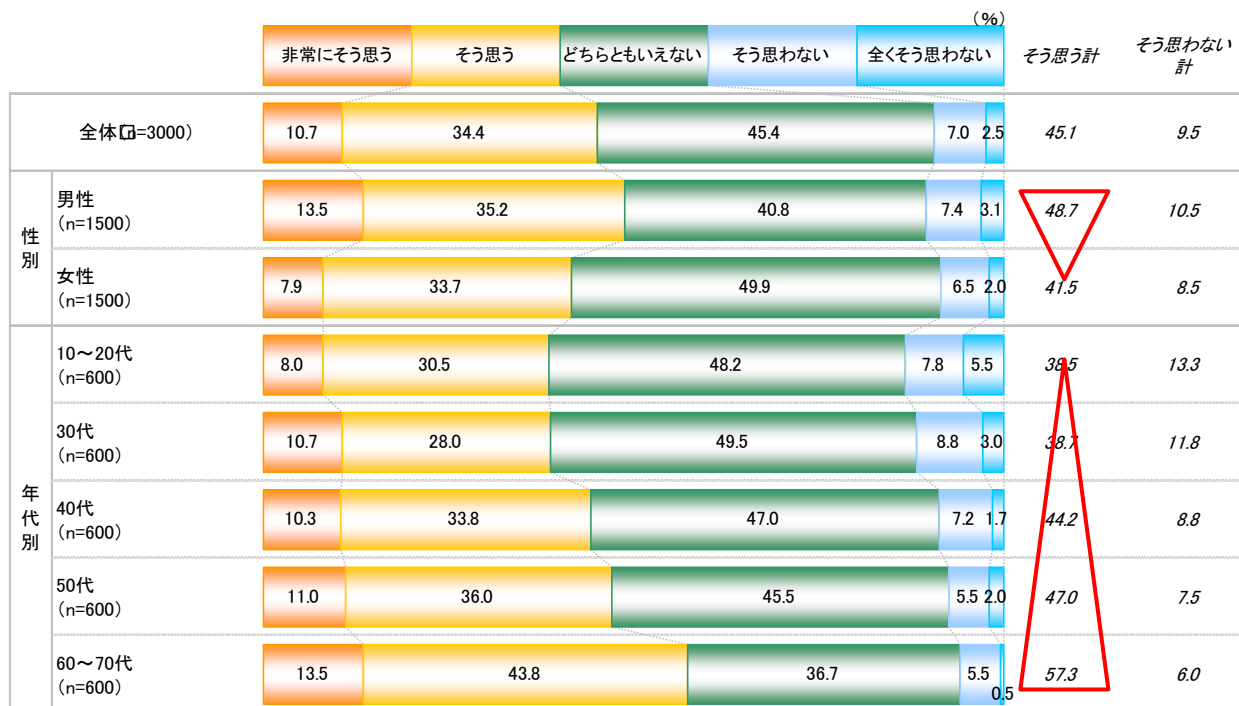
新たなインフラ(社会資本)を整備するより、維持管理・更新に重点を移すべきに関して、「そう思う」計は

性別で見ると、男性 48.7%、女性 41.5%。**男性のほうがかなり高い。**

年代別で見ると、60～70代 57.3%、50代 47.0%、40代 44.2%、30代 38.7%、10～20代 38.5%と**年代が高いほど高く、60～70代と10～20代は30ポイント近い差がある。**

性年代別で見ると、男性 60～79歳 62.3%、女性 60～79歳 52.3%、男性 50代 50.7%、男性 40代 46.7%、女性 50代 43.3%、男性 18～29歳 42.3%、男性 30代、女性 40代各 41.7%、女性 30代 35.7%、女性 18～29歳 34.7%。女性 30代、女性 18～29歳が低い。

Q10. 増加する維持管理コストへの対応として、新たなインフラ(社会資本)を整備するより、維持管理・更新に重点を移すべきだとの意見がありますが、あなたはどのように思いますか。



		n	(%)					
			非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらとも いえない (0)	そう思わない (-1)	全く そう思わない (-2)	
全体		3000	10.7	34.4	45.4	7.0	2.5	[そう思う計] 45.1 [そう思わない計] 9.5
性年代	男性18-29歳	300	11.0	31.3	42.3	9.0	6.3	42.3 15.3
	男性30代	300	14.0	27.7	43.3	10.7	4.3	41.7 15.0
	男性40代	300	12.0	34.7	44.7	6.7	2.0	46.7 8.7
	男性50代	300	14.3	36.3	41.3	6.0	2.0	50.7 8.0
	男性60-79歳	300	16.3	46.0	32.3	4.7	0.7	62.3 5.3
	女性18-29歳	300	5.0	29.7	54.0	6.7	4.7	34.7 11.3
	女性30代	300	7.3	28.3	55.7	7.0	1.7	35.7 8.7
	女性40代	300	8.7	33.0	49.3	7.7	1.3	41.7 9.0
	女性50代	300	7.7	35.7	49.7	5.0	2.0	43.3 7.0
	女性60-79歳	300	10.7	41.7	41.0	6.3	0.3	52.3 6.7

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会資本の維持管理・更新の優先性〈地域別〉

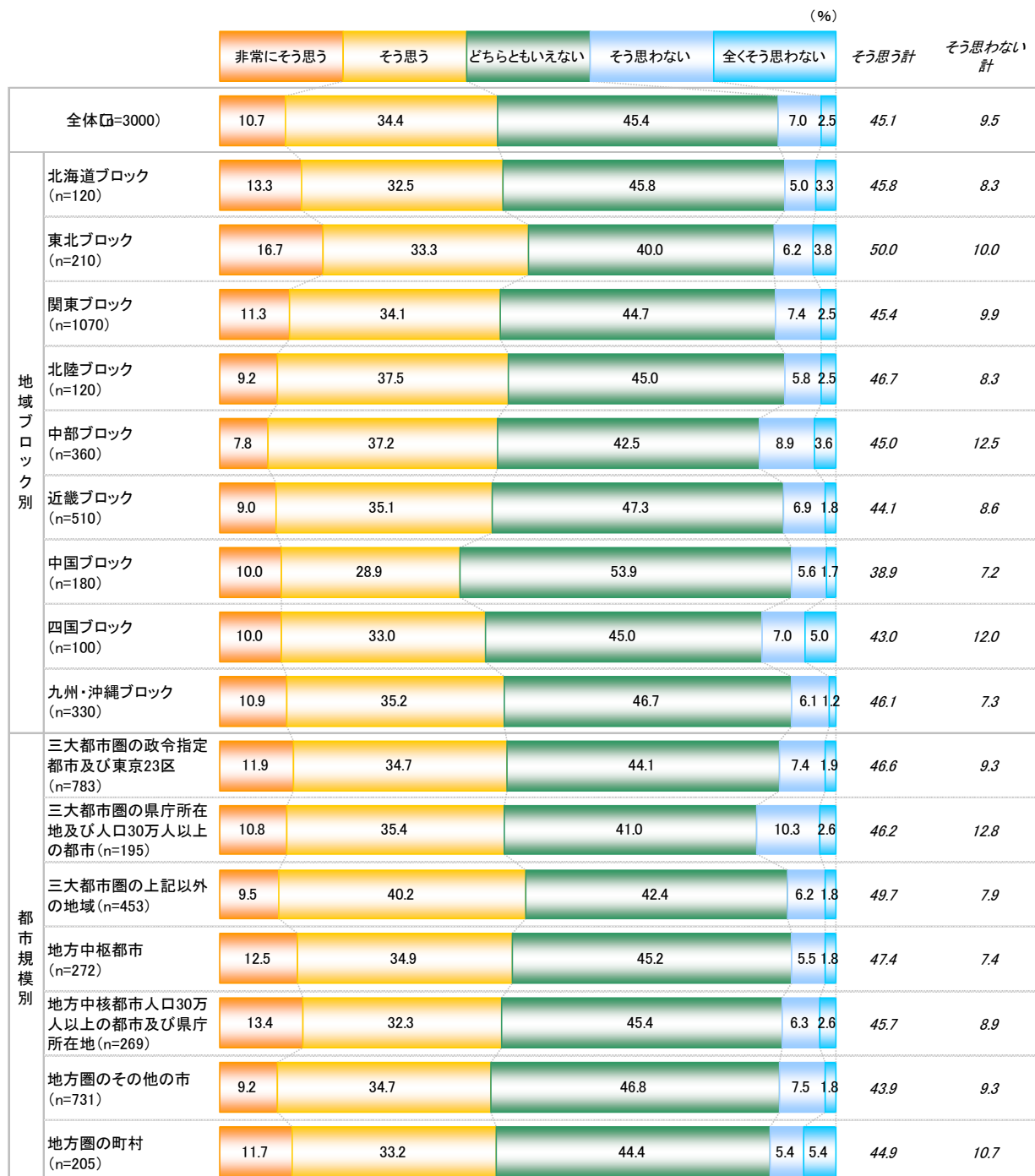
新たなインフラ(社会資本)を整備するより、維持管理・更新に重点を移すべきに関して、

「そう思う」計は

地域ブロック別で見ると、東北ブロック50.0%、北陸ブロック46.7%、九州・沖縄ブロック46.1%、北海道ブロック45.8%、関東ブロック45.4%、中部ブロック45.0%、近畿ブロック44.1%、四国ブロック43.0%、中国ブロック38.9%。**東北が高く、中国が低い。その差は10ポイント以上ある。**

都市規模別で見ると、三大都市圏の上記以外の地域49.7%、地方中枢都市47.4%、三大都市圏の政令指定都市及び東京23区46.6%、三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市46.2%、地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地45.7%、地方圏の町村44.9%、地方圏のその他の市43.9%。都市規模別での**差はそれほど大きくない(6ポイント弱)**。

Q10. 増加する維持管理コストへの対応として、新たなインフラ(社会資本)を整備するより、維持管理・更新に重点を移すべきだとの意見がありますが、あなたはどのようにお考えですか。



社会資本の維持管理・更新の選別の必要性(性・年代別)

全てのインフラ(社会資本)を維持するのは不可能で、残すものと残さないものを分け、早めの対応をすることが必要に関して、

「そう思う」計は

性別で見ると、女性 62.6%、男性 61.7%とほぼ同じだが、女性の方が若干高い。

年代別で見ると、60～70代 71.3%、50代 64.2%、40代 63.3%、30代 57.7%、10～20代 54.2%と年代が高いほど、「そう思う」計が多い。

性年代別で見ると、男性 60～79歳、女性 60～79歳各 71.3%、女性 40代 67.3%、女性 50代 65.0%、男性 50代 63.3%、男性 40代、女性 30代各 59.3%、男性 18～29歳 58.3%、男性 30代 56.0%、女性 18～29歳 50.0%。女性 18～29歳の低さが目立つ。

Q11. インフラ(社会資本)の老朽化が急速に進行するため、全てのインフラ(社会資本)を維持するのは不可能で、残すものと残さないものを分け、早めの対応をすることが必要だとの意見がありますが、あなたはどのように思いますか。



		n	非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらとも いえない (0)	そう思わない (-1)	全く そう思わない (-2)	[そう思う計]	[そう思わない 計]
全体		3000	14.6	47.5	32.7	3.2	2.0	62.1	5.2
性年代	男性18-29歳	300	17.7	40.7	32.3	6.7	2.7	58.3	9.3
	男性30代	300	17.3	38.7	34.0	5.0	5.0	56.0	10.0
	男性40代	300	16.3	43.0	35.0	3.7	2.0	59.3	5.7
	男性50代	300	18.0	45.3	30.3	4.3	2.0	63.3	6.3
	男性60-79歳	300	18.7	52.7	25.0	2.7	1.0	71.3	3.7
	女性18-29歳	300	8.3	41.7	43.3	3.3	3.3	50.0	6.7
	女性30代	300	9.3	50.0	36.0	3.3	1.3	59.3	4.7
	女性40代	300	14.3	53.0	30.3	1.3	1.0	67.3	2.3
	女性50代	300	10.3	54.7	32.3	1.3	1.3	65.0	2.7
	女性60-79歳	300	15.7	55.7	28.3	0.3	-	71.3	0.3

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

社会資本の維持管理・更新の選別の必要性(地域別)

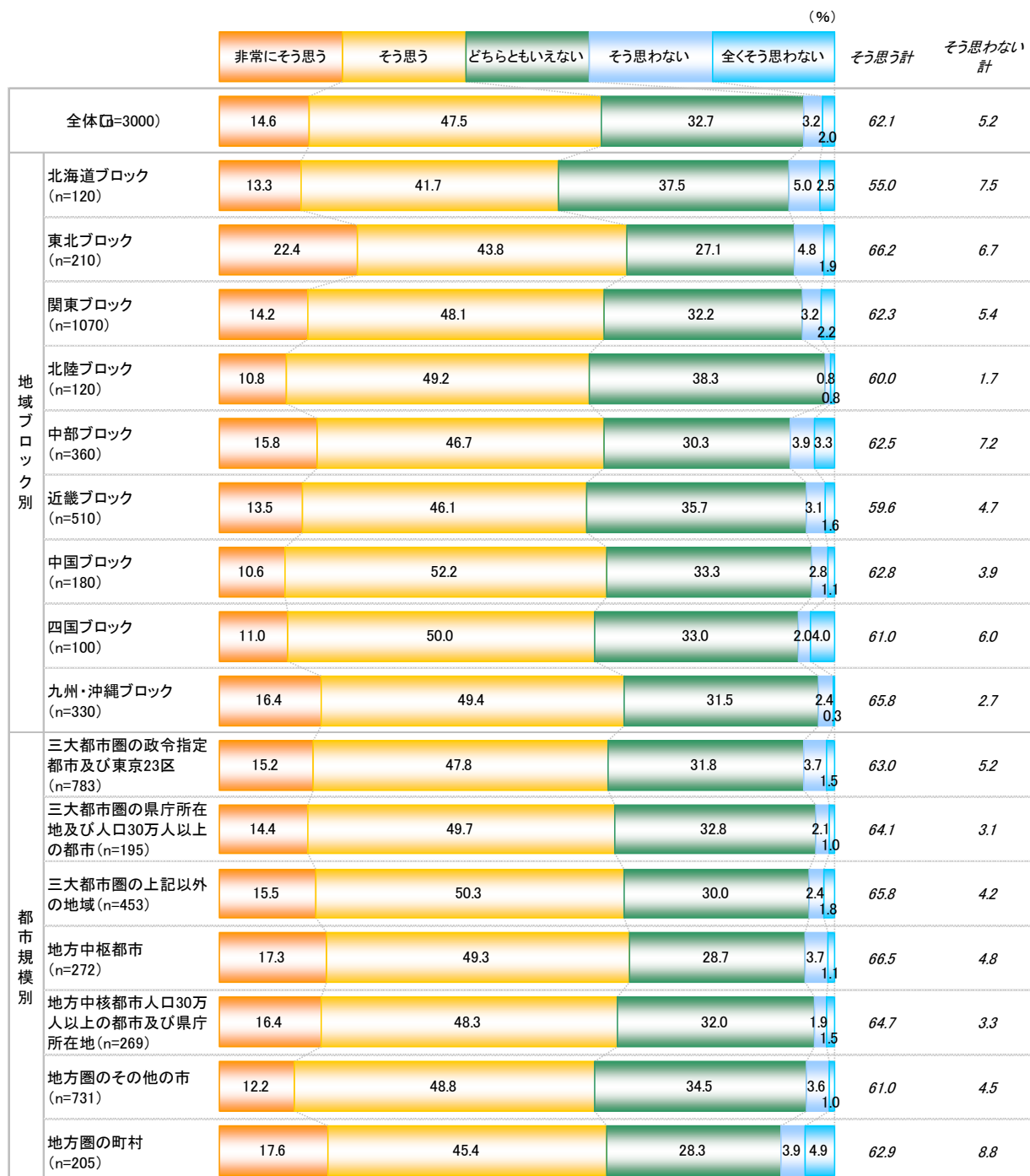
全てのインフラ(社会資本)を維持するのは不可能で、残すものと残さないものを分け、早めの対応をすることが必要に関して、

「そう思う」計は

地域ブロック別で見ると、東北ブロック 66.2%、九州・沖縄ブロック 65.8%、中国ブロック 62.8%、中部ブロック 62.5%、関東ブロック 62.3%、四国ブロック 61.0%、北陸ブロック 60.0%、近畿ブロック 59.6%、北海道ブロック 55.0%。**東北、九州・沖縄が高く、北海道が特に低い(10ポイント以上の差)。**

都市規模別で見ると、地方中核都市 66.5%、三大都市圏の上記以外の地域 65.8%、地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地 64.7%、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市 64.1%、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 63.0%、地方圏の町村 62.9%、地方圏のその他の市 61.0%。**都市規模別での差は少ない(5ポイント強)。**

Q11. インフラ(社会資本)の老朽化が急速に進行するため、全てのインフラ(社会資本)を維持するのは不可能で、残すものと残さないものを分け、早めの対応をすることが必要だとの意見がありますが、あなたはどのように思われますか。



社会資本の維持管理・更新の住民協力の必要性〈性・年代別〉

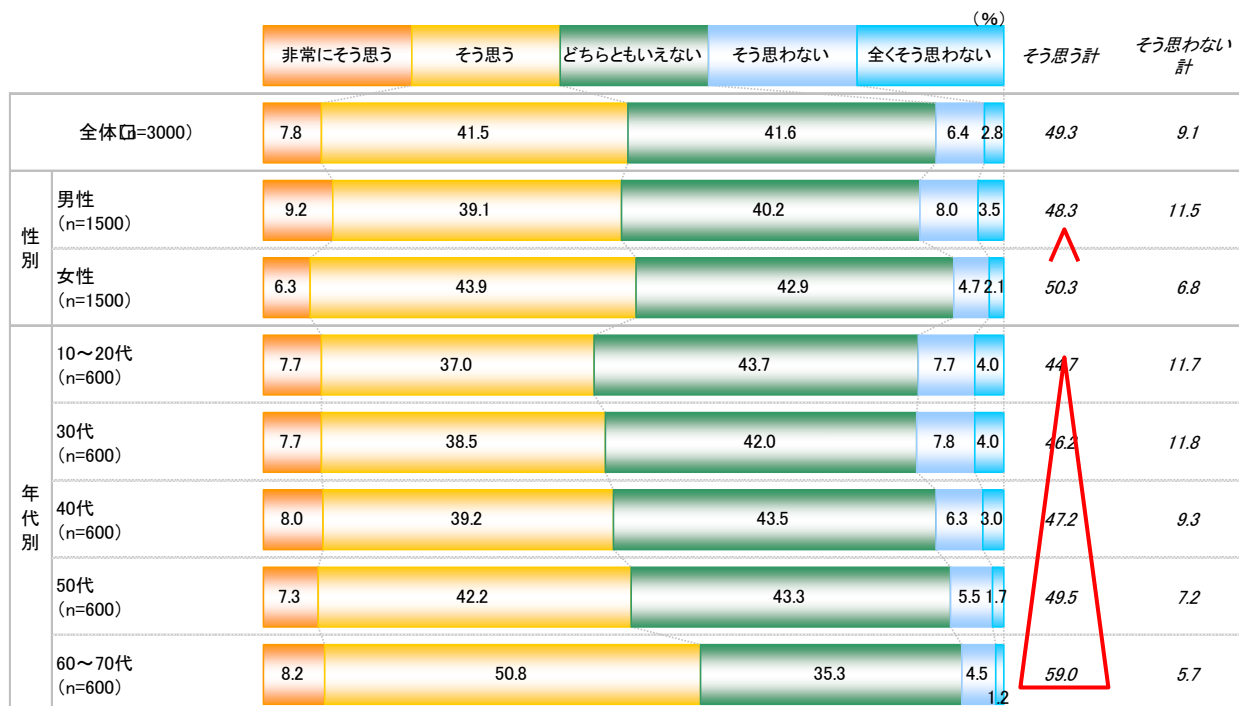
住民などが積極的にインフラ(社会資本)の点検や清掃に加わるなど住民の協力も必要に関して、「そう思う」計は

性別で見ると、女性 50.3%、男性 48.3%とほぼ同じだが、女性のほうが若干高い。

年代別で見ると、60～70代 59.0%、50代 49.5%、40代 47.2%、30代 46.2%、10～20代 44.7%と年代が高いほど「そう思う」計が多い。

性年代別で見ると、女性 60～79歳 59.7%、男性 60～79歳 58.3%、女性 40代 51.0%、男性 50代 50.0%、女性 50代 49.0%、女性 30代 48.3%、男性 18～29歳 46.0%、男性 30代 44.0%、男性 40代、女性 18～29歳各 43.3%。女性、男性とも 60～79歳の高さが目立つ。

Q12. インフラ(社会資本)の老朽化に的確に対応していくためには、住民などが積極的にインフラ(社会資本)の点検や清掃に加わるなど住民の協力も必要だとの意見がありますが、あなたはどのように思われますか。



		n	非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらとも いえない (0)	そう思わない (-1)	全く そう思わない (-2)	[そう思う計]	[そう思わない 計]
全体		3000	7.8	41.5	41.6	6.4	2.8	49.3	9.1
性年代	男性18-29歳	300	8.7	37.3	38.3	10.7	5.0	46.0	15.7
	男性30代	300	9.3	34.7	41.0	10.3	4.7	44.0	15.0
	男性40代	300	9.7	33.7	45.3	6.7	4.7	43.3	11.3
	男性50代	300	9.3	40.7	42.7	6.0	1.3	50.0	7.3
	男性60-79歳	300	9.0	49.3	33.7	6.3	1.7	58.3	8.0
	女性18-29歳	300	6.7	36.7	49.0	4.7	3.0	43.3	7.7
	女性30代	300	6.0	42.3	43.0	5.3	3.3	48.3	8.7
	女性40代	300	6.3	44.7	41.7	6.0	1.3	51.0	7.3
	女性50代	300	5.3	43.7	44.0	5.0	2.0	49.0	7.0
	女性60-79歳	300	7.3	52.3	37.0	2.7	0.7	59.7	3.3

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

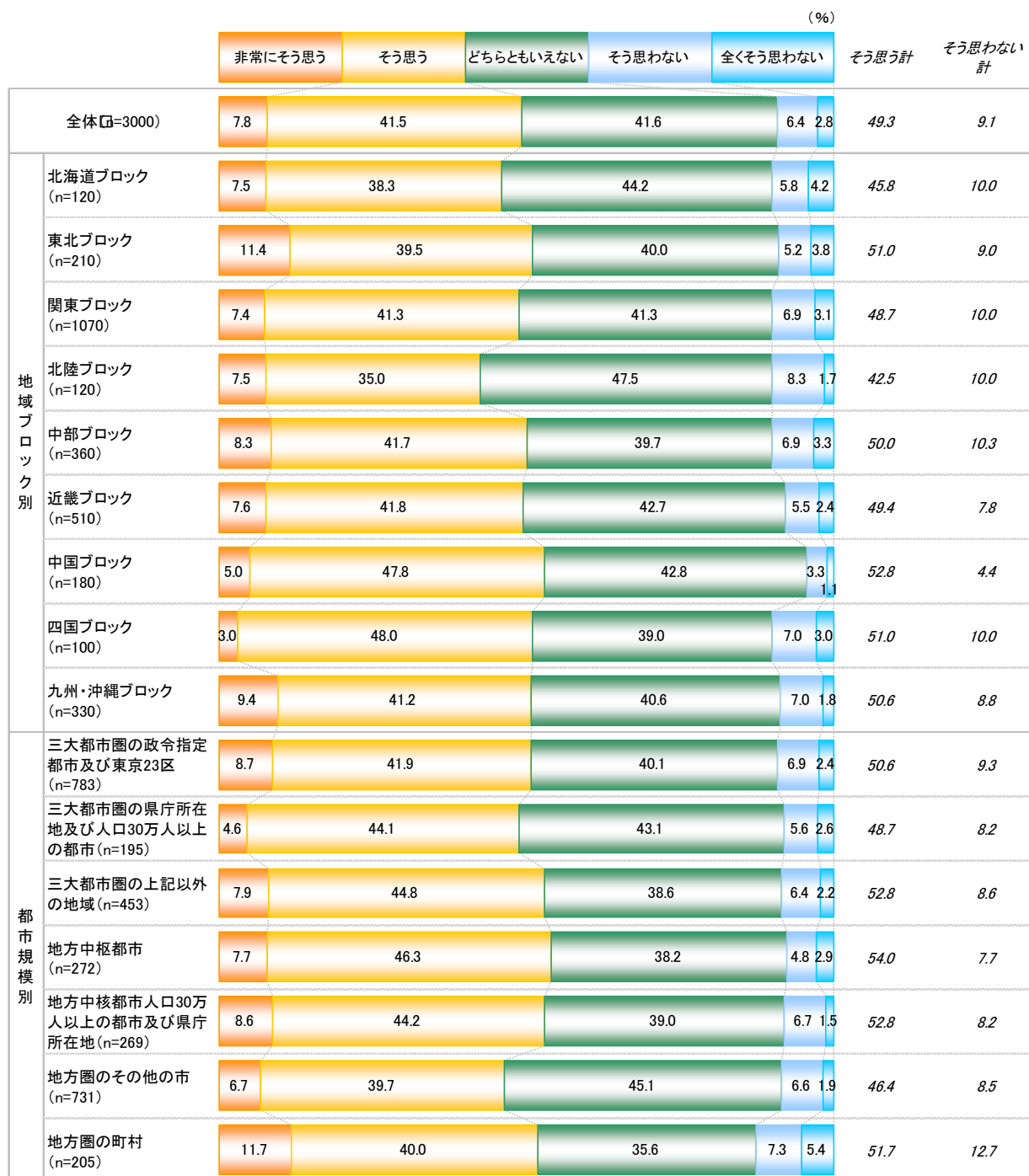
社会資本の維持管理・更新の住民協力の必要性<地域別>

住民などが積極的にインフラ(社会資本)の点検や清掃に加わるなど住民の協力も必要に関して、「そう思う」計は

地域ブロック別で見ると、中国ブロック52.8%、東北ブロック、四国ブロック各51.0%、九州・沖縄ブロック50.6%、中部ブロック50.0%、近畿ブロック49.4%、関東ブロック48.7%、北海道ブロック45.8%、北陸ブロック42.5%。**北海道、北陸が低い。最高の中国と最低の北陸では、10ポイント以上の差がある。**

都市規模別で見ると、地方中枢都市54.0%、三大都市圏の上記以外の地域、地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地各52.8%、地方圏の町村51.7%、三大都市圏の政令指定都市及び東京23区50.6%、三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市48.7%、地方圏のその他の市46.4%。

Q12. インフラ(社会資本)の老朽化に的確に対応していくためには、住民などが積極的にインフラ(社会資本)の点検や清掃に加わるなど住民の協力も必要だとの意見がありますが、あなたはどのように思いますか。



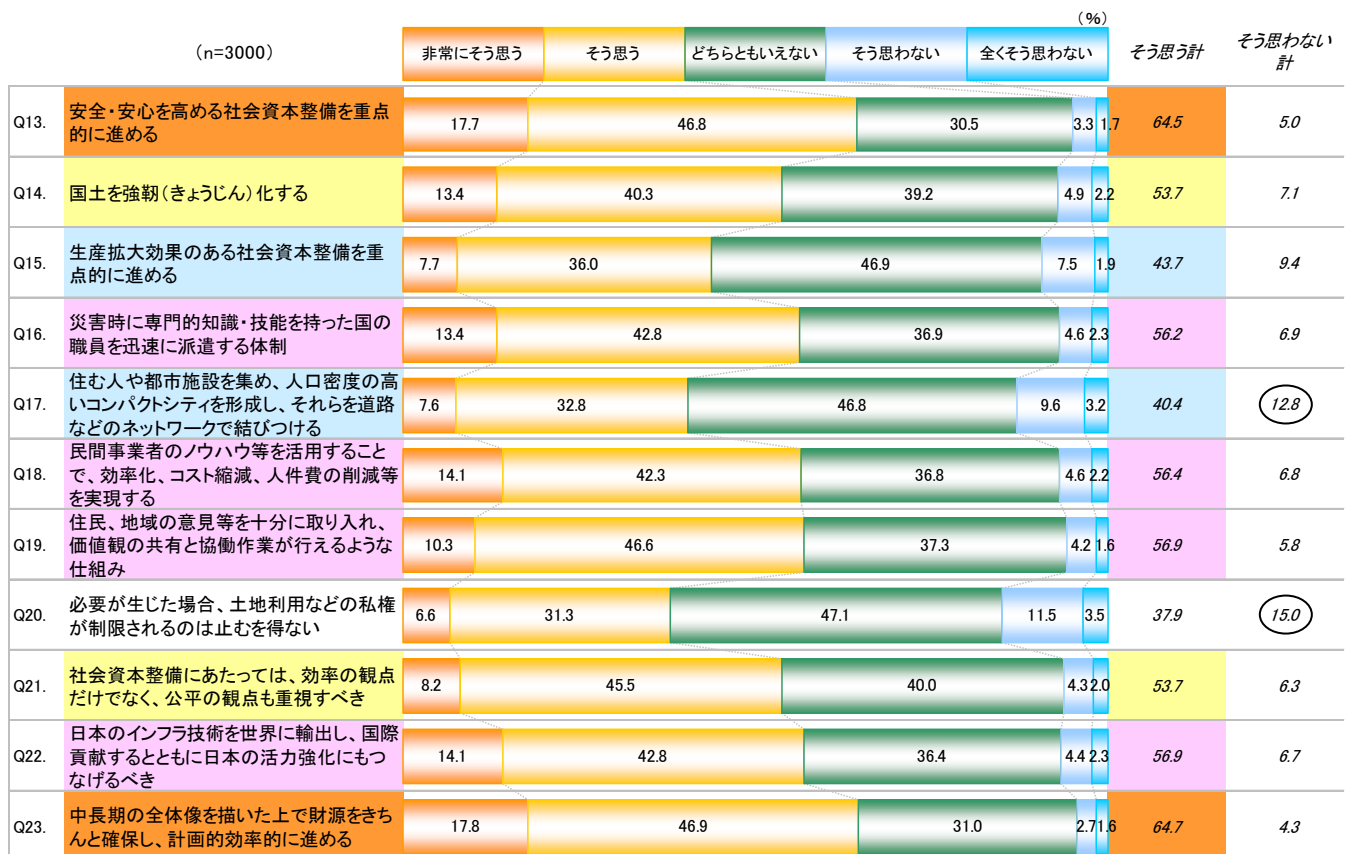
7. 社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価

■社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価

安全・安心を高める社会資本整備に重点を置き、中長期の全体像を描いた上で財源を確保、社会資本整備を計画的効率的に進めていくことが求められている。

その際、住民、地域の意見等を十分に取り入れ、協働作業を行えるような仕組み、民間事業者のノウハウ等を活用すること、効率の観点だけでなく公平の観点も重視すべきことが求められている。

- ・ [Q23.中長期の全体像を描いた上で財源をきちんと確保し、計画的効率的に進める]が「そう思う」計で 64.7%とトップになったのは、社会資本整備に関する長期計画立案と国民への提示が強く支持されていることを示している。
- ・ [Q13.安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進める]はそう思う計で 64.5%と非常に高く支持を受け、安全・安心に対する国民のニーズが強いことを示している。ほぼ同様のことを意味する「Q14. 国土を強靱(きょうじん)化する」に関しては、そう思う計 53.7%と10ポイント以上差がある。言葉の使い方により、国民の理解に差が生ずることの例と云える。
- ・ [Q19. 住民、地域の意見等を十分に取り入れ、価値観の共有と協働作業が行えるような仕組み]、[Q18.民間事業者のノウハウ等を活用することで、効率化、コスト縮減、人件費の削減等を実現する]といった社会資本整備の手法が支持されている。また[Q22. 日本のインフラ技術を世界に輸出し、国際貢献するとともに日本の活力強化にもつなげるべき]に関する支持も高い(それぞれそう思う 56%台)。これらの結果を踏まえることが必要。また、[Q21. 社会資本整備にあたっては、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべき]に対し、「そう思う」が 53.7%いることも留意すべき。
- ・ 逆に、[Q15. 生産拡大効果のある社会資本整備を重点的に進める][Q17. 住む人や都市施設を集め、人口密度の高いコンパクトシティを形成し、それらを道路などのネットワークで結びつける]に関し、「そう思う」は 43.7%、40.4%と低く、[Q17. 住む人や都市施設を集め、人口密度の高いコンパクトシティを形成し、それらを道路などのネットワークで結びつける]に関しては「そう思わない」が 12.8%もいる。
- ・ 「Q20. 必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止むを得ない」に関し、「そう思う」は 37.9%と最も低く、「そう思わない」が 15.0%と最も高いのは、私権制限に対し国民の反発が強いことを示している。



60%～ 55%～59.9% 50%～54.9% 40%～49.9%

■安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進める(Q13)〈性・年代別〉

[Q13.安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進める]に関して、

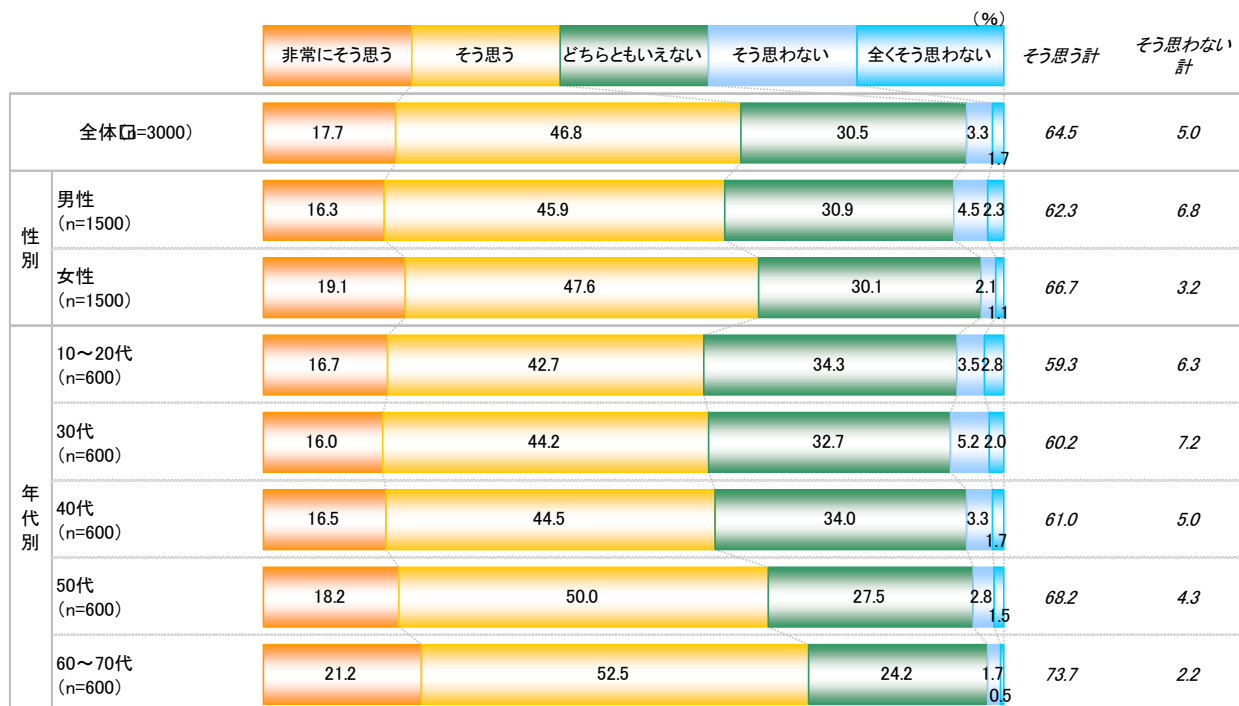
「そう思う」計は

性別で見ると、女性 66.7%、男性 62.3%と女性の方が高い(4 ポイントの差がある)。

年代別で見ると、60～70代 73.7%、50代 68.2%、40代 61.0%、30代 60.2%、10～20代 59.3%と年代が高いほど、「そう思う」計が多い。

性年代別で見ると、女性 60～79 歳 76.3%、男性 60～79 歳 71.0%、女性 50 代 69.0%、男性 50 代 67.3%、女性 40 代 66.7%、女性 30 代 63.3%、男性 18～29 歳 60.7%、女性 18～29 歳 58.0%、男性 30 代 57.0%、男性 40 代 55.3%。女性 18～29 歳が低く、女性 40 代以上、男性 60 代以上が高い。

Q13. 気候変動による災害の頻発化、巨大地震発生の可能性の増大などに対応するため、安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進めるべき



		n	非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらとも いえない (0)	そう思わない (-1)	全く そう思わない (-2)	[そう思う計]	[そう思わない 計]
全体		3000	17.7	46.8	30.5	3.3	1.7	64.5	5.0
性年代	男性18-29歳	300	18.3	42.3	31.0	5.0	3.3	60.7	8.3
	男性30代	300	14.3	42.7	32.7	7.0	3.3	57.0	10.3
	男性40代	300	13.3	42.0	38.0	4.3	2.3	55.3	6.7
	男性50代	300	17.7	49.7	27.3	4.0	1.3	67.3	5.3
	男性60-79歳	300	18.0	53.0	25.7	2.3	1.0	71.0	3.3
	女性18-29歳	300	15.0	43.0	37.7	2.0	2.3	58.0	4.3
	女性30代	300	17.7	45.7	32.7	3.3	0.7	63.3	4.0
	女性40代	300	19.7	47.0	30.0	2.3	1.0	66.7	3.3
	女性50代	300	18.7	50.3	27.7	1.7	1.7	69.0	3.3
	女性60-79歳	300	24.3	52.0	22.7	1.0	-	76.3	1.0

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進める(Q13)〈地域別〉

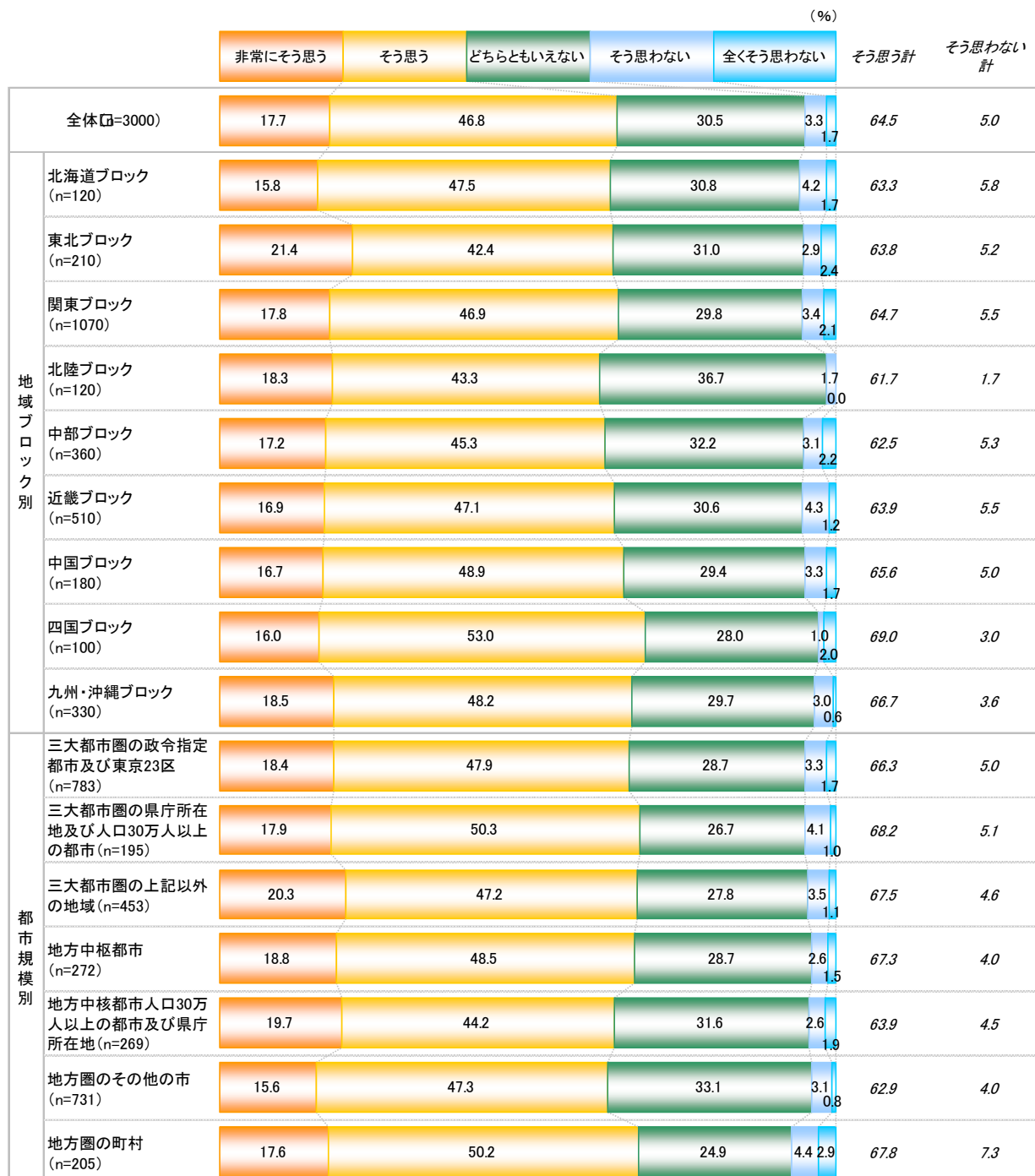
[Q13.安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進める]に関して、

「そう思う」計は

地域ブロック別で見ると、四国ブロック 69.0%、九州・沖縄ブロック 66.7%、中国ブロック 65.6%、関東ブロック 64.7%、近畿ブロック 63.9%、東北ブロック 63.8%、北海道ブロック 63.3%、中部ブロック 62.5%、北陸ブロック 61.7%。**四国、九州・沖縄が高く、北陸が低い。**

都市規模別で見ると、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市 68.2%、地方圏の町村 67.8%、三大都市圏の上記以外の地域 67.5%、地方中枢都市 67.3%、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 66.3%、地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地 63.9%、地方圏のその他の市 62.9%。**都市規模別での顕著な差はみられない。**

Q13. 気候変動による災害の頻発化、巨大地震発生の可能性の増大などに対応するため、安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進めるべき



■国土を強靱化する(Q14)〈性・年代別〉

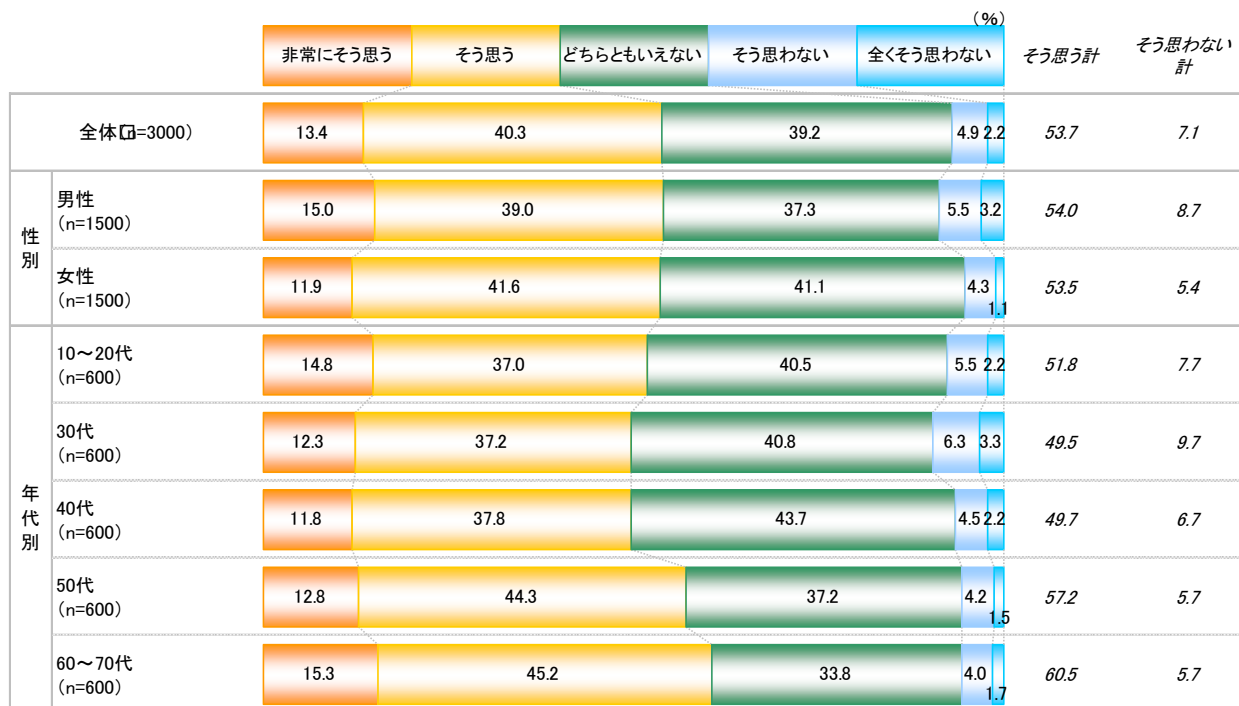
[Q14.国土を強靱化する]に関して、
「そう思う」計は

性別で見ると、男性 54.0%、女性 53.5%とほぼ同じ。

年代別で見ると、60～70代 60.5%、50代 57.2%、10～20代 51.8%、40代 49.7%、30代 49.5%。基本的に年代が上の層ほど「そう思う」が多いが、10～20代が40代、30代を上回るのは他の項目と異なるところ。

性年代別で見ると、女性 60～79歳 61.0%、男性 60～79歳 60.0%、男性 50代 57.7%、女性 50代 56.7%、男性 18～29歳 54.3%、女性 40代 50.3%、女性 30代 50.0%、女性 18～29歳 49.3%、男性 30代、男性 40代各 49.0%。女性、男性とも50代以上が高い。男性 18～29歳が高い(54.3%)は特徴的。

Q14. 東日本大震災などで、国土の脆弱性が明らかになった日本にとって、強くしなやかな国民生活の実現のため、国土を強靱化することは重要だ



		n	非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらとも いえない (0)	そう思わない (-1)	全く そう思わない (-2)	[そう思う計]	[そう思わない 計]
全体		3000	13.4	40.3	39.2	4.9	2.2	53.7	7.1
性年代	男性18-29歳	300	18.3	36.0	38.0	5.0	2.7	54.3	7.7
	男性30代	300	14.0	35.0	38.3	7.0	5.7	49.0	12.7
	男性40代	300	12.7	36.3	43.3	4.7	3.0	49.0	7.7
	男性50代	300	14.7	43.0	35.0	5.3	2.0	57.7	7.3
	男性60-79歳	300	15.3	44.7	31.7	5.7	2.7	60.0	8.3
	女性18-29歳	300	11.3	38.0	43.0	6.0	1.7	49.3	7.7
	女性30代	300	10.7	39.3	43.3	5.7	1.0	50.0	6.7
	女性40代	300	11.0	39.3	44.0	4.3	1.3	50.3	5.7
	女性50代	300	11.0	45.7	39.3	3.0	1.0	56.7	4.0
	女性60-79歳	300	15.3	45.7	36.0	2.3	0.7	61.0	3.0

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■国土を強靱化する(Q14)〈地域別〉

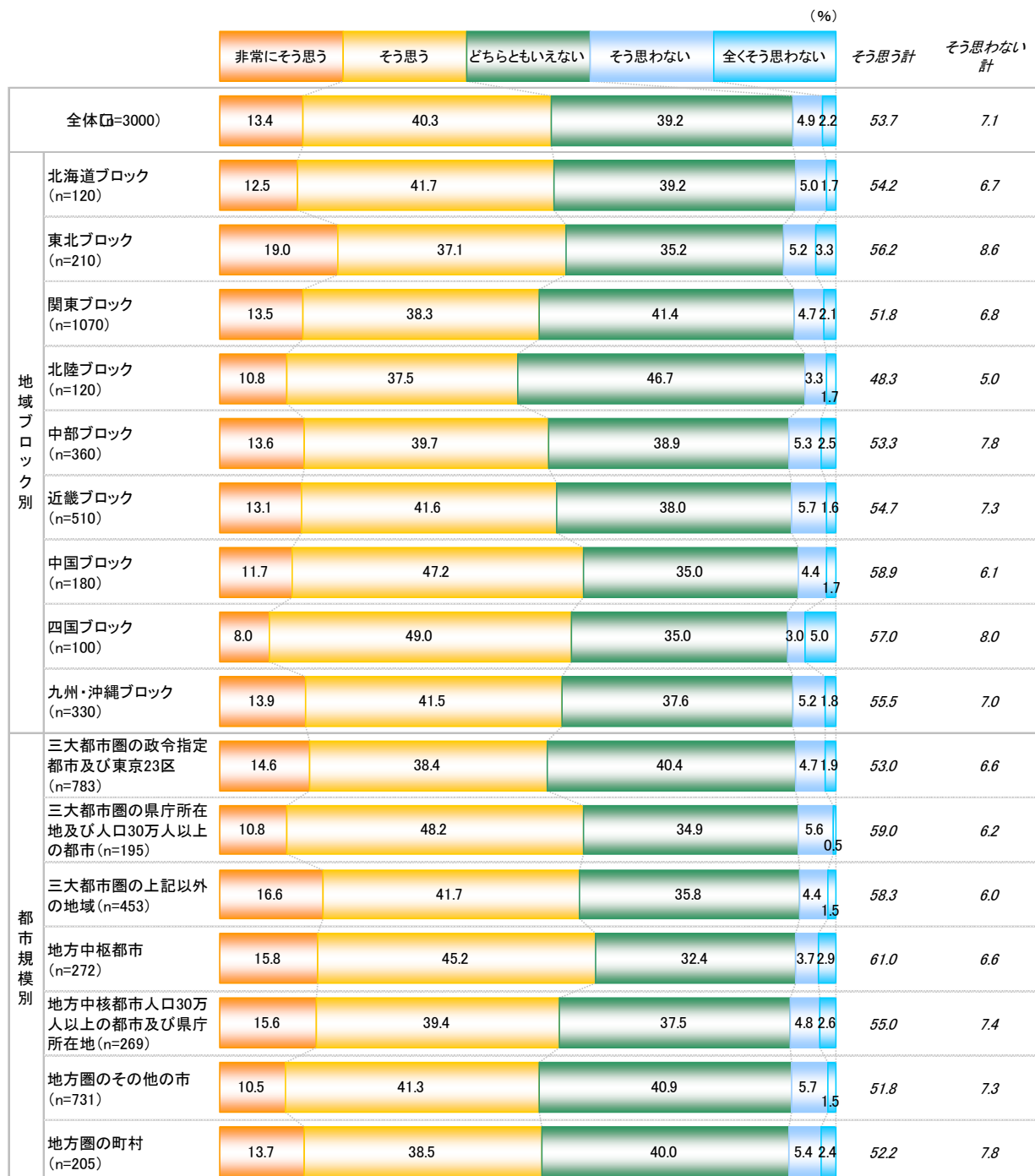
[Q14.国土を強靱化する]に関して、

「そう思う」計は

地域ブロック別で見ると、中国ブロック 58.9%、四国ブロック 57.0%、東北ブロック 56.2%、九州・沖縄ブロック 55.5%、近畿ブロック 54.7%、北海道ブロック 54.2%、中部ブロック 53.3%、関東ブロック 51.8%、北陸ブロック 48.3%。**中国、四国、東北が高く、北陸、関東が低い。**

都市規模別で見ると、地方中枢都市 61.0%、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市 59.0%、三大都市圏の上記以外の地域 58.3%、地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地 55.0%、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 53.0%、地方圏の町村 52.2%、地方圏のその他の市 51.8%。**東京 23 区、地方圏の町村、地方圏のその他の市が低い。**

Q14. 東日本大震災などで、国土の脆弱性が明らかになった日本にとって、強くしなやかな国民生活の実現のため、国土を強靱化することは重要だ



■生産拡大効果のある社会資本整備を重点的に進める(Q15)〈性・年代別〉

[Q15.生産拡大効果のある社会資本整備を重点的に進める]に関して、
「そう思う」計は

性別で見ると、男性 46.8%、女性 40.6%と、男性の方が6ポイント以上高い。他の項目とは異なった傾向。

年代別で見ると、10～20代 44.8%、50代 44.7%、60～70代 44.2%、30代 42.5%、40代 42.3%とあまり差はないが、10～20代の高さが特徴的。

性年代別で見ると、男性 18-29歳 52.0%、男性 50代、男性 60-79歳各 47.7%、男性 30代 44.7%、女性 40代 42.7%、男性 40代 42.0%、女性 50代 41.7%、女性 60-79歳 40.7%、女性 30代 40.3%、女性 18-29歳 37.7%。男性 18-29歳、男性 50代、男性 60-79歳の高さが目立つ。女性は各年齢層とも低目。

Q15. 日本の経済活力を維持、成長を促進するため、移動時間の短縮、輸送費の低下、企業立地や設備投資の誘発など、生産拡大効果のある社会資本整備を重点的に進めるべきだ



		n	非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらとも いえない (0)	そう思わない (-1)	全く そう思わない (-2)	[そう思う計]	[そう思わない 計]
全体		3000	7.7	36.0	46.9	7.5	1.9	43.7	9.4
性年代	男性18-29歳	300	13.0	39.0	39.3	6.0	2.7	52.0	8.7
	男性30代	300	10.3	34.3	43.3	7.3	4.7	44.7	12.0
	男性40代	300	8.3	33.7	46.3	8.7	3.0	42.0	11.7
	男性50代	300	8.3	39.3	42.0	9.3	1.0	47.7	10.3
	男性60-79歳	300	7.7	40.0	43.0	7.3	2.0	47.7	9.3
	女性18-29歳	300	6.7	31.0	53.3	7.3	1.7	37.7	9.0
	女性30代	300	5.0	35.3	51.3	7.7	0.7	40.3	8.3
	女性40代	300	6.3	36.3	50.0	6.0	1.3	42.7	7.3
	女性50代	300	4.0	37.7	50.3	6.0	2.0	41.7	8.0
	女性60-79歳	300	7.7	33.0	50.0	9.3	-	40.7	9.3

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

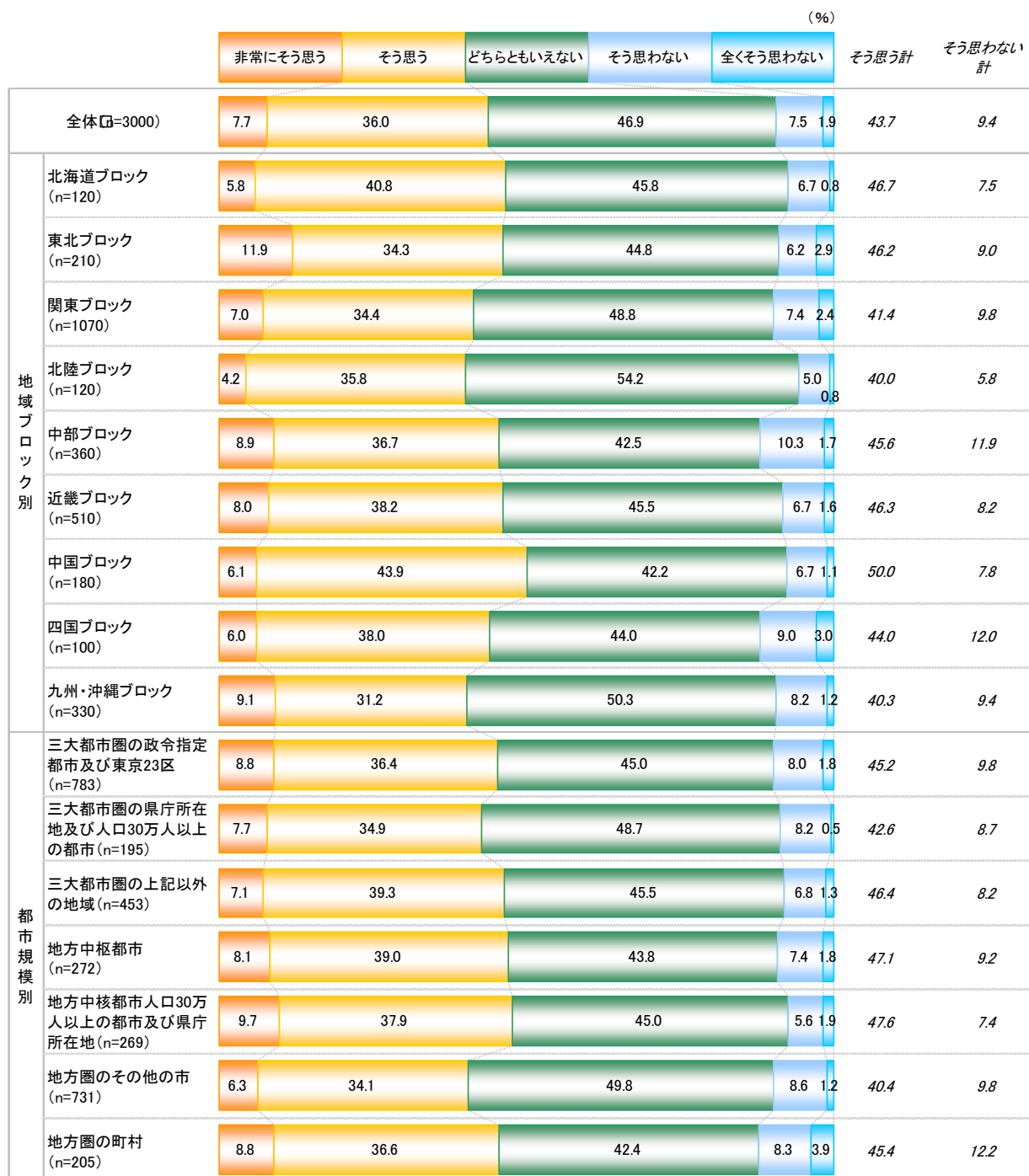
■生産拡大効果のある社会資本整備を重点的に進める(Q15)〈地域別〉

[Q15.生産拡大効果のある社会資本整備を重点的に進める]に関して、
「そう思う」計は

地域ブロック別で見ると、中国ブロック 50.0%、北海道ブロック 46.7%、近畿ブロック 46.3%、東北ブロック 46.2%、中部ブロック 45.6%、四国ブロック 44.0%、関東ブロック 41.4%、九州・沖縄ブロック 40.3%、北陸ブロック 40.0%。**中国が高く、北陸、九州・沖縄、関東が低い。**

都市規模別で見ると、地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地 47.6%、地方中枢都市 47.1%、三大都市圏の上記以外の地域 46.4%、地方圏の町村 45.4%、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 45.2%、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市 42.6%、地方圏のその他の市 40.4%。

Q15. 日本の経済活力を維持、成長を促進するため、移動時間の短縮、輸送費の低下、企業立地や設備投資の誘発など、生産拡大効果のある社会資本整備を重点的に進めるべきだ



■災害時に専門的知識・技能を持った国の職員を迅速に派遣する体制(Q16)〈性・年代別〉

[Q16. 災害からの復旧・復興にあたり、専門的知識・技能を持った国の職員を迅速に派遣する体制]に関して、
「そう思う」計は

性別で見ると、女性 58.4%、男性 53.9%と女性の方がかなり高い(5ポイント弱高い)。

年代別で見ると、60～70代 66.0%、50代 58.5%、40代 55.5%、10～20代 51.3%、30代 49.5%と、年代が上の層ほど高い。

性年代別で見ると、女性 60～79歳 68.3%、男性 60～79歳 63.7%、女性 40代 61.3%、女性 50代 60.7%、男性 50代 56.3%、男性 18～29歳 53.7%、女性 30代 52.7%、男性 40代 49.7%、女性 18～29歳 49.0%、男性 30代 46.3%。女性、男性とも 60～79歳が高く、男性 30代が低い。

Q16. 災害からの復旧・復興にあたり、専門的知識・技能を持った国の職員を迅速に派遣する体制(ex.「TEC フォース」)を強化すること
が必要だ



		n	非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらとも いえない (0)	そう思わない (-1)	全く そう思わない (-2)	[そう思う計]	[そう思わない 計]
全体		3000	13.4	42.8	36.9	4.6	2.3	56.2	6.9
性年代	男性18-29歳	300	14.0	39.7	37.7	5.0	3.7	53.7	8.7
	男性30代	300	9.3	37.0	40.7	6.0	7.0	46.3	13.0
	男性40代	300	17.0	32.7	42.3	5.3	2.7	49.7	8.0
	男性50代	300	15.3	41.0	36.7	5.7	1.3	56.3	7.0
	男性60-79歳	300	10.7	53.0	27.0	6.3	3.0	63.7	9.3
	女性18-29歳	300	10.3	38.7	44.0	4.3	2.7	49.0	7.0
	女性30代	300	10.7	42.0	41.0	5.3	1.0	52.7	6.3
	女性40代	300	14.7	46.7	35.7	2.3	0.7	61.3	3.0
	女性50代	300	13.0	47.7	35.7	2.3	1.3	60.7	3.7
	女性60-79歳	300	19.0	49.3	28.3	3.3	-	68.3	3.3

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

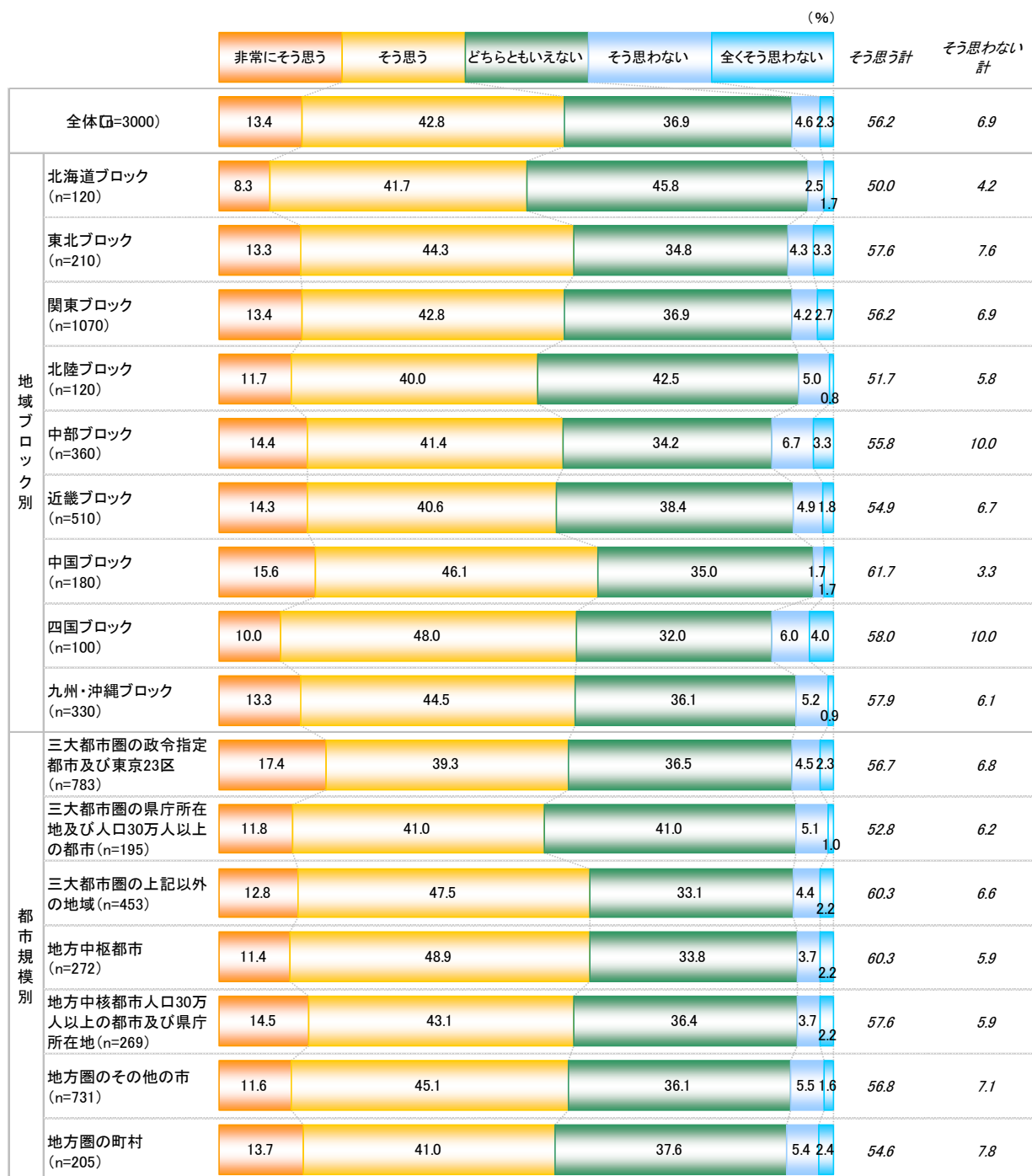
■災害時に専門的知識・技能を持った国の職員を迅速に派遣する体制(Q16)〈地域別〉

[Q16.災害時に専門的知識・技能を持った国の職員を迅速に派遣する体制]に関して、
「そう思う」計は

地域ブロック別で見ると、中国ブロック 61.7%、四国ブロック 58.0%、九州・沖縄ブロック 57.9%、東北ブロック 57.6%、関東ブロック 56.2%、中部ブロック 55.8%、近畿ブロック 54.9%、北陸ブロック 51.7%、北海道ブロック 50.0%。**中国が高く、北海道、北陸が低い(10ポイント強の差)。**

都市規模別で見ると、三大都市圏の上記以外の地域、地方中枢都市各 60.3%、地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地 57.6%、地方圏のその他の市 56.8%、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 56.7%、地方圏の町村 54.6%、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市 52.8%。

Q16. 災害からの復旧・復興にあたり、専門的知識・技能を持った国の職員を迅速に派遣する体制(ex.「TEC フォース」)を強化すること
が必要だ



■住む人や都市施設を集め、人口密度の高いコンパクトシティを形成し、それらを道路などのネットワークで結びつける(Q17)〈性・年代別〉

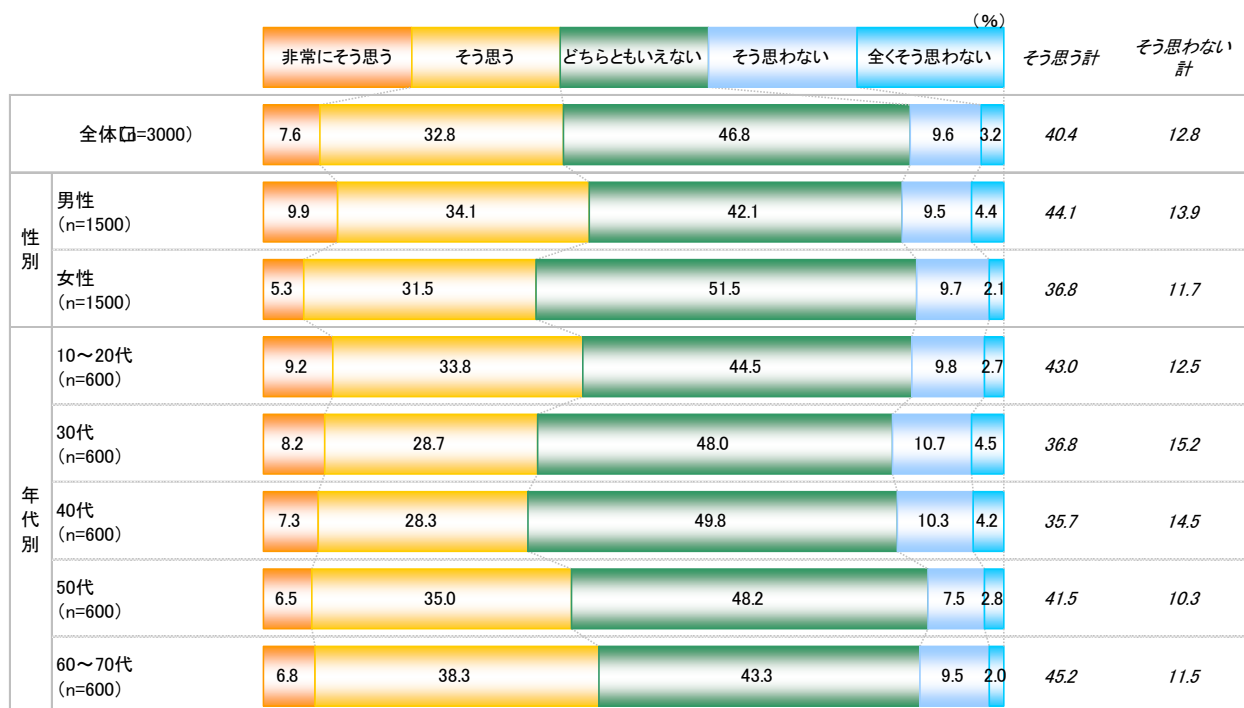
[Q17.住む人や都市施設を集め、人口密度の高いコンパクトシティを形成し、それらを道路などのネットワークで結びつける]に関して、
「そう思う」計は

性別で見ると、男性 44.1%、女性 36.8%と男性の方がかなり高い(7ポイント強)。

年代別で見ると、60～70代 45.2%、10～20代 43.0%、50代 41.5%、30代 36.8%、40代 35.7%。60～70代、10～20代が高く、30代、40代が低い。

性年代別で見ると、男性 18-29歳 48.7%、男性 60-79歳 46.0%、男性 50代 45.7%、女性 60-79歳 44.3%、男性 30代 42.7%、男性 40代、女性 18-29歳、女性 50代各 37.3%、女性 40代 34.0%、女性 30代 31.0%。男性 18-29歳、男性 60-79歳が高く、女性 40代、女性 30代が低い。

Q17. 人口密度が高いほど効率化により都市施設の維持管理費が少なくなるので、住む人や都市施設を集め、人口密度の高いコンパクトシティを形成し、それらを道路などのネットワークで結びつけて、地方の成長を促し、人口減少を克服することを進めるべきだ



		n	非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらとも いえない (0)	そう思わない (-1)	全く そう思わない (-2)	[そう思う計]	[そう思わない 計]
全体		3000	7.6	32.8	46.8	9.6	3.2	40.4	12.8
性 年 代	男性18-29歳	300	13.0	35.7	37.7	10.7	3.0	48.7	13.7
	男性30代	300	10.3	32.3	42.0	8.7	6.7	42.7	15.3
	男性40代	300	8.7	28.7	47.0	9.7	6.0	37.3	15.7
	男性50代	300	9.7	36.0	43.3	7.7	3.3	45.7	11.0
	男性60-79歳	300	8.0	38.0	40.3	10.7	3.0	46.0	13.7
	女性18-29歳	300	5.3	32.0	51.3	9.0	2.3	37.3	11.3
	女性30代	300	6.0	25.0	54.0	12.7	2.3	31.0	15.0
	女性40代	300	6.0	28.0	52.7	11.0	2.3	34.0	13.3
	女性50代	300	3.3	34.0	53.0	7.3	2.3	37.3	9.7
	女性60-79歳	300	5.7	38.7	46.3	8.3	1.0	44.3	9.3

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■住む人や都市施設を集め、人口密度の高いコンパクトシティを形成し、それらを道路などのネットワークで結びつける(Q17)〈地域別〉

[Q17.住む人や都市施設を集め、人口密度の高いコンパクトシティを形成し、それらを道路などのネットワークで結びつける]に関して、
「そう思う」計は

地域ブロック別で見ると、中国ブロック 45.6%、北海道ブロック 44.2%、四国ブロック 42.0%、東北ブロック 41.9%、中部ブロック 41.4%、関東ブロック 40.5%、九州・沖縄ブロック 40.3%、近畿ブロック 38.0%、北陸ブロック 32.5%。**中国、北海道が高く、北陸が低い(13ポイントの差)。**

都市規模別で見ると、地方中枢都市 45.6%、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市 44.1%、地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地 43.5%、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 42.3%、三大都市圏の上記以外の地域 41.9%、地方圏のその他の市 37.9%、地方圏の町村 36.6%。**地方の中核都市、大規模都市で高く、地方圏その他の市、町村で低い。**

Q17. 人口密度が高いほど効率化により都市施設の維持管理費が少なくなるので、住む人や都市施設を集め、人口密度の高いコンパクトシティを形成し、それらを道路などのネットワークで結びつけて、地方の成長を促し、人口減少を克服することを進めるべきだ

		(%)					そう思う計	そう思わない計
		非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない		
地域 ブ ロ ッ ク 別	全体(n=3000)	7.6	32.8	46.8	9.6	3.2	40.4	12.8
	北海道ブロック (n=120)	9.2	35.0	42.5	10.0	3.3	44.2	13.3
	東北ブロック (n=210)	12.9	29.0	41.9	11.4	4.8	41.9	16.2
	関東ブロック (n=1070)	6.9	33.6	46.5	9.2	3.8	40.5	13.0
	北陸ブロック (n=120)	5.8	26.7	50.8	14.2	2.5	32.5	16.7
	中部ブロック (n=360)	7.8	33.6	46.1	8.6	3.9	41.4	12.5
	近畿ブロック (n=510)	7.3	30.8	49.4	9.8	2.7	38.0	12.5
	中国ブロック (n=180)	7.2	38.3	46.7	7.2	0.6	45.6	7.8
	四国ブロック (n=100)	10.0	32.0	45.0	10.0	3.0	42.0	13.0
	九州・沖縄ブロック (n=330)	6.4	33.9	47.9	9.7	2.1	40.3	11.8
都 市 規 模 別	三大都市圏の政令指定 都市及び東京23区 (n=783)	8.9	33.3	46.0	9.1	2.7	42.3	11.7
	三大都市圏の県庁所在 地及び人口30万人以上 の都市(n=195)	5.1	39.0	44.1	9.2	2.6	44.1	11.8
	三大都市圏の上記以外 の地域(n=453)	7.3	34.7	44.4	10.2	3.5	41.9	13.7
	地方中枢都市 (n=272)	8.5	37.1	44.5	7.4	2.6	45.6	9.9
	地方中核都市人口30万 人以上の都市及び県庁 所在地(n=269)	8.6	34.9	43.1	10.8	2.6	43.5	13.4
	地方圏のその他の市 (n=731)	6.7	31.2	48.8	10.4	2.9	37.9	13.3
	地方圏の町村 (n=205)	8.3	28.3	47.3	11.7	4.4	36.6	16.1

■民間事業者のノウハウ等を活用することで、効率化、コスト縮減、人件費の削減等を実現する(Q18)〈性・年代別〉

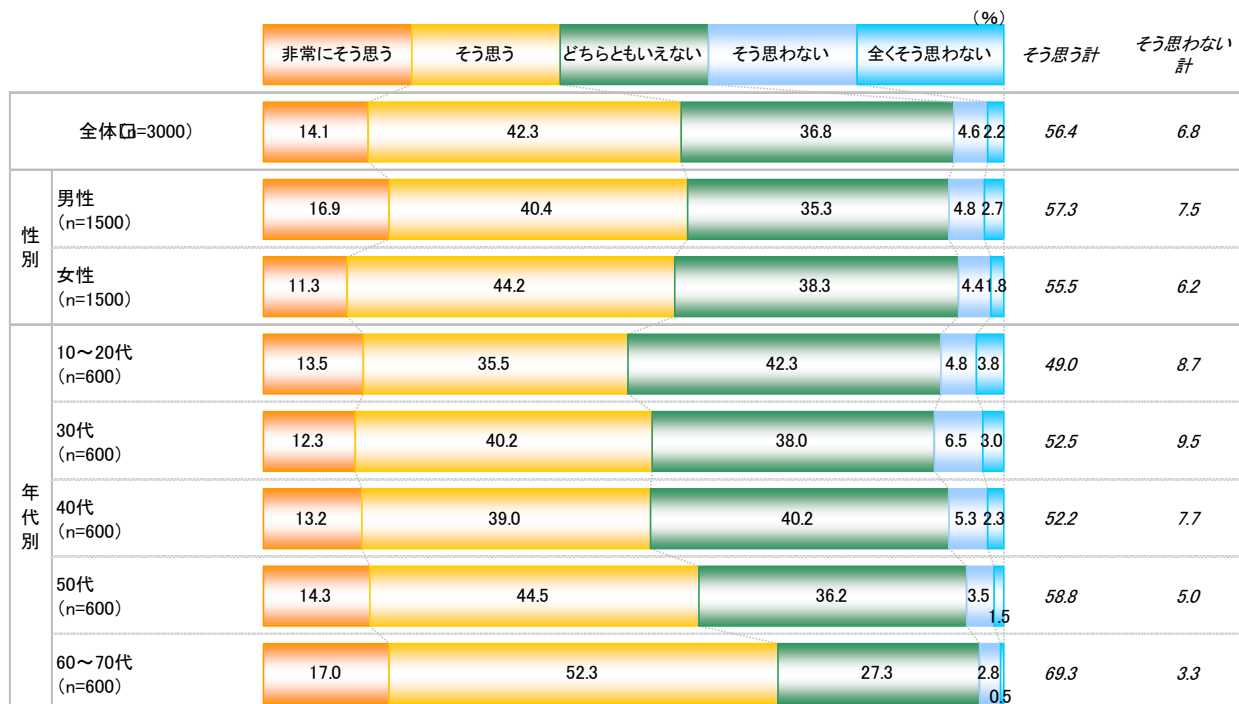
[Q18.民間事業者のノウハウ等を活用することで、効率化、コスト縮減、人件費の削減等を実現する]に関して、「そう思う」計は

性別で見ると、男性 57.3%、女性 55.5%と**男性の方が少し高い**。

年代別で見ると、60～70代 69.3%、50代 58.8%、30代 52.5%、40代 52.2%、10～20代 49.0%と**年代が上の層ほど高い**。

性年代別で見ると、女性 60～79歳 70.7%、男性 60～79歳 68.0%、男性 50代 63.0%、女性 50代 54.7%、女性 30代 54.0%、男性 18～29歳、女性 40代各 53.0%、男性 40代 51.3%、男性 30代 51.0%、女性 18～29歳 45.0%。**女性 60～79歳、男性 60～79歳が高く、男性 30代、女性 18～29歳が低い**。

Q18. これからのインフラ(社会資本)の保全整備にあたっては、PPP(官民連携)、PFI(民間の資金、経営能力等を活用する手法など)を取り入れ、民間事業者のノウハウ等を活用することで、効率化、コスト縮減、人件費の削減等を実現することが必要だ



		n	非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらとも いえない (0)	そう思わない (-1)	全く そう思わない (-2)	[そう思う計]	[そう思わない 計]
全体		3000	14.1	42.3	36.8	4.6	2.2	56.4	6.8
性年代	男性18-29歳	300	17.7	35.3	38.7	5.0	3.3	53.0	8.3
	男性30代	300	13.7	37.3	37.7	7.0	4.3	51.0	11.3
	男性40代	300	16.7	34.7	40.0	5.3	3.3	51.3	8.7
	男性50代	300	19.0	44.0	33.0	2.7	1.3	63.0	4.0
	男性60-79歳	300	17.3	50.7	27.0	4.0	1.0	68.0	5.0
	女性18-29歳	300	9.3	35.7	46.0	4.7	4.3	45.0	9.0
	女性30代	300	11.0	43.0	38.3	6.0	1.7	54.0	7.7
	女性40代	300	9.7	43.3	40.3	5.3	1.3	53.0	6.7
	女性50代	300	9.7	45.0	39.3	4.3	1.7	54.7	6.0
	女性60-79歳	300	16.7	54.0	27.7	1.7	-	70.7	1.7

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

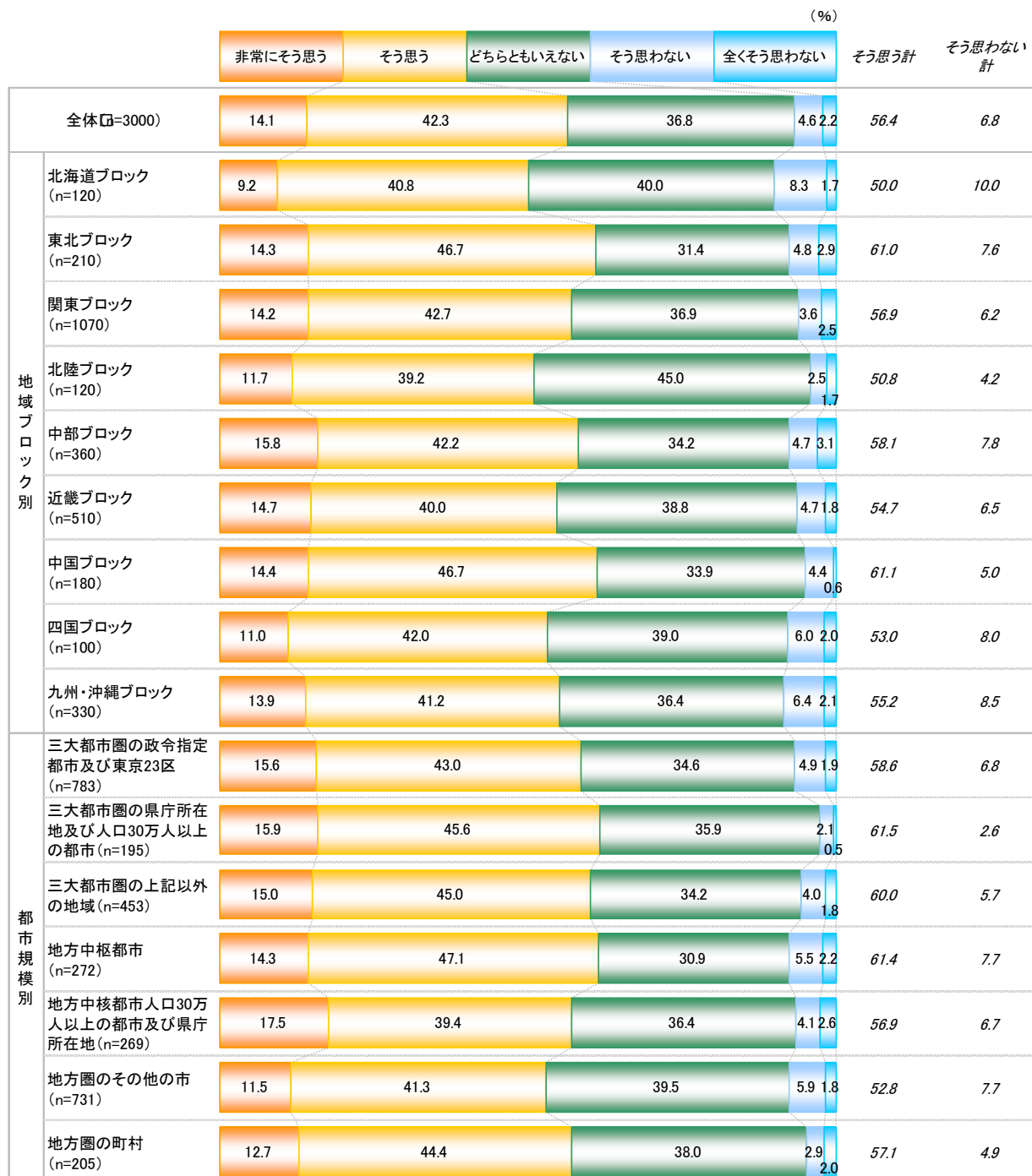
■民間事業者のノウハウ等を活用することで、効率化、コスト縮減、人件費の削減等を実現する(Q18)〈地域別〉

[Q18.民間事業者のノウハウ等を活用することで、効率化、コスト縮減、人件費の削減等を実現する]に関して、「そう思う」計は

地域ブロック別で見ると、中国ブロック 61.1%、東北ブロック 61.0%、中部ブロック 58.1%、関東ブロック 56.9%、九州・沖縄ブロック 55.2%、近畿ブロック 54.7%、四国ブロック 53.0%、北陸ブロック 50.8%、北海道ブロック 50.0%。**中国、東北が高く、北海道、北陸が低い(10ポイント以上の差)。**

都市規模別で見ると、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市 61.5%、地方中枢都市 61.4%、三大都市圏の上記以外の地域 60.0%、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 58.6%、地方圏の町村 57.1%、地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地 56.9%、地方圏のその他の市の 52.8%。**地方圏のその他の市の低さが目立つ。**

Q18. これからのインフラ(社会資本)の保全整備にあたっては、PPP(官民連携)、PFI(民間の資金、経営能力等を活用する手法など)を取り入れ、民間事業者のノウハウ等を活用することで、効率化、コスト縮減、人件費の削減等を実現することが必要だ



■住民、地域の意見等を十分に取り入れ、価値観の共有と協働作業が行えるような仕組み(Q19)〈性・年代別〉

[Q19.住民、地域の意見等を十分に取り入れ、価値観の共有と協働作業が行えるような仕組み]に関して、「そう思う」計は

性別で見ると、女性 57.8%、男性 55.9%とほぼ同じだが、女性の方が若干高い。

年代別で見ると、60～70代 67.8%、50代 58.0%、10～20代 53.3%、30代 52.8%、40代 52.3%。60～70代の高さ、10～20代が30、40代を上回るのが特徴的。

性年代別で見ると、男性60～79歳 68.0%、女性60～79歳 67.7%、女性50代 58.3%、男性50代、女性30代各 55.7%、女性40代 54.7%、男性18～29歳 54.0%、女性18～29歳 52.7%、男性30代、男性40代各 50.0%。男性、女性とも60～79歳が高く、男性30代、40代の低さが目立つ。

Q19. 人々の価値観や行動が大きく変化し、多様化していることを踏まえ、社会資本整備においても、その整備方策・手順について住民、地域の意見等を十分に取り入れ、価値観の共有と協働作業が行えるような仕組みを作っていくべきだ



		n	非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらとも いえない (0)	そう思わない (-1)	全く そう思わない (-2)	[そう思う計]	[そう思わない 計]
全体		3000	10.3	46.6	37.3	4.2	1.6	56.9	5.8
性年代	男性18-29歳	300	12.0	42.0	38.0	5.3	2.7	54.0	8.0
	男性30代	300	8.3	41.7	39.3	6.3	4.3	50.0	10.7
	男性40代	300	12.3	37.7	43.3	4.3	2.3	50.0	6.7
	男性50代	300	10.7	47.0	35.3	5.7	1.3	57.7	7.0
	男性60-79歳	300	14.3	53.7	29.7	1.7	0.7	68.0	2.3
	女性18-29歳	300	10.3	42.3	42.0	4.0	1.3	52.7	5.3
	女性30代	300	8.7	47.0	37.0	6.7	0.7	55.7	7.3
	女性40代	300	8.0	46.7	40.7	3.3	1.3	54.7	4.7
	女性50代	300	5.7	52.7	37.3	3.0	1.3	58.3	4.3
	女性60-79歳	300	12.7	55.0	30.7	1.3	0.3	67.7	1.7

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■住民、地域の意見等を十分に取り入れ、価値観の共有と協働作業が行えるような仕組み(Q19)〈地域別〉

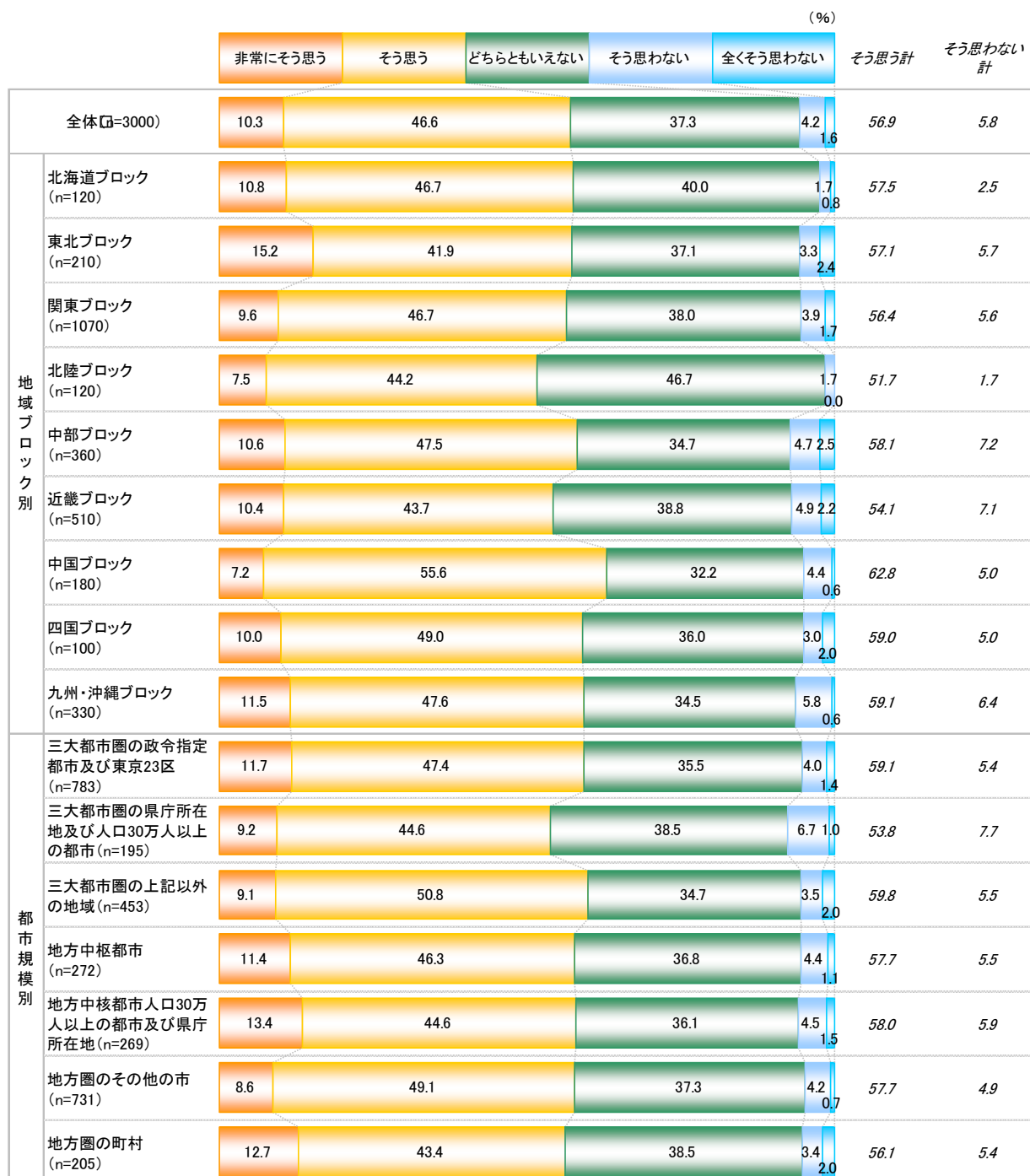
[Q19.住民、地域の意見等を十分に取り入れ、価値観の共有と協働作業が行えるような仕組み]に関して、

「そう思う」計は

地域ブロック別で見ると、中国ブロック 62.8%、九州・沖縄ブロック 59.1%、四国ブロック 59.0%、中部ブロック 58.1%、北海道ブロック 57.5%、東北ブロック 57.1%、関東ブロック 56.4%、近畿ブロック 54.1%、北陸ブロック 51.7%。**中国がかなり高く、北陸がかなり低く、差は 10 ポイント以上ある。**

都市規模別で見ると、三大都市圏の上記以外の地域 59.8%、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 59.1%、地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地 58.0%、地方中枢都市、地方圏のその他の市各 57.7%、地方圏の町村 56.1%、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市 53.8%。都市規模別では、都市部、地方圏などでの明らかな差はみられない。

Q19. 人々の価値観や行動が大きく変化し、多様化していることを踏まえ、社会資本整備においても、その整備方策・手順について住民、地域の意見等を十分に取り入れ、価値観の共有と協働作業が行えるような仕組みを作っていくべきだ



■必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止むを得ない(Q20)〈性・年代別〉

[Q20.必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止むを得ない]に関して、
「そう思う」計は

性別で見ると、**男性 42.7%、女性 33.1%**。私権制限に関しては、**男性の方が女性より 10 ポイント近く高い**。

年代別で見ると、60～70 代 49.3%、50 代 37.2%、40 代 36.0%、10～20 代 33.8%、30 代 33.2%と**年代が上の層ほど高く、差は 15 ポイント以上ある**。

性年代別で見ると、男性 60-79 歳 55.7%、女性 60-79 歳 43.0%、男性 18-29 歳、男性 40 代各 40.7%、男性 50 代 38.3%、男性 30 代 38.0%、女性 50 代 36.0%、女性 40 代 31.3%、女性 30 代 28.3%、女性 18-29 歳 27.0%。**男性 18-29 歳が比較的高いのが目立つ**。

Q20. 社会全体の安全性を高める施設等を整備するにあたって、必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止むを得ない



			(%)						
		n	非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらとも いえない (0)	そう思わない (-1)	全く そう思わない (-2)	[そう思う計]	[そう思わない 計]
全体		3000	6.6	31.3	47.1	11.5	3.5	37.9	15.0
性 年 代	男性18-29歳	300	10.7	30.0	44.0	10.0	5.3	40.7	15.3
	男性30代	300	7.7	30.3	45.0	10.3	6.7	38.0	17.0
	男性40代	300	9.7	31.0	42.7	12.3	4.3	40.7	16.7
	男性50代	300	6.7	31.7	44.0	14.3	3.3	38.3	17.7
	男性60-79歳	300	12.7	43.0	30.7	11.7	2.0	55.7	13.7
	女性18-29歳	300	4.0	23.0	56.7	12.3	4.0	27.0	16.3
	女性30代	300	2.3	26.0	54.3	13.3	4.0	28.3	17.3
	女性40代	300	5.0	26.3	55.3	11.0	2.3	31.3	13.3
	女性50代	300	1.3	34.7	52.3	9.0	2.7	36.0	11.7
	女性60-79歳	300	6.3	36.7	46.0	10.7	0.3	43.0	11.0

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止むを得ない(Q20)〈地域別〉

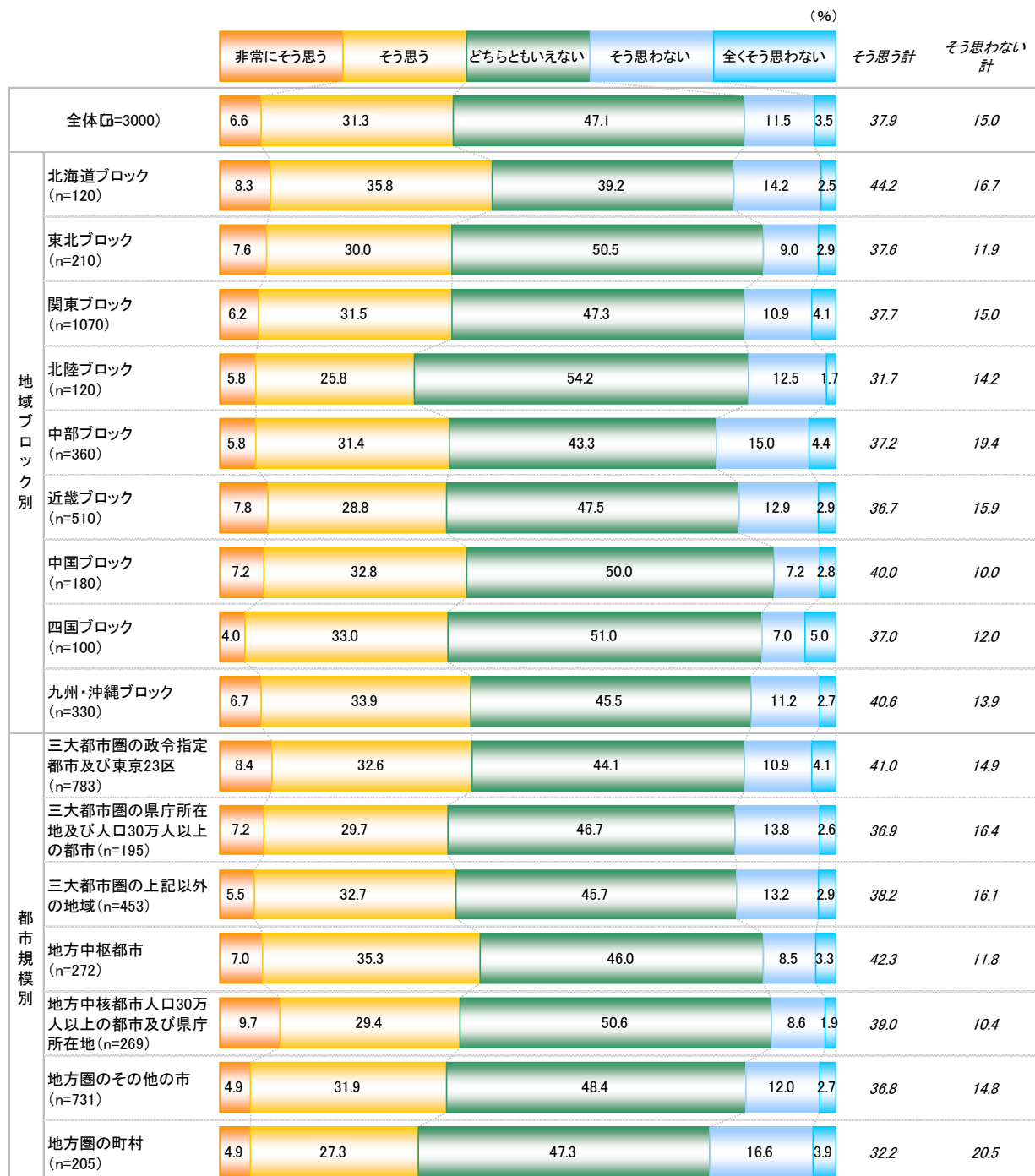
[Q20.必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止むを得ない]に関して、

「そう思う」計は

地域ブロック別で見ると、**北海道ブロックが44.2%**とかなり高く、九州・沖縄ブロック40.6%、中国ブロック40.0%がそれに続き、関東ブロック37.7%、東北ブロック37.6%、中部ブロック37.2%、四国ブロック37.0%、近畿ブロック36.7%が36～37%台で第3グループ、**北陸ブロック31.7%は最も低い**。

都市規模別で見ると、地方中枢都市42.3%、三大都市圏の政令指定都市及び東京23区41.0%、地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地39.0%、三大都市圏の上記以外の地域38.2%、三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市36.9%、地方圏のその他の市36.8%、地方圏の町村32.2%。**都市部の方が地方圏の市町村より高い傾向がある**。

Q20. 社会全体の安全性を高める施設等を整備するにあたって、必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止むを得ない



■社会資本整備にあたっては、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべき(Q21)〈性・年代別〉

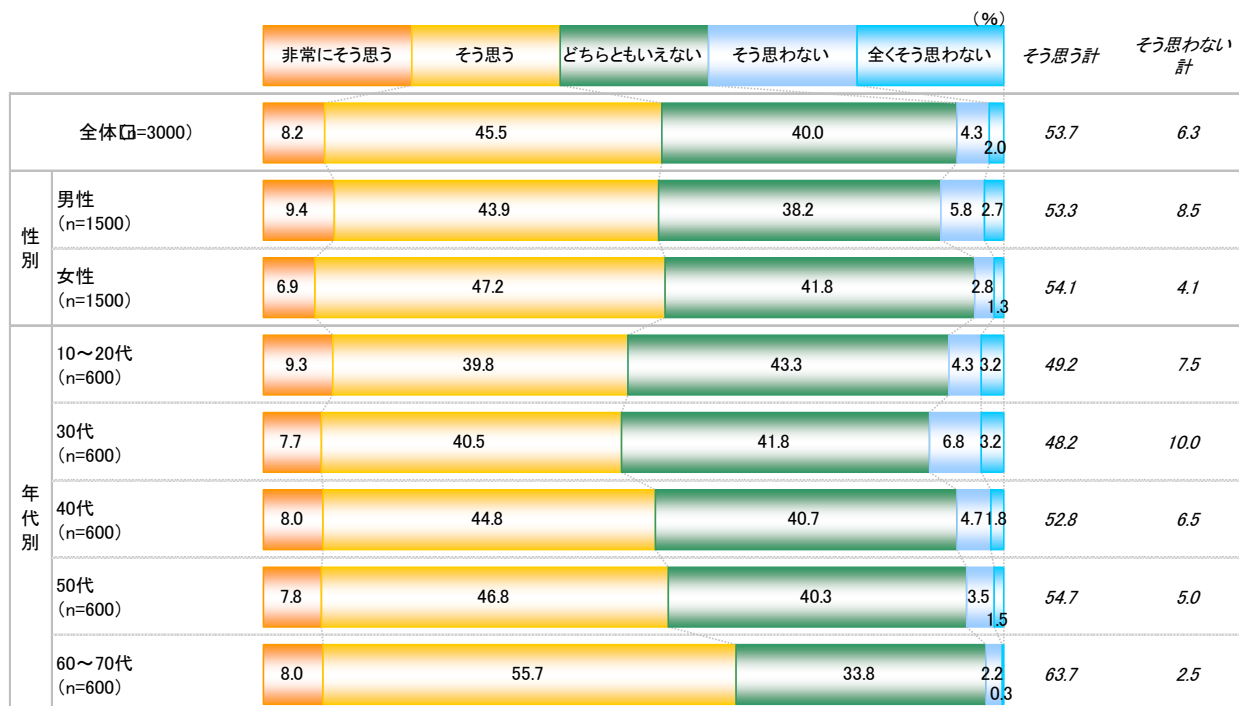
[Q21.社会資本整備にあたっては、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべき]に関して、「そう思う」計は

性別で見ると、女性 54.1%、男性 53.3%と、**女性が若干上回るがほぼ同様。**

年代別で見ると、60～70代 63.7%、50代 54.7%、40代 52.8%、10～20代 49.2%、30代 48.2%。**基本的に年代が上であるほど高い**との結果が出ている。**10～20代が30代を若干上回るのは例外的傾向。**

性年代別で見ると、女性 60～79歳 64.0%、男性 60～79歳 63.3%、男性 50代、女性 50代各 54.7%、男性 40代 53.0%、女性 40代 52.7%、女性 30代 51.7%、男性 18～29歳 50.7%、女性 18～29歳 47.7%、男性 30代 44.7%。**年代が上のほど高いが、男性 30代は 44.7%と低い。**

Q21. 高速道路、幹線道路が救急搬送や災害時に救援物資の運搬等に用いる「命の道」の役割も果たす、といった例も踏まえ、社会資本整備にあたっては、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべきだ



		n	非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらとも いえない (0)	そう思わない (-1)	全く そう思わない (-2)	[そう思う計]	[そう思わない計]
全体		3000	8.2	45.5	40.0	4.3	2.0	53.7	6.3
性年代	男性18-29歳	300	12.0	38.7	39.3	6.7	3.3	50.7	10.0
	男性30代	300	9.7	35.0	42.0	8.3	5.0	44.7	13.3
	男性40代	300	8.3	44.7	38.0	6.0	3.0	53.0	9.0
	男性50代	300	8.3	46.3	38.7	5.0	1.7	54.7	6.7
	男性60-79歳	300	8.7	54.7	33.0	3.0	0.7	63.3	3.7
	女性18-29歳	300	6.7	41.0	47.3	2.0	3.0	47.7	5.0
	女性30代	300	5.7	46.0	41.7	5.3	1.3	51.7	6.7
	女性40代	300	7.7	45.0	43.3	3.3	0.7	52.7	4.0
	女性50代	300	7.3	47.3	42.0	2.0	1.3	54.7	3.3
	女性60-79歳	300	7.3	56.7	34.7	1.3	-	64.0	1.3

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■社会資本整備にあたっては、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべき(Q21)〈地域別〉

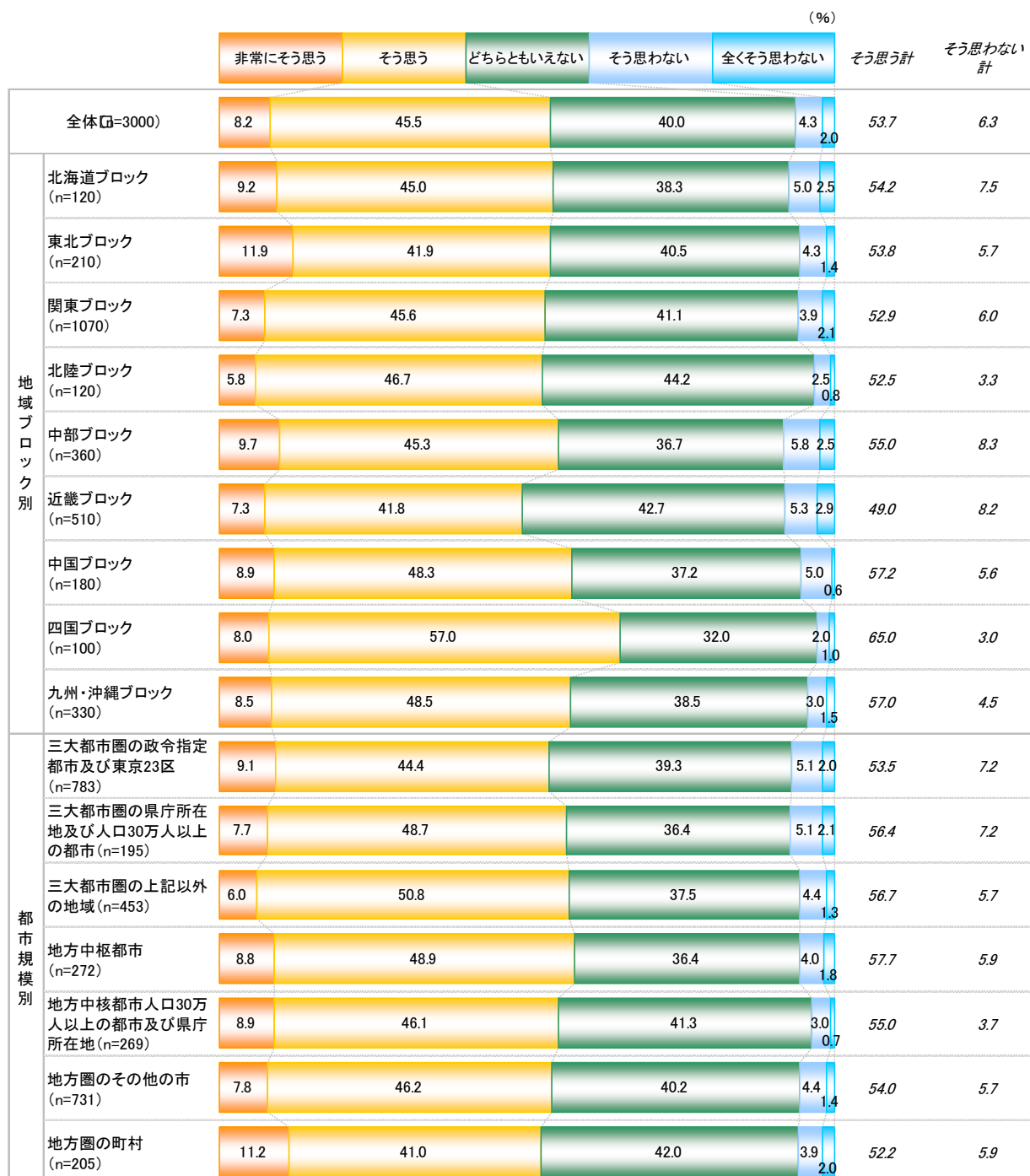
[Q21.社会資本整備にあたっては、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべき]に関して、

「そう思う」計は

地域ブロック別で見ると、**四国ブロック 65.0%が最も高く**、中国ブロック 57.2%、九州・沖縄ブロック 57.0%がそれに続き、中部ブロック 55.0%、北海道ブロック 54.2%、東北ブロック 53.8%、関東ブロック 52.9%、**北陸ブロック 52.5%が第3グループ**、**近畿ブロック 49.0%が最低で5割を切っている**。

都市規模別で見ると、地方中枢都市 57.7%、三大都市圏の上記以外の地域 56.7%、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市 56.4%、地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地 55.0%、地方圏のその他の市 54.0%、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 53.5%、地方圏の町村 52.2%。都市規模別では**それほど**の差はなく、**都市部、地方圏での明らかな差異はみられない**。

Q21. 高速道路、幹線道路が救急搬送や災害時に救援物資の運搬等に用いる「命の道」の役割も果たす、といった例も踏まえ、社会資本整備にあたっては、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべきだ



■日本のインフラ技術を世界に輸出し、国際貢献するとともに日本の活力強化にもつなげるべき(Q22)〈性・年代別〉

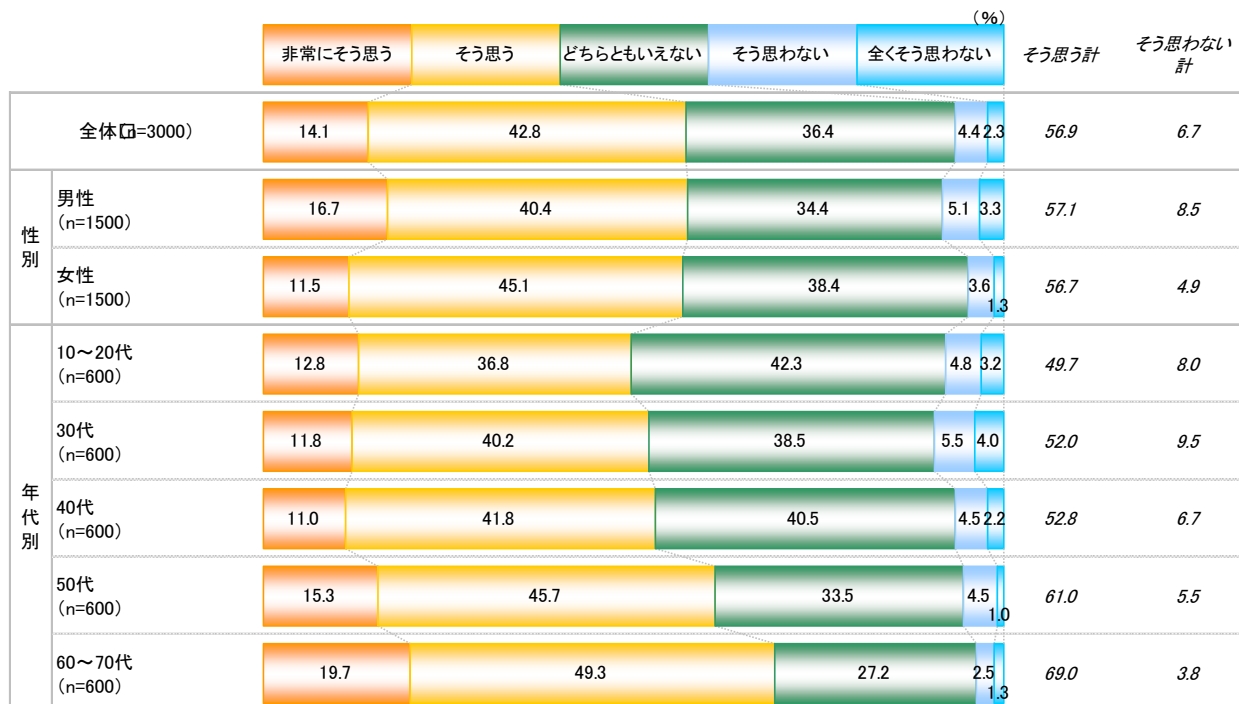
[Q22. 日本のインフラ技術を世界に輸出し、国際貢献するとともに日本の活力強化にもつなげるべき]に関して、「そう思う」計は

性別で見ると、男性 57.1%、女性 56.7%とほぼ同じだが、**男性の方が少し高い**。

年代別で見ると、60～70代 69.0%、50代 61.0%、40代 52.8%、30代 52.0%、10～20代 49.7%。**年代が上の層ほど高い**。

性年代別で見ると、男性 60～79歳 69.3%、女性 60～79歳 68.7%、女性 50代 63.0%、男性 50代 59.0%、男性 40代 54.3%、女性 30代 52.7%、男性 18～29歳 51.7%、男性 30代、女性 40代各 51.3%、女性 18～29歳 47.7%。**基本的に年代が上の層ほど高い**。

Q22. インフラメンテナンスの分野で、日本の優れた技術は世界で十分に競争する力がある。こういった優れた日本のインフラ技術を世界に輸出し、国際貢献するとともに日本の活力強化にもつなげるべきだ



(%)									
		n	非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらとも いえない (0)	そう思わない (-1)	全く そう思わない (-2)	[そう思う計]	[そう思わない 計]
全体		3000	14.1	42.8	36.4	4.4	2.3	56.9	6.7
性 年 代	男性18-29歳	300	17.0	34.7	39.0	5.3	4.0	51.7	9.3
	男性30代	300	15.3	36.0	37.0	6.0	5.7	51.3	11.7
	男性40代	300	12.3	42.0	37.0	5.3	3.3	54.3	8.7
	男性50代	300	16.0	43.0	34.3	5.7	1.0	59.0	6.7
	男性60-79歳	300	23.0	46.3	24.7	3.3	2.7	69.3	6.0
	女性18-29歳	300	8.7	39.0	45.7	4.3	2.3	47.7	6.7
	女性30代	300	8.3	44.3	40.0	5.0	2.3	52.7	7.3
	女性40代	300	9.7	41.7	44.0	3.7	1.0	51.3	4.7
	女性50代	300	14.7	48.3	32.7	3.3	1.0	63.0	4.3
	女性60-79歳	300	16.3	52.3	29.7	1.7	-	68.7	1.7

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

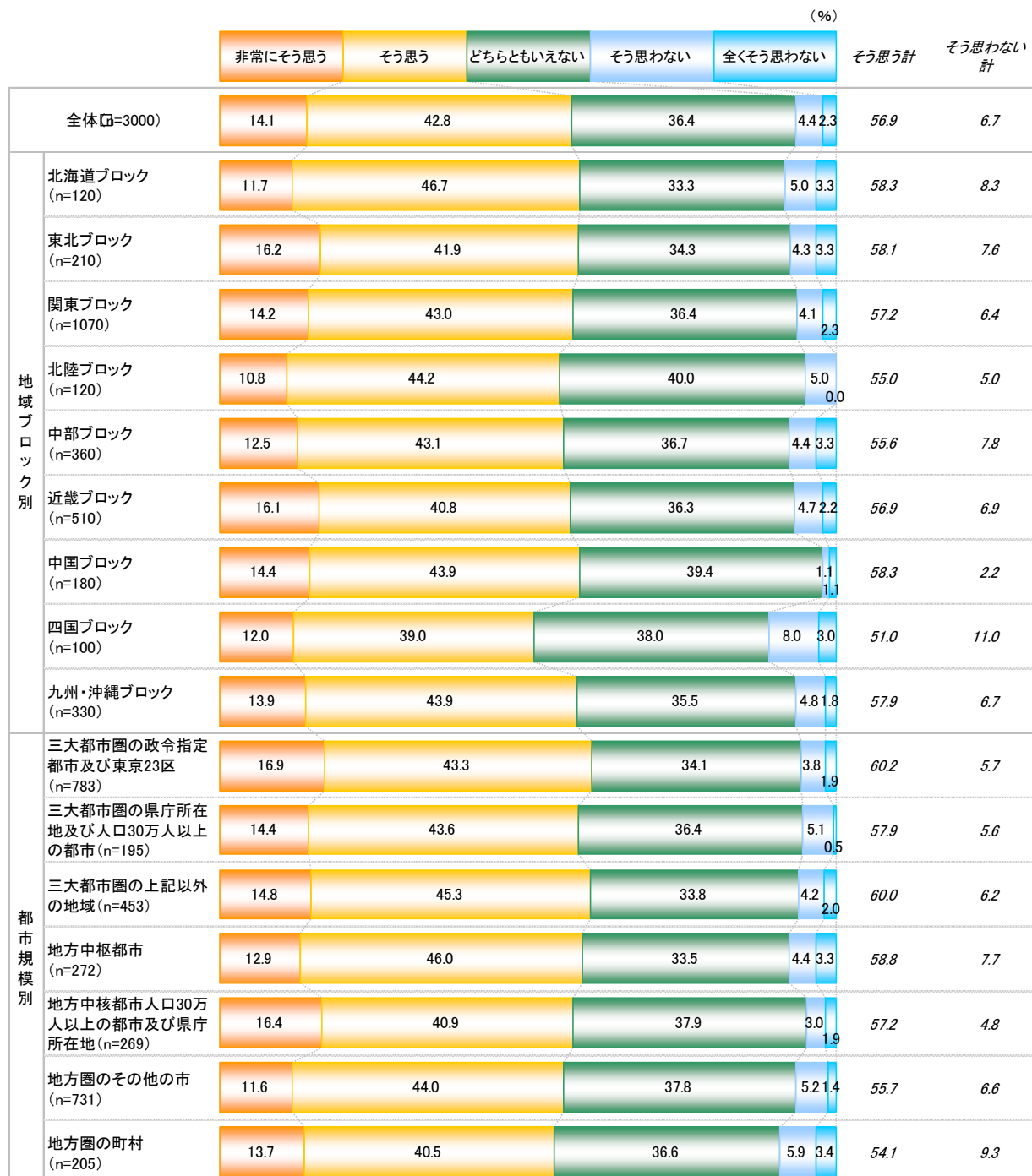
■日本のインフラ技術を世界に輸出し、国際貢献するとともに日本の活力強化にもつなげるべき(Q22)〈地域別〉

[Q22. 日本のインフラ技術を世界に輸出し、国際貢献するとともに日本の活力強化にもつなげるべき]に関して、「そう思う」計は

地域ブロック別で見ると、北海道ブロック、中国ブロック各 58.3%、東北ブロック 58.1%、九州・沖縄ブロック 57.9%、関東ブロック 57.2%、近畿ブロック 56.9%、中部ブロック 55.6%、北陸ブロック 55.0%、四国ブロック 51.0%。四国の 51.0% が最も低い、**地域ブロック間の差は 58.3% から 55.0% と小さい。**

都市規模別で見ると、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 60.2%、三大都市圏の上記以外の地域 60.0%、地方中枢都市 58.8%、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市 57.9%、地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地 57.2%、地方圏のその他の市 55.7%、地方圏の町村 54.1%。**都市規模別での差も最大 6 ポイントと小さいが、都市部より地方圏が低い傾向がある。**

Q22. インフラメンテナンスの分野で、日本の優れた技術は世界で十分に競争する力がある。こういった優れた日本のインフラ技術を世界に輸出し、国際貢献するとともに日本の活力強化にもつなげるべきだ



■中長期の全体像を描いた上で財源をきちんと確保し、計画的効率的に進める(Q23)〈性・年代別〉

[Q23. 中長期の全体像を描いた上で財源をきちんと確保し、計画的効率的に進める]に関して、

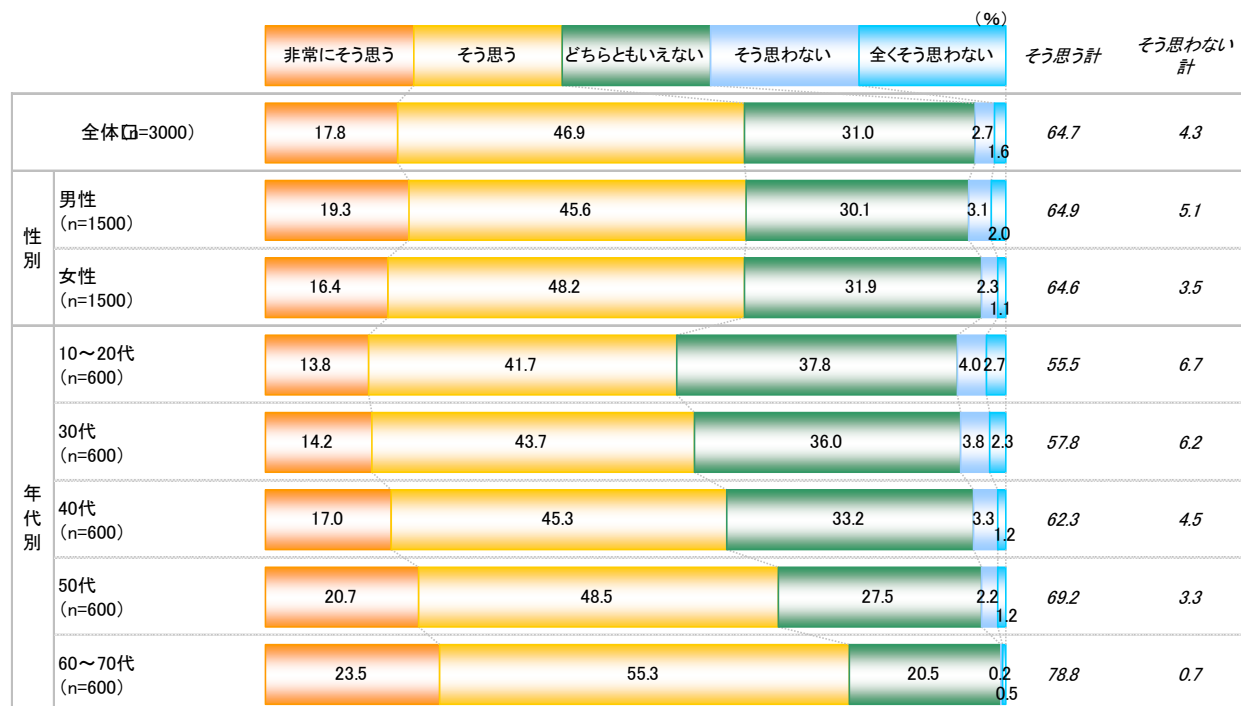
「そう思う」計は

性別で見ると、男性 64.9%、女性 64.6%。**男性の方が若干高いが、男性、女性とも 65%近くが「そう思う」としている。**

年代別で見ると、60～70代 78.8%、50代 69.2%、40代 62.3%、30代 57.8%、10～20代 55.5%。年代が上の層ほど「そう思う」が高く、最高の 60～70代では8割近い。**10～20代が 55.5%、30代 57.8%と低いのも特徴。**

性年代別で見ると、女性 60～79歳 79.3%、男性 60～79歳 78.3%、女性 50代 70.0%、男性 50代 68.3%、男性 40代 63.3%、女性 40代 61.3%、女性 30代 58.7%、男性 18～29歳 57.3%、男性 30代 57.0%、女性 18～29歳 53.7%。**基本的に年代が上であるほど高い。最も低いのは女性 18～29歳の 53.7%。**

Q23. インフラ(社会資本)の保全整備にあたっては、中長期の全体像を描いた上で財源をきちんと確保し、計画的効率的に進めることが必要である



		n	非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらとも いえない (0)	そう思わない (-1)	全く そう思わない (-2)	[そう思う計]	[そう思わない 計]
全体		3000	17.8	46.9	31.0	2.7	1.6	64.7	4.3
性年代	男性18-29歳	300	16.7	40.7	34.3	6.0	2.3	57.3	8.3
	男性30代	300	14.7	42.3	36.3	2.7	4.0	57.0	6.7
	男性40代	300	19.7	43.7	31.3	3.7	1.7	63.3	5.3
	男性50代	300	23.0	45.3	28.0	2.7	1.0	68.3	3.7
	男性60-79歳	300	22.3	56.0	20.3	0.3	1.0	78.3	1.3
	女性18-29歳	300	11.0	42.7	41.3	2.0	3.0	53.7	5.0
	女性30代	300	13.7	45.0	35.7	5.0	0.7	58.7	5.7
	女性40代	300	14.3	47.0	35.0	3.0	0.7	61.3	3.7
	女性50代	300	18.3	51.7	27.0	1.7	1.3	70.0	3.0
	女性60-79歳	300	24.7	54.7	20.7	-	-	79.3	-

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■中長期の全体像を描いた上で財源をきちんと確保し、計画的効率的に進める(Q23)〈地域別〉

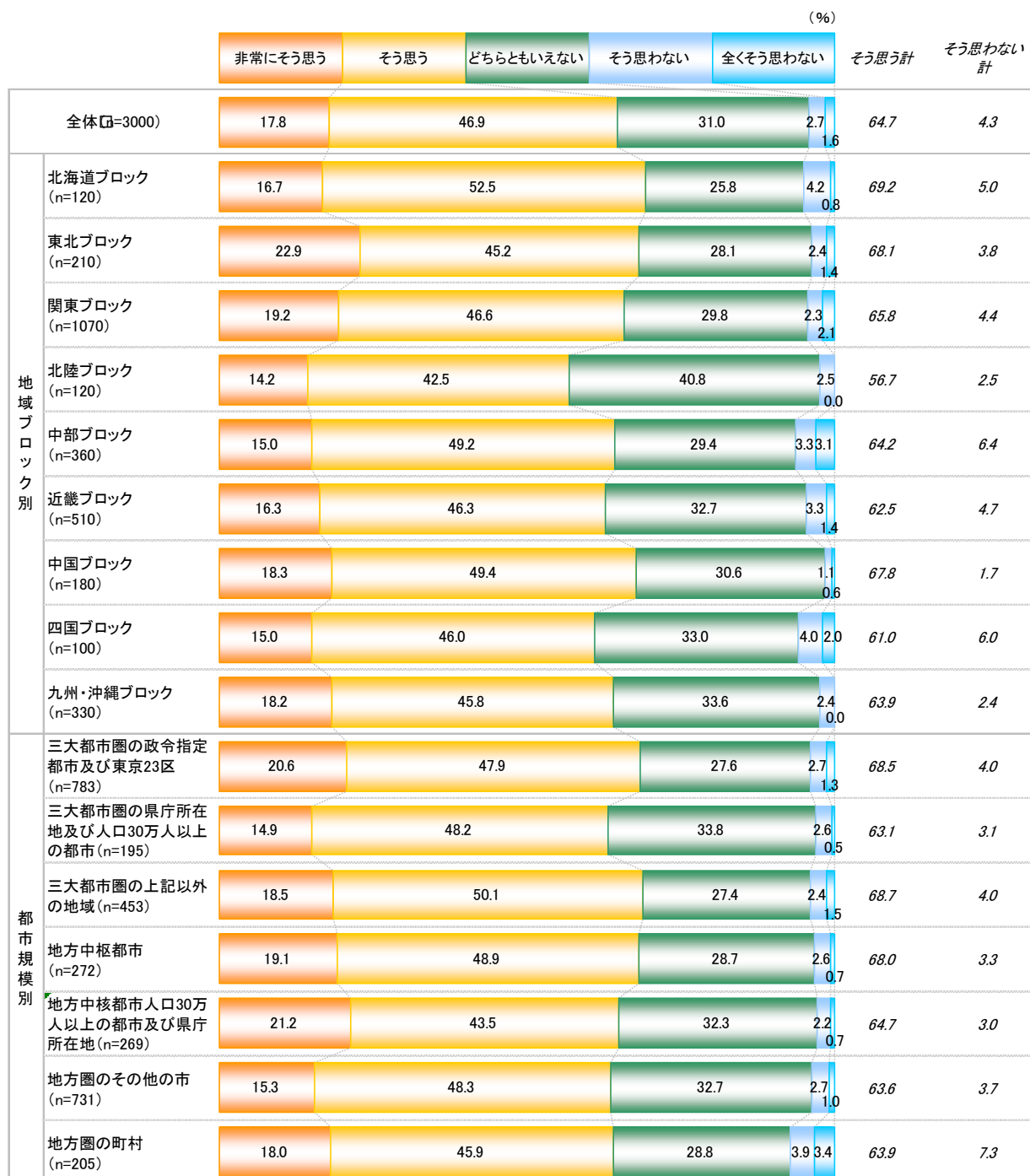
[Q23.中長期の全体像を描いた上で財源をきちんと確保し、計画的効率的に進める]に関して、

「そう思う」計は

地域ブロック別で見ると、北海道ブロック 69.2%、東北ブロック 68.1%、中国ブロック 67.8%が高く、関東ブロック 65.8%、中部ブロック 64.2%、九州・沖縄ブロック 63.9%、近畿ブロック 62.5%、四国ブロック 61.0%がそれらに続き、北陸ブロック 56.7%が最も低くなっている。

都市規模別で見ると、三大都市圏の上記以外の地域 68.7%、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 68.5%、地方中枢都市 68.0%、地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地 64.7%、地方圏の町村 63.9%、地方圏のその他の市 63.6%、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市 63.1%。都市規模別では顕著な差は認められない。

Q23. インフラ(社会資本)の保全整備にあたっては、中長期の全体像を描いた上で財源をきちんと確保し、計画的効率的に進めることが必要である



8. アメリカやヨーロッパ諸国での道路等のインフラ投資を増大させる動きに関する認知

欧米で、道路等のインフラ投資を増大させる動きがあることを認知しているのは3割強と低い。

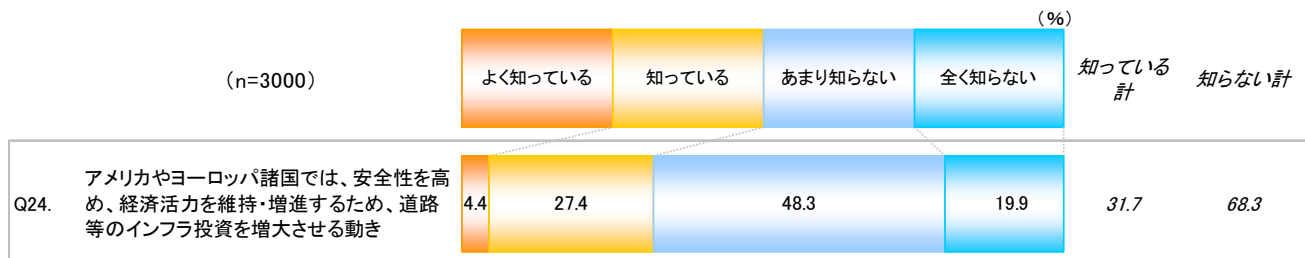
→国民の社会資本(インフラ)に関する認知・理解が不十分であることを示す結果であり、欧米のインフラ整備の動向に関する情報を的確に提供しつつ、日本の社会資本(インフラ)に関する情報を提供していく必要性があることを示している。

アメリカやヨーロッパ諸国では、安全性を高め、経済活力を維持・増進するため、道路等のインフラ投資を増大させる動きに関して、「知っている」計 31.7%、「知らない」計 68.3%。

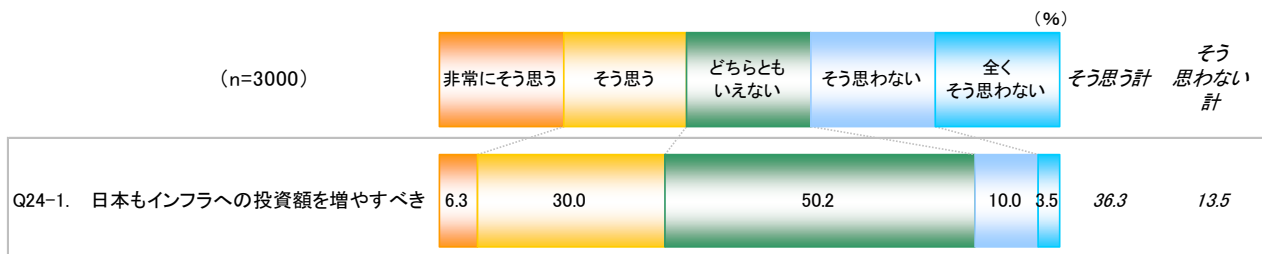
日本もインフラへの投資額を増やすべきという意見に関して、「そう思う」計 36.3%、「そう思わない」計 13.5%。

→アメリカ・ヨーロッパのインフラ整備動向に関する国民の認知の低さを示している。また、この情報を与えた上でのインフラ投資額増に対し「そう思う」36.3%であることは、外国の動向認知が整備の必要性理解を必ずしも増加させるものでないことを示している。

Q24. アメリカのトランプ大統領が1兆ドル(約110兆円)をインフラ整備に使うことを表明するなど、アメリカやヨーロッパ諸国では、安全性を高め、経済活力を維持・増進するため、道路等のインフラ投資を増大させる動きがありますが、ご存じですか。



Q24-1. 日本もインフラの機能を維持し、安全性を高め、また経済活力を維持・増進させるためにインフラへの投資額を増やすべきだという意見がありますが、あなたはどのように思いますか。



■アメリカやヨーロッパ諸国での道路等のインフラ投資を増大させる動きに関する認知(Q24)〈性・年代別〉

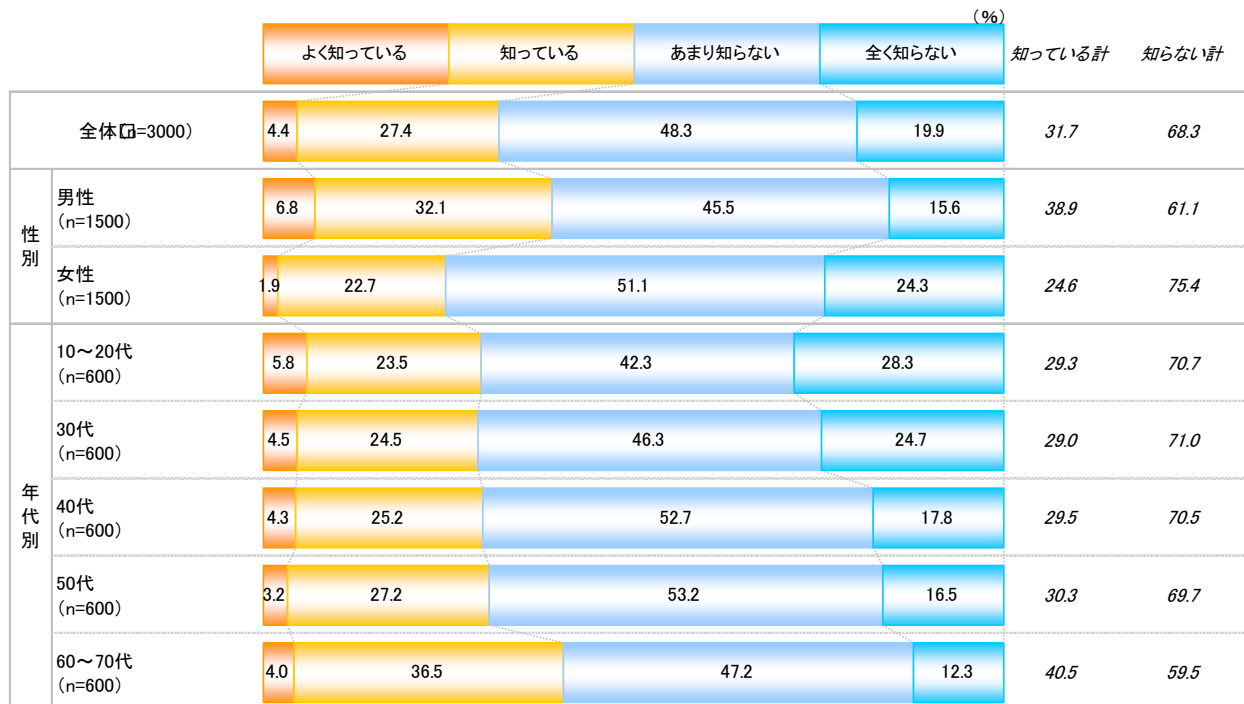
アメリカやヨーロッパ諸国では、安全性を高め、経済活力を維持・増進するため、道路等のインフラ投資を増大させる動きに関して、
「知っている」計は

性別で見ると、男性 38.9%、女性 24.6%と**男性の方が 15 ポイント以上高い**。

年代別で見ると、60～70 代 40.5%、50 代 30.3%、40 代 29.5%、10～20 代 29.3%、30 代 29.0%。**60～70 代が 40.5% と他の年代より 10 ポイント以上高く、他の年代は 30%前後**。

性年代別で見ると、男性 60～79 歳 44.7%、男性 50 代 40.0%、男性 18～29 歳 39.3%、女性 60～79 歳 36.3%、男性 30 代 35.3%、男性 40 代 35.0%、女性 40 代 24.0%、女性 30 代 22.7%、女性 50 代 20.7%、女性 18～29 歳 19.3%。男性 60～79 歳が 45%近く、男性 50 代と並んで男性は 18～29 歳が4割近いのが特徴。**女性は総じて低い、特に 18～29 歳、50 代は 20%前後と低い**。

Q24. アメリカのトランプ大統領が1兆ドル(約110兆円)をインフラ整備に使うことを表明するなど、アメリカやヨーロッパ諸国では、安全性を高め、経済活力を維持・増進するため、道路等のインフラ投資を増大させる動きがありますが、ご存じですか。



			(%)					
		n	よく知っている	知っている	あまり知らない	全く知らない	[知っている計]	[知らない計]
全体		3000	4.4	27.4	48.3	19.9	31.7	68.3
性年代	男性18-29歳	300	10.3	29.0	39.3	21.3	39.3	60.7
	男性30代	300	6.7	28.7	43.3	21.3	35.3	64.7
	男性40代	300	6.3	28.7	49.0	16.0	35.0	65.0
	男性50代	300	5.7	34.3	49.3	10.7	40.0	60.0
	男性60-79歳	300	5.0	39.7	46.7	8.7	44.7	55.3
	女性18-29歳	300	1.3	18.0	45.3	35.3	19.3	80.7
	女性30代	300	2.3	20.3	49.3	28.0	22.7	77.3
	女性40代	300	2.3	21.7	56.3	19.7	24.0	76.0
	女性50代	300	0.7	20.0	57.0	22.3	20.7	79.3
	女性60-79歳	300	3.0	33.3	47.7	16.0	36.3	63.7

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■アメリカやヨーロッパ諸国での道路等のインフラ投資を増大させる動きに関する認知(Q24)〈地域別〉

アメリカやヨーロッパ諸国では、安全性を高め、経済活力を維持・増進するため、道路等のインフラ投資を増大させる動きに関して、

「知っている」計は

地域ブロック別で見ると、東北ブロック33.8%、九州・沖縄ブロック33.6%、関東ブロック33.3%、北海道ブロック、中国ブロック各31.7%、近畿ブロック30.2%、四国ブロック30.0%、中部ブロック29.7%とあまり差はない。**北陸ブロック23.3%とトップの東北と比較すると10ポイント以上の差がある。**

都市規模別で見ると、三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市39.5%、地方中枢都市35.7%、三大都市圏の政令指定都市及び東京23区33.7%、地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地32.0%、三大都市圏の上記以外の地域31.3%、地方圏のその他の市29.3%、地方圏の町村27.8%。**都市部が高く、地方圏が低い傾向があり、トップと最下位では10ポイント以上の差がある。**

Q24. アメリカのトランプ大統領が1兆ドル(約110兆円)をインフラ整備に使うことを表明するなど、アメリカやヨーロッパ諸国では、安全性を高め、経済活力を維持・増進するため、道路等のインフラ投資を増大させる動きがありますが、ご存じですか。

		(%)				知っている計	知らない計
		よく知っている	知っている	あまり知らない	全く知らない		
地域 ブ ロ ッ ク 別	全体(n=3000)	4.4	27.4	48.3	19.9	31.7	68.3
	北海道ブロック (n=120)	6.7	25.0	51.7	16.7	31.7	68.3
	東北ブロック (n=210)	9.0	24.8	44.8	21.4	33.8	66.2
	関東ブロック (n=1070)	4.9	28.4	47.3	19.4	33.3	66.7
	北陸ブロック (n=120)	0.0	23.3	55.8	20.8	23.3	76.7
	中部ブロック (n=360)	3.9	25.8	49.4	20.8	29.7	70.3
	近畿ブロック (n=510)	2.9	27.3	49.6	20.2	30.2	69.8
	中国ブロック (n=180)	3.9	27.8	47.2	21.1	31.7	68.3
	四国ブロック (n=100)	1.0	29.0	47.0	23.0	30.0	70.0
	九州・沖縄ブロック (n=330)	4.5	29.1	47.9	18.5	33.6	66.4
都 市 規 模 別	三大都市圏の政令指定 都市及び東京23区 (n=783)	4.7	29.0	47.6	18.6	33.7	66.3
	三大都市圏の県庁所在 地及び人口30万人以上 の都市(n=195)	5.1	34.4	45.1	15.4	39.5	60.5
	三大都市圏の上記以外 の地域(n=453)	4.4	26.9	51.2	17.4	31.3	68.7
	地方中枢都市 (n=272)	4.8	30.9	46.0	18.4	35.7	64.3
	地方中核都市人口30万 人以上の都市及び県庁 所在地(n=269)	3.0	29.0	49.1	19.0	32.0	68.0
	地方圏のその他の市 (n=731)	4.0	25.3	48.0	22.7	29.3	70.7
	地方圏の町村 (n=205)	4.9	22.9	52.2	20.0	27.8	72.2

■アメリカやヨーロッパ諸国での道路等のインフラ投資を増大させる動きに関する認知(Q24SQ1)〈性・年代別〉

日本もインフラへの投資額を増やすべきという意見に関して

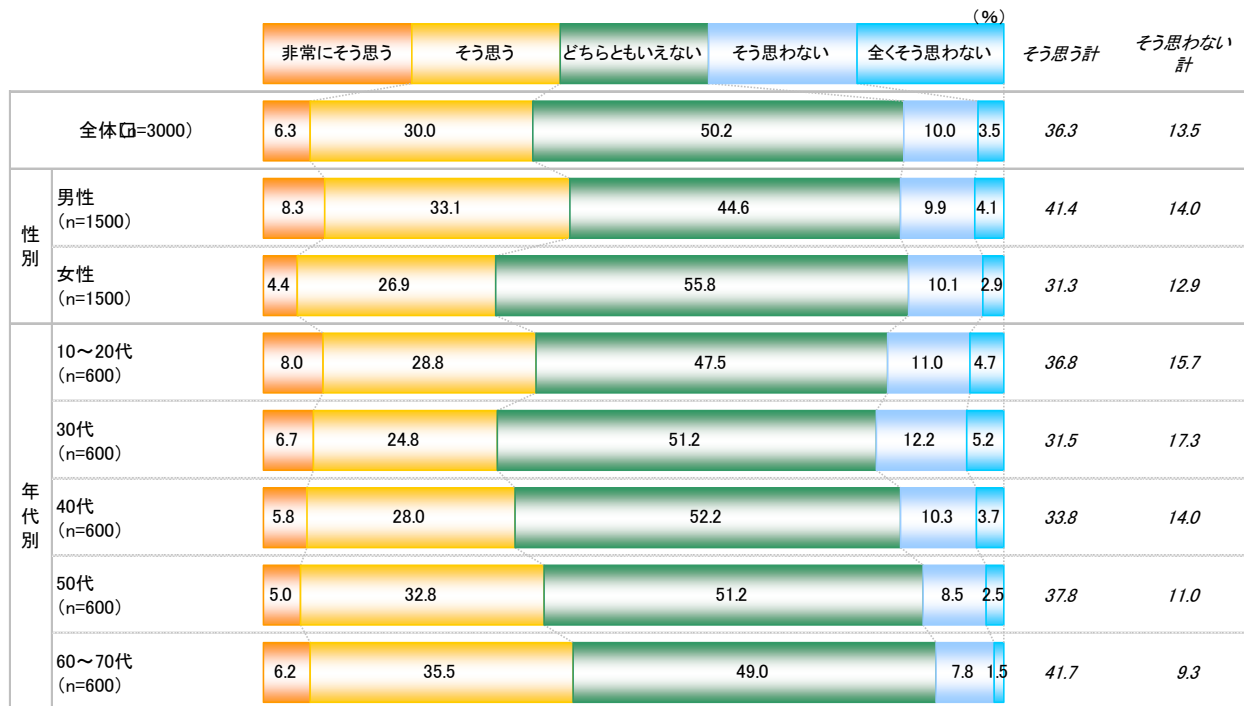
「そう思う」計は

性別で見ると、男性 41.4%、女性 31.3%。男性が女性を 10 ポイント以上上回る。

年代別で見ると、60～70 代 41.7%がトップ、50 代 37.8%、10～20 代 36.8%、40 代 33.8%が第2グループ、30 代 31.5%が低い。10～20 代の 36.8%が注目される。

性年代別で見ると、男性 18-29 歳 47.0%がトップ、極めて注目すべきこと。次いで男性 60-79 歳 45.0%、男性 50 代 43.3%が第2グループを形成、女性 60-79 歳 38.3%、男性 40 代 36.7%、男性 30 代 35.0%と続き、女性 50 代 32.3%、女性 40 代 31.0%、女性 30 代 28.0%、女性 18-29 歳 26.7%が一番下のグループ。

Q24-1. 日本もインフラの機能を維持し、安全性を高め、また経済活力を維持・増進させるためにインフラへの投資額を増やすべきだという意見がありますが、あなたはどのように思いますか。



		(%)						
		n	非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらとも いえない (0)	そう思わない (-1)	全く そう思わない (-2)	
全体		3000	6.3	30.0	50.2	10.0	3.5	[そう思う計] 36.3 [そう思わない計] 13.5
性年代	男性18-29歳	300	10.7	36.3	40.0	8.7	4.3	47.0 13.0
	男性30代	300	8.7	26.3	47.0	11.7	6.3	35.0 18.0
	男性40代	300	7.7	29.0	46.0	12.0	5.3	36.7 17.3
	男性50代	300	7.7	35.7	43.7	10.7	2.3	43.3 13.0
	男性60-79歳	300	6.7	38.3	46.3	6.3	2.3	45.0 8.7
	女性18-29歳	300	5.3	21.3	55.0	13.3	5.0	26.7 18.3
	女性30代	300	4.7	23.3	55.3	12.7	4.0	28.0 16.7
	女性40代	300	4.0	27.0	58.3	8.7	2.0	31.0 10.7
	女性50代	300	2.3	30.0	58.7	6.3	2.7	32.3 9.0
	女性60-79歳	300	5.7	32.7	51.7	9.3	0.7	38.3 10.0

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

9. 災害が発生し易い日本の過酷な自然条件認知、それに伴う施設整備費用に関する認知

日本の自然条件が過酷であることに、国民の4分の3弱が認知。そのため、施設整備に費用がかさむことに理解を示す層は7割を超えるが、「理解も納得もできない」も3割近く存在。

→「よくわからない」「理解も納得もできない」の約3割の理解を向上させることが課題となる。

日本は、外国と比べ山地が多く、海岸線が長く、台風、大雨、洪水、地震、火山噴火などの災害が発生し易いなどの特徴に関して、知っている計 73.4%、知らない計 26.6%。

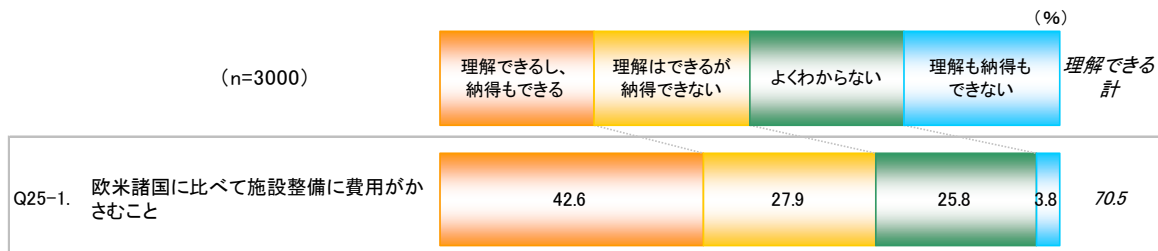
欧米諸国に比べて施設整備に費用がかさむことに関して、理解できる計 70.5%。

→日本の自然条件に対する国民認知は約4分の3とかなり高い。また、それにより施設整備に費用がかさむことに対し、理解を示す層は7割を超す。ただ、「理解はできるが納得できない」が約3割、「よくわからない」「理解も納得もできない」が約3割おり、この人々の理解を向上させることが課題となる。

Q25. 日本は、外国と比べ山地が多く、海岸線が長く、台風、大雨、洪水、地震、火山噴火などの災害が発生し易いなどの特徴を持っています。あなたは、このことをご存じですか。



Q25-1. そのために、急峻な地形での工事が必要だったり、地震等に備えるため、頑丈な施設を整備しなければならないなど、欧米諸国に比べて施設整備に費用がかさみます。あなたは、このことについてどのように思いますか。



■災害が発生しやすい日本の過酷な自然条件認知、それに伴う施設整備費用に関する認知(Q24SQ1)〈地域別〉

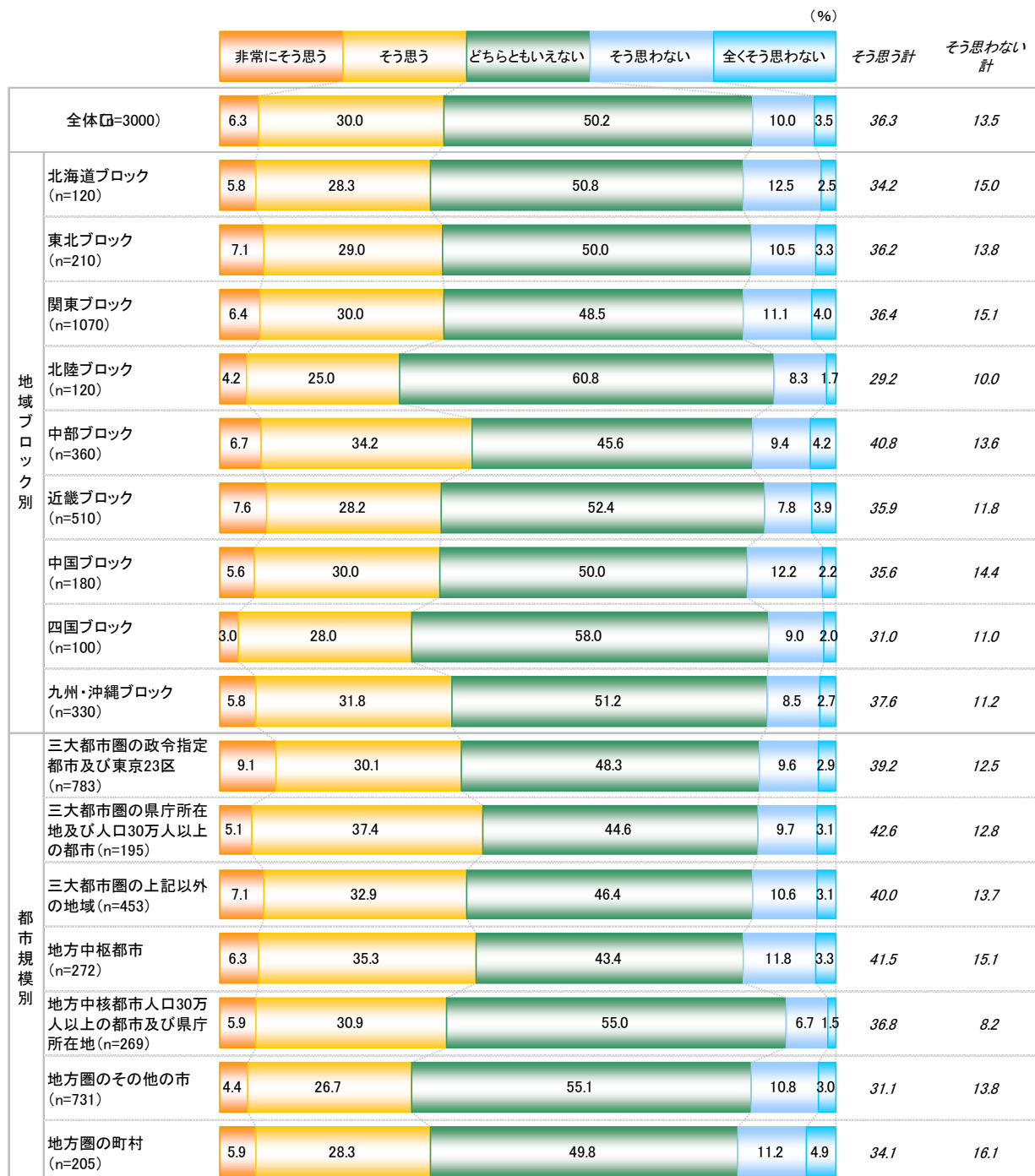
日本もインフラへの投資額を増やすべきという意見に関して

「そう思う」計は

地域ブロック別で見ると、**中部ブロック 40.8%がトップ**、九州・沖縄ブロック 37.6%、関東ブロック 36.4%、東北ブロック 36.2%、近畿ブロック35.9%、中国ブロック35.6%が第2グループを形成、北海道ブロック34.2%、四国ブロック31.0%が第3グループ、**最も低いのは北陸ブロック 29.2%。トップと 10 ポイント以上の差。**

都市規模別で見ると、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市 42.6%、地方中枢都市 41.5%三大都市圏の上記以外の地域 40.0%、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 39.2%、地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地 36.8%、地方圏の町村 34.1%、地方圏のその他の市 31.1%。**都市部より地方圏の市、町村が低い傾向。**

Q24-1. 日本もインフラの機能を維持し、安全性を高め、また経済活力を維持・増進させるためにインフラへの投資額を増やすべきだという意見がありますが、あなたはどのように思いますか。



■災害が発生しやすい日本の過酷な自然条件認知、それに伴う施設整備費用に関する認知(Q25)〈性・年代別〉

日本は、外国と比べ山地が多く、海岸線が長く、台風、大雨、洪水、地震、火山噴火などの災害が発生しやすいなどの特徴に関して、

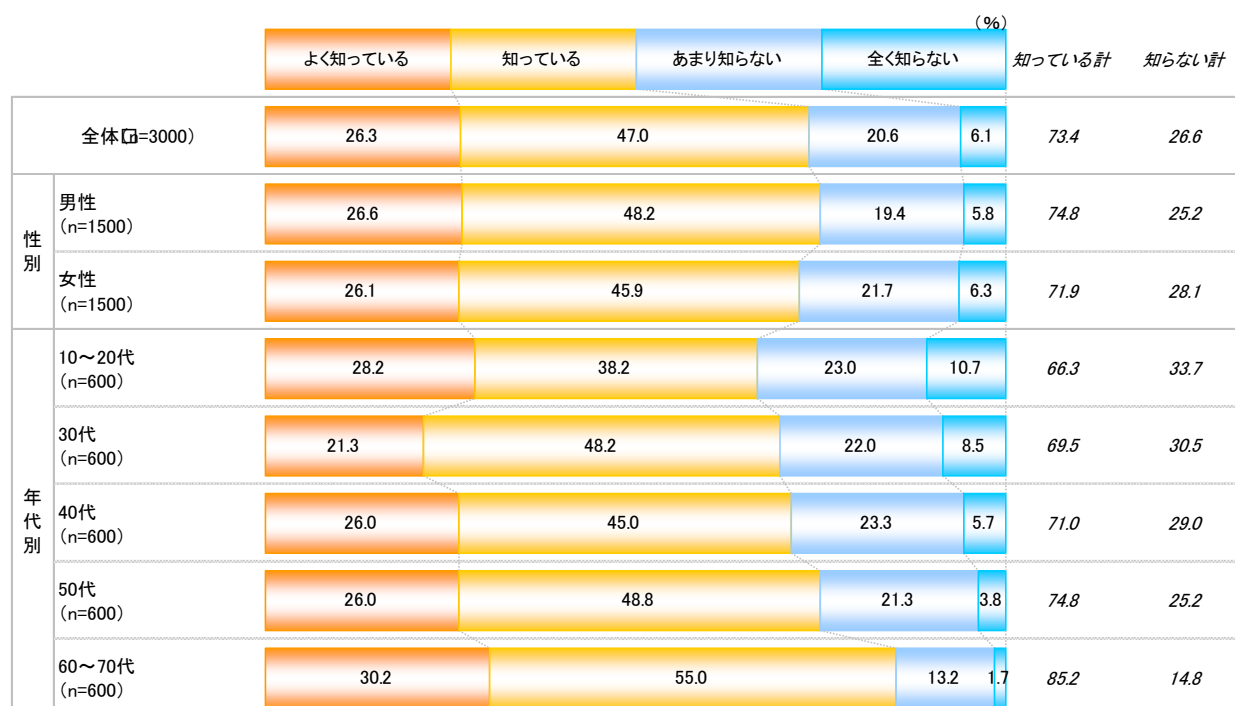
「知っている」計は

性別で見ると、男性 74.8%、女性 71.9%とどちらも高いが、男性が女性を3ポイント近く上回る。

年代別で見ると、60～70代 85.2%、50代 74.8%、40代 71.0%、30代 69.5%、10～20代 66.3%。年代が上の層ほど高く、60～70代と10～20代では20ポイント近い差がある。

性年代別で見ると、男性 60～79歳 87.0%、女性 60～79歳 83.3%、男性 50代 76.0%、女性 40代 74.3%、女性 50代 73.7%、男性 18～29歳 72.3%、男性 30代 71.0%、女性 30代 68.0%、男性 40代 67.7%、女性 18～29歳 60.3%。男女とも 60～79歳が高い。女性 18～29歳の 60.3%は目立って低い。

Q25. 日本は、外国と比べ山地が多く、海岸線が長く、台風、大雨、洪水、地震、火山噴火などの災害が発生しやすいなどの特徴を持っています。あなたは、このことをご存じですか。



		(%)						
		n	よく知っている	知っている	あまり知らない	全く知らない	[知っている計]	[知らない計]
全体		3000	26.3	47.0	20.6	6.1	73.4	26.6
性年代	男性18-29歳	300	29.0	43.3	19.0	8.7	72.3	27.7
	男性30代	300	19.3	51.7	20.3	8.7	71.0	29.0
	男性40代	300	26.7	41.0	25.0	7.3	67.7	32.3
	男性50代	300	27.7	48.3	20.7	3.3	76.0	24.0
	男性60-79歳	300	30.3	56.7	12.0	1.0	87.0	13.0
	女性18-29歳	300	27.3	33.0	27.0	12.7	60.3	39.7
	女性30代	300	23.3	44.7	23.7	8.3	68.0	32.0
	女性40代	300	25.3	49.0	21.7	4.0	74.3	25.7
	女性50代	300	24.3	49.3	22.0	4.3	73.7	26.3
	女性60-79歳	300	30.0	53.3	14.3	2.3	83.3	16.7

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■災害が発生しやすい日本の過酷な自然条件認知、それに伴う施設整備費用に関する認知(Q25)〈地域別〉

日本は、外国と比べ山地が多く、海岸線が長く、台風、大雨、洪水、地震、火山噴火などの災害が発生しやすいなどの特徴に関して、

「知っている」計は

地域ブロック別で見ると、東北ブロック 81.4%がトップ、四国ブロック 77.0%がそれに続き、東日本大震災、南海トラフの影響が想定される。次いで、中部ブロック 74.2%、関東ブロック 73.6%、中国ブロック 72.8%、近畿ブロック 71.8%の順、九州・沖縄ブロック 70.6%、北海道ブロック、北陸ブロック各 70.0%は低いグループを形成。

都市規模別で見ると、地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地 78.4%、三大都市圏の上記以外の地域 77.5%、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市、地方中枢都市各 75.4%、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 74.6%、地方圏のその他の市 72.4%、地方圏の町村 72.2%。都市部より地方圏の町村、市の方が低い傾向。

Q25. 日本は、外国と比べ山地が多く、海岸線が長く、台風、大雨、洪水、地震、火山噴火などの災害が発生しやすいなどの特徴を持っています。あなたは、このことをご存じですか。

		(%)				知っている計	知らない計
		よく知っている	知っている	あまり知らない	全く知らない		
全体(n=3000)		26.3	47.0	20.6	6.1	73.4	26.6
地域 ブ ロ ッ ク 別	北海道ブロック (n=120)	27.5	42.5	22.5	7.5	70.0	30.0
	東北ブロック (n=210)	32.9	48.6	16.2	2.4	81.4	18.6
	関東ブロック (n=1070)	26.2	47.5	20.3	6.1	73.6	26.4
	北陸ブロック (n=120)	21.7	48.3	25.8	4.2	70.0	30.0
	中部ブロック (n=360)	26.7	47.5	17.5	8.3	74.2	25.8
	近畿ブロック (n=510)	23.1	48.6	20.6	7.6	71.8	28.2
	中国ブロック (n=180)	24.4	48.3	21.7	5.6	72.8	27.2
	四国ブロック (n=100)	28.0	49.0	15.0	8.0	77.0	23.0
	九州・沖縄ブロック (n=330)	29.1	41.5	26.1	3.3	70.6	29.4
	三大都市圏の政令指定 都市及び東京23区 (n=783)	26.2	48.4	19.7	5.7	74.6	25.4
都 市 規 模 別	三大都市圏の県庁所在 地及び人口30万人以上 の都市(n=195)	25.1	50.3	21.0	3.6	75.4	24.6
	三大都市圏の上記以外 の地域(n=453)	27.2	50.3	16.8	5.7	77.5	22.5
	地方中枢都市 (n=272)	34.9	40.4	20.2	4.4	75.4	24.6
	地方中核都市人口30万 人以上の都市及び県庁 所在地(n=269)	29.7	48.7	16.4	5.2	78.4	21.6
	地方圏のその他の市 (n=731)	23.8	48.6	21.9	5.7	72.4	27.6
	地方圏の町村 (n=205)	28.8	43.4	22.9	4.9	72.2	27.8

■災害が発生しやすい日本の過酷な自然条件認知、それに伴う施設整備費用に関する認知(Q25SQ1)〈性・年代別〉

欧米諸国に比べて施設整備に費用がかさむことに関して、

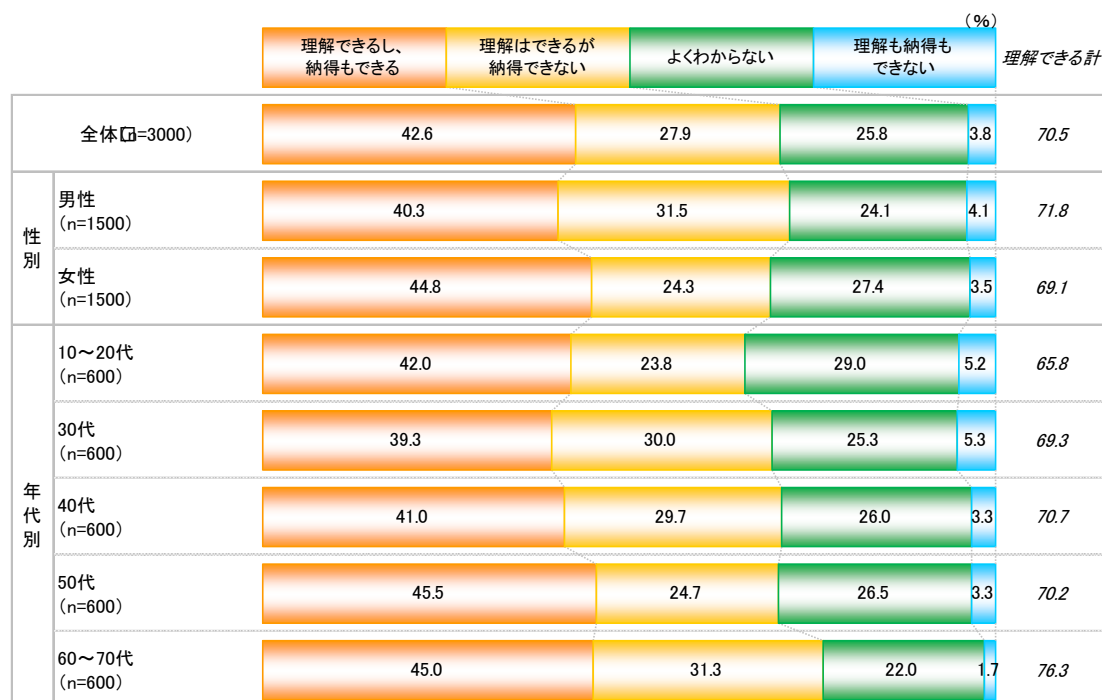
理解できる計は

性別で見ると、男性 71.8%、女性 69.1%とあまり差はないが、**男性の方が2ポイント以上高い**。

年代別で見ると、60～70代 76.3%、40代 70.7%、50代 70.2%、30代 69.3%、10～20代 65.8%。**年代が上の層ほど高い**。

性年代別で見ると、男性 60～79歳 80.7%、女性 40代 73.7%、男性 50代 72.3%、女性 60～79歳 72.0%、男性 30代 69.7%、女性 30代 69.0%、男性 18～29歳 68.7%、女性 50代 68.0%、男性 40代 67.7%、女性 18～29歳 63.0%。**性年代で明確な特徴(ex.年代が上の層ほどといった特徴)がなく、入り組んでいるのが特徴**。

Q25-1. そのために、急峻な地形での工事が必要だったり、地震等に備えるため、頑丈な施設を整備しなければならないなど、欧米諸国に比べて施設整備に費用がかさみます。あなたは、このことについてどのように思いますか。



						(%)	
		n	理解できるし、 納得もできる	理解はできるが 納得できない	よくわからない	理解も納得もで きない	[理解できる計]
全体		3000	42.6	27.9	25.8	3.8	70.5
性 年 代	男性18-29歳	300	41.3	27.3	27.3	4.0	68.7
	男性30代	300	36.7	33.0	24.0	6.3	69.7
	男性40代	300	36.3	31.3	28.0	4.3	67.7
	男性50代	300	44.3	28.0	24.0	3.7	72.3
	男性60-79歳	300	43.0	37.7	17.3	2.0	80.7
	女性18-29歳	300	42.7	20.3	30.7	6.3	63.0
	女性30代	300	42.0	27.0	26.7	4.3	69.0
	女性40代	300	45.7	28.0	24.0	2.3	73.7
	女性50代	300	46.7	21.3	29.0	3.0	68.0
	女性60-79歳	300	47.0	25.0	26.7	1.3	72.0

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■災害が発生しやすい日本の過酷な自然条件認知、それに伴う施設整備費用に関する認知(Q25SQ1)〈地域別〉

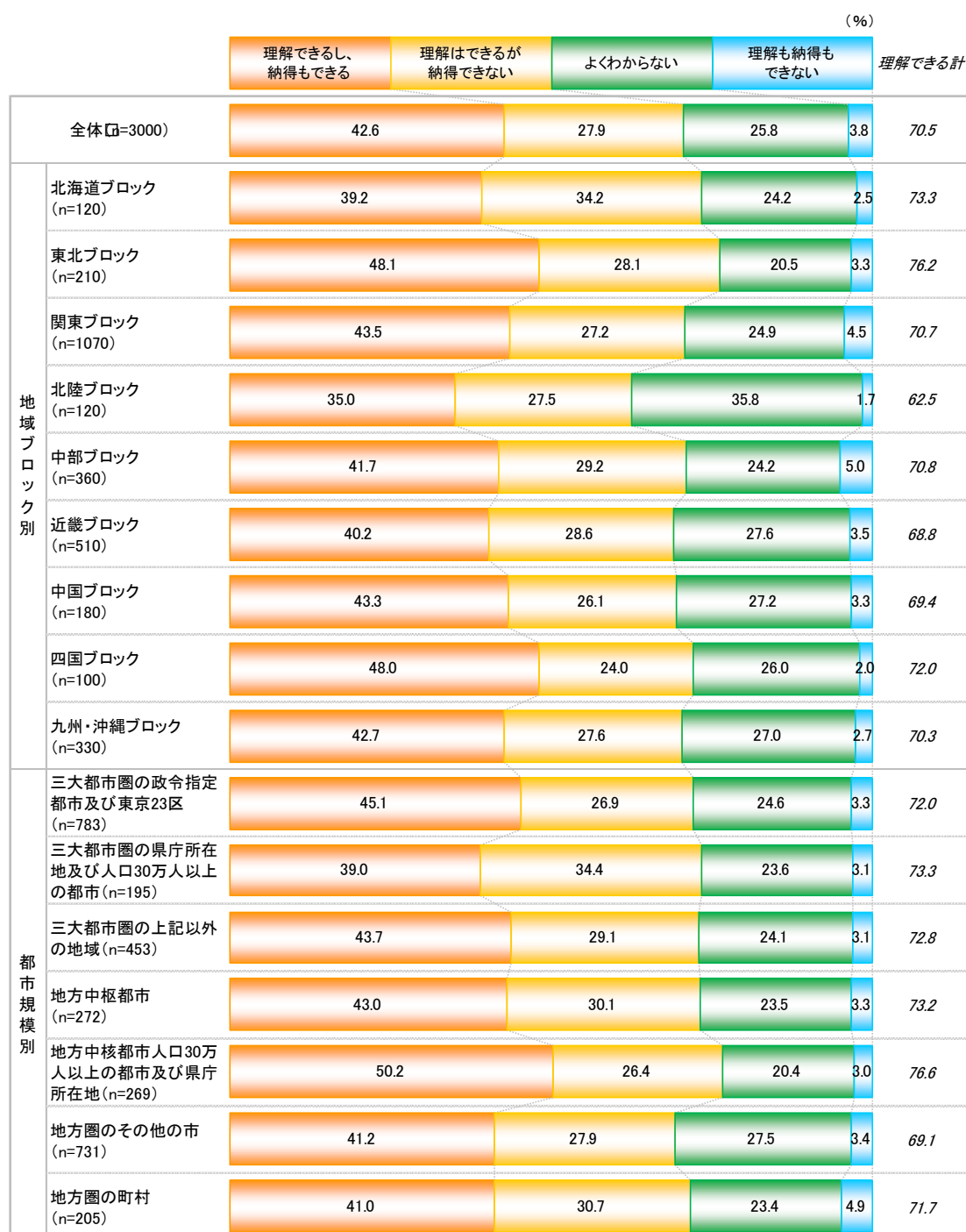
欧米諸国に比べて施設整備に費用がかさむことに関して、

理解できる計は

地域ブロック別で見ると、東北ブロック 76.2%が最も高く、北海道ブロック 73.3%、四国ブロック 72.0%がそれに続き、中部ブロック 70.8%、関東ブロック 70.7%、九州・沖縄ブロック 70.3%、中国ブロック 69.4%、近畿ブロック 68.8%が 69～71%で第3グループ、北陸ブロック 62.5%が最も低い。

都市規模別で見ると、地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地 76.6%、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市 73.3%、地方中枢都市 73.2%、三大都市圏の上記以外の地域 72.8%、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 72.0%、地方圏の町村 71.7%、地方圏のその他の市 69.1%。都市部より地方圏の市町村の方が低い傾向がある。

Q25-1. そのために、急峻な地形での工事が必要だったり、地震等に備えるため、頑丈な施設を整備しなければならないなど、欧米諸国に比べて施設整備に費用がかさみます。あなたは、このことについてどのように思いますか。



10. 日本とあなたの住む地域の将来(予測とあるべき姿)(衰退－成長)

10-1.日本の将来予測、あるべき姿／10-2.地域の将来予測、あるべき姿(衰退－成長)

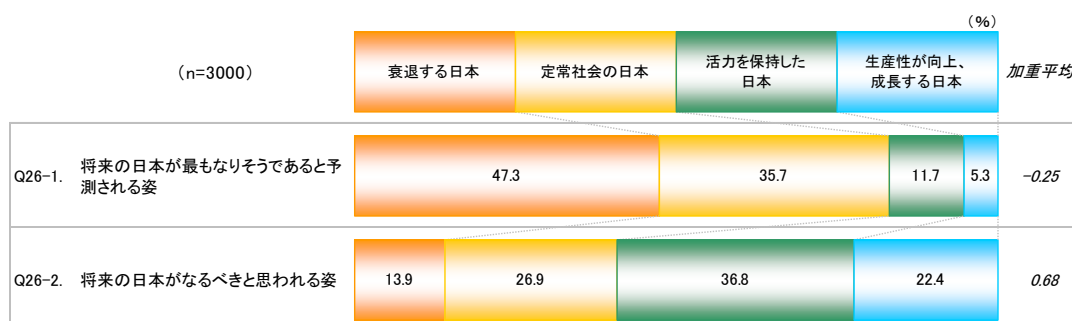
将来の日本が最もなりそうであると予測される姿に関して、「衰退する日本」47.3%と5割近く、「定常社会の日本」35.7%と4割に近い。「活力を保持した日本」11.7%、「生産性が向上、成長する日本」5.3%。

これに対し、将来の日本がなるべきと思われる姿に関して、「衰退する日本」13.9%と「なりそう」より 30 数ポイント低く、「定常社会の日本」26.9%も 10 ポイント近く低い。逆に「活力を保持した日本」36.8%と「なりそう」11.7%の3倍強、「生産性が向上、成長する日本」22.4%と2割を超える。

→日本のなるべき姿として、「活力を保持」「成長する日本」が6割強を示しているのに対し、なりそうな姿では2割弱。このギャップは大きい。

Q26. 日本の将来(2030 年前後を想定)について、次のような意見(見方)があります。

5. **衰退する日本** 少子化・高齢化が進み、激化する国際競争の下、世界の中で現在の位置は保ち得ず、経済成長もマイナス気味となり、徐々に衰退していく
6. **定常社会の日本** 少子化・高齢化が進むが、女性の社会進出、技術革新、国民の努力もあって、経済成長がプラスマイナス0%といった「定常社会」となり、世界の中の位置も保ち、それなりに質の高い生活を維持する
7. **活力を保持した日本** 少子化・高齢化にも係わらず、女性の社会進出、技術革新、経済構造の改革、経営革新などにより、一定の成長を実現、世界の中での位置も保った、活力を保持した日本となる
8. **生産性が向上、成長する日本** 少子化・高齢化にも係わらず、女性の社会進出が進むことで、生産年齢人口が確保され、技術革新や経済構造の改革による生産性の更なる向上が図られ、経済に経営革新の、更なる進展などにより、高い成長を実現、世界の中での位置も高まる、活力ある日本となる



あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿に関して、「衰退していく地域」44.4%、「質の高い生活がそれなりに維持される地域」31.6%、「便利で快適な地域」20.1%、「成長性の高い便利で快適な地域」4.0%。

あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿に関して、「衰退していく地域」16.3%、「質の高い生活がそれなりに維持される地域」36.9%、「便利で快適な地域」32.5%、「成長性の高い便利で快適な地域」14.2%。

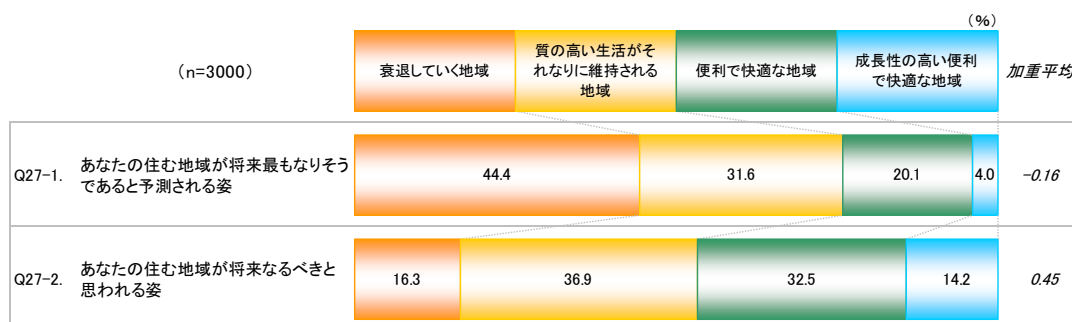
→【居住地域】の「なりそうな姿」に対する回答の傾向は【日本全体】とほぼ同じだが、【居住地域】の方が基本的に楽観的である。

衰退 日本 47.3% > 地域 44.4%
 定常社会の日本 35.7% > 質の高い地域 31.6%
 活力を保持した日本 11.7% < 便利で快適な地域 20.1%
 成長する日本 5.3% > 成長する地域 4.0%

→「なるべき姿」では、「成長する日本」22.4%より「成長性の高い地域」14.2%の方が少なく、【居住地域】では【日本全体】と比して、「質の高い便利で快適な地域」の方が「成長性の高い地域」よりあるべき姿として想定されていることを伺わせる。

Q27. あなたの住む地域(2030 年前後を想定)について、次のような意見(見方)があります。

1. **衰退していく地域** 少子化・高齢化が進み、地域経済の衰退、中心市街地でも空き店舗が生じたり、空き家も増え、公共交通機関もなくなるなど、徐々に衰退していく
2. **質の高い生活がそれなりに維持される地域** 少子化・高齢化が進むが、地域の産業・経済を維持・活性化する動きや、各種の施設を特定の地域とまとめるコンパクト化を進めることなどにより、それなりに質の高い生活が維持される
3. **便利で快適な地域** 少子化・高齢化は進むが、地域の産業・経済は、新たな産業が生まれることにより活性化し、交通ネットワークが確保された便利で快適な地域となる
4. **成長性の高い便利で快適な地域** 地域社会に新たな成長産業などが生まれ、新たな居住者が流入、新たな産業なども生まれ、交通ネットワークなどはより良くなり、生産性が向上、活力のある成長性の高い、より便利で快適な地域となる



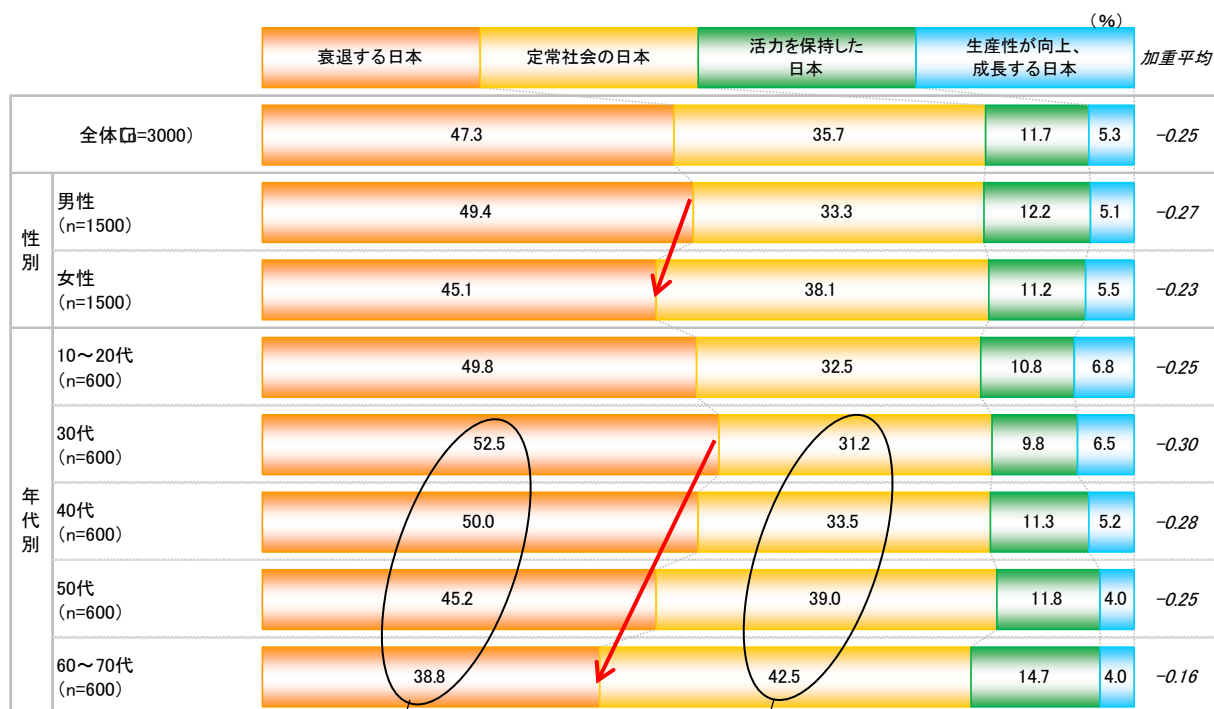
■日本の将来予測(衰退－成長)(Q26-1)〈性・年代別〉

将来の日本が最もなりそうであると予測される姿に関して、性別で見ると、「衰退する日本」は男性 49.4%、女性 45.1%と、「定常社会の日本」は逆に女性 38.1%、男性 33.3%、「活力保持」「成長」する日本はほぼ同じなので、女性の方が若干楽観的。

年代別で見ると、「衰退する日本」は30代 52.5%、40代 50.0%、10～20代 49.8%、50代 45.2%、60～70代 38.8%と、30代が最も悲観的。一方、年代が上がるほど「定常社会の日本」が増える。具体的には 60～70代 42.5%、50代 39.0%、40代 33.5%、30代 31.2%。

性年代別で見ると、女性 50代 40.3%、女性 60～70代 36.3%は最も低い。

Q26-1. 将来の日本が最もなりそうであると予測される姿はどれですか。



年代が上がるほど、「衰退する日本」が減る

年代が上がるほど、「定常社会の日本」が増える

		n	(%)				加重平均
			衰退する日本 (-1)	定常社会の日本 (0)	活力を保持した日本 (+1)	生産性が向上、成長する日本 (+2)	
全体		3000	47.3	35.7	11.7	5.3	-0.25
性年代	男性18-29歳	300	49.0	31.3	12.7	7.0	-0.22
	男性30代	300	52.0	30.7	9.7	7.7	-0.27
	男性40代	300	54.7	29.7	10.7	5.0	-0.34
	男性50代	300	50.0	36.3	10.7	3.0	-0.33
	男性60-79歳	300	41.3	38.7	17.3	2.7	-0.19
	女性18-29歳	300	50.7	33.7	9.0	6.7	-0.28
	女性30代	300	53.0	31.7	10.0	5.3	-0.32
	女性40代	300	45.3	37.3	12.0	5.3	-0.23
	女性50代	300	40.3	41.7	13.0	5.0	-0.17
	女性60-79歳	300	36.3	46.3	12.0	5.3	-0.14

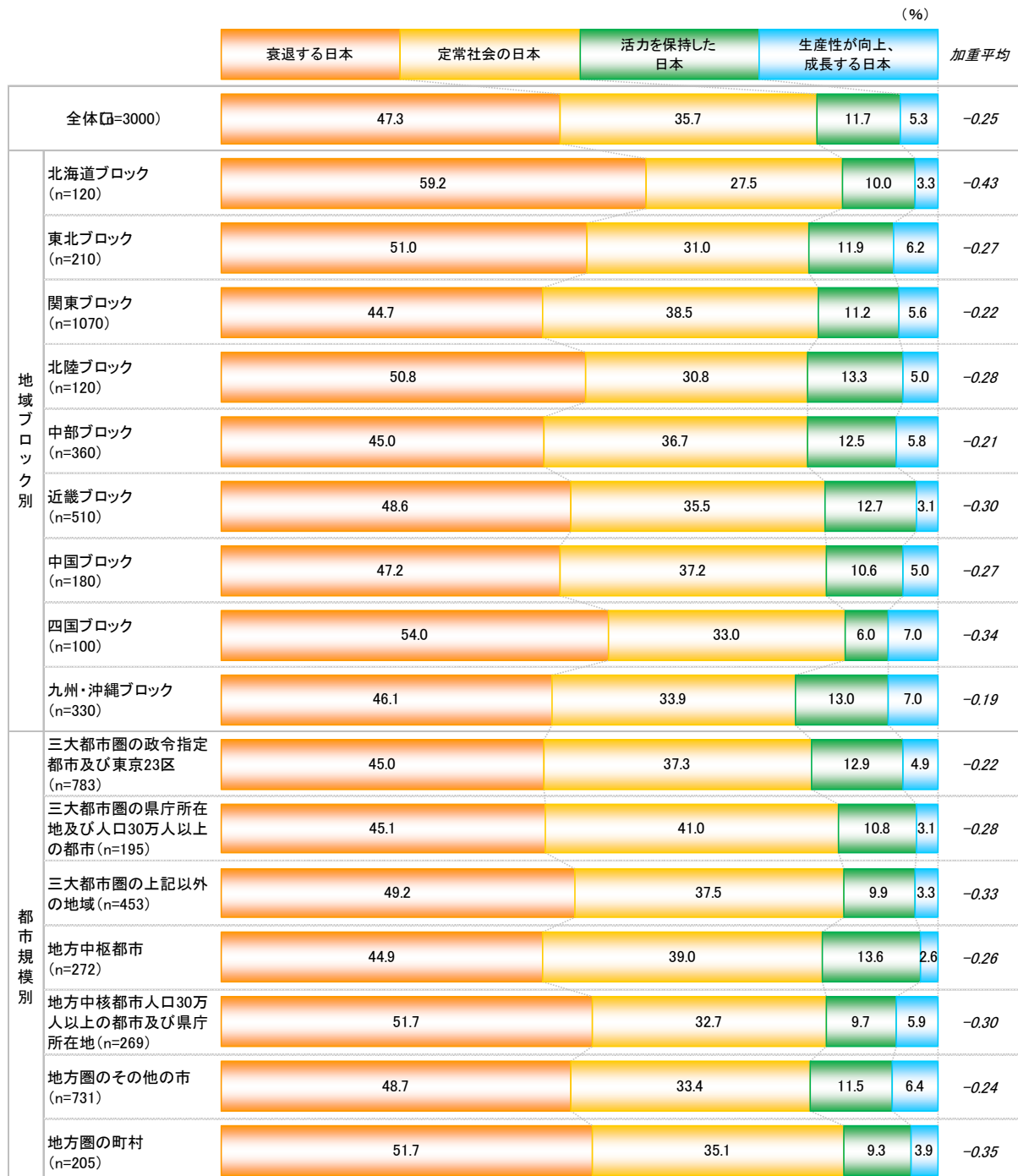
n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■日本の将来予測(衰退－成長)(Q26-1)〈地域別〉

将来の日本が最もなりそうであると予測される姿に関して、地域ブロック別で見ると、「衰退する日本」は北海道ブロック 59.2%、四国ブロック 54.0%が上位2位で悲観的。次いで東北ブロック 51.0%、北陸ブロック 50.8%、近畿ブロック 48.6%、中国ブロック 47.2%、九州・沖縄ブロック 46.1%、中部ブロック 45.0%、関東ブロック 44.7%の順。

都市規模別で見ると、「衰退する日本」とするのは地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地 51.7%、地方圏の町村 51.7%、三大都市圏の上記以外の地域 49.2%、地方圏のその他の市 48.7%、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市 45.1%、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 45.0%、地方中枢都市 44.9%の順。

Q26-1. 将来の日本が最もなりそうであると予測される姿はどれですか。



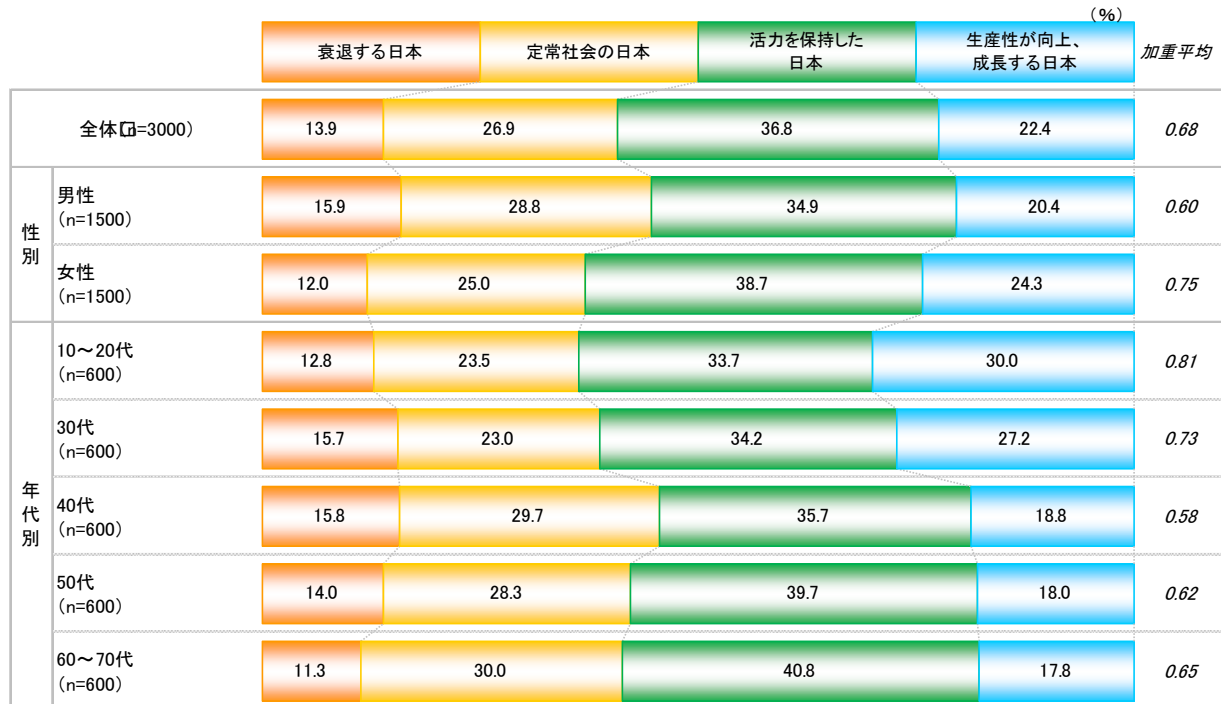
■日本のあるべき姿(衰退－成長)(Q26-2)〈性・年代別〉

将来の日本がなるべきと思われる姿に関して、

性別で見ると、「活力を保持した日本」「成長する日本」計は女性 63.0%、男性 55.3%。

年代別で見ると、「活力を保持した日本」「成長する日本」計は 10～20 代 63.7%、30 代 61.4%、60～70 代 58.6%、50 代 57.7%、40 代 54.5%。

Q26-2. 将来の日本がなるべきと思われる姿はどれですか。



		n	衰退する日本 (-1)	定常社会の 日本 (0)	活力を保持した 日本 (+1)	生産性が向上、 成長する日本 (+2)	加重平均
全体		3000	13.9	26.9	36.8	22.4	0.68
性 年 代	男性18-29歳	300	12.7	26.7	33.0	27.7	0.76
	男性30代	300	19.3	24.3	32.3	24.0	0.61
	男性40代	300	18.3	32.0	32.3	17.3	0.49
	男性50代	300	17.0	31.0	36.7	15.3	0.50
	男性60-79歳	300	12.0	30.0	40.3	17.7	0.64
	女性18-29歳	300	13.0	20.3	34.3	32.3	0.86
	女性30代	300	12.0	21.7	36.0	30.3	0.85
	女性40代	300	13.3	27.3	39.0	20.3	0.66
	女性50代	300	11.0	25.7	42.7	20.7	0.73
	女性60-79歳	300	10.7	30.0	41.3	18.0	0.67

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■日本のあるべき姿(衰退－成長)(Q26-2)〈地域別〉

将来の日本がなるべきと思われる姿に関して、地域ブロック別で見ると、「活力を保持した日本」「成長する日本」合わせたものは中国ブロック 64.4%、中部ブロック 60.5%、近畿ブロック 60.4%、東北ブロック 58.5%、関東ブロック 58.2%、北陸ブロック 56.6%、北海道ブロック 50.8%。都市規模別で見ると、「活力を保持した日本」「成長する日本」合わせたものは三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 60.8%、地方中枢都市 60.7%、地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地 60.2%、九州・沖縄ブロック 59.7%、三大都市圏の上記以外の地域 59.2%、地方圏の町村 59.0%、地方圏のその他の市 57.4%、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市 52.8%。

Q26-2. 将来の日本がなるべきと思われる姿はどれですか。

		(%)				
		衰退する日本	定常社会の日本	活力を保持した日本	生産性が向上、成長する日本	加重平均
全体(n=3000)		13.9	26.9	36.8	22.4	0.68
地域ブロック別	北海道ブロック(n=120)	20.0	29.2	35.0	15.8	0.47
	東北ブロック(n=210)	15.2	26.2	39.5	19.0	0.62
	関東ブロック(n=1070)	11.4	30.4	34.0	24.2	0.71
	北陸ブロック(n=120)	11.7	31.7	38.3	18.3	0.63
	中部ブロック(n=360)	16.1	23.3	34.7	25.8	0.70
	近畿ブロック(n=510)	16.9	22.7	38.6	21.8	0.65
	中国ブロック(n=180)	9.4	26.1	46.1	18.3	0.73
	四国ブロック(n=100)	18.0	21.0	42.0	19.0	0.62
	九州・沖縄ブロック(n=330)	14.2	26.1	37.0	22.7	0.68
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区(n=783)	14.7	24.5	37.9	22.9	0.69
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市(n=195)	10.3	36.9	31.8	21.0	0.64
	三大都市圏の上記以外の地域(n=453)	12.1	28.7	35.1	24.1	0.71
	地方中枢都市(n=272)	13.6	25.7	40.8	19.9	0.67
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地(n=269)	10.8	29.0	34.9	25.3	0.75
	地方圏のその他の市(n=731)	15.0	27.5	37.6	19.8	0.62
	地方圏の町村(n=205)	18.0	22.9	39.5	19.5	0.60

■地域の将来予測(衰退－成長)(Q27-1)〈性・年代別〉

あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿に関して、

「衰退していく地域」とするのは

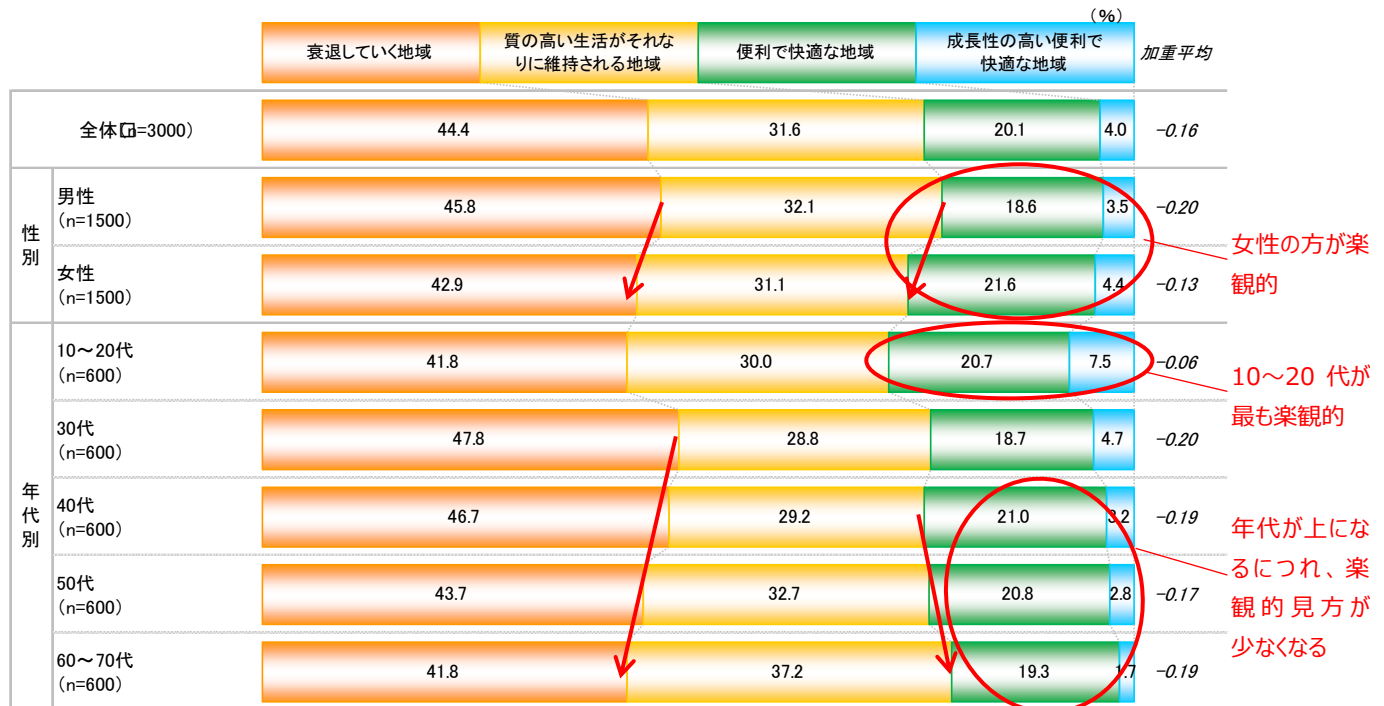
性別で見ると、男性 45.8%、女性 42.9%。

年代別で見ると、30代 47.8%(28.8%)、40代 46.7%(29.2%)、50代 43.7%(32.7%)、10～20代 41.8%(30.0%)、60～70代 41.8%(37.2%)。

「質の高い生活維持」が、性別で見ると、男性 32.1%、女性 31.1%。

年代別で見ると、60～70代 37.2%、50代 32.7%、10～20代 30.0%、40代 29.2%、30代 28.8%。

Q27-1.あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿はどれですか。



		n	衰退していく地域 (-1)	質の高い生活 がそれなりに維 持される地域 (0)	便利で快適な 地域 (+1)	成長性の高い 便利で快適な 地域 (+2)	加重平均
全体		3000	44.4	31.6	20.1	4.0	-0.16
性 年 代	男性18-29歳	300	44.3	28.7	20.7	6.3	-0.11
	男性30代	300	45.7	32.3	16.7	5.3	-0.18
	男性40代	300	47.7	29.7	20.3	2.3	-0.23
	男性50代	300	47.0	33.0	17.0	3.0	-0.24
	男性60-79歳	300	44.3	36.7	18.3	0.7	-0.25
	女性18-29歳	300	39.3	31.3	20.7	8.7	-0.01
	女性30代	300	50.0	25.3	20.7	4.0	-0.21
	女性40代	300	45.7	28.7	21.7	4.0	-0.16
	女性50代	300	40.3	32.3	24.7	2.7	-0.10
	女性60-79歳	300	39.3	37.7	20.3	2.7	-0.14

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■地域の将来予測(衰退－成長)(Q27-1)〈地域別〉

あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿に関して、地域ブロック別で見ると、「衰退していく地域」とするのは四国ブロック 68.0%、東北ブロック 61.9%、北海道ブロック 61.7%が上位3ブロック。次いで、北陸ブロック 59.2%、中国ブロック 57.2%までが高く、九州・沖縄ブロック 46.1%、中部ブロック 44.2%、近畿ブロック 39.4%、関東ブロック 34.9%の順。

都市規模別で「衰退していく地域」とする順番は、地方圏の町村 70.2%、地方圏のその他の市 58.4%、地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地 52.8%で、この3類型が悲観的。次いで、三大都市圏の上記以外の地域 44.8%、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市 34.4%、地方中枢都市 33.8%、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 28.7%。地方中枢都市、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区は楽観的な見方が比較的多い。

Q27-1.あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿はどれですか。



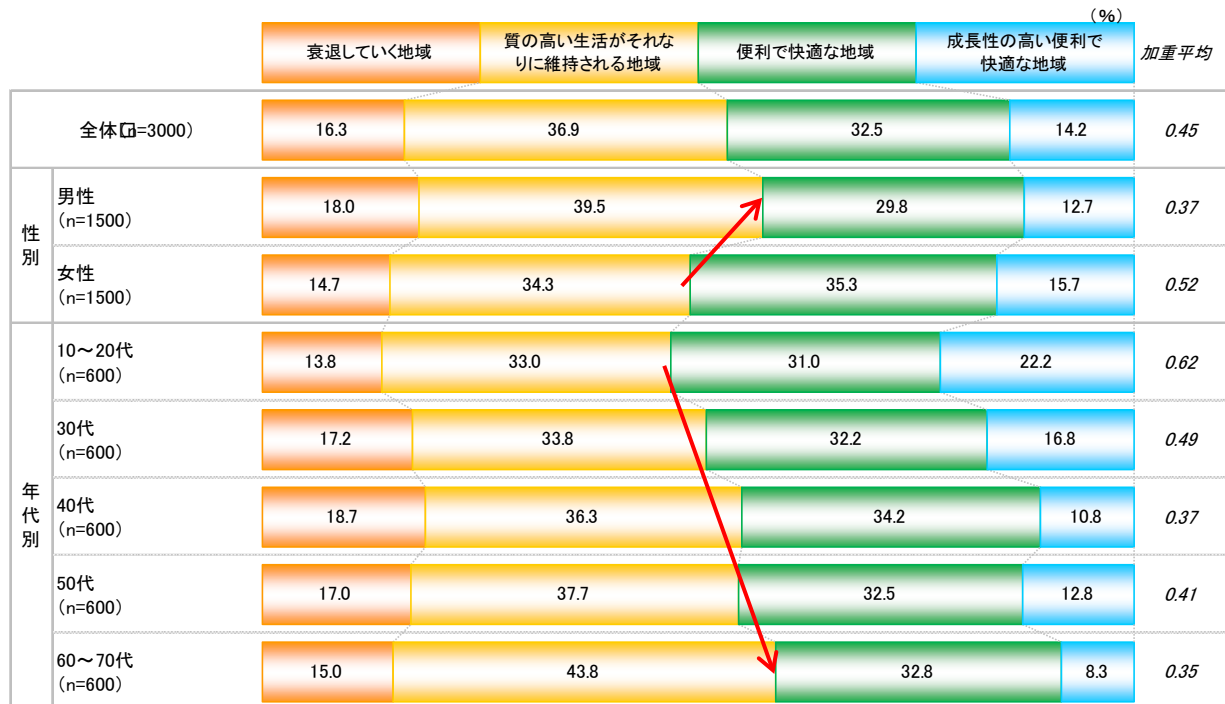
■地域のあるべき姿(衰退－成長)(Q27-2)〈性・年代別〉

あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿に関して、
「質の高い生活がそれなりに維持される地域」が性別、年代別でも最も多いが、性別で見ると、男性 39.5%、女性 34.3%。

年代別で見ると、60～70代 43.8%、50代 37.7%、40代 36.3%、30代 33.8%、10～20代 33.0%の順となっている。

「便利・快適な地域」「成長性の高い地域」計では、女性 51.0%、男性 42.5%の順で女性の方が多く、年代別では10～20代 53.2%、30代 49.0%、50代 45.3%、40代 45.0%、60～70代 41.1%と、若い世代ほど便利・快適・成長性の高い地域のあるべき姿としていることがわかる。

Q27-2.あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿はどれですか。



(%)							
		n	衰退していく地域	質の高い生活 がそれなりに維持される地域	便利で快適な 地域	成長性の高い 便利で快適な 地域	加重平均
全体		3000	16.3	36.9	32.5	14.2	0.45
性年代	男性18-29歳	300	15.0	37.7	28.3	19.0	0.51
	男性30代	300	19.3	36.7	27.3	16.7	0.41
	男性40代	300	19.7	38.7	31.3	10.3	0.32
	男性50代	300	20.0	36.3	32.3	11.3	0.35
	男性60-79歳	300	16.0	48.3	29.7	6.0	0.26
	女性18-29歳	300	12.7	28.3	33.7	25.3	0.72
	女性30代	300	15.0	31.0	37.0	17.0	0.56
	女性40代	300	17.7	34.0	37.0	11.3	0.42
	女性50代	300	14.0	39.0	32.7	14.3	0.47
	女性60-79歳	300	14.0	39.3	36.0	10.7	0.43

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

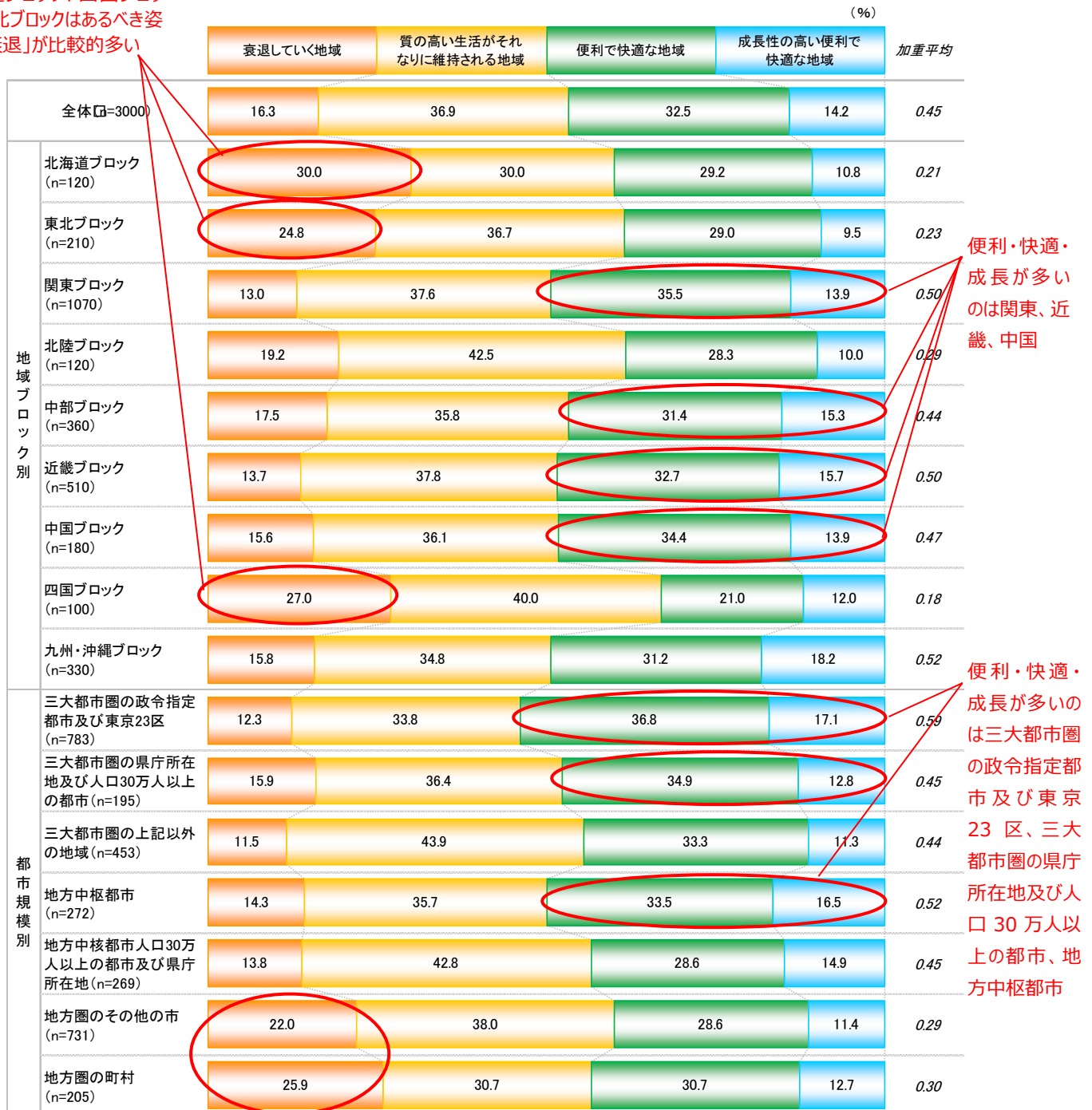
■地域のあるべき姿(衰退－成長)(Q27-2)〈地域別〉

あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿に関して、北海道ブロック、四国ブロック、東北ブロックはあるべき姿でも「衰退」が比較的多い。便利・快適・成長が多いのは、関東ブロック、近畿ブロック、中国ブロック。

地方圏のその他の市、地方圏の町村が、あるべき姿でも悲観的が多い。便利・快適・成長が多いのは、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市、地方中枢都市。

Q27-2.あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿はどれですか。

北海道ブロック、四国ブロック、東北ブロックはあるべき姿でも「衰退」が比較的多い

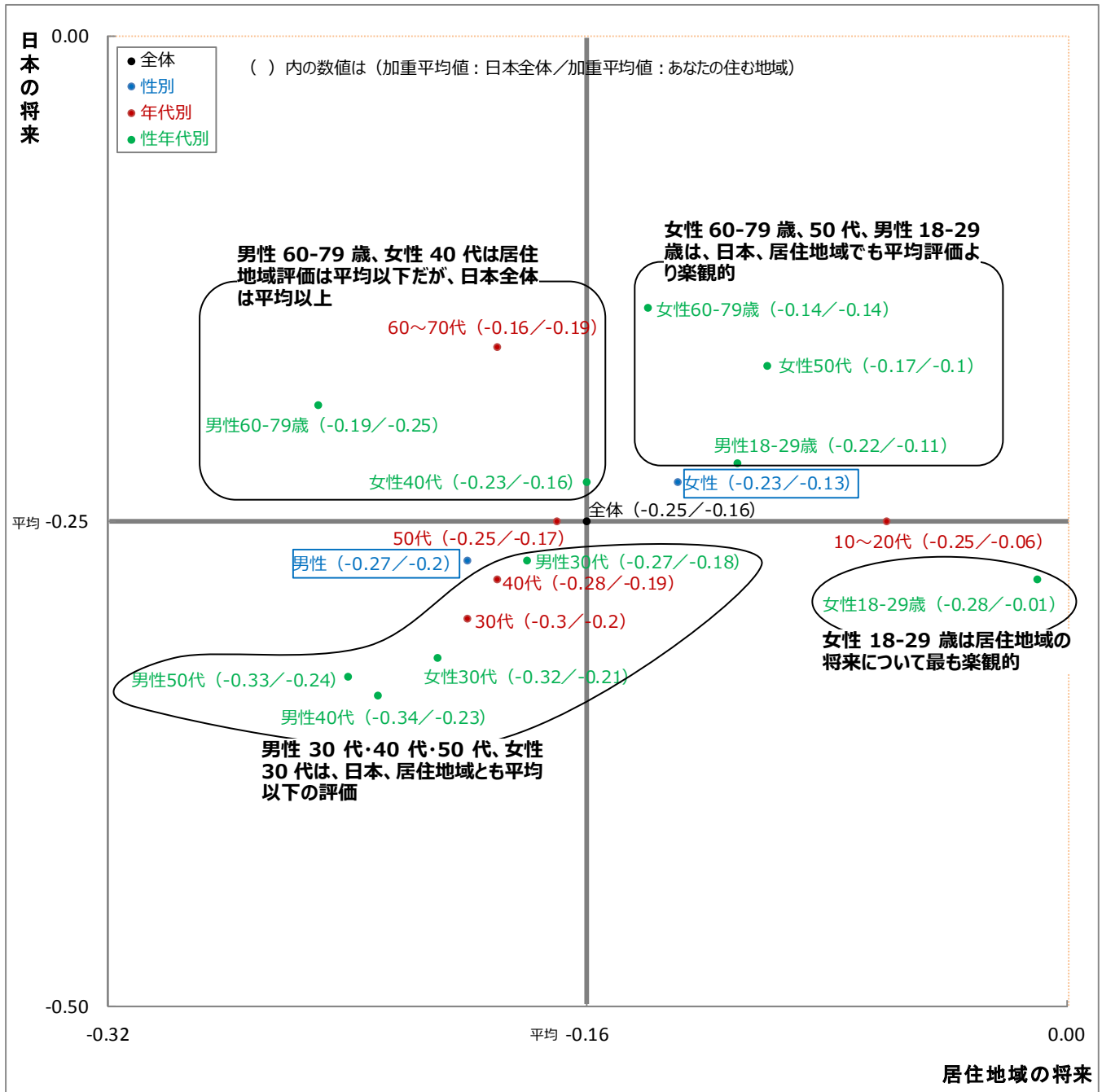


地方圏のその他の市、地方圏の町村が、あるべき姿でも悲観的が多い

■日本と居住地域の将来(衰退—成長)＜性別、年代別、性年代別＞(Q26-1、Q27-1)加重平均グラフ

女性の方が男性より楽観的、18-29 歳、60～70 代すなわち若い世代、老年世代は平均より楽観的、現役(男性 30・40・50 代、女性 30 代)は居住地域、日本全体とも平均より悲観的。

- ・ 基本的には、日本、居住地域とも衰退するといったマイナス評価だが、男女では女性の方が楽観的。女性 60-79 歳、女性 50 代、男性 18-29 歳が日本、居住地域とも平均評価より楽観的。
- ・ 男性 30 代・40 代・50 代、女性 30 代は、日本、居住地域とも平均以下の評価。
- ・ 男性 60-79 歳、女性 40 代は居住地域評価は平均以下だが、日本全体は平均以上
- ・ 女性 18-29 歳は居住地域の将来について最も楽観的。
- ・ 女性 60-79 歳、50 代、男性 18-29 歳は、日本、居住地域でも平均評価より楽観的。



凡例) Q26. 衰退する日本-1

定常社会の日本 0

活力を保持した日本+1

生産性が向上、成長する日本+2

Q27. 衰退していく地域-1

質の高い生活がそれなりに維持される地域 0

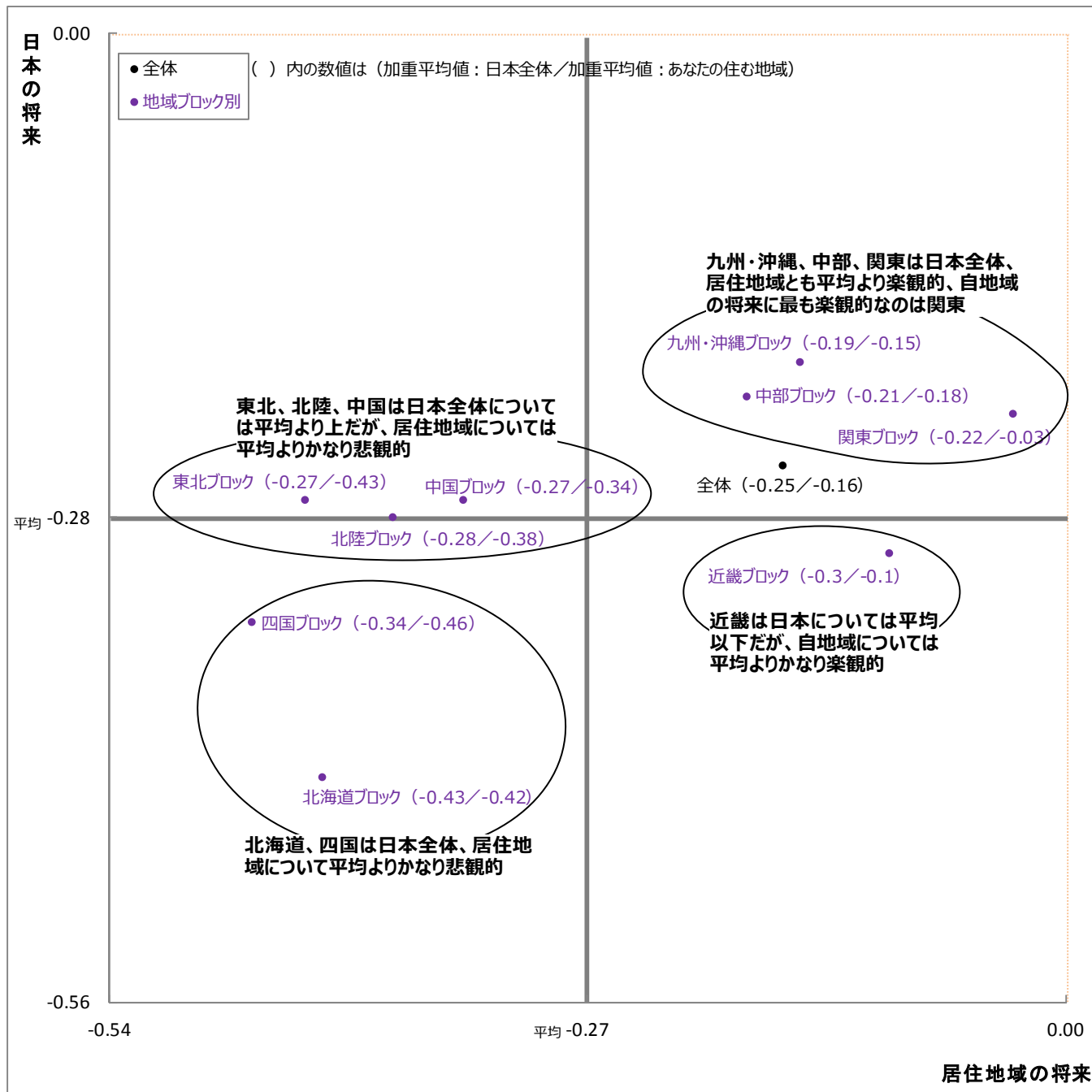
便利で快適な地域+1

成長性の高い便利で快適な地域+2

■日本と居住地域の将来(衰退—成長)＜地域ブロック別＞(Q26-1、Q27-1)加重平均グラフ

ブロック別に見るとかなり大きな格差。九州・沖縄、中部、関東は日本全体、居住地域とも平均より楽観的で、自地域の将来に最も楽観的なのは関東。近畿は日本については平均以下だが、自地域については平均よりかなり楽観的。東北、北陸、中国は日本全体については平均より上だが、居住地域については平均よりかなり悲観的。北海道、四国は日本全体、居住地域について平均よりかなり悲観的。

- ・ 地域ブロック別では、日本全体、居住地域とも加重平均ではマイナス評価(成長しない方の評価)となっている。
- ・ ただ、ブロック別に見るとかなり大きな格差がある。九州・沖縄、中部、関東は日本全体、居住地域とも平均より楽観的で、自地域の将来に最も楽観的なのは関東。近畿は日本については平均以下だが、自地域については平均よりかなり楽観的。東北、北陸、中国は日本全体については平均より上だが、居住地域については平均よりかなり悲観的。北海道、四国は日本全体、居住地域について平均よりかなり悲観的。



凡例) Q26. 衰退する日本-1

定常社会の日本 0

活力を保持した日本+1

生産性が向上、成長する日本+2

Q27. 衰退していく地域-1

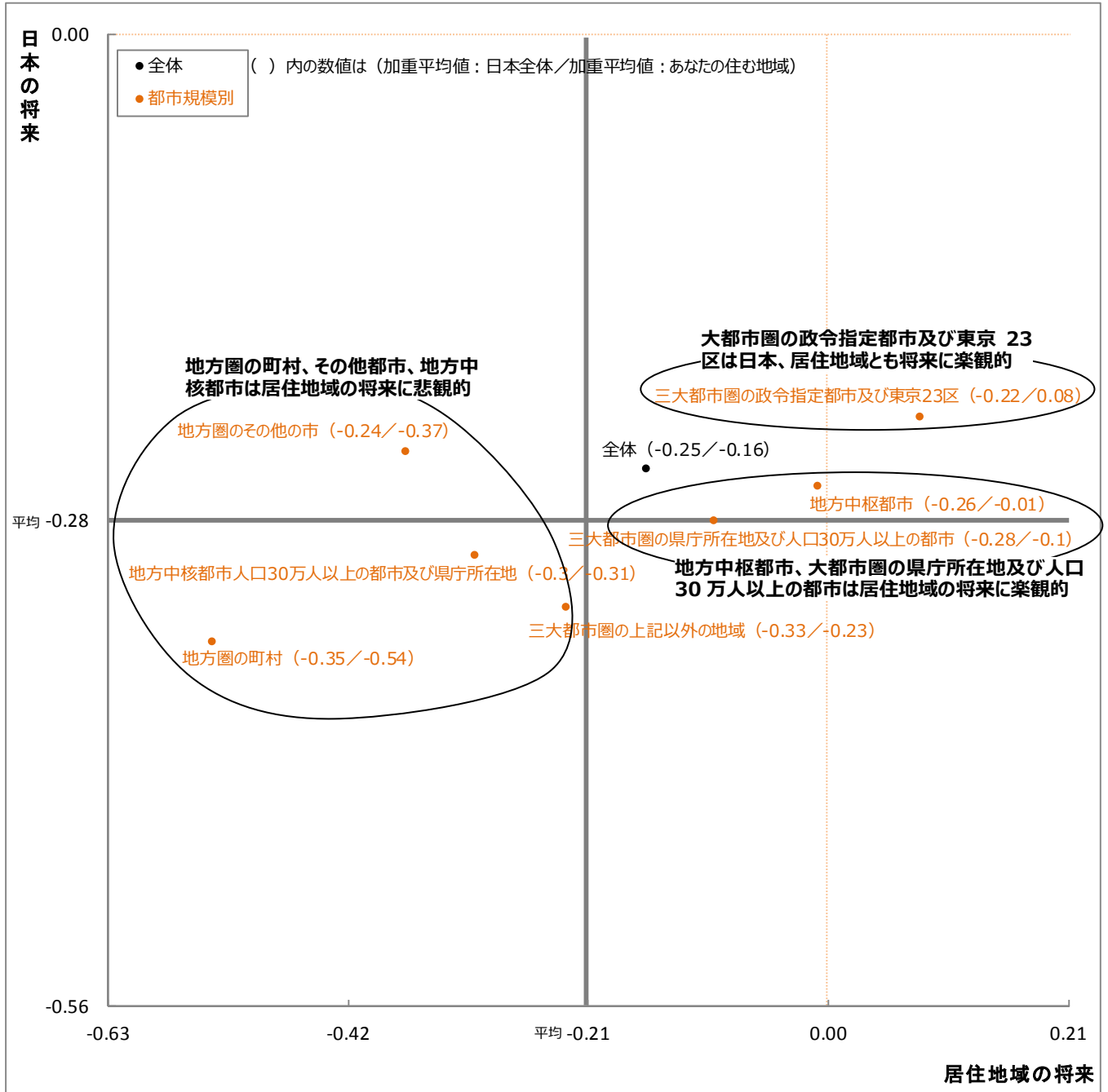
質の高い生活がそれなりに維持される地域 0

便利で快適な地域+1

成長性の高い便利で快適な地域+2

■日本と居住地域の将来(衰退—成長)＜都市規模別＞(Q26-1、Q27-1)加重平均グラフ

大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区は日本、居住地域とも将来に楽観的。地方中枢都市、大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市は居住地域の将来に楽観的。地方圏の町村、その他都市、地方中核都市は居住地域の将来に悲観的。



凡例) Q26. 衰退する日本-1 定常社会の日本 0 活力を保持した日本+1 生産性が向上、成長する日本+2
 Q27. 衰退していく地域-1 質の高い生活がそれなりに維持される地域 0 便利で快適な地域+1 成長性の高い便利で快適な地域+2

三大都市圏(首都圏・関西圏・中部圏)の主な都市(東京 23 区及び横浜・名古屋・大阪などの政令指定都市)
 三大都市圏(首都圏・関西圏・中部圏)の人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地(川口・岐阜・堺など)
 三大都市圏(首都圏・関西圏・中部圏)の上記以外の地域
 地方中枢都市(札幌・仙台・広島・福岡・北九州)
 地方中核都市(人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地)
 地方圏のその他の市
 地方圏の町村

11. 日本の将来予測、あるべき姿／地域の将来予測、あるべき姿(社会課題に関する受動－能動)

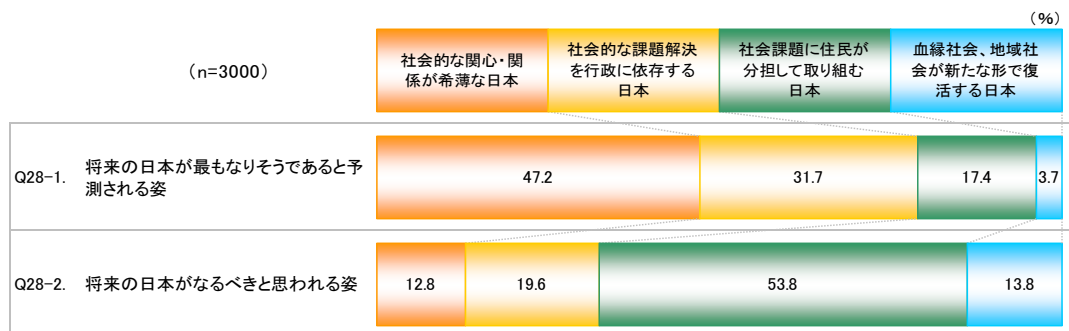
将来の日本が最もなりそうであると予測される姿に関して、「社会的な関心・関係が希薄な日本」47.2%と5割近くを占め、「社会的な課題解決を行政に依存する日本」31.7%と3割を超える。一方、「社会課題に住民が分担して取り組む日本」17.4%、「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本」3.7%と少ない。

将来の日本がなるべきと思われる姿に関して、「社会的な関心・関係が希薄な日本」12.8%、「社会的な課題解決を行政に依存する日本」19.6%であるのに対し、「社会課題に住民が分担して取り組む日本」53.8%と5割を超え、「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本」13.8%となっている。

→乖離は大きい、「なるべき姿」として「社会課題に住民が分担して取り組む」「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する」が、日本のあるべき姿として支持されているのは、そのような仕組みを作り出すことにより、社会課題等に応えていくことを国民(地域住民)が求めていることを示している。

Q28. 日本の将来(2030 年前後を想定)について、次のような意見(見方)があります。

1. **社会的な関心・関係が希薄な日本** 必要な情報はネットかSNSから入手、自分にとって意味、興味のあることには反応するが、そうでないものに対しては社会的な関心も興味も示さない個人のことしか考えない社会が形成される日本
2. **社会的な課題解決を行政に依存する日本** 各個人の価値観や規範に基づく個人主義的な社会になり、社会的な問題には一定の理解を行うものの、具体的な行動などは起こさず、行政に委ねる社会が形成される日本
3. **社会的な課題に住民が分担して取り組む日本** 社会の様々な課題に対し、行政に依存するのではなく、住民や NPO が社会産業(ソーシャルビジネス)を立ち上げ、行政と住民が分担して解決に取り組むような社会が形成される日本
4. **血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本** 地域の風土や文化が見直され、伝統的な血縁社会、地域社会が新たな形で復活し、生活・社会行動の基盤となるような日本



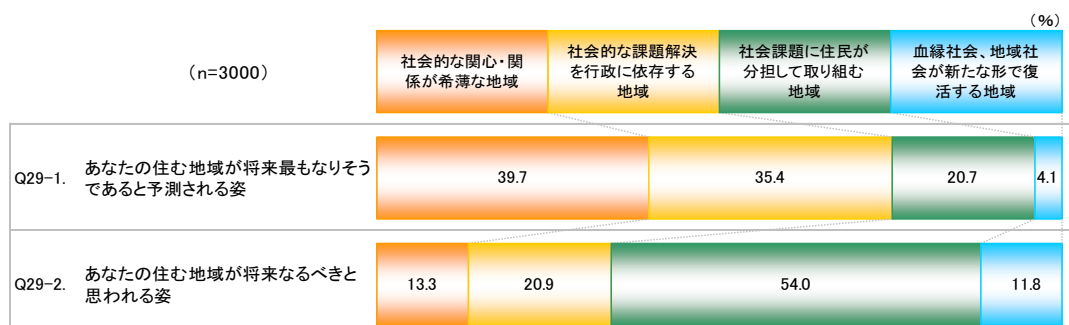
あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿に関して、「社会的な関心・関係が希薄な地域」39.7%と約4割。これは【日本全体】の 47.2%より少ない。次いで「社会的な課題解決を行政に依存する地域」35.4%で、【日本全体】の 31.7%より多く、【居住地域】では行政依存となるとする人の割合が大きい。「社会課題に住民が分担して取り組む地域」20.7%、「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域」4.1%と、いずれも【日本全体】より多い。

→【居住地域】のなりそうな姿を、【日本全体】のなりそうな姿と比較すると、行政依存も多いが、地域住民が取り組む、地域社会が復活するとする人の割合が大きい。

あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿に関して、「社会的な関心・関係が希薄な地域」13.3%、「社会的な課題解決を行政に依存する地域」20.9%、「社会課題に住民が分担して取り組む地域」54.0%、「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域」11.8%で、【日本全体】のなるべき姿とほぼ同様の構造となっている。

Q29. あなたの住む地域(2030 年前後を想定)について、次のような意見(見方)があります。

1. **社会的な関心・関係が希薄な地域** 必要な情報はネットかSNSから入手、自分にとって意味、興味のあることには反応するが、そうでないものに対しては社会的な関心も興味も示さない個人のことしか考えない地域社会が形成される
2. **社会的な課題解決を行政に依存する地域** 各個人の価値観や規範に基づく個人主義的な社会になり、社会的な問題には一定の理解を行うものの、具体的な行動などは起こさず、行政に委ねる地域社会が形成される
3. **社会課題に住民が分担して取り組む地域** 社会の様々な課題に対し、行政に依存するのではなく、住民や NPO が社会産業(ソーシャルビジネス)を立ち上げ、行政と住民が分担して解決に取り組む地域社会となる
4. **血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域** 地域の風土や文化が見直され、伝統的な血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域社会となる



■日本の将来予測(社会課題に関する受動－能動)(Q28-1)〈性・年代別〉

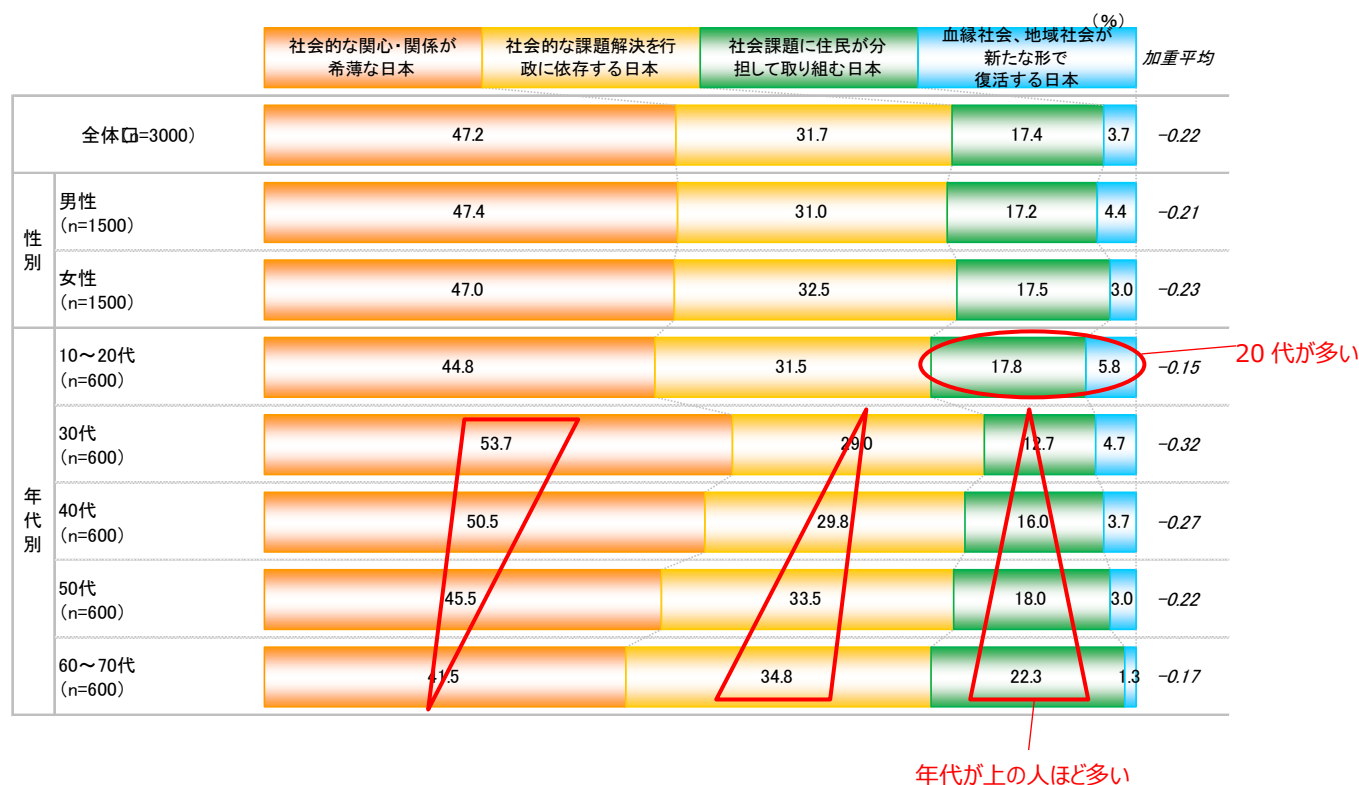
将来の日本が最もなりそうであると予測される姿に関して、男女の差はあまりない。

年代別で見ると、「社会的な関心・関係が希薄な日本」とするのは30代53.7%、40代50.5%、50代45.5%、10～20代44.8%、60～70代41.5%と、年代が若いほど「社会的な関心・関係が希薄な日本」とする人が多い傾向がある。

また、「社会課題に住民が分担して取り組む日本」は、年代が上の人ほど多い。

「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本」とするのは、20代が最も多く、年代が上の人ほど多い。

Q28-1.将来の日本が最もなりそうであると予測される姿はどれですか。



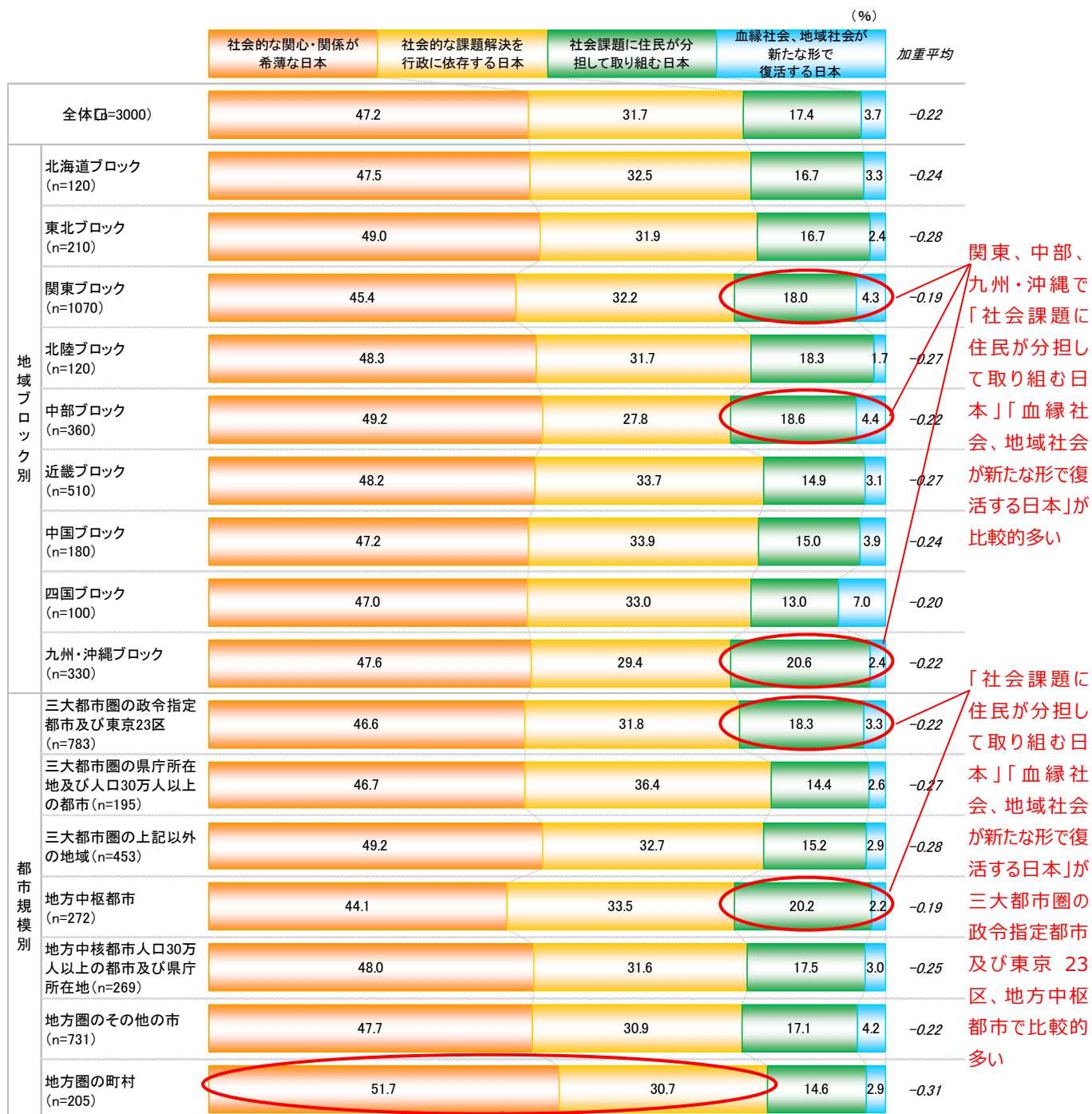
		n	(%)				加重平均
			社会的な関心・関係が希薄な日本 (-1)	社会的な課題解決を行政に依存する日本 (0)	社会課題に住民が分担して取り組む日本 (+1)	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本 (+2)	
全体		3000	47.2	31.7	17.4	3.7	-0.22
性年代	男性18-29歳	300	45.3	29.3	19.0	6.3	-0.14
	男性30代	300	49.3	30.3	13.7	6.7	-0.22
	男性40代	300	51.3	29.7	14.7	4.3	-0.28
	男性50代	300	46.7	32.3	17.7	3.3	-0.22
	男性60-79歳	300	44.3	33.3	21.0	1.3	-0.21
	女性18-29歳	300	44.3	33.7	16.7	5.3	-0.17
	女性30代	300	58.0	27.7	11.7	2.7	-0.41
	女性40代	300	49.7	30.0	17.3	3.0	-0.26
	女性50代	300	44.3	34.7	18.3	2.7	-0.21
	女性60-79歳	300	38.7	36.3	23.7	1.3	-0.12

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■日本の将来予測(社会課題に関する受動－能動)(Q28-1)〈地域別〉

将来の日本が最もなりそうであると予測される姿に関して、ブロック別、都市規模別の差はそれほど大きくない。いくつかの特徴を見ると、関東、中部、九州・沖縄で「社会課題に住民が分担して取り組む日本」「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本」が比較的多い。「社会課題に住民が分担して取り組む日本」「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本」が三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区、地方中枢都市で比較的多い。地方の町村で「社会的な関心・関係が希薄な日本」「社会的な課題解決を行政に依存する日本」が比較的多い。

Q28-1.将来の日本が最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

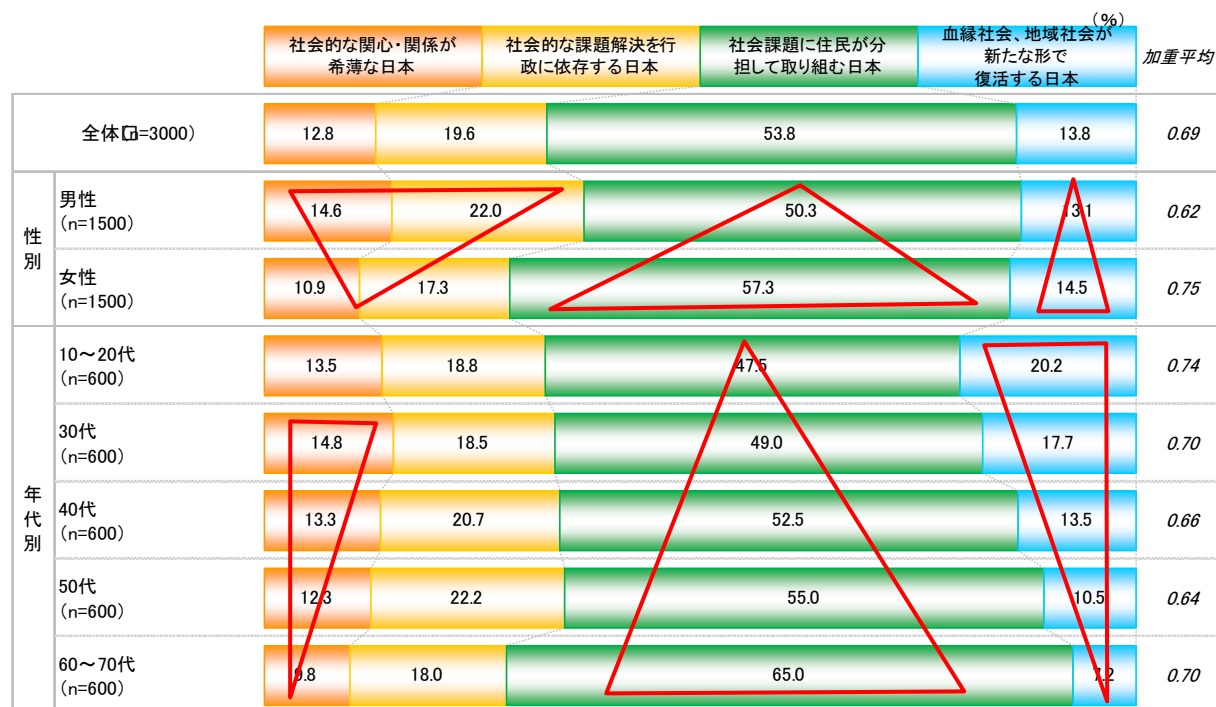


■日本のあるべき姿(社会課題に関する受動－能動)(Q28-2)〈性・年代別〉

将来の日本がなるべきと思われる姿に関して、男女別で見ると「社会的な関心・関係が希薄な日本」「社会的な課題解決を行政に依存する日本」とするのは男性の方が多く、逆に「社会課題に住民が分担して取り組む日本」「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本」とするのは女性の方が多い。

年代別に見ると、「社会的な関心・関係が希薄な日本」は(10～20代を除き)基本的に年代が若いほど多い。「社会課題に住民が分担して取り組む日本」とするのは、60～70代が最も多く(65.0%)、年代が若くなるほど少なくなる。「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本」とするのは、10～20代20.2%が最も多く、年代が上になるほど少なくなる。

Q28-2.将来の日本がなるべきと思われる姿はどれですか。



		(%)					
		n	社会的な関心・ 関係が希薄な 日本 (-1)	社会的な課題 解決を行政に 依存する日本 (0)	社会課題に住 民が分担して 取り組む日本 (+1)	血縁社会、地域 社会が新たな 形で復活する 日本 (+2)	加重平均
全体		3000	12.8	19.6	53.8	13.8	0.69
性 年 代	男性18-29歳	300	15.0	20.7	45.7	18.7	0.68
	男性30代	300	18.0	22.0	43.7	16.3	0.58
	男性40代	300	15.7	22.3	49.7	12.3	0.59
	男性50代	300	13.0	26.0	50.3	10.7	0.59
	男性60-79歳	300	11.3	19.0	62.0	7.7	0.66
	女性18-29歳	300	12.0	17.0	49.3	21.7	0.81
	女性30代	300	11.7	15.0	54.3	19.0	0.81
	女性40代	300	11.0	19.0	55.3	14.7	0.74
	女性50代	300	11.7	18.3	59.7	10.3	0.69
	女性60-79歳	300	8.3	17.0	68.0	6.7	0.73

n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■日本のあるべき姿(社会課題に関する受動－能動)(Q28-2)〈地域別〉

将来の日本がなるべきと思われる姿に関して、

「社会課題に住民が分担して取り組む日本」は

地域ブロック別で見ると、中国ブロック60.0%、四国ブロック56.0%、九州・沖縄ブロック55.8%、近畿ブロック55.7%、北陸ブロック54.2%、関東ブロック53.7%、東北ブロック51.9%、中部ブロック50.8%、北海道ブロック41.7%。

都市規模別で見ると、地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地59.9%、三大都市圏の上記以外の地域56.7%、地方圏のその他の市55.8%、三大都市圏の政令指定都市及び東京23区54.3%、地方中枢都市51.1%、地方圏の町村50.7%、三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市45.6%。

「社会的な課題解決を行政に依存する日本」で多いのは、地域ブロック別で北海道ブロック30.0%、北陸ブロック25.8%、都市規模別では三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市28.2%、地方中枢都市23.5%。

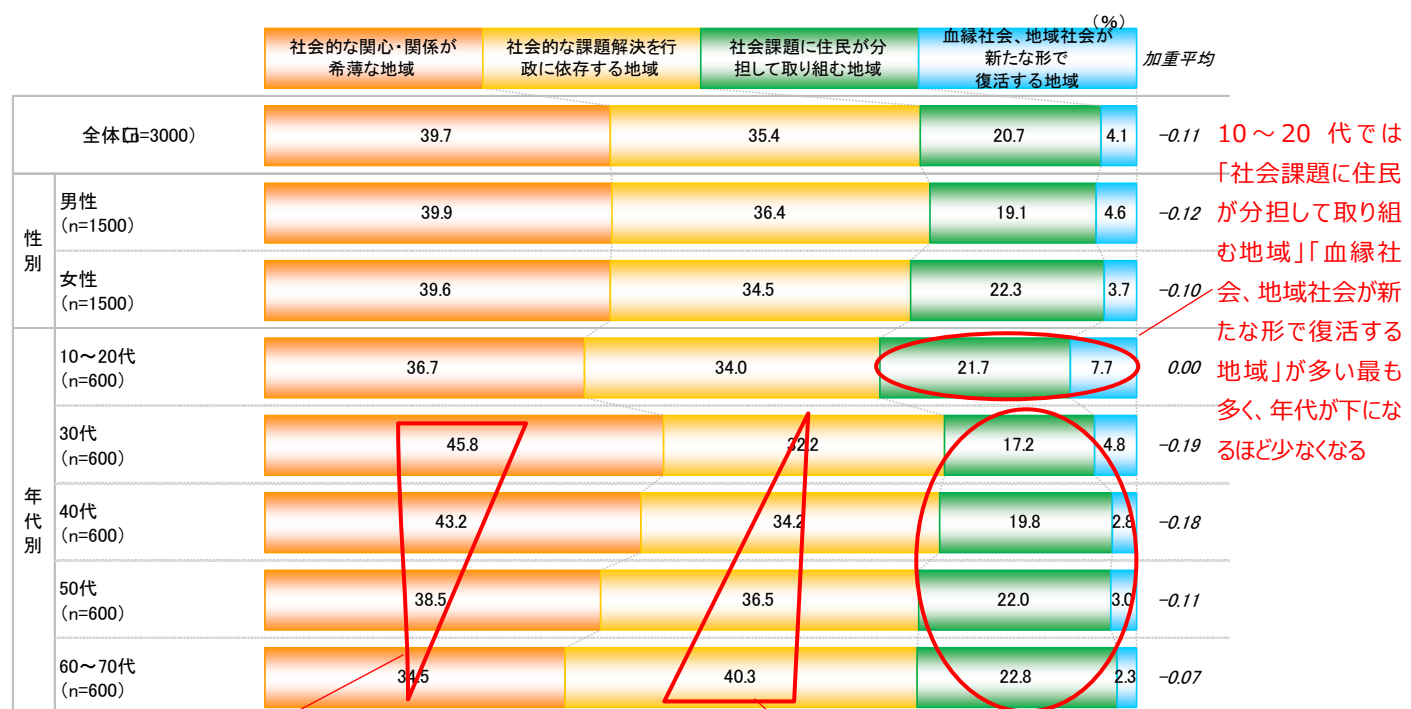
Q28-2.将来の日本がなるべきと思われる姿はどれですか。

		(%)				
		社会的な関心・関係が希薄な日本	社会的な課題解決を行政に依存する日本	社会課題に住民が分担して取り組む日本	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本	加重平均
全体(n=3000)		12.8	19.6	53.8	13.8	0.69
地域ブロック別	北海道ブロック(n=120)	15.0	30.0	41.7	13.3	0.53
	東北ブロック(n=210)	17.6	17.6	51.9	12.9	0.60
	関東ブロック(n=1070)	11.4	21.1	53.7	13.7	0.70
	北陸ブロック(n=120)	8.3	25.8	54.2	11.7	0.69
	中部ブロック(n=360)	13.9	18.3	50.8	16.9	0.71
	近畿ブロック(n=510)	13.9	17.8	55.7	12.5	0.67
	中国ブロック(n=180)	10.6	13.3	60.0	16.1	0.82
	四国ブロック(n=100)	18.0	10.0	56.0	16.0	0.70
	九州・沖縄ブロック(n=330)	11.5	20.6	55.8	12.1	0.68
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区(n=783)	13.5	19.2	54.3	13.0	0.67
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市(n=195)	11.8	28.2	45.6	14.4	0.63
	三大都市圏の上記以外の地域(n=453)	11.0	19.2	56.7	13.0	0.72
	地方中枢都市(n=272)	13.6	23.5	51.1	11.8	0.61
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地(n=269)	10.0	16.0	59.9	14.1	0.78
	地方圏のその他の市(n=731)	12.3	18.2	55.8	13.7	0.71
	地方圏の町村(n=205)	14.1	20.5	50.7	14.6	0.66

■地域の将来予測(社会課題に関する受動－能動)(Q29-1)〈性・年代別〉

あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿に関して、
「社会的な関心・関係が希薄な地域」とするのは 30 代が最も多く、年代が上になるほど少なくなる。「社会的な課題解決を行政に依存する地域」に関しては 60 代が最も多く、年代が下になるほど少なくなる。10～20 代では「社会課題に住民が分担して取り組む地域」「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域」が多い。「社会課題に住民が分担して取り組む地域」「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域」とするのが少ないのが、30 代、40 代、50 代、60～70 代の方が多い。

Q29-1.あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿はどれですか。



「社会的な関心・関係が希薄な地域」とするのは 30 代が最も多く、年代が上になるほど少なくなる

「社会的な課題解決を行政に依存する地域」に関しては 60 代が最も多く、年代が下になるほど少なくなる

社会課題に住民が分担して取り組む地域」「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域」とするのが少ないのが、30 代、40 代、50 代、60～70 代の方が多い

		n	社会的な関心・関係が希薄な地域 (-1)	社会的な課題解決を行政に依存する地域 (0)	社会課題に住民が分担して取り組む地域 (+1)	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域 (+2)	加重平均
全体		3000	39.7	35.4	20.7	4.1	-0.11
性年代	男性18-29歳	300	32.3	37.0	21.7	9.0	0.07
	男性30代	300	45.7	32.0	16.3	6.0	-0.17
	男性40代	300	44.3	35.3	16.7	3.7	-0.20
	男性50代	300	40.3	37.7	19.3	2.7	-0.16
	男性60-79歳	300	36.7	40.0	21.7	1.7	-0.12
	女性18-29歳	300	41.0	31.0	21.7	6.3	-0.07
	女性30代	300	46.0	32.3	18.0	3.7	-0.21
	女性40代	300	42.0	33.0	23.0	2.0	-0.15
	女性50代	300	36.7	35.3	24.7	3.3	-0.05
	女性60-79歳	300	32.3	40.7	24.0	3.0	-0.02

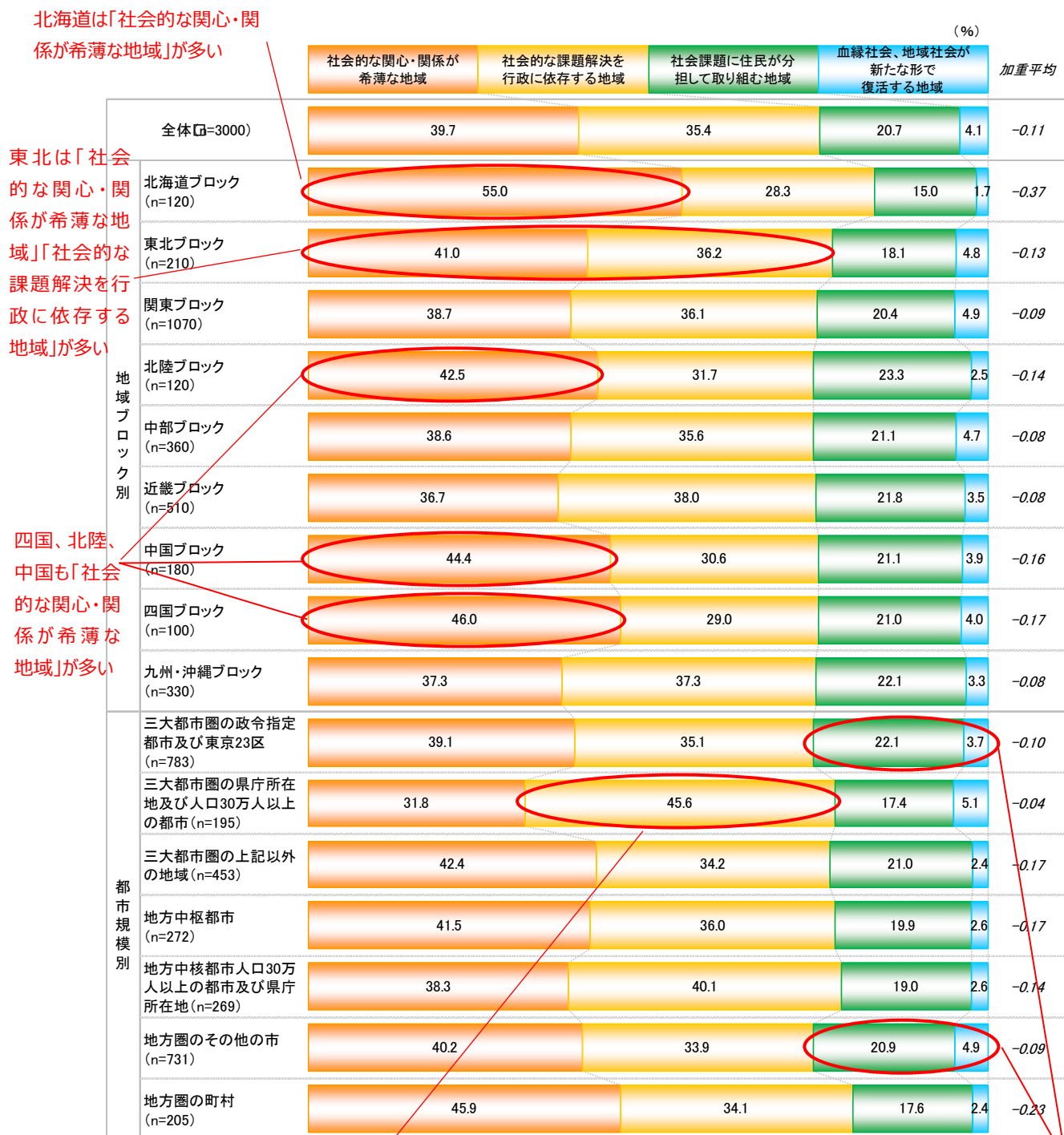
n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■地域の将来予測(社会課題に関する受動－能動)(Q29-1)〈地域別〉

あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿に関して、地域ブロック別では、北海道ブロックは「社会的な関心・関係が希薄な地域」が際立って多い(55.0%)。東北も「社会的な関心・関係が希薄な地域」「社会的な課題解決を行政に依存する地域」を合わせた割合が他ブロックより多い。四国ブロック 46.0%、北陸ブロック、中国ブロックも「社会的な関心・関係が希薄な地域」が多い。

都市規模別は、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市では「社会的な課題解決を行政に依存する地域」が多い(45.6%)のが目立つ。「社会課題に住民が分担して取り組む地域」「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域」が比較的多いのは、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区、地方圏のその他の市。

Q29-1.あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿はどれですか。



三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市では「社会的な課題解決を行政に依存する地域」が多い(45.6%)のが目立つ

「社会課題に住民が分担して取り組む地域」「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域」が比較的多いのは、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区、地方圏のその他の市

■地域のあるべき姿(社会課題に関する受動－能動)(Q29-2)〈性・年代別〉

あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿に関して、「社会的な関心・関係が希薄な地域」「社会的な課題解決を行政に依存する地域」とするのは、男性の方が女性より多い。それに対して、「社会課題に住民が分担して取り組む地域」とするのは、女性 59.3%、男性 48.8%と女性が大きく上回る。

年代別で見ると、「社会課題に住民が分担して取り組む地域」とするのは60～70代 62.7%、40代 54.3%、50代 54.0%、30代 50.8%、10～20代 48.3%の順。「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域」とするのは、年代が若いほど多い。

Q29-2.あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿はどれですか。



		n	社会的な関心・関係が希薄な地域 (-1)	社会的な課題解決を行政に依存する地域 (0)	社会課題に住民が分担して取り組む地域 (+1)	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域 (+2)	加重平均
全体		3000	13.3	20.9	54.0	11.8	0.64
性年代	男性18-29歳	300	14.0	26.3	43.3	16.3	0.62
	男性30代	300	17.3	22.7	43.3	16.7	0.59
	男性40代	300	16.3	25.7	49.0	9.0	0.51
	男性50代	300	16.3	26.0	47.7	10.0	0.51
	男性60-79歳	300	12.7	22.3	60.7	4.3	0.57
	女性18-29歳	300	12.3	14.3	53.3	20.0	0.81
	女性30代	300	12.7	13.0	58.3	16.0	0.78
	女性40代	300	11.7	18.0	59.7	10.7	0.69
	女性50代	300	11.0	20.7	60.3	8.0	0.65
	女性60-79歳	300	8.3	20.3	64.7	6.7	0.70

「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域」とするのは、年代が若いほど多い

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

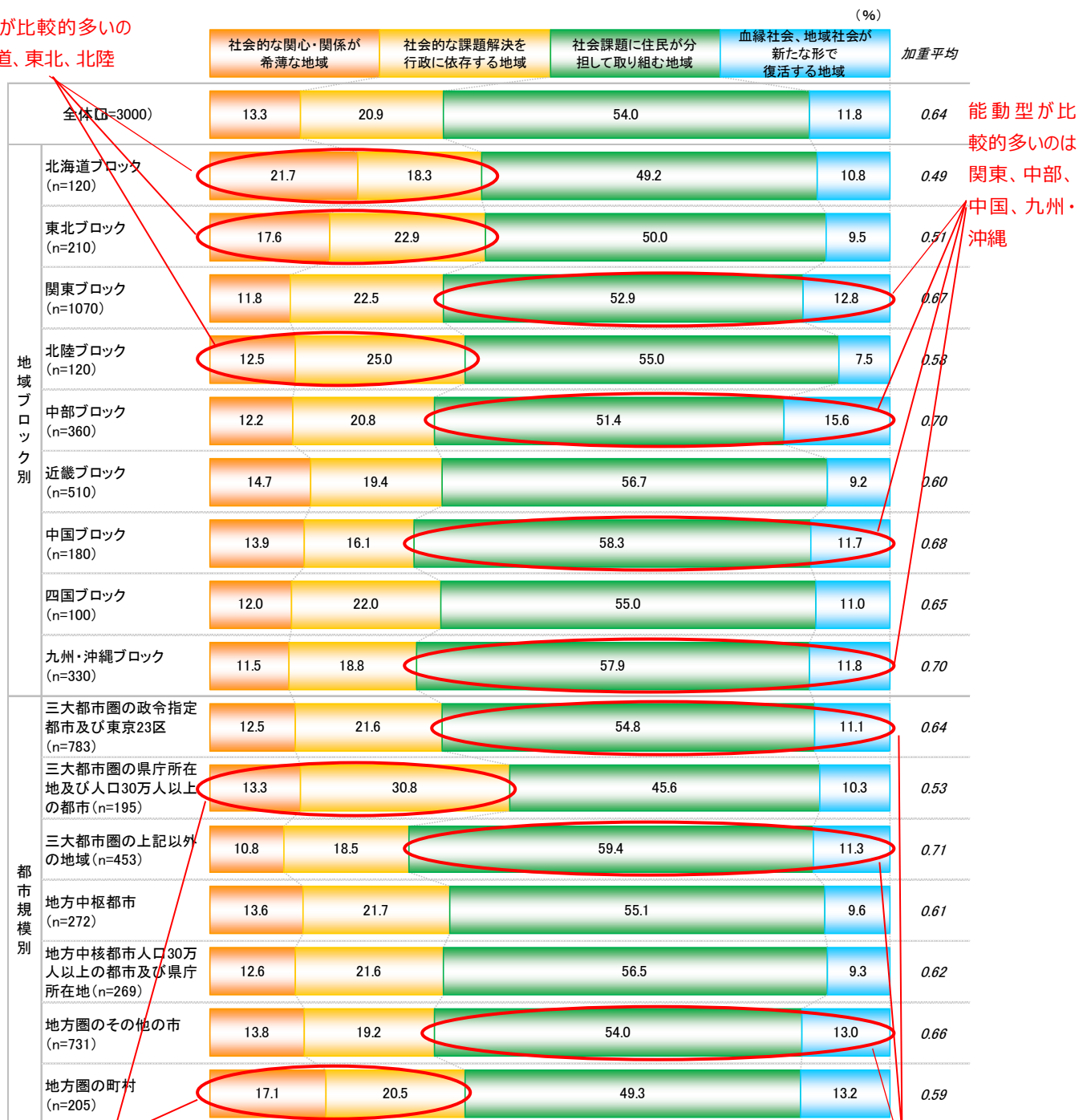
■地域のあるべき姿(社会課題に関する受動－能動)(Q29-2)〈地域別〉

あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿に関して、「社会的な関心・関係が希薄な地域」「社会的な課題解決を行政に依存する地域」を受動型、「社会課題に住民が分担して取り組む地域」「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域」を能動型とすると、ブロック別で受動型が比較的多いのは北海道、東北、北陸。能動型が比較的多いのは関東、中部、中国、九州・沖縄。

都市規模別では、受動型が比較的多いのは三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市、地方圏の町村。能動型が比較的多いのは三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区、三大都市圏の上記以外の地域、地方圏のその他の市。

Q29-2. あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿はどれですか。

受動型が比較的多いのは北海道、東北、北陸



受動型が比較的多いのは三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市、地方圏の町村

能動型が比較的多いのは三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区、三大都市圏の上記以外の地域、地方圏のその他の市

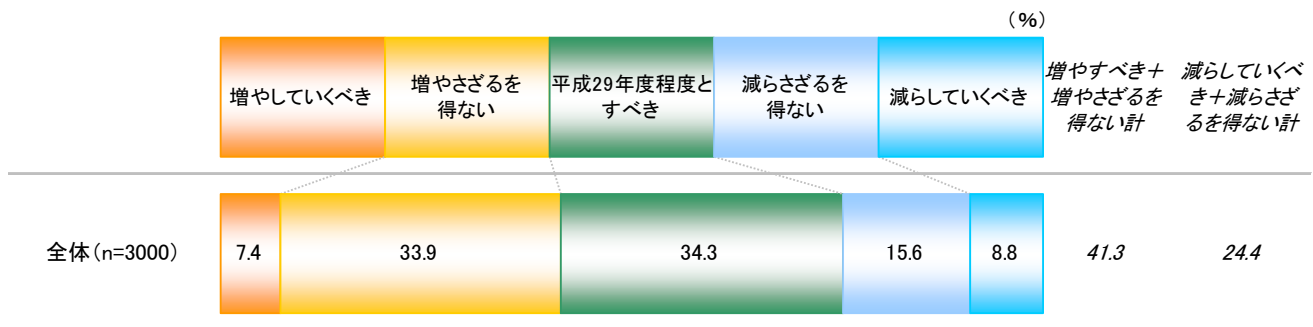
12. 国家予算 費目別 今後の増減評価

■公共事業予算の今後の増減評価

今後の公共事業の予算に関して、20 年前の予算と平成 29 年度予算の実態を示して訊いたところ、「増やしていくべき」7.4%+「増やさざるを得ない」33.9%の計は 41.3%、「平成 29 年度程度とすべき」は 34.3%、「減らしていくべき」+「減らさざるを得ない」の計は 24.4%となっている。

→予算増(ないし維持)に関し、国民の大きな部分基本的理解は得られるベースはあると考えられる。

Q30. あなたは、今後の公共事業の予算をどうすべきだと思いますか。上記の結果も見た上でお答えください。



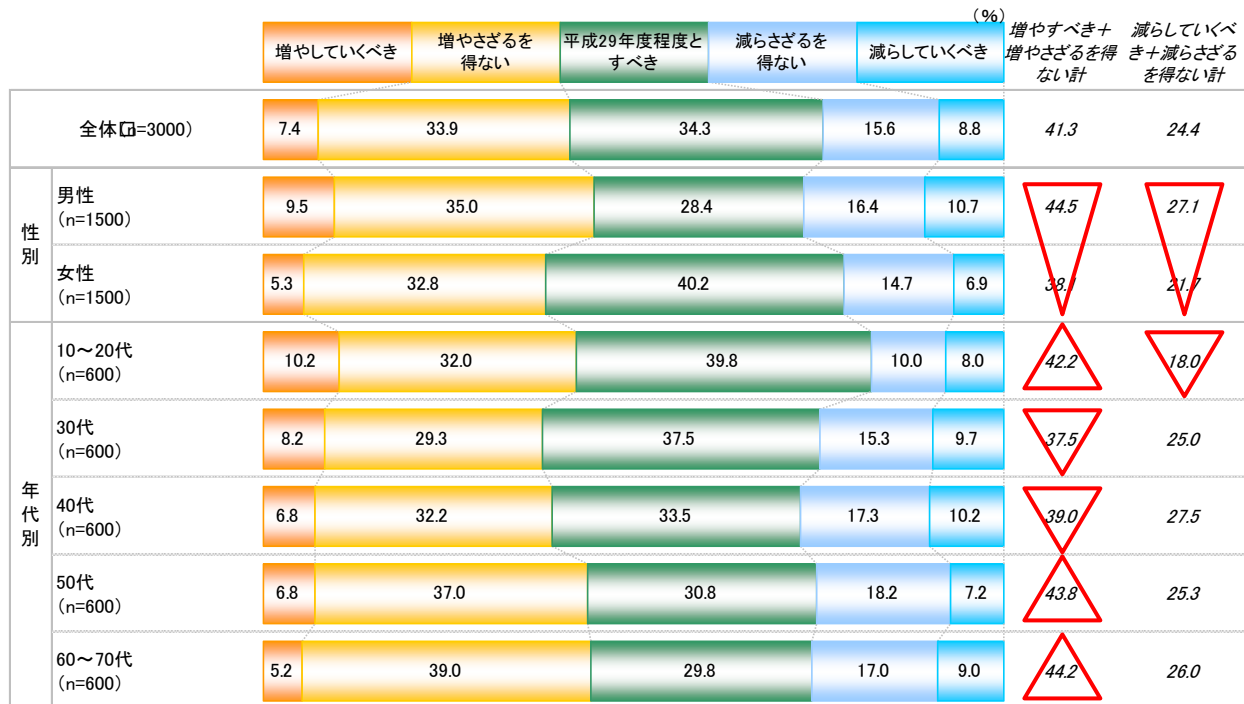
■公共事業予算の今後の増減評価(性・年代別)

今後の公共事業の予算に関して、
「増やしていくべき」+「増やさざるを得ない」の計は

性別で見ると、男性 44.5%、女性 38.1%と男性が8ポイント強高い。

年代別で見ると、60～70代 44.2%、50代 43.8%、10～20代 42.2%、40代 39.0%、30代 37.5%の順。 10～20代は「減らしていくべき+減らさざるを得ない計」18.0%と最も少ない。10～20代、50代、60～70代が「増やすべき」「増やさざるを得ない」が30代、40代より多い。

Q30. あなたは、今後の公共事業の予算をどうすべきだと思いますか。上記の結果も見た上でお答えください。



(%)

	n	増やしていくべき(+2)	増やさざるを得ない(+1)	平成29年度程度とすべき(0)	減らさざるを得ない(-1)	減らしていくべき(-2)	[増やすべき+増やさざるを得ない計]	[減らしていくべき+減らさざるを得ない計]
全体	3000	7.4	33.9	34.3	15.6	8.8	41.3	24.4
性年代	男性18-29歳	14.7	33.7	33.0	11.7	7.0	48.3	18.7
	男性30代	11.0	27.0	33.0	16.3	12.7	38.0	29.0
	男性40代	8.3	32.0	28.0	19.7	12.0	40.3	31.7
	男性50代	7.7	40.3	23.0	20.3	8.7	48.0	29.0
	男性60-79歳	6.0	42.0	25.0	14.0	13.0	48.0	27.0
	女性18-29歳	5.7	30.3	46.7	8.3	9.0	36.0	17.3
	女性30代	5.3	31.7	42.0	14.3	6.7	37.0	21.0
	女性40代	5.3	32.3	39.0	15.0	8.3	37.7	23.3
	女性50代	6.0	33.7	38.7	16.0	5.7	39.7	21.7
	女性60-79歳	4.3	36.0	34.7	20.0	5.0	40.3	25.0

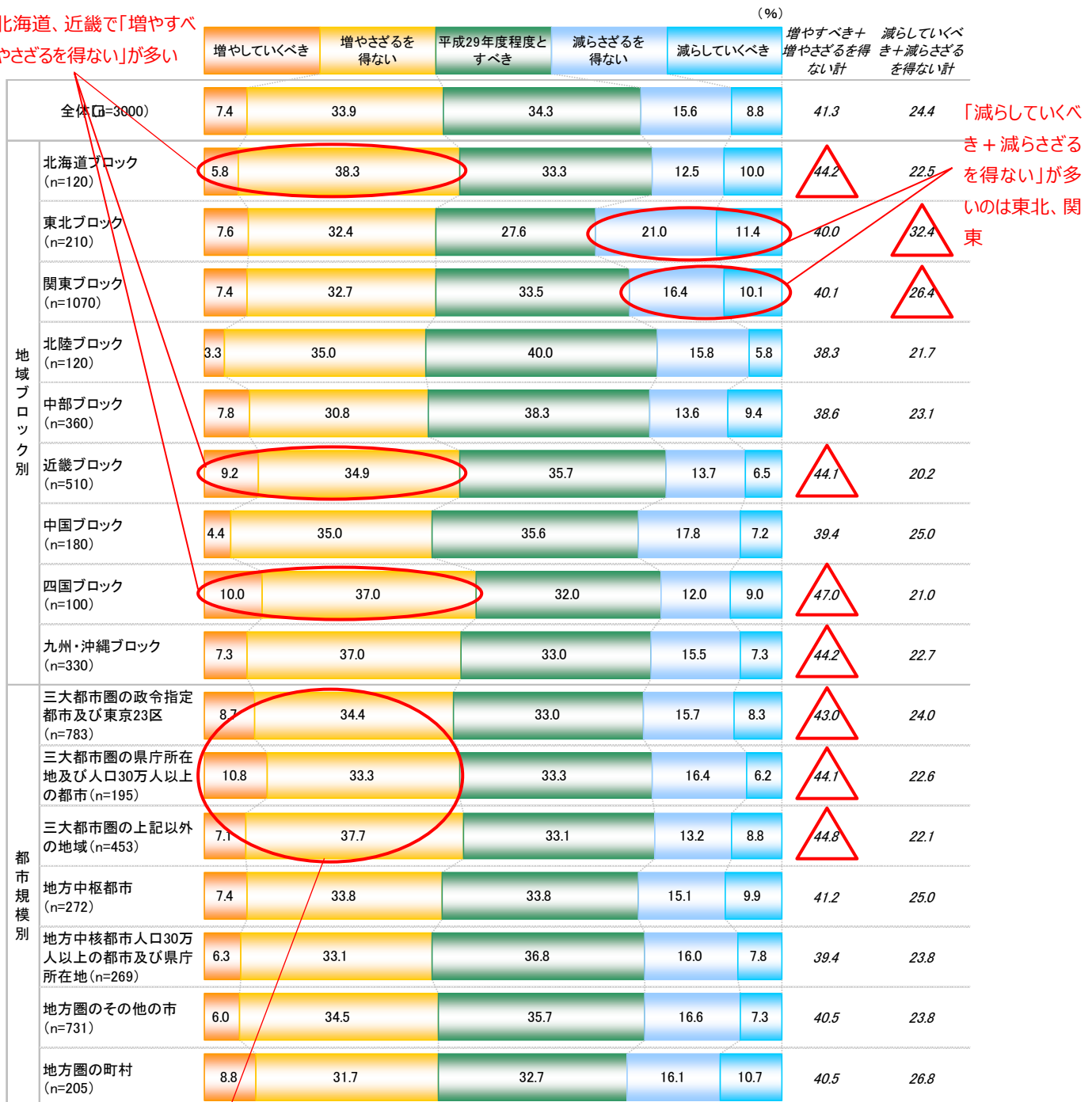
n100 以上について ■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■公共事業予算の今後の増減評価(地域別)

今後の公共事業の予算に関して、
 「増やしていくべき」+「増やさざるを得ない」の計は
 地域ブロック別で見ると、四国ブロック 47.0%がトップ、北海道ブロック、九州・沖縄ブロック各 44.2%、近畿ブロック 44.1%が多い。次いで、関東ブロック 40.1%、東北ブロック 40.0%、中国ブロック 39.4%、中部ブロック 38.6%、北陸ブロック 38.3%の順。
 「減らすべき」「減らさざるを得ない」で多いのは、東北ブロック 32.4%、関東ブロック 26.4%。
 都市規模別で見ると、三大都市圏の上記以外の地域 44.8%、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市 44.1%、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区 43.0%で「増やすべき+増やさざるを得ない」が多い。

Q30. あなたは、今後の公共事業の予算をどうすべきだと思いますか。上記の結果も見た上でお答えください。

四国、北海道、近畿で「増やすべき+増やさざるを得ない」が多い



三大都市圏の上記以外の地域、三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市、三大都市圏の政令指定都市及び東京 23 区で「増やすべき+増やさざるを得ない」が多い

13. 属性分析まとめ

◆地域ブロック別傾向

■北海道

- ・社会資本全体の充足度評価では「充足していない」が四国に次いで東北とともに第二位であった。(Q8)
- ・[日本・地域の将来予測]に対して「衰退する日本」と予測した人は 6 割、「衰退していく地域」との予測も6割で、四国に次いで東北とともに第二位であった。(Q26-1・Q27-1)
- ・[将来の日本のなるべき姿]では、「住民と分担して取り組む日本」は 42%、他地域と比べると低く、一方、「行政に依存する日本」は 30%だが他地域を大きく上回った。(Q28-2)[将来の地域の姿の予測]では、「社会的な関心・関係が希薄」が他の地域と比べて大きく上回った。(Q29-1)
- ・[医療・福祉]に関する整備に対して「非常に重要」とする人が 5 割、他地域と比べて高い支持。(Q2 フ)
- ・[道路や鉄道のネットワーク整備]に関して「充足していない」との反応が高い。(Q7-1 キクケコセ)
[コンパクトシティ形成構想、道路ネットワークで連結]や[土地利用で私権制限はやむなし]に対しても、他地域と比べて高い結果。(Q17・Q20)
- ・[インフラ施策の仕分け][住民による点検・清掃協力][専門技能職員の災害時派遣体制][民間のノウハウ活用]に対する反応は他地域と比べて低い。(Q11・Q12・Q16・Q18) [地域活動に積極参加したい]と「思わない」人も他地域に比べて高かった。(Q3)

■東北

- ・社会資本全体の充足度評価では「充足していない」が四国に次いで北海道とともに第二位であった。(Q8)
- ・[新たなインフラより維持管理・更新に重点]に対する支持が高く、唯一半数に達した地域。(Q10)
- ・[インフラ施策の仕分け]に対して、「非常にそう思う」が全体の2割以上で他地域と比べて高い支持。(Q11)
- ・[国土の強靱化][民間ノウハウの活用]に対する反応が他地域と比べて高い。(Q14・Q18)
- ・[日本は自然災害発生しやすい]ことへの理解が唯一8割を超え(Q25)、[欧米に比べて施設整備に費用がかさむ]ことに対する同意が最も高い結果。(Q25-1)
- ・[地域の将来予測]で「衰退していく地域」との予測が九州・沖縄に次いで北海道とともに第二位。(Q27-1)

■関東

- ・居住地域の社会資本全体の充足度評価は平均より高く、「充足している」が多い。(Q8)
- ・[安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進める]ことに対して「非常にそう思う」との支持が他地域より高い。(Q13)
- ・[国土の強靱化]や[経済活動の生産性効果のある社会資本整備を重点化]に対しては低い。(Q14・Q15)
- ・[地域の将来予測]では、「質の高い生活が維持される地域」の予測が、他地域では目立った「衰退していく地域」の予測を上回った。(Q27-1)

■中部

- ・居住地域の社会資本全体の充足度評価は平均より高く、「充足している」が多い。(Q8)
- ・[南海トラフ等の大地震]に対して「非常に不安を感じる」「非常に重要」との支持が他地域を大きく上回り、四国に次いで第二位。(Q1-1 イ・Q2-1 イ)
- ・[日本もインフラへの投資額を増やすべき]に対する支持が地域のなかで最も高かった。(Q24-1)

■北陸

- ・社会資本全体の充足度評価に関しては、日本全体では充足しているが、居住地域の充足度は平均よりマイナスと評価。(Q8)
- ・[地域間・都市間交通][地域内の公共交通]に対して「充足していない」との反応が高い。(Q7-1 セツ)
- ・[国土の強靱化]や[経済活動の生産性効果のある社会資本整備を重点化]に対して支持は低い。(Q14・Q15)
- ・[住民による点検・清掃協力][専門技能職員の災害時派遣体制][民間のノウハウ活用][住民や地域の意見反映、価値観共有、協働作業の仕組み]に対する支持が地域のなかでも低い。(Q12・Q16・Q18・Q19)
- ・[コンパクトシティ形成構想、道路ネットワークで連結]や[土地利用で私権制限はやむなし]に対しても、他地域と比べて目立って低い。(Q17・Q20)
- ・[増加する維持管理・更新費用への対応が大きな課題](Q9)、[欧米に比べて施設整備に費用がかさむ](Q25-1)といった認識は地域のなかでもかなり低い結果。
- ・[中長期の全体像を描いた上で財源をきちんと確保し、計画的効率的に進める][日本もインフラへの投資額を増やすべき]に対する支持もとりわけ低くとどまる。(Q23・Q24-1)

■近畿

- ・社会資本全体の充足度評価に関しては、日本、居住地域とも「充足している」と評価。(Q8)
- ・[コンパクトシティ形成構想、道路ネットワークで連結]が北陸に次いで低い。(Q17)
- ・[効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべき]の支持が最も低い結果。(Q21)
- ・[地域の将来予測]では、「衰退していく地域」に近い値で「質の高い生活が維持される地域」が追随、関東と類似の傾向であった。(Q27-1)

■中国

- ・社会資本全体の充足度評価に関しては、日本全体では充足しているが、居住地域の充足度は平均よりマイナスと評価。(Q8)
- ・[国土の強靱化]や[経済活動の生産性効果のある社会資本整備を重点化]に対して支持が最も高い地域。(Q14・Q15)
- ・[コンパクトシティ形成構想、道路ネットワークで連結]が北海道と並んで高い。(Q17)
- ・[住民による点検・清掃協力][専門技能職員の災害時派遣体制][民間のノウハウ活用][住民や地域の意見反映、価値観共有、協働作業の仕組み]に対する支持が他地域よりかなり高い。(Q12・Q16・Q18・Q19)
- ・[新たなインフラより、維持管理・更新に重点]に対しての支持が他地域と比べてもかなり低い結果。(Q10)

■四国

- ・社会資本全体の充足度評価で、「充足していない」とする人が最も多い地域。(Q8)
- ・[南海トラフ等の大地震]に対して「非常に不安を感じる」「非常に重要」との支持が9割、他地域を大きく上回る。(Q1-1イ・Q2-1イ)【安全・安心系】の社会資本整備に対して「充足していない」との反応は地域のなかでも高く(Q7-1)、[安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進める]ことに対しても最も高かった。(Q13)
- ・道路ネットワークなどの【活力・交流系】全般や[公園・緑地・レク施設][下水道施設]に対する「充足していない」との割合も高かった。(Q7-1)
- ・[効率の観点だけでなく公平の観点も重視]との考えに対する支持は他地域と比べて高い結果。(Q21)
- ・[日本のインフラ技術の輸出で、国際貢献、日本の活力強化]の考え方に対する支持は低く(Q22)、[日本もインフラへの投資額を増やすべき]に対しての支持も北陸に次いで低い結果。(Q24-1)

- ・[日本は自然災害発生しやすい]ことへの理解が東北に次いで高い。(Q25)、
- ・[将来の居住地域の姿の予測]に対して「衰退していく地域」との予測が最も高かった。(Q27-1)

■九州・沖縄

- ・居住地域の社会資本全体の充足度評価は平均より高く、「充足している」が多い。(Q8)
- ・[水害・台風の被害]に対して「不安を感じる」との反応が九州・沖縄で特に高い。(Q1-1 ウ)
- ・[インフラ施策の仕分け]の支持は東北と並んで他地域より高い。(Q11)
- ・[安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進める]ことに対する支持が四国に次いで高い。(Q13)
- ・[経済活動の生産性効果のある社会資本整備を重点化]に対する支持は低い(Q15)
- ・[地域の将来予測]で「衰退していく地域」との予測が最も高い地域。(Q27-1)

◆性別

■男性

- ・居住地域の[安全で安心できる社会や国土の形成]に対する肯定の割合は、男性が女性をかなり上回る。(Q4)
- ・一方、[安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進める]ことに対する支持は女性に比べて低い。(Q13)
- ・[社会資本の維持管理・更新の理解が課題であること]に対する認知や、[新たなインフラより維持管理・更新に重点]に対する支持が女性に比べて高い。(Q9・Q10)
- ・[コンパクトシティ形成構想、道路ネットワークで連結]や[土地利用で私権制限はやむなし]に対しても女性と比べて高い。(Q17・Q20)
- ・[民間ノウハウの活用] に対する反応が女性と比べて高い。(Q18) 一方、[専門技能職員の災害時派遣体制] に対する支持は女性より低かった。(Q16)
- ・[欧米諸国でインフラ投資を増やす動き]に対する認知と、[日本もインフラへの投資額を増やすべき]に対する支持が女性に比べて高い。(Q24・Q24-1)

■女性

- ・女性は、生活居住地域における不安が男性に比べて全般に高い。(Q1-1)
- ・居住地域の [心豊かで快適に暮らせる社会や国土の形成] に対する肯定評価は、女性が男性をかなり上回る。(Q6)「非常に重要」との支持も同様に男性を上回る。(Q2-1)
- (※他の2つの項目【安全・安心】【活力・交流】では男女間で「非常に重要」の差はない。)
- ・[社会資本の維持管理・更新の理解が課題であること]に対する認知が男性に比べて低い。(Q9)
- ・[コンパクトシティ形成構想、道路ネットワークで連結]や[土地利用で私権制限はやむなし]など社会資本の進め方に関する具体施策支持は男性と比べて低い。(Q17・Q20) 一方、[安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進める]ことに対する支持は男性に比べて高い。(Q13)
- ・[民間ノウハウの活用] に対する支持は男性に比べて低い。(Q18) 一方、[専門技能職員の災害時派遣体制] に対する支持は男性より高かった。(Q16)
- ・[欧米諸国でインフラ投資を増やす動き]に対する認知と、[日本もインフラへの投資額を増やすべき]に対する支持が男性に比べて低い。(Q24・Q24-1)

◆年代別

■18-29 歳

- ・居住地域の社会資本整備では主に【活力・交流】関連の事項に対して「充足」との評価が高く(Q7-1)、「非常に重要」との支持も高い。(Q2-1)
- ・日本全体の社会資本整備に対しては、総じて「充足」との評価が他の年代と比べて高く、特に【安全・安心系】関連では大きく上回っている。(Q7-2)
- ・[社会資本の維持管理・更新の理解が課題であること]に対する認知、[新たなインフラより維持管理・更新に重点すべき]に対する支持が他の年代と比べてとりわけ低い。(Q9・Q10)
- ・社会資本整備の進め方で呈示した考え方の多くに対して低い反応を示している。
[安全・安心を高める社会資本整備を重点的に](Q13)、[国土の強靱化](Q14)
[専門技能職員の災害時派遣体制][民間ノウハウの活用](Q16・Q18)
[維持管理・更新の選別と早めの対応](Q11)、[効率だけでなく、公平も重視すべき](Q21)[中長期の全体像から財源を確保、計画的効率的に進める](Q23)
- ・[日本は自然災害発生しやすい][欧米に比べて施設整備に費用がかさむ]ことに対する認識・理解も他の年代と比べて低い。(Q25・Q25-1)

■30 代

- ・[社会資本の維持管理・更新の理解が課題であること]に対する認知や[新たなインフラより維持管理・更新に重点]に対する支持が18-29歳に準じて低くとどまっている。(Q9・Q10)[維持管理・更新の選別と早めの対応]に対する支持も低い。(Q11)
- ・[国土の強靱化][コンパクトシティ形成構想、道路ネットワークで連結]に対する支持が40代とともに低い。(Q14・Q17)
- ・[専門技能職員の災害時派遣体制]に対する支持が18-29歳とともに低く(Q16)、[民間ノウハウの活用]に対する支持が40代とともに低い。(Q18)
- ・[効率だけでなく、公平も重視すべき]に対する支持が18-29歳と並んで低い。(Q21)
- ・[日本もインフラへの投資額を増やすべき]に対する支持も他の年代と比べて低かった。(Q24-1)

■40 代

- ・[国土の強靱化][コンパクトシティ形成構想、道路ネットワークで連結]に対する支持が30代とともに低い。(Q14・Q17)
- ・[民間ノウハウの活用]に対する支持が30代とともに低い。(Q18)

■50 代

- ・[社会資本の維持管理・更新の理解が課題]に対する認知が60-70代に次いで高い。(Q9)
- ・[安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進める][国土の強靱化]に対する支持が60-70代に次いで高い。(Q13・Q14)
- ・[日本のインフラ技術の輸出で、国際貢献、日本の活力強化]や[中長期の全体像から財源を確保、計画的効率的に進める]に対する支持も60-70代に次いで高い。(Q22・Q23)

■60-70 代

- [社会資本の維持管理・更新の理解が課題であること]に対する認知や、[新たなインフラより維持管理・更新に重点]に対する支持が他の年代を大きく上回って最も高い。(Q9・Q10)
- 社会資本整備の進め方で呈示された大多数の項目で他の年代を上回って高い支持。とりわけ以下5項目は差異も大きい。
[民間ノウハウの活用] [住民や地域の意見反映、価値観共有、協働作業の仕組み](Q18・Q19)
[土地利用など私権制限は止むなし](Q20)
[日本のインフラ技術の輸出で、国際貢献、日本の活力強化] [中長期の全体像から財源を確保、計画的効率的に進める](Q22・Q23)
- 例外として、[経済活動の生産性効果のある社会資本整備を重点化]に対しては、他の年代を抜きんでず 18-29 歳より下回っている。(Q15)

◆性・年代別

■男性 18-29 歳

- ・[日本もインフラへの投資額を増やすべき]の支持はどの年代をも上回って最も高い。(Q24-1)[欧米諸国でインフラ投資を増やす動き]に対する認知は低い。(Q24)
- ・[経済活動の生産性効果のある社会資本整備を重点化]や[コンパクトシティ形成構想、道路ネットワークで連結]に対する支持はどの性年代層よりも高い。(Q15・Q17)
- ・[日本のインフラ技術の輸出で、国際貢献、日本の活力強化]や[中長期の全体像から財源を確保、計画的効率的に進める]に対する支持は低い。(Q22・Q23)

■男性 30 代

- ・[効率だけでなく、公平も重視すべき]に対する支持が他の層より下回り特に低い。(Q21)[維持管理・更新の選別と早めの対応]に対する支持も最も低い。(Q11)
- ・[安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進める]ことに対する支持が 40 代とともに低い。(Q13)
- ・[専門技能職員の災害時派遣体制]の支持は層のなかで最も低い。(Q16)[住民による点検・清掃協力][民間ノウハウの活用][住民や地域の意見反映、価値観共有、協働作業の仕組み]に対する支持は 40 代とともに低い。(Q12・Q18・Q19)
- ・[日本のインフラ技術の輸出で、国際貢献、日本の活力強化]や[中長期の全体像から財源を確保、計画的効率的に進める]に対する支持は 18-29 歳と並んで低い。(Q22・Q23)

■男性 40 代

- ・[社会資本の維持管理・更新の理解が課題であること]に対する認知が 60-70 代に次いで 50 代と並んで高い。(Q9)
- ・[安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進める]ことに対する支持が 60-70 代に次いで高い。(Q13)
- ・[住民による価値観共有、協働作業の仕組み][専門技能職員の災害時派遣体制][民間のノウハウ活用][住民や地域の意見反映、価値観共有、協働作業の仕組み]に対する支持は 30 代とともに低い。(Q12・Q16・Q18・Q19)

■男性 50 代

- ・[社会資本の維持管理・更新の理解が課題であること]に対する認知が 60-70 代に次いで 40 代とともに高い。(Q9)[日本もインフラへの投資額を増やすべき]に対する支持も 60-70 代に次いで高い。(Q24-1)
- ・[安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進める][国土の強靱化]や[コンパクトシティ形成構想、道路ネットワークで連結]に対する支持が 60-70 代に次いで高い。(Q13・Q14・Q17)

■男性 60-70 代

- ・[社会資本の維持管理・更新の理解が課題であること]に対する認知、[新たなインフラより維持管理・更新に重点すべき]に対する支持がとりわけ高い。(Q9・Q10)
- ・社会資本整備の進め方で呈示された大多数の項目で他の年代を上回って高い支持。特に以下の項目では他層との差も大きい。
[維持管理・更新の選別と早めの対応](Q11)
[住民による点検・清掃協力][民間のノウハウ活用][住民や地域の意見反映、価値観共有、協働作業の仕組み](Q12・Q18・Q19)

[効率だけでなく、公平も重視すべき][日本のインフラ技術の輸出で、国際貢献、日本の活力強化]や [中長期の全体像から財源を確保、計画的効率的に進める] (Q21・Q22・Q23)[土地利用など私権制限は止むなし] (Q20)

- ・[日本は自然災害発生しやすい][欧米に比べて施設整備に費用がかさむ]ことに対する認識・理解も他の年代と比べて高い。(Q25・Q25-1)

■女性 18-29 歳

- ・[子育て、教育環境が悪くなる]ことへの不安が他の年代と比べて特に高い。(Q1-1 ナ)
- ・[社会資本の維持管理・更新費用が大きな課題]に対する認知が際立って低い。(Q9)
- ・社会資本整備の進め方で呈示された大多数の項目に対して低い反応。特に以下の項目では他層との差も大きい。
[新たなインフラより維持管理・更新に重点を移すべき](Q10)
[維持管理・更新の選別と早めの対応](Q11)
[土地利用など私権制限は止むなし](Q20)
[民間ノウハウの活用](Q18)
[日本のインフラ技術の輸出で、国際貢献、日本の活力強化](Q22)
[中長期の全体像から財源を確保、計画的効率的に進める](Q23)

■女性 30 代

- ・【心豊かな暮らし系】の「ヌ）家族が心豊かに快適に」「ネ）自分や家族が健康に」「ノ）自分や家族の仕事が充実」「ハ）年金が十分に支給」「ヒ）生活に必要な収入確保」「ヘ）子育て・教育環境充実」に対して「非常に重要」との支持が女性 40 代と同様高い。(Q2-1)
- ・[社会資本の維持管理・更新費用が大きな課題]に対する認知や、[新たなインフラより維持管理・更新に重点を移すべき]との支持が女性 18-29 歳に準じて非常に低い。(Q9・Q10)
- ・[コンパクトシティ形成構想、道路ネットワークで連結]や[土地利用で私権制限はやむなし] に対する支持が女性 40 代と同様とても低い。(Q17・Q20)
- ・[子育て、教育環境が悪くなる]ことへの不安が女性 18-29 歳に次いで高い。(Q1-1 ナ)

■女性 40 代

- ・[社会資本の維持管理・更新費用が大きな課題]に対する認知が女性 18-29 歳、30 代に次いで低い。(Q9)
- ・[維持管理・更新の選別と早めの対応]と[専門技能職員の災害時派遣体制]に対する支持が高い。(Q11・Q16)
- ・[コンパクトシティ形成構想、道路ネットワークで連結]や[土地利用で私権制限はやむなし] に対する支持が女性 30 代と同様とても低い。(Q17・Q20)
- ・[日本のインフラ技術の輸出で、国際貢献、日本の活力強化]に対しても女性 18-29 歳、30 代と同様低い。(Q22)

■女性 50 代

- ・[日本のインフラ技術の輸出で、国際貢献、日本の活力強化]や [中長期の全体像から財源を確保、計画的効率的に進める] に対する支持が女性 60-70 代に次いで高い。(Q22・Q23)

■女性 60-70 代

- ・居住地域の [地域の道路]の整備に対して「充足」との評価が高い。(Q7-1)

- [安全・安心を高める社会資本整備を重点的に]に対する支持がとて高く(Q13)、[国土の強靱化]や[土地利用で私権制限はやむなし]に対する支持も高い。(Q14・Q20)
- [住民による点検・清掃協力] [専門技能職員の災害時派遣体制] [民間のノウハウ活用] [住民や地域の意見反映、価値観共有、協働作業の仕組み]に対する支持が最も高い(Q12・Q16・Q18・Q19)
- [効率だけでなく、公平も重視すべき][日本のインフラ技術の輸出で、国際貢献、日本の活力強化]や [中長期の全体像から財源を確保、計画的効率的に進める] に対する支持も抜きんでて高い。(Q21・Q22・Q23)[新たなインフラより維持管理・更新に重点] [維持管理・更新の選別と早めの対応]に対する支持が高い。(Q10・Q11)
- 日本の将来に対して「定常社会の日本」との予測が高い傾向。「衰退する日本」の予測は他層と比べると低い傾向。(Q26-1)

属性(フェイスシート)

Q31.性別

(%)			
	n	男性	女性
全体	3000	50.0	50.0

Q32.年齢

(%)													
	n	18～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	40～44 歳	45～49 歳	50～54 歳	55～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70歳 以上
全体	3000	0.4	5.7	13.9	8.6	11.4	9.6	10.4	11.4	8.6	8.7	7.4	3.9

Q33.職業

										(%)
	n	会社員・ 会社役員	公務員・ 団体職員	自営業	自由業	専業主婦 (夫)	学生	パート・ア ルバイト	その他	無職
全体	3000	41.0	6.8	6.1	2.8	15.7	2.3	13.9	1.1	10.2

Q34.世帯構成

							(%)
	n	1人世帯	1世代世帯 (夫婦のみ)	2世代世帯 (親と子)	3世代世帯 (親と子と孫)	その他	わからない
全体	3000	21.0	22.4	47.9	6.7	0.8	1.1

Q35.居住地域の種別

										(%)
	n	三大都市圏の政 令指定都市(さい たま市・千葉市・ 横浜市・川崎市・ 相模原市・名古屋 市・京都市・大阪 市・堺市・神戸市) 及び東京23区	三大都市圏の 県庁所在地及び 人口30万人以 上の都市 (所沢市・四日 市市・大津市 など)	三大都市圏の 上記以外の地 域	地方中枢都市 (札幌市・仙台 市・広島市・福 岡市・北九州 市)	地方中核都市 人口30万人以 上の都市及び 県庁所在地 (旭川市・いわ き市・浜松市・ 福山市など)	地方圏 のその 他の市	地方圏 の町村	その他	わから ない
全体	3000	26.1	6.5	15.1	9.1	9.0	24.4	6.8	0.2	2.9

Q36.居住年数

(%)									
	n	1年未満	1年～2 年未満	2年～5 年未満	5年～10 年未満	10年～15 年未満	15年～20 年未満	20年～30 年未満	30年以上
全体	3000	5.8	6.3	12.2	14.1	12.0	10.3	17.2	22.1

Q37.住宅の状況

									(%)
	n	持ち家 (一戸建 て)	持ち家 (マンション など)	公営 (都道府県 市町村営) 住宅	公団 (公社)住 宅	給与住宅 (社宅・公 務員住宅)	民間の賃 貸住宅 (アパート・ マンション など)	借間	その他
全体	3000	51.9	14.8	1.5	2.4	2.3	25.8	1.0	0.4

Q38.日常生活での主な移動手段

日常生活での主な移動手段

	n	電車	バス	自家用車	バイク	自転車	徒歩	その他
全体	3000	22.0	3.5	50.0	1.8	13.4	9.2	0.2

Q39.自動車の運転頻度

(%)

	n	ほぼ毎日運転 する	休日のみ運転 する(週に1～ 2回程度)	あまり運転しな い(年に数回 程度)	全く運転しない (免許をもって いないなど)	[運転する計]	[運転しない 計]
全体	3000	44.7	20.4	12.2	22.7	65.1	34.9

Q40.主な収入源

(%)

	n	給料	自営での収入	年金	その他
全体	3000	68.9	7.8	12.2	11.1

Q41.世帯年収(税込)

(%)

	n	～99 万円	100 万～ 199 万円	200 万～ 299 万円	300 万～ 399 万円	400 万～ 499 万円	500 万～ 599 万円	600 万～ 699 万円	700 万～ 799 万円	800 万～ 899 万円	900 万～ 999 万円	1000 万～ 1199 万円	1200 万～ 1399 万円	1400 万～ 1599 万円	1600 万～ 1799 万円	1800 万～ 1999 万円	2000 万円 以上
全体	3000	5.4	5.9	11.2	15.5	13.7	11.5	7.8	7.8	5.6	4.3	4.8	2.4	1.3	0.7	0.5	1.6

Q42-1.主な情報入手先(利用するもの)

(%)

	n	新聞	テレビ	インター ネット ニュース	インター ネットWeb サイト	ラジオ	雑誌	その他
全体	3000	53.4	88.0	86.9	61.2	25.4	25.5	0.5

Q42-2.主な情報入手先(最もよく利用)

(%)

	n	新聞	テレビ	インター ネット ニュース	インター ネットWeb サイト	ラジオ	雑誌	その他
全体	3000	10.3	39.1	33.9	14.7	1.4	0.3	0.4

Q43.災害体験

(%)

	n	災害に 遭ったこ とがある	災害に 遭ったこ とはない
自分自身	3000	15.1	84.9
家族	3000	15.5	84.5
親戚	3000	15.3	84.7
身近な友人	3000	15.0	85.0

Q43.災害に遭った時期

(%)

	n	1年位前	2年位前	3年位前	4年位前	5年位前	6～9年位 前	10～14年 位前	15年～19 年位前	20年～29 年位前	それ以上 前
自分自身	452	9.1	1.1	1.5	2.2	2.9	29.0	11.7	4.4	25.4	12.6
家族	463	11.7	1.5	1.3	2.2	4.8	30.0	9.1	3.5	25.9	10.2
親戚	459	16.1	1.1	1.1	1.7	7.0	31.8	7.2	2.6	23.3	8.1
身近な友人	450	18.9	2.0	1.8	1.8	7.1	35.8	7.6	1.6	20.9	2.7

質問間クロス分析編

1. 社会・生活に関する不安、社会・生活に関する重要度を類型化したクロス分析
 - Q1 「社会・生活に関する不安(自分・生活地域)」
 - Q1 「社会・生活に関する不安(日本全体・社会)」
 - Q2 「社会・生活に関する重要度」に関し、高、中、低 3類型に分け、それらとの質問間クロス分析を実施したもの
2. 「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」充足度評価と日本の社会・国土形成充足度全体評価のクロス分析
3. 公共事業予算と社会・国土形成充足度評価、日本・居住地域の将来予測とのクロス分析

1. 社会・生活に関する不安、社会・生活に関する重要度を類型化したクロス分析

(1) ランクづけ(類型化)の方法 → 3つに区分け(類型化)

Q1Q2 得点ランク区分

社会・生活に関する不安(自分・生活地域) 非常に不安を感じる +2点 不安を感じる +1点 どちらともいえない 0点 不安は感じない -1点 全く不安は感じない -2点 とした各項目の加重平均の合計点を 左のように3つに区分けした	安全・安心 11項目	不安度-高	12～22点
		不安度-中	1～11点
		不安度-低	-22～0点
	活力・交流 8項目	不安度-高	9～16点
		不安度-中	1～8点
		不安度-低	-16～0点
	心豊かな暮らし 7項目	不安度-高	8～14点
		不安度-中	1～7点
		不安度-低	-14～0点
	全体 26項目	不安度-高	27～52点
		不安度-中	1～26点
		不安度-低	-52～0点
社会・生活に関する不安(日本全体・社会) 非常に不安を感じる +2点 不安を感じる +1点 どちらともいえない 0点 不安は感じない -1点 全く不安は感じない -2点 とした各項目の加重平均の合計点を 左のように3つに区分けした	安全・安心 11項目	不安度-高	12～22点
		不安度-中	1～11点
		不安度-低	-22～0点
	活力・交流 8項目	不安度-高	9～16点
		不安度-中	1～8点
		不安度-低	-16～0点
	心豊かな暮らし 7項目	不安度-高	8～14点
		不安度-中	1～7点
		不安度-低	-14～0点
	全体 26項目	不安度-高	27～52点
		不安度-中	1～26点
		不安度-低	-52～0点
社会・生活に関する重要度 非常に重要 +2点 重要 +1点 重要度は低い -1点 わからない 0点 とした各項目の加重平均の合計点を 左のように3つに区分けした	安全・安心 11項目	重要度-高	12～22点
		重要度-中	1～11点
		重要度-低	-11～0点
	活力・交流 11項目	重要度-高	12～22点
		重要度-中	1～11点
		重要度-低	-11～0点
	心豊かな暮らし 12項目	重要度-高	13～24点
		重要度-中	1～12点
		重要度-低	-12～0点
	全体 34項目	重要度-高	35～68点
		重要度-中	1～34点
		重要度-低	-34～0点

(参考：再掲Q 1、Q 2 質問項目)

社会・生活に関する不安

安全・安心 11 項目

- ア) 気候変動等に伴い、災害が頻発・激甚化する
- イ) 南海トラフ、首都圏直下型などの大地震が起こる
- ウ) 水害・台風の被害に遭う
- エ) 世界の食料事情が厳しくなり、食料供給に不安が生じる
- オ) 世界のエネルギー事情が厳しくなり、エネルギー供給に不安が生じる
- カ) 温暖化、酸性雨などの地球温暖化問題が進行する
- キ) 食品の安全性が損なわれる
- ク) テロ、戦争が発生する
- ケ) 治安が悪化し、犯罪が増加する
- コ) 原発事故、放射性物質による汚染が広がる
- サ) 交通事故、飛行機事故に遭う

活力・交流 8 項目

- シ) 世界の経済状況が悪化する
- ス) 日本の経済成長、景気が悪化する
- セ) 日本社会での経済等の格差が拡大する
- ソ) 人口減少・少子化・高齢化が進行する
- タ) 居住地域が衰退する
- チ) 地域間格差が拡大（東京一極集中、地方の疲弊）する
- ツ) 地域間や都市間の移動・交流を支える公共交通がなくなる
- テ) 効率性、採算性のよい施設しか維持されなくなる

心豊かな暮らし 7 項目

- ト) 自然・景観が損なわれる
- ナ) 子育て、教育などの環境が悪くなる
- ニ) 空き家が増えるなどで生活環境が悪化する
- ヌ) 買物や通勤・通学などの地域内の日常的な移動・交流を支える公共交通がなくなる
- ネ) 伝統ある地域文化が衰退する
- ノ) 暮らしを豊かにする地域活動が低下する
- ハ) 地域社会（コミュニティ）が衰退する

社会・生活に関する重要度

安全・安心 11 項目

- ア) 気候変動等に伴う災害の頻発・激甚化から護られること
- イ) 南海トラフ、首都圏直下型などの大地震から護られること
- ウ) 水害・台風から護られること
- エ) 食料供給不安に備えること
- オ) エネルギーが安定的に供給されること

- カ) 地球温暖化が進まないようにすること
- キ) 食品の安全性を確保すること
- ク) テロ、戦争が起きないようにすること
- ケ) 治安を維持し、犯罪を防ぐこと
- コ) 原発事故等を起こさないようにすること
- サ) 交通事故、飛行機事故を防ぐこと

活力・交流 11 項目

- シ) 強い国際競争力が保持されること
- ス) 活力ある日本の経済が保持されること
- セ) 活力ある地域の社会が保持されること
- ソ) 技術革新の進展、技術革新の展開がなされること
- タ) 観光振興がなされ、他地域や外国から多くの人が訪れること
- チ) 他地域、海外との活発な交流がなされること
- ツ) 地域間や都市間を円滑に人や物が移動できること
- テ) 情報交換が活発になされること
- ト) もっと便利で効率的に情報交換（入手）ができるための情報基盤施設が整備されること
- ナ) 雇用が維持され、収入が確保されること
- ニ) インフラ（社会資本）の保全により、経済や社会の効率・活力を高めること

心豊かな暮らし 12 項目

- ヌ) 家族が心豊かに快適に暮らせること
- ネ) 自分や家族が健康であること
- ノ) 自分や家族の仕事が充実していること
- ハ) 年金が十分に支給されること
- ヒ) 生活に必要な収入が確保されること
- フ) 医療・福祉体制が充実していること
- ヘ) 子育てや教育の環境が充実していること
- ホ) 相互に助け合う地域社会が維持されること
- マ) 快適で美しい街並みや居住環境が保持、形成されること
- ミ) 資源・エネルギーの再利用等がなされる循環型社会が構築されること
- ム) 人と自然が共生する生活を送れること
- メ) 地域の人々が快適で便利な社会生活を送れること

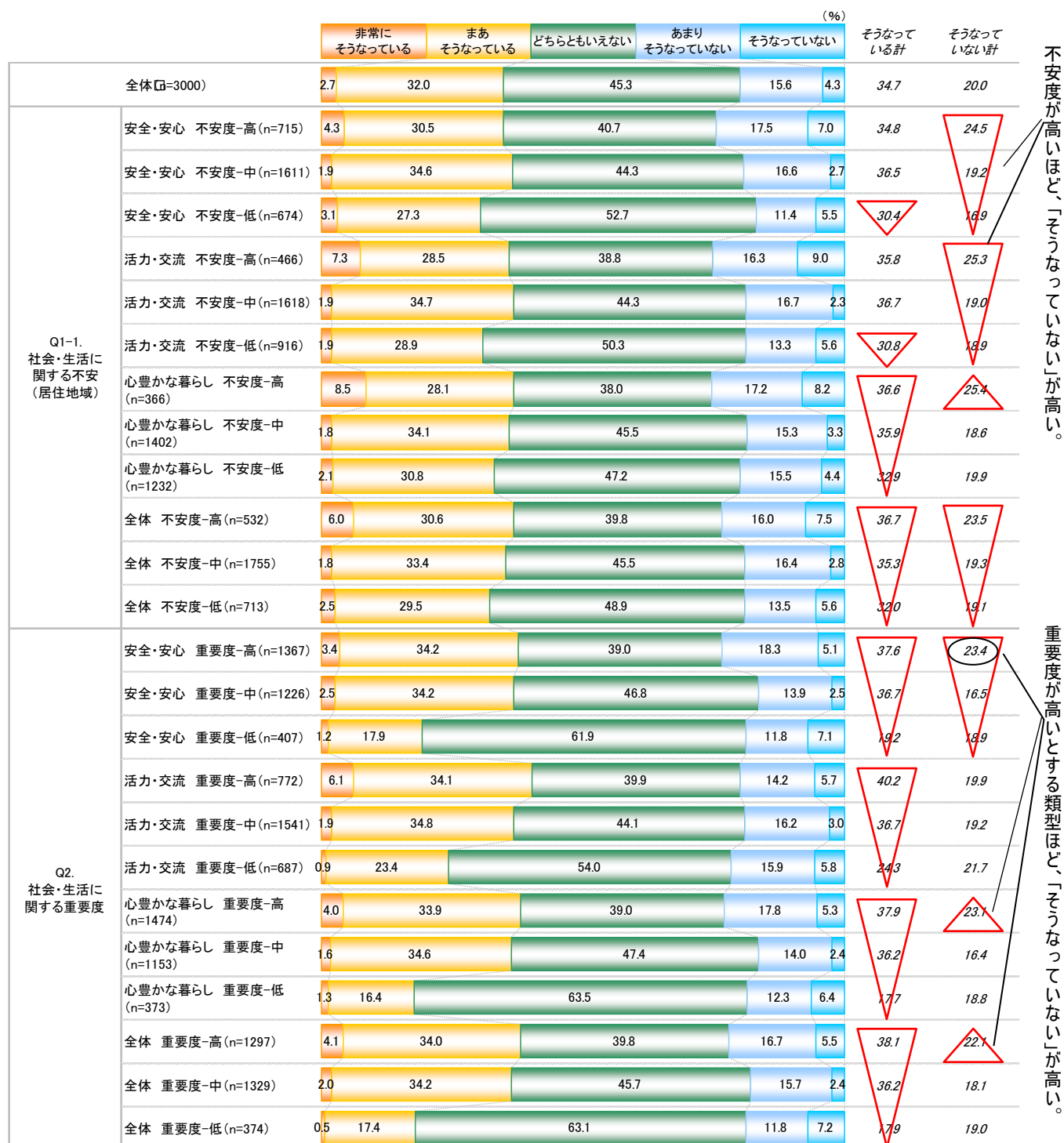
(2) 社会・生活に関する不安、重要度とのクロス分析結果

■安全で安心できる社会・国土形成に関する評価(居住地域)と社会・生活に関する不安・重要度評価の相関

- ・居住地で安全で安心できる社会や国土が形成されていると思うかについて、安全・安心に関し不安度の高い人ほど「そうになっている」とする人(類型)の割合が高い。その一方、「そうっていない」とする人の割合も安全・安心に不安度の高い人ほど高い。その理由は「どちらともいえない」とする人の割合が不安度の低い人ほど高いこと、その結果、不安度の低い人は「そうになっている」「そうっていない」両方とも少ないことによる。
- ・居住地で安全で安心できる社会や国土が形成されていると思うかについては、「活力・交流」、また「心豊かな暮らし」に関する不安度に関しても、不安度の高い人ほど「そうになっている」「そうっていない」とする人の割合が高く、「安全・安心」と同じ傾向が見られる。
- ・社会・生活に関する重要度評価、すなわち「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」の重要度、高・中・低と「安全で安心できる社会や国土が形成されていると思う」との評価の関係でも、重要度が高いとする人ほど「安全で安心できる社会や国土が形成されていると思う」に関し、「そうになっている」とする人の割合が高い。
- ・ただし、不安度同様、重要度高とする人で「そうっていない」とする人も多いとの傾向も見えてくる。

Q4. 自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成されていると思いますか。(それぞれひとつだけ)

<Q4-1.社会・国土形成 安心・安全 充足度【居住地域・空間】>

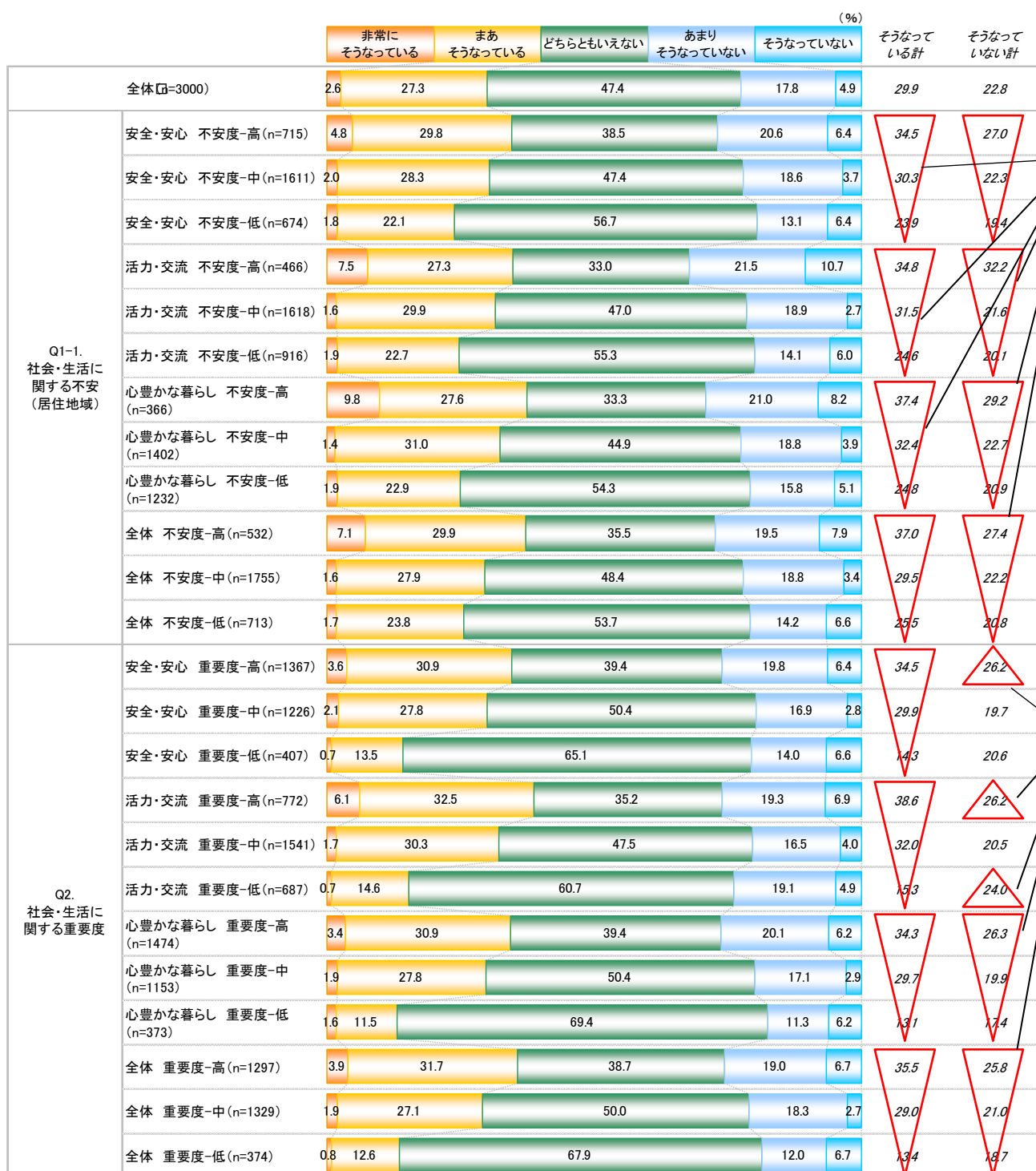


■人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土形成評価(居住地域)と社会・生活に関する不安・重要度評価の相関

- ・居住地で人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成されていると思うかについて、安全・安心に関し不安度の高い人ほど「そうになっている」とする人の割合が高い。その一方、「そうっていない」とする人の割合も安全・安心に不安度の高い人ほど高い。その理由は「どちらともいえない」とする人の割合が不安度の低い人ほど少ないこと、その結果、不安度の低い人は「そうになっている」「そうっていない」両方とも少ないことによる。
- ・居住地で人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成されていると思うかについては、「活力・交流」、また「心豊かな暮らし」に関する不安度に関しても、不安度の高い人ほど「そうになっている」「そうっていない」とする人の割合が高く、「安全・安心」と同じ傾向が見られる。
- ・社会・生活に関する重要度評価、すなわち「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」の重要度、高・中・低と「人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成されていると思う」との評価の関係でも、重要度が高いとする人ほど「人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成されていると思う」に関し、「そうになっている」とする人の割合が高い。その一方、重要度が高いとする人ほど「そうっていない」とする人の割合が高い傾向も見られる。

Q5. 人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成されていると思いますか。(それぞれひとつだけ)

<Q5-1.社会・国土形成 活力・交流 充足度【居住地域・空間】>



不安度が高いほど、「そうになっている」「そうっていない」の両方とも高い。

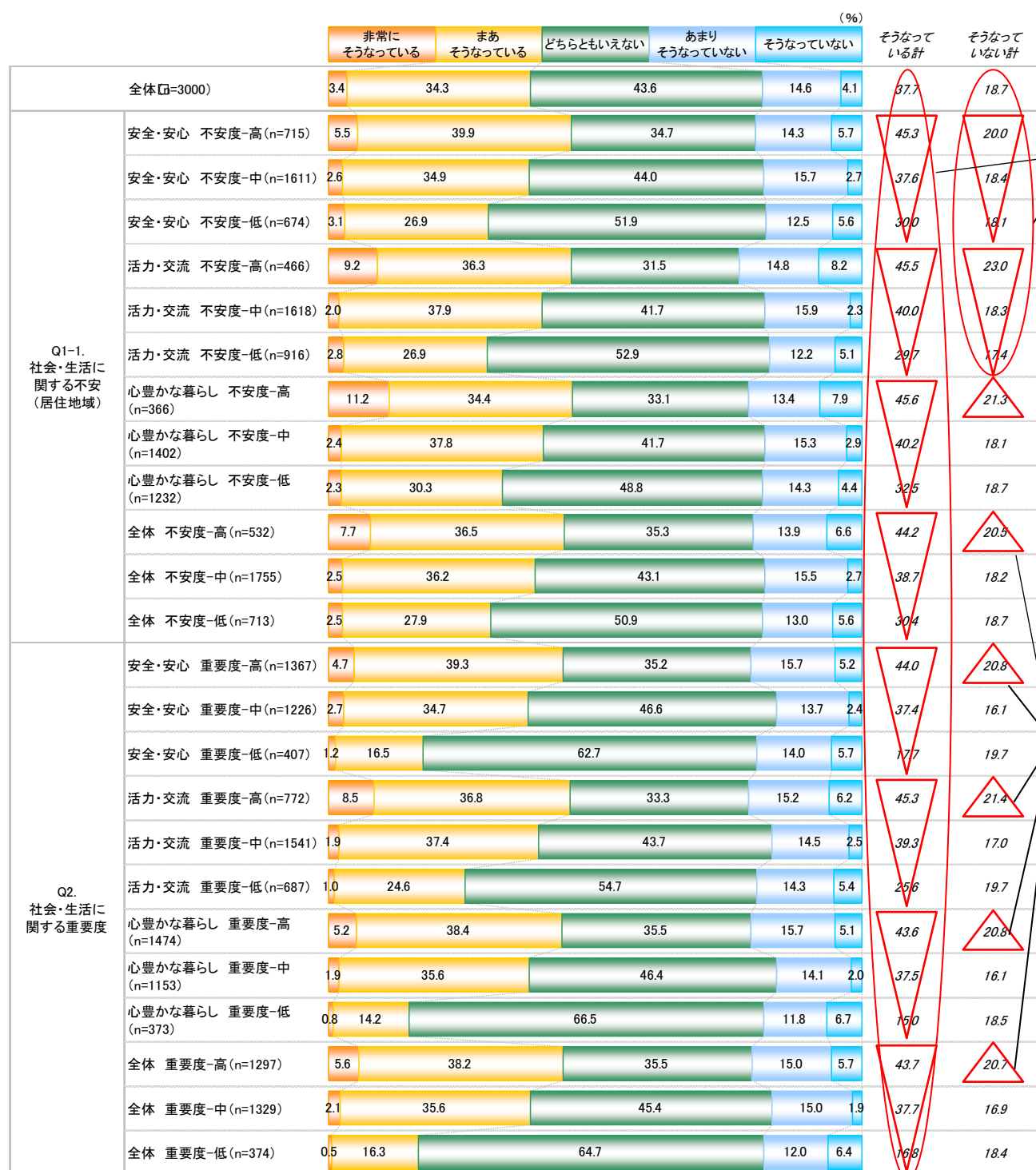
重要度が高いとする類型ほど、「そうっていない」が高い。

■快適で自然・計画に恵まれた(心豊かな)社会・国土形成評価(居住地域)と社会・生活に関する不安・重要度評価の相関

- ・居住地で心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成されていると思うかについて、安全・安心に関し不安度の高い人ほど「そうなっている」とする人の割合が高い。その一方、「そうなっていない」とする人の割合も安全・安心に不安度の高い人ほど高い。その理由は「どちらともいえない」とする人の割合が不安度の低い人ほど高いこと、その結果、不安度の低い人は「そうなっている」「そうなっていない」両方とも少ないことによる。
- ・居住地で心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成されていると思うかについては、「活力・交流」、また「心豊かな暮らし」に関する不安度に関しても、不安度の高い人ほど「そうなっている」「そうなっていない」とする人の割合が高く、「安全・安心」と同じ傾向が見られる。
- ・社会・生活に関する重要度評価、すなわち「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」の重要度、高・中・低と「心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成されていると思う」との評価の関係でも、重要度が高いとする人ほど「心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成されていると思う」に関し、「そうなっている」とする人の割合が高い。また、重要度が最も高い類型で「そうなっていない」とする人の割合が多い傾向もある。

Q6. 心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成されていると思いますか。(それぞれひとつだけ)

<Q6-1.社会・国土形成 心豊かな暮らし 充足度【居住地域・空間】>



不安度が高いほど、「そうなっている」「そうなっていない」の両方とも高い。

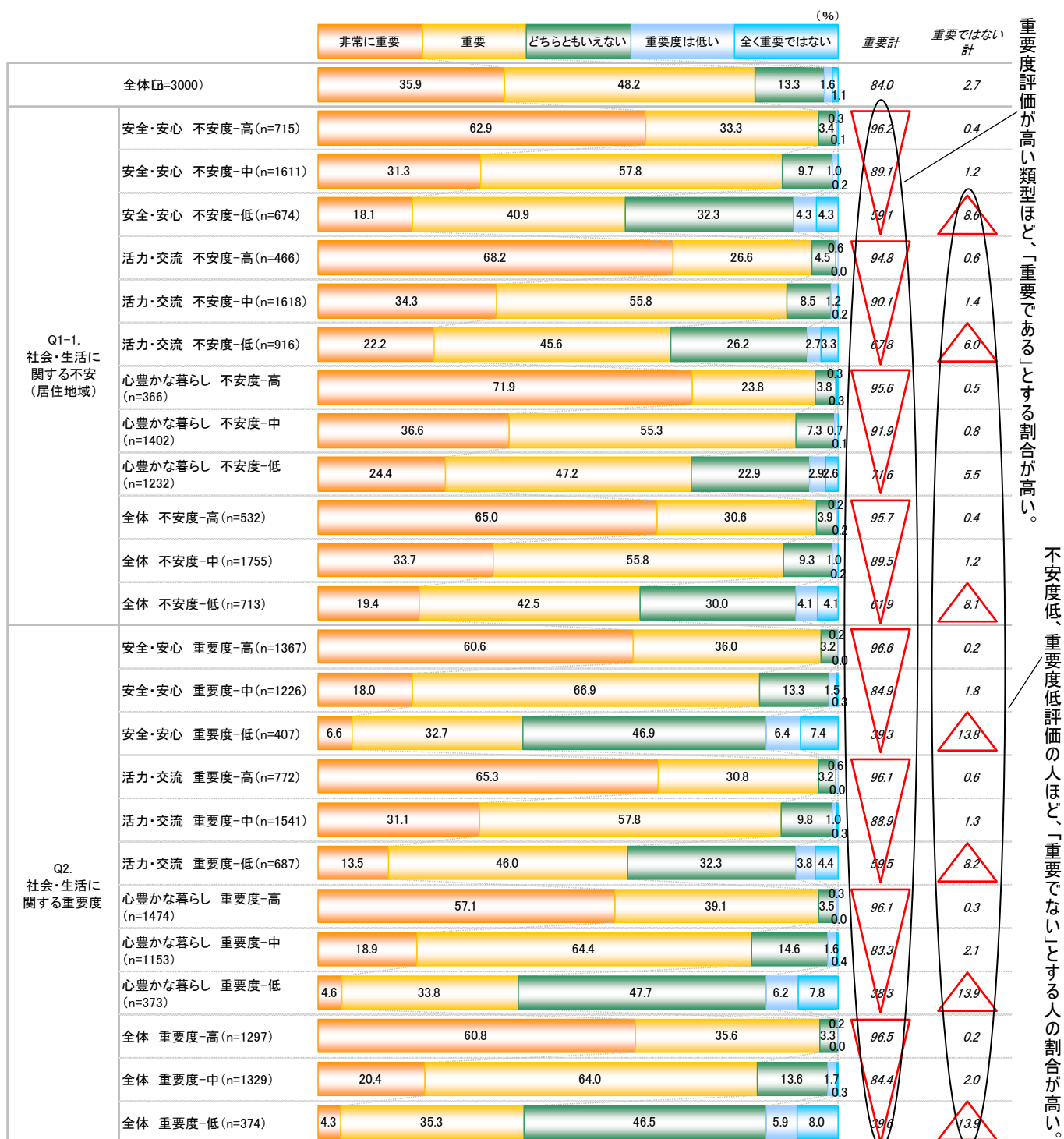
不安度、重要度が最も高い類型で「そうなっていない」が多い。

■安全で安心できる社会・国土の形成に関する重要度評価(居住地域)と生活・社会に関する不安・重要度評価の相関

- ・居住地で自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土を形成していくことは、重要だと思うかについて、安全・安心に関し不安度の高い人ほど「重要である」とする人の割合が高い。
- ・居住地で自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土を形成していくことは、重要だと思うかについては、「活力・交流」、また「心豊かな暮らし」に関する不安度に関しても、不安度の高い人ほど「重要である」とする人の割合が高く、「安全・安心」と同じ傾向が見られる。
- ・社会・生活に関する重要度評価、すなわち「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」の重要度、高・中・低と「心将来的に、自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土を形成していくことは、重要だと思う」との評価の関係でも、重要度が高いとする人ほど「将来的に、自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土を形成していくことは「重要である」とする人の割合が高い。
- ・なお、「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」に関し、不安度や重要度が最も低い類型では、安全で安心できる社会や国土を形成していくことが「重要でない」とする人の割合が高い。

Q4SQ1. 将来的に、自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。(○は一つ)

<Q4-3.社会・国土形成 安心・安全 重要度(居住地域)>

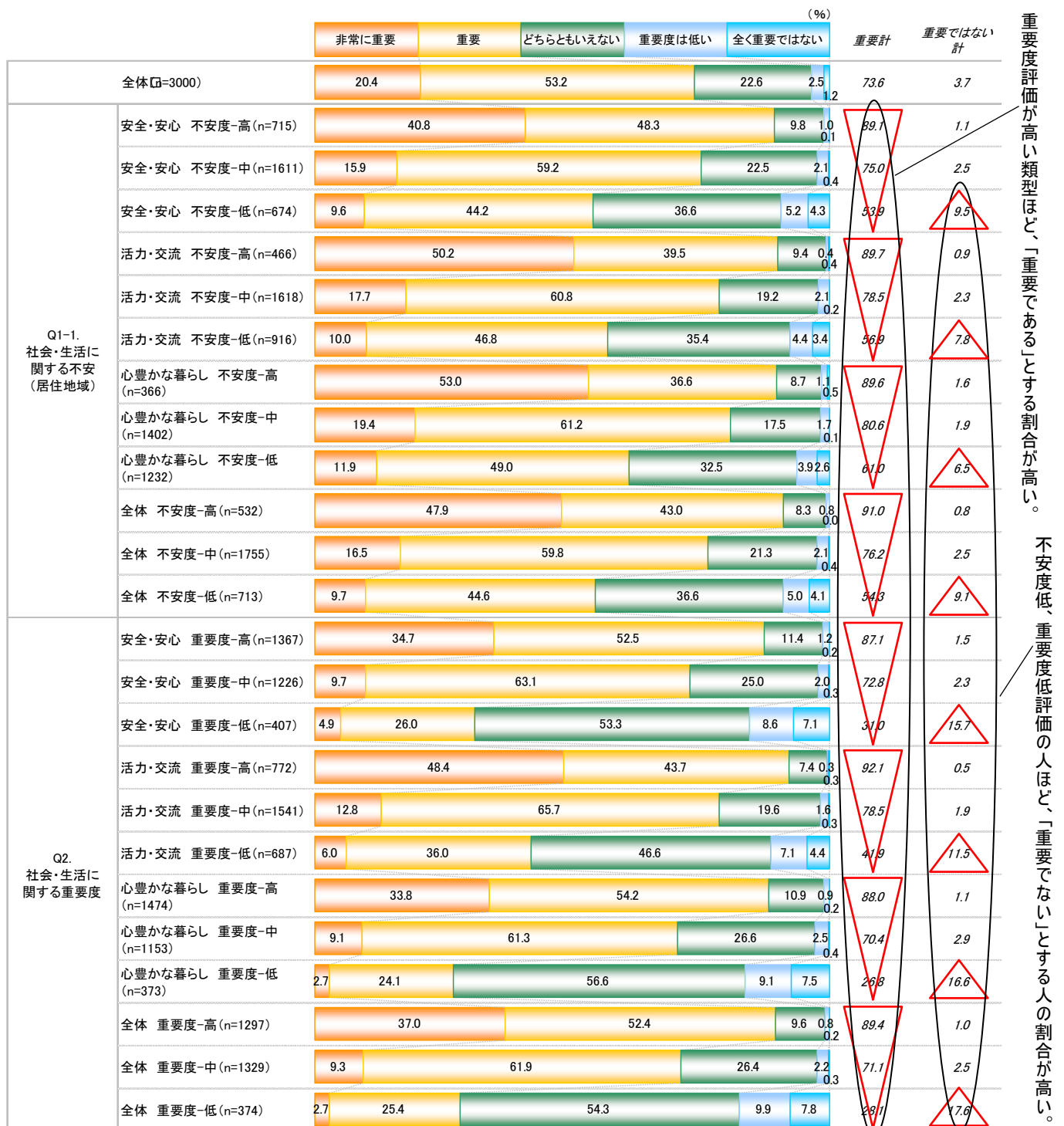


■活力のある社会・国土の形成に関する重要度評価(居住地域)と生活・社会に関する不安・重要度評価の相関

- ・居住地で人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土を形成していくことは、重要だと思うかについて、安全・安心に関し不安度の高い人ほど「重要である」とする人の割合が高い。
- ・居住地で人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土を形成していくことは、重要だと思うかについては、「活力・交流」、また「心豊かな暮らし」に関する不安度に関しても、不安度の高い人ほど「重要である」とする人の割合が高く、「安全・安心」と同じ傾向が見られる。
- ・社会・生活に関する重要度評価、すなわち「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」の重要度評価、高・中・低と「心将来的に、人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土を形成していくことは、重要だと思う」との評価の関係でも、重要度が高いとする人ほど「将来的に、人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土を形成していくことは、重要だと思う」とする人の割合が高い。
- ・なお、「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」に関し、不安度や重要度が最も低い類型では、人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土を形成していくことが「重要でない」とする人の割合が高い。

Q5SQ1. 将来的に、人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。(〇は一つ)

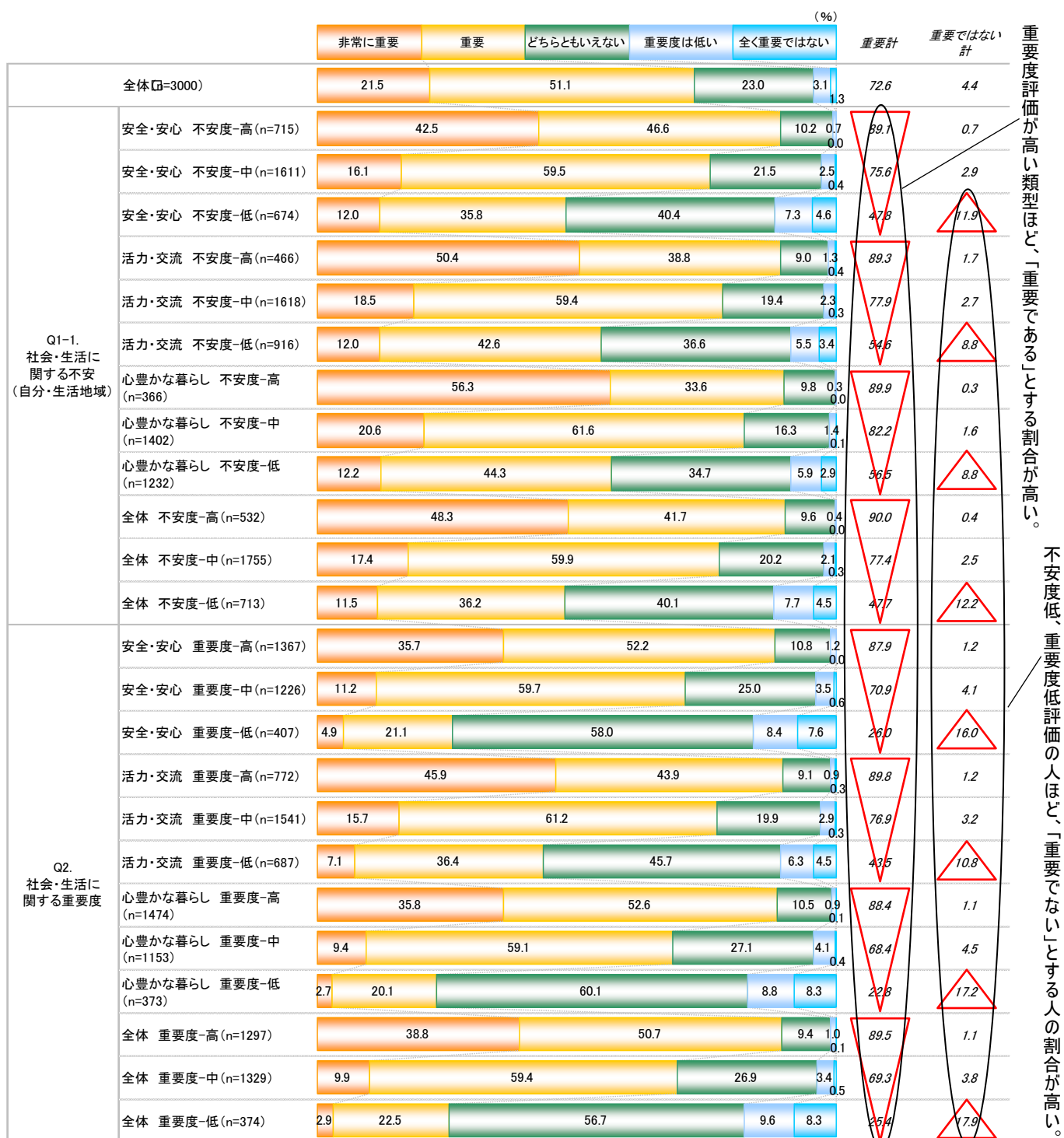
<Q5-3.社会・国土形成 交流・活力 重要度(居住地域)>



■快適で自然・景観に恵まれた(心豊かな)社会・国土の形成に関する重要度評価(居住地域)と生活・社会に関する不安・重要度評価の相関

- ・居住地で心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土を形成していくことは、重要だと思うかについて、安全・安心に関し不安度の高い人ほど「重要である」とする人の割合が高い。
- ・居住地で心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土を形成していくことは、重要だと思うかについては、「活力・交流」、また「心豊かな暮らし」に関する不安度に関しても、不安度の高い人ほど「重要である」とする人の割合が高く、「安全・安心」と同じ傾向が見られる。
- ・社会・生活に関する重要度評価、すなわち「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」の重要度、高・中・低と「将来的に、心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土を形成していくことは、重要だと思う」との評価の関係でも、重要度が高いとする人ほど「将来的に、心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土を形成していくことは、重要だと思う」に関し、「重要である」とする人の割合が高い。
- ・なお、「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」に関し、不安度や重要度が最も低い類型では、心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土を形成していくことが「重要でない」とする人の割合が高い。

Q6SQ1. 将来的に、心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。(○は一つ)
 <Q6-3.社会・国土形成 心豊かな暮らし 重要度(生活地域)>

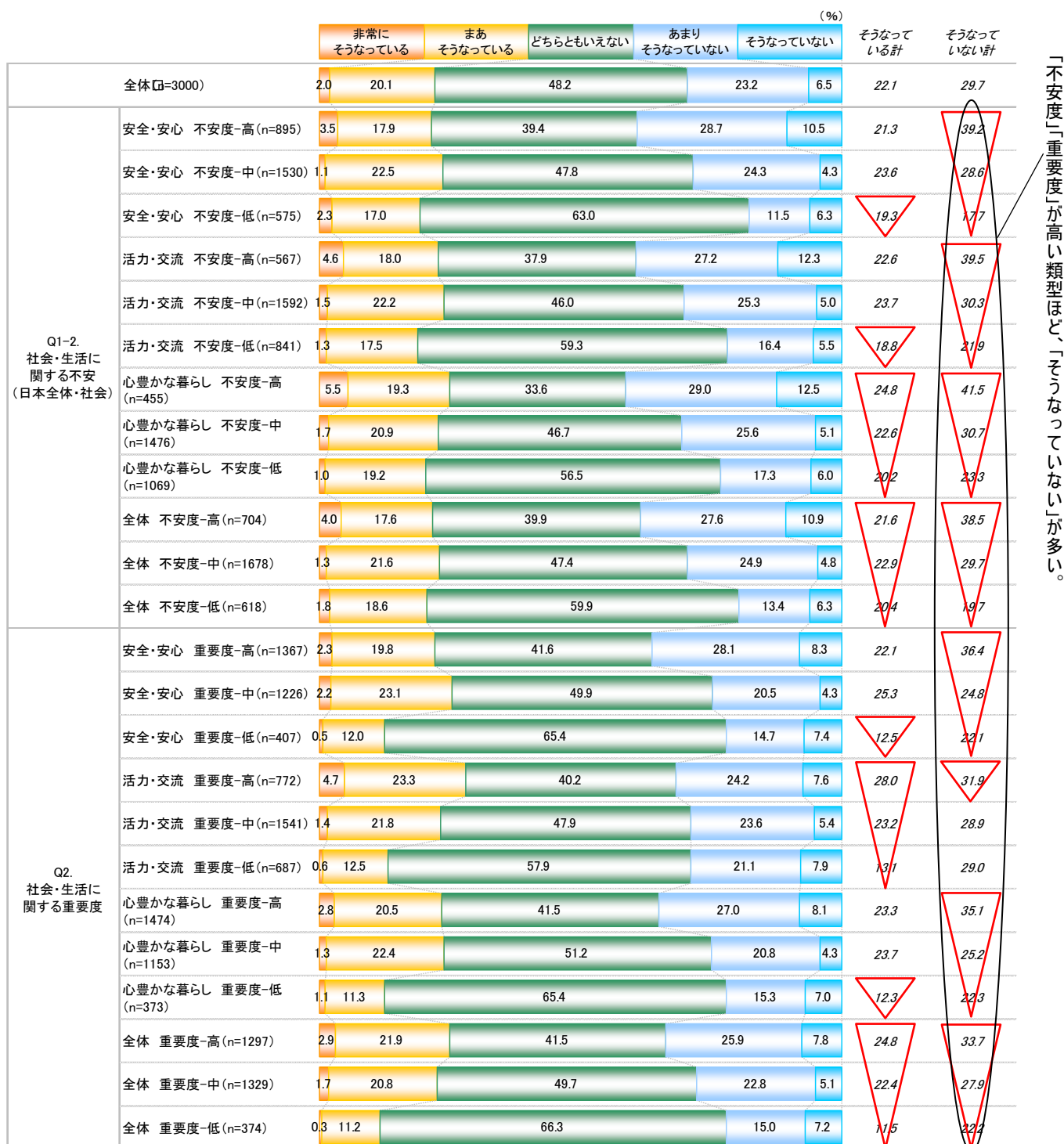


■安全で安心できる社会や国土の形成に関する評価(日本全体)と社会・生活に関する不安・重要度評価の相関

- ・日本全体で自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成されていると思うかについて、安全・安心に関し不安度の高い人ほど「そうっていない」とする人の割合が高い。
- ・日本全体で自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成されていると思うかについては、「心豊かな暮らし」に関する不安度に関して、不安度の高い人ほど「そうになっている」「そうっていない」も高いという傾向が見られる。
- ・社会・生活に関する重要度評価、すなわち「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」の重要度評価、高・中・低類型と日本全体で「将自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成されていると思う」との評価の関係でも、基本的に重要度が高いとするほど「自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成されていると思う」に関し、基本的に「そうになっている」とする人の割合が高い。また、基本的に重要度が高い人(類型)ほど「そうっていない」とする人の割合が高い。
- ・なお、不安度が低い類型及び重要度が低い類型ほど、「どちらともいえない」の割合が多くなる傾向がある。

Q4. 自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成されていると思いますか。(それぞれひとつだけ)

<Q4-2.社会・国土形成 安心・安全 充足度【日本全体】>

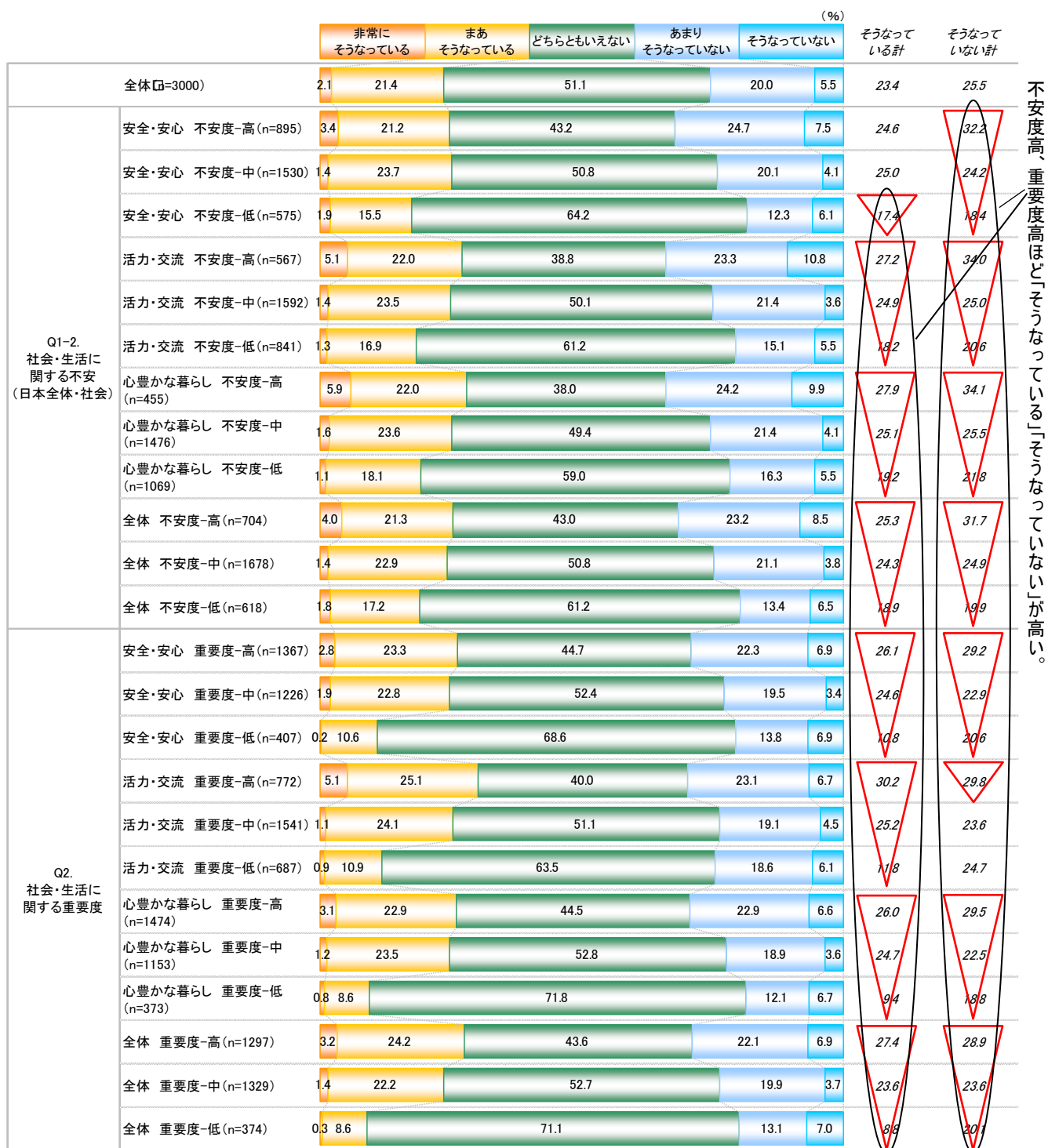


■活力のある社会や国土の形成に関する評価(日本全体)と社会・生活に関する不安・重要度評価の相関

- 日本全体で人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成されていると思うかについて、安全・安心に関し不安度の高い人(類型)ほど「そうなっている」とする人の割合が基本的に高い。その一方、「そうなっていない」とする人の割合も安全・安心に不安度の高い人ほど高い。その理由は「どちらともいえない」とする人の割合が不安度の低い人ほど高いこと、その結果、不安度の低い人は「そうなっている」「そうなっていない」両方ともく、「わからない」が多いことによる。
- 日本全体で人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成されていると思うかについては、「活力・交流」、また「心豊かな暮らし」に関する不安度に関しても、不安度の高い人ほど「そうなっている」「そうなっていない」とする人の割合が高く、「安全・安心」と同じ傾向が見られる。
- 社会・生活に関する重要度評価、すなわち「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」の重要度評価、高・中・低類型と「人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成されていると思う」との評価の関係でも、重要度が高いとする人ほど「人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成されていると思う」に関し、「そうなっている」とする人の割合が高い。一方、「そうなっていない」とする人の割合も高い傾向が見られる。これも重要度低類型の人ほど「どちらともいえない」が多いことによる。

Q5. 人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成されていると思いますか。(それぞれひとつだけ)

<Q5-2.社会・国土形成 活力・交流 充足度【日本全体】>

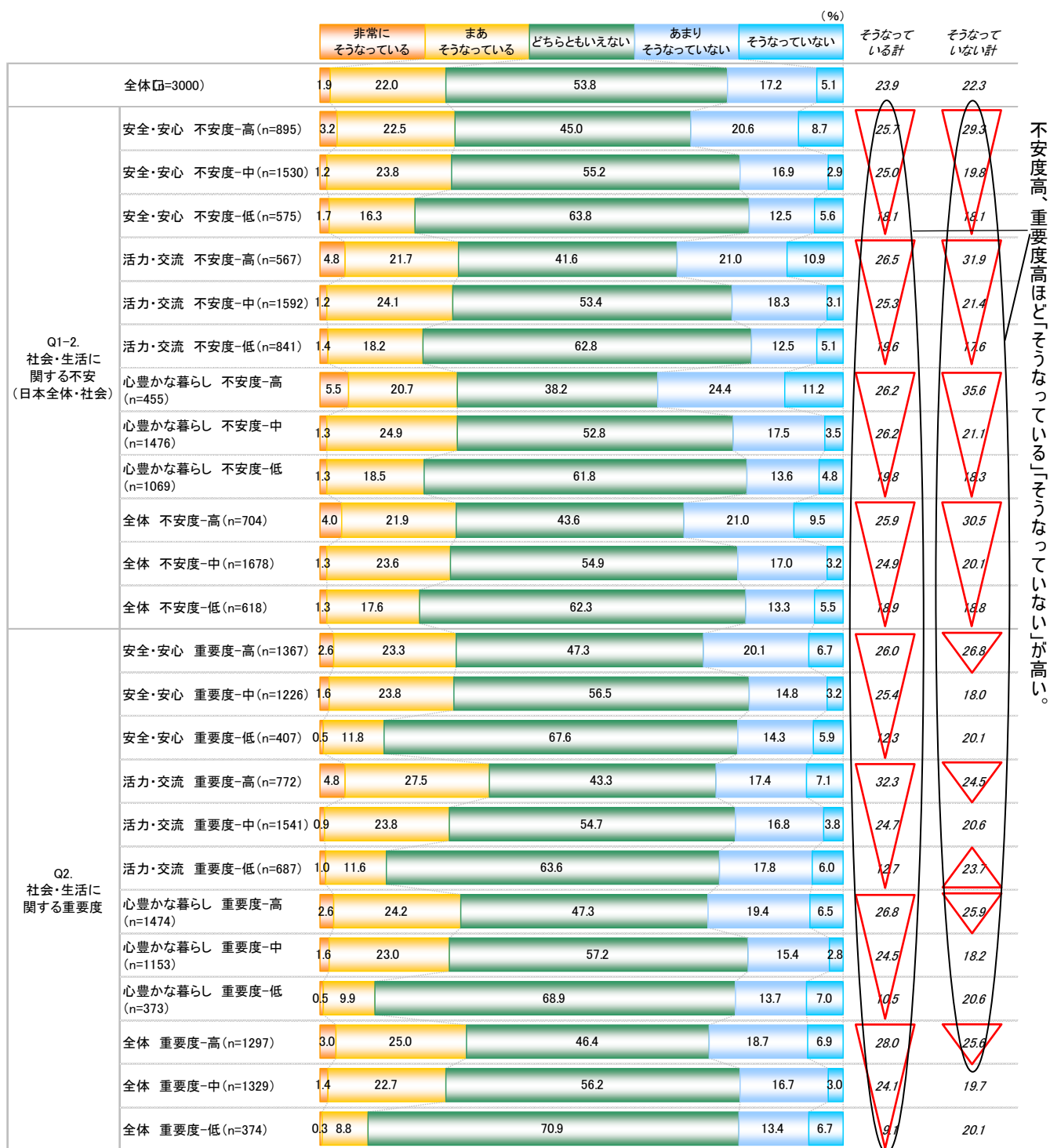


■心豊かに暮らせる社会や国土の形成に関する評価(日本全体)と社会・生活に関する不安・重要度評価の相関

- ・日本全体で心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成されていると思うかについて、安全・安心に関し不安度の高い人ほど「そうになっている」とする人の割合が高い。その一方、「そうになっていない」とする人の割合も安全・安心に不安度の高い人ほど高い。その理由は「どちらともいえない」とする人の割合が不安度の低い人ほど高いこと、その結果、不安度の低い人は「そうになっている」「そうになっていない」両方とも少ないことによる。
- ・日本全体で心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成されていると思うかについては、「活力・交流」、また「心豊かな暮らし」に関する不安度に関しても、不安度の高い人ほど「そうになっている」「そうになっていない」とする人の割合が高く、「安全・安心」と同じ傾向が見られる。
- ・社会・生活に関する重要度評価、すなわち「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」の重要度評価、高・中・低類型と「心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成されていると思う」との評価の関係でも、重要度が高いとする人ほど「心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成されていると思う」に関し、「そうになっている」とする人の割合が高い。一方、「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」の重要度評価高類型ほど「そうになっていない」とする割合が高い傾向が見られる。

Q6. 心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成されていると思いますか。(それぞれひとつだけ)

<Q6-2.社会・国土形成 心豊かな暮らし 充足度【日本全体】>

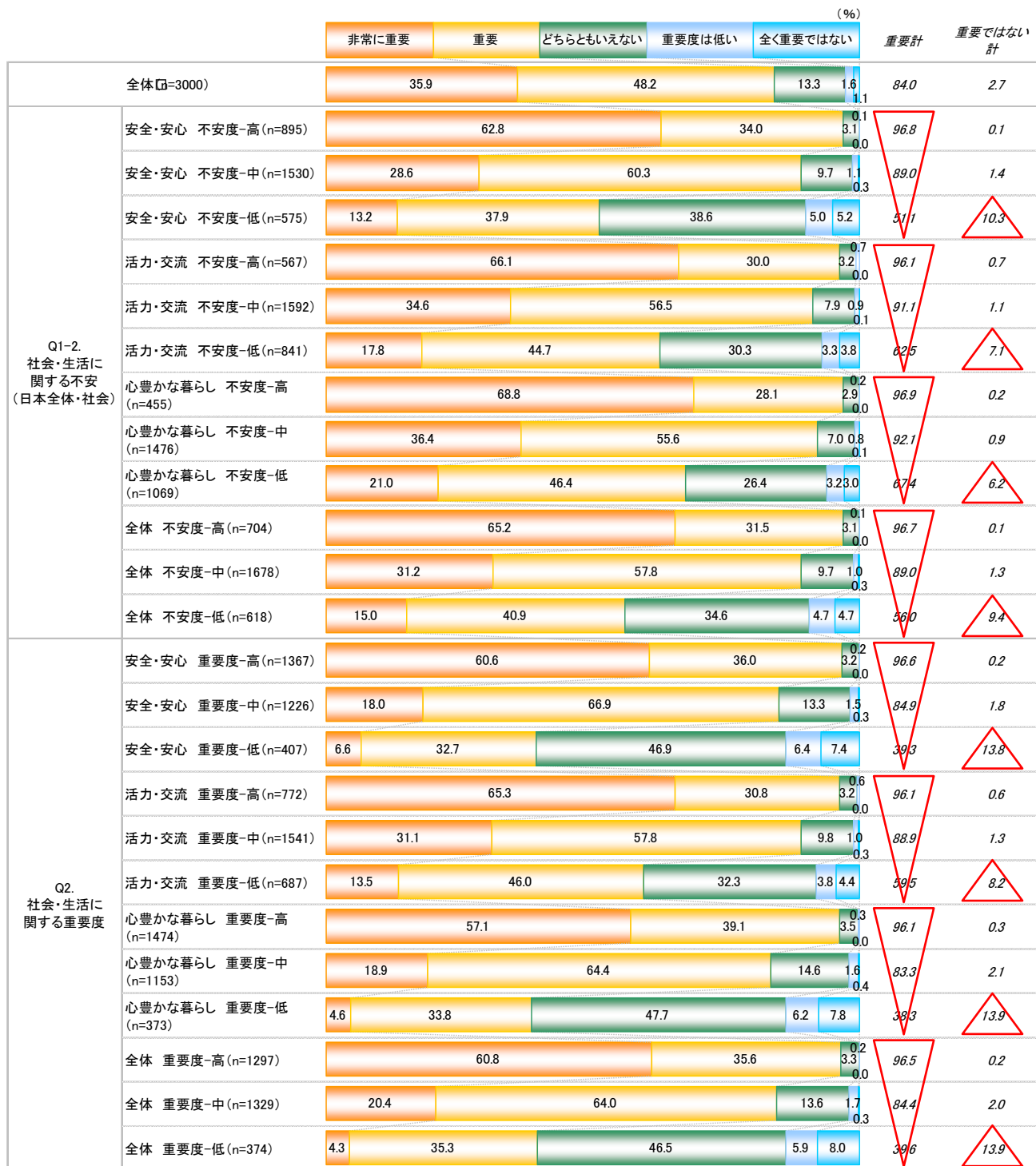


■安全で安心できる社会や国土の形成(日本全体)の重要度評価と社会・生活に関する不安・重要度評価の相関

- ・日本全体で自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土を形成していくことは、重要だと思うかに関し、社会・生活に関する不安、すなわち「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」に関する不安度が高い人ほど重要とする人の割合が高く、不安が低い人ほど重要とする人の割合が低くなる。
- ・また同様に、「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」で重要度評価が高いとする人ほど、安全で安心できる社会や国土を形成していくことは、重要だと思うとする人の割合が多い。
- ・一方、社会・生活に関する不安度や重要度評価が最も低い類型ほど、自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土を形成していくことに関し、「重要でない」とする人の割合が他類型より高い傾向がみられる。

Q4SQ1. 将来的に、自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。(〇は一つ)

<Q4-3.社会・国土形成 安心・安全 重要度(日本全体)>

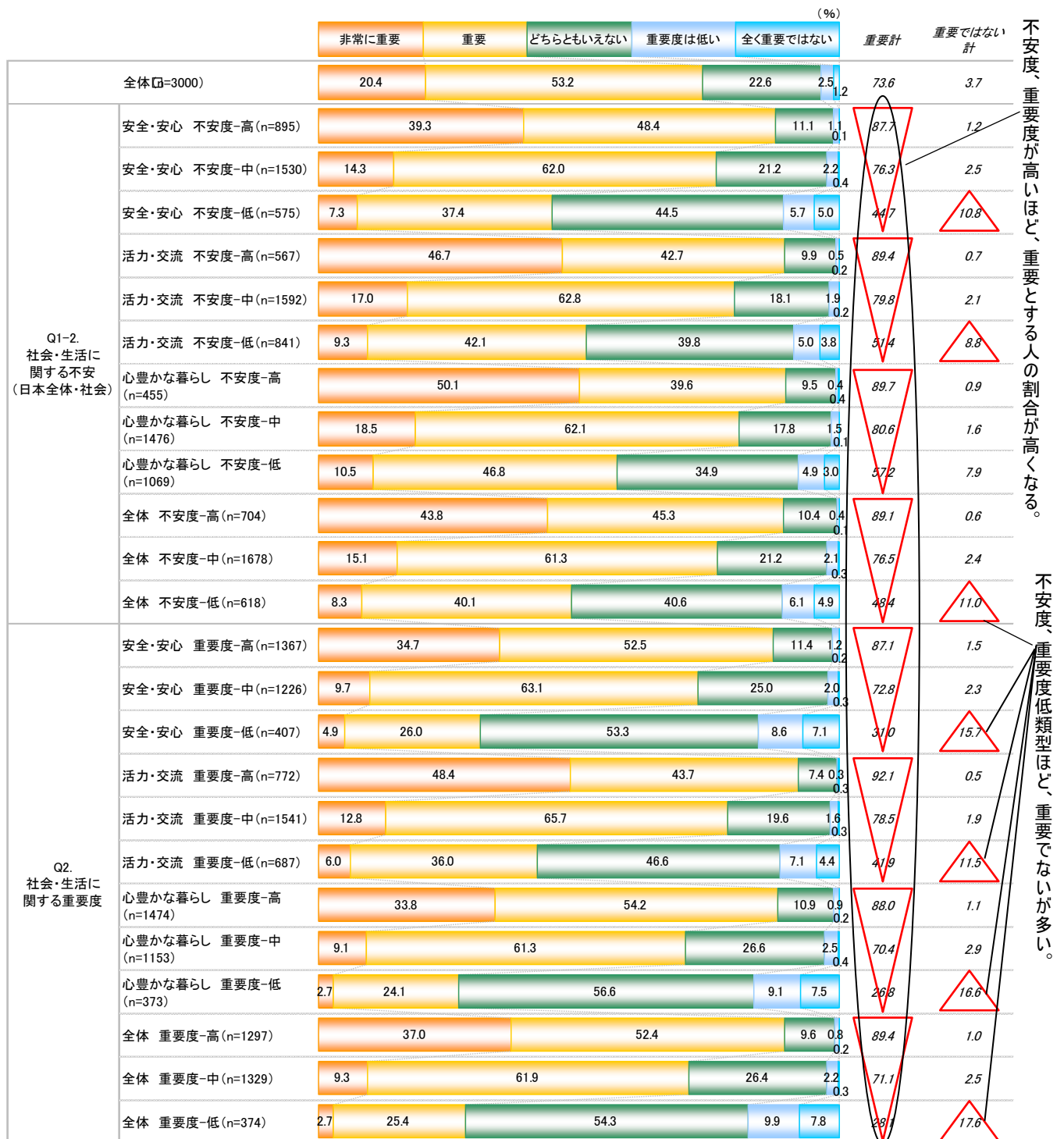


■活力ある社会や国土の形成(日本全体)の重要度評価と社会・生活に関する不安・重要度評価の相関

- 日本全体で人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土を形成していくことは、重要だと思うかに関し、社会・生活に関する不安、すなわち「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」に関する不安度が高い人ほど重要とする人の割合が高く、不安が低い人ほど重要とする人の割合が低くなる。「重要ではない」とする人の割合は、不安度が低い人ほど高くなる。
- これは、人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土を形成していくことが「重要だと思う」に関する重要度評価と、社会・生活に関する重要度評価の間でも同じであり、「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」で重要度評価が高いとする人ほど、将来的に、人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土を形成していくことは、重要だと思うとする人の割合が多い。
- 一方、社会・生活に関する不安度や重要度評価が最も低い類型ほど、人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土を形成していくことに関し、「重要でない」とする人の割合が他類型より高い傾向がみられる。

Q5SQ1. 将来的に、人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。(〇は一つ)

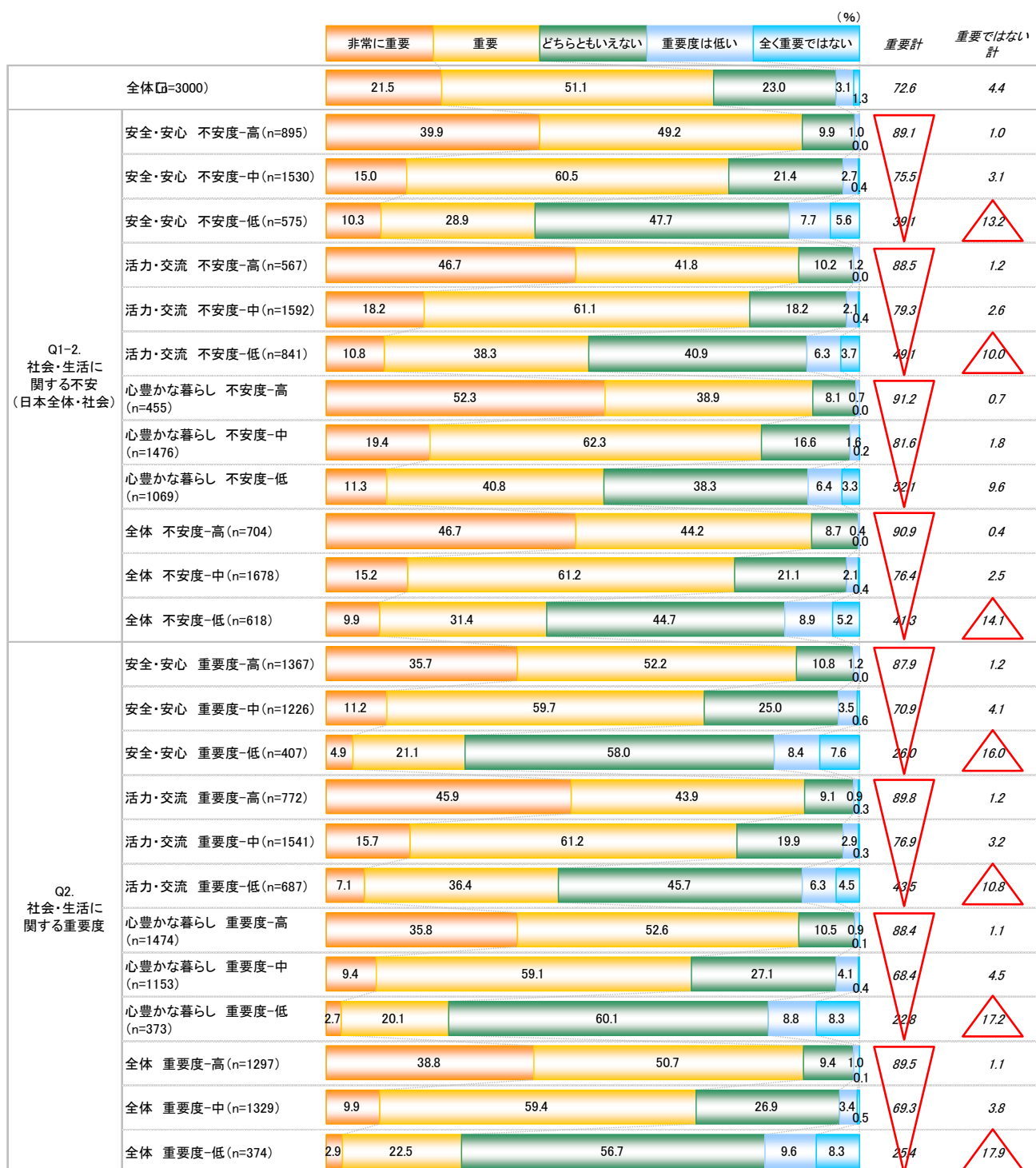
<Q5-3.社会・国土形成 交流・活力 重要度(日本全体)>



■心豊かな社会や国土の形成(日本全体)の重要度評価と社会・生活に関する不安・重要度評価の相関

- 日本全体で心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土を形成していくことは、重要だと思うかに関し、社会・生活に関する不安、すなわち「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」に関する不安度が高い人ほど重要とする人の割合が高く、不安が低い人ほど重要とする人の割合が低くなる。
- これは、心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土を形成していくことが「重要だと思う」に関する重要度評価と、社会・生活に関する重要度評価の間でも同じであり、「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」で重要度評価が高いとする人ほど、将来的に、心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土を形成していくことは、重要だと思うとする人の割合が多い。
- 一方、社会・生活に関する不安度や重要度評価が最も低い類型ほど、心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土を形成していくことに関し、「重要でない」とする人の割合が他類型より高い傾向がみられる。

Q6SQ1. 将来的に、心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。(○は一つ)
 <Q6-3.社会・国土形成 心豊かな暮らし 重要度(日本全体)>

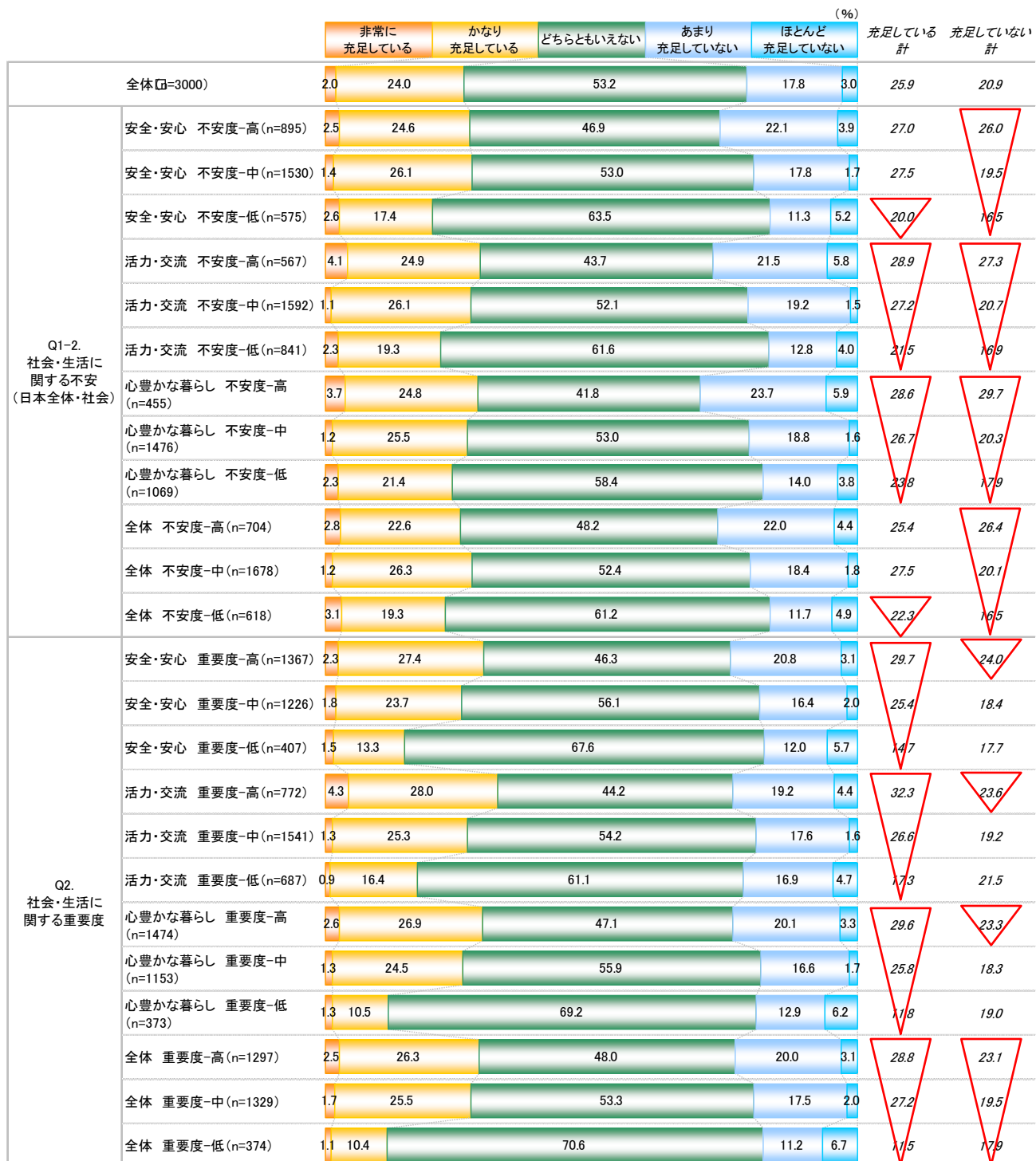


■社会資本の状況に関する全体評価(日本全体)と社会・生活に関する不安・重要度評価の相関

- ・日本全体のインフラ(社会資本)の充足度に関し、社会・生活に関する不安度、すなわち「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」に関する不安度が高い人(類型)ほど、基本的に「充足している」とする人の割合が高い。また、不安度が高い人ほど「充足していない」とする人の割合も高い。これも不安度の低い人ほど「どちらともいえない」とする割合が高いためであると考えられる。
- ・日本全体のインフラ(社会資本)の充足度と社会・生活に関する重要度、すなわち「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」に関する重要度に関しても、各々の重要度が高いとする人(類型)ほど「充足している」とする人の割合が高い。重要度が高いとする類型の人ほど、「充足していない」とする人の割合も高い。その理由は上と同じで、重要度が低いとする類型ほど「どちらともいえない」の割合が高くなるためと考えられる。

Q8. これまで、個別のインフラ(社会資本)についてあなたのご意見を伺ってきましたが、あなたはこういったインフラ(社会資本)が、全体としてどの程度充足していると考えますか。(それぞれひとつだけ)

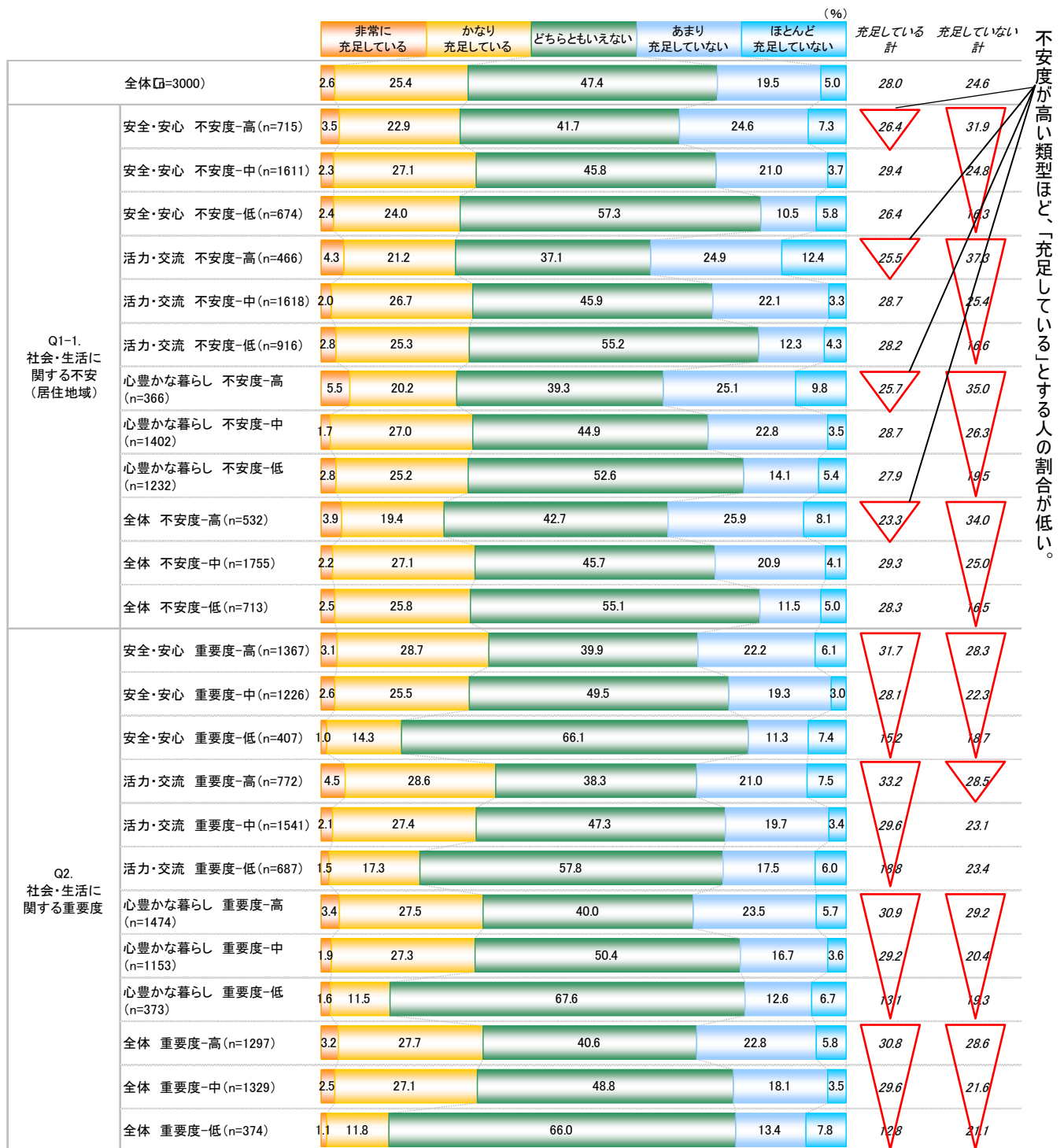
<Q8-1.社会資本の状況全体評価(日本全体)>



■社会資本の状況に関する全体評価(居住地域)と社会・生活に関する不安・重要度評価の相関

- 居住地域のインフラ(社会資本)の充足度に関し、社会・生活に関する不安度、すなわち「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」に関する不安度が高い人ほど、基本的に「充足している」とする人の割合が低い(これは日本全体とは異なった傾向)。また、不安度が高い人ほど「充足していない」とする人の割合も高い。
- 居住地域のインフラ(社会資本)の充足度と社会・生活に関する重要度、すなわち「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」に関する重要度に関しても、各々の重要度が高いとする人ほど「充足している」とする人の割合が高い。重要度が高いとする類型の人ほど、「充足していない」とする人の割合も高い。これも不安度の高い人ほど「わからない」とする割合が低いためであると考えられる。

<Q8-2.社会資本の状況全体評価(居住地域)>



■日本の将来予測と社会・生活に関する不安・重要度評価の相関

- 日本の将来像(日本全体)と日本全体の社会・生活に関する不安度の関係を見ると、「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」いずれでも「不安度が高い人」(類型)ほど「衰退する日本」とする人の割合が高く、いずれも不安度中に分類される人(類型)で「定常社会の日本」とする人の割合が3類型では最も多く、また不安度低類型では「活力を保持した日本」「成長する日本」の割合が他の2類型より高い。
- 日本の将来像(日本全体)と社会・生活に関する重要度の関係を見ると、「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」いずれでも重要度が高い人(類型)ほど「衰退する日本」とする人の割合が高く、いずれも重要度中に分類される人(類型)で「定常社会の日本」とする人の割合が3類型では最も多く、また重要度低類型では「活力を保持した日本」「成長する日本」の割合が他の2類型より高い。

Q26-1. 将来の日本が最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

<Q26-1. 日本の将来像(日本全体)>

		(%)				加重平均
		衰退する日本	定常社会の日本	活力を保持した日本	生産性が向上、成長する日本	
全体(n=3000)		47.3	35.7	11.7	5.3	-0.25
Q1-2. 社会・生活に関する不安 (日本全体・社会)	安全・安心 不安度-高(n=895)	56.2	31.7	8.8	3.2	-0.41
	安全・安心 不安度-中(n=1530)	45.9	39.2	11.3	3.5	-0.28
	安全・安心 不安度-低(n=575)	36.9	32.7	17.2	13.2	0.07
	活力・交流 不安度-高(n=567)	64.6	24.9	7.9	2.6	-0.51
	活力・交流 不安度-中(n=1592)	46.2	40.0	9.9	3.9	-0.28
	活力・交流 不安度-低(n=841)	37.7	35.0	17.6	9.8	-0.01
	心豊かな暮らし 不安度-高(n=455)	64.4	24.4	7.9	3.3	-0.50
	心豊かな暮らし 不安度-中(n=1476)	47.2	38.7	10.4	3.7	-0.29
	心豊かな暮らし 不安度-低(n=1069)	40.0	36.5	15.1	8.4	-0.08
	全体 不安度-高(n=704)	61.2	27.8	8.0	3.0	-0.47
	全体 不安度-中(n=1678)	45.0	40.2	11.0	3.8	-0.26
	全体 不安度-低(n=618)	37.5	32.5	18.0	12.0	0.04
Q2. 社会・生活に関する重要度	安全・安心 重要度-高(n=1367)	53.7	33.4	9.7	3.2	-0.38
	安全・安心 重要度-中(n=1226)	43.7	39.2	12.2	4.9	-0.22
	安全・安心 重要度-低(n=407)	36.4	32.9	17.2	13.5	0.08
	活力・交流 重要度-高(n=772)	55.2	30.6	10.0	4.3	-0.37
	活力・交流 重要度-中(n=1541)	44.6	38.9	11.9	4.6	-0.23
	活力・交流 重要度-低(n=687)	44.4	34.5	13.1	8.0	-0.15
	心豊かな暮らし 重要度-高(n=1474)	52.3	34.2	9.6	3.9	-0.35
	心豊かな暮らし 重要度-中(n=1153)	45.3	38.4	12.3	4.0	-0.25
	心豊かな暮らし 重要度-低(n=373)	33.5	33.5	18.2	14.7	0.14
	全体 重要度-高(n=1297)	53.4	32.5	10.0	4.0	-0.35
	全体 重要度-中(n=1329)	44.5	39.7	11.8	4.1	-0.25
	全体 重要度-低(n=374)	35.8	32.9	17.1	14.2	0.10

■地域の将来予測と社会・生活に関する不安・重要度評価の相関

- 日本の将来像(居住地域)と日本全体の社会・生活に関する不安度の関係を見ると、「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」いずれでも不安度が高い人ほど「衰退する日本」とする人の割合が高くなる。不安度中に分類される人(類型)では、不安度高類型に比べ「衰退していく地域」が減り、「質の高い生活がそれなりに維持される地域」とする人が多い。また不安度低類型では「便利で快適な地域」「成長性の高い便利で快適な地域」の割合が他の2類型より高い。
- 日本の将来像(居住地域)と社会・生活に関する重要度の関係を見ると、「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」いずれでも重要度が高いとする人(類型)ほど「衰退していく地域」とする人の割合が高く、いずれも重要度中に分類される人(類型)で不安度高類型に比べ「衰退していく地域」が減り、「質の高い生活がそれなりに維持される地域」とする人が多い。また重要度低類型では「便利で快適な地域」「成長性の高い便利で快適な地域」の割合が他の2類型より高い。

Q27-1.あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

<Q27-1.日本の将来像(居住地域)>

		(%)				加重平均
		衰退していく地域	質の高い生活がそれなりに維持される地域	便利で快適な地域	成長性の高い便利で快適な地域	
全体(n=3000)		44.4	31.6	20.1	4.0	-0.16
Q1-1. 社会・生活に関する不安 (居住地域)	安全・安心 不安度-高(n=715)	50.6	28.5	17.8	3.1	-0.27
	安全・安心 不安度-中(n=1611)	45.1	33.2	18.6	3.1	-0.20
	安全・安心 不安度-低(n=674)	36.1	30.9	26.1	7.0	0.04
	活力・交流 不安度-高(n=466)	58.6	21.9	17.0	2.6	-0.36
	活力・交流 不安度-中(n=1618)	46.4	33.0	17.6	3.0	-0.23
	活力・交流 不安度-低(n=916)	33.5	34.0	26.1	6.4	0.05
	心豊かな暮らし 不安度-高(n=366)	53.6	24.3	18.9	3.3	-0.28
	心豊かな暮らし 不安度-中(n=1402)	46.8	31.6	18.5	3.1	-0.22
	心豊かな暮らし 不安度-低(n=1232)	38.9	33.7	22.3	5.1	-0.06
	全体 不安度-高(n=532)	52.6	24.6	19.5	3.2	-0.27
	全体 不安度-中(n=1755)	45.6	33.2	18.1	3.1	-0.21
	全体 不安度-低(n=713)	35.2	32.7	25.5	6.6	0.04
Q2. 社会・生活に関する重要度	安全・安心 重要度-高(n=1367)	47.8	32.0	17.6	2.6	-0.25
	安全・安心 重要度-中(n=1226)	42.9	33.0	20.6	3.6	-0.15
	安全・安心 重要度-低(n=407)	37.1	26.0	27.3	9.6	0.09
	活力・交流 重要度-高(n=772)	47.5	29.8	19.9	2.7	-0.22
	活力・交流 重要度-中(n=1541)	44.1	33.2	19.3	3.4	-0.18
	活力・交流 重要度-低(n=687)	41.3	30.0	22.1	6.6	-0.06
	心豊かな暮らし 重要度-高(n=1474)	46.4	31.1	19.5	2.9	-0.21
	心豊かな暮らし 重要度-中(n=1153)	46.1	32.9	17.8	3.3	-0.22
	心豊かな暮らし 重要度-低(n=373)	31.1	29.2	29.5	10.2	0.19
	全体 重要度-高(n=1297)	47.3	30.4	19.7	2.7	-0.22
	全体 重要度-中(n=1329)	44.3	33.9	18.1	3.8	-0.19
	全体 重要度-低(n=374)	34.5	27.5	28.9	9.1	0.13

■公共事業予算の今後の増減評価と社会・生活に関する不安・重要度評価の相関

- ・今後の公共事業の予算について、社会・生活に関し不安度の高い人ほど、また社会・生活に関する重要度が各分野で高いとする人(類型)ほど「増やすべき+増やさざるを得ない」とする人の割合が高い。それと対応する形で、「減らしていくべき+減らさざるを得ない」とする人の割合も社会・生活に不安度の高い人ほど、また社会・生活に関する重要度が各分野で高いとする人(類型)ほど高い。

Q30. あなたは、今後の公共事業の予算をどうすべきだと思いますか。上記の結果も見た上でお答えください。

＜Q30.公共事業費増減評価＞

		(%)						
		増やしていくべき	増やさざるを得ない	平成29年度程度とすべき	減らさざるを得ない	減らしていくべき	増やすべき+増やさざるを得ない計	減らしていくべき+減らさざるを得ない計
全体(n=3000)		7.4	33.9	34.3	15.6	8.8	41.3	24.4
Q1-1. 社会・生活に関する不安 (居住地域)	安全・安心 不安度-高(n=715)	8.7	39.3	31.0	13.6	7.4	48.0	21.0
	安全・安心 不安度-中(n=1611)	6.6	34.3	34.8	16.1	8.3	40.9	24.3
	安全・安心 不安度-低(n=674)	8.0	27.3	36.6	16.5	11.6	35.3	28.0
	活力・交流 不安度-高(n=466)	10.7	38.6	29.8	12.4	8.4	49.4	20.8
	活力・交流 不安度-中(n=1618)	6.6	36.2	33.6	16.9	6.7	42.8	23.7
	活力・交流 不安度-低(n=916)	7.2	27.5	37.9	14.7	12.7	34.7	27.4
	心豊かな暮らし 不安度-高(n=366)	10.7	39.1	31.4	11.7	7.1	49.7	18.9
	心豊かな暮らし 不安度-中(n=1402)	6.8	38.0	32.6	15.2	7.3	44.9	22.5
	心豊かな暮らし 不安度-低(n=1232)	7.1	27.7	37.1	17.1	11.0	34.8	28.1
	全体 不安度-高(n=532)	10.5	40.8	29.5	12.0	7.1	51.3	19.2
	全体 不安度-中(n=1755)	5.9	35.0	34.7	16.8	7.6	40.9	24.4
	全体 不安度-低(n=713)	8.8	26.1	36.9	15.1	13.0	34.9	28.2
Q1-2. 社会・生活に関する不安 (日本全体・社会)	安全・安心 不安度-高(n=895)	8.3	39.3	29.7	14.7	7.9	47.6	22.7
	安全・安心 不安度-中(n=1530)	6.9	34.6	35.0	15.9	7.5	41.5	23.5
	安全・安心 不安度-低(n=575)	7.5	23.7	39.5	15.8	13.6	31.1	29.4
	活力・交流 不安度-高(n=567)	10.6	37.2	29.8	14.1	8.3	47.8	22.4
	活力・交流 不安度-中(n=1592)	6.7	36.9	33.2	16.0	7.2	43.7	23.1
	活力・交流 不安度-低(n=841)	6.7	25.9	39.4	15.8	12.2	32.6	28.1
	心豊かな暮らし 不安度-高(n=455)	10.1	38.0	30.3	13.0	8.6	48.1	21.5
	心豊かな暮らし 不安度-中(n=1476)	7.2	37.9	32.8	15.2	6.9	45.1	22.1
	心豊かな暮らし 不安度-低(n=1069)	6.6	26.6	38.1	17.2	11.5	32.2	28.7
	全体 不安度-高(n=704)	9.5	39.9	28.4	14.2	8.0	49.4	22.2
	全体 不安度-中(n=1678)	6.4	35.6	35.2	15.5	7.4	42.0	22.9
	全体 不安度-低(n=618)	7.9	22.5	38.7	17.3	13.6	30.4	30.9
Q2. 社会・生活に関する重要度	安全・安心 重要度-高(n=1367)	8.8	37.6	31.6	14.4	7.6	46.4	22.0
	安全・安心 重要度-中(n=1226)	6.1	33.8	35.2	16.8	8.0	40.0	24.8
	安全・安心 重要度-低(n=407)	6.9	21.6	40.5	15.7	15.2	28.5	31.0
	活力・交流 重要度-高(n=772)	11.8	40.9	27.8	11.9	7.5	52.7	19.4
	活力・交流 重要度-中(n=1541)	6.1	34.8	35.6	16.1	7.4	40.9	23.5
	活力・交流 重要度-低(n=687)	5.5	23.9	38.7	18.5	13.4	29.4	31.9
	心豊かな暮らし 重要度-高(n=1474)	8.8	37.7	32.0	14.2	7.4	46.4	21.6
	心豊かな暮らし 重要度-中(n=1153)	6.0	33.5	35.5	16.7	8.4	39.5	25.1
	心豊かな暮らし 重要度-低(n=373)	6.7	20.4	39.7	17.7	15.5	27.1	33.2
	全体 重要度-高(n=1297)	9.6	38.5	31.3	13.5	7.2	48.0	20.7
	全体 重要度-中(n=1329)	5.7	33.1	35.5	17.3	8.4	38.8	25.7
	全体 重要度-低(n=374)	6.1	20.9	40.4	16.6	16.0	27.0	32.6

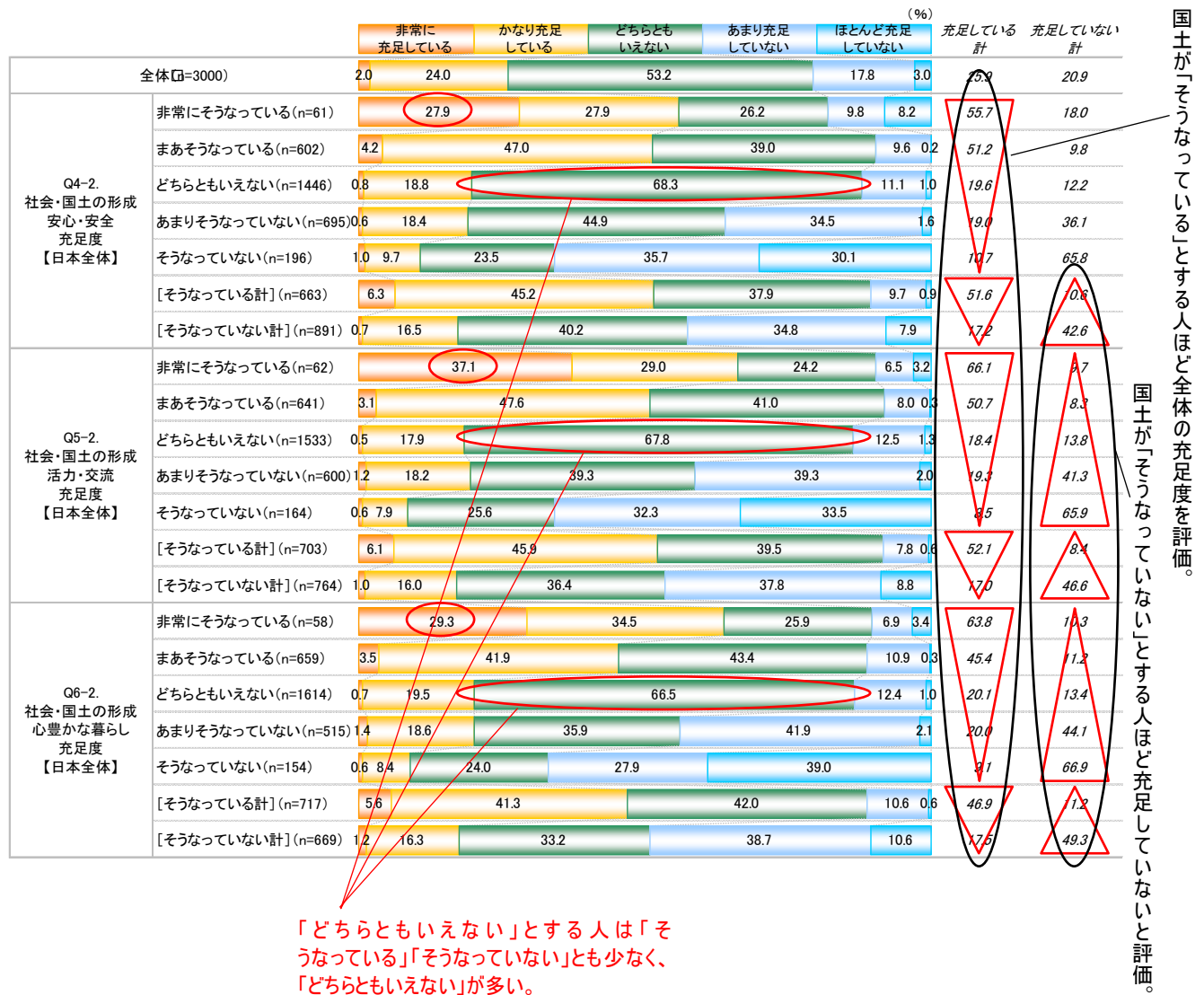
2. 「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」充足度評価と日本の社会・国土の全体評価クロス分析

■日本の社会・国土の状況に関する全体(充足度)評価(日本全体の社会・国土の充足度評価との相関)

- 日本全体の社会・国土形成の充足度評価、すなわち「安全・安心」「交流・活力」「心豊かな暮らし」が形成されるような社会・国土とすることに関する充足度評価と、日本全体のインフラ(社会資本)の充足度評価の相関を見ると、「そうなっている(充足している)」とする人の方が「そうなっていない(充足していない)」とする人より「充足している」と評価する人が多く、逆に「充足していない」とする人ほど「充足していない」とする人が多い。また、「どちらともいえない」とする人は「充足している」「充足していない」も低い。

Q8. これまで、個別のインフラ(社会資本)についてあなたのご意見を伺ってきましたが、あなたはこういったインフラ(社会資本)が、全体としてどの程度充足していると考えますか。(それぞれひとつだけ)

<質問間クロス(Q8:日本全体-1)×Q4、Q5、Q6> (日本全体の社会・国土の充足度評価との相関)



■日本の社会資本に関する全体(充足度)評価(日本全体の社会・国土形成重要度評価との相関)

- 日本全体の社会・国土形成の重要度評価、すなわち「安全・安心」「交流・活力」「心豊かな暮らし」が形成されるような社会・国土とすることに関する重要度評価と、日本全体のインフラ(社会資本)の充足度評価の相関を見ると、「重要」とする人の方が「重要でない」とする人より「充足している」と評価する人が多く、逆に「重要でない」とする人ほど「充足していない」とする人が多い。また、「どちらともいえない」とする人は「充足している」「充足していない」も低い。

Q8. これまで、個別のインフラ(社会資本)についてあなたのご意見を伺ってきましたが、あなたはこういったインフラ(社会資本)が、全体としてどの程度充足していると考えますか。(それぞれひとつだけ)

<質問間クロス(Q8:日本全体-2)×Q4、Q5、Q6> (日本全体の社会・国土形成重要度評価との相関)

		(%)					充足している 計	充足していない 計
		非常に 充足している	かなり充足 している	どちらとも いえない	あまり充足 していない	ほとんど充足 していない		
全体(n=3000)		2.0	24.0	53.2	17.8	3.0	25.9	20.9
Q4-3. 社会・国土の形成 安心・安全 重要度	非常に重要(n=1076)	2.3	24.8	47.4	21.3	4.2	27.1	25.5
	重要(n=1445)	1.6	27.1	52.2	17.9	1.2	28.7	19.1
	どちらともいえない(n=398)	1.3	12.3	76.1	7.8	2.5	13.6	10.3
	重要度は低い(n=47)	10.6	23.4	34.0	25.5	6.4	34.0	31.9
	全く重要ではない(n=34)	2.9	2.9	35.3	11.8	47.1	5.9	58.8
	[重要計](n=2521)	1.9	26.1	50.2	19.4	2.5	28.0	21.8
	[重要ではない計](n=81)	7.4	14.8	34.6	19.8	23.5	22.2	43.2
Q5-3. 社会・国土の形成 交流・活力 重要度	非常に重要(n=613)	4.2	23.2	45.8	21.2	5.5	27.4	26.8
	重要(n=1596)	1.1	28.8	49.7	19.2	1.3	29.9	20.4
	どちらともいえない(n=679)	1.5	14.6	70.1	11.6	2.2	16.1	13.8
	重要度は低い(n=76)	3.9	22.4	47.4	21.1	5.3	26.3	26.3
	全く重要ではない(n=36)	5.6	5.6	27.8	11.1	50.0	11.1	61.1
	[重要計](n=2209)	2.0	27.2	48.6	19.7	2.4	29.2	22.2
	[重要ではない計](n=112)	4.5	17.0	41.1	17.9	19.6	21.4	37.5
Q6-3. 社会・国土の形成 心豊かな暮らし 重要度	非常に重要(n=645)	3.7	22.8	45.1	22.0	6.4	26.5	28.4
	重要(n=1532)	1.2	28.7	50.3	18.8	1.0	29.9	19.8
	どちらともいえない(n=691)	1.9	14.6	70.0	11.7	1.7	16.5	13.5
	重要度は低い(n=94)	2.1	27.7	43.6	21.3	5.3	29.8	26.6
	全く重要ではない(n=38)	5.3	13.2	26.3	10.5	44.7	18.4	55.3
	[重要計](n=2177)	1.9	27.0	48.7	19.8	2.6	28.9	22.4
	[重要ではない計](n=132)	3.0	23.5	38.6	18.2	16.7	26.5	34.8

「どちらともいえない」とする人は「充足している」「充足していない」も低い。

「重要」とする人の方が「重要でない」とする人より「充足している」と評価する人が多く、逆に「重要でない」とする人ほど「充足していない」とする人が多い。

■日本の社会資本に関する全体(充足度)評価(日本将来像「予測」「あるべき姿」との相関)

- ・成長に関わる日本の将来像「予測」と「あるべき姿」(衰退～成長)と「衰退する日本」とする類型では「充足していない」が「充足している」を大きく上回る。「成長～衰退」に関わる地域の将来像「予測」と「あるべき姿」とも「定常社会の日本」「活力を維持した日本」「生産性が向上、成長する日本」の順で「充足している」とする人の割合が多い。
- ・日本のあり方に関わる日本の将来像「予測」(社会課題解決に受動～能動)では、「社会的な課題解決を行政に依存する日本」「社会課題に住民が分担して取り組む日本」「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本」とする人の順で「充足している」が少なくなり、「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本」では「充足していない」が「充足している」を上回る。
- ・日本のあり方に関わる日本の将来像「あるべき姿」(社会課題解決に受動～能動)では、「社会課題に住民が分担して取り組む日本」「社会的な問題解決を行政に依存する日本」「社会的な関心・関係が希薄な日本」の順で「充足している」とする人が多い。

Q8. これまで、個別のインフラ(社会資本)についてあなたのご意見を伺ってきましたが、あなたはこういったインフラ(社会資本)が、全体としてどの程度充足していると考えますか。(それぞれひとつだけ)

<質問間クロス(Q8:日本全体-3)×Q26、Q28> (日本将来像「予測」「あるべき姿」との相関)

		(%)					充足している 計	充足してい ない計
		非常に 充足している	かなり充足 している	どちらとも いえない	あまり充足 していない	ほとんど充足 していない		
全体(n=3000)		2.0	24.0	53.2	17.8	3.0	25.9	20.9
Q26-1. 日本の将来像1 (衰退～成長) 予測	衰退する日本(n=1418)	1.9	22.3	50.4	20.8	4.6	24.2	25.4
	定常社会の日本(n=1072)	1.7	27.5	54.4	15.8	0.7	29.2	16.4
	活力を保持した日本(n=351)	2.3	23.4	58.4	15.4	0.6	25.6	16.0
	生産性が向上、成長する日本(n=159)	3.8	16.4	58.5	10.7	10.7	20.1	21.4
Q26-2. 日本の将来像1 (衰退～成長) あるべき姿	衰退する日本(n=418)	4.3	18.7	51.2	18.2	7.7	23.0	25.8
	定常社会の日本(n=807)	1.6	25.2	53.7	17.5	2.1	26.8	19.6
	活力を保持した日本(n=1104)	1.4	25.0	54.5	17.8	1.3	26.4	19.0
	生産性が向上、成長する日本(n=671)	1.8	24.1	51.7	18.2	4.2	25.9	22.4
Q28-1. 日本の将来像2 (受動～能動) 予測	社会的な関心・関係が希薄な日本(n=1416)	1.6	22.7	52.4	19.1	4.2	24.3	23.3
	社会的な課題解決を行政に依存する日本(n=952)	2.2	27.7	52.1	16.9	1.1	29.9	18.0
	社会課題に住民が分担して取り組む日本(n=521)	1.9	22.3	57.2	16.7	1.9	24.2	18.6
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本(n=111)	4.5	16.2	54.1	14.4	10.8	20.7	25.2
Q28-2. 日本の将来像2 (受動～能動) あるべき姿	社会的な関心・関係が希薄な日本(n=383)	3.4	19.8	51.7	17.2	7.8	23.2	25.1
	社会的な課題解決を行政に依存する日本(n=589)	2.4	22.9	56.4	17.0	1.4	25.3	18.3
	社会課題に住民が分担して取り組む日本(n=1614)	1.6	25.8	52.4	18.6	1.5	27.4	20.2
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本(n=414)	1.4	22.2	53.1	16.4	6.8	23.7	23.2

■日本の社会資本に関する全体(充足度)評価(生活地域・空間(居住地域)の社会・国土形成充足度評価との相関)

- 生活地域・空間(居住地域)の社会・国土形成の充足度評価、すなわち「安全・安心」「交流・活力」「心豊かな暮らし」が形成されている(そうになっている)との充足度評価と、日本全体のインフラ(社会資本)の充足度評価の相関を見ると、「そうになっている(充足している)」とする人の方が「そうになっていない(充足していない)」とする人より「充足している」と評価する人が多く、逆に「そうになっていない(充足していない)」とする人ほど「充足していない」とする人が多い。また、「どちらともいえない」とする人は「充足している」「充足していない」も低い。

Q8. これまで、個別のインフラ(社会資本)についてあなたのご意見を伺ってきましたが、あなたはこういったインフラ(社会資本)が、全体としてどの程度充足していると考えますか。(それぞれひとつだけ)

<質問間クロス(Q8:生活地域-1)×Q4、Q5、Q6> (生活地域・空間(居住地域)の社会・国土形成充足度評価との相関)

		(%)						
		非常に充足している	かなり充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計	充足していない計
全体(n=3000)		2.6	25.4	47.4	19.5	5.0	28.0	24.6
Q4-1. 社会・国土の形成 安心・安全 充足度 【生活地域・空間】	非常にそうになっている(n=82)	26.8	36.6	19.5	8.5	8.5	63.4	17.1
	まあそうになっている(n=960)	4.6	45.9	35.4	12.2	1.9	50.5	4.1
	どちらともいえない(n=1359)	0.8	15.9	65.1	15.8	2.4	16.7	18.2
	あまりそうになっていない(n=469)	0.2	14.5	32.2	44.3	8.7	14.1	53.1
	そうになっていない(n=130)	0.6	23.1	30.0	40.8		32	70.8
	[そうになっている計](n=1042)	6.3	45.2	34.2	11.9	2.4	51.5	4.3
	[そうになっていない計](n=599)	0.2	12.7	30.2	41.2	15.7	12.9	56.9
Q5-1. 社会・国土の形成 活力・交流 充足度 【生活地域・空間】	非常にそうになっている(n=78)	37.2	32.1	17.9	7.7	5.1	69.2	12.8
	まあそうになっている(n=818)	3.9	46.6	38.1	10.1	1.2	50.5	11.4
	どちらともいえない(n=1421)	0.8	18.1	63.3	15.6	2.2	18.9	17.8
	あまりそうになっていない(n=535)	0.7	16.6	32.0	42.8	7.9	17.4	50.7
	そうになっていない(n=148)	0.7	7.4	17.6	31.1	43.2	31	74.3
	[そうになっている計](n=896)	6.8	45.3	36.4	9.9	1.6	52.1	11.5
	[そうになっていない計](n=683)	0.7	14.6	28.8	40.3	15.5	15.4	55.8
Q6-1. 社会・国土の形成 心豊かな暮らし 充足度 【生活地域・空間】	非常にそうになっている(n=102)	24.5	30.4	20.6	13.7	10.8	54.9	24.5
	まあそうになっている(n=1029)	2.9	39.7	39.0	15.4	3.0	42.7	18.4
	どちらともいえない(n=1307)	0.9	16.7	64.5	15.8	2.1	17.6	17.9
	あまりそうになっていない(n=439)	2.5	21.2	30.5	40.1	5.7	23.7	45.8
	そうになっていない(n=123)	0.0	9.8	18.7	25.2	46.3	9.8	71.5
	[そうになっている計](n=1131)	4.9	38.9	37.3	15.2	3.7	43.8	18.9
	[そうになっていない計](n=562)	2.0	18.7	27.9	36.8	14.6	20.6	51.4

■日本の社会資本に関する全体(充足度)評価(生活地域・空間(居住地域)の社会・国土形成重要度評価との相関)

- 生活地域・空間(居住地域)の社会・国土形成の重要度評価、すなわち「安全・安心」「交流・活力」「心豊かな暮らし」が形成されるような社会・国土となっているかとの充足度評価と、日本全体のインフラ(社会資本)の充足度評価の相関を見ると、「充足している(そうっていない)」とする人の方が「充足していない(そうっていない)」とする人より「充足している」と評価する人が多く、逆に「充足していない」とする人ほど「充足していない」とする人が多い。また、「どちらともいえない」とする人は「充足している」「充足していない」も低い。

Q8. これまで、個別のインフラ(社会資本)についてあなたのご意見を伺ってきましたが、あなたはこういったインフラ(社会資本)が、全体としてどの程度充足していると考えますか。(それぞれひとつだけ)

<質問間クロス(Q8:生活地域-2)×Q4、Q5、Q6> (生活地域・空間(居住地域)の社会・国土形成重要度評価との相関)

		(%)						
		非常に充足している	かなり充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計	充足していない計
全体(n=3000)		2.6	25.4	47.4	19.5	5.0	28.0	24.6
Q4-3. 社会・国土の形成 安心・安全 重要度 生活地域・空間 (居住地域)	非常に重要(n=1076)	3.2	26.4	40.0	23.2	7.2	29.6	30.5
	重要(n=1445)	2.1	29.1	45.7	20.0	3.0	31.2	23.0
	どちらともいえない(n=398)	1.8	11.8	74.4	9.3	2.8	13.6	12.1
	重要度は低い(n=47)	12.8	23.4	42.6	17.0	4.3	36.2	21.3
	全く重要ではない(n=34)	29.0	44.1	5.9	47.1		2.9	52.9
	[重要計](n=2521)	2.5	28.0	43.3	21.4	4.8	30.5	26.2
	[重要ではない計](n=81)	8.6	13.6	43.2	12.3	22.2	22.2	34.6
Q5-3. 社会・国土の形成 交流・活力 重要度 生活地域・空間 (居住地域)	非常に重要(n=613)	4.7	24.8	39.6	22.5	8.3	29.5	30.8
	重要(n=1596)	2.0	31.1	42.0	21.1	3.7	33.1	24.8
	どちらともいえない(n=679)	1.5	15.0	67.0	13.3	3.2	16.5	16.5
	重要度は低い(n=76)	5.3	14.5	51.3	26.3	2.6	19.7	28.9
	全く重要ではない(n=36)	8.3	2.8	38.9	2.8	47.2	11.1	50.0
	[重要計](n=2209)	2.8	29.4	41.4	21.5	5.0	32.1	26.5
	[重要ではない計](n=112)	6.3	10.7	47.3	18.8	17.0	17.0	35.7
Q6-3. 社会・国土の形成 心豊かな暮らし 重要度 生活地域・空間 (居住地域)	非常に重要(n=645)	4.2	25.9	39.5	22.0	8.4	30.1	30.4
	重要(n=1532)	2.2	29.5	43.2	21.7	3.4	31.7	25.1
	どちらともいえない(n=691)	1.7	16.5	66.1	13.0	2.6	18.2	15.6
	重要度は低い(n=94)	3.2	28.7	39.4	20.2	8.5	31.9	28.7
	全く重要ではない(n=38)	7.9	7.9	28.9	5.3	50.0	15.8	55.3
	[重要計](n=2177)	2.8	28.4	42.1	21.8	4.9	31.2	26.7
	[重要ではない計](n=132)	4.5	22.7	36.4	15.9	20.5	27.3	36.4

■日本の社会資本に関する全体(充足度)評価(地域の将来像[予測、あるべき姿]との相関)

- 成長に関わる地域の将来像「予測」と「あるべき姿」(衰退～成長)とも「衰退していく地域」とする類型では「充足していない」が「充足している」を大きく上回る。「成長～衰退」に関わる地域の将来像「予測」と「あるべき姿」とも「質の高い生活がそれなりに維持される地域」「便利で快適な地域」「成長性の高い便利で快適な地域」の順で「充足している」とする人の割合が多い。
- 地域のあり方に関わる地域の将来像「予測」「あるべき姿」(社会課題解決に受動～能動)では、「社会的な関心・関係が希薄な地域」「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域」とする人で「充足していない」が「充足している」を上回る。
- 地域のあり方に関わる地域の将来像「予測」(社会課題解決に受動～能動)では、「社会的な問題解決を行政に依存する地域」「社会課題に住民が分担して取り組む地域」「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域」の順で「充足している」とする人が多い。

Q8. これまで、個別のインフラ(社会資本)についてあなたのご意見を伺ってきましたが、あなたはこういったインフラ(社会資本)が、全体としてどの程度充足していると考えますか。(それぞれひとつだけ)

<質問間クロス(Q8:生活地域-3)×Q27、Q29> (地域の将来像[予測、あるべき姿]との相関)

		(%)						
		非常に充足している	かなり充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計	充足していない計
全体(n=3000)		2.6	25.4	47.4	19.5	5.0	28.0	24.6
Q27-1. 地域の将来像1 (衰退～成長) 予測	衰退していく地域(n=1331)	2.3	16.2	44.0	28.6	9.0	18.4	37.6
	質の高い生活がそれなりに維持される地域(n=947)	3.4	36.9	46.7	12.2	0.8	40.2	13.1
	便利で快適な地域(n=603)	2.0	28.7	55.1	12.8	1.5	30.7	14.3
	成長性の高い便利で快適な地域(n=119)	3.4	21.8	52.9	10.1	11.8	25.2	21.8
Q27-2. 地域の将来像1 (衰退～成長) あるべき姿	衰退していく地域(n=490)	4.3	15.7	44.7	25.3	10.0	20.0	35.3
	質の高い生活がそれなりに維持される地域(n=1108)	2.4	29.6	45.1	19.4	3.4	32.0	22.8
	便利で快適な地域(n=976)	1.7	25.1	52.4	17.4	3.4	26.8	20.8
	成長性の高い便利で快適な地域(n=426)	3.1	26.5	45.1	18.1	7.3	29.6	25.4
Q29-1. 地域の将来像2 (受動～能動) 予測	社会的な関心・関係が希薄な地域(n=1192)	2.5	19.9	46.4	24.1	7.1	22.4	31.2
	社会的な課題解決を行政に依存する地域(n=1063)	3.1	30.4	46.7	16.6	3.3	33.5	19.8
	社会課題に住民が分担して取り組む地域(n=621)	2.4	28.8	49.8	16.9	2.1	31.2	19.0
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域(n=124)	0.0	19.4	51.6	14.5	14.5	19.4	29.0
Q29-2. 地域の将来像2 (受動～能動) あるべき姿	社会的な関心・関係が希薄な地域(n=398)	4.0	20.1	45.0	21.9	9.0	24.1	30.9
	社会的な課題解決を行政に依存する地域(n=628)	2.7	23.7	53.3	16.1	4.1	26.4	20.2
	社会課題に住民が分担して取り組む地域(n=1621)	2.4	28.3	45.8	20.0	3.5	30.7	23.5
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域(n=353)	1.7	21.2	47.0	20.7	9.3	22.9	30.0

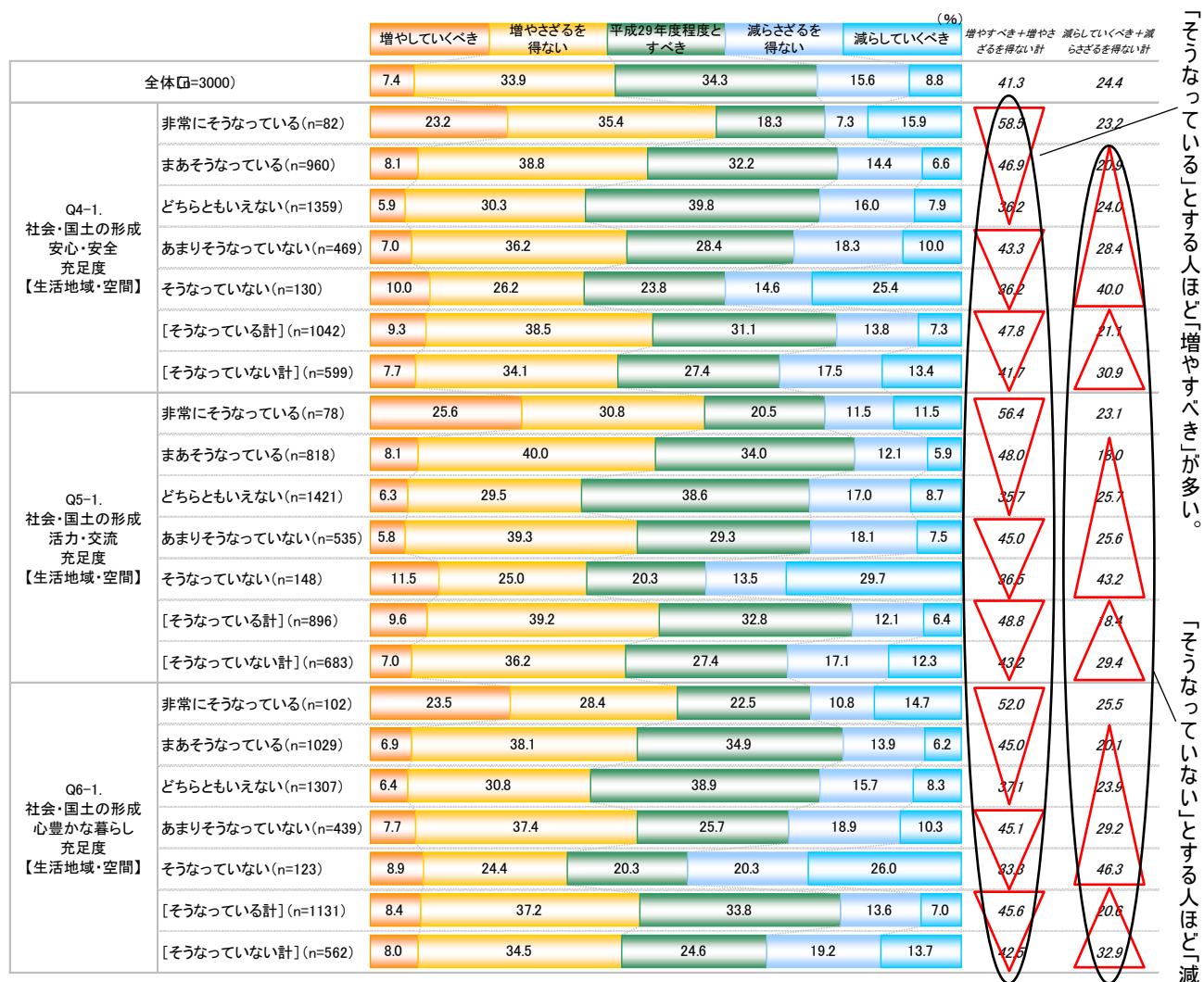
3. 公共事業予算と社会・国土形成充足度評価、日本・居住地域の将来予測とのクロス分析

■公共事業予算今後の増減評価(生活地域・空間(居住地域)の社会・国土形成充足度評価との相関)

- ・ 今後の公共事業の予算について、社会・国土の形成に関し、生活地域・空間(居住地域)において「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」いずれでも「そうになっている」とする人(充足度が高いとする人)ほど、「増やすべき+増やさざるを得ない」とする人の割合が高い。一方で、社会・国土の形成に関し、「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」いずれでも「そうになっていない」とする人(「充足していない」とする人)ほど、「減らしていくべき+減らさざるを得ない」とする人の割合は高い。
- ・ 社会・国土の形成に関し、「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」いずれでも充足度が高いとする人ほど「増やすべき+増やさざるを得ない」とする人の割合が高く、充足度が低いとする人ほど「減らしていくべき+減らさざるを得ない」とする人の割合が高いのは、意外なというか注目すべき結果。

Q30. あなたは、今後の公共事業の予算をどうすべきだと思いますか。上記の結果も見た上でお答えください。

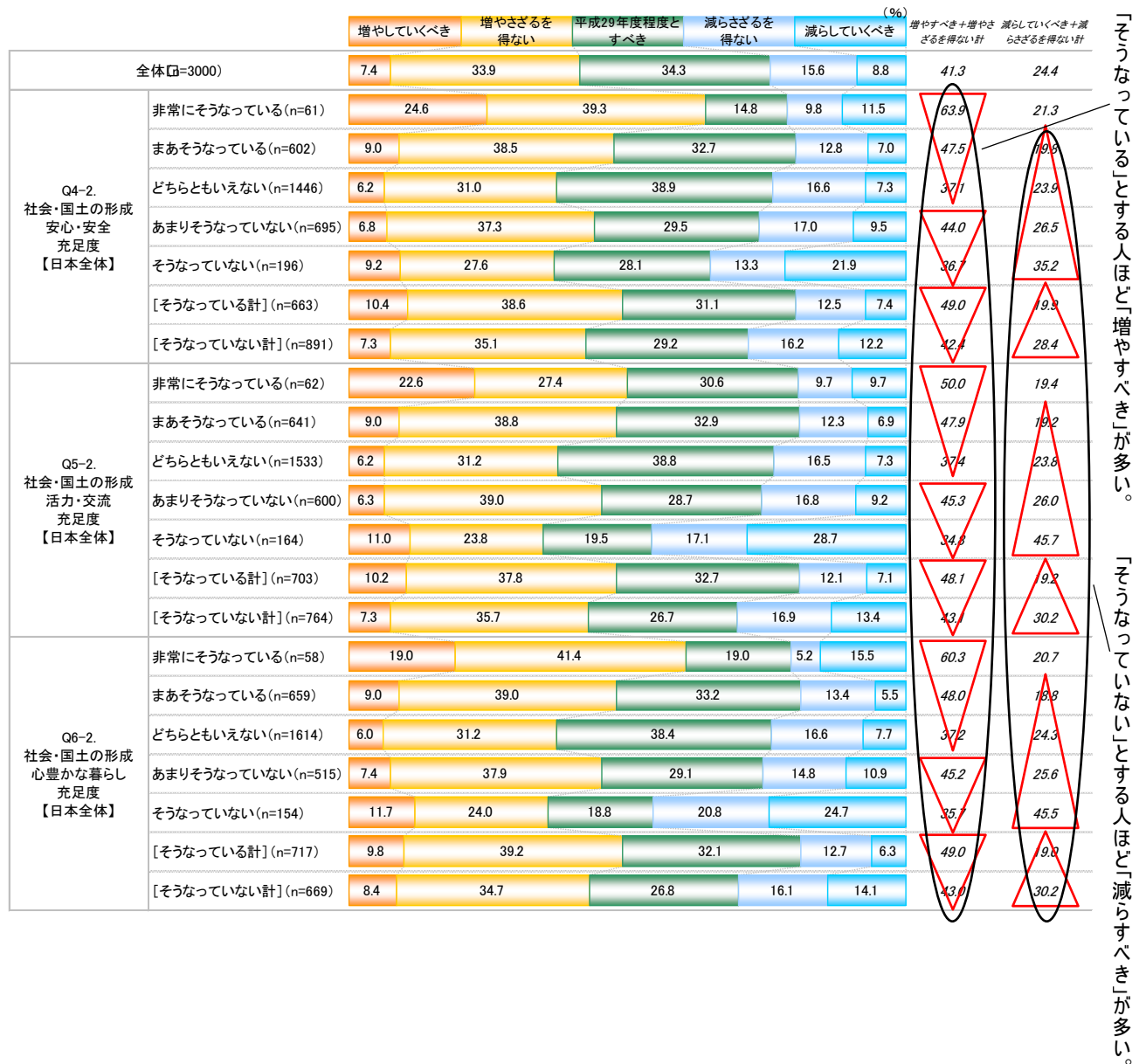
<質問間クロス(Q30-1)×Q4、Q5、Q6-1> (生活地域・空間(居住地域)の社会・国土形成充足度評価との相関)



■公共事業予算今後の増減評価(日本全体の社会・国土形成充足度評価との相関)

- ・ 今後の公共事業の予算について、社会・国土の形成に関し、日本全体においても「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」いずれでも「そうになっている」とする人(充足度が高いとする人)ほど、「増やすべき+増やさざるを得ない」とする人の割合が高い。一方で、社会・国土の形成に関し、「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」いずれでも「そうになっていない」とする人(充足していないとする人)ほど、「減らしていくべき+減らさざるを得ない」とする人の割合は高い。
- ・ そうになっているとする人(「充足している」とする人ほど「増やすべき」が多く、そうになっていないとする人(「充足していない」とする人)ほど「減らすべき」が多くなるのは、居住地域の社会・国土形成に関する評価の相関と同じ傾向。

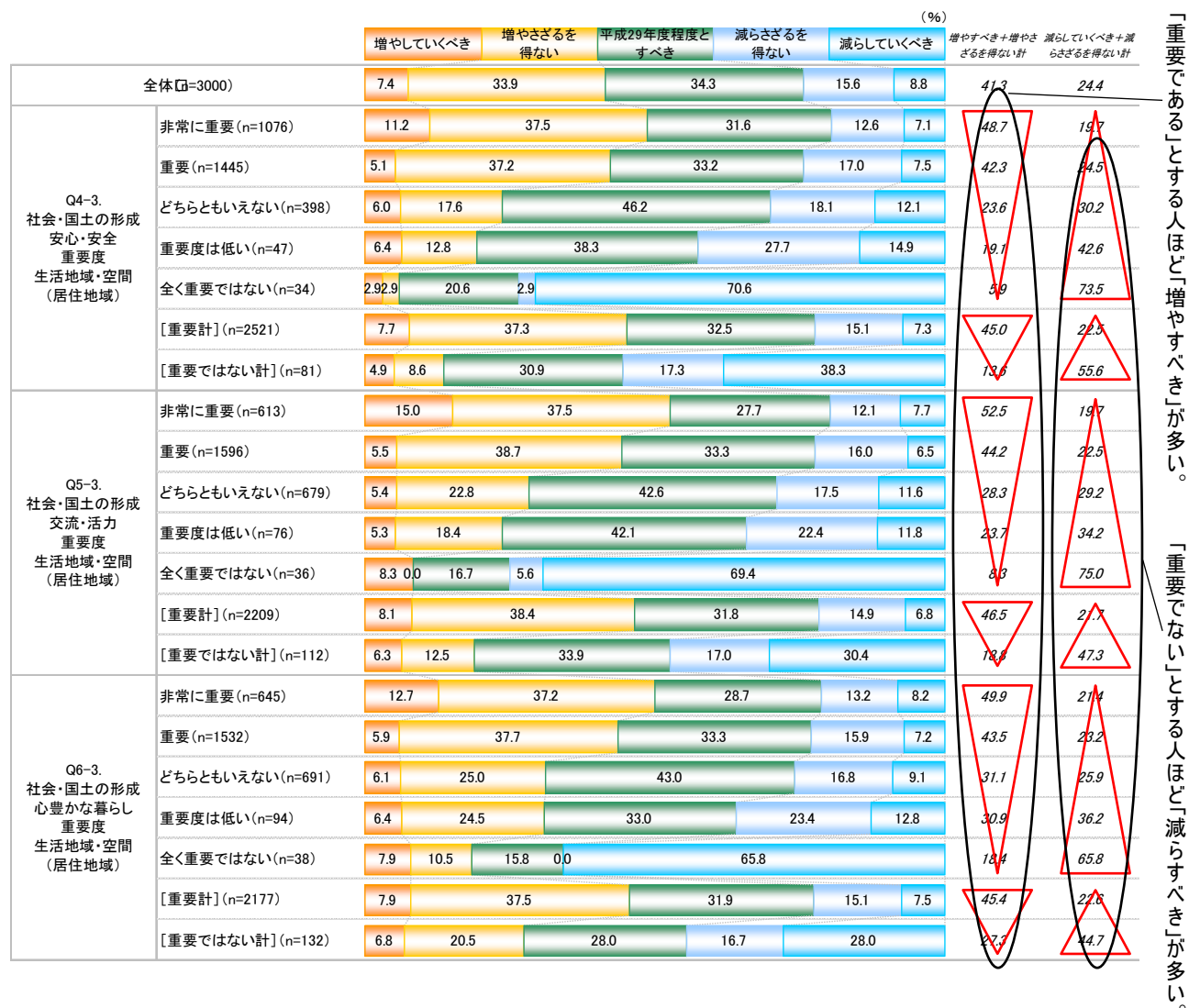
<質問間クロス(Q30-2)×Q4、Q5、Q6-2> (日本全体の社会・国土形成充足度評価との相関)



■公共事業予算今後の増減評価(生活地域・空間(居住地域)の社会・国土形成重要度評価との相関)

- ・ 今後の公共事業の予算について、社会・国土の形成に関し、生活地域・空間(居住地域)において「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」いずれでも「重要度が高い」とする人ほど、「増やすべき+増やさざるを得ない」とする人の割合が高い。それと対応する形で、社会・国土の形成に関し、「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」いずれでも「重要でない」とする人ほど、「減らしていくべき+減らさざるを得ない」とする人の割合は高い。
- ・ 重要度評価の高低は、公共事業予算を「増やすべき」「減らすべき」との評価と相関している。

<質問間クロス(Q30-3) × Q4、Q5、Q6-3> (生活地域・空間(居住地域)の社会・国土形成重要度評価との相関)



■公共事業予算今後の増減評価(社会資本の状況全体評価[充足度評価]との相関)

- 今後の公共事業の予算について、社会資本の状況全体評価[生活地域・空間(居住地域)]との相関を見ると、生活地域・空間(居住地域)において「非常に充足している」「かなり充足している」及び「あまり充足していない」とする人で、「増やすべき+増やさざるを得ない」とする人の割合が高い。その一方で、「あまり充足していない」と評価する人の5割近く(46.6%)が「減らしていくべき・減らさざるを得ない」としているのが注目される。「充足している」とする人ほど、「充足していない」とする人より「増やすべき・増やさざるを得ない」「減らすべき・減らさざるを得ない」とも多くなっているという傾向もみられる。
- また、社会資本の状況全体評価[日本全体]との相関を見ると、同じく「非常に充足している」「かなり充足している」とする人で、「減らしていくべき+減らさざるを得ない」とする人の割合は高い(生活地域・空間(居住地域)で「非常に充足している」「かなり充足している」とする人で、「増やすべき・増やさざるを得ない」が多かったのとは異なった傾向)。「あまり充足していない」とする人で、「増やすべき」が5割近く(49.7%)いるのは、生活地域・空間(居住地域)と同じ傾向。生活地域・空間(居住地域)同様、「充足している」とする人ほど、「充足していない」とする人より「増やすべき・増やさざるを得ない」「減らすべき・減らさざるを得ない」とも多くなっているという傾向もみられる。

<質問間クロス(Q30-4)×Q8-2、Q8-1> (社会資本の状況全体評価[充足度評価]との相関)

		(%)						
		増やしていくべき	増やさざるを得ない	平成29年度程度とすべき	減らさざるを得ない	減らしていくべき	増やすべき+増やさざるを得ない計	減らしていくべき+減らさざるを得ない計
全体(n=3000)		7.4	33.9	34.3	15.6	8.8	41.3	24.4
Q8-2. 社会資本の状況 全体評価 【生活地域・空間】	非常に充足している(n=78)	17.9	34.6	20.5	9.0	17.9	52.6	26.9
	かなり充足している(n=763)	8.4	35.6	33.3	16.3	6.4	44.0	22.7
	どちらともいえない(n=1422)	5.7	30.9	40.1	15.3	8.0	36.6	23.3
	あまり充足していない(n=586)	7.7	40.4	28.8	14.5	8.5	48.1	23.0
	ほとんど充足していない(n=151)	12.6	27.8	13.2	21.9	24.5	40.4	46.4
	[充足している計](n=841)	9.3	35.6	32.1	15.6	7.5	44.2	23.1
	[充足していない計](n=737)	8.7	37.9	25.6	16.0	11.8	46.5	27.8
Q8-1. 社会資本の状況 全体評価 【日本全体】	非常に充足している(n=59)	28.8	23.7	25.4	6.8	15.3	52.5	22.0
	かなり充足している(n=719)	7.2	36.3	32.0	15.7	8.8	43.5	24.5
	どちらともいえない(n=1596)	5.9	31.6	39.3	16.5	6.7	37.5	23.2
	あまり充足していない(n=535)	8.6	41.1	27.1	13.5	9.7	49.7	23.2
	ほとんど充足していない(n=91)	15.4	18.7	13.2	16.5	36.3	34.1	52.7
	[充足している計](n=778)	8.9	35.3	31.5	15.0	9.3	44.2	24.3
	[充足していない計](n=626)	9.6	37.9	25.1	13.9	13.6	47.4	27.5

■公共事業予算今後の増減評価(地域と日本の将来像、あるべき姿との相関)

- ・地域の将来像(衰退～成長)との相関では、「衰退していく地域」「質の高い生活がそれなりに維持される地域」「便利で快適な地域」「成長性の高い便利で快適な地域」の順で「増やすべき」が多い。「衰退していく地域」「成長性の高い便利で快適な地域」で「減らしていくべき+減らさざるを得ない」が目立つ。また、日本の将来像との相関では、「衰退する日本」で「増やすべき・増やさざるを得ない」も「減らすべき+減らさざるを得ない」も多い。「生産性が向上、成長する日本」とする人及び「成長性の高い便利で快適な地域」とする人で、「減らしていくべき+減らさざるを得ない」が多いのが重要な特徴。
- ・もう一つの地域の将来像(社会課題解決に受動～能動)では、「社会的な課題解決を行政に依存する日本」「社会課題に住民が分担して取り組む日本」「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本」の順で「増やすべき+増やさざるを得ない」が多い。「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域」では、「減らしていくべき+減らさざるを得ない」が「増やすべき+増やさざるを得ない」を上回る。
- ・居住地域、日本とも「社会的な課題解決を行政に依存する」とした人は「増やすべき・増やさざるを得ない」が多い。

<質問間クロス(Q30-5)×Q27、Q28> (地域と日本の将来像、あるべき姿との相関)

		(%)						
		増やしていくべき	増やさざるを得ない	平成29年度程度とすべき	減らさざるを得ない	減らしていくべき	増やすべき+増やさざるを得ない計	減らしていくべき+減らさざるを得ない計
全体(n=3000)		7.4	33.9	34.3	15.6	8.8	41.3	24.4
Q27-1. 地域の将来像1 (衰退～成長) 予測	衰退していく地域(n=1331)	8.9	34.9	29.8	16.8	9.6	43.8	26.4
	質の高い生活がそれなりに維持される地域(n=947)	6.8	35.9	36.3	14.9	6.1	42.7	21.0
	便利で快適な地域(n=603)	5.3	31.5	40.8	15.1	7.3	36.8	22.4
	成長性の高い便利で快適な地域(n=119)	7.6	18.5	36.1	9.2	28.6	24.1	37.8
Q26-1. 日本の将来像1 (衰退～成長) 予測	衰退する日本(n=1418)	8.9	34.9	28.6	17.1	10.5	43.8	27.6
	定常社会の日本(n=1072)	5.2	34.5	40.6	14.3	5.4	39.7	19.7
	活力を保持した日本(n=351)	8.0	32.5	39.9	16.0	3.7	40.5	19.7
	生産性が向上、成長する日本(n=159)	8.2	23.9	30.8	9.4	27.7	32.1	37.1
Q27-2. 地域の将来像1 (衰退～成長) あるべき姿	衰退していく地域(n=490)	12.2	32.9	25.7	17.1	12.0	45.1	29.2
	質の高い生活がそれなりに維持される地域(n=1108)	6.1	34.9	35.1	15.7	8.1	41.1	23.8
	便利で快適な地域(n=976)	5.2	33.9	38.1	16.4	6.4	39.1	22.7
	成長性の高い便利で快適な地域(n=426)	10.3	32.4	33.3	11.5	12.4	42.7	23.9
Q26-2. 日本の将来像1 (衰退～成長) あるべき姿	衰退する日本(n=418)	12.9	31.3	25.6	16.3	13.9	44.3	30.1
	定常社会の日本(n=807)	5.1	32.7	37.7	15.6	8.9	37.8	24.5
	活力を保持した日本(n=1104)	6.0	36.0	36.9	16.2	5.0	41.9	21.2
	生産性が向上、成長する日本(n=671)	9.2	33.5	31.4	14.0	11.8	42.8	25.8
Q29-1. 地域の将来像2 (受動～能動) 予測	社会的な関心・関係が希薄な地域(n=1192)	9.6	33.1	30.5	17.1	9.8	42.6	26.9
	社会的な課題解決を行政に依存する地域(n=1063)	5.9	39.5	35.8	12.9	5.8	45.4	18.7
	社会課題に住民が分担して取り組む地域(n=621)	5.6	28.2	40.3	18.4	7.6	33.8	25.9
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域(n=124)	8.9	22.6	28.2	9.7	30.6	37.5	40.3
Q28-1. 日本の将来像2 (受動～能動) 予測	社会的な関心・関係が希薄な日本(n=1416)	8.2	35.2	29.9	17.0	9.7	43.4	26.8
	社会的な課題解決を行政に依存する日本(n=952)	7.4	37.1	37.1	12.8	5.7	44.4	18.5
	社会課題に住民が分担して取り組む日本(n=521)	5.0	27.8	41.7	18.4	7.1	32.8	25.5
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本(n=111)	9.9	18.9	32.4	7.2	31.5	26.8	38.7
Q29-2. 地域の将来像2 (受動～能動) あるべき姿	社会的な関心・関係が希薄な地域(n=398)	12.8	28.6	30.4	16.1	12.1	41.5	28.1
	社会的な課題解決を行政に依存する地域(n=628)	5.7	39.5	35.5	11.6	7.6	45.2	19.3
	社会課題に住民が分担して取り組む地域(n=1621)	6.3	33.4	36.2	17.8	6.4	39.7	24.2
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域(n=353)	9.6	32.3	28.0	11.9	18.1	41.9	30.0
Q28-2. 日本の将来像2 (受動～能動) あるべき姿	社会的な関心・関係が希薄な日本(n=383)	12.0	29.5	29.8	15.4	13.3	41.5	28.7
	社会的な課題解決を行政に依存する日本(n=589)	7.0	38.0	37.7	12.1	5.3	45.0	17.3
	社会課題に住民が分担して取り組む日本(n=1614)	5.9	33.9	35.4	17.7	7.1	39.8	24.8
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本(n=414)	9.9	32.1	29.5	12.3	16.2	42.0	28.5

クラスター(類型抽出)分析編

社会・生活価値観ベース

社会生活動向に関する不安ベース

日本、居住地域の将来予測(なりそうな姿、あるべき姿)をベース

1. クラスター(類型抽出)分析の目的と狙い

本調査においては、各質問に対する「基本集計・分析」に加え、属性(性、年齢、居住地等)と各質問への関係を分析した「属性分析」、質問への回答相互の関係を分析した「質問間クロス分析」を実施した。

クラスター分析は、上記分析結果を踏まえ、社会資本の整備・保全に関する考え方に影響を与える可能性のある複数質問項目を抽出して組み合わせ、社会資本の整備・保全に関する考え方が分かれるような特性を持った類型を抽出、各類型の特性と社会資本に対する評価、意見、態度を明らかにすることを目的に実施したものである(属性分析では、各属性間の比較、質問間クロスでは各質問間の相関関係分析しか出来ないが、クラスター分析により、複数質問より新たな視点から類型を抽出することが可能となった)。また、クラスター分析により抽出された各類型毎の数をカウント、全サンプルにおいて各類型がどのような比率で存在するのかを明らかにした(類型の大小は、各類型の影響力の大小を表すと考えられる)。

クラスター分析によって抽出された(特性を持った)各類型毎の社会資本の保全・整備に関する考え方を分析、各類型の特性との関係も明らかにした。これにより、各類型の特性と量を踏まえた、社会資本の保全・整備に関する施策打ち出しコミュニケーションのターゲット像も明らかにすることを目指した。

なお、日本、居住地域の「将来予測(なりそうな姿)」「あるべき姿」に関しては極めて大きな乖離があったことを踏まえ、「将来予測(なりそうな姿)」「あるべき姿」をベースとして類型抽出を実施、上記目的に沿って類型毎の分析を実施した。

2. 社会・生活価値観をベースとしたクラスター分析

〈目的と概要〉

社会資本の保全・整備のあり方について、社会・生活における価値観が影響を与えるのではないかと仮説に基づき、回答が出来るだけ分かれる質問項目を組み合わせ、特性の異なった価値観を持つ類型を抽出、3,000 人を類型別に分化するクラスター分析を実施した。これにより異なった生活・価値観を持つ類型毎の社会資本(保全・整備)に関する考え方を明らかにした。

〈クラスター分析具体ステップ〉

Q3.社会・生活における価値観

(n=3000)				(n=3000)			
		そう思う 計	そう思わ ない計			そう思う 計	そう思わ ない計
(1) 環境意識・自然意識	ア) 地球環境に優しい生活をしたい	67.2	5.8	(5) 負担／公私 の役割	ソ) 安心・安定した生活、社会のため税金などの公的負担をするのは当然だ	52.8	8.1
	イ) 自然や景観を守ることが大切だ	74.0	3.9		タ) 自分の生活は個々が守るべきで、できるだけ国など「公」は介入すべきでない	24.2	21.7
(2) 仕事と暮らし	ウ) 今の生活を変えるようなことにもチャレンジしたい	49.0	9.8		チ) 年金・医療制度をきちんと運営し、必要であればもっと負担をしてもよい	35.1	18.5
	エ) 自分にしかできない仕事をしたい	50.7	9.9	(6) 効率・公平・格差	ツ) 効率が重視され過ぎて、公平性が損なわれている	41.5	10.2
	オ) 厳しい仕事でも高収入であれば良い	29.8	26.9		テ) 質の高い暮らしを確保するためにも、もっと効率を上げる必要がある	35.7	10.6
	カ) 仕事に打ち込み、会社で出世することは良い	35.2	17.8		ト) 現在の日本は格差が拡大し過ぎていて	48.7	11.0
	キ) 仕事よりも友人、家族等を大切にする暮らしに	59.8	4.2		ナ) 現在の日本は公平が重視され過ぎていて、活力を失っている	33.2	15.7
(3) 居住地意向	ク) ほどよい利便性を持った都市の郊外で、快適な居住空間で暮らしたい	61.2	6.7	(7) 家族・子育て	ニ) 夫は家事や育児を今よりずっと積極的に行うべきだ	44.1	8.7
	ケ) 利便性の高い都市部、都市中心部で暮らしたい	35.0	23.2		ヌ) 女性がもっと社会進出、社会参加できる仕組みを作るべきだ	48.3	9.3
	コ) 地方部や田舎で、自然・景観に恵まれた暮らしをしたい	37.6	20.4	(8) 収入予測	ネ) 今後、自分や家族の生活は良くなる	24.6	25.1
(4) 社会参加・参 画意向	サ) 地域の活動には積極的に参加したい	26.1	26.6		ノ) 今後、自分や家族の収入は増えていく	23.1	37.2
	シ) 政治、社会の動向に関心が高い方だ	38.1	20.7	(9) 安全・安心	ハ) 科学的、物理的に安全と言われても、安心できないこともたくさんある	56.8	7.1
	ス) 社会に貢献する活動に取り組みたい	27.0	27.0		ヒ) 安全・安心は全ての基盤なので、他のことより重視すべきだ	54.9	5.2
	セ) 隣人との付き合いは大事にしていけばいい	46.4	11.3		フ) 地域の防災訓練等があればできるだけ参加すべきだ	45.5	10.3
				(10) 技術革新、 便利な生活	ヘ) ITなど新たな技術で生活や社会が便利になるのは良いことだ	53.2	6.1
					ホ) 新たな技術や製品に追いついていけないことがあるのが心配だ	40.9	15.1

「そう思う」「そう思わない」が出来るだけ分かれる質問項目を抽出

価値観が意味的に異なる分野の質問項目を抽出

ケ) 利便性の高い都市部、都市中心部で暮らしたい／オ) 厳しい仕事でも高収入であれば良い／ス) 社会に貢献する活動に取り組みたい／サ) 地域の活動には積極的に参加したい／タ) 自分の生活は個々が守るべきで、できるだけ国などの「公」は介入すべきでない／ネ) 今後、自分や家族の生活は良くなる／ノ) 今後、自分や家族の収入は増えていく

質問項目の回答データを、非常にそう思う2、そう思う1、どちらともいえない0、そう思わない-1、全くそう思わない-2として点数化。

上記7つの質問項目で意味的に異なる2つの質問項目を抽出。抽出した2つの質問項目の回答がいずれも「どちらともいえない」は判断保留として除外した上で、それ以外のサンプルを点数化したデータを用いて、非階層法のクラスター分析を実施、4つのクラスターを抽出。

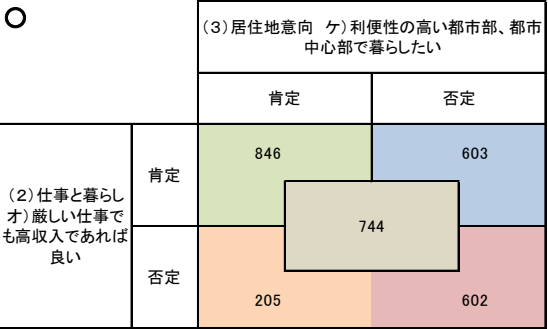
除外した判断保留と合わせて5つのクラスターを抽出した。

5パターンを試み、クラスターのサンプル数が分散したものを抽出

5パターンと抽出した3パターンは次ページ

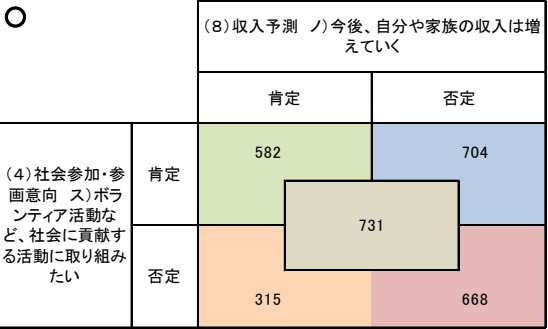
抽出したクラスター（○印は採用したもの）

「厳しい仕事でも高収入であれば良い」に関し「仕事肯定／否定」と「都市部、都市中心部で暮らしたい」に関し「都市部志向／非志向」で類型化



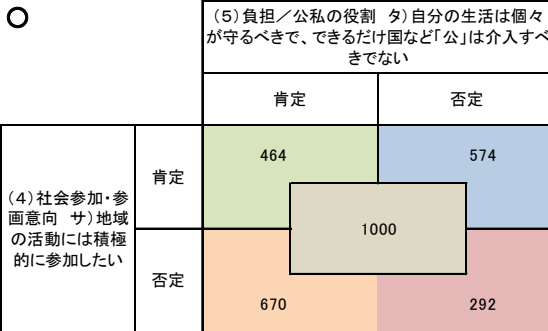
	サンプル数	%
仕事肯定・都市部志向	846	28.2
仕事肯定・都市部非志向	603	20.1
仕事否定・都市部志向	205	6.8
仕事否定・都市部非志向	602	20.1
判断保留	744	24.8

「社会に貢献する活動に取り組みたい」に関し「社会貢献肯定／否定」と「収入は増えていく」に関し「未来生活楽観／悲観」で類型化



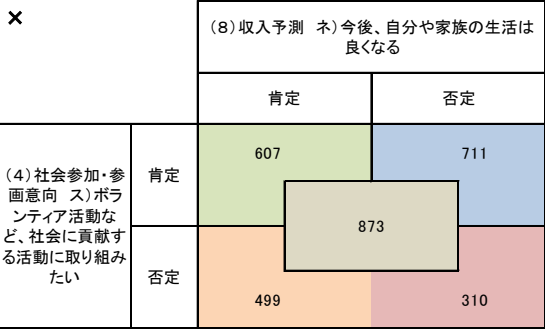
	サンプル数	%
社会貢献肯定・未来生活楽観	582	19.4
社会貢献肯定・未来生活悲観	704	23.5
社会貢献否定・未来生活楽観	315	10.5
社会貢献否定・未来生活悲観	668	22.3
判断保留	731	24.4

「地域活動」に関し「参加肯定／否定」と「公介入」に関し「肯定／否定」で類型化



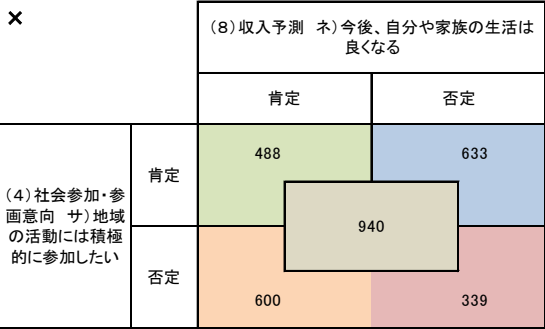
	サンプル数	%
地域活動参加・公介入否定	464	15.5
地域活動参加・公介入肯定	574	19.1
地域活動非参加・公介入否定	670	22.3
地域活動非参加・公介入肯定	292	9.7
判断保留	1000	33.3

「社会に貢献する活動に取り組みたい」に関し「社会貢献肯定／否定」と「生活は良くなる」に関し「未来生活楽観／悲観」で類型化



	サンプル数	%
社会貢献肯定・未来生活楽観	607	20.2
社会貢献肯定・未来生活悲観	711	23.7
社会貢献否定・未来生活楽観	499	16.6
社会貢献否定・未来生活悲観	310	10.3
判断保留	873	29.1

「地域活動」に関し「参加肯定／否定」と「生活は良くなる」に関し「未来生活楽観／悲観」で類型化



	サンプル数	%
地域活動参加・未来生活楽観	488	16.3
地域活動参加・未来生活悲観	633	21.1
地域活動非参加・未来生活楽観	600	20.0
地域活動非参加・未来生活悲観	339	11.3
判断保留	940	31.3

Q4 安全・安心な国土形成評価(居住地域)

安全で安心できる社会や国土が形成されているかに関しては(加重平均 0.13)

Q3.オケ)収入・居住地域評価クラスターでは、仕事肯定・都市部志向類型(846)0.32[注()内は類型のサンプル数、()の跡の数値は加重平均ー以下同じ]が肯定的。

Q3.スノ)未来生活評価・社会貢献意向クラスターでは、社会貢献肯定・未来生活楽観類型(582)0.40、社会貢献否定・未来生活楽観類型(315)0.24 が肯定的。

Q3.サタ)地域活動参加非参加・公介入肯定否定クラスターでは、地域活動参加肯定・公介入否定類型(464)0.41 が肯定的。

3. 社会・生活空間、国土に関する評価

Q4.自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成されていると思いますか。

Q4-1.安心・安全【あなたの生活する地域・空間では】

		合計	非常に そうなっ ている (+2)	まあそ うなっ ている (+1)	どちら ともい えない(0)	あまり そう ない(-1)	そう なっ てい ない(-2)	[そ う なっ て い る 計]	[そ う なっ て い ない 計]	加重平 均
全体		3000	2.7	32.0	45.3	15.6	4.3	34.7	20.0	0.13
Q3.オケ)収入・居住地域 評価クラスター	仕事肯定・都市部志向	846	5.9	38.1	40.2	13.4	2.5	44.0	15.8	0.32
	仕事肯定・都市部非志向	603	1.7	35.5	39.6	19.6	3.6	37.1	23.2	0.12
	仕事否定・都市部志向	205	2.0	39.0	38.5	14.6	5.9	41.0	20.5	0.17
	仕事否定・都市部非志向	602	1.5	30.9	38.5	21.1	8.0	32.4	29.1	-0.03
	判断保留	744	1.2	21.2	63.0	10.9	3.6	22.4	14.5	0.06
Q3.スノ)未来生活評価・ 社会貢献意向クラスター	社会貢献肯定・未来生活楽観	582	7.4	41.8	37.1	11.2	2.6	49.1	13.7	0.40
	社会貢献肯定・未来生活悲観	704	0.6	31.3	41.8	20.9	5.5	31.8	26.4	0.00
	社会貢献否定・未来生活楽観	315	3.5	41.3	34.0	18.1	3.2	44.8	21.3	0.24
	社会貢献否定・未来生活悲観	668	2.4	28.9	39.8	21.6	7.3	31.3	28.9	-0.03
	判断保留	731	1.1	23.8	65.1	7.7	2.3	24.9	10.0	0.14
Q3.サタ)地域活動参加非 参加・公介入肯定否定ク ラスター	地域活動参加肯定・公介入否定	464	8.6	40.1	37.9	10.6	2.8	48.7	13.4	0.41
	地域活動参加肯定・公介入肯定	574	2.6	37.3	36.4	19.7	4.0	39.9	23.7	0.15
	地域活動参加否定・公介入否定	670	1.6	35.8	42.7	16.0	3.9	37.5	19.9	0.15
	地域活動参加否定・公介入肯定	292	2.1	28.4	28.4	27.7	13.4	30.5	41.1	-0.22
	判断保留	1000	1.0	23.7	60.5	11.9	2.9	24.7	14.8	0.08

(加重平均:非常にそうになっている2、まあそうになっている1、どちらともいえない0、あまりそうっていないー1、そうっていないー2で、回答者割合をかけ足し上げたもの)

Q4-3 安全・安心な国土形成重要度評価

安全・安心な国土形成重要度評価に関しては(加重平均 1.16)

Q3.オケ)収入・居住地域評価クラスターでは、仕事肯定・都市部志向類型(846)1.29、仕事肯定・都市部非志向類型(603)1.28 が肯定的、判断保留類型(744)0.87 はかなり否定的。

Q3.スノ)未来生活評価・社会貢献意向クラスターでは、社会貢献肯定・未来生活楽観類型(582)1.38、社会貢献肯定・未来生活悲観類型(704)1.37 が肯定的、判断保留類型(731)0.87 はかなり否定的。

Q3.サタ)地域活動参加非参加・公介入肯定否定クラスターでは、地域活動参加肯定・公介入肯定類型(574)1.42、地域活動参加肯定・公介入否定類型(464)1.36 が肯定的。

3. 社会・生活空間、国土に関する評価

Q4.自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成されていると思いますか。

Q4-3.安心・安全 重要度

		合計	非常に重要 (+2)	重要 (+1)	どちらとも いえない(0)	重要度は低い (-1)	全く重要ではない (-2)	[重要計]	[重要ではない計]	加重平均
全体		3000	35.9	48.2	13.3	1.6	1.1	84.0	2.7	1.16
Q3.オケ)収入・居住地域 評価クラスター	仕事肯定・都市部志向	846	40.0	51.1	7.6	1.3	0.1	91.0	1.4	1.29
	仕事肯定・都市部非志向	603	39.5	51.2	7.5	1.3	0.5	90.7	1.8	1.28
	仕事否定・都市部志向	205	44.9	47.8	5.4	1.5	0.5	92.7	2.0	1.35
	仕事否定・都市部非志向	602	37.4	48.2	9.6	2.2	2.7	85.5	4.8	1.15
	判断保留	744	24.6	42.5	29.6	1.6	1.7	67.1	3.4	0.87
Q3.スノ)未来生活評価・ 社会貢献意向クラスター	社会貢献肯定・未来生活楽観	582	46.4	46.9	5.2	1.4	0.2	93.3	1.5	1.38
	社会貢献肯定・未来生活悲観	704	45.6	46.6	6.7	1.0	0.1	92.2	1.1	1.37
	社会貢献否定・未来生活楽観	315	35.6	51.4	9.8	2.2	1.0	87.0	3.2	1.18
	社会貢献否定・未来生活悲観	668	31.3	51.8	11.4	3.1	2.4	83.1	5.5	1.06
	判断保留	731	22.4	46.0	29.3	0.5	1.8	68.4	2.3	0.87
Q3.サタ)地域活動参加非 参加・公介入肯定否定ク ラスター	地域活動参加肯定・公介入否定	464	45.5	46.8	6.0	1.7	-	92.2	1.7	1.36
	地域活動参加肯定・公介入肯定	574	51.9	40.8	5.4	1.4	0.5	92.7	1.9	1.42
	地域活動参加否定・公介入否定	670	32.4	54.0	12.1	0.9	0.6	86.4	1.5	1.17
	地域活動参加否定・公介入肯定	292	38.4	44.5	7.5	4.5	5.1	82.9	9.6	1.07
	判断保留	1000	23.8	50.2	23.6	1.2	1.2	74.0	2.4	0.94

(加重平均:非常に重要2、重要1、どちらともいえない0、重要度は低い-1、全く重要ではない-2で、回答者割合をかけ足し上げたもの)

Q5 活力ある国土形成評価(居住地域)

活力ある国土形成評価が居住地域で形成されているかに関しては(加重平均 0.05)

Q3.オケ)収入・居住地域評価クラスターでは、仕事肯定・都市部志向類型(846)0.28 で他の類型よりかなり肯定的、仕事否定・都市部非志向類型(602)-0.20 でかなり否定的、判断保留類型(744)0.01 で否定的。

Q3.スノ)未来生活評価・社会貢献意向クラスターでは、社会貢献肯定・未来生活楽観類型(582)0.35、社会貢献否定・未来生活楽観類型(315)0.18 が肯定的、社会貢献肯定・未来生活悲観類型(704)-0.08、社会貢献否定・未来生活悲観類型(668)-0.15 は否定的。

Q3.サタ)地域活動参加非参加・公介入肯定否定クラスターでは、地域活動参加肯定・公介入否定類型(464)0.37 がかなり肯定的、地域活動参加否定・公介入肯定類型(292)-0.24、地域活動参加否定・公介入否定類型(670)-0.03 が否定的。

3. 社会・生活空間、国土に関する評価

Q5.人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成されていると思いますか。

Q5-1.活力・交流【あなたの生活する地域・空間では】

		合計	非常に そうなっ ている (+2)	まあそ うなっ ている (+1)	どちら ともい えない(0)	あまり そう ない(-1)	そう なっ てい ない(-2)	[そう なっ てい ない計]	[そう なっ てい ない計]	加重平 均
全体		3000	2.6	27.3	47.4	17.8	4.9	29.9	22.8	0.05
Q3.オケ)収入・居住地域 評価クラスター	仕事肯定・都市部志向	846	6.3	36.6	39.4	14.4	3.3	42.9	17.7	0.28
	仕事肯定・都市部非志向	603	1.7	28.9	42.5	21.6	5.5	30.5	27.0	0.00
	仕事否定・都市部志向	205	2.0	39.5	33.2	18.0	7.3	41.5	25.4	0.11
	仕事否定・都市部非志向	602	0.8	21.6	42.5	26.9	8.1	22.4	35.0	-0.20
	判断保留	744	0.8	16.5	68.3	11.3	3.1	17.3	14.4	0.01
Q3.スノ)未来生活評価・ 社会貢献意向クラスター	社会貢献肯定・未来生活楽観	582	7.6	39.3	37.1	12.4	3.6	46.9	16.0	0.35
	社会貢献肯定・未来生活悲観	704	1.0	25.6	43.5	24.1	5.8	26.6	30.0	-0.08
	社会貢献否定・未来生活楽観	315	3.2	40.0	33.3	19.0	4.4	43.2	23.5	0.18
	社会貢献否定・未来生活悲観	668	1.8	21.4	44.6	24.1	8.1	23.2	32.2	-0.15
	判断保留	731	0.7	19.2	67.9	9.8	2.5	19.8	12.3	0.06
Q3.サタ)地域活動参加非 参加・公介入肯定否定ク ラスター	地域活動参加肯定・公介入否定	464	8.6	39.2	36.9	11.0	4.3	47.8	15.3	0.37
	地域活動参加肯定・公介入肯定	574	1.9	32.4	41.5	20.7	3.5	34.3	24.2	0.09
	地域活動参加否定・公介入否定	670	1.6	27.0	43.3	22.5	5.5	28.7	28.1	-0.03
	地域活動参加否定・公介入肯定	292	3.4	24.7	29.1	29.8	13.0	28.1	42.8	-0.24
	判断保留	1000	0.6	19.7	63.7	12.7	3.3	20.3	16.0	0.02

(加重平均:非常にそうになっている2、まあそうになっている1、どちらともいえない0、あまりそうっていない-1、そうっていない-2で、回答者割合をかけ足し上げたもの)

Q5-3 活力ある国土形成重要度評価

活力ある社会や国土形成重要度評価に関しては(加重平均 0.89)

Q3.オケ)収入・居住地域評価クラスターでは、仕事肯定・都市部志向類型(846)1.13、仕事否定・都市部志向類型(205)1.05 が肯定的、仕事肯定・都市部非志向類型(603)0.94 もかなり肯定的。

Q3.スノ)未来生活評価・社会貢献意向クラスターでは、社会貢献肯定・未来生活楽観類型(582)1.19、社会貢献肯定・未来生活悲観類型(704)1.04、社会貢献否定・未来生活楽観類型(315)0.96 が肯定的、社会貢献否定・未来生活悲観類型(668)0.72、判断保留類型(731)0.64 は否定的。

Q3.サタ)地域活動参加非参加・公介入肯定否定クラスターでは、地域活動参加肯定・公介入否定類型(464)1.22、地域活動参加肯定・公介入肯定類型(574)1.04 が肯定的。

3. 社会・生活空間、国土に関する評価

Q5.人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成されていると思いますか。

Q5-3.交流・活力 重要度

		合計	非常に重要 (+2)	重要 (+1)	どちらとも いえない(0)	重要度 は低い (-1)	全く重 要では ない(- 2)	[重要 計]	[重要で はない 計]	加重平 均
全体		3000	20.4	53.2	22.6	2.5	1.2	73.6	3.7	0.89
Q3.オケ)収入・居住地域 評価クラスター	仕事肯定・都市部志向	846	29.9	54.3	14.7	0.9	0.2	84.2	1.2	1.13
	仕事肯定・都市部非志向	603	18.6	60.9	17.4	2.5	0.7	79.4	3.2	0.94
	仕事否定・都市部志向	205	27.3	53.7	16.1	2.4	0.5	81.0	2.9	1.05
	仕事否定・都市部非志向	602	16.1	53.2	23.6	4.3	2.8	69.3	7.1	0.75
	判断保留	744	12.8	45.7	37.0	3.0	1.6	58.5	4.6	0.65
Q3.スノ)未来生活評価・ 社会貢献意向クラスター	社会貢献肯定・未来生活楽観	582	33.2	54.1	11.2	1.2	0.3	87.3	1.5	1.19
	社会貢献肯定・未来生活悲観	704	24.3	57.1	16.8	1.6	0.3	81.4	1.8	1.04
	社会貢献否定・未来生活楽観	315	21.0	57.5	18.7	1.9	1.0	78.4	2.9	0.96
	社会貢献否定・未来生活悲観	668	14.5	53.4	24.4	5.1	2.5	68.0	7.6	0.72
	判断保留	731	11.8	46.6	37.5	2.5	1.6	58.4	4.1	0.64
Q3.サタ)地域活動参加非 参加・公介入肯定否定ク ラスター	地域活動参加肯定・公介入否定	464	37.9	47.8	12.9	1.1	0.2	85.8	1.3	1.22
	地域活動参加肯定・公介入肯定	574	25.4	56.4	15.9	1.6	0.7	81.9	2.3	1.04
	地域活動参加否定・公介入否定	670	16.0	59.3	21.5	2.8	0.4	75.2	3.3	0.87
	地域活動参加否定・公介入肯定	292	21.2	48.3	17.8	6.8	5.8	69.5	12.7	0.72
	判断保留	1000	12.2	51.2	33.2	2.3	1.1	63.4	3.4	0.71

(加重平均:非常に重要2、重要1、どちらともいえない0、重要度は低い-1、全く重要ではない-2で、回答者割合をかけ足し上げたもの)

Q8 インフラ全体の充足度評価

インフラ全体の充足度評価に関して、各クラスター類型の差はあまり大きくない。(加重平均 0.04)

Q3.オケ)収入・居住地域評価クラスターでは、仕事肯定・都市部志向類型(846)0.12 が少し肯定的。

Q3.スノ)未来生活評価・社会貢献意向クラスターでは、社会貢献肯定・未来生活楽観類型(582)0.19、社会貢献否定・未来生活楽観類型(315)0.17 が高目、社会貢献肯定・未来生活悲観類型(704)-0.05、社会貢献否定・未来生活悲観類型(668)-0.03 は少し否定的。

Q3.サタ)地域活動参加非参加・公介入肯定否定クラスターでは、地域活動参加肯定・公介入否定類型(464)0.19、地域活動参加否定・公介入否定類型(670)0.08 が少し肯定的、地域活動参加否定・公介入肯定類型(292)-0.11 は否定的。

5. 社会資本の状況に関する全体評価

Q8.あなたはこういったインフラ(社会資本)が、全体としてどの程度充足していると考えますか。

【日本全体では】

		合計	非常に充足している(+2)	かなり充足している(+1)	どちらともいえない(0)	あまり充足していない(-1)	ほとんど充足していない(-2)	[充足している計]	[充足していない計]	加重平均
全体		3000	2.0	24.0	53.2	17.8	3.0	25.9	20.9	0.04
Q3.オケ)収入・居住地域評価クラスター	仕事肯定・都市部志向	846	3.2	27.9	49.1	17.5	2.4	31.1	19.9	0.12
	仕事肯定・都市部非志向	603	1.3	27.2	48.8	20.1	2.7	28.5	22.7	0.04
	仕事否定・都市部志向	205	2.9	27.3	44.4	22.4	2.9	30.2	25.4	0.05
	仕事否定・都市部非志向	602	2.2	26.7	45.8	19.4	5.8	28.9	25.2	0.00
	判断保留	744	0.7	13.7	69.9	13.8	1.9	14.4	15.7	-0.03
Q3.スノ)未来生活評価・社会貢献意向クラスター	社会貢献肯定・未来生活楽観	582	5.2	28.7	47.9	16.2	2.1	33.8	18.2	0.19
	社会貢献肯定・未来生活悲観	704	0.4	23.2	50.0	24.0	2.4	23.6	26.4	-0.05
	社会貢献否定・未来生活楽観	315	2.9	30.8	48.3	16.5	1.6	33.7	18.1	0.17
	社会貢献否定・未来生活悲観	668	2.1	25.9	45.5	20.1	6.4	28.0	26.5	-0.03
	判断保留	731	0.4	16.3	69.6	11.8	1.9	16.7	13.7	0.02
Q3.サタ)地域活動参加非参加・公介入肯定否定クラスター	地域活動参加肯定・公介入否定	464	5.6	28.2	47.6	16.6	1.9	33.8	18.5	0.19
	地域活動参加肯定・公介入肯定	574	1.9	26.7	44.8	23.9	2.8	28.6	26.7	0.01
	地域活動参加否定・公介入否定	670	1.6	29.6	47.2	18.1	3.6	31.2	21.6	0.08
	地域活動参加否定・公介入肯定	292	2.4	26.4	37.7	25.0	8.6	28.8	33.6	-0.11
	判断保留	1000	0.4	16.0	69.2	12.7	1.7	16.4	14.4	0.01

(加重平均:非常に充足している2、かなり充足している1、どちらともいえない0、あまり充足していない-1、ほとんど充足していない-2で、回答者割合をかけ足し上げたもの)

Q13 安全・安心を高める社会資本整備

安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進めるべきに関しては(加重平均 0.75)

Q3.オケ)収入・居住地域評価クラスターでは、仕事否定・都市部志向類型(205)0.97、仕事肯定・都市部志向類型(846)0.87、仕事肯定・都市部非志向類型(603)0.83 も肯定的、判断保留類型(744)0.50 で最も否定的。

Q3.スノ)未来生活評価・社会貢献意向クラスターでは、社会貢献肯定・未来生活楽観類型(582)0.97、社会貢献肯定・未来生活悲観類型(704)0.96 が肯定的、判断保留類型(731)0.49 で最も否定的。

Q3.サタ)地域活動参加非参加・公介入肯定否定クラスターでは、地域活動参加肯定・公介入肯定類型(574)1.03、地域活動参加肯定・公介入否定類型(464)0.90 が肯定的、判断保留類型(1000)0.56 で最も否定的。

7. 社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価

インフラ(社会資本)整備のあり方、保全・整備の進め方について、どう思いますか。

Q13.安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進めるべき

		合計	非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらと もいえ ない(0)	そう思 わない (-1)	全くそう 思わない (-2)	[そう思 う計]	[そう思 わない 計]	加重平 均
全体		3000	17.7	46.8	30.5	3.3	1.7	64.5	5.0	0.75
Q3.オケ)収入・居住地域 評価クラスター	仕事肯定・都市部志向	846	21.4	48.1	27.1	2.6	0.8	69.5	3.4	0.87
	仕事肯定・都市部非志向	603	18.4	52.9	23.5	3.8	1.3	71.3	5.1	0.83
	仕事否定・都市部志向	205	29.3	47.3	16.6	4.9	2.0	76.6	6.8	0.97
	仕事否定・都市部非志向	602	16.9	51.7	24.6	3.8	3.0	68.6	6.8	0.76
	判断保留	744	10.3	36.2	48.8	2.8	1.9	46.5	4.7	0.50
Q3.スノ)未来生活評価・ 社会貢献意向クラスター	社会貢献肯定・未来生活楽観	582	25.4	50.7	20.6	2.1	1.2	76.1	3.3	0.97
	社会貢献肯定・未来生活悲観	704	24.4	51.4	20.7	2.7	0.7	75.9	3.4	0.96
	社会貢献否定・未来生活楽観	315	18.1	48.6	26.0	6.0	1.3	66.7	7.3	0.76
	社会貢献否定・未来生活悲観	668	13.9	46.6	31.6	4.5	3.4	60.5	7.9	0.63
	判断保留	731	8.3	38.6	48.8	2.6	1.6	46.9	4.2	0.49
Q3.サタ)地域活動参加非 参加・公介入肯定否定ク ラスター	地域活動参加肯定・公介入否定	464	23.3	48.7	24.1	2.6	1.3	72.0	3.9	0.90
	地域活動参加肯定・公介入肯定	574	26.8	52.1	18.6	1.9	0.5	78.9	2.4	1.03
	地域活動参加否定・公介入否定	670	16.6	49.7	29.3	3.3	1.2	66.3	4.5	0.77
	地域活動参加否定・公介入肯定	292	18.5	46.9	19.9	8.2	6.5	65.4	14.7	0.63
	判断保留	1000	10.4	40.8	44.3	3.0	1.5	51.2	4.5	0.56

(加重平均:非常にそう思う2、そう思う1、どちらともいえない0、そう思わない-1、全くそう思わない-2で、回答者割合をかけ足し上げたもの)

Q15 生産拡大効果のある社会資本整備

生産拡大効果のある社会資本整備を重点的に進めるべきに関しては(加重平均 0.40)

Q3.オケ)収入・居住地域評価クラスターでは、仕事肯定・都市部志向類型(846)0.63 が最も高い。仕事否定・都市部志向類型(205)0.48、仕事肯定・都市部非志向類型(603)0.44 は若干肯定的、仕事否定・都市部非志向類型(602)0.20、判断保留類型(744)0.25 は否定的。

Q3.スノ)未来生活評価・社会貢献意向クラスターでは、社会貢献肯定・未来生活楽観類型(582)0.71 が最も肯定的、社会貢献否定・未来生活楽観類型(315)0.53、社会貢献否定・未来生活悲観類型(668)0.26、判断保留類型(731)0.23 は否定的。

Q3.サタ)地域活動参加非参加・公介入肯定否定クラスターでは、地域活動参加肯定・公介入否定類型(464)0.69、地域活動参加肯定・公介入肯定類型(574)0.50 が肯定的、地域活動参加否定・公介入肯定類型(292)0.25、判断保留類型(1000)0.26 は否定的。

7. 社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価

インフラ(社会資本)整備のあり方、保全・整備の進め方について、どう思いますか。

Q15.生産拡大効果のある社会資本整備を重点的に進めるべき

		合計	非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらと もいえ ない(0)	そう思 わない (-1)	全くそう 思わない (-2)	[そう思 う計]	[そう思 わない 計]	加重平 均
全体		3000	7.7	36.0	46.9	7.5	1.9	43.7	9.4	0.40
Q3.オケ)収入・居住地域 評価クラスター	仕事肯定・都市部志向	846	12.6	44.4	37.5	4.3	1.2	57.1	5.4	0.63
	仕事肯定・都市部非志向	603	7.0	40.8	42.5	8.5	1.3	47.8	9.8	0.44
	仕事否定・都市部志向	205	11.2	36.6	42.4	8.8	1.0	47.8	9.8	0.48
	仕事否定・都市部非志向	602	4.7	31.6	47.2	12.8	3.8	36.2	16.6	0.20
	判断保留	744	4.3	25.8	62.2	5.8	1.9	30.1	7.7	0.25
Q3.スノ)未来生活評価・ 社会貢献意向クラスター	社会貢献肯定・未来生活楽観	582	15.1	47.8	31.1	4.8	1.2	62.9	6.0	0.71
	社会貢献肯定・未来生活悲観	704	6.1	39.8	43.6	9.5	1.0	45.9	10.5	0.40
	社会貢献否定・未来生活楽観	315	10.2	42.9	38.1	7.6	1.3	53.0	8.9	0.53
	社会貢献否定・未来生活悲観	668	6.0	31.6	48.5	10.3	3.6	37.6	13.9	0.26
	判断保留	731	4.0	23.9	65.0	5.1	2.1	27.9	7.1	0.23
Q3.サタ)地域活動参加非 参加・公介入肯定否定ク ラスター	地域活動参加肯定・公介入否定	464	14.4	47.4	32.5	4.3	1.3	61.9	5.6	0.69
	地域活動参加肯定・公介入肯定	574	9.1	43.2	37.3	9.8	0.7	52.3	10.5	0.50
	地域活動参加否定・公介入否定	670	6.7	36.4	47.0	8.4	1.5	43.1	9.9	0.39
	地域活動参加否定・公介入肯定	292	10.3	33.2	35.6	13.4	7.5	43.5	20.9	0.25
	判断保留	1000	3.8	27.0	62.3	5.4	1.5	30.8	6.9	0.26

(加重平均:非常にそう思う2、そう思う1、どちらともいえない0、そう思わない-1、全くそう思わない-2で、回答者割合をかけ足し上げたもの)

Q19 住民の意見等を取り入れ協働作業を行える仕組みづくり

住民、地域の意見等を取り入れ、協働作業が行えるような仕組みを作っていくべきに関しては(加重平均 0.60) Q3.オケ)収入・居住地域評価クラスターでは、仕事肯定・都市部志向類型(846)0.71、仕事否定・都市部志向類型(205)0.76、仕事肯定・都市部非志向類型(603)0.68 が肯定的。

Q3.スノ)未来生活評価・社会貢献意向クラスターでは、社会貢献肯定・未来生活楽観類型(582)0.85、社会貢献肯定・未来生活悲観類型(704)0.79 がかなり肯定的。

Q3.サタ)地域活動参加非参加・公介入肯定否定クラスターでは、地域活動参加肯定・公介入否定類型(464)0.82、地域活動参加肯定・公介入肯定類型(574)0.82 がかなり肯定的。

社会貢献肯定・未来生活楽観類型、社会貢献肯定・未来生活悲観類型、地域活動参加肯定・公介入否定類型、地域活動参加肯定・公介入肯定類型といった「協働作業の仕組みづくり」に積極的な類型が存在することは注目に値する。

7. 社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価

インフラ(社会資本)整備のあり方、保全・整備の進め方について、どう思いますか。

Q19.住民、地域の意見等を十分に取り入れ、価値観の共有と協働作業が行えるような仕組みを作っていくべき

		合計	非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらと もいえ ない(0)	そう 思わない (-1)	全く そう 思わない (-2)	[そう 思う 計]	[そう 思わ ない 計]	加重 平 均
全体		3000	10.3	46.6	37.3	4.2	1.6	56.9	5.8	0.60
Q3.オケ)収入・居住地域 評価クラスター	仕事肯定・都市部志向	846	14.1	49.5	31.2	4.0	1.2	63.6	5.2	0.71
	仕事肯定・都市部非志向	603	10.0	54.1	31.5	3.5	1.0	64.0	4.5	0.68
	仕事否定・都市部志向	205	18.0	45.9	30.7	4.9	0.5	63.9	5.4	0.76
	仕事否定・都市部非志向	602	8.8	48.3	33.9	6.0	3.0	57.1	9.0	0.54
	判断保留	744	5.4	35.9	53.6	3.2	1.9	41.3	5.1	0.40
Q3.スノ)未来生活評価・ 社会貢献意向クラスター	社会貢献肯定・未来生活楽観	582	17.0	55.7	23.5	2.7	1.0	72.7	3.8	0.85
	社会貢献肯定・未来生活悲観	704	12.5	56.7	27.8	2.8	0.1	69.2	3.0	0.79
	社会貢献否定・未来生活楽観	315	9.8	45.7	34.9	6.7	2.9	55.6	9.5	0.53
	社会貢献否定・未来生活悲観	668	8.2	41.0	40.0	7.3	3.4	49.3	10.8	0.43
	判断保留	731	4.9	35.0	56.1	2.6	1.4	39.9	4.0	0.40
Q3.サタ)地域活動参加非 参加・公介入肯定否定ク ラスター	地域活動参加肯定・公介入否定	464	17.5	51.9	26.7	2.8	1.1	69.4	3.9	0.82
	地域活動参加肯定・公介入肯定	574	15.2	55.1	26.5	3.3	—	70.2	3.3	0.82
	地域活動参加否定・公介入否定	670	8.4	45.2	38.1	6.9	1.5	53.6	8.4	0.52
	地域活動参加否定・公介入肯定	292	10.6	44.5	29.5	7.9	7.5	55.1	15.4	0.43
	判断保留	1000	5.4	40.7	50.3	2.4	1.2	46.1	3.6	0.47

(加重平均:非常にそう思う2、そう思う1、どちらともいえない0、そう思わない-1、全くそう思わない-2で、回答者割合をかけ足し上げたもの)

Q21 公平の観点も重視した社会資本整備

社会資本整備にあたっては、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべきに関しては(加重平均 0.54) Q3.オケ)収入・居住地域評価クラスターでは、仕事肯定・都市部志向類型(846)0.63、仕事否定・都市部志向類型(205)0.62、仕事肯定・都市部非志向類型(603)0.60 が肯定的、判断保留類型(744)0.35 は否定的。

Q3.スノ)未来生活評価・社会貢献意向クラスターでは、社会貢献肯定・未来生活楽観類型(582)0.75、社会貢献肯定・未来生活悲観類型(704)0.70 が肯定的、社会貢献否定・未来生活楽観類型(315)0.49、社会貢献否定・未来生活悲観類型(668)0.41、判断保留類型(731)0.34 は否定的。

Q3.サタ)地域活動参加非参加・公介入肯定否定クラスターでは、地域活動参加肯定・公介入否定類型(464)0.75、地域活動参加肯定・公介入肯定類型(574)0.70 が肯定的、地域活動参加否定・公介入肯定類型(292)0.41、判断保留類型(1000)0.39 は否定的。

7. 社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価

インフラ(社会資本)整備のあり方、保全・整備の進め方について、どう思いますか。

Q21.社会資本整備にあたっては、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべき

		合計	非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらとも いえない(0)	そう 思わない (-1)	全くそう 思わない (-2)	[そう思 う計]	[そう思 わない 計]	加重平 均
全体		3000	8.2	45.5	40.0	4.3	2.0	53.7	6.3	0.54
Q3.オケ)収入・居住地域 評価クラスター	仕事肯定・都市部志向	846	11.5	47.8	35.1	4.1	1.5	59.2	5.7	0.63
	仕事肯定・都市部非志向	603	8.0	52.2	33.8	4.0	2.0	60.2	6.0	0.60
	仕事否定・都市部志向	205	11.7	48.3	31.7	6.8	1.5	60.0	8.3	0.62
	仕事否定・都市部非志向	602	7.1	50.0	34.7	5.1	3.0	57.1	8.1	0.53
	判断保留	744	4.4	33.2	57.1	3.4	1.9	37.6	5.2	0.35
Q3.スノ)未来生活評価・ 社会貢献意向クラスター	社会貢献肯定・未来生活楽観	582	15.3	51.2	28.2	4.0	1.4	66.5	5.3	0.75
	社会貢献肯定・未来生活悲観	704	7.7	58.5	30.4	2.8	0.6	66.2	3.4	0.70
	社会貢献否定・未来生活楽観	315	8.9	45.1	36.2	6.0	3.8	54.0	9.8	0.49
	社会貢献否定・未来生活悲観	668	6.3	42.1	41.8	6.3	3.6	48.4	9.9	0.41
	判断保留	731	4.4	31.9	58.7	3.4	1.6	36.3	5.1	0.34
Q3.サタ)地域活動参加非 参加・公介入肯定否定ク ラスター	地域活動参加肯定・公介入否定	464	15.1	50.6	29.7	2.8	1.7	65.7	4.5	0.75
	地域活動参加肯定・公介入肯定	574	10.1	57.0	27.4	4.4	1.2	67.1	5.6	0.70
	地域活動参加否定・公介入否定	670	8.1	44.0	41.6	4.9	1.3	52.1	6.3	0.53
	地域活動参加否定・公介入肯定	292	8.6	46.9	29.1	7.5	7.9	55.5	15.4	0.41
	判断保留	1000	3.8	37.2	54.1	3.6	1.3	41.0	4.9	0.39

(加重平均:非常にそう思う2、そう思う1、どちらともいえない0、そう思わない-1、全くそう思わない-2で、回答者割合をかけ足し上げたもの)

Q30 公共事業予算

今後の公共事業の予算に関しては(加重平均 0.16)

Q3.オケ)収入・居住地域評価クラスターでは、仕事肯定・都市部志向類型(846)0.34、仕事否定・都市部志向類型(205)0.25 が増やすべき、仕事肯定・都市部非志向類型(603)0.19 も増やすべき、仕事否定・都市部非志向類型(602)-0.02 は減らすべき、判断保留類型(744)0.04 は増やすべきだが度合いは弱い。

Q3.スノ)未来生活評価・社会貢献意向クラスターでは、社会貢献肯定・未来生活楽観類型(582)0.44、社会貢献否定・未来生活楽観類型(315)0.27 が増やすべき、社会貢献否定・未来生活悲観類型(668)-0.03 は減らすべき。

Q3.サタ)地域活動参加非参加・公介入肯定否定クラスターでは、地域活動参加肯定・公介入否定類型(464)0.41、地域活動参加肯定・公介入肯定類型(574)0.34 が増やすべき。

9. 国家予算 費目別 今後の増減評価

Q30.今後の公共事業の予算について

		合計	増やしていくべき(+2)	増やさざるを得ない(+1)	平成29年度程度とすべき(0)	減らさざるを得ない(-1)	減らしていくべき(-2)	[増やすべき+増やさざるを得ない計]	[減らしていくべき+減らさざるを得ない計]	加重平均
全体		3000	7.4	33.9	34.3	15.6	8.8	41.3	24.4	0.16
Q3.オケ)収入・居住地域評価クラスター	仕事肯定・都市部志向	846	10.6	39.8	29.7	12.5	7.3	50.5	19.9	0.34
	仕事肯定・都市部非志向	603	7.6	36.0	31.3	17.4	7.6	43.6	25.0	0.19
	仕事否定・都市部志向	205	10.2	33.2	36.1	12.2	8.3	43.4	20.5	0.25
	仕事否定・都市部非志向	602	4.0	31.2	35.2	17.9	11.6	35.2	29.6	-0.02
	判断保留	744	5.6	27.8	40.7	16.5	9.3	33.5	25.8	0.04
Q3.スノ)未来生活評価・社会貢献意向クラスター	社会貢献肯定・未来生活楽観	582	13.9	39.7	28.5	11.9	6.0	53.6	17.9	0.44
	社会貢献肯定・未来生活悲観	704	4.3	38.1	31.4	18.9	7.4	42.3	26.3	0.13
	社会貢献否定・未来生活楽観	315	10.2	34.0	35.2	14.3	6.3	44.1	20.6	0.27
	社会貢献否定・未来生活悲観	668	6.0	28.4	35.8	16.6	13.2	34.4	29.8	-0.03
	判断保留	731	5.5	30.2	39.9	14.9	9.4	35.7	24.4	0.07
Q3.サタ)地域活動参加非参加・公介入肯定否定クラスター	地域活動参加肯定・公介入否定	464	12.5	41.4	28.4	9.7	8.0	53.9	17.7	0.41
	地域活動参加肯定・公介入肯定	574	8.4	40.1	33.8	12.5	5.2	48.4	17.8	0.34
	地域活動参加否定・公介入否定	670	5.7	32.1	32.1	20.4	9.7	37.8	30.1	0.04
	地域活動参加否定・公介入肯定	292	8.9	28.8	32.9	14.4	15.1	37.7	29.5	0.02
	判断保留	1000	5.3	29.6	39.2	17.1	8.8	34.9	25.9	0.06

(加重平均:増やしていくべき2、増やさざるを得ない1、平成 29 年度程度とすべき0、減らさざるを得ない-1、減らしていくべき-2で、回答者割合をかけ足し上げたもの)

生活価値観をベースとしたクラスター1

	Q3.オケ) 収入・居住地域評価クラスター				
	仕事肯定・ 都市部志向 846(28.2%)	仕事肯定・ 都市部非志向 603(20.1%)	仕事否定・ 都市部志向 205(6.8%)	仕事否定・ 都市部非志向 602(20.1%)	判断保留 744(24.8%)
Q4 安全・安心な 国土形成評価 (居住地域)	肯定的	かなり肯定的	肯定的		平均より否定的
Q4-3 安全・安心な 国土形成重要 度評価	肯定的	肯定的	肯定的	平均より否定的	かなり否定的
Q5 活力ある国土 形成評価(居 住地域)	かなり肯定的			かなり否定的	否定的
Q5-3 活力ある国土 形成重要度評 価	肯定的	かなり肯定的	肯定的		平均より否定的
Q8 インフラ全体の 充足度評価	少し肯定的	クラスター内の差少ない			
Q13 安全・安心を 高める社会資 本整備	肯定的	肯定的	肯定的		最も否定的
Q15 生産拡大効果 のある社会資 本整備	最も肯定的	少し肯定的	少し肯定的	否定的	否定的
Q19 住民の意見等 を取り入れ協 働作業を行え る仕組みづくり	肯定的	肯定的	肯定的		否定的
Q21 公平の観点も 重視した社会 資本整備	肯定的	肯定的	肯定的		否定的
Q30 公共事業予算	増やすべき	増やすべき	増やすべき	減らすべき	増やすべきだが度合 いは弱い
総合評価	社会資本 (保全・整備) 最積極類型	社会資本 (保全・整備) 積極類型	社会資本 (保全・整備) 積極類型	社会資本 (保全・整備) 消極類型	社会資本 (保全・整備) 否定類型

生活価値観をベースとしたクラスター2

	Q3.スノ) 未来生活評価・社会貢献意向クラスター				
	社会貢献肯定・ 未来生活楽観 582(19.4%)	社会貢献肯定・ 未来生活悲観 704(23.5%)	社会貢献否定・ 未来生活楽観 315(10.5%)	社会貢献否定・ 未来生活悲観 668(22.3%)	判断保留 731(24.4%)
Q4 安全・安心な 国土形成評価 (居住地域)	肯定的	肯定的	肯定的	否定的	否定的
Q4-3 安全・安心な 国土形成重要 度評価	肯定的	肯定的			かなり否定的
Q5 活力ある国土 形成評価(居 住地域)	肯定的	否定的	肯定的	否定的	
Q5-3 活力ある国土 形成重要度評 価	肯定的	肯定的	肯定的	否定的	否定的
Q8 インフラ全体の 充足度評価	肯定的	肯定的	少し否定的	少し否定的	
Q13 安全・安心を 高める社会資 本整備	肯定的	肯定的		少し否定的	最も否定的
Q15 生産拡大効果 のある社会資 本整備	最も肯定的		否定的	否定的	否定的
Q19 住民の意見等 を取り入れ協 働作業を行え る仕組みづくり	強く肯定的	強く肯定的			
Q21 公平の観点も 重視した社会 資本整備	肯定的	肯定的	否定的	否定的	否定的
Q30 公共事業予算	増やすべき		増やすべき	減らすべき	
総合評価	社会資本 (保全・整備) 最積極類型	社会資本 (保全・整備) 積極類型	社会資本 (保全・整備) 少し積極類型	社会資本 (保全・整備) 消極類型	社会資本 (保全・整備) 否定類型

生活価値観をベースとしたクラスター3

	Q3.サタ)地域活動参加非参加・公介入肯定否定クラスター				
	地域活動参加肯定・ 公介入否定 464(15.5%)	地域活動参加肯定・ 公介入肯定 574(19.1%)	地域活動参加否定・ 公介入否定 670(22.3%)	地域活動参加否定・ 公介入肯定 292(9.7%)	判断保留 1000(33.3%)
Q4 安全・安心な 国土形成評価 (居住地域)	肯定的	肯定的	否定的	否定的	否定的
Q4-3 安全・安心な 国土形成重要 度評価	肯定的	肯定的			少し否定的
Q5 活力ある国土 形成評価(居 住地域)	肯定的			否定的	
Q5-3 活力ある国土 形成重要度評 価	肯定的	肯定的		否定的	否定的
Q8 インフラ全体の 充足度評価	少し肯定的		少し肯定的	否定的	
Q13 安全・安心を 高める社会資 本整備	肯定的	肯定的			最も否定的
Q15 生産拡大効果 のある社会資 本整備	肯定的	肯定的		否定的	否定的
Q19 住民の意見等 を取り入れ協 働作業を行え る仕組みづくり	強く肯定的	強く肯定的			
Q21 公平の観点も 重視した社会 資本整備	肯定的	肯定的		否定的	否定的
Q30 公共事業予算	増やすべき	増やすべき			
総合評価	社会資本 (保全・整備) 最積極類型	社会資本 (保全・整備) 積極類型	社会資本 (保全・整備) 中立類型	社会資本 (保全・整備) 否定類型	社会資本 (保全・整備) 否定類型

3. 社会・生活の動向に対する意識・態度(不安)と社会資本充足度評価をベースとしたクラスター分析

〈目的と概要〉

質問間クロス分析で、社会・生活の動向に対する不安(安全度評価)が、社会資本(保全・整備)のあり方に大きな影響を与えていることが明らかになったことを踏まえて、社会資本の保全・整備の進め方に関する背景意識となっている社会資本の現状に関する評価である「社会・生活の動向に対する不安(Q1)」と「社会資本充足度評価(Q8)」 「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」に関する国土形成評価(Q4、Q5、Q6)をベースに類型を抽出するクラスター分析を実施した。

〈クラスター分析ステップ〉

Q1-1 の社会・生活の動向に対する意識・態度に関する回答を「全質問」(全体)、「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」の不安度で類型化。

具体的には Q1-1 の回答を「全体」「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」毎に、「非常に不安を感じる」または「不安を感じる」が「全く不安は感じない」または「不安は感じない」を2以上上回るものを「不安」、逆に「全く不安は感じない」または「不安は感じない」が「非常に不安を感じる」または「不安を感じる」を2以上上回るものを「非不安」とした。

ただし、「どちらともいえない」が項目数の3分の2以上ある場合は「判断保留層」とした。

3分の2の基準は、全体が26項目中18項目、「安全・安心」が11項目中7項目、「活力・交流」が6項目、「心豊かな暮らし」が7項目中5項目とした。

Q8(社会資本の状況に関する全体評価)の回答が「非常に充足している」または「かなり充足している」を「充足層」、「どちらともいえない」を「判断保留層」、「ほとんど充足していない」または「あまり充足していない」を「非充足層」とした。

Q1 の社会・生活の動向に対する意識・態度に関する回答をベースに、「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」の各々で不安度を不安、非不安、判断保留で類型化したものを、
「安全・安心」不安度と Q4「安全・安心な国土形成評価＝充足度評価」
「活力・交流」不安度と Q5「活力・交流のある国土形成評価＝充足度評価」
「心豊かな暮らし」不安度と Q6「心豊かな暮らしを実現する国土形成評価＝充足度評価」と対応させ、上記同方法で各5クラスターを抽出。

Q1-1 とQ8(Q4、Q5、Q6)の回答を掛け合わせて抽出された9層のうち、どちらも「判断保留層」の場合は、「判断保留」として除外し、残りのサンプルを非階層法のクラスター分析により4つのクラスターに分けた。

クラスター化過程1

全体

	非充足層	判断保留層	充足層	計
不安層	568	833	576	1977
判断保留層	76	425	101	602
非不安層	93	164	164	421
計	737	1422	841	3000

↓

		Q8.社会資本の状況に関する全体評価(地域)	
		未充足	充足
Q1-1.社会・生活の動向に関する意識・態度(全体)	不安	1401	677
	非不安	333	164
		425	

↓

	サンプル数	%
不安・未充足	1401	46.7
不安・充足	677	22.6
非不安・未充足	333	11.1
非不安・充足	164	5.5
判断保留	425	14.2

「全体」では「不安・未充足類型」が「不安・充足類型」を大きく上回る

社会・生活に関する全質問で不安・非不安、判断保留と社会資本充足度評価(充足、非充足、判断保留)でクラスター化したところ、

不安・未充足類型が 1401(46.7%)で半数近く、次いで不安・充足類型 677(22.6%)。非不安・未充足類型 333(11.1%)、非不安・充足類型 164(5.5%)は少ない。判断保留類型は 425(14.2%)。

安全・安心

	非充足層	判断保留層	充足層	計
不安層	434	812	744	1990
判断保留層	87	438	183	708
非不安層	78	109	115	302
計	599	1359	1042	3000

↓

		Q4.安全・安心に関する評価(地域)	
		未充足	充足
Q1-1.社会・生活の動向に関する意識・態度(安全・安心)	不安	521	1556
	非不安	187	298
		438	

↓

	サンプル数	%
不安・未充足	521	17.4
不安・充足	1556	51.9
非不安・未充足	187	6.2
非不安・充足	298	9.9
判断保留	438	14.6

「安全・安心」では「不安・充足類型」が圧倒的トップであることが特徴

社会・生活「安全・安心」に関する不安度と「安全・安心」社会資本充足度評価のクラスターでは、

不安だが充足しているという「不安・充足類型」が 1556(51.9%)で半数を超える(安全・安心の特徴)。次いで不安で未充足であると評価する「不安・未充足」521(17.4%)、「非不安・充足類型」298(9.9%)、非不安・未充足類型 187(6.2%)、判断保留類型 438(14.6%)で、「活力・交流」527、「心豊かな暮らし」615 より少ない。

クラスター化過程2

活力・交流

	非充足層	判断保留層	充足層	計
不安層	429	741	574	1744
判断保留層	151	527	201	879
非不安層	103	153	121	377
計	683	1421	896	3000

↓

		Q5.活力・交流に関する評価 (地域)	
		未充足	充足
Q1-1.社会・生活の動向に関する意識・態度(活力・交流)	不安	1170	574
	非不安	407	322
		527	

↓

	サンプル数	%
不安・未充足	1170	39.0
不安・充足	574	19.1
非不安・未充足	407	13.6
非不安・充足	322	10.7
判断保留	527	17.6

「活力・交流」では「不安・未充足類型」がトップで「不安・充足類型」を上回る

心豊かな暮らし

	非充足層	判断保留層	充足層	計
不安層	264	512	573	1349
判断保留層	158	615	342	1115
非不安層	140	180	216	536
計	562	1307	1131	3000

↓

		Q6.心豊かな暮らしに関する評価 (地域)	
		未充足	充足
Q1-1.社会・生活の動向に関する意識・態度(心豊かな暮らし)	不安	422	1427
	非不安	320	216
		615	

↓

	サンプル数	%
不安・未充足	422	14.1
不安・充足	1427	47.6
非不安・未充足	320	10.7
非不安・充足	216	7.2
判断保留	615	20.5

「心豊かな暮らし」では「不安・充足類型」がトップであることが特徴

社会・生活「活力・交流」に関する不安度と「活力・交流」社会資本充足度評価のクラスターでは、

不安で未充足であるという「不安・未充足類型」が1170(46.6%)で圧倒的なトップ。不安(全体)と同じパターンだが、「活力・交流」での「不安・充足類型」は574(19.1%)。「非不安・未充足類型」407(13.6%)、「非不安・充足類型」322(10.7%)。

社会・生活「心豊かな暮らし」に関する不安度と「心豊かな暮らし」社会資本充足度評価のクラスターでは、

「不安・充足類型」が1427(47.6%)と最も多いが、「安全・安心類型」と比較すると少ない。「不安・未充足類型」422(14.1%)がそれに次ぐ。「非不安・充足類型」が320(10.7%)、「非不安・未充足類型」216(7.2%)。

維持管理・更新に重点を移すべきに対する評価(Q10)

維持管理・更新に重点を移すべきでは

全体では、「不安・充足類型」「非不安・充足類型」が同じレベルで「そう思う」が多い。「安全・安心」「心豊かな暮らし」では、「不安・充足類型」で「そう思う」が「非不安・充足類型」を上回る傾向。

6. 社会資本の維持管理・更新に関する認知・理解・評価

インフラ(社会資本)の維持管理・更新について、どう思われますか。

Q10.新たなインフラ(社会資本)を整備するより、維持管理・更新に重点を移すべき

		合計	非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらと もいえ ない(0)	そう思 わない (-1)	全くそう 思わな い(-2)	[そう思 う計]	[そう思 わない 計]	加重平 均
全体		3000	10.7	34.4	45.4	7.0	2.5	45.1	9.5	0.44
Q1不安(全体)× Q8充足クラスター (全体)	不安・未充足	1401	10.8	33.1	46.8	7.6	1.7	44.0	9.3	0.44
	不安・充足	677	16.7	47.4	30.1	4.7	1.0	64.1	5.8	0.74
	非不安・未充足	333	3.0	30.6	46.2	11.4	8.7	33.6	20.1	0.08
	非不安・充足	164	20.7	43.9	25.6	8.5	1.2	64.6	9.8	0.74
	判断保留	425	2.8	17.4	72.0	4.5	3.3	20.2	7.8	0.12
Q1不安(安全・安 心)×Q4充足クラ スター(安全・安 心)	不安・未充足	668	12.0	32.3	43.7	9.1	2.8	44.3	12.0	0.41
	不安・充足	1418	11.8	39.4	42.0	5.7	1.1	51.2	6.8	0.55
	非不安・未充足	198	4.5	28.3	42.9	12.1	12.1	32.8	24.2	0.01
	非不安・充足	264	18.9	44.7	28.0	7.2	1.1	63.6	8.3	0.73
	判断保留	452	3.1	18.8	69.5	5.3	3.3	21.9	8.6	0.13
Q1不安(活力・交 流)×Q5充足クラ スター(活力・交 流)	不安・未充足	1399	10.2	33.8	46.3	7.4	2.3	44.0	9.6	0.42
	不安・充足	699	17.5	47.1	29.9	4.6	1.0	64.5	5.6	0.75
	非不安・未充足	235	6.0	29.4	42.1	12.8	9.8	35.3	22.6	0.09
	非不安・充足	142	17.6	45.1	26.1	9.9	1.4	62.7	11.3	0.68
	判断保留	525	3.2	18.7	70.1	5.7	2.3	21.9	8.0	0.15
Q1不安(心豊かな 暮らし)×Q6充足 クラスター(心豊か な暮らし)	不安・未充足	1189	11.2	33.8	45.2	7.6	2.3	45.0	9.8	0.44
	不安・充足	637	17.0	47.3	30.6	4.4	0.8	64.2	5.2	0.75
	非不安・未充足	130	6.9	25.4	42.3	13.8	11.5	32.3	25.4	0.02
	非不安・充足	406	12.3	38.4	36.5	9.6	3.2	50.7	12.8	0.47
	判断保留	638	3.3	22.1	66.8	5.3	2.5	25.4	7.8	0.18

社会資本の点検等への住民参加に対する評価(Q12)

「不安・充足類型」が「そう思う」とする割合が高く、「不安・未充足類型」「非不安・充足類型」がそれに続き、「非不安・充足類型」は「そう思う」がかなり少なく、「判断保留類型」では最も低い。（「全体」「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」全てでその傾向）

6. 社会資本の維持管理・更新に関する認知・理解・評価

インフラ(社会資本)の維持管理・更新について、どう思われますか。

Q12.住民などが積極的にインフラ(社会資本)の点検や清掃に加わるなど住民の協力も必要

		合計	非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらと もいえ ない(0)	そう思 わない (-1)	全くそう 思わな い(-2)	[そう思 う計]	[そう思 わない 計]	加重平 均
全体		3000	7.8	41.5	41.6	6.4	2.8	49.3	9.1	0.45
Q1不安(全体)× Q8充足クラスター (全体)	不安・未充足	1401	7.8	44.8	39.8	6.0	1.6	52.6	7.6	0.51
	不安・充足	677	12.4	53.6	27.6	5.5	0.9	66.0	6.4	0.71
	非不安・未充足	333	3.6	34.2	43.5	9.0	9.6	37.8	18.6	0.13
	非不安・充足	164	12.8	40.2	32.9	11.6	2.4	53.0	14.0	0.49
	判断保留	425	1.6	17.6	71.5	4.9	4.2	19.3	9.2	0.08
Q1不安(安全・安 心)×Q4充足クラ スター(安全・安 心)	不安・未充足	668	9.1	45.8	35.0	7.0	3.0	54.9	10.0	0.51
	不安・充足	1418	9.0	47.5	36.9	5.4	1.3	56.4	6.7	0.57
	非不安・未充足	198	3.5	29.3	41.9	11.6	13.6	32.8	25.3	-0.03
	非不安・充足	264	10.6	44.3	34.5	8.7	1.9	54.9	10.6	0.53
	判断保留	452	2.2	20.4	69.9	4.6	2.9	22.6	7.5	0.14
Q1不安(活力・交 流)×Q5充足クラ スター(活力・交 流)	不安・未充足	1399	7.6	44.3	39.5	6.1	2.4	52.0	8.6	0.49
	不安・充足	699	12.4	52.6	28.3	5.6	1.0	65.1	6.6	0.70
	非不安・未充足	235	4.7	32.3	42.6	8.9	11.5	37.0	20.4	0.10
	非不安・充足	142	12.7	43.0	30.3	12.0	2.1	55.6	14.1	0.52
	判断保留	525	1.9	23.0	67.4	5.3	2.3	25.0	7.6	0.17
Q1不安(心豊かな 暮らし)×Q6充足 クラスター(心豊か な暮らし)	不安・未充足	1189	8.2	45.0	39.7	5.4	1.8	53.2	7.1	0.52
	不安・充足	637	13.2	51.8	29.2	4.9	0.9	65.0	5.8	0.71
	非不安・未充足	130	7.7	35.4	30.8	9.2	16.9	43.1	26.2	0.08
	非不安・充足	406	5.9	40.9	37.4	12.1	3.7	46.8	15.8	0.33
	判断保留	638	2.8	26.5	62.2	5.5	3.0	29.3	8.5	0.21

住民の意見の取り入れ、協働作業の仕組みづくりに対する評価(Q19)

「不安・充足類型」で、住民、地域の意見等を十分に取り入れ、価値観の共有と協働作業が行えるような仕組みを作っていくべきとする人の割合が最も高く、「不安・未充足類型」がそれに次ぎ、「非不安・充足類型」がそれに続く。「安全・安心」では、「不安・未充足類型」が「不安・充足類型」を若干上回る。

「非不安・未充足類型」「判断保留類型」は「仕組みづくり」に消極的。

7. 社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価

インフラ(社会資本)整備のあり方、保全・整備の進め方について、どう思いますか。

Q19.住民、地域の意見等を十分に取り入れ、価値観の共有と協働作業が行えるような仕組みを作っていくべき

		合計	非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらと もいえ ない(0)	そう思 わない (-1)	全くそう 思わな い(-2)	[そう思 う計]	[そう思 わない 計]	加重平 均
全体		3000	10.3	46.6	37.3	4.2	1.6	56.9	5.8	0.60
Q1不安(全体)× Q8充足クラスター (全体)	不安・未充足	1401	11.1	51.7	33.5	3.1	0.6	62.8	3.6	0.70
	不安・充足	677	15.4	58.3	21.7	3.7	0.9	73.7	4.6	0.84
	非不安・未充足	333	5.1	30.0	50.8	6.9	7.2	35.1	14.1	0.19
	非不安・充足	164	12.2	48.8	25.0	11.0	3.0	61.0	14.0	0.56
	判断保留	425	2.8	23.1	68.9	3.8	1.4	25.9	5.2	0.22
Q1不安(安全・安 心)×Q4充足クラ スター(安全・安 心)	不安・未充足	668	12.7	52.4	30.7	3.6	0.6	65.1	4.2	0.73
	不安・充足	1418	10.6	53.9	31.6	3.2	0.7	64.5	3.9	0.71
	非不安・未充足	198	7.6	25.8	45.5	10.6	10.6	33.3	21.2	0.09
	非不安・充足	264	13.3	48.5	26.5	8.7	3.0	61.7	11.7	0.60
	判断保留	452	5.1	23.0	67.9	2.7	1.3	28.1	4.0	0.28
Q1不安(活力・交 流)×Q5充足クラ スター(活力・交 流)	不安・未充足	1399	11.0	51.4	33.7	3.0	0.9	62.4	3.9	0.69
	不安・充足	699	15.3	58.7	21.5	3.7	0.9	74.0	4.6	0.84
	非不安・未充足	235	5.1	30.2	48.1	8.5	8.1	35.3	16.6	0.16
	非不安・充足	142	12.0	45.8	26.8	12.0	3.5	57.7	15.5	0.51
	判断保留	525	3.6	25.1	66.1	3.8	1.3	28.8	5.1	0.26
Q1不安(心豊かな 暮らし)×Q6充足 クラスター(心豊か な暮らし)	不安・未充足	1189	11.5	51.6	33.1	2.9	0.8	63.2	3.7	0.70
	不安・充足	637	16.2	58.4	21.4	3.3	0.8	74.6	4.1	0.86
	非不安・未充足	130	9.2	36.2	32.3	11.5	10.8	45.4	22.3	0.22
	非不安・充足	406	6.7	42.9	38.4	8.6	3.4	49.5	12.1	0.41
	判断保留	638	4.7	29.8	61.4	3.0	1.1	34.5	4.1	0.34

社会資本整備にあたっては、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべきに対する評価(Q21)

「不安・充足類型」で効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべきが最も多く、「不安・未充足類型」がそれに次ぎ、「非不安・充足類型」がそれに続く。

「非不安・未充足類型」は、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべきをある程度支持しているが、上記3類型に比べると弱く、「判断保留類型」は支持度合いが最も弱い。

7. 社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価

インフラ(社会資本)整備のあり方、保全・整備の進め方について、どう思いますか。

Q21.社会資本整備にあたっては、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべき

		合計	非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらと もいえ ない(0)	そう思 わない (-1)	全くそう 思わな い(-2)	[そう思 う計]	[そう思 わない 計]	加重平 均
全体		3000	8.2	45.5	40.0	4.3	2.0	53.7	6.3	0.54
Q1不安(全体) × Q8充足クラスター (全体)	不安・未充足	1401	9.5	51.0	35.4	3.4	0.7	60.5	4.1	0.65
	不安・充足	677	10.5	56.1	27.5	4.7	1.2	66.6	5.9	0.70
	非不安・未充足	333	4.2	36.3	45.9	5.1	8.4	40.5	13.5	0.23
	非不安・充足	164	10.4	45.7	31.7	8.5	3.7	56.1	12.2	0.51
	判断保留	425	2.4	17.9	73.6	4.2	1.9	20.2	6.1	0.15
Q1不安(安全・安心) × Q4充足クラスター(安全・安心)	不安・未充足	668	11.5	52.7	30.7	4.3	0.7	64.2	5.1	0.70
	不安・充足	1418	8.2	52.3	35.1	3.3	1.1	60.5	4.4	0.63
	非不安・未充足	198	4.5	34.3	42.9	6.1	12.1	38.9	18.2	0.13
	非不安・充足	264	10.6	43.6	35.6	7.6	2.7	54.2	10.2	0.52
	判断保留	452	3.3	19.7	70.4	4.6	2.0	23.0	6.6	0.18
Q1不安(活力・交流) × Q5充足クラスター(活力・交流)	不安・未充足	1399	9.5	49.4	36.5	3.5	1.1	58.9	4.6	0.63
	不安・充足	699	10.9	54.8	28.0	5.0	1.3	65.7	6.3	0.69
	非不安・未充足	235	3.4	35.7	44.7	6.8	9.4	39.1	16.2	0.17
	非不安・充足	142	8.5	50.7	29.6	7.7	3.5	59.2	11.3	0.53
	判断保留	525	3.0	25.9	66.1	3.4	1.5	29.0	5.0	0.26
Q1不安(心豊かな暮らし) × Q6充足クラスター(心豊かな暮らし)	不安・未充足	1189	10.0	50.2	35.7	3.0	1.1	60.2	4.1	0.65
	不安・充足	637	11.0	56.5	27.2	4.2	1.1	67.5	5.3	0.72
	非不安・未充足	130	7.7	40.8	28.5	10.8	12.3	48.5	23.1	0.21
	非不安・充足	406	6.2	43.1	41.1	5.7	3.9	49.3	9.6	0.42
	判断保留	638	3.3	28.4	62.5	4.5	1.3	31.7	5.8	0.28

中長期の全体像を描き、計画的効率的に進めることに対する評価(Q23)

「全体」「活力・交流」「心豊かな暮らし」に関し、「不安・充足類型」で中長期の全体像を描いた上で財源をきちんと確保し、計画的効率的に進めることが必要とする人の割合が高く、「非不安・充足類型」がそれと並んで高い。「不安・未充足類型」がそれに次ぎ、この3類型は高い。「判断保留類型」は全てに渡って最も低い。ただ、「安全・安心」不安では、「不安・未充足類型」の方が「不安・充足類型」を上回る。「非不安・未充足類型」はかなり低く、「判断保留類型」はそれよりも低い傾向。

7. 社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価

インフラ(社会資本)整備のあり方、保全・整備の進め方について、どう思いますか。

Q23.中長期の全体像を描いた上で財源をきちんと確保し、計画的効率的に進めることが必要

		合計	非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらと もいえ ない(0)	そう思 わない (-1)	全くそう 思わな い(-2)	[そう思 う計]	[そう思 わない 計]	加重平 均
全体		3000	17.8	46.9	31.0	2.7	1.6	64.7	4.3	0.77
Q1不安(全体)× Q8充足クラスター (全体)	不安・未充足	1401	18.4	50.4	28.3	2.4	0.5	68.8	2.9	0.84
	不安・充足	677	24.8	57.5	15.4	1.9	0.4	82.3	2.4	1.04
	非不安・未充足	333	11.7	39.9	37.5	3.0	7.8	51.7	10.8	0.45
	非不安・充足	164	28.7	49.4	15.2	5.5	1.2	78.0	6.7	0.99
	判断保留	425	5.4	23.1	65.6	3.8	2.1	28.5	5.9	0.26
Q1不安(安全・安心)×Q4充足クラスター(安全・安心)	不安・未充足	668	22.0	52.4	22.5	2.1	1.0	74.4	3.1	0.92
	不安・充足	1418	19.4	51.4	26.6	2.3	0.4	70.8	2.6	0.87
	非不安・未充足	198	10.6	37.9	35.9	4.5	11.1	48.5	15.7	0.32
	非不安・充足	264	22.3	55.3	17.8	3.4	1.1	77.7	4.5	0.94
	判断保留	452	7.3	23.7	63.1	3.8	2.2	31.0	6.0	0.30
Q1不安(活力・交流)×Q5充足クラスター(活力・交流)	不安・未充足	1399	18.5	50.0	28.4	2.2	0.9	68.5	3.1	0.83
	不安・充足	699	24.9	56.9	16.0	1.7	0.4	81.8	2.1	1.04
	非不安・未充足	235	12.8	36.2	37.9	4.3	8.9	48.9	13.2	0.40
	非不安・充足	142	28.9	50.7	12.0	7.0	1.4	79.6	8.5	0.99
	判断保留	525	5.9	29.0	60.0	3.4	1.7	34.9	5.1	0.34
Q1不安(心豊かな暮らし)×Q6充足クラスター(心豊かな暮らし)	不安・未充足	1189	19.1	49.0	29.2	1.8	0.9	68.1	2.7	0.84
	不安・充足	637	23.7	58.2	16.0	1.7	0.3	81.9	2.0	1.03
	非不安・未充足	130	21.5	36.2	22.3	7.7	12.3	57.7	20.0	0.47
	非不安・充足	406	21.2	48.3	24.9	3.7	2.0	69.5	5.7	0.83
	判断保留	638	6.7	32.9	55.0	3.8	1.6	39.7	5.3	0.39

「安全・安心」では「非不安・充足類型」が「不安・未充足類型」「不安・充足類型」を上回る

今後の公共事業予算のあり方に対する評価(Q30)

「社会資本に関する知識」「社会資本の保全・整備の進め方」ほど差はないが、今後の公共事業の予算について、社会・生活に関する不安評価、社会資本充足度評価類型で増減意向は分かれる。

「全体」「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」全てで、「不安・充足類型」が「増やすべき、増やさざるを得ない」がトップで、「不安・未充足類型」がそれに次ぐ。

「非不安・充足類型」は「増やすべき、増やさざるを得ない」とする人の割合が上記2クラスターに次いで高い。逆に「非不安・未充足類型」「判断保留類型」は、「減らしていくべき、減らざるを得ない」の方が多い。

9. 国家予算 費目別 今後の増減評価

		Q30.今後の公共事業の予算について								
		合計	増やし ていくべ き(+2)	増やさ ざるを得 ない(+1)	平成29 年度程 度とす べき(0)	減らさ ざるを得 ない(-1)	減らして いくべき (-2)	[増やす べき+ 増やさ ざるを得 ない計]	[減らし ていくべ き+減 らざる を得ない計]	加重平 均
全体		3000	7.4	33.9	34.3	15.6	8.8	41.3	24.4	0.16
Q1不安(全体)× Q8充足クラスター (全体)	不安・未充足	1401	6.9	38.0	32.0	15.8	7.2	45.0	23.0	0.22
	不安・充足	677	8.9	37.4	31.6	15.5	6.6	46.2	22.2	0.26
	非不安・未充足	333	8.1	28.8	30.9	12.9	19.2	36.9	32.1	-0.06
	非不安・充足	164	11.0	28.0	34.1	15.9	11.0	39.0	26.8	0.12
	判断保留	425	4.9	20.9	48.7	16.9	8.5	25.9	25.4	-0.03
Q1不安(安全・安 心)×Q4充足クラ スター(安全・安 心)	不安・未充足	668	8.7	39.1	26.2	15.9	10.2	47.8	26.0	0.20
	不安・充足	1418	7.1	36.6	34.4	14.5	7.3	43.7	21.9	0.22
	非不安・未充足	198	8.6	28.3	30.3	15.2	17.7	36.9	32.8	-0.05
	非不安・充足	264	11.0	30.7	33.7	17.8	6.8	41.7	24.6	0.21
	判断保留	452	4.0	22.1	48.0	17.3	8.6	26.1	25.9	-0.04
Q1不安(活力・交 流)×Q5充足クラ スター(活力・交 流)	不安・未充足	1399	7.3	37.2	31.2	16.3	8.1	44.5	24.4	0.19
	不安・充足	699	9.6	36.8	31.2	16.0	6.4	46.4	22.5	0.27
	非不安・未充足	235	9.8	29.8	32.3	11.1	17.0	39.6	28.1	0.04
	非不安・充足	142	7.7	29.6	36.6	13.4	12.7	37.3	26.1	0.06
	判断保留	525	3.8	24.4	47.0	15.6	9.1	28.2	24.8	-0.02
Q1不安(心豊かな 暮らし)×Q6充足 クラスター(心豊か な暮らし)	不安・未充足	1189	7.3	38.9	31.3	15.0	7.6	46.2	22.5	0.23
	不安・充足	637	9.4	38.9	31.4	14.4	5.8	48.4	20.3	0.32
	非不安・未充足	130	7.7	29.2	21.5	17.7	23.8	36.9	41.5	-0.21
	非不安・充足	406	8.4	27.6	37.2	15.5	11.3	36.0	26.8	0.06
	判断保留	638	5.0	24.6	43.6	17.4	9.4	29.6	26.8	-0.02

類型男女別傾向(Q31)

「不安・未充足類型」は女性がかかなり多く、「不安・充足類型」は男女同比傾向。

「非不安・未充足類型」「非不安・充足類型」「判断保留類型」は、男性の方が多い。

属性(フェイスシート)

		Q31.性別		
		合計	男性	女性
全体		3000	50.0	50.0
Q1不安(全体)× Q8充足クラスター (全体)	不安・未充足	1401	44.8	55.2
	不安・充足	677	49.3	50.7
	非不安・未充足	333	61.0	39.0
	非不安・充足	164	58.5	41.5
	判断保留	425	56.5	43.5
Q1不安(安全・安心)×Q4充足クラスター(安全・安心)	不安・未充足	668	46.7	53.3
	不安・充足	1418	45.9	54.1
	非不安・未充足	198	70.7	29.3
	非不安・充足	264	56.1	43.9
	判断保留	452	55.1	44.9
Q1不安(活力・交流)×Q5充足クラスター(活力・交流)	不安・未充足	1399	45.9	54.1
	不安・充足	699	50.2	49.8
	非不安・未充足	235	60.0	40.0
	非不安・充足	142	55.6	44.4
	判断保留	525	54.7	45.3
Q1不安(心豊かな暮らし)×Q6充足クラスター(心豊かな暮らし)	不安・未充足	1189	46.3	53.7
	不安・充足	637	51.0	49.0
	非不安・未充足	130	56.9	43.1
	非不安・充足	406	53.9	46.1
	判断保留	638	51.9	48.1

類型年齢別傾向(Q32)

「不安・未充足類型」「不安・充足類型」「非不安・未充足類型」「非不安・充足類型」「判断保留類型」に関し、年齢による差はほとんどない。

属性(フェイスシート)

		Q32.年齢													
		合計	18～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	平均(歳)
全体		3000	0.4	5.7	13.9	8.6	11.4	9.6	10.4	11.4	8.6	8.7	7.4	3.9	45.10
Q1不安(全体)×Q8充足クラスター(全体)	不安・未充足	1401	0.6	4.4	13.6	8.5	12.4	10.2	10.0	12.1	9.1	8.4	7.4	3.6	45.31
	不安・充足	677	0.3	6.8	13.0	6.8	9.3	9.0	9.5	10.8	8.9	11.4	9.2	5.2	46.54
	非不安・未充足	333	0.3	7.2	18.3	11.4	11.1	6.6	9.9	11.7	8.4	7.8	6.0	1.2	42.53
	非不安・充足	164	0.6	2.4	14.0	10.4	8.5	11.0	11.0	9.8	11.0	8.5	6.7	6.1	46.38
	判断保留	425	0.2	8.2	12.9	8.9	12.7	10.6	13.2	10.6	5.9	6.1	6.4	4.2	43.66
Q1不安(安全・安心)×Q4充足クラスター(安全・安心)	不安・未充足	668	0.3	2.8	12.6	8.8	10.8	10.2	10.6	12.0	11.2	9.7	6.7	4.2	46.49
	不安・充足	1418	0.6	6.1	14.0	8.1	11.3	9.3	9.8	11.0	8.3	9.7	8.4	3.5	45.22
	非不安・未充足	198	0.5	7.6	19.7	9.6	14.6	7.6	9.1	10.6	7.6	4.5	6.1	2.5	41.71
	非不安・充足	264	0.4	4.2	14.4	8.3	7.6	11.7	9.5	11.4	9.5	9.8	6.8	6.4	46.44
	判断保留	452	0.2	8.6	12.6	9.5	13.5	9.5	12.8	12.2	5.8	5.1	6.4	3.8	43.37
Q1不安(活力・交流)×Q5充足クラスター(活力・交流)	不安・未充足	1399	0.6	4.1	13.6	8.6	11.5	9.8	10.2	12.6	9.3	8.5	7.4	3.9	45.65
	不安・充足	699	0.3	6.4	13.4	7.0	8.7	9.3	9.4	10.4	9.0	11.6	9.2	5.2	46.62
	非不安・未充足	235	0.4	8.5	20.4	10.2	12.8	7.2	9.4	9.8	7.2	6.8	6.8	0.4	41.23
	非不安・充足	142	0.7	3.5	12.0	9.9	11.3	9.9	11.3	11.3	10.6	7.0	6.3	6.3	45.95
	判断保留	525	0.2	8.2	13.0	9.7	14.1	10.7	12.2	10.3	6.3	6.5	5.7	3.2	43.13
Q1不安(心豊かな暮らし)×Q6充足クラスター(心豊かな暮らし)	不安・未充足	1189	0.6	4.5	13.7	9.2	11.0	10.2	9.5	11.9	9.5	8.8	7.3	3.8	45.43
	不安・充足	637	0.3	7.1	14.0	6.9	8.9	9.3	9.6	9.6	9.1	10.2	9.3	5.8	46.26
	非不安・未充足	130	—	7.7	16.9	8.5	13.1	8.5	12.3	7.7	14.6	8.5	2.3	—	42.32
	非不安・充足	406	0.5	4.2	15.5	11.3	11.1	8.9	10.6	11.8	6.9	8.9	7.9	2.5	44.37
	判断保留	638	0.3	6.9	12.5	7.5	14.4	9.7	12.2	12.9	6.3	6.7	6.6	3.9	44.36

類型居住地域別傾向(Q35)

「不安・未充足類型」は三大都市圏の政令指定都市が少なく、地方圏その他都市が多い傾向。

「不安・充足類型」「非不安・充足類型」は三大都市圏の政令指定都市が多く、地方圏その他の市が少ない。

属性(フェイスシート)

Q35.居住地域の種別

		合計	三大都市圏の政令指定都市(さいたま市・千葉市・横浜市・川崎市・相模原市・名古屋市)	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市(所沢市・四日市市・大	三大都市圏の政令指定都市以外の地域	地方中核都市(札幌市・仙台市・広島市・福岡市・北九州市)	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地(旭川市・いわき市・浜松市・	地方圏のその他の市	地方圏の町村	その他	わからない
全体		3000	26.1	6.5	15.1	9.1	9.0	24.4	6.8	0.2	2.9
Q1不安(全体)×Q8充足クラスター(全体)	不安・未充足	1401	21.0	6.0	14.5	8.9	9.7	29.1	8.8	0.3	1.8
	不安・充足	677	35.6	7.5	15.4	11.4	7.4	18.0	3.7	0.1	0.9
	非不安・未充足	333	21.9	6.0	16.8	7.8	9.3	24.3	8.4	—	5.4
	非不安・充足	164	43.9	7.9	17.1	8.5	6.1	11.6	4.9	—	—
	判断保留	425	24.2	6.4	14.6	7.1	9.9	24.0	4.9	—	8.9
Q1不安(安全・安心)×Q4充足クラスター(安全・安心)	不安・未充足	668	16.2	4.2	14.4	7.6	10.3	33.5	11.7	0.3	1.8
	不安・充足	1418	30.1	7.3	14.7	10.3	8.4	21.6	5.5	0.2	1.8
	非不安・未充足	198	21.2	5.6	17.2	6.6	11.1	23.7	8.1	—	6.6
	非不安・充足	264	37.5	8.0	16.3	11.4	7.2	14.8	4.2	—	0.8
	判断保留	452	23.7	6.9	15.7	7.1	8.8	25.4	4.9	—	7.5
Q1不安(活力・交流)×Q5充足クラスター(活力・交流)	不安・未充足	1399	20.4	6.2	14.5	8.9	10.0	28.7	8.9	0.3	1.9
	不安・充足	699	35.2	8.0	15.3	11.3	7.6	17.9	3.7	0.1	0.9
	非不安・未充足	235	28.1	4.3	17.0	8.5	8.9	22.6	4.7	—	6.0
	非不安・充足	142	47.2	5.6	17.6	8.5	4.9	11.3	4.9	—	—
	判断保留	525	22.5	6.5	14.9	6.9	9.1	25.7	6.9	—	7.6
Q1不安(心豊かな暮らし)×Q6充足クラスター(心豊かな暮らし)	不安・未充足	1189	20.8	5.9	13.5	9.7	9.9	28.8	9.1	0.3	2.0
	不安・充足	637	35.2	7.5	15.4	11.5	7.4	18.2	3.8	0.2	0.9
	非不安・未充足	130	20.8	5.4	17.7	6.9	8.5	27.7	6.9	—	6.2
	非不安・充足	406	35.5	4.9	18.5	9.4	7.4	16.5	5.9	—	2.0
	判断保留	638	22.1	7.8	15.0	5.8	9.9	26.6	6.3	—	6.4

社会・生活不安評価、社会資本充足クラスターまとめ

不安・未充足類型	不安・充足類型	非不安・未充足類型	非不安・充足類型	判断保留類型
・不安で社会資本が充足されていないとの「不安・未充足」は「全体」では46.7%でトップ、「活力・交流」でも39.0%でトップ、「安全・安心」では17.4%、「心豊かな暮らし」では14.1%で2位。	・不安だが社会資本は充足されているとの「不安・充足」は「安全・安心」で51.9%でトップ、「心豊かな暮らし」でも47.6%でトップ、「全体」では22.6%、「活力・交流」では17.5%で2位。	・不安はないが社会資本は充足されていないとの「非不安・未充足」は「全体」11.1%、「活力・交流」13.6%、「心豊かな暮らし」10.7%と各1割前後で4位、「安全・安心」は6.2%と少なく5位。	・不安はなく社会資本は充足されているとの「非不安・充足」は基本的に最も少ない類型で、「活力・交流」10.7%、「安全・安心」9.4%が比較的多く1割前後、「全体」5.5%、「心豊かな暮らし」7.2%でいずれも最下位。	・不安、社会資本いずれに対しても「どちらともいえない」とする「判断保留」は「心豊かな暮らし」で20.5%、「活力・交流」17.6%、「安全・安心」14.6%、「全体」14.2%と、14～21%前後で存在(3位)。
女性かなり多い。	男女同比。	男性の方が多い。	男性の方が多い。	男性の方が多い。
年齢による差なし。	年齢による差なし。	年齢による差なし。	年齢による差なし。	年齢による差なし。
三大都市圏の政令指定都市が少なく、地方圏その他都市が多い。	三大都市圏の政令指定都市が多く、地方圏その他の市が少ない。	三大都市圏の政令指定都市が多く、地方圏その他の市が少ない。		
維持管理・更新に重点を移すべき「そう思う」「不安(非不安)充足類型」に次いで3位。	維持管理・更新に重点を移すべき「そう思う」多い(「非不安・充足類型」と同レベル)。「安全・安心」「心豊かな暮らし」では、「非不安・充足類型」を上回る。	維持管理・更新に重点を移すべき「そう思う」かなり少ない。	維持管理・更新に重点を移すべき「そう思う」多い(「不安・充足類型」と同レベル)。「安全・安心」「心豊かな暮らし」では、「不安・充足類型」を下回る。	維持管理・更新に重点を移すべき「そう思う」最も少ない。
「住民参加進めるべき」「そう思う」かなり多い。	「住民参加進めるべき」「そう思う」最も多い。	「住民参加進めるべき」「そう思う」それほど多くない。	「住民参加進めるべき」「そう思う」かなり多い。	「住民参加進めるべき」「そう思う」最も少ない。
「協同作業の仕組みづくり進めるべき」「そう思う」「不安・充足類型」に次いで多い。	「協同作業の仕組みづくり進めるべき」「そう思う」最も多い。	「協同作業の仕組みづくり進めるべき」「そう思う」それほど多くない。	「協同作業の仕組みづくり進めるべき」「そう思う」かなり多い(3位)。	「協同作業の仕組みづくり進めるべき」「そう思う」最も少ない。
「公平の観点重視すべき」「そう思う」「不安・充足類型」に次いで多い。「安全・安心」では「不安・充足類型」を若干上回る。	「公平の観点重視すべき」「そう思う」最も多い。	「公平の観点重視すべき」「そう思う」かなり少ない。	「公平の観点重視すべき」「そう思う」かなり多い(3位)。	「公平の観点重視すべき」「そう思う」最も少ない。
「中長期・計画的効率的に進めるべき」「そう思う」「不安・充足類型」に次いで多い。	「中長期・計画的効率的に進めるべき」「そう思う」最も多い。	「中長期・計画的効率的に進めるべき」「そう思う」少ない(4位)。「安全・安心」では「非不安・充足類型」が「不安・未充足類型」「不安・充足類型」を上回る。	「中長期・計画的効率的に進めるべき」「そう思う」かなり多い(3位)。	「中長期・計画的効率的に進めるべき」「そう思う」最も少ない。
「公共事業予算増やすべき」「不安・充足類型」に次いで多い。(度合いはそれほどでもない)	「公共事業予算増やすべき」最も多い。(度合いはそれほどでもない)	「公共事業予算減らすべき」最も多い。(度合いはそれほどでもない)	「公共事業予算増やすべき」3位。	「公共事業予算減らすべき」「非不安・未充足類型」に次ぐ。
社会資本保全・整備積極類型	社会資本保全・整備最積極類型	社会資本保全・整備消極類型	社会資本保全・整備理解類型	社会資本保全・整備最消極類型

4. 日本、居住地域の「将来予測(なりそうな姿)」「あるべき姿」と「社会資本(保全・整備)のあり方」に関する相関分析と類型抽出分析

(1) 日本、居住地域の「将来予測(なりそうな姿)」「あるべき姿」と「社会資本(保全・整備)のあり方」に関する相関分析

日本、居住地域の「将来予測(なりそうな姿)」「あるべき姿」と「社会資本(保全・整備)のあり方」に関しては一定の相関関係はあるが、非常に強い相関関係があるわけではない。

「定常社会の日本」「成長する日本」「質の高い地域」「便利で快適な地域」を予測する層や、「行政に依存する日本(地域)」「社会課題に住民が取り組む日本(地域)」「国土形成」評価、重要度評価について肯定的であり、今後の公共事業予算についても増やす必要が多いなど、社会資本整備に関し積極的な傾向があるが、全体平均との差はあまり大きくない。あるべき姿では、その差は非常に小さくなる。

ひとつ特徴的なのは「生産性が向上、成長する日本」を予測する層で、社会資本(保全・整備)に否定的な傾向が見られることである。ただ、この層は 159 サンプルと全体(3000)の5%強にすぎない。

以下では代表的な質問間クロス分析結果を示す。

社会・生活空間、国土に関する評価(居住地域)(Q4)

- 日本(地域)の将来像(「予測」「あるべき姿」と「安全・安心な国土形成評価」の間に際立った相関関係はない。
- 「定常社会の日本」「活力を保持した日本」を予測した層、「質の高い地域」「便利で快適な地域」を予測した層、「行政に依存する日本(地域)」「社会課題に住民が分担して取り組む日本(地域)」を予測した層が、「安全・安心な国土形成」に関し比較的肯定的。
- 「あるべき姿」では、「安全・安心な国土形成」に関する評価差はない。(この傾向は「活力・交流」「心豊かな暮らし」でも同じ)

3. 社会・生活空間、国土に関する評価

Q4. 自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成されていると思いますか。

		Q4-1. 安心・安全【あなたの生活する地域・空間では】							
		合計	非常に そうなっ ている (+2)	まあそ うなっ ている (+1)	どちら ともい えない (0)	あまり そう ない (-1)	そう なっ てい ない (-2)	[そう なっ てい ない 計]	[そ う なっ てい ない 計]
全体		3000	2.7	32.0	45.3	15.6	4.3	34.7	20.0
Q26-1. 日本 の将来像1 (衰退～成長)予測	衰退する日本	1418	2.4	29.4	42.0	20.5	5.7	31.8	26.2
	定常社会の日本	1072	2.2	34.6	48.7	12.0	2.4	36.8	14.5
	活力を保持した日本	351	4.0	36.2	47.3	9.4	3.1	40.2	12.5
	生産性が向上、成長する日本	159	6.3	28.3	47.8	10.1	7.5	34.6	17.6
Q26-2. 日本 の将来像1 (衰退～成長)あるべき姿	衰退する日本	418	3.6	28.7	44.5	17.9	5.3	32.3	23.2
	定常社会の日本	807	2.1	32.1	46.0	16.2	3.6	34.2	19.8
	活力を保持した日本	1104	2.6	33.2	46.0	14.6	3.6	35.8	18.2
	生産性が向上、成長する日本	671	3.1	32.0	43.8	15.2	5.8	35.2	21.0
Q27-1. 地域 の将来像1 (衰退～成長)予測	衰退していく地域	1331	2.4	26.3	44.0	21.2	6.2	28.7	27.3
	質の高い生活がそれなりに維持される地域	947	2.4	39.0	43.1	12.8	2.7	41.4	15.5
	便利で快適な地域	603	3.3	34.5	51.1	9.1	2.0	37.8	11.1
	成長性の高い便利で快適な地域	119	5.9	27.7	48.7	9.2	8.4	33.6	17.6
Q27-2. 地域 の将来像1 (衰退～成長)あるべき姿	衰退していく地域	490	4.3	24.1	44.3	21.0	6.3	28.4	27.3
	質の高い生活がそれなりに維持される地域	1108	2.6	34.8	43.1	15.9	3.5	37.5	19.4
	便利で快適な地域	976	1.8	32.0	49.2	13.7	3.3	33.8	17.0
	成長性の高い便利で快適な地域	426	3.3	33.8	43.2	13.1	6.6	37.1	19.7
Q28-1. 日本 の将来像2 (受動～能動)予測	社会的な関心・関係が希薄な日本	1416	2.8	29.7	43.2	19.2	5.2	32.4	24.4
	社会的な課題解決を行政に依存する日本	952	2.7	36.3	44.9	13.4	2.6	39.1	16.1
	社会課題に住民が分担して取り組む日本	521	2.9	32.8	49.3	11.7	3.3	35.7	15.0
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本	111	1.8	20.7	56.8	7.2	13.5	22.5	20.7
Q28-2. 日本 の将来像2 (受動～能動)あるべき姿	社会的な関心・関係が希薄な日本	383	5.0	28.2	46.7	15.4	4.7	33.2	20.1
	社会的な課題解決を行政に依存する日本	589	2.5	36.0	44.8	13.8	2.9	38.5	16.6
	社会課題に住民が分担して取り組む日本	1614	2.0	33.1	44.2	16.9	3.8	35.1	20.7
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本	414	3.9	25.6	48.8	13.8	8.0	29.5	21.7
Q29-1. 地域 の将来像2 (受動～能動)予測	社会的な関心・関係が希薄な地域	1192	2.1	27.1	45.3	19.6	5.9	29.2	25.5
	社会的な課題解決を行政に依存する地域	1063	2.9	36.9	43.5	14.1	2.6	39.8	16.7
	社会課題に住民が分担して取り組む地域	621	3.2	35.1	47.5	11.3	2.9	38.3	14.2
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域	124	4.8	21.8	50.0	12.1	11.3	26.6	23.4
Q29-2. 地域 の将来像2 (受動～能動)あるべき姿	社会的な関心・関係が希薄な地域	398	5.0	25.1	47.5	16.8	5.5	30.2	22.4
	社会的な課題解決を行政に依存する地域	628	2.9	32.6	46.5	14.6	3.3	35.5	18.0
	社会課題に住民が分担して取り組む地域	1621	1.8	34.5	43.9	16.0	3.8	36.3	19.8
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域	353	4.2	26.9	47.3	14.2	7.4	31.2	21.5

比較的肯定的

社会・生活空間、国土に関する評価(日本全体)(Q6)

- 日本(地域)の将来像(「予測」「あるべき姿」と「心豊かな暮らしができる国土形成」の間に際立った相関関係はない。
- 「定常社会の日本」「活力を保持した日本」を予測した層、「質の高い地域」「便利で快適な地域」を予測した層、「行政に依存する日本(地域)」「社会課題に住民が分担して取り組む日本(地域)」を予測した層が、「心豊かな暮らしができる国土形成」に関し比較的肯定的。
- 「あるべき姿」では、「心豊かな暮らしができる国土形成」に関する評価差はない。(この傾向は「活力・交流」「心豊かな暮らし」でも同じ)

3. 社会・生活空間、国土に関する評価

Q6.心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成されていると思いますか。

Q6-2.心豊かな暮らし【日本全体では】

		合計	非常に そうな っている (+2)	まあそ うなっ ている (+1)	どちら もいえ ない(0)	あまり そう なっ てい ない (-1)	そう なっ てい ない (-2)	[そう なっ てい ない 計]	[そう なっ てい ない 計]	加重平 均
全体		3000	1.9	22.0	53.8	17.2	5.1	23.9	22.3	-0.02
Q26-1.日本の将来像1 (衰退～成長)予測	衰退する日本	1418	2.1	17.6	50.8	21.9	7.5	19.7	29.4	-0.15
	定常社会の日本	1072	1.1	26.5	56.2	13.9	2.3	27.6	16.2	0.10
	活力を保持した日本	351	2.6	27.1	56.7	11.7	2.0	29.6	13.7	0.17
	生産性が向上、成長する日本	159	4.4	18.9	57.9	9.4	9.4	23.3	18.9	-0.01
Q26-2.日本の将来像1 (衰退～成長)あるべき姿	衰退する日本	418	4.5	18.4	48.8	18.4	9.8	23.0	28.2	-0.11
	定常社会の日本	807	1.5	21.4	55.5	17.5	4.1	22.9	21.6	-0.01
	活力を保持した日本	1104	1.0	22.9	55.3	17.1	3.6	23.9	20.7	0.01
	生産性が向上、成長する日本	671	2.4	23.2	52.3	16.1	6.0	25.6	22.1	0.00
Q27-1.地域の将来像1 (衰退～成長)予測	衰退していく地域	1331	2.3	17.2	51.8	21.9	6.8	19.5	28.7	-0.14
	質の高い生活がそれなりに維持される地域	947	1.2	27.1	53.5	14.8	3.4	28.3	18.2	0.08
	便利で快適な地域	603	2.3	24.0	58.4	11.9	3.3	26.4	15.3	0.10
	成長性の高い便利で快適な地域	119	2.5	23.5	54.6	10.1	9.2	26.1	19.3	0.00
Q27-2.地域の将来像1 (衰退～成長)あるべき姿	衰退していく地域	490	4.3	18.2	48.8	20.8	8.0	22.4	28.8	-0.10
	質の高い生活がそれなりに維持される地域	1108	1.3	23.1	53.3	18.1	4.2	24.4	22.3	-0.01
	便利で快適な地域	976	1.1	22.1	58.8	14.5	3.4	23.3	17.9	0.03
	成長性の高い便利で快適な地域	426	2.8	23.0	49.3	16.4	8.5	25.8	24.9	-0.05
Q28-1.日本の将来像2 (受動～能動)予測	社会的な関心・関係が希薄な日本	1416	1.7	18.8	52.6	19.8	7.1	20.5	26.9	-0.12
	社会的な課題解決を行政に依存する日本	952	1.8	26.1	52.3	17.0	2.8	27.8	19.9	0.07
	社会課題に住民が分担して取り組む日本	521	2.5	23.8	58.2	12.7	2.9	26.3	15.5	0.10
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本	111	3.6	18.9	61.3	6.3	9.9	22.5	16.2	0.00
Q28-2.日本の将来像2 (受動～能動)あるべき姿	社会的な関心・関係が希薄な日本	383	2.9	17.5	55.6	16.2	7.8	20.4	24.0	-0.09
	社会的な課題解決を行政に依存する日本	589	3.1	28.4	49.9	16.0	2.7	31.4	18.7	0.13
	社会課題に住民が分担して取り組む日本	1614	1.4	20.8	55.1	18.6	4.1	22.2	22.7	-0.03
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本	414	1.7	21.5	52.7	14.0	10.1	23.2	24.2	-0.09
Q29-1.地域の将来像2 (受動～能動)予測	社会的な関心・関係が希薄な地域	1192	2.3	17.8	53.6	18.8	7.6	20.1	26.3	-0.12
	社会的な課題解決を行政に依存する地域	1063	1.5	24.4	53.0	18.1	3.1	25.9	21.2	0.03
	社会課題に住民が分担して取り組む地域	621	1.9	25.8	54.9	14.2	3.2	27.7	17.4	0.09
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域	124	2.4	22.6	57.3	8.9	8.9	25.0	17.7	0.01
Q29-2.地域の将来像2 (受動～能動)あるべき姿	社会的な関心・関係が希薄な地域	398	4.8	17.8	52.8	15.8	8.8	22.6	24.6	-0.06
	社会的な課題解決を行政に依存する地域	628	2.1	25.2	54.5	14.6	3.7	27.2	18.3	0.07
	社会課題に住民が分担して取り組む地域	1621	1.1	21.4	54.2	19.5	3.8	22.5	23.3	-0.03
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域	353	2.3	23.5	51.8	12.5	9.9	25.8	22.4	-0.04

比較的肯定的

社会資本の状況に関する全体評価(充足状況評価、日本全体)(Q8)

- ・ 日本(地域)の将来像(「予測」「あるべき姿」と日本全体の社会資本の全体充足度評価の間にもそれほど大きな相関はない。
- ・ 「定常社会の日本」「活力を保持した日本」「質の高い地域」を予測する層の高程度が他の層より高いのが特徴。
- ・ 「成長する日本」「成長性の高い便利で快適な地域」を予測する層の充足度評価が低いのが特徴。(居住地域充足度評価でも同じような傾向が見られる)

5. 社会資本の状況に関する全体評価

Q8. あなたはこういったインフラ(社会資本)が、全体としてどの程度充足していると考えますか。

		【日本全体では】								
		合計	非常に 充足し ている (+2)	かなり 充足し ている (+1)	どちらと もない(0)	あまり 充足し ていな い(-1)	ほとんど 充足し ていな い(-2)	[充足し ている 計]	[充足し ていな 計]	加重平 均
全体		3000	2.0	24.0	53.2	17.8	3.0	25.9	20.9	0.04
Q26-1.日本の将来像1 (衰退～成長)予測	衰退する日本	1418	1.9	22.3	50.4	20.8	4.6	24.2	25.4	-0.04
	定常社会の日本	1072	1.7	27.5	54.4	15.8	0.7	29.2	16.4	0.14
	活力を保持した日本	351	2.3	23.4	58.4	15.4	0.6	25.6	16.0	0.11
	生産性が向上、成長する日本	159	3.8	16.4	58.5	10.7	10.7	20.1	21.4	-0.08
Q26-2.日本の将来像1 (衰退～成長)あるべき姿	衰退する日本	418	4.3	18.7	51.2	18.2	7.7	23.0	25.8	-0.06
	定常社会の日本	807	1.6	25.2	53.7	17.5	2.1	26.8	19.6	0.07
	活力を保持した日本	1104	1.4	25.0	54.5	17.8	1.3	26.4	19.0	0.08
	生産性が向上、成長する日本	671	1.8	24.1	51.7	18.2	4.2	25.9	22.4	0.01
Q27-1.地域の将来像1 (衰退～成長)予測	衰退していく地域	1331	2.4	22.0	50.8	20.6	4.2	24.4	24.8	-0.02
	質の高い生活がそれなりに維持される地域	947	1.7	29.9	50.4	16.8	1.3	31.6	18.1	0.14
	便利で快適な地域	603	1.2	20.6	62.2	14.6	1.5	21.7	16.1	0.05
	成長性の高い便利で快適な地域	119	3.4	16.0	57.1	11.8	11.8	19.3	23.5	-0.13
Q27-2.地域の将来像1 (衰退～成長)あるべき姿	衰退していく地域	490	4.3	19.8	48.6	20.8	6.5	24.1	27.3	-0.06
	質の高い生活がそれなりに維持される地域	1108	1.6	28.5	50.7	17.5	1.6	30.1	19.1	0.11
	便利で快適な地域	976	0.8	21.5	59.1	16.9	1.6	22.3	18.5	0.03
	成長性の高い便利で快適な地域	426	2.8	22.5	51.4	17.4	5.9	25.4	23.2	-0.01
Q28-1.日本の将来像2 (受動～能動)予測	社会的な関心・関係が希薄な日本	1416	1.6	22.7	52.4	19.1	4.2	24.3	23.3	-0.02
	社会的な課題解決を行政に依存する日本	952	2.2	27.7	52.1	16.9	1.1	29.9	18.0	0.13
	社会課題に住民が分担して取り組む日本	521	1.9	22.3	57.2	16.7	1.9	24.2	18.6	0.06
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本	111	4.5	16.2	54.1	14.4	10.8	20.7	25.2	-0.11
Q28-2.日本の将来像2 (受動～能動)あるべき姿	社会的な関心・関係が希薄な日本	383	3.4	19.8	51.7	17.2	7.8	23.2	25.1	-0.06
	社会的な課題解決を行政に依存する日本	589	2.4	22.9	56.4	17.0	1.4	25.3	18.3	0.08
	社会課題に住民が分担して取り組む日本	1614	1.6	25.8	52.4	18.6	1.5	27.4	20.2	0.07
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本	414	1.4	22.2	53.1	16.4	6.8	23.7	23.2	-0.05
Q29-1.地域の将来像2 (受動～能動)予測	社会的な関心・関係が希薄な地域	1192	2.0	20.8	52.8	19.9	4.5	22.8	24.4	-0.04
	社会的な課題解決を行政に依存する地域	1063	2.4	27.9	51.7	16.6	1.4	30.3	18.0	0.13
	社会課題に住民が分担して取り組む地域	621	1.3	24.5	56.4	16.3	1.6	25.8	17.9	0.08
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域	124	1.6	17.7	54.0	16.9	9.7	19.4	26.6	-0.15
Q29-2.地域の将来像2 (受動～能動)あるべき姿	社会的な関心・関係が希薄な地域	398	3.8	20.4	51.0	17.1	7.8	24.1	24.9	-0.05
	社会的な課題解決を行政に依存する地域	628	2.1	22.5	54.6	19.1	1.8	24.5	20.9	0.04
	社会課題に住民が分担して取り組む地域	1621	1.7	26.2	52.8	17.8	1.5	27.8	19.4	0.09
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域	353	1.1	20.7	55.0	16.4	6.8	21.8	23.2	-0.07

充足度評価高し

今後の公共事業の予算について(Q30)

- ・「活力を保持した日本:(351)0.25、「定常社会の日本」(1072)0.20、「質の高い地域」(947)0.22を予測する層は「増やすべき」が多い。
- ・「成長する日本」(159)、「成長性の高い地域」(426)、「血縁社会が復活する日本」(111)、「血縁社会が復活する地域」(124)を予測する層は、「減らしていくべき」が多い。

9. 国家予算 費目別 今後の増減評価

		Q30.今後の公共事業の予算について								
		合計	増やしていくべき(+2)	増やさざるを得ない(+1)	平成29年度程度とすべき(0)	減らさざるを得ない(-1)	減らしていくべき(-2)	[増やすべき+増やさざるを得ない計]	[減らしていくべき+減らさざるを得ない計]	加重平均
全体		3000	7.4	33.9	34.3	15.6	8.8	41.3	24.4	0.16
Q26-1.日本の将来像1 (衰退～成長)予測	衰退する日本	1418	8.9	34.9	28.6	17.1	10.5	43.8	27.6	0.15
	定常社会の日本	1072	5.2	34.5	40.6	14.3	5.4	39.7	19.7	0.20
	活力を保持した日本	351	8.0	32.5	39.9	16.0	3.7	40.5	19.7	0.26
	生産性が向上、成長する日本	159	8.2	23.9	30.8	9.4	27.7	32.1	37.1	-0.25
Q26-2.日本の将来像1 (衰退～成長)あるべき姿	衰退する日本	418	12.9	31.3	25.6	16.3	13.9	44.3	30.1	0.13
	定常社会の日本	807	5.1	32.7	37.7	15.6	8.9	37.8	24.5	0.09
	活力を保持した日本	1104	6.0	36.0	36.9	16.2	5.0	41.9	21.2	0.22
	生産性が向上、成長する日本	671	9.2	33.5	31.4	14.0	11.8	42.8	25.8	0.14
Q27-1.地域の将来像1 (衰退～成長)予測	衰退していく地域	1331	8.9	34.9	29.8	16.8	9.6	43.8	26.4	0.17
	質の高い生活がそれなりに維持される地域	947	6.8	35.9	36.3	14.9	6.1	42.7	21.0	0.22
	便利で快適な地域	603	5.3	31.5	40.8	15.1	7.3	36.8	22.4	0.12
	成長性の高い便利で快適な地域	119	7.6	18.5	36.1	9.2	28.6	26.1	37.8	-0.33
Q27-2.地域の将来像1 (衰退～成長)あるべき姿	衰退していく地域	490	12.2	32.9	25.7	17.1	12.0	45.1	29.2	0.16
	質の高い生活がそれなりに維持される地域	1108	6.1	34.9	35.1	15.7	8.1	41.1	23.8	0.15
	便利で快適な地域	976	5.2	33.9	38.1	16.4	6.4	39.1	22.7	0.15
	成長性の高い便利で快適な地域	426	10.3	32.4	33.3	11.5	12.4	42.7	23.9	0.17
Q28-1.日本の将来像2 (受動～能動)予測	社会的な関心・関係が希薄な日本	1416	8.2	35.2	29.9	17.0	9.7	43.4	26.8	0.15
	社会的な課題解決を行政に依存する日本	952	7.4	37.1	37.1	12.8	5.7	44.4	18.5	0.28
	社会課題に住民が分担して取り組む日本	521	5.0	27.8	41.7	18.4	7.1	32.8	25.5	0.05
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本	111	9.9	18.9	32.4	7.2	31.5	28.8	38.7	-0.32
Q28-2.日本の将来像2 (受動～能動)あるべき姿	社会的な関心・関係が希薄な日本	383	12.0	29.5	29.8	15.4	13.3	41.5	28.7	0.11
	社会的な課題解決を行政に依存する日本	589	7.0	38.0	37.7	12.1	5.3	45.0	17.3	0.29
	社会課題に住民が分担して取り組む日本	1614	5.9	33.9	35.4	17.7	7.1	39.8	24.8	0.14
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本	414	9.9	32.1	29.5	12.3	16.2	42.0	28.5	0.07
Q29-1.地域の将来像2 (受動～能動)予測	社会的な関心・関係が希薄な地域	1192	9.6	33.1	30.5	17.1	9.8	42.6	26.9	0.15
	社会的な課題解決を行政に依存する地域	1063	5.9	39.5	35.8	12.9	5.8	45.4	18.7	0.27
	社会課題に住民が分担して取り組む地域	621	5.6	28.2	40.3	18.4	7.6	33.8	25.9	0.06
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域	124	8.9	22.6	28.2	9.7	30.6	31.5	40.3	-0.31
Q29-2.地域の将来像2 (受動～能動)あるべき姿	社会的な関心・関係が希薄な地域	398	12.8	28.6	30.4	16.1	12.1	41.5	28.1	0.14
	社会的な課題解決を行政に依存する地域	628	5.7	39.5	35.5	11.6	7.6	45.2	19.3	0.24
	社会課題に住民が分担して取り組む地域	1621	6.3	33.4	36.2	17.8	6.4	39.7	24.2	0.15
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域	353	9.6	32.3	28.0	11.9	18.1	41.9	30.0	0.03

増やすべき多い

(2) 日本と居住地域の将来(予測とあるべき姿)クロス集計分析

◆日本と居住地域の将来像(衰退・定常化＝悲観／活力保持・成長＝楽観)

日本、居住地域の「予測(なりそうな姿)」と「あるべき姿」に関して、驚くべき乖離があったのは本報告書で指摘したとおりである。

「予測(なりそうな姿)」と「あるべき姿」の間で大きな乖離があることを踏まえ、「予測(なりそうな姿)」と「あるべき姿」をクロス集計して類型化した。

「衰退する日本」「定常社会の日本」を「衰退・定常化」悲観、「活力を保持した日本」「生産性が向上、成長する日本」を「活力保持・成長」楽観として、クロス集計、類型を抽出した。

具体的には、「予測悲観・あるべき姿楽観」1357(45.2%)、「予測・あるべき姿ともに悲観」1133(37.8%)、「予測・あるべき姿ともに楽観」418(13.9%)、「予測楽観・あるべき姿悲観」92(3.1%)との類型が抽出された。

		Q26-2.将来の日本がなるべきと思われる姿											
		衰退する日本	定常社会の日本	活力を保持した日本	生産性が向上、成長する日本			衰退・定常化 (悲観)	活力保持・成長 (楽観)	サンプル数	%		
Q26-1.日本の将来像1(衰退～成長)予測(なりそうな姿)	衰退する日本	365	333	443	277	→	衰退・定常化 (悲観)	1133	1357	→	予測・あるべき姿ともに悲観	1133	37.4
	定常社会の日本	37	398	435	202						予測悲観・あるべき姿楽観	1357	45.5
	活力を保持した日本	12	65	195	79						予測楽観・あるべき姿悲観	92	3.0
	生産性が向上、成長する日本	4	11	31	113						予測・あるべき姿ともに楽観	418	13.1

◆社会的課題解決における日本と居住社会の将来像

(社会的な関心・関係が希薄 社会的な課題解決を行政に依存＝受動／住民が分担して取り組む 血縁社会、地域社会が新たな形で復活＝能動)

「社会的な関心・関係が希薄な日本」「社会的な課題解決を行政に依存する日本」を「受動」、「社会課題に住民が分担して取り組む日本」「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本」を「能動」として、クロス集計、類型を抽出した。

具体的には、「予測受動・あるべき姿能動」1498(49.9%)、「予測・あるべき姿ともに受動」870(29.0%)、「予測・あるべき姿ともに能動」530(17.7%)、「予測能動・あるべき姿受動」102(3.4%)との類型が抽出された。

		Q28-2.将来の日本がなるべきと思われる姿										
		社会的な 関心・関 係が希薄 な日本	社会的な 課題解決 を行政に 依存する 日本	社会課題 に住民が 分担して 取り組む 日本	血縁社 会、地域 社会が新 たな形で 復活する 日本			受動	能動	サンプ ル数	%	
Q28-1.日本の 将来像2(受動 ～能動)予測	社会的な関心・関係が希薄 な日本	308	190	710	208	→	受動	870	1498	予測・あるべき姿ともに 受動	870	29.0
	社会的な課題解決を行政 に依存する日本	49	323	489	91					予測受動・あるべき姿能 動	1498	49.9
	社会課題に住民が分担し て取り組む日本	20	71	393	37		能動	102	530	予測能動・あるべき姿受 動	102	3.4
	血縁社会、地域社会が新 たな形で復活する日本	6	5	22	78					予測・あるべき姿ともに 能動	530	17.7

「社会的な関心・関係が希薄な地域」「社会的な課題解決を行政に依存する地域」を「受動」、「社会課題に住民が分担して取り組む地域」「血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域」を「能動」とした。

具体的には、「予測受動・あるべき姿能動」1331(44.4%)、「予測・あるべき姿ともに受動」924(30.8%)、「予測・あるべき姿ともに能動」643(21.4%)、「予測能動・あるべき姿受動」102(3.4%)との類型が抽出された。

		Q29-2.あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿											
		社会的な 関心・関 係が希薄 な地域	社会的な 課題解決 を行政に 依存する 地域	社会課題 に住民が 分担して 取り組む 地域	血縁社会、地域 社会が新 たな形で 復活する 地域			受動	能動	サンプル数	%		
Q29-1.地域の 将来像2(受動 ～能動)予測	社会的な関心・関係が希薄な地域	332	174	547	139	→	受動	924	1331	→	予測・あるべき姿ともに受動	924	30.8
	社会的な課題解決を行政に依存する地域	43	375	563	82						予測受動・あるべき姿能動	1331	44.4
	社会課題に住民が分担して取り組む地域	15	71	485	50	→	能動	102	643	予測能動・あるべき姿受動	102	3.4	
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域	8	8	26	82					予測・あるべき姿ともに能動	643	21.4	

※「予測能動・あるべき姿受動」類型は、日本、居住地域とも 102(3.4%)と極めて少ない。

Q4 安全・安心な国土形成評価

- ・ 自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会が形成されていると思うかに関し、日本の将来像、地域の将来像とも、「予測・あるべき姿ともに楽観類型」「予測悲観・あるべき姿楽観類型」は安全・安心な国土形成に若干否定的、逆に「予測・あるべき姿ともに楽観類型」は若干肯定的。
- ・ 日本、地域とも「予測受動・あるべき姿受動類型」は、自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会が形成されていると思うかに関し、若干否定的。

3. 社会・生活空間、国土に関する評価

Q4. 自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成されていると思いますか。

Q4-2. 安心・安全【日本全体では】

		合計	非常に そうなっ ている (+2)	まあそ うなっ ている (+1)	どちら ともい えない(0)	あまり そう なっ てい ない (-1)	そう なっ てい ない (-2)	[そう なっ てい ない 計]	[そう なっ てい ない 計]	加重平 均
全体		3000	2.0	20.1	48.2	23.2	6.5	22.1	29.7	-0.12
Q26.日本の将来像 (衰退～成長)予測・ あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに悲観	1133	2.5	19.3	47.8	21.9	8.5	21.8	30.4	-0.15
	予測悲観・あるべき姿楽観	1357	1.1	18.9	46.9	27.8	5.3	20.0	33.1	-0.17
	予測楽観・あるべき姿悲観	92	4.3	33.7	46.7	14.1	1.1	38.0	15.2	0.26
	予測・あるべき姿ともに楽観	418	3.3	22.7	53.8	13.6	6.5	26.1	20.1	0.03
Q27.地域の将来像 (衰退～成長)予測・ あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに悲観	1450	2.6	20.7	45.4	23.9	7.5	23.2	31.4	-0.13
	予測悲観・あるべき姿楽観	828	1.3	18.5	46.0	27.1	7.1	19.8	34.2	-0.20
	予測楽観・あるべき姿悲観	148	3.4	25.7	48.6	18.9	3.4	29.1	22.3	0.07
	予測・あるべき姿ともに楽観	574	1.4	19.3	58.4	16.9	4.0	20.7	20.9	-0.03
Q28.日本の将来像 (受動～能動)予測・ あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに受動	870	2.6	23.3	48.4	19.5	6.1	26.0	25.6	-0.03
	予測受動・あるべき姿能動	1498	1.7	18.1	45.9	27.4	6.9	19.8	34.4	-0.20
	予測能動・あるべき姿受動	102	6.9	22.5	57.8	11.8	1.0	29.4	12.7	0.23
	予測・あるべき姿ともに能動	530	1.1	19.8	52.6	19.2	7.2	20.9	26.4	-0.12
Q29.地域の将来像 (受動～能動)予測・ あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに受動	924	3.4	20.5	48.8	21.1	6.3	23.8	27.4	-0.06
	予測受動・あるべき姿能動	1331	1.1	18.2	46.1	27.3	7.3	19.2	34.6	-0.22
	予測能動・あるべき姿受動	102	5.9	26.5	51.0	13.7	2.9	32.4	16.7	0.19
	予測・あるべき姿ともに能動	643	1.6	22.4	51.2	19.0	5.9	24.0	24.9	-0.05

若干否定的

若干肯定的

若干否定的

Q4 安全・安心な国土形成重要度評価

- ・「安全・安心な国土形成」に関し、日本、地域の将来像とも「予測悲観・あるべき姿楽観」とする類型の重要度評価が高い。
- ・「安全・安心な国土形成」に関し、日本、地域の将来像とも「予測受動・あるべき姿能動」とする類型の重要度評価は高い。(「活力・交流」に関する重要度評価とも同じ傾向)
- ・日本の将来予測で最も多い「予測悲観・あるべき姿楽観」(1357[45.7%])、居住地域の将来予測で2番目に多い「予測悲観・あるべき姿楽観」(828[27.6%])、日本の社会課題に関し最も多い「予測受動・あるべき姿能動」(1498[49.9%])、居住地域の社会課題に関し最も多い「予測受動・あるべき姿能動」(1331[44.4%])は、「安全・安心な国土形成」重要度評価が高い。

3. 社会・生活空間、国土に関する評価

Q4.自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成されていると思いますか。

		Q4-3.安心・安全 重要度								
		合計	非常に重要(+2)	重要(+1)	どちらともいえない(0)	重要度は低い(-1)	全く重要ではない(-2)	[重要計]	[重要ではない計]	加重平均
全体		3000	35.9	48.2	13.3	1.6	1.1	84.0	2.7	1.16
Q26.日本の将来像(衰退～成長)予測・あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに悲観	1133	30.4	50.9	16.0	2.2	0.5	81.3	2.7	1.08
	予測悲観・あるべき姿楽観	1357	43.9	47.5	7.7	0.5	0.4	91.4	1.0	1.34
	予測楽観・あるべき姿悲観	92	15.2	47.8	30.4	5.4	1.1	63.0	6.5	0.71
	予測・あるべき姿ともに楽観	418	29.2	43.1	20.3	2.4	5.0	72.2	7.4	0.89
Q27.地域の将来像(衰退～成長)予測・あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに悲観	1450	33.3	51.6	12.8	1.7	0.6	84.9	2.3	1.15
	予測悲観・あるべき姿楽観	828	44.6	45.5	8.7	0.8	0.4	90.1	1.2	1.33
	予測楽観・あるべき姿悲観	148	26.4	49.3	20.9	2.7	0.7	75.7	3.4	0.98
	予測・あるべき姿ともに楽観	574	32.2	43.0	19.0	2.1	3.7	75.3	5.7	0.98
Q28.日本の将来像(受動～能動)予測・あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに受動	870	29.1	50.3	17.2	2.6	0.7	79.4	3.3	1.04
	予測受動・あるべき姿能動	1498	42.3	49.1	7.7	0.5	0.3	91.5	0.8	1.33
	予測能動・あるべき姿受動	102	23.5	50.0	21.6	3.9	1.0	73.5	4.9	0.91
	予測・あるべき姿ともに能動	530	31.1	41.5	20.8	2.3	4.3	72.6	6.6	0.93
Q29.地域の将来像(受動～能動)予測・あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに受動	924	29.7	49.7	17.1	2.6	1.0	79.3	3.6	1.04
	予測受動・あるべき姿能動	1331	43.0	48.1	8.0	0.7	0.3	91.1	1.0	1.33
	予測能動・あるべき姿受動	102	16.7	47.1	30.4	4.9	1.0	63.7	5.9	0.74
	予測・あるべき姿ともに能動	643	33.1	46.3	16.0	1.4	3.1	79.5	4.5	1.05

重要度評価高し

重要度評価「予測悲観・あるべき姿楽観」より低い

Q6-1 心豊かな暮らし(ができる)国土形成評価

- ・「心豊かな暮らし(ができる)国土形成評価」に関しては、類型での差はあまりない。数が少ない「予測楽観・あるべき姿悲観」の層が若干肯定的。

3. 社会・生活空間、国土に関する評価

Q6.心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成されていると思いますか。

Q6-1.心豊かな暮らし【あなたの生活する地域・空間では】

		合計	非常に そうなっ ている (+2)	まあそ うなっ ている (+1)	どちらと もいえ ない(0)	あまりそ うなっ ていな い(-1)	そうなっ ていな い(-2)	[そう なっ てい ない計]	[そう なっ てい ない 計]	加重平 均
全体		3000	3.4	34.3	43.6	14.6	4.1	37.7	18.7	0.18
Q26.日本の将来像 (衰退～成長)予測・ あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに悲観	1133	3.7	31.7	45.2	15.2	4.2	35.4	19.4	0.15
	予測悲観・あるべき姿楽観	1357	2.7	36.6	41.0	15.7	4.0	39.3	19.7	0.18
	予測楽観・あるべき姿悲観	92	5.4	33.7	50.0	9.8	1.1	39.1	10.9	0.33
	予測・あるべき姿ともに楽観	418	4.3	34.2	45.9	10.8	4.8	38.5	15.6	0.22
Q27.地域の将来像 (衰退～成長)予測・ あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに悲観	1450	3.4	34.9	42.6	15.4	3.7	38.3	19.1	0.19
	予測悲観・あるべき姿楽観	828	3.1	33.9	40.9	17.0	5.0	37.1	22.0	0.13
	予測楽観・あるべき姿悲観	148	5.4	34.5	41.9	15.5	2.7	39.9	18.2	0.24
	予測・あるべき姿ともに楽観	574	3.3	33.3	50.2	8.9	4.4	36.6	13.2	0.22
Q28.日本の将来像 (受動～能動)予測・ あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに受動	870	3.6	31.4	46.7	14.3	4.1	34.9	18.4	0.16
	予測受動・あるべき姿能動	1498	3.3	36.2	40.2	16.2	4.1	39.5	20.3	0.18
	予測能動・あるべき姿受動	102	4.9	36.3	45.1	10.8	2.9	41.2	13.7	0.29
	予測・あるべき姿ともに能動	530	3.0	33.4	47.7	11.5	4.3	36.4	15.8	0.19
Q29.地域の将来像 (受動～能動)予測・ あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに受動	924	4.1	29.8	47.7	14.4	4.0	33.9	18.4	0.16
	予測受動・あるべき姿能動	1331	2.9	34.9	41.0	17.0	4.2	37.8	21.2	0.15
	予測能動・あるべき姿受動	102	5.9	36.3	40.2	12.7	4.9	42.2	17.6	0.25
	予測・あるべき姿ともに能動	643	3.1	39.2	43.4	10.4	3.9	42.3	14.3	0.27

類型間の差はあまりない

Q13 安全・安心を高める社会資本整備を進めることに関する評価

- 日本、居住地域の将来に関し、「予測悲観・あるべき姿楽観類型」「予測受動・あるべき姿能動類型」は「安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進めるべき」に関し肯定的。
- 「予測・あるべき姿ともに悲観類型」「予測・あるべき姿ともに受動類型」もある程度肯定的だが、「予測悲観・あるべき姿楽観類型」「予測受動・あるべき姿能動類型」よりも劣る。
- この傾向は、「活力・交流」「心豊かな暮らし」に関わる社会資本(保全・整備)のあり方に関しても同じ。
- 「予測悲観・あるべき姿楽観類型」「予測受動・あるべき姿能動類型」が、他類型より社会資本整備に対し肯定的、積極的である。

7. 社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価

インフラ(社会資本)整備のあり方、保全・整備の進め方について、どう思いますか。

Q13.安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進めるべき

		合計	非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらと もいえ ない(0)	そう思 わない (-1)	全くそう 思わない (-2)	[そう思 う計]	[そう思 わない 計]	加重平 均
全体		3000	17.7	46.8	30.5	3.3	1.7	64.5	5.0	0.75
Q26.日本の将来像 (衰退～成長)予測・ あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに悲観	1133	16.7	45.3	32.7	3.9	1.5	62.0	5.4	0.72
	予測悲観・あるべき姿楽観	1357	20.1	52.2	25.5	1.6	0.6	72.3	2.2	0.90
	予測楽観・あるべき姿悲観	92	6.5	29.3	47.8	13.0	3.3	35.9	16.3	0.23
	予測・あるべき姿ともに楽観	418	15.1	37.1	37.3	5.0	5.5	52.2	10.5	0.51
Q27.地域の将来像 (衰退～成長)予測・ あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに悲観	1450	18.3	46.9	29.8	3.5	1.5	65.2	5.0	0.77
	予測悲観・あるべき姿楽観	828	19.7	52.4	25.4	1.7	0.8	72.1	2.5	0.88
	予測楽観・あるべき姿悲観	148	14.2	35.8	39.2	9.5	1.4	50.0	10.8	0.52
	予測・あるべき姿ともに楽観	574	14.3	41.1	37.6	3.5	3.5	55.4	7.0	0.59
Q28.日本の将来像 (受動～能動)予測・ あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに受動	870	13.0	44.6	36.4	4.4	1.6	57.6	6.0	0.63
	予測受動・あるべき姿能動	1498	21.0	51.7	24.8	1.9	0.7	72.6	2.6	0.90
	予測能動・あるべき姿受動	102	14.7	32.4	41.2	9.8	2.0	47.1	17.8	0.48
	予測・あるべき姿ともに能動	530	16.8	39.2	35.1	4.3	4.5	56.0	8.9	0.59
Q29.地域の将来像 (受動～能動)予測・ あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに受動	924	14.0	44.2	35.7	4.7	1.5	58.1	6.2	0.64
	予測受動・あるべき姿能動	1331	21.1	52.8	23.3	2.0	0.8	73.9	2.8	0.92
	予測能動・あるべき姿受動	102	11.8	29.4	47.1	8.8	2.9	41.2	11.8	0.38
	予測・あるべき姿ともに能動	643	17.0	40.7	35.5	3.1	3.7	57.7	6.8	0.64

肯定的

「予測悲観・あるべき姿楽観」「予測受動・あるべき姿能動」が
「予測・あるべき姿ともに悲観」「予測受動・あるべき姿能動」
などより社会資本整備に対し、積極的、肯定的

Q21 社会資本整備にあたっては、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべきに関する評価

- 日本、居住地域の将来とも「公平の観点を重視すべき」に関し、「予測悲観・あるべき姿楽観」「予測受動・あるべき姿能動」は肯定的。また、「予測・あるべき姿ともに悲観」もかなり肯定的だが、「予測悲観・あるべき姿楽観」「予測受動・あるべき姿能動」より劣る。

7. 社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価

インフラ(社会資本)整備のあり方、保全・整備の進め方について、どう思いますか。

Q21.社会資本整備にあたっては、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべき

		合計	非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらと もいえ ない(0)	そう思 わない (-1)	全くそう 思わな い(-2)	[そう思 う計]	[そう思 わない 計]	加重平 均
全体		3000	8.2	45.5	40.0	4.3	2.0	53.7	6.3	0.54
Q26.日本の将来像 (衰退～成長)予測・ あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに悲観	1133	8.7	43.2	41.7	4.7	1.8	51.9	6.4	0.52
	予測悲観・あるべき姿楽観	1357	8.1	51.8	36.0	3.3	0.7	59.9	4.1	0.63
	予測楽観・あるべき姿悲観	92	2.2	35.9	46.7	10.9	4.3	38.0	15.2	0.21
	予測・あるべき姿ともに楽観	418	8.1	33.7	46.9	5.0	6.2	41.9	11.2	0.33
Q27.地域の将来像 (衰退～成長)予測・ あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに悲観	1450	8.6	46.8	38.6	4.2	1.8	55.4	6.0	0.56
	予測悲観・あるべき姿楽観	828	8.5	51.9	35.4	3.3	1.0	60.4	4.2	0.64
	予測楽観・あるべき姿悲観	148	7.4	38.5	45.9	6.8	1.4	45.9	8.1	0.44
	予測・あるべき姿ともに楽観	574	6.8	35.0	48.6	5.4	4.2	41.8	9.6	0.35
Q28.日本の将来像 (受動～能動)予測・ あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに受動	870	7.2	41.6	45.1	4.0	2.1	48.9	6.1	0.48
	予測受動・あるべき姿能動	1498	9.0	50.8	35.4	4.0	0.8	59.8	4.8	0.63
	予測能動・あるべき姿受動	102	7.8	32.4	48.0	9.8	2.0	40.2	11.8	0.34
	予測・あるべき姿ともに能動	530	7.4	39.6	43.2	4.5	5.3	47.0	9.8	0.39
Q29.地域の将来像 (受動～能動)予測・ あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに受動	924	8.0	41.9	43.1	4.5	2.5	49.9	7.0	0.48
	予測受動・あるべき姿能動	1331	8.0	51.8	35.2	4.2	0.8	59.8	5.0	0.62
	予測能動・あるべき姿受動	102	4.9	30.4	55.9	7.8	1.0	35.3	8.8	0.30
	予測・あるべき姿ともに能動	643	9.3	40.1	43.1	3.6	2.9	49.5	7.5	0.47

肯定的

「予測悲観・あるべき姿楽観」「予測受動・あるべき姿能動」が
「予測・あるべき姿ともに悲観」「予測受動・あるべき姿能動」
などより社会資本整備に対し、積極的、肯定的

Q30 今後の公共事業の予算

- 日本、居住地域の将来とも「予測悲観・あるべき姿楽観」「予測受動・あるべき姿能動」の層が「増やすべき」が多い。逆に「予測・あるべき姿ともに楽観」「予測・あるべき姿とも能動」の層は「減らすべき」が多い。

9. 国家予算 費目別 今後の増減評価

Q30.今後の公共事業の予算について

		合計	増やしていくべき(+2)	増やさざるを得ない(+1)	平成29年度程度とすべき(0)	減らさざるを得ない(-1)	減らしていくべき(-2)	[増やすべき+増やさざるを得ない計]	[減らしていくべき+減らさざるを得ない計]	加重平均
全体		3000	7.4	33.9	34.3	15.6	8.8	41.3	24.4	0.16
Q26.日本の将来像(衰退～成長)予測・あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに悲観	1133	7.7	32.1	32.7	16.2	11.2	39.8	27.4	0.09
	予測悲観・あるべき姿楽観	1357	7.0	36.9	34.6	15.6	5.9	43.9	21.5	0.24
	予測楽観・あるべき姿悲観	92	8.7	33.7	43.5	10.9	3.3	42.4	14.1	0.34
	予測・あるべき姿ともに楽観	418	7.9	28.9	35.6	14.6	12.9	36.8	27.5	0.04
Q27.地域の将来像(衰退～成長)予測・あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに悲観	1450	8.2	34.1	31.4	16.6	9.7	42.3	26.3	0.15
	予測悲観・あるべき姿楽観	828	7.6	37.4	34.4	15.1	5.4	45.0	20.5	0.27
	予測楽観・あるべき姿悲観	148	6.1	35.8	40.5	12.2	5.4	41.9	17.6	0.25
	予測・あるべき姿ともに楽観	574	5.6	27.7	39.9	14.6	12.2	33.3	26.8	0.00
Q28.日本の将来像(受動～能動)予測・あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに受動	870	8.7	35.2	33.2	13.8	9.1	43.9	22.9	0.21
	予測受動・あるべき姿能動	1498	7.3	36.4	32.5	16.2	7.5	43.7	23.8	0.20
	予測能動・あるべき姿受動	102	10.8	30.4	46.1	9.8	2.9	41.2	12.7	0.36
	予測・あるべき姿ともに能動	530	4.9	25.5	38.9	17.7	13.0	30.4	30.8	-0.08
Q29.地域の将来像(受動～能動)予測・あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに受動	924	8.4	35.6	32.8	13.5	9.6	44.0	23.2	0.20
	予測受動・あるべき姿能動	1331	7.4	36.4	33.1	16.2	6.8	43.9	23.0	0.22
	予測能動・あるべき姿受動	102	8.8	32.4	40.2	11.8	6.9	41.2	18.6	0.25
	予測・あるべき姿ともに能動	643	5.8	26.4	37.9	17.7	12.1	32.2	29.9	-0.04

増やすべきが多い

減らすべきが多い

Q19 住民の意見等を取り入れ協働作業が行える仕組みに対する評価

- 日本、居住地域の将来に関し、「予測悲観・あるべき姿楽観」「予測受動・あるべき姿能動」は「住民の意見等を取り入れ協働作業が行える仕組み」に関し肯定的。
- 「予測・あるべき姿ともに悲観」「予測・あるべき姿ともに受動」もある程度肯定的。
- この傾向は、他の社会資本(保全・整備)のあり方に関しても同じ。

7. 社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価

インフラ(社会資本)整備のあり方、保全・整備の進め方について、どう思いますか。

Q19.住民、地域の意見等を十分に取り入れ、価値観の共有と協働作業が行えるような仕組みを作っていくべき

		合計	非常に そう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらと もいえ ない(0)	そう思 わない (-1)	全くそう 思わな い(-2)	[そう思 う計]	[そう思 わない 計]	加重平 均
全体		3000	10.3	46.6	37.3	4.2	1.6	56.9	5.8	0.60
Q26.日本の将来像 (衰退～成長)予測・ あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに悲観	1133	10.2	44.4	39.5	4.4	1.4	54.6	5.8	0.58
	予測悲観・あるべき姿楽観	1357	11.2	52.2	32.9	3.0	0.6	63.4	3.6	0.70
	予測楽観・あるべき姿悲観	92	3.3	35.9	42.4	15.2	3.3	39.1	18.5	0.21
	予測・あるべき姿ともに楽観	418	9.1	36.4	44.5	4.8	5.3	45.5	10.0	0.39
Q27.地域の将来像 (衰退～成長)予測・ あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに悲観	1450	11.0	48.2	35.8	3.8	1.2	59.2	5.0	0.64
	予測悲観・あるべき姿楽観	828	11.1	50.6	33.7	3.6	1.0	61.7	4.6	0.67
	予測楽観・あるべき姿悲観	148	10.1	37.2	43.2	8.8	0.7	47.3	9.5	0.47
	予測・あるべき姿ともに楽観	574	7.3	39.0	44.9	4.7	4.0	46.3	8.7	0.41
Q28.日本の将来像 (受動～能動)予測・ あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに受動	870	8.2	42.5	41.8	5.3	2.2	50.7	7.5	0.49
	予測受動・あるべき姿能動	1498	11.7	51.7	32.6	3.5	0.5	63.4	3.9	0.71
	予測能動・あるべき姿受動	102	2.9	33.3	56.9	5.9	1.0	36.3	6.9	0.31
	予測・あるべき姿ともに能動	530	11.1	41.3	39.4	4.0	4.2	52.5	8.1	0.51
Q29.地域の将来像 (受動～能動)予測・ あるべき姿クラスター	予測・あるべき姿ともに受動	924	8.3	41.3	42.6	5.4	2.3	49.7	7.7	0.48
	予測受動・あるべき姿能動	1331	11.9	53.3	31.3	3.0	0.5	65.2	3.5	0.73
	予測能動・あるべき姿受動	102	5.9	34.3	48.0	11.8	-	40.2	11.8	0.34
	予測・あるべき姿ともに能動	643	10.6	42.0	40.6	3.6	3.3	52.6	6.8	0.53

肯定的

日本と居住地域の将来予測 類型抽出分析(まとめ)

予測悲観・あるべき姿楽観
予測受動・あるべき姿能動

→ 社会資本(保全・整備)に強い期待を示し、
積極評価する類型

	日本の将来 予測悲観・あるべき姿楽観 1357(45.2%)	地域の将来 予測悲観・あるべき姿楽観 828(27.6%)	日本の将来 予測受動・あるべき姿能動 1498(49.9%)	地域の将来 予測受動・あるべき姿能動 1331(44.4%)
Q4 安全・安心な 国土形成重要 度評価	重要 91.4% > 84.0% (平均) 加重平均 1.34 > 1.16 (平均)	重要 90.1% > 84.0% (平均) 加重平均 1.33 > 1.16 (平均)	重要 91.5% > 84.0% (平均) 加重平均 1.34 > 1.16 (平均)	重要 91.1% > 84.0% (平均) 加重平均 1.34 > 1.16 (平均)
Q13 安全・安心を 高める社会資 本整備評価	そう思う計 72.3% > 64.5% (平均) 加重平均 0.90 > 0.75 (平均)	そう思う計 72.1% > 64.5% (平均) 加重平均 0.88 > 0.75 (平均)	そう思う計 72.6% > 64.5% (平均) 加重平均 0.90 > 0.75 (平均)	そう思う計 73.9% > 64.5% (平均) 加重平均 0.92 > 0.75 (平均)
Q21 社会資本整備、 公平の観点も重視	そう思う計 59.9% > 53.7% (平均) 加重平均 0.63 > 0.54 (平均)	そう思う計 60.4% > 53.7% (平均) 加重平均 0.64 > 0.54 (平均)	そう思う計 59.8% > 53.7% (平均) 加重平均 0.63 > 0.54 (平均)	そう思う計 59.8% > 53.7% (平均) 加重平均 0.62 > 0.54 (平均)
Q30 公共事業予算	増やすべき+増やさざるを 得ない計 43.9% > 41.3% (平均) 加重平均 0.24 > 0.16 (平均)	増やすべき+増やさざるを 得ない計 45.0% > 41.3% (平均) 加重平均 0.27 > 0.16 (平均)	増やすべき+増やさざるを 得ない計 43.7% > 41.3% (平均) 加重平均 0.20 > 0.16 (平均)	増やすべき+増やさざるを 得ない計 43.9% > 41.3% (平均) 加重平均 0.22 > 0.16 (平均)
Q19 住民との協働 作業	そう思う計 63.4% > 56.9% (平均) 加重平均 0.70 > 0.60 (平均)	そう思う計 61.7% > 56.9% (平均) 加重平均 0.67 > 0.60 (平均)	そう思う計 63.4% > 56.9% (平均) 加重平均 0.71 > 0.60 (平均)	そう思う計 65.2% > 56.9% (平均) 加重平均 0.73 > 0.60 (平均)
	社会資本(保全・整備)に強い期待を示し、積極評価 する類型		社会資本(保全・整備)に強い期待を示し、積極評価 する類型	

「予測悲観・あるべき姿楽観類型」「予測受動・あるべき姿能動類型」に比べ、数的にはそれらに匹敵するくらい多い「予測・あるべき姿とも悲観類型」(日本 1133・37.8%、居住地域 1450・48.3%)、「予測・あるべき姿とも受動」(日本 870・29.0%、居住地域 924・30.8%)は、社会資本(保全・整備)に消極的、「予測・あるべき姿楽観類型」「予測・あるべき姿受動類型」はそれに次いで消極的。「予測悲観・あるべき姿楽観類型」「予測受動・あるべき姿能動類型」が「悲観→楽観」「受動→能動」となることと、社会資本(保全・整備)への積極的、期待の間には相関関係がある。

クラスター(類型抽出)分析まとめ

クラスター(類型抽出)分析により、生活価値観をベースとしたクラスター、社会・生活不安評価、社会資本充足クラスター、日本と居住地域の将来予測 類型抽出により、社会資本整備に積極的な類型と消極的な類型が抽出された。具体的には、全てにわからないと答える判断保留層や社会資本保全・整備への積極参加が期待できる類型、日本の将来に関する予測類型で、社会資本保全・整備に積極的で期待する類型が抽出された。

生活価値観をベースとしたクラスター1

Q3.オケ) 収入・居住地域評価クラスター					
	仕事肯定・ 都市部志向 846(28.2%)	仕事肯定・ 都市部非志向 603(20.1%)	仕事否定・ 都市部志向 205(6.8%)	仕事否定・ 都市部非志向 602(20.1%)	判断保留 744(24.8%)
総合評価	社会資本 (保全・整備) 最積極類型	社会資本 (保全・整備) 積極類型	社会資本 (保全・整備) 積極類型	社会資本 (保全・整備) 消極類型	社会資本 (保全・整備) 否定類型

生活価値観をベースとしたクラスター2

Q3.スノ) 未来生活評価・社会貢献意向クラスター					
	社会貢献肯定・ 未来生活楽観 582(19.4%)	社会貢献肯定・ 未来生活悲観 704(23.5%)	社会貢献否定・ 未来生活楽観 315(10.5%)	社会貢献否定・ 未来生活悲観 668(22.3%)	判断保留 731(24.4%)
総合評価	社会資本 (保全・整備) 最積極類型	社会資本 (保全・整備) 積極類型	社会資本 (保全・整備) 少し積極類型	社会資本 (保全・整備) 消極類型	社会資本 (保全・整備) 否定類型

生活価値観をベースとしたクラスター3

Q3.サタ) 地域活動参加非参加・公介入肯定否定クラスター					
	地域活動参加肯定・ 公介入否定 464(15.5%)	地域活動参加肯定・ 公介入肯定 574(19.1%)	地域活動参加否定・ 公介入否定 670(22.3%)	地域活動参加否定・ 公介入肯定 292(9.7%)	判断保留 1000(33.3%)
総合評価	社会資本 (保全・整備) 最積極類型	社会資本 (保全・整備) 積極類型	社会資本 (保全・整備) 中立類型	社会資本 (保全・整備) 否定類型	社会資本 (保全・整備) 否定類型

社会・生活不安評価、社会資本充足クラスターまとめ

不安・未充足類型	不安・充足類型	非不安・未充足類型	非不安・充足類型	判断保留類型
・不安で社会資本が充足されていないとの「不安・未充足」は「全体」では46.7%でトップ、「活力・交流」でも39.0%でトップ、「安全・安心」では17.4%、「心豊かな暮らし」では14.1%で2位。	・不安だが社会資本は充足されているとの「不安・充足」は「安全・安心」で51.9%でトップ、「心豊かな暮らし」でも47.6%でトップ、「全体」では22.6%、「活力・交流」では17.5%で2位。	・不安はないが社会資本は充足されていないとの「非不安・未充足」は「全体」11.1%、「活力・交流」13.6%、「心豊かな暮らし」10.7%と各1割前後で4位、「安全・安心」は6.2%と少なく5位。	・不安はなく社会資本は充足されているとの「非不安・充足」は基本的に最も少ない類型で、「活力・交流」10.7%、「安全・安心」9.4%が比較的多く1割前後、「全体」5.5%、「心豊かな暮らし」7.2%でいずれも最下位。	・不安、社会資本いずれに対しても「どちらともいえない」とする「判断保留」は「心豊かな暮らし」で20.5%、「活力・交流」17.6%、「安全・安心」14.6%、「全体」14.2%と、14～21%前後で存在(3位)。
「住民参加進めるべき」「そう思う」かなり多い。	「住民参加進めるべき」「そう思う」最も多い。	「住民参加進めるべき」「そう思う」それほど多くない。	「住民参加進めるべき」「そう思う」かなり多い。	「住民参加進めるべき」「そう思う」最も少ない。
「協同作業の仕組みづくり進めるべき」「そう思う」「不安・充足類型」に次いで多い。	「協同作業の仕組みづくり進めるべき」「そう思う」最も多い。	「協同作業の仕組みづくり進めるべき」「そう思う」それほど多くない。	「協同作業の仕組みづくり進めるべき」「そう思う」かなり多い(3位)。	「協同作業の仕組みづくり進めるべき」「そう思う」最も少ない。
「公共事業予算増やすべき」「不安・充足類型」に次いで多い。(度合いはそれほどでもない)	「公共事業予算増やすべき」最も多い。(度合いはそれほどでもない)	「公共事業予算減らすべき」最も多い。(度合いはそれほどでもない)	「公共事業予算増やすべき」3位。	「公共事業予算減らすべき」「非不安・未充足類型」に次ぐ。
社会資本保全・整備 積極類型	社会資本保全・整備 最積極類型	社会資本保全・整備 消極類型	社会資本保全・整備 理解類型	社会資本保全・整備 最消極類型

日本と居住地域の将来予測 類型抽出分析(まとめ)

予測悲観・あるべき姿楽観
予測受動・あるべき姿能動

→ 社会資本(保全・整備)に強い期待を示し、積極評価する類型

日本の将来 予測悲観・あるべき姿楽観 1357(45.2%)	地域の将来 予測悲観・あるべき姿楽観 828(27.6%)	日本の将来 予測受動・あるべき姿能動 1498(49.9%)	地域の将来 予測受動・あるべき姿能動 1331(44.4%)
社会資本(保全・整備)に強い期待を示し、積極評価する類型		社会資本(保全・整備)に強い期待を示し、積極評価する類型	

「予測悲観・あるべき姿楽観類型」「予測受動・あるべき姿能動類型」に比べ、数的にはそれらに匹敵するくらい多い「予測・あるべき姿とも悲観類型」(日本 1133・37.8%、居住地域 1450・48.3%)、「予測・あるべき姿とも受動」(日本 870・29.0%、居住地域 924・30.8%)は、社会資本(保全・整備)に消極的、「予測・あるべき姿楽観類型」「予測・あるべき姿受動類型」はそれに次いで消極的。「予測悲観・あるべき姿楽観類型」「予測受動・あるべき姿能動類型」が「悲観→楽観」「受動→能動」となることと、社会資本(保全・整備)への積極的、期待の間には相関関係がある。